

はじめに

この年次報告書は、中期計画に掲げた重要課題への取り組み、中期目標・中期計画に基づいた教育・研究・社会貢献等、法人化4年目を迎えた平成19年度における諸施策の実施状況及び自己点検・評価結果をまとめたものである。

中期目標・中期計画の実質的な仕上げ年度となる19年度は、学群改組の実施、「筑波スタンダード」の設定・公表、「戦略イニシアティブ推進機構」の創設等を着実に推進し、16年度からの4年間で中期計画に掲げる施策の大半を実施するとともに、随所にそれを上回る成果を実現することができた。

法人化により、大学は自主的かつ柔軟な運営が可能となった一方、社会では財政状況の悪化や18歳人口の減少に歯止めがかからず、国立大学を取り巻く環境は一層厳しさを増している。法人化という新たな仕組みを最大限に活かし、経営の効率を高めながら、教育・研究・社会貢献の成果増大を図り、国民や社会の負託に答えていくことが、国立大学に課せられた責務である。

そのような観点から、各国立大学は中期目標・中期計画の達成度評価をはじめとする様々な外部評価によって、取り組み成果をこれまで以上に一層厳しく問われることになるとともに、絶えず自らの活動を点検・評価し、さらなる改善に結び付けていく自律的な評価・改善プロセスの確立が重要になってくる。筑波大学は、この自己点検・自己評価を開学以来一貫して絶やすことなく継続してきた。その集大成が毎年度まとめられるこの年次報告書であり、これまでに作成された報告書は、本学の歩みを記す貴重な財産となっている。

筑波大学は、これからもわが国の大学改革を先導しながら、国際的に存在感のある大学としてさらに発展していかなければならない。そのためには、本学の置かれている状況や自らの活動成果を常に正しく客観的に把握しておくことが不可欠である。本年次報告書が、本学のさらなる改革・改善のための基礎資料として、大いに活用されることを期待したい。

平成20年10月

筑波大学長 岩崎 洋 一

1. 本学の自己点検・評価

平成5年3月、大学設置基準の大綱化に伴う筑波大学自己点検・評価規則が制定されて以来、本学における教育研究活動の状況について、各組織は、本学の理念、目的、年次計画等を基準として、当該組織の設置目的等に即した自己点検・評価細目を設定し、自己点検・評価を実施してきた。

平成16年度からは、これまでの年次計画に代わるものとして、各組織が中期計画、年度計画を踏まえた「基本方針、重点施策、改善目標等」を提出し、年度終了後、組織ごとに自己点検・評価を実施して当該年度の活動状況を詳細に記述するとともに、その点検・評価の結果と次年度以降の課題をまとめることとした。

本年次報告は、法人化と同時に構築した新たな運営体制を活かし、教育研究と経営の質的向上のために推進した諸施策についての実施状況をまとめたものであり、次年度以降の国立大学法人筑波大学の発展と改革の礎となるものである。

2. 中期計画の全体的な進行状況

平成16年度からの4年間で、学長のリーダーシップの下、戦略性・効率性・健全性の重視を基調とする自律的な運営体制を確立するとともに、学群・大学院の改組、新たな構想に基づく研究支援システム、積極的な産学連携・社会貢献・国際連携など、教育研究の高度化と社会への公開・還元を強力に推進し、中期計画に掲げる大半の施策を実施するとともに、随所にそれを上回る成果を実現することができた。

以下に、業務運営と教育研究のそれぞれについて重点的な取組とその成果を記す。

【業務運営について】

1. 学長のリーダーシップを支える体制の確立と戦略的運営の推進
 - (1) 教育、研究、国際連携、広報をはじめとする戦略室の設置による戦略立案機能の強化
 - (2) 教員定員(特定教員に対して年5%)・職員定員(特定職員に対して年6.5%)の流動化、毎年30億円規模の重点及び戦略的経費、共用スペースの確保等による戦略的資源配分
 - (3) 本学創設以来の自己点検・評価システムに年度重点施策方式を組み合わせ、重点戦略施策を計画的に推進
2. 教育研究と業務運営を支える人的基盤の強化
 - (1) 中期目標期間中に全ての組織が任期制かテニュー・トラック制のいずれかを導入することを決定し逐次実施
 - (2) 教員業績評価システムを構築し、9割を超える教員が参加して教員業績評価を試行実施
 - (3) 副学長と部長以下職員、部局長と支援室長以下職員が直結する教職一体的運営の推進
 - (4) 上位役職への内部登用、企画業務への若手職員の参画、きめ細やかな指導・育成等により職員の意識改革と職務遂行能力向上を促進
 - (5) 技術職員の多様な能力をより積極的に活用するため、技術職員を含めた学内対話を重ね、新たな組織体制を検討(平成20年7月実施)
3. 意思決定・業務運営の質の高度化と効率化・迅速化の促進
 - (1) 「分権化と現場主義」を徹底し、日常執行決定を担当理事または部局長以下に委譲するとともに、法定会議の審議事項を厳選し、重点化・実質化を促進
 - (2) 学長を本部長とする「業務改善推進本部」を設置し、538件の6割に目処をつけるなど全学活動として定着
 - (3) 「情報環境機構」を設置し、関連機能の集約・強化により、情報化戦略を構築し、ネットワーク基盤と業務系・教学系システムを整備・充実
 - (4) 行政事務執行的要素の残る組織から課題解決型組織への転換を促進するため、戦略的で簡素な本部と現場重視を基本に事務組織の再編を検討・準備(平成20年4月実施)
4. 総人件費をはじめとする経費削減と収入の安定的確保による財務体質の改善
 - (1) 国の総人件費改革方針を受けて18~21年度の4年間で4%削減する目標を掲げ、全学を挙げて取り組んだ結果、18年度だけで2.7%の削減、19年度までに4.7%の削減を達成
 - (2) 収容定員の充足による収入の安定確保に努めるとともに、19年度において、外部資金を16年度比ほぼ倍増の85.8%、附属病院収益を16年度比17.6%、それぞれ増加させ、中期目標期間中に法人全体として着実な増収を実現

5. 施設マネジメントの強化と環境・安全管理体制の確立

- (1) 施設利用状況調査を毎年度実施するとともに、総合研究棟3棟の20%及び共同研究棟等の全部または一部を全学共用スペースとし、施設の効率的活用を促進
- (2) キャンパスリニューアル計画に基づき老朽化した施設を計画的に整備・改善するとともに、特に19年度においては18年度に続き、校舎耐震工事など大規模な工事を教育研究活動への影響を最小限にとどめながら安全かつ円滑に実施
- (3) 環境及び安全衛生に関する業務を統括する担当副学長を明確化し、その下に関連機能を一元化した「環境安全管理室」を設置することにより、環境・安全衛生に関する全学体制の整備と日常的な活動の定着を促進

6. 監査体制の確立と監査結果の法人経営改善への積極的活用

- (1) 監事監査について、①監査計画、②実地監査、③監事と学長・副学長との定期的な意見交換、④監査結果の法人経営改善への活用、というサイクルを定着させ、今後の国立大学法人のモデルとなり得る監査体制を確立
- (2) 内部監査については、会計業務に関する監査、フォローアップ監査、科研費に関する監査、テーマ監査の4つの監査を中心に、業務運営の健全性と質の高度化に資する監査を計画的かつ適正に実施

【教育研究について】

1. 学士課程教育の質の向上を目指した学群改組と筑波スタンダードの公表

- (1) 自由度が大きく幅広い分野を履修でき、教養教育・専門基礎教育・専門教育を有機的に連携させた楔形カリキュラム編成を特色とする本学の教育システムをさらに充実
- (2) 上記特色を活かした上で、受験生や社会により分かり易く、専門性と学際性を両立させた新たな編成とすべく学群組織を全面的に改組し、平成19年度より実施
- (3) 学士課程における教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善の方策を含む教育の枠組みを明らかにした「筑波スタンダード(全学版、全25学類・専門学群版)」を設定・公表

2. 大学院組織の整備・充実と大学院教育の実質化に向けた取り組み強化

- (1) 学問の進展を踏まえつつ、多様な分野で活躍できる研究者及び高度専門職業人を育成すべく、研究科・専攻の再編、専門職大学院の新設等、組織体制を整備・充実
- (2) 大学院教育の実質化、国際的な通用性・信頼性の確保、国際競争力のある卓越した教育研究拠点の形成を基本方針とする「筑波大学グラデュエイト・キャリア・プラン」を策定し、大学院共通科目の開設、デュアル・ディグリー制度の創設等を推進

3. 学生生活支援体制のさらなる強化とキャリア支援の充実

- (1) クラス制度・学生担当教員制度・課外活動(学群学生の7割以上が参加)支援・各種相談体制等、本学の特色である多面的な学生支援体制をさらに充実
- (2) 教育内容の改善やFD活動と結びつけたキャリア支援を総合的に展開し、キャリア形成の観点からの教育の充実を促すとともに、学生の就職・進学を効果的に支援
- (3) 学生生活支援とキャリア支援に関する教員組織・事務組織を一ヶ所に集中した「Student Plaza」を19年9月に設置

4. 研究者・テーマの成長ステージに応じた研究支援と産学官連携の推進

- (1) 「新たな戦略的研究支援システム構想」に基づき、研究者や研究テーマの成長ステージに応じたメリハリのある研究支援を実施
- (2) 平成19年7月、「戦略イニシアティブ推進機構」を創設し、新たな学術研究分野を切り拓く教育研究組織へと発展させるべき教育研究拠点の形成を推進
- (3) 科学研究費補助金の申請率向上(15年度67%→19年度111%)をはじめ競争的資金の獲得増に取り組み、競争的環境の下での研究活動のさらなる活性化を促進
- (4) 受託研究・共同研究の獲得増(16年度17.5億円→19年度32.6億円)をはじめとして産官学連携を強化するとともに、ベンチャー創出を積極的に支援(19年度末現在累計68社。年間設立数は16~18年度全国トップ)

5. 筑波研究学園都市の中核として研究機関連携と地域・社会貢献を推進

- (1) 連携大学院方式や共同研究による筑波研究学園都市の各研究機関との連携、学長の筑波研究学園都市交流協議会会長就任を機にした将来構想の検討促進、地球温暖化問題に各研究機関と地元自治体が協力して取り組む「つくば3Eフォーラム」の立ち上げ等を通して、中核を担う機関として研究機関間連携の強

化に積極的に貢献

- (2) 地元自治体である茨城県及びつくば市との包括協定に基づき、自治体や地域のニーズに対応した地域・社会貢献を推進するとともに、「社会貢献プロジェクト」制度を導入し、教職員が行う貢献活動を全学的に支援

6. 教育研究の高度化と国際社会への貢献に資する国際交流の積極的展開

- (1) 大学院を中心に留学生の受入を促進し、平成 19 年 12 月時点で留学生数を 1,357 人まで拡大(国立大学では東京大学・京都大学に次ぐ規模)
- (2) 国際交流協定締結機関を 46 ヶ国・地域の 160 機関(平成 19 年度末現在)まで拡大するとともに、全協定の交流実績を総点検し、協定の実質化に向けた取組を強化
- (3) 国際協力機構(JICA)、国際協力銀行(JBIC)、世界銀行、ユネスコ等国内外の国際関係機関と連携し、教育研究協力を推進するとともに、北アフリカや中央アジア等特定地域と研究・人材交流面で幅広い連携を推進

7. 附属病院の着実な収益増と再開発計画の推進、附属学校の将来構想の検討

- (1) 附属病院においては、医療サービスのさらなる高度化と経営改善諸施策の推進により収益を着実に増加させるとともに、PFI 事業による再開発計画を立案・推進
- (2) 附属学校においては、11 校それぞれに特色を活かした教育を展開するとともに、大学との連携を強化し、将来構想の検討を推進

3 本部事務組織

総務・企画部

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況
 - (1) 会議付議基準の体系化、職務権限の明確化・委譲等による効率的意思決定プロセスの確立
 - ① 会議付議基準の素案を作成するとともに、教育研究評議会の付議事項を精査し、必要な付議事項のみを残し、学群教育会議及び大学院教育会議に権限委譲した。
 - ② 学長が持つ学生の懲戒権及び懲戒決定の際の教育研究評議会への付議について、学群教育会議に権限委譲を行い、意思決定プロセスの効率化を図った。
 - ③ 運営会議の運営にあたり、議題によっては、役員会に切り替えて開催するなどの方法により、審議の重点化・実質化を推進した。
 - ④ 「真に重要な戦略的課題の計画的審議」、「会議運営の効率化」、「議事要旨の確認方法の変更」、「会議での決定事項の周知」について、平成 20 年 4 月からの実施に向けて素案を作成した。
 - (2) 全学のリスク分析とリスクマネジメントの導入に向けた検討
筑波大学において想定される危機（リスク）の体系的整理を行った。また、リスクマネジメントシステムの基本的枠組みについて素案を作成した。
 - (3) 緊急時の対応手順、緊急連絡体制、学生への緊急連絡方法等危機管理システムの整備
「火災・爆発等発生時の行動手順」、「火災・爆発等発生時の緊急連絡体制」の素案を作成した。
 - (4) セーフティプロジェクト活動の一層の活性化・多様化
 - ① 総務・企画部、学生部、学生生活支援室、セーフティプロジェクトが連携し全代会の協力を得て、防犯講習会、交通安全指導、防犯パトロール、安全ポスター展などを実施した。
 - ② 全学的な交通安全対策の審議機能を有する交通安全対策委員会の所掌を一元化し、交通環境に係る管理体制の整備を図るとともに、全学的な課題の把握や執行が迅速になるようその整備を図った。
 - (5) 教職員の遵法精神の涵養
 - ① 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」を踏まえ、筑波大学における教育研究費の管理運用に関する行動規範を策定・周知することにより、教職員の意識の向上を図った。
 - ② 教職員の違法行為等について、学内者だけでなく学外者も通報できることとし、コンプライアンスの徹底を図った。
 - ③ 著作権取扱いの現状に鑑み、教職員の啓発を図るためのマニュアル作成に着手した。
 - (6) 個人情報の保護管理
 - ① 学内研修（新規採用職員、主任級及び係長級）の講義を通じて、個人情報保護の徹底を図った。
 - ② 個人情報の保護管理に係る各組織等からの相談に対し、適切に指導助言を行った。
 - (7) 本学のビジョン・戦略の策定
 - ① ビジョン・戦略の基本的な考え方と検討の進め方を 7 月に全教職員に周知した。以後、全学教職員への意見募集や学類長・専攻長と執行部との対話、経営協議会学外委員からの意見聴取など幅広く意見収集を行った。
 - ② 本学の現状認識に係るデータを整理した。
 - (8) 地域との連携・社会貢献
 - ① つくばエコシティ構想の推進及び筑波研究学園都市研究機関連携をさらに強化するため、「つくば・地域連携推進室」を設置し、学内体制を整備した。
 - ② 「ねんりんピック 2007」の競技会場、運営ボランティアへの学生参加、開始式や表彰式のアトラクションに協力支援した。
 - ③ 本学の社会貢献プロジェクトの一つである「つくば市民のメディア・リテラシー向上のための映画製作ワークショップの持続的開催」は、文化庁の「文化芸術による創造のまち」支援事業に採択され、文化芸術活動の活性化に貢献した。また、製作した映画は、つくば市制 20 周年記念式典等で上映された。
 - ④ 包括協定を締結している茨城県及びつくば市と定期的に協議会（茨城県 1 回）及び連携担当課長会議（茨城県 1 回、つくば市 1 回）を行い、新たなニーズや意見の収集を行った。
 - ⑤ 茨城県、つくば市、筑波研究学園都市に立地する研究機関や企業など 114 機関で構成する筑波研究学園都市交流協議会の会長として、シンポジウムの開催や施設見学会の実施など相互交流を推進した。また、協議会の下に 3 E シティつくばモデルを構築するための各研究機関等における取り組みと連携を推進するため、筑協「つくば 3 E フォーラム」委員会を設置した。
 - (9) 東京キャンパスの有効活用
東京キャンパスの有効活用の一環として、秋葉原ダイビルについては、法科大学院の教育研究活動の拠点として引き続き活用することを基本とし、産学官連携、就職活動支援、受験・進学相談等に関する東京地区での活動を強化・充実するとともに、学内組織による昼間の利用を一層促進するため、新たに職員の配置及び施設整備を行った。
 - (10) 評価システムの整備

- ①大学教員業績評価については、評価企画室において、博士課程研究科長会議の意見を踏まえながら議論を重ね、試行実施に伴う部局策定事項を作成し、それに基づき博士課程研究科において試行を実施した。
- ②組織評価については、評価企画室において、組織評価の在り方及び組織評価指針(案)の検討を行い、主として電子的に採取可能な組織に関するデータを収集分析することをもって組織評価のシミュレーションとすることとした。そのため、教育活動に関する「教員マップシステム」(学内に散在する教員の属性、業績等のデータを総合し、一覧表示できるシステム)を試作することとし同システムの構築と分析を行うための「教員マップ(教育関連)ワーキンググループ」を設置した。同ワーキンググループは、教員一人当たりの担当科目数・担当科目受講者数分布・指導学生数分布を主な分析項目とし、学群・学類及び研究科を総合した負担の分析、両者の軽重比較の分析を行った。
- (11)出版会の設立
本学における研究成果の発信による学術文化の振興・普及と教育水準向上への貢献等に資するため、筑波大学出版会を設立し、活動を開始した。
- (12)情報公開法及び個人情報保護法に基づく適切な情報公開
平成19年度の開示請求件数は、情報公開法に基づく開示請求4件、個人情報保護法に基づく開示請求15件で、いずれも開示又は不開示の決定を行った。
- (13)広報戦略に基づく積極的な広報活動
 - ①新広報拠点として筑波大学ギャラリーを整備し、7月に一般公開した。
 - ②つくばサイエンスツアーバスの乗り入れ(土、日、祝日のみ運行、7便/日:大学会館バス停)を開始するとともに、12件の見学(団体)を受け入れた。また、98件、延べ6,847人の高校生等見学者を受け入れた。
 - ③新聞・雑誌等マスコミを活用した大学の教育研究情報の社会への発信に努めた。
 - ④定例記者会見10回、研究成果の発表等臨時記者会見・記者説明会19回、記者会(筑波研究学園都市記者会及び文部科学記者会)への情報提供67件、雑誌社等の取材対応325件を実施した。
 - ⑤情報の共有化と明確化及び情報発信の強化を図るため、各支援室等に広報コミュニケーターを配置した。
 - ⑥学報(Web版)月1回、号外(紙媒体)1回、筑波大学概要(本編、資料編)、リーフレット、筑波大学パンフレット(英文)、速報つくば(隔週号)23回(他、号外1回、特集号1回)を発行した。
 - ⑦ホームページ(基幹ページ)の全面リニューアル、英語ページのリニューアル、中・韓ページのリニューアルを実施(公開は20年度)した。新たな広報誌の刊行に向けて平成20年度に体制を整備し、創刊予定である。
- (14)国際連携に関する戦略的組織体制の整備
留学生センターに国際課課長補佐を配置(兼務)するとともに、国際交流推進経費と留学生経費を統合し、より機能的・効率的に国際連携の施策を実施した。また、国際業務担当職員を学内公募し、7月に配置して戦略的な組織体制の整備に努めた。
- (15)海外拠点形成の推進
チュニジアに引き続き、本学2番目の海外拠点を6月1日付けで、ウズベキスタン共和国タシケント国立東洋学大学内に「中央アジア国際連携センター」を設置した。また、新たな海外拠点形成のため、中国、ヴェトナムで調査を行うとともに、ドイツをはじめ欧州への設置について意見交換を行った。
- (16)国際交流協定校の拡大
平成19年4月1日現在39カ国・地域131機関(大学間14、部局間117)であった協定校を、平成20年3月末日現在45カ国・地域160機関(大学間28、部局間132)に拡大(29機関の増加)し、これに基づき研究者や学生交流、国際共同研究等を積極的に展開した。
- (17)学生交流に関する基本方針の策定
学生の受け入れ・派遣に関する基本方針を、昨年度に引き続き検討を行った。
- (18)国際連携プロジェクトの推進
国際連携プロジェクトとして、研究者招へい、教職員派遣(短期・長期)、イベント・フォーラムの形成の各プロジェクトを学内公募し、それぞれ6件、8件、4件を採択し、研究者・教職員の交流や優れた国際連携に対する取組に財政的補助を行った。
- (19)国際機関等との協力に基づく教育研究協力の推進
JBIC(国際協力銀行)、JICA(国際協力機構)との協定に続き、ユネスコと陸域環境研究センターが協定を締結し、教育研究協力を推進した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1)広く社会に向けた情報発信と交流の場として筑波大学ギャラリー等を整備した。
- (2)つくば3Eフォーラム開催に向けた事務体制を組織し、筑波研究学園都市交流協議会及び内閣府並びに産業技術総合研究所、国立環境研究所、物質・材料研究機構、茨城県、つくば市等関係機関との調整を行うなどフォーラム開催をサポートした。
- (3)茗溪会筑波事務所を大学会館内に設置し、茗溪会と筑波大学の連携体制を整備した。
- (4)学内公募による「社会貢献プロジェクト」の予算配分に加え、地域貢献活動を通じて、本学の教育・研

究内容を広く一般の方々へ理解と関心を深めている組織等に対し支援を行った。

- (5) 広報戦略室が主体となり、総合科目「筑波大学を知る」を1学期に開設し、受講した1・2年生（約100人）に対し、筑波大学の歴史を踏まえた取組み等（広報の観点から）を紹介した。また、自由科目「筑波大学を創る」を2・3学期に開設し、受講した学生（約50人）がグッズ開発、キャラクター作成、キャンパスツアーなど八つのプロジェクトを立ち上げた。中でも、グッズ開発プロジェクトで検討された3品目については、紫峰会で商品化について検討中である。
- (6) 本学受験者やその家族等への広報活動の展開について、新入生を対象にアンケート調査を実施し、広報活動の方策としてどこに重点を置くか等有益な情報を得た。
- (7) 職員録の Web 化を実施した。また、全ての教職員が学内情報等を共有できるようにすることを主目的として、新たな「教職員専用ページ (Web)」を立上げ、20年4月から運用を開始する。
- (8) 開学30周年（創基131年）記念事業の一環として企画した「筑波大学30年史」刊行に先立ち、「筑波大学30年史年表」を刊行した。
- (9) 本学初めての試みとして、国際業務担当職員を学内に公募・配置し、組織的な養成を行った。
- (10) 本学が雇用若しくは受け入れる外国人研究員、外国人受託研究員等及び外国人留学生（その扶養家族（同伴家族））の新規渡日時の査証（ビザ）発給のため、法務省入国管理局に対し「在留資格認定証明書」の代理申請が必要となる者の申請業務を、7月1日から国際課で開始した。
- (11) 中国の同窓会組織づくりの準備として、卒業者・修了者等の名簿作成を行うとともに中国語版の大学概要を作成した。

3. 自己評価と課題

- (1) 効率的な意思決定プロセスの確立のため、会議運営の見直しを行い、素案を作成したが、今後は、同素案の運営会議承認を経て、会議付議事項の厳選による審議事項の重点化、資料の削減、さらには会議決定事項の周知等を一層推進する必要がある。
- (2) リスク管理については、全学のリスクの体系的整理を行うとともに、緊急連絡体制について検討を行い、素案を作成することができたが、今後は、全学のリスク管理体制について規則整備を図る必要がある。
- (3) 19年度も教職員の違法行為等の事案は発生したが、コンプライアンスの考え方自体は徐々に教職員の間浸透しつつある。また、違法行為等の事案の処理については、関係部課等を全面的に支援することができた。
- (4) 法務室では、約200件の法人規則等の制定改廃について、関係部課等に対し適切な指導助言を行なった。法人規則等の中には、複雑でわかりにくいものもあることから、少しでも「わかりやすい規則」にしていこう今後も努力していく。
- (5) 19年度に法務室の媒介により顧問弁護士に指導助言を求めた回数は64回に上り、各組織の業務の円滑化に寄与することができた。顧問弁護士による「無料法律相談会」については、19年度は9回開催され、これを利用した教職員は延べ32人に達した。
- (6) 筑波大学附属病院再開発に係る施設整備等事業入札手続等監査委員会の会議事務局として同委員会を円滑に運営することができた。
- (7) 本学のビジョン・戦略については、今後具体的な戦略等の検討を進め、「筑波大学2020ビジョン」として策定し、学内外に明示する。
- (8) 学内に設置した「つくば・地域連携推進室」及び筑波研究学園都市協議会に設置した「筑協「つくば3Eフォーラム」委員会」の実質的機能の明確化を図り、運営体制の整備を図る必要がある。
- (9) 東京キャンパスの有効活用については、大塚キャンパスを含めた中長期的な方向性について検討する必要がある。
- (10) 早稲田大学と包括的な連携協力体制を整え、相互の教育・研究活動の一層の充実と質の向上を図る。
- (11) 学系については、研究上の目的及び教育上の必要性を考慮し、分野ごとの実情も踏まえつつ、研究科・専攻や学群・学類との関係を整理する必要がある。
- (12) 評価企画室において、大学教員業績評価、組織評価の試行結果の分析結果を踏まえ、問題点の修正・整備等、本格実施のためシステムの確立に向けて具体的検討を行うこととし、平成20年度において速やかに決定することとした。また、教員マップ（教育関連）ワーキンググループによる組織評価（教育組織）の試行結果として、既存データでの組織評価への利用は、現段階では困難であり、精度を高めるためのデータの統合等の検討を引き続き実施していくことが重要であることが判明した。
- (13) 新広報拠点として整備した筑波大学ギャラリーやアートを高校生等の施設見学者に積極的に公開し、本学が社会に開かれた大学であることのアピールや輝かしい歴史の紹介に努めた。また、ホームページの基幹ページについては、英語ページをリニューアルするとともに、中・韓ページのリニューアルに着手し、次年度早々には完了する見込みである。
今後の課題としては、新たな広報誌を早期に刊行し、学内における情報の共有化と明確化を図るとともに、教育・研究・社会貢献情報の社会への発信により積極的に努めていく。また、ホームページについては、基幹ページの更なる充実を図るとともに、研究科等学内組織との連携を促進し、部局ページの充実を図る。
- (14) チュニジア及びウズベキスタンへの海外拠点の設置は、国際連携ポリシーで明示している、欧米中心以外の「地球文明発祥地帯」等における研究機関等との連携、及び新たな海外拠点形成のための調査等、

今後の教育研究の国際展開に更に大きく寄与できるものである。また、「在留資格認定証明書」の代理申請が必要となる者の申請業務について、全学分を国際課が行うことにより、受入教員等の業務を大幅に軽減できた。

中国の同窓会組織作りの準備は、我が国及び本学における最大の留学生派遣国である中国との関係において、今まで集約されていなかった人の繋がりをまとめることができ、今後に向けて極めて有意義である。

組織・人事部

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

- (1) 平成19年度年度計画に記載されている事項についての達成状況
 - ① 各学群、各研究科の特質と学生定員を踏まえ、教職員配置の見直しを実施
平成20年度に改組・再編される研究科及び学群共通科目の強化に伴う教員の配置を行った。(人文社会科学研究科、人間総合科学研究科(教育研究科及び芸術専門学群))
 - ② 国大協等が主催するセミナーに参加
国立大学協会が主催する大学マネジメントセミナー等に理事、管理職員等が参加した。
 - ③ 学内においてテーマを設定して管理職研修を実施
新たな人事評価システム(目標管理システム)のための評価者研修を実施した。
 - ④ 定員流動化率設定により留保した配置枠について、再配置方針を策定し、重点配置を実施
定員流動化率設定により留保した配置枠について、戦略的方針により重点配置を実施した。(戦略イニシアティブ推進機構、国際部、広報戦略室、附属学校教育局、つくば3Eフォーラム)
 - ⑤ 近隣の大学間等と計画的に人事交流を実施
近隣の大学間等との人事交流を以下のとおり実施した。(高エネルギー加速器機構4名:筑波技術大学13名:教員研修センター6名:国立科学博物館筑波研究資料センター1名:茨城大学1名:茨城工業高等専門学校2名)
 - ⑥ 階層別研修を近隣の大学等の職員も対象にして実施
中堅職員研修、主任研修、係長級職員研修に筑波技術大学等の職員が参加した。
 - ⑦ 新たな教育・研究組織の設置や整備、再編の要求について、要求組織の評価等を総合的に勘案し意思決定
組織評価が未試行的のため、予算要求等のヒアリング等を基に勘案し、教育・研究組織の設置や整備、再編の要求を決定した。
 - ⑧ 合理的な人事評価システム構築に向けた情報収集・特定職以上の職員を対象とした試行評価を実施
人事院、文部科学省、他大学等の情報を収集するとともに、先ず評価者を対象とした研修を実施し、特定の部局において特定職以上を対象に試行評価を実施した。
 - ⑨ 兼業規程の運用開始、兼業マニュアルを学内に周知
兼業規程の運用を開始するとともに、兼業マニュアルを学内に周知した。
 - ⑩ 事務職員等の勤務実態に対応した柔軟な勤務体制の検討、準フレックス勤務制度の導入
事務職員等の勤務実態に対応した柔軟な勤務体制として、職員からの申し出による準フレックス勤務制度を導入した。
 - ⑪ 職員の人事異動時期の中心を4月から7月にシフト
人事異動に伴う職員の負担や業務の効率化を図る観点から、業務が集中する4月1日付けの人事異動は定年退職職員の後任補充等最小限の異動に留め、定期異動は、7月1日付けにシフトした。
 - ⑫ テンユア・トラック制の導入及び任期制の適用拡大を推進
テンユア・トラック制の導入に伴い、部局毎に同制度の具体的な取扱いを整備し、平成19年度新規採用者(主に助教)から適用している。また、助教の職の新設に伴い、任期制を導入している複数の部局においては、同職を新たに任期制対象の職とするなど、同制度の適用拡大が図られた。
 - ⑬ 公募制人事の推進
公募制による人事を引き続き推進した。
 - ⑭ 筑波キャンパス事業所内保育所の利用環境・保育環境を整備・充実
保護者の意見等を反映する場としての「ゆりのき保育所運営協議会」、電子掲示板、花壇、空調機の設置及び保育補助ボランティアの受入れ、什器の整備を行った。
 - ⑮ 事務職員等は競争試験及び能力実証による選考で採用者を決定
平成19年度の国立大学法人等採用試験から事務職員6名(8月に5名、10月に1名)を採用し、更に20年4月に事務職員2名を採用した。
 - ⑯ 階層別職員研修のカリキュラム充実、スキルアップ研修等を含む専門研修を実施
階層別研修において演習を重視したカリキュラムを編成、スキルアップ研修としてコミュニケーションスキル開発研修を実施した。
 - ⑰ 17年度に対し2%程度の人件費削減
下述方策(⑱)の確実な実行により、達成した。
 - ⑱ 地域手当の上昇幅抑制による完成年度の延伸、定員流動化の実施、実員数の上限設定による充当抑制
地域手当の上昇幅抑制による完成年度の延伸、定員流動化の実施、実員数の上限設定による充当抑制を確実に実行した。
 - ⑲ 事務組織の20年度再編を目途に検討・準備
各部、支援室、センター等70余りの組織とヒアリングを行い勤務実態を把握するとともに、課題解決型の事務組織を目指し、まずは平成20年4月に向けて戦略的かつ機動性・迅速性に富んだ本部組織を改編した。(企画課及び広報課の部からの独立、国際部の設置、総務・企画部と組織・人事部及び学務部と学生部の統合、財務部及び附属学校教育局内組織の統合再編、研究事業部に競争的資金推進)

ループ及び戦略イニシアティブ事務局設置、施設部内に施設マネジメント室の設置)

- ⑳ 新人事給与システムの構築において、検討チームを設置して組織横断的に検討実施
「人事・給与システム検討委員会」が定めたシステムの導入スケジュールに沿って、2月・3月のテスト稼働及び4月の本格稼働に向け、定期的に関係組織と連携して横断的な検討やシステム導入のための作業を実施している。
- ㉑ 業務改善実施計画等の実施状況調査に基づくフォローアップと新たな施策の検討
業務改善実施計画に基づき作成した「業務改善の全学的重点施策アクションプログラム」により、各部局への実施状況の確認を行った。また、業務改善提案制度により新たに提案された一部の施策については、実現へ向けた検討を行った。
- ㉒ 採用試験事務の一環として国立大学等が共同で行う国立大学法人等採用試験を活用
職員の採用に当たり、関東甲信越地区の国立大学法人等機関が合同で実施する「国立大学法人等採用試験」を活用した。
- ㉓ 国立大学協会の各種支部研修を関東・甲信越地区、東京地区の各法人と共同で実施
関東・甲信越地区の代表校として、東京地区代表校の東京大学と協力し、各種支部研修の企画・立案等を実施した。
- ㉔ 施設の一斉休業による費用節減対策を試行実施し、経費節減、サービスの維持、労働条件等を総合的に検証
8月13日、14日に附属病院を除く全組織で一斉休業を試行的に実施した。
省エネルギー等の観点から平成20年1月4日に附属病院を除く全組織で一斉休業を実施した。
- ㉕ 各組織に安全衛生管理に対応する組織を構築し、環境安全管理室との連携を一層強化
各研究科から委員を選出し安全管理連絡会を設置した。現時点では2回開催し、各部局の安全管理室と本委員会が連携して大学の安全管理を推進していくことを確認した。
- ㉖ 安全衛生マニュアルの利用促進
安全衛生マニュアルは、事故事例及びヒヤリハットを充実するとともにデータベースを強固なものにリニューアルした。
- ㉗ 安全衛生ビデオ「総括編」の制作
安全衛生ビデオ作成については、委員会を現時点で2回開催し、分担を決めシナリオを作成中である。
- ㉘ 防災訓練の実施
平成19年度教職員対象の健康管理講演会で医療機器AED（自動体外式除細動器）についての講演及び実習を行った。
- ㉙ 遺伝子組換え実験、動物実験等の講習会を開催
遺伝子組換え実験、動物実験等の講習会を開催した。

(2) 平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

- ① 定員流動化率の設定により留保した配置枠を活用し、重点分野について戦略的再配置を図る
定員流動化及び実員上限枠設定に伴う充当抑制を確実に実施するため、教職員の異動状況等をみながら定員を管理するとともに、流動化により確保した配置枠について、人件費削減の達成度を考慮しながら教職員の重点配置を実施する。
定員流動化及び実員上限枠設定に伴う充当抑制を確実に実施するため、配置要望書の写しを提出させる等、教職員の異動状況等をみながら定員管理を行った。更に、流動化により確保した配置枠について、人件費削減の達成度を考慮しながら、「戦略イニシアティブ推進機構」の戦略的企画部門や教育研究の質の向上強化のための部門へ重点配置した。
- ② 人事評価システムを整備し、評価結果を昇任、配置換、給与等に反映
事務系職員については、文部科学省等で試行的に実施された人事評価システムの状況を踏まえ、合理的な人事評価システムの構築に向けて、情報収集と特定職以上の職員を対象に人事評価の試行を実施する。
※ 1.(1)⑧に同じ。
- ③ 組織評価に基づき組織の見直しを決定
試行予定とされている組織の評価結果に基づき、組織見直しの手順等を検討する。
※ 1.(1)⑦に同じ。
- ④ 勤務時間、兼業、ワークシェアリング、裁量労働制等、多様な人事制度の導入を検討
事務職員等の勤務実態に対応した柔軟な勤務体制として、職員の申し出による準フレックス勤務制度を実施する。
ア. 子育て支援のため短時間勤務制度の導入の検討を行い、平成20年4月から実施した。
イ. ※ 1.(1)⑩に同じ。
- ⑤ 公募制人事の推進、任期制の拡大、テニュア制の導入等教員の流動性向上を図る
任期制の適用拡大とテニュア・トラック制の導入の拡大を図る。
※ 1.(1)⑫に同じ。
- ⑥ 戦略的課題に対して、チーム制を導入

新人事・給与システムの20年度稼働に向け、関係組織と連携して横断的な検討を行う。

※ 1.(1)㉔に同じ。

⑦施設の一齐休業による高熱水料の節減

夏季における心身のリフレッシュ及び省エネルギーに資するため、実施可能部局を対象に夏季一齐休業の試行を実施し、経費節減効果、サービスの維持、労働条件等を総合的に検証する。

※ 1.(1)㉔に同じ。

⑧安全管理巡視、安全管理教育の実施

ア. 各部局に安全衛生管理に対応する組織を構築し、環境安全管理室との一層の連携強化を図る。

イ. 安全衛生マニュアル(Webサーバー)の利用促進、安全衛生ビデオ「総括編」の制作、防災訓練の実施により安全管理・事故防止の徹底を図る。

※ 1.(1)㉕～㉘に同じ。

⑨事務効率化

業務改善実施計画等の実施状況の調査結果に基づくフォローアップを行うとともに、業務改善提案制度により提案された改善等による新たな施策の検討を行う。また、全学的施策について検討し、業務改善を更に推進する。

※ 1.(1)㉔に同じ。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) テンユア・トラック制の導入に伴い、部局毎に同制度の具体的な取扱いを整備し、平成19年度新規採用者(主に助教)から適用している。また、助教の職の新設に伴い、任期制を導入しているいくつかの部局においては、同職を新たに任期制対象の職とするなど、同制度の適用拡大が図られた。
- (2) 各部、支援室、センター等70余りの組織とヒアリングを行い勤務実態を把握するとともに、課題解決型の事務組織を目指し、まずは平成20年4月に向けて戦略的かつ機動性・迅速性に富んだ本部組織に改編した。(企画課及び広報課の部からの独立、国際部の設置、総務・企画部と組織・人事部及び学務部と学生部の統合、財務部及び附属学校教育局内組織の統合再編、研究事業部に競争的資金推進グループ及び戦略イニシアティブ事務局設置、施設部内に施設マネジメント室の設置)

3. 自己評価と課題

- (1) 平成20年4月に向けた事務組織の改編について、本部組織の統合再編はほぼ計画どおり達成した。今後は、改編した組織機能を検証するとともに、本部各組織間及び本部と部局間等の連携を強化し、支援室の運営システムや人員配置の見直しを進める。また、技術職員の組織について、個々の能力を最大限に発揮できる体制作りに向けて、各部課、支援室等から集約した意見を基に、平成20年7月を目途に「技術室」及び「全学技術委員会(仮称)」を設置する。
- (2) 新人事給与システムの導入に伴い、同システムが保有する個人情報膨大なものになる。運用に当たっては、担当する職員の業務内容に応じて、利用範囲をある程度限定するとともに、同システムの効果をより高めるための運用委員会などの設置をする必要がある。
- (3) ゆりのき保育所が開所してから、平成19年度末で1年4ヶ月が経過した。園児数も、対前年度末比較で月極保育が11名から22名、一時保育(登録者)が9名から18名へと増加したが、ほとんどが2歳児以下で、年齢的に偏りがある。年齢的にバランスがとれるようになるには、学年進行を待つことになるが、年齢が上がるにつれて幼稚園に流出することも考えられ、予測することは難しい。保育環境については、平成19年度の空調機等の整備で概ね整った。今後は学年進行に伴う園児数の増加に対応した整備となる。
今後の課題としては、多岐にわたる勤務態勢や夜間診療従事者に対応できる24時間保育や病後児保育の必要性及び実施の可能性について検討する必要がある。
- (4) 平成19年度計画項目の安全管理については、各部局に安全管理に対応する組織が作られ、大学全体の廃棄物及び薬品管理を推進していく安全管理連絡会を立ち上げられたことの意義は大きい。安全管理マニュアルについては、大学のホームページから簡単にアクセスできるようになり、ハード及びソフトの強化によりセキュリティ等を充実したので、今後はコンテンツを一層充実させ、多くの教職員及び学生の利用に供したい。
安全衛生ビデオ「総括編」の作成は、ハード及びソフトの購入が遅れ、また内容をより充実させるため慎重に検討したため、今年度はシナリオの作成だけであった。

財務部

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況 (平成 19 年度年度計画達成状況)

(1) 研究資金の配分

間接経費は、18 年度に引き続き当初予算において「重点及び戦略的経費」として位置づけ、研究者の研究環境の改善等のため、研究科等への効率的・効果的な配分を行った。(当該研究科等に 50%、本部管理分として 30%、光熱水料及び保守経費に 20%の割合で配分)

(2) 戦略的な資源配分

①19 年度事業費（施設整備補助金による事業費を除く）のうち、約 34 億円（うち間接経費約 10 億円）を学長のリーダーシップに基づき配分する経費「重点及び戦略的経費」として確保し、学内の教育研究等にかかる諸課題に充当した。

②学長のリーダーシップに基づき配分する経費として確保した「重点及び戦略的経費」は、大学全体の教育研究環境の維持・向上を目的として配分することとし、一部は公募によるプロジェクト経費及び戦略イニシアティブ推進機構経費として重点配分を行うとともに、全学的視点から良好な施設環境を図るための施設の改修等を行った。

(3) 総人件費改革に伴う人件費の削減

中期計画に掲げる目標を達成するため、大学教員、附属学校教員、事務・技術職員、附属病院職員それぞれの削減により、約 4%程度の削減を図った。

(4) 事務等の効率化

①すべての旅費計算業務を本部（資金管理課）に一元化し、派遣職員の配置による効率化を図った。

②石打研修所の運営をアウトソーシングするとともに季節的な営業に変更。また、館山研修所についてもアウトソーシングすることで 20 年度からの実施につなげた。

(5) 管理経費の抑制

契約方法の改善に伴う節減化方策を実施するとともに、定期刊行物の購入部数等の精査を行い、更なる経費の抑制を図った。

①電子複写機に係る契約においては、従来の賃貸借及び保守の二本立ての契約を、平成 20 年度からは機種別によるコピー 1 枚あたりの単価契約とし、契約期間 3 年を 4 年に延長することにより 10%（年間約 2 千万円）程度のコスト削減を目標とした契約を行い、経費節減方策を図った。

②定期刊行物及び諸規則等追録については、各部局単位で継続して見直しを実施して、対前年度約 550 万円の経費節減を図った。

③ガス供給契約については、複数年契約（3 年）の締結により、長期契約割引きの適用を受け、単年度契約の場合と比較し、年間約 400 万円の経費節減を図った。

④共通仕様による全学一括購入の更なる拡大を図るため、学内照会及び他大学の契約実績を調査した結果、ドライアイスの購入について学内統一単価を設定した。

(6) 資産の運用管理

①耐用年数を経過した物品の現物調査を実施し、使用不可となった物品等の固定資産台帳を整理し、適正な資産管理を図った。

②余裕金の短期運用を継続して実施し、運用先金融機関を拡大することで、より有利な運用を図り、結果として運用益の増大となった。運用財源の拡大としては、寄附金の長期運用において、更に、国債を購入し、運用益の増大を図った。

(7) 施設設備の整備

①他法人からの入居受け入れにより職員宿舎の利用率向上に努めた。

②老朽化が進み、全室空き室となった職員宿舎（代沢宿舎）について廃止し、あわせて固定資産税の非課税申請を行った。（平成 20 年 4 月から固定資産税が免除となる予定。）

(8) 危機管理

①学長の下に「教育研究費管理推進委員会」を設置して、不正を発生させる要因の把握並びに実行計画の策定・推進、実行計画のフォローアップなど不正防止に向けて体制を強化した。

②『研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン』に対応した会計業務の『会計ルールハンドブック』及び『会計ルールのリーフレット』を作成し全学に配布した。

(平成 19 年度重点施策・改善目標等の達成状況)

(1) 大学の活動基盤となる予算の確保及び機動的な運営体制を実現するための効果的で効率的な資源配分『重点及び戦略的経費』の配分にあたっては、学内公募型のプロジェクトに対する重点配分のほか、教育研究拠点の育成を支援する戦略イニシアティブ推進機構に係る経費を措置した。また、設備マスタープランに基づき設備整備を支援する「マスタープラン対応設備整備経費」、公募型の教育研究補助金等の申請にあたり、学内負担分等の支援をする「公募型教育研究経費等支援経費」を確保するなど、教育研究支援の充実を図った。

さらに、競争的資金の立替制度を導入し、機動的な研究遂行の実現を図った。

(2) 内部監査の充実・実施

予算の執行、会計経理及び財産の管理の適正性を期するため、監査室と連携を図り内部監査を実施

した。なお、内部牽制体制及び納品検収体制、旅費の出張管理、非常勤職員等の勤務管理を重点的に監査した。

また、『研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン』に適応した会計業務に関する内部監査マニュアルを整備し、監査内容の充実を図った。

(3) 新財務会計システムの安定稼働

新財務会計システムの安定稼働に努め、更なる会計業務の改善を実施した。特に入力権限の見直しや支援室等で実施していた自動仕分業務等を本部に移行するなど業務の合理化・効率性を進めた。

(4) 業務の合理化

① 出納事務について、現金出納事務の削減及び管理体制の整備を図るとともに、授業料債権システムの全学運用の検討

ア. 学位論文審査手数料等現金収納を振込形式に移行し、収納業務の合理化・安全化を図った。また、出納役補助者の事務の範囲の見直しを行い、責任及びチェック体制を明確にし、適正な現金収納体制の確立を図った。

イ. 授業料債権システムの全学的運用については、現行システムを活用しつつ、経済的かつ効率的なシステム及び運用について検討を進めている。

② 旅費計算業務の本部集中化並びに新財務会計システムと連携した旅費計算システムの構築

すべての旅費計算業務を本部（資金管理課）に集約化した。また、新財務会計システムと連携した旅費計算システムを構築し、旅費支給に係る業務処理を本部に一元化した。

③ 給与支給事務について、効果的に機能する新人事給与システムの構築支援を実施

新人事給与システムについては、現給与システムからのデータ移行作業及び検証作業を終了し、平成 20 年度から稼働が可能となった。

(5) 財務内容の改善

① 契約方式及び契約方法の改善結果を受け、実効性ある運用による管理経費の削減

ア. 平成 19 年 2 月から本学ホームページに「筑波大学物品等調達情報」として、政府調達、一般競争及び見積競争の公告を掲載することとし、平成 19 年度においては、本部のみならず支援室等からも直接掲載手続きができるように「入札情報掲載システム」を構築し掲載事務の迅速化、効率化及び省力化を図った。

イ. 教員発注のルール化とともにコーポレートカードを導入し、発注等の事務の軽減を図った。また、カードの支払手数料が不要（口座引落し）となるとともに、加入数・利用額に応じた報奨金を獲得するなど、業務の合理化・効率化、経費節減及び増収を図った。（平成 19 年奨励金受入額約 73 万円）

② 省エネルギー対策の推進による、管理経費の節減

ア. 省エネルギー対策については、学内に省エネルギーに関するポスター掲示や通知を行い啓蒙を図った。また、個別冷暖房の設置については、引き続き許可制を継続し、設備使用を最小限に抑制した。

イ. パソコンや複写機等の OA 機器、エアコン等の家電製品、蛍光灯等の照明器具などの購入にあたり、エネルギー消費のより少ないトップランナー機器等を選択し、省エネルギー対策の推進及び経費の節減に努めた。

(6) 納品検収体制の充実

納品検収業務の実態調査及び受付記録簿の集計・分析を行い、納入業者に負担の少ない物品検収体制及び一元化に向けた検討を行った結果、平成 20 年度から本部及び生命環境支援室の納品検収所を集約化することとした。

(7) 資産の有効活用

① 近隣の法人（茨城大学）職員の筑波地区職員宿舎への入居受け入れ及び文部科学省研修生の東京地区職員宿舎（常盤台宿舎）への入居受け入れなど、職員宿舎の利用率向上に努めた。

② 老朽化が進み、全室空き室となった職員宿舎（代沢宿舎）について廃止し、あわせて固定資産税の非課税申請を行った。（平成 20 年 4 月から固定資産税が免除となる予定。）

(8) 財務業務の統一化

財務業務の統一化を図るため、『研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン』を踏まえ、会計業務の『会計ルールハンドブック』及び『会計ルールのリーフレット』を作成し、全学に配布するとともに、本部を中心とする実務者向けの会計マニュアルを作成した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 文部科学省からの「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」を踏まえ、会計業務の『会計ルールハンドブック』及び『会計ルールのリーフレット』を作成し、全学に配布するとともに、本部を中心とする実務者向けの会計マニュアルを作成した。

(2) 契約方式及び契約方法の改善結果を受け、実効性ある運用による管理経費の削減

① 平成 19 年 2 月から本学ホームページに「筑波大学物品等調達情報」として、政府調達、一般競争及び見積競争の公告を掲載することとし、19 年度においては、本部のみならず支援室等からも直接掲載手続きができるように「入札情報掲載システム」を構築し掲載事務の迅速化、効率化及び省力化

- を図った。
- (3) 教員発注のルール化とともにコーポレートカードを導入し、発注等の事務の軽減を図った。また、カードの支払手数料が不要（口座引落とし）となるとともに、加入数・利用額に応じた報奨金を獲得するなど、業務の合理化・効率化、経費節減及び増収を図った。（平成 19 年奨励金受入額約 73 万円）

3. 自己評価と課題

- (1) 18 年度決算結果を踏まえ、目的積立金の使用計画と連動した 19 年度補正予算及び 20 年度予算を編成した。また、20 年度予算については、20 年 1 月末に編成し、翌年度当初からの効率的な予算執行を可能とした。
- (2) 新財務会計システムを導入することにより入力業務のレスポンスが向上するとともに、それに合った会計業務の見直しを図り業務全体の効率化を図った。また、システムを通して教員が自ら予算管理が行えることにより計画的な予算執行が可能となった。
- (3) 『会計ルールのリーフレット』を全教員に配布し、会計上のポイントを広く周知した。
- (4) 複数年契約時期を見直すことにより、契約業務の効率化及び平準化を図った。

施設部

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 平成 19 年度計画に記載されている事項についての達成状況

- ①全学的視点に立った施設運営・維持管理や弾力的・流動的スペースの確保等の施設マネジメントを推進。また、現有施設の利活用について定めた校舎再整備計画の基本方針に基づき、効率的な運用を図る。
 - ア. 平成 16 年度に学長の下に設置した施設計画室を中心に全学的視点に立った施設運営・維持管理や弾力的・流動的スペースの確保等、施設マネジメントの推進に取り組んでいる。
 - イ. 施設利用専門委員会において「筑波大学における施設の有効利用に関する申し合わせ」を策定し、毎年全ての施設の利用状況調査を実施し、点検及び評価を行い施設マネジメントに活用した。
 - ウ. 弾力的・流動的に利用できる共同利用スペースとして現在までに約 3 万 3 千㎡を確保し、プロジェクト研究等に有効活用した。
 - エ. 共同利用スペースのうち公募スペースにはスペースチャージを導入し、施設利用料を徴収し、施設修繕等に活用した。
 - オ. 平成 18 年度に既存ストックの有効活用と老朽化施設の改善を目的として策定した校舎再生基本計画に基づき、5C 棟、3A 棟改修工事において、施設利用の見直し、再配置を行い、一層の有効利用を図った。
- ②全学のエネルギー使用状況等をまとめた「筑波大学施設管理」を作成するとともに学内に公表し、全学的な省エネルギー対策を推進。
 - ア. 本学のエネルギー使用状況等を網羅した「筑波大学施設管理 19 年度版」を作成、学内に配布し、省エネ等の理解増進を図った。
 - イ. 電気、ガス等のエネルギー管理について、省エネ法に基づく管理標準を定めるとともに、年 1% の省エネ目標を設定し、夏、冬の省エネキャンペーンを実施している。また、冷房・暖房期間終了後に実績報告し、学内に周知した。
- ③施設計画室において策定した基本計画に基づき、老朽化した施設の改善計画を推進。また 18 年度補正予算の校舎耐震工事等の速やかな実施。
 - ア. 施設計画室において立案した筑波キャンパス校舎再生計画、基幹設備計画、学生宿舍改善計画等により老朽施設の改善計画を推進した。
 - イ. この計画を基に平成 18 年度から筑波キャンパスでは校舎再生としては初めての大型改修に着手した。
 - ウ. 平成 18 年度補正予算の 3A 棟、5C 棟、桐が丘特別支援学校の校舎耐震工事等は関係組織と綿密な打合せを数十回行い、7 月に着工し、順調に完了した。特に、利用者から要望の強かった 3A 1 階の食堂については、11 月に竣工し 12 月にオープンすることができた。
 - エ. キャンパスのインフラである基幹設備については、老朽化が著しかった特高受変電設備の一部を更新した。
- ④附属病院の再開発計画を推進し、国立大学法人の附属病院で初めての PFI 方式による事業化の手続きを着実に実施。
 - ア. 平成 19 年度の予算において附属病院の再開発の着手が認められた。
 - イ. 国立大学法人附属病院初となる PFI 事業の実施に向け部門別に 20 の WG を設け、より精度の高い計画策定を行い、PFI 事業の実施方針の公表 (19 年 2 月)、要求水準書 (案) の公表 (19 年 6 月)、落札者決定基準 (案) の公表、入札説明書 (案) の公表 (19 年 7 月)、特定事業の公表 (19 年 8 月)、入札公告 (19 年 9 月) を行う等、着実に手続きを実施した。
- ⑤生命科学動物資源センターの施設整備等事業については、PFI 事業として確実に実施するほか、PFI を活用した附属病院再開発事業の実施に向け必要な手続き等を着実に実施。
 - ア. 国立大学初の PFI 事業のひとつとして着手した生命科学動物資源センターの整備事業は 18 年 9 月に工事が完了し、順調に事業を行っている。
 - イ. 国立大学法人附属病院初となる PFI 事業の実施に向け、実施方針の公表、要求水準書 (案) の公表、落札者決定基準 (案) の公表、入札説明書 (案) の公表、特定事業の公表、入札公告を行う等、着実に手続きを実施した。
- ⑥産業界・地方自治体との連携、寄付・自己収入・PFI・リース方式の活用など自助努力に基づいた新たな整備手法による整備を推進。
 - ア. 附属病院の再開発について、民間のノウハウ等を活用し、より良質な公共サービスを提供するために PFI 事業を活用することとし、実施に向け必要な手続きを行った。
 - イ. 5C 棟等の校舎の大型改修にあたり、移転用仮設物をリース方式で整備した。
 - ウ. 平成 18 年度につくば市と筑波学園ガス(株)と連携して実施した「バイオマス資源を活用した効率的な面的エネルギーの供給について」の産学連携による事業化について実用性を確認するための検討を行った。
 - エ. 安全で快適な学内交通環境の構築を目的として自転車道の整備計画を立案中であり、一部について、つくば市と連携して整備する計画を推進した。

- オ. 学生宿舎の抜本的な改善に関して、宿舎料金の改定（値上げ）及び学内資金等を原資とした「学生宿舎リニューアル事業計画（案）」を検討し、学生とのワークショップや学内諸会議において議論を重ねた結果、平成 20 年 4 月からの宿舎料金の改定が決定した。また、事業計画にかかる新棟計画について公募により民間事業者からの意見・提案を求め、12 月にヒアリングを実施した。
- ⑦共用スペース利用者からの使用料により確保された資金による施設整備の実施。
自助努力の一環として、総合研究棟及び共同研究棟等のスペース使用料 2,911 万円を使用して、教育研究施設の改善工事等を実施した。
- ⑧施設利用実態調査に基づき、共用スペースの確保、スペース利用の見直しを推進。
ア. 施設利用専門委員会のもと、毎年定期に施設利用実態調査を実施し必要に応じ点検及び評価を行っている。このデータはデータベース化し、施設整備、共用スペースの確保及び使用面積の再配分の基礎資料としている。
イ. 既に、共同利用スペースとして約 3 万 3 千 m²（教育研究施設の 8%）を確保しているが、今後より一層多様化するスペースの利用に対応するために、部局ごとの実態調査を公表し、各部局の施設利用の見直し、スペースの再配分について検討を重ねている。
- ⑨総合研究棟に 20%以上確保した共用スペースに加え、同棟への移転跡スペースにおいても共用スペースを確保し、施設・設備の有効活用を推進。
施設利用委員会での決定に基づき、総合研究棟を利用する教育研究組織と調整し既存棟の移転跡スペースを全学共用スペースとして確保し、その 20%を公募スペースとし利用者の募集を行った。また、残りの共通スペースについては部局に再配分し有効活用を図った。
- ⑩学生宿舎については、居室の壁面及び床面等を補修する小規模改修、大型改修、新築など、学生のニーズに沿ったリニューアル計画を策定。
ア. 学生宿舎の居住環境の改善を図るため、学内予算の重点配分により、キャンパス情報ネットワークの構築、給排水改修、内外壁の塗装等を行った。
イ. 学生宿舎の抜本的な改善に関して、宿舎料金の改定（値上げ）及び学内資金等を原資とした「学生宿舎リニューアル事業計画（案）」を検討し、学生とのワークショップや学内諸会議において議論を重ねた結果、平成 20 年 4 月からの宿舎料金の改定が決定した。また、事業計画にかかる新棟計画について公募により民間事業者からの意見・提案を求め、12 月にヒアリングを実施した。
- (2)平成 19 年度重点施策として掲げた事項についての達成状況
- ①国立大学法人筑波大学の中期目標・中期計画及び年度計画の着実な推進を図る。
中期目標・中期計画に基づき、施設計画室等において具体的な実施計画を作成し、推進している。年度計画についても順調に実施している。
- ②附属病院の再開発計画を推進し、PFI 方式による事業化の手続きを着実に進行。
ア. 附属病院再開発を推進するため、全学的な組織として平成 17 年度に設置した「再開発推進室」において、検討を重ねてきている。
イ. 平成 19 年度の予算において附属病院の再開発の着手が認められた。
ウ. 国立大学法人附属病院初となる PFI 事業の実施に向け部門別に 20 の WG を設け、より精度の高い計画策定を行い、PFI 事業の実施方針の公表（19 年 2 月）、要求水準書（案）の公表（19 年 6 月）、落札者決定基準（案）の公表、入札説明書（案）の公表（19 年 7 月）、特定事業の公表（19 年 8 月）、入札公告（19 年 9 月）を行う等、着実に手続きを実施した。
- ③平成 18 年度政府補正予算（校舎耐震工事等）を含む平成 19 年度事業の速やかな実施を図る
ア. 平成 18 年度補正予算の 3A 棟、5C 棟、桐が丘特別支援学校の校舎耐震工事等は関係組織と綿密な打合せを数十回行い、7 月に着工し、順調に完了した。
特に、利用者から要望の強かった 3A 1 階の食堂については、11 月に竣工し 12 月にオープンすることができた。
イ. キャンパスのインフラである基幹設備については、老朽化が著しかった特高受変電設備の一部を更新した。
ウ. 老朽化が著しい陸上競技場、2B 棟の改修について、学内予算による着工が認められ、契約した。
エ. その他の事業については、安全・安心の観点から緊急性を有するものを優先し、実施した。
- ④施設マネジメントを更に推進する
ア. 学長の下に施設計画室を設置、17 年度から、ここに 6 つの WG を組織し、教員及び関係組織が協力して策定した基本計画に基づき具体的に整備を推進している。さらに 18 年度に設置した自転車交通環境 WG において、ペデの自転車・駐輪場問題の解決、自転車の動線等の検討を開始し、計画案を作成した。
イ. 弾力的・流動的に利用できる共同利用スペースとして現在までに約 3 万 3 千 m²を確保し、プロジェクト研究等に有効活用しているが絶対的に不足している。このため、19 年度の学内予算により新共用棟（約 2,800 m²）の着工が認められ、現在、工事中である。
ウ. しかし、抜本的な解決のためには、既存スペースの施設利用の見直しを行い、共通スペースを大幅に確保する必要がある、大型改修による共通スペースの創出とともに、公平なルールによる施設の再配分について検討を重ねている。
エ. 本学のエネルギー使用状況等を網羅した「筑波大学施設管理 19 年度版」を作成、学内に配布し、省

エネ等の理解増進を図った。

オ. 電気、ガス等のエネルギー管理について、省エネ法に基づく管理標準を定めるとともに、年1%の省エネ目標を設定し、夏、冬の省エネキャンペーンを実施した。

⑤適切な予算執行を図るため、電子入札を導入するとともに、総合評価落札方式の適用範囲を拡大し、より一層の透明性・客観性・競争性の確保に努める。

ア. 入札参加希望者への経費の削減を図るとともに、入札参加機会の増大、競争性の確保を図るため電子入札を5月から導入した。19年度は試行期間としており、今後順次拡大していく予定である。

イ. 18年度に導入した「総合評価落札方式」については順次拡大し、原則2億円以上の工事案件を対象として実施した。

ウ. 発注者における積算の透明性、客観性、妥当性を確保し、入札者等の積算、工事費内訳明細書作成の効率化を図ることを目的に積算内訳数量の公表を5月から試行的に行い、入札参加機会の増大を図った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 16年度から学長のもとに、施設整備計画についてトップマネジメントを実施するため、教員と職員が融合した組織として施設計画室を設置し、施設整備等の企画・立案を行っている。

(2) 17年度から施設計画室の担当グループを中心にWGを設置し、専門委員を置き具体的な施設整備計画等の検討を行っている。

また、18年度に新たに設置した自転車交通環境WGにおいてペデの自転車・駐輪場問題の解決、自転車の動線等の検討を開始し、今年度、計画案を作成した。

(3) 防衛施設庁発注工事等に端を発する公共工事の談合問題等に対応するため、いち早く改善対策を決定・公表し、一般競争の入札の拡大等に取り組み、一層の透明性及び競争性を確保しているが、今年度はさらに電子入札の導入、総合評価落札方式の拡大、積算内訳数量の公表を実施する等、入札契約の改善に努めている。

(4) 本学のエネルギー使用状況等を網羅した「筑波大学施設管理19年度版」を作成、学内に配布し、省エネ等の理解増進を図っている。

(5) 電気、ガス等のエネルギー管理について、省エネ法に基づく管理標準を定めるとともに、年1%の省エネ目標を設定し、全学学類・専門学群代表者会議と連携し、夏、冬の省エネキャンペーンを実施している。

3. 自己評価と課題

平成19年度の重点施策と年度計画については、共に順調に実施できた。

法人化以前から実施してきた耐震診断(407棟75万㎡)を終了して、耐震化推進方針を策定し、校舎の大型改修として、体育・芸術中央棟改修Ⅱ期、理工学群棟改修、附属桐が丘特別支援学校校舎改修を各組織と綿密な打合せを行い、教育研究に支障のないように工程を立て実施した。

また、昨年度に学生支援を一元的に行うためにスペースを確保したスチューデントプラザを完成し、総合交流会館に本学の情報発信と交流の拠点として設置された筑波大学ギャラリーをオープンした。

さらに病院再開発等PFI事業については、9月3日に入札広告を行い9月7日には入札説明会を開催して10月24日には第1回応募者別対話を実施し、3月24日に2グループの入札提案書の提出を受け、着実に事業の推進を図った。

今後は、平成19年度補正予算として措置された耐震改修工事の執行について工事の実施に努めるとともに施設マネジメントの一層の推進をする。

学務部

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況【年度計画】

- (1) 「筑波スタンダード」を学内外に明示し、その浸透を図る
教育企画室を中心に「筑波スタンダード」をとりまとめ、平成 20 年 3 月に学内外に印刷・公表した。
- (2) 「筑波スタンダード」に基づく教育の成果の検証方法・手順等を策定・検証を実施
「筑波スタンダード」に示された「筑波大学ファカルティ・ディベロップメント」の手順に基づき、次年度の早い時期に教育の成果について検証を行う。
- (3) ホームカミングデーや企業訪問の機会、卒業生専用 HP の活用等を中心に適当な方法により客観的検証を実施
平成 19 年 10 月のホームカミングデーにおいて、招待対象者(既卒者)に対し、教育の効果に関する授業評価アンケート調査を実施、キャリア支援室とともに、同結果を基に教育の効果について客観的に検証を実施した。
- (4) 総合科目の改善、体育・外国語・情報処理等の科目のコンセプト明確化
 - ①総合科目の授業評価アンケート調査を、各学期に実施
 - ②第 1 学期の授業評価アンケート調査の結果を基に、FD 研修会を実施
 - ③教養教育の再構築のために、教育企画室に「学群教養教育 WG」を設置し、検討を行った結果、次年度から全学的な視点に立って教養教育を検討する「教養教育機構」を立ち上げることとした。
 - ④「国語」、「芸術」を共通科目化するとともに、共通科目の定義を見直した。
- (5) IT 技術力、英語運用能力及び国際理解力を養うための教育方法の組織的な工夫・改善
情報学群において、IT ベンチャー企業との連携による IT 技術者養成プログラム「組み込み技術キャンパス OJT」を平成 21 年 4 月から開設するための制度設計を構築した。
- (6) 優れた教育活動を行う教員に対するインセンティブ付与システムを導入
学群教養教育等の教育活動を行っている教員に対するインセンティブ付与システムの一環として、「筑波大学教養教育功労賞」(新設)の制度設計を構築し、平成 20 年度に実施することとしている。
- (7) 総合科目のあり方を検証、授業評価に基づき総合科目を改編・改善するためのシステム確立
教養教育を統括する組織として平成 20 年度に「教養教育機構」を設置することとし、その中に総合科目を含む教養教育のあり方等を検討する組織として「教養教育推進室」を設けることとした。
- (8) 障害学生支援室を設置し、状況に応じた学修・生活環境を整備・改善
 - ①平成 19 年 4 月に同室を設置し、障害学生支援に関するすべての窓口と位置づけ、障害のある学生、教員、学外者等、すべての方からの相談等に対応する体制を整備した。
 - ②同室に「専門部会」を設置し、各教育組織と連携を図り、障害学生の授業・試験に係る修学相談及び支援を実施した。
 - ③学生部との連携により、障害の種類・程度を考慮した学生宿舍への入居、及び施設部との連携により、学内施設・設備のバリアフリー化を推進した。
 - ④一般学生への啓発・指導として、総合科目「共生キャンパスとボランティア」を開設、さらに高度かつ専門性を踏まえた、障害学生支援のための学習補助者(障害学生の状況に応じて、主として授業中の情報保障等の支援を行う者)の養成講座を実施した。
 - ⑤啓発活動として、同室パンフレットを作成、障害学生支援シンポジウムを開催した。
- (9) 日本学生支援機構の障害学生就学支援ネットワーク事業の拠点校として相談業務を実施
平成 19 年度は、同ネットワーク事業の拠点校として、6 件の相談について回答した。
- (10) 社会のニーズを捉えた公開講座を実施
平成 19 年度は、61 講座(実施予定の 2 講座を含む)を実施した。
- (11) 情報システムの整備
自動証明書発行機による「健康診断書」を発行可能とする機能を追加整備した。
- (12) 修士論文・博士論文の厳正な評価、授業評価、学位授与状況、学生の公表論文数や国内外の学会発表数、受賞数等により教育の成果を検証。
 - ①学校教育法及び関連法令等の改正に伴う学則の改正を行い、教育目標、人材養成目的、教育課程の編成、指導体制などを明確化するため、各研究科・専攻の学内規則等の改正に着手。
 - ②ビジネス科学研究科、数理物質科学研究科及びシステム情報工学研究科において、社会人を対象とした博士後期課程早期修了プログラムを開始。(※【重点施策・改善目標等】とも関連)
 - ③システム情報工学研究科において、高度 IT 人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラム(修士相当)を開始。(※【重点施策・改善目標等】とも関連)
- (13) 教育の効果については、修了生の追跡調査、修了生・就職先へのアンケート、修了生によるオムニバス講義の開催等により客観的に検証。
研究科ごとに学位授与状況及び公表論文数や学会発表数などを継続的に把握し、教育成果を検証。また、学校教育法及び関連法令等の改正に伴う学則の改正を行い、教育目標、人材養成目的、教育課程の編成、指導体制などを明確化するため、各研究科・専攻において規則等の改正に着手するとともに、新たな教育成果の検証方法等の検討に着手。

- (14) 研究科においてアドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜を企画・実施するとともに、実施結果を評価し、次年度に反映。また、前年度の実施結果を踏まえ、必要な研究科は選抜時期・回数等を変更して実施。
大学院を取り巻く厳しい状況を踏まえ、アドミッション・ポリシーを積極的に広報するため、説明会、ホームページ、パンフレット等の改善・充実を図る。
- ①平成 18 年度修了者（19 年 3 月）に対するアンケート調査を行い、教育や学生生活などに関する評価を実施。
 - ②教育企画室（大学院教育 WG）とキャリア支援室との連携協力により、検証方法の検討及びその実施に着手。
- (15) 小論文、面接及び社会的活動や実務経験等を評価するなど、多様な選抜方法を企画・実施。また、博士後期課程に早期修了プログラムを導入。
- ①研究科ごとにアドミッション・ポリシーを見直し、その内容を HP などで公表。また、前年度の入学者選抜実施結果を踏まえて、各研究科において改善を実施。
 - ②ビジネス科学研究科、数理物質科学研究科及びシステム情報工学研究科において、社会人を対象とした博士後期課程早期修了プログラムを開始。（※【重点施策・改善目標等】とも関連）
- (16) 学問分野の特性や養成する人材に対応し、区分制または 5 年一貫制等の多様な専攻編制による大学院を整備するとともに、教育目的に応じたカリキュラムを編成。
生命環境科学研究科に環境科学専攻、地球科学専攻（以上、博士前期課程）、持続環境学専攻、地球環境科学専攻、地球進化科学専攻（以上、博士後期課程）、人間総合科学研究科に看護科学専攻（修士課程）、芸術専攻、世界遺産専攻（以上、博士前期課程）、芸術専攻（博士後期課程）を新設し、その趣旨を活かしたカリキュラムを編成。
高度 IT 人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラムを実施し、拠点形成及び実践的なソフトウェア開発能力育成のための IT 専門職大学院創設の環境条件を整備。また、特別支援教育における新たな教職専門職大学院の設置について検討。
- ①生命環境科学研究科に地球科学専攻（博士前期課程）、環境科学専攻（博士前期課程）、持続環境学専攻（博士後期課程）、人間総合科学研究科に看護科学専攻（修士課程）、芸術専攻（博士前期課程、博士後期課程）、世界遺産専攻（博士前期課程）を設置。（※【重点施策・改善目標等】とも関連）
 - ②システム情報工学研究科において、高度 IT 人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラム（修士相当）を開始。（※【重点施策・改善目標等】とも関連）
 - ③特別支援教育における新たな教職大学院の設置に関しては、教職大学院の趣旨等を踏まえた検討の結果、修士課程として平成 20 年度から新たな専攻の設置を決定。
- (17) 大学院教育の実質化の推進に向けて自己点検・評価を行うとともに、教員の資質・能力の向上を図る FD 活動の実施体制を整備し、学習指導法の改善を図る。
全学 FD 委員会を中心に、各研究科において教員の資質・能力の向上を図る FD 活動の実施体制を整備するとともに、教員研修や学生による授業評価などによって学習指導方法等の改善を実施。
- (18) 大学院共通科目の開設、デュアルディグリー制度の創設に取り組むなど、教育内容の多様化・改善を図る。
教育企画室を中心に、大学院共通科目を開設し試行的に実施。また、平成 20 年度実施に向けて、デュアルディグリー制度を創設。（※【重点施策・改善目標等】とも関連）
- (19) 研究者養成においては、論文指導を重視するとともに、19 年度に創設する「戦略イニシアティブ推進機構」においてプロジェクトマネジメント力など研究遂行のための幅広い能力を養成。また、高度専門職業人養成においては、事例研究、現地調査、実習等、実践的で多様な授業を展開。
各研究科では、それぞれの特色を活かして実践的で多様な授業を展開。特に、ビジネス科学研究科、数理物質科学研究科及びシステム情報工学研究科において、達成度評価システムを取り入れた社会人対象の博士後期課程早期修了プログラムを開始。（※【重点施策・改善目標等】とも関連）
- (20) マルチメディア機器やコンピュータ・ネットワークの整備による授業形態、学習指導法等の多様化を図る。
e-ラーニング準備委員会を設置し、現在、各研究科で個別に実施されている e-ラーニングの実態を把握するとともに、全学的な e-ラーニングへの取組方針等を検討。
- (21) 専攻分野の特性に応じて、複数教員による論文指導体制をさらに充実。
各研究科では、アドバイザーコミッティ制度などの複数教員による教育研究指導体制を充実。
- (22) 英語による授業体制を整備するとともに、協定校を活用し国際化に対応した取組を充実。
各研究科では、英語による授業の拡充を一層推進。特に、人文社会科学研究所や生命環境科学研究科では、国際協力機構（JICA）等とのプログラムによる留学生の受入に際し、全ての授業を英語により実施。
- (23) 研究指導体制や学位論文審査体制の整備等により、課程制大学院の実質化に向けた教育研究指導の質と量の両面における一層の向上・充実に努める。
学生に対してあらかじめ学習目標、授業の方法及び計画、並びに評価基準をシラバス等に明示の上、課題への対応状況、日常の授業への取り組み状況及び各種発表活動を考慮した適切な成績評価を実施。
- ①学校教育法及び関連法令等の改正に伴う学則の改正を行い、教育目標、人材養成目的、教育課程の

編成、指導体制などを明確化するため、各研究科・専攻において規則等の改正に着手。これに伴い、各研究科・専攻においてシラバス等の見直しに着手。

- ②ビジネス科学研究科、数理物質科学研究科及びシステム情報工学研究科において、適切な成績評価等を可能とする達成度評価システムを取り入れた社会人対象の博士後期課程早期修了プログラムを開始。（※【重点施策・改善目標等】とも関連）
- (24) 高度IT人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラムを実施し、拠点形成及び実践的なソフトウェア開発能力育成のためのIT専門職大学院創設の環境条件を整備。また、特別支援教育における新たな教職専門職大学院の設置について検討。
 - ①システム情報工学研究科において、高度IT人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラム（修士相当）を開始。（※【重点施策・改善目標等】とも関連）
 - ②特別支援教育における新たな教職大学院の設置に関しては、教職大学院の趣旨等を踏まえた検討の結果、修士課程として平成20年度から新たな専攻の設置を決定。
- (25) TA経費を増額するとともに、TAの効果的配置・運用を徹底し、教育の効果向上と大学院生の教育経験の機会拡大を図る。

教育企画室において、教育の効果向上と大学院生の教育経験の機会拡大を目的としたTA関係制度の見直しを検討、平成20年度から新制度の導入を決定。（※【重点施策・改善目標等】とも関連）
- (26) 大学院共通科目についてワーキンググループを組織し、その必要性、授業科目のあり方及び開設方法等の検討・研究を行い、試行的に開設。

大学院共通科目についてワーキンググループを組織し、その必要性、授業科目のあり方及び開設方法等の検討・研究を行うとともに、大学院における教養教育的科目としての「大学院共通科目」を設定、大学院生に対する「履修を推奨する科目」として51科目を用意し、20年度の本導入に向けた試行を実施。（※【重点施策・改善目標等】とも関連）
- (27) 大学院においては、社会人に対し、入学試験における社会人特別選抜制度や授業の昼夜開講制を実施。
 - ①各研究科において、入学試験における社会人特別選抜制度や授業の昼夜開講制などの取組を実施。
 - ②ビジネス科学研究科、数理物質科学研究科及びシステム情報工学研究科において、社会人を対象とした博士後期課程早期修了プログラムを開始。（※【重点施策・改善目標等】とも関連）
- (28) 社会人のための博士後期課程早期修了プログラムを3研究科（ビジネス科学研究科、数理物質科学研究科、システム情報工学研究科）において導入。

ビジネス科学研究科、数理物質科学研究科及びシステム情報工学研究科において、社会人を対象とした博士後期課程早期修了プログラムを開始。（※【重点施策・改善目標等】とも関連）
- (29) 担当副学長の下で入学者選抜全体を企画

入学室会議において、次の事項について検討し、④～⑥の事項を具体化した。

 - ①各教育組織の入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）
 - ②入試関係委員の親族が大学受験者である場合の取扱い
 - ③個別学力検査等における科目間調整の在り方
 - ④国際科学オリンピック参加者を対象とした入学者選抜
 - ⑤編入学に係る入学資格及び私費外国人留学生特別選抜に係る受験資格の拡大
 - ⑥個別学力検査等において予告倍率を超えなかった場合の第1段階選考の実施方法
- (30) 各学群において多様な方法により選抜を実施、実施結果を評価し次年度に反映

個別学力検査等（前期日程・後期日程）、アドミッションセンター入学試験、推薦入学、帰国生徒・社会人等のための特別選抜等14種類の入試を実施した。

また、アドミッションセンターにおいてそれらの実施結果を分析・評価し、次年度に反映させている。
- (31) 入学者選抜における2段階選抜を一部廃止

入試業務の効率化を図るため、平成19年度に実施する編入学試験、2学期推薦入学試験及び推薦入学試験（障害者特別選抜を除く。）から、2段階選抜を行わず1回の選抜で可否を決定することとし、また、これまで、一律に実施していた個別学力検査等における2段階選抜について、予告倍率を超えなかった場合は第1段階選抜を実施しないこととした。
- (32) 選抜方法によっては小論文・面接・実技等を活用。生物学類の推薦入試では国際生物学オリンピックなどの実績も評価
 - ①個別学力検査等（後期日程。前期日程は医学群のみ）、アドミッションセンター入学試験、推薦入学では小論文や面接を、個別学力検査等（前期日程）、推薦入学では体育、芸術の両専門学群において実技検査を、アドミッションセンター入学試験では「自己推薦書」による評価を実施した。
 - ②生物学類及び物理学類からの提案による国際科学オリンピック参加者を対象とした入学者選抜について検討し、同学類のほか数学類、化学類、情報科学類及び情報メディア創成学類を加え、新形態の特別選抜として平成20年度から実施することとした。
- (33) アドミッションセンター入学試験及び入学者選抜方法等の調査研究等を実施
 - ①アドミッションセンターが、平成19年5月30日・31日に開催された独立行政法人大学入試センター主催の「全国大学入学者選抜研究連絡協議会第2回大会」において、次のとおり研究発表を行った。
 - ・研究会I（5月30日） 「A0入試『志望理由書』の研究—何がどう書かれたか—」（島田准教

- 授)
- ・研究会Ⅲ（ ） 『A0 入試制度』の評価に向けて一入学者選抜の「当事者」および企業人担当者へのディスカッション調査を通じて」（全センター教員）
- ②アドミッションセンターが本学における入学者選抜に関する調査・研究を行った。
- (34) 全国及び地区別に開催される受験生のための説明会に 30 回程度参加
アドミッションセンターの教員・職員が 73 回の説明会に参加した。
- (35) 春の進学説明会を東京で開催、電子媒体を活用した入試広報体制を構築
 - ①アドミッションセンターが、春の進学説明会を平成 20 年 3 月 26 日～28 日に秋葉原ダイビルと筑波キャンパスにおいて開催した。(参加組織：19 学類、1 センター)
 - ②アドミッションセンターにおいて、昨年度構築した「学群入試」Web の情報を充実させた。また、秋葉原ダイビルの法科大学院施設の有効利用の一環として進学相談コーナーを設置するとともに、パソコンを介した筑波大学キャンパスとの双方向進学相談のための機器を整備した。

【重点施策・改善目標等】

- (1) 「筑波スタンダード」の策定及び教育の成果・効果の検証方法の確立に資する取組の推進
 - ①「筑波スタンダード」を策定し、3 月末までに印刷公表した。
 - ②「筑波スタンダード」には、大学全体として FD 活動の手順を示し、各部署にあつては「教育目標」「教育の内容・方法」「達成すべき水準」「教育の質の保証」等を明確にした。
- (2) 教育企画室や全学 FD 委員会などにおける教育改善のための諸施策の検討・実施の支援の推進
 - ①学士課程における教養教育のあり方の見直しに資する取組の推進
 - ・教育企画室に学群教養教育 WG を設置し、教養教育に関して各教育組織にアンケート調査を実施し、同結果を基に本学のあり方について精力的に取り組み、来年度に「教養教育機構」を新たに立ち上げることとした。
 - ②FD に関する取組（授業評価、教員研修等）
 - ・教職員、学生の参加の下に、総合科目に関する FD 研修会を、前年度に引き続き実施した。(9 月)
 - ・教職員を対象に FD 研修会「大学における『TA 研修』のあり方に関する研修会」を実施した。(11 月)
 - ・平成 20 年度のクラス担任教員を対象に、フレッシュマン・セミナーFD を実施予定した。(3 月)
 - ・平成 19 年度卒業生を対象に、授業評価アンケート調査を前年度に引き続き実施した。(3 月)
- (3) 障害学生の学習環境の改善に資する取組の推進
 - ①本学の教職員・学生の障害学生に対する支援の理解を深めることを目的として、他大学の授業等における障害学生支援の取組状況の紹介等による「障害学生支援シンポジウム」を 12 月に開催した。
 - ②一般学生への啓発・指導として、総合科目「共生キャンパスとボランティア」の開設、並びに障害学生支援のための学習補助者(障害学生に対し、主として授業中の情報保障等の支援を行う者)の養成講座を実施した。
 - ③支援学生の積極的参加を促す方針として上記障害学生支援養成講座を平成 20 年度から一部授業化し、受講者に単位を付与することとした。
- (4) 教育企画室や全学 FD 委員会などにおける教育改善のための諸施策の検討・実施を支援する。
大学院博士後期課程の質的・量的な拡充に向けた以下の取組を推進した。
 - ①生命環境科学研究科に地球科学専攻（博士前期課程）、環境科学専攻（博士前期課程）、持続環境学専攻（博士後期課程）、人間総合科学研究科に看護科学専攻（修士課程）、芸術専攻（博士前期課程、博士後期課程）、世界遺産専攻（博士前期課程）を設置。
 - ②ビジネス科学研究科、数理物質科学研究科及びシステム情報工学研究科において、社会人を対象とした博士後期課程早期修了プログラムを開始。
 - ③システム情報工学研究科において、高度 IT 人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラム（修士相当）を開始。
- (5) 入学者選抜に関する基本方針(アドミッションポリシー)の確立に向けた取組を支援する。
全研究科・専攻のアドミッション・ポリシーをホームページで公表。
- (6) 大学院教育の「実質化」に資する取組の推進を支援する。((4) とも関連)
 - ①ビジネス科学研究科、数理物質科学研究科及びシステム情報工学研究科における博士後期課程早期修了プログラムにおいて、教育研究の質を確保するため、入学時審査、中間審査、予備審査及び最終評価を経て達成度を評価し、学位を授与する仕組みを構築。
 - ②幅広く深い学識のもと広い視野で多方面から物事を考える力を身に付けるための大学院における教養教育的科目としての「大学院共通科目」を設定、大学院生に対する「履修を推奨する科目」として 51 科目を用意し、20 年度の本導入に向けた試行を実施。
 - ③博士後期課程学生を対象に、深い専門性と広い学識に加えて高い適応能力のある人材を育成するため、専門分野以外の研究科・専攻との同時履修・修了を可能とする「デュアルディグリー」制度を創設。
 - ④ティーチング・アシスタント (TA) 制度の趣旨を踏まえ、経済的支援とともに教育的効果も期待できるような見直しを図るとともに TA 業務の内容等の拡大・高度化を図ることによって、新たにティー

チング・フェロー（TF）を制度化。

- (7) 学群入学者選抜方法等の改善に取り組む。

編入学試験、2学期推薦入学試験及び推薦入学試験（障害者特別選抜を除く。）から、2段階選考を行わず1回の選考で可否を決定することとし、また、個別学力検査等における2段階選考について、予告倍率を超えなかった場合は第1段階選考を実施しないこととした。

- (8) 入学者選抜に関する基本方針（アドミッション・ポリシー）の確立に向けた取組を支援する。

① アドミッションセンターにおいて、入学室の意見も聴きつつ各教育組織のアドミッション・ポリシーを全学的な統一を図る観点から見直し、一部の学類に助言した。

② 「入学案内 2008」のデザインを変更し、各学類のページに当該学類のアドミッション・ポリシーを掲載してその明確化を図った。

- (9) 入試情報開示基準・方法の改善に取り組む。

法務室と連携して、開示基準の全体的見直しを検討した。また、合格者に対する試験成績を電子的に開示する方法について検討した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) 「筑波スタンダード」を今年度末に、学内外に印刷公表した。「筑波スタンダード」は、本学の建学の理念に基づいて、学士課程における教育目標とその達成方法及び教育の改善方策を分かりやすくまとめ、本学の教育宣言として社会に公表することを目的とし以下のとおり作成し、平成 20 年 3 月に本学の教育宣言として学内外に印刷・公表した。全学として、「建学の理念」を踏まえて、学士課程における教育目標を定め、この目標達成に向けた方針として、「教育組織の編成や教育の実施体制」、「教育の内容・方法」、「教育の質の保証」を明示した。この全学の方針に基づき、各学群は教育目標を設定し、各学類も、「教育目標」、「教育の内容・方法」、「達成すべき水準」、「教育の質の保証」、「卒業後の進路」を全学共通様式で分かりやすく明示した。これにより、本学の教育及び卒業生に対する社会の信頼を確保するとともに、高校生及び関係者が本学の教育について理解を深めることを支援・促進し、さらに、本学在学生在が現在受けている教育の意味と方向性を理解することの一助とする。次年度以降この「筑波スタンダード」に基づく教育活動についての点検・評価を実施しながら PDCA サイクルによる改善を図っていく。

- (2) 障害学生支援室を新たに設置し、障害学生支援シンポジウムを実施した外、障害学生支援の更なる充実を図るための諸施策を積極的に実施した。

障害に応じた支援活動をより迅速かつ効果的に行うため、平成 19 年 4 月に「障害学生支援室」を新たに設置し、障害学生支援に関するすべての窓口と位置づけ、障害のある学生、教員、学外者等からの相談等に対応する体制を整備するとともに、啓発活動として、同室のパンフレットの作成・配布や学内外関係者を対象に障害学生支援シンポジウムを開催した。さらに、同室に「専門部会」を設置し、各教育組織と連携を図り、障害学生の授業・試験に係る修学相談等の支援を実施した。また、障害の種類・程度を考慮した学生宿舎への入居及び学内の施設・設備のバリアフリー化を推進した。また、一般学生への啓発・指導として、総合科目「共生キャンパスとボランティア」を開設するとともに、より高度かつ専門性を踏まえた障害学生支援のための学習補助者（障害学生の状況に応じ、主に授業中の情報保証等の支援を行う者）養成講座を実施した。学外に向けては、本学のこれまでの豊富な障害学生支援の経験を他の国公立大学に還元するため、日本学生支援機構で平成 18 年 10 月から開始した、障害学生修学支援ネットワークに関東地区の拠点校として参加し、19 年度は関東地区の 7 大学からの障害学生支援に関する相談に対し、本学での経験等を踏まえながらアドバイスを行うことにより、大学の枠を超えて障害学生の支援充実を積極的に実施した。

- (3) ホームカミングデーにおいて、招待対象者（既卒者）に対する授業評価アンケートを実施した。

平成 19 年 10 月のホームカミングデーにおいて、本学に於ける教育の成果を検証し、本学のこれからの教育体制構築の参考となる情報を収集することで、これからの本学の教育をより良いものに整えていくための貴重な資料とするため、卒業後 20 年の OB・OG に対してアンケート調査を実施した。アンケート結果は対象者 1,655 人中 269 人から回答があり、大学全体の教育に対しては、14.1%が非常に満足、53.5%が満足、25.7%がやや満足と回答し、93.3%の卒業生が何らかの満足感を表した。また、本学で学んだことや大学での経験が仕事を進めるうえで、役に立ったと感じたことがあった卒業生は、非常に役立った 29.7%、役だった 42.8%、やや役だった 19.7%と回答し、92.2%の卒業生が本学での学修・学生生活の経験が役だったと回答している。しかし、一般教育科目で何らかの不満を示した卒業生は、外国語教育で 31.3%、国語教育で 46.9%、情報処理教育で 45.4%となっている。「あなたは、周囲の方々に筑波大学への入学を勧めますか」との質問に対して、大いに勧める 18.9%、勧める 45.7%、どちらかといえば勧める 29.1%と 93.7%の卒業生から本学を勧めるとの回答があった。卒業生が筑波大学全体のシステムに対して、かなり満足している結果と考えられる。次年度以降も調査を実施し、本学の教育上の効果を数十年単位で検証することにより、長期的な教育の検証・改善を実施する。

- (4) 教育企画室に大学院教育改革ワーキンググループを設置し、大学院教育の「実質化」に資する取組を推進。

- (5) 学務部に教育企画グループを設置し、教育担当副学長や教育企画室等の戦略的な活動を支援するための体制を整備。（平成 20 年 4 月、大学院課及び教育企画グループを発展的に解消し、教育企画課を設置。）

- (6) 昨年度に引き続き、入学室及びアドミッションセンターと連携して入学者選抜の改善、合理化・簡素化に

努めた。平成 19 年度は、編入学の入学資格及び私費外国人留学生特別選抜の受験資格の拡大、編入学試験、2 学期推薦入学試験及び推薦入学試験（障害者特別選抜を除く。）での 1 回の選抜による合否決定、個別学力検査等で予告倍率を超えなかった場合の第 1 段階選抜の廃止を行った。

3. 自己評価と課題

- (1) 概ね、重点施策・改善目標等に向けた取り組みは行われている。
- (2) 近年の様々な教育制度等の改正に伴い、対応すべき課題等は増加の一途を辿っている。一方で、教職員は、対応すべき課題等の増加と反比例するが如く減少しており、経常的な業務にも支障を来し始めていることから、全学的な業務見直しを行う必要がある。ただし、「教育」は、「研究」及び「社会貢献」とともに、大学が大学としてあるべき根幹であり、業務改善・効率化を行うことは尤もであるが、それによって、教育及び学生支援等の質が低下することは必ず避けなければならないことであり、そのためには、全学的かつ抜本的な改革・改善が不可欠である。
- (3) 平成 19 年度年度計画及び重点施策・改善目標等に記載されている事項については、計画通り実行し一部継続して検討すべき事項はあるものの一定の成果を挙げた。
- (4) 平成 20 年度は、中期計画に記載されている学群のアドミッション・ポリシーに応じた入学者選抜を実現するための具体的方策を継続的に実施するとともに、国際科学オリンピック特別選抜及び医学類地域枠推薦入学の円滑な実施、入試ミス防止対策の検討、入試情報開示基準及び開示方法の改善に努める。

学生部

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況 (1) 平成 19 年度年度計画に記載されている事項についての達成状況

【学生生活】

- ① スチューデント プラザ (STUDENT PLAZA) が設置されたことから、学生生活支援室、キャリア支援室、学生生活課、就職課及び保健管理センターと連携しながら学生相談窓口の一元化が図られた。
- ② クラス制度に基づき各クラスに配置されたクラス担任教員が、クラスの運営及び学生個々の学修、学生生活全般に及ぶ指導、助言を充実させるために、学生生活支援室を中心にクラス担任教員に対する FD に努めた。また、学長と全学学類・専門学群代表者会議 (全代会) 構成員との茶話会及び副学長等と全代会構成員との懇談会を開催し、学生組織の活性化並びに強化を図った。
- ③ 学生の意向反映の基本であるクラス連絡会、研究科における懇談会を定期的に行うなど、各教育組織における学生生活支援に努めた。
- ④ 従前の学生担当教員は学群の教育組織のみの配置であったが、平成 19 年度からは新たな学生担当教員制度として大学院の教育組織にも配置し、学生生活支援の充実を図った。
- ⑤ 課外活動に関し学生の意向を反映するために、課外活動団体会議構成員と副学長等との「課外活動連絡会」を年 3 回開催し、大学と課外活動団体との意思疎通を深めるとともに、課外活動団体リーダー研修会及びスポーツ・デー (年 2 回) を実施し、課外活動の活性化及び推進を図った。
- ⑥ (社) 茗溪会から課外活動団体 (一般学生団体を含む) 及び個人に対する助成金の支援を受け、学生の主体的な課外活動の活性化を図った。
- ⑦ 災害等により就学上の経済支援を必要とする学生に対する緊急支援策として「茗溪・学都教育助成基金」の運用を平成 19 年 7 月に発生した新潟県中越沖地震において実家が相応の被害を受けたことにより、就学上の経済支援を申請した者 5 名に対して、緊急支援金の給付を行った。
- ⑧ 3A 棟耐震工事に伴い、1 階福利厚生施設 (食堂、喫茶、そば・うどん、カレー、中華、和食) を改修し、さらに利用者の利便性を図るためフードコートを設置した。また、老朽化した厨房器具及び椅子・テーブル等を更新し、福利厚生施設の整備に努めた。
- ⑨ 一の矢共用棟食堂内厨房改修工事に伴い、老朽化した厨房器具を更新し、福利厚生施設の整備に努めた。
- ⑩ 学生・教職員等の図書館利用者に憩いの場を提供するとともに、キャンパスアメニティの向上のために、中央図書館エントランスホールに喫茶室を設置した。
- ⑪ 施設計画室に設置されている「学生宿舍の改善計画 WG」と連携を図り、学生宿舍のリニューアル計画 (新築、大型改修) について、整備費等を含めて検討した。
- ⑫ 学生宿舍内の老朽化した給排水管等の改修について、学生宿舍リニューアル計画での計画案と重複又は取り残しのない効果的な計画を策定し、8 年計画の 1 年目として平砂 3、8 号棟、追越 22 号棟の 3 棟の改修・整備を実施した。
- ⑬ 省エネルギー対策の一環として、居住者の少ない居住棟に居住する者を他の棟に移動させるとともに、居住者のいなくなった 3 棟 (一の矢 22~24 号棟) の居室内壁面塗装、床改修及び外壁防水工事等を実施し、今後の入居者のための整備を図った。
- ⑭ 文化系サークル館に防犯カメラ (1 階・2 階各 1 台) を設置し防犯等対策を強化した。
- ⑮ 平成 19 年度から石打研修所の施設管理業務を外部委託し、3 研修所の食事提供業務についても外部委託方式に変更した。
- ⑯ 学生の安全意識の涵養を目的に「セーフティライフー快適な学生生活を送るために」を引き続き作成し学生全員に配付するとともに、注意喚起のためのビラの配布、立哨による交通安全指導等を実施した。
- ⑰ 学生の安全確保のため、クラス担任教員、学生担当教員を対象にしたフレッシュマン・セミナー FD を開催し、フレッシュマン・セミナーを有効に利用して学生の安全に対する意識の向上を図った。

【就職】

- ① キャリア支援室開設の総合科目キャリアデザインⅠ「未来の自分」(1 年生対象)、キャリアデザインⅡ「学問と自分」(2 年生対象) 及びキャリアデザインⅢ「仕事と社会」(2 年生対象) を実施した。
- ② 全学群・学類開設のフレッシュマン・セミナー (1 学年、1 学期開設、1 単位) において、キャリア形成に係わる授業を導入し、加えて、キャリアポートフォリオ活用の意義を説明することにより、キャリア形成への動機付けを行った。
- ③ 現代 GP「専門教育と融合した全学生へのキャリア支援」の採択により、現在 2 年目の取組みを精力的に実施しており、更に、最終年度である平成 20 年度に向けた準備活動を行った。
- ④ 「つくばインターンシップ・コンソーシアム (TIC)」は、参加企業を開拓し及び参加学生を募って、平成 19 年 6 月に「マッチングフェア」を実施するとともに同年 10 月に就職面接会及び同年 12 月に「県内企業社会人との交流広場」等を実施した。
- ⑤ 就職ガイダンス (企業等 18 回、教養講座 5 回、教員 10 回、公務員 25 回) を実施し、また、平成 19 年 12 月から平成 20 年 1 月にかけて、参加企業の増加を図りながら、OB・OG 懇談会 (329 社) を実施した。

- ⑥各種試験対策として、採用模擬試験（教員 5 回、公務員 1 回）及び公務員試験対策講座（平成 19 年 6 月から平成 20 年 3 月）を実施した。
 - ⑦各学類・専門学群が企画する就職ガイダンスに必要な予算措置を行い、当該組織固有のガイダンス実施の支援を行った。
 - ⑧東京キャンパスの大学院生（社会人学生）及び本学の OB・OG と、筑波地区学生との就職支援交流会を平成 19 年 10 月と平成 20 年 2 月に実施した。
 - ⑨卒業・修了予定の学生が会社訪問を円滑に行うことができるため、OB・OG 訪問のための名簿のデータベース化の充実を図った。
 - ⑩平成 19 年 11 月に、大学院学生の就職支援として「逆求人セミナー」を実施した。
 - ⑪平成 19 年 12 月に、現代 GP フォーラム「専門教育と融合した全学生へのキャリア支援」とキャリア支援教職員 FD「学生の特徴あるキャリア形成支援」を同時に開催し、学内外から 170 名程度の参加を得ることができた。また、平成 20 年 2 月にキャリア支援教職員 FD「大学におけるキャリア支援の意味と実践」を開催し、120 名程度の教職員の参加を得ることができた。
 - ⑫全学学類・専門学群代表者会議教育環境委員会の中に設置されたキャリア WG 及び学生のキャリア支援活動サークルと連携し、学園祭期間中に現代 GP や学生のキャリア支援活動の展示会を実施した。
(注) 上記の就職支援各事業は、大学院生を含む。
- (2) 平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

【学生生活】

- ①学生の指導・助言組織の学生担当教員室の機能を学生生活支援室に組み込み一元化したことにより、時代とともに変化する学生のニーズに応じた新たな学生生活支援体制が確立された。
- ②平成 20 年度に全学生を対象に実施予定の「学生生活実態調査」について、従来は 5 年に 1 回の実施であったが、本調査は学生支援の基本であることから、TWINS システムの利用により毎年実施する方向で学生生活支援室を中心に検討している。
- ③本学北地区にある馬場厩舎の施設内に新厩舎を建て、付帯設備として新たに水道を増設した。
- ④文化系サークル館に防犯カメラ（1・2 階に各 1 台）を設置して、防犯等対策を強化した。
- ⑤福利厚生事業に係る改善を図るため、厚生会の今後のあり方を検討する WG を設置した。
- ⑥キャンパスアメニティの向上のため、中央図書館エントランスホールに喫茶室を設置した。
- ⑦安全対策のため、追越 18 号棟、一の矢 22 号棟の屋上出入口口に施錠扉を設置した。
- ⑧一の矢 36、37 号棟の集中検針盤を更新し、管理業務の省力化を図った。
- ⑨省エネルギー対策の一環として、居住者の少ない居住棟に居住する者を他の棟に移動させるとともに、居住者がいなくなった 3 棟（一の矢 22～24 号棟）の居室内壁面塗装及び外壁防水工事を実施し、今後の入居者のアメニティの向上を図った。
- ⑩猫、カラスによるごみの散乱防止のため、平砂、追越、一の矢地区のごみ集積所を改修した。
- ⑪平砂 3 号棟、8 号棟及び追越 22 号棟の給排水管等の改修を実施した（8 年計画の 1 年目）。
- ⑫一の矢共用棟コインシャワーを改修し、居住者サービスの向上を図った。
- ⑬学生居住施設の管理運営の改善を図るため、「学生宿舎に関する大学・筑波学都資金財団協議会」を開催し、協議した。

【就職】

- ①キャリア支援室開設の総合科目キャリアデザインⅠ「未来の自分」（1 年生対象）、キャリアデザインⅡ「学問と自分」（2 年生対象）及びキャリアデザインⅢ「仕事と社会」（2 年生対象）を実施した。
- ②全学群・学類開設のフレッシュマン・セミナー（1 学年、1 学期開設、1 単位）において、キャリア形成に係わる授業を導入し、加えて、キャリアポートフォリオ活用の意義を説明することにより、キャリア形成への動機付けを行った。
- ③現代 GP「専門教育と融合した全学生へのキャリア支援」の採択により、現在 2 年目の取組みを精力的に実施しており、更に、最終年度である平成 20 年度に向けた準備活動を行った。
- ④平成 19 年 12 月に、現代 GP フォーラム「専門教育と融合した全学生へのキャリア支援」とキャリア支援教職員 FD「学生の特徴あるキャリア形成支援」を同時に開催し、学内外から 170 名程度の参加を得ることができた。また、平成 20 年 2 月にキャリア支援教職員 FD「大学におけるキャリア支援の意味と実践」を開催し、120 名程度の教職員の参加を得ることができた。
- ⑤全学学類・専門学群代表者会議教育環境委員会の中に設置されたキャリア WG 及び学生のキャリア支援活動サークルと連携し、学園祭期間中に現代 GP や学生のキャリア支援活動の展示会を実施した。
- ⑥「つくばインターンシップ・コンソーシアム（TIC）」は、参加企業を開拓し及び参加学生を募って、平成 19 年 6 月に「マッチングフェア」を実施するとともに同年 10 月に就職面接会及び同年 12 月に「県内企業社会人との交流広場」等を実施した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

【学生生活】

- (1) 「フレッシュマン・セミナー」を担当するクラス担任教員を対象に、クラス担任教員の主な任務、学生に対する修学、学生生活全般にわたる指導・助言方法の改善向上を目的に「フレッシュマン・セミナー FD」を実施した。

- (2) 学生生活の諸問題に対する共通認識及び学生生活支援体制の円滑な運営に資するため、関係教職員を対象として「学生生活指導関係教職員研修会」を実施した。
- (3) 全代会構成員と学長との茶話会及び副学長等との懇談会を開催し、全学生の意向反映に努めた。
- (4) 学生が教育研究活動、課外活動中等に不慮の事故により被った災害に対する保険として「学生教育研究災害傷害保険」があり、従来は学生個々が任意で加入してきたが、平成 20 年度からは在籍する全学生の保険料を大学が全額負担し加入することとなった。
- (5) 学生宿舍の維持管理コスト及び居室面積を踏まえて、全学生宿舍 60 棟の寄宿料を改定し、平成 20 年 4 月入居者から適用することとした。

【就職】

- (1) 現代 GP「専門教育と融合した全学生へのキャリア支援」の採択により、現在 2 年目の取組みを精力的に実施しており、更に、最終年度である平成 20 年度に向けた準備活動を行った。
- (2) 「つくばインターンシップ・コンソーシアム (TIC)」は、参加企業を開拓し及び参加学生を募って、平成 19 年 6 月に「マッチングフェア」を実施するとともに同年 10 月に就職面接会及び同年 12 月に「県内企業社会人との交流広場」等を実施した。
- (3) 東京キャンパスの大学院生（社会人学生）及び本学の OB・OG と、筑波地区学生との就職支援交流会を平成 19 年 10 月と平成 20 年 2 月に実施した。
- (4) 平成 19 年 11 月に大学院学生の就職支援として「逆求人セミナー」を実施した。
- (5) 全学学類・専門学群代表者会議教育環境委員会の中に設置されたキャリア WG 及び学生のキャリア支援活動サークルと連携し、学園祭期間中に現代 GP や学生のキャリア支援活動の展示会を実施した。

3. 自己評価と課題

【学生生活】

- (1) 年度計画、重点施策に掲げた学生生活支援体制の確立、生活環境の整備等について、段階的ではあるがほぼ達成できた。
- (2) スチューデントプラザの設置により学生生活支援室とキャリア支援室及び保健管理センターと調整・連携し、学生に対する相談機能の充実を図るとともに、学生のニーズに即応したきめ細かな学生支援方策に取り組む。

【就職】

年度計画や重点施策は、ほぼ達成できた。特に懸案であった就職課及びキャリア支援室の大学中央部（スチューデントプラザ）への移転が平成 19 年 9 月に実現し、今後、更に就職相談業務の拡充やキャリア支援室を活用した学生支援の一層の充実を図ることとする。

研究事業部

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 研究

- ①研究戦略室における検討を踏まえて、平成 17 年度に教育研究評議会の下に設置した「新たな戦略的研究支援システム検討委員会」において取りまとめた次の施策を引き続き実施した。
 - ア。「研究科に配分する研究経費の基本的考え方及び研究科内における配分に関するガイドライン」に基づき、研究科に配分する研究経費について、基盤的経費を確保しつつ、外部資金獲得等の要素を取り入れた積算方法による配分システムを更に改善し実施した。また、より一層研究を活性化し、大学の競争力を高めるための学内研究費の配分の在り方について、引き続き検討を進めた。
 - イ。「産学連携推進プロジェクト制度」に基づき、産学連携推進共同研究プロジェクト等 8 件（申請 15 件）を採択し、各プロジェクトの研究が開始された。
 - ウ。「ロケット・スタート支援制度」に基づき、特に実績のある新任・転入教員の研究課題 2 件（申請 9 件）を採択し、本学着任の初期から研究活動を本格的に推進することにより、早期に大型の外部資金の獲得ができるよう支援した。
- ②学内プロジェクト研究の制度を更に戦略的に活用し、本学の研究活動の一層の活性化を図るため、研究戦略室を中心に見直しの検討を進め、「学内プロジェクト研究制度」については、継続課題分を除き、制度の趣旨とともに戦略イニシアティブ推進機構の「プレ戦略イニシアティブ」により発展させることとした。また、特別プロジェクト研究組織（1 件）に対しても研究専従教員の配置、経費の配分において継続的かつ効果的に行った。
- ③研究戦略室は、研究戦略室会議を 11 回開催し、戦略イニシアティブ推進機構の整備、戦略イニシアティブ拠点候補、研究プロジェクト経費配分方針及び研究者・研究グループマップの整備について審議、実施した。
- ④国際的かつ多様なフィールドで活躍できる人材の育成及び高度な学術的成果の持続的創出を促進し得る新たな教育研究システムを確立するため、「戦略イニシアティブ推進機構」を設置した。機構においては、世界最高水準と呼ぶに相応しい実績と本学の特色を活かした学際融合性などを有し、新たな学術研究分野を切り拓く教育研究組織へと発展させるべき教育研究拠点を、戦略イニシアティブ（2 件）又はプレ戦略イニシアティブ（16 件）として位置づけ、その教育研究活動に対する戦略的資源投入を行い、教育研究拠点の育成を行った。特に、大型外部資金（G-COE 等）を獲得した教育研究拠点に対して、戦略イニシアティブ（S）として選定し、特別教員配置、研究経費、研究スペースを戦略的に配分した。
- ⑤グローバル COE プログラムへの申請に向けて学内のポテンシャルを結集するべく、執行部及び研究科長による拠点候補の検討を行った。
- ⑥ 今後の研究推進の方向性を探ることを目的として「科学技術基本計画と筑波大学の取組」と題して特別シンポジウムを開催した。

また、公募型・競争的教育研究資金等の事業内容・公募日程等に関する説明会を 2 回開催した。
- ⑦「筑波大学教育研究用設備整備に関するマスタープラン」に基づき、次のとおり教育研究用設備の整備及び有効活用等を進めた。
 - ア. 老朽化した基盤的研究設備の整備を進めた。
 - イ. 文部科学省先端研究施設共用イノベーション創出事業（研究基盤総合センター加速器部門）を展開した。
 - ウ. 大学共同利用機関自然科学研究機構分子科学研究所が実施する化学系研究設備有効活用ネットワーク構築事業に登録し設備の有効利用を図った。
- ⑧科学研究費補助金の申請・採択率の一層の向上を図るため、科学研究費補助金の制度改革等に関する全学説明会及び部局別説明会を開催した。また、より大型の研究種目の獲得のため「ステップ・アップ支援経費制度」を引き続き実施した。
- ⑨筑波大学研究者情報システム（TRIOS）への教員情報のデータ登録・公開率の向上を図り、研究成果の社会還元及び共同研究等の推進等に資した。
- ⑩日本学術振興会特別研究員への申請を奨励し、その受け入れを積極的に行った（55 名（RPD、21COE、G-COE 採用を含む））。
- ⑪リサーチ・アシスタント（RA）を研究の活性化及び学生支援の観点から効果的に配置した。

(2) 産学連携

- ①産学リエゾン共同研究センターを中心に、技術移転機関を活用した積極的な技術移転及び大学発ベンチャー創出の支援として、6 社の筑波大学発ベンチャーが新たに設立され、平成 20 年 3 月 31 日現在で累計 68 社となった。
- ②産学リエゾン共同研究センターにおいて、技術移転、ベンチャー設立の可能性の高い共同研究等について、学内公募プロジェクト方式により支援することとして、全学を対象に公募を行い、その結果 15 件の応募があった。そのうち 8 件のプロジェクトを採択した（共同研究プロジェクト 3 件、創業支援プロジェクト 1 件、ベンチャー支援プロジェクト 4 件）。共同研究と創業支援の 14 件（H17：4 件、H18：6 件、H19：4 件）については、平均 260 万円の研究費支援を行った。また、ベンチャー

支援プロジェクトにはスペースの支援を行った。

- ③平成 20 年 3 月 31 日現在で、179 件の発明届があり知的財産統括本部が技術移転機関 (TLO) と連携して審査・評価を行い、98 件を大学帰属の特許として権利を承継した。なお、中期計画期間における発明届の累計は 545 件になり中期計画の目標数 (300 件) を達成している。
- ④平成 20 年 3 月 31 日現在で、104 件 (国内 91 件、外国 13 件) の特許出願を行った。また、8 件 (国内 6 件、外国 2 件) が特許権として登録された。
- ⑤平成 19 年度の大学の有する特許権等の活用による技術移転の実施は、特許等実施 4 件 (527 万円)、譲渡契約 2 件 (207 万円)、ソフトウェア利用承諾 1 件 (315 万円)、ノウハウ情報提供 1 件 (1,500 万円) 及び成果有体物提供 2 件 (247 万円) を行った。
- ⑥知的財産統括本部では、本学職員を対象とし発明等に係る権利化の可能性について、知的財産マネージャー (弁理士) による技術相談を実施する体制を整備している。
- ⑦知的財産委員会において、1) 研究ライセンス及びリサーチツールの特許に関する指針等を定め、2) 知的財産権の発明者への返還期間を 5 年間から 10 年間に変更し、3) プログラム等の著作権の取扱いについて、譲渡の申出における範囲を明確に定め、4) 発明者に支払いされる補償金を研究費として配分を受けることができる制度について審議した。
- ⑧大学知的財産本部整備事業の一環として、ベンチャーの育成と支援をテーマとする「大学知的財産略研修会」を平成 20 年 3 月 10 日に開催し、各大学・企業等から 131 名の参加があった。
- ⑨産学リエゾン共同研究センターを中心に、産学官連携活動を推進する一環として、技術移転マネージャー 2 名、ビジネス・インキュベーション・マネージャー 1 名、産学官連携コーディネータ 1 名、シニア・コーディネータ (本学名誉教授等) 8 名により体制を整備し、リエゾン活動を推進している。
なお、研究交流会、研究成果出展、科学技術相談会等を 19 回行った。
- ⑩平成 20 年 3 月 31 日現在で、受託研究が 211 件 (前年度比 18 件減) 及び共同研究が 335 件 (前年度比 45 件増) で合計 547 件 (前年度比 38 増) となり、前年度に続いて増加しているところである。
なお、中期計画期間における共同研究の累計は 1,068 件になり、中期計画の目標数 (450 件) を達成している。
- ⑪産学リエゾン共同研究センター、知的財産委員会、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、研究事業部及び東京リエゾンオフィス等から構成される知的財産統括本部の機能を整備し、産学官における共同研究の推進、知的財産の保護、産業界への技術移転を推進するために、次の活動を行った。
ア. 利益相反マネジメントの客観性を維持するため、学外有識者からなる利益相反アドバイザリーボードを開催し、その意見を踏まえ運用改善を図った。また、「筑波大学利益相反事例の取扱い」のパンフレットを改定し、全教員等に配布し周知した。
イ. 本学における利益相反マネジメントの状況 (平成 18 年度) について、大学のホームページに掲載するなど、外部に公表した。
ウ. ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーは、平成 18 年度に引き続き学内公募方式により、VBL 研究プロジェクト 6 件、VBL 教育支援プログラム 1 件を採択し研究経費・スペースの支援を行った。
エ. 産学連携会の会員拡充と会員へのサービスを図るため、「産学連携交流会 in 東京」及び「ニーズ・シーズ情報交換会」を開催した。
オ. 産学連携会会員への筑波大学研究成果情報の優先的提供を実施した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) 研究戦略室における検討を踏まえて、平成 17 年度に教育研究評議会の下に設置した「新たな戦略的研究支援システム検討委員会」において取りまとめた次の施策を引き続き実施した。
 - ①「研究科に配分する研究経費の基本的考え方及び研究科内における配分に関するガイドライン」に基づき、研究科に配分する研究経費について、基盤的経費を確保しつつ、外部資金獲得等の要素を取り入れた積算方法による配分システムを更に改善し実施した。さらに、各研究科内における研究経費の配分方針及び配分実績、支援内容等を調査し、学内に開示することにより、研究科内における研究経費に関する透明性を確保するとともに、各研究科が相互に情報を共有できるようにした。また、より一層研究を活性化し、大学の競争力を高めるための学内研究費の配分の在り方について、引き続き検討を進めた。
 - ②「産学連携推進プロジェクト制度」に基づき、産学連携推進共同研究プロジェクト等 8 件 (申請 15 件) を採択し、各プロジェクトの研究が開始された。
 - ③「ロケット・スタート支援制度」に基づき、特に実績のある新任・転入教員の研究課題 2 件 (申請 9 件) を採択し、本学着任の初期から研究活動を本格的に推進することにより、早期に大型の外部資金の獲得ができるよう支援した。
- (2) 学内プロジェクト研究の制度を更に戦略的に活用し本学の研究活動の一層の活性化を図るため、研究戦略室を中心に見直しの検討を進め、「学内プロジェクト研究制度」については、継続課題分を除き、制度の趣旨とともに戦略イニシアティブ推進機構の「プレ戦略イニシアティブ」により発展させることとした。
- (3) 「戦略イニシアティブ推進機構」を設置し、世界最高水準と呼ぶに相応しい実績と本学の特色を活かした学際融合性などを有し、新たな学術研究分野を切り拓く教育研究組織へと発展させるべき教育研究拠

点を、戦略イニシアティブ（2件）又はプレ戦略イニシアティブ（16件）として位置づけ、その教育研究活動に対する戦略的資源投入を行い、教育研究拠点の育成を行った。

- (4) 若手教員がその研究業績を認められ、著名な賞を受賞した場合に顕彰的に研究費を支援することにより、更なる研究の発展を期待する、「顕彰的研究支援経費」を創設し、該当者5名に当該経費を配分するとともに、学長表彰を行った。
- (5) 競争的資金をはじめとする各種公募型外部資金に係る諸情報を、戦略的に収集、分析、周知及び申請支援等をするための総合的なワンストップ機能を整備・強化するため、「外部資金情報支援チーム」を設置した。
- (6) 知的財産統括本部において、産学官連携コーディネータ、技術移転マネージャー及びビジネス・インキュベーション・マネージャー等、外部人材を活用し本学の産学連携活動を推進した。
- (7) 学内公募型の全学プロジェクトとして産学連携推進プロジェクトを実施し、技術移転、ベンチャー設立の可能性の高い共同研究等8件のプロジェクトを採択し、それぞれ研究費支援やスペースの支援を行った。これにより、大学発ベンチャーの設立につながった。
- (8) 知的財産に関する有識者を事務部門に配置し、受託研究・共同研究契約及び知的財産運用の円滑化を図った。
- (9) 産学連携活動を一層推進するため、産学連携課を一部改組し産学連携推進グループを設置した。

3. 自己評価と課題

本学は、研究面では「国際的に存在感のある、独創性と競争力に優れた研究型総合大学」を目指すため、「研究力」を更に強化するとともに、本学の「研究」が外からよりはっきりと「見える」ものとしていくための研究推進諸施策を検討、実施している。とりわけ「戦略イニシアティブ推進機構」の設置は、今後、外から見える国際的教育研究拠点の形成を図る上において重要なものと位置づけられる。また、産・官との連携及び知的財産の取扱いについても、知的財産統括本部及び産学リエゾン共同研究センターを中心に意欲的に取り組むなど、中期目標・中期計画の着実な実施を図っている。

(1) 研究

「教育・文化立国」、「科学技術創造立国」を目指す我が国の諸施策を踏まえつつ、新しい学問領域を拓く研究及び社会・経済・文化の発展に貢献できる研究を推進するため、種々の取り組みを行った。特筆すべき成果として、①「新たな戦略的研究支援システム」の施策のうち「学内研究資金の新たな配分方式」、「産学連携推進プロジェクト制度」及び「ロケット・スタート支援制度」を着実に実施したこと、②「戦略イニシアティブ推進機構」の設置、③「筑波大学教育研究用設備整備に関するマスタープラン」の作成、実施などが挙げられる。今後、社会的要請を認識し、学術文化と社会への貢献を使命として、研究の活性化のための競争的環境の醸成を図り、国内外から高い評価を得られる研究水準の達成のため、次年度以降に次の課題を設定し、取り組むこととしている。

- ① 研究戦略室の更なる実効化及び企画・立案機能の強化
- ② 「新たな戦略的研究支援システム」の制度充実及び実施
 - ア. 戦略イニシアティブ推進機構の整備
 - イ. 戦略イニシアティブの推進及び採択拠点の支援
 - ウ. 戦略的研究資金制度の整備
- ③ 競争的研究資金獲得強化に向けた方策の検討及び実施
- ④ 競争的資金獲得に向けた学内への情報提供の充実
- ⑤ グローバル COE プログラムの獲得に向けた適切な対応
- ⑥ 次期中期計画に向けた実効性のある設備マスタープランの検討及び策定
- ⑦ 間接経費の効果的活用による研究環境及び研究支援環境の改善
- ⑧ 研究関連情報システムの強化・充実
- ⑨ 研究公正・研究倫理に関する体制の適切な運用
- ⑩ 研究センターの位置付け及び業務の見直し

(2) 産学連携

法人化後の外部資金の獲得が重要な課題であり、外部資金関係の諸規程を制定するとともに、知的財産統括本部で任用している技術移転マネージャー等を活用し、受託研究及び共同研究の企業とのマッチングを図るなど、平成19年度末で受託研究211件、共同研究335件と成果を上げた。今後も引き続き、特許権等の活用による実施料等収入の増を図る必要がある。

さらに、産学官連携を推進するために、次年度以降に次の課題を設定し、取り組むこととしている。

- ① 知的財産統括本部の再編強化
- ② 知的財産の創出・取得・管理・活用までを一体的に行い、知的財産の活用を通じて研究成果を社会に還元
- ③ 受託研究、共同研究等を積極的に推進するとともに、受入から契約締結までの手続きを迅速化・効率化
- ④ 利益相反制度について教職員へ周知徹底
- ⑤ 本学の研究成果の積極的なPR
- ⑥ つくば地区研究機関、県、他大学等との産学連携活動の強化

情報環境機構

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

- (1) 情報環境委員会（年 3 回）を開催し、①本学の情報環境の現状、②学生宿舍ネットワーク環境の整備、③全学計算機システム整備の基本方針、④情報セキュリティに関する体制の整備と規則等の制定、⑤情報環境基盤整備の基本方針等について審議した。情報環境機構運営委員会（学術情報メディアセンター運営委員会を兼ね年 6 回）を開催し、①情報環境機構の運営、②学術情報メディアセンターの運営、予算、教員人事等、③業務システムの運用・整備、④全学計算機システム整備の基本方針、⑤情報セキュリティ体制及び規則、⑥学生宿舍 LAN の運用等について審議した。情報環境企画委員会（年 5 回）を開催し、①機構予算及び年度計画の立案、②情報環境の整備・運用予算に係わる基本的考え方、③検討課題 i) 全学計算機システムの整備、ii) 情報セキュリティ体制の整備、iii) e-learning システム整備、iv) 無線 LAN 環境の整備等について検討するため、WG を設置し検討した。
- (2) 教育用計算機システム、大型・分散計算機システム並びに複数の専門教育用計算機システムの今後の整備方針を検討するために、全学計算機システム検討 WG を設置し、現システム利用状況調査、設置組織ヒアリング、学生アンケート、全学計算機システム計算機室入退出カードシステムについて検討等を行った。その結果、教育用計算機システムと大型・分散計算機システムの再編統合を骨子とする基本方針を策定し、現在、全学計算機システム仕様策定委員会を設置し、平成 21 年 3 月稼動に向け仕様策定を進めている。
- (3) 本学の情報セキュリティポリシー制定に向け、情報セキュリティWGを設置し、①情報セキュリティ基本方針、②情報セキュリティ規則、③セキュリティ組織・体制、④情報の分類及び格付けに関する取扱、⑤情報セキュリティ実施要領等について基本案を策定し、4 月から運用を開始した。
- (4) 事務系のセキュリティ管理、メール環境、情報共有等に係る管理・運用体制の整備を図るため、事務情報基盤となる事務系連絡システムについて検討した。また、新人事・給与システムを構築し、4 月から運用を開始した。
- (5) 本部棟ネットワーク環境を整備し、各会議室に無線 LAN のアクセスポイントを設置するとともに、3 階と 6 階の会議室にテレビ会議システムを設置し、平成 20 年 4 月から運用を開始した。
- (6) 学生宿舍へ有線ネットワークを導入し、全室から高速な学内 LAN に接続ができるネットワーク環境を整備し、平成 20 年 4 月から運用を開始した。
- (7) 高度な教育・研究環境を提供するために、リース契約により、新規の基幹ネットワークの導入を平成 19 年 8 月に行い、9 月から運用を開始した。また、同時に、つくば WAN や SINET 3 と接続し、運用を開始した。
- (8) 情報メディア創生学類の専門教育研究などを対象にした教育計算機システムとして、時代のニーズに合った計算機環境をレンタル契約で整備し、平成 20 年度授業から運用を開始した。
- (9) 大型・分散計算機システム、教育用計算機システムにより、高性能クラスター、分散サテライト、教育用システムなど、各種計算機システムを、学内に分散配置し、高度な計算機環境を提供し、かつ安定な維持管理を行った。
- (10) 学生、教員、職員の各種サーバへのアクセスをいっそう容易にし、また、管理を一元化するため、統一認証システムについての強化を行った。入退出管理、セキュアな計算機資源の利用などについて、その試験的な運用、評価を行なった。
- (11) e-learning やメディア情報に関し、教材配信システムの管理運営並びに学術情報に関する様々な形態のメディア情報の制作・編集・蓄積・配信の支援を行った。また、e-learning システムについて、平成 21 年 4 月のリプレイス時に見直しを行うことを前提に、教育組織との連携を図りながら、仕様の検討と策定を開始した。
- (12) つくば WAN や SINET 3 などを通じて学園都市に存在する研究所や、全国の教育研究機関との間を高速のネットワークで結合した。
- (13) 国立情報学研究所と連携し、サイバーサイエンスインフラプロジェクトに参加し、本学計算科学研究センター及び他大学とも連携して、認証システムや各種情報インフラの開発整備を行った。
- (14) 大学発のベンチャー企業や地域の産学連携組織との連携し、最新の高度なサービスを、センターのサービスモデルの中に取り入れ、センター自身のサービスの高度化を行った。
- (15) TV 会議システムに関して、これまでのシステムの運用と評価を行った。
- (16) レンタルサーバに関して、サービス内容の充実強化を行った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) ①第 1 回情報環境機構シンポジウムー情報セキュリティマネジメントの実践ー（7 月 12 日）、②キャンパス情報ネットワークシステム説明会（10 月 3 日）、③情報セキュリティ体制に関する全学説明会（10 月 11 日）、④第 4 回情報化シンポジウムー業務系システムの運用についてー（11 月 9 日）、⑤全学計算機システム整備全学説明会（12 月 5 日）を実施した。
- (2) 全学計算機システム計算機配置再編・統合を図るため、学群学生全員、大学院修士課程学生及び博士前期課程学生を対象に平成 19 年 9 月 25 日～10 月 19 日の間、情報に関する初の学生アンケートを実施した。

- (3) システムの運営やサービスに関連した高度なシステム技術や応用技術等の研究開発をおこなった。学外の研究機関やベンチャー企業との連携も図りながら、新たな技術に関する情報収集、開発、サービスを充実させた。
- (4) e-learning システムの運用、TV 会議システム、入学式や卒業式などのイベントにおけるマルチメディア情報の収録、編集、伝送、アーカイブなど、各種メディアシステムの運用を行った。
- (5) Word (基礎、中級、上級)、Excel (基礎、中級、上級)、Power Point (基礎)、Access (基礎、中級) 及び ASP.Net の情報研修を業務に活用できるよう、前・後期に分け実施した。

3. 自己評価と課題

情報環境機構において、全学情報基盤体制を中長期的観点から整備を図るため、情報環境企画室の下にワーキンググループを設置し、全学計算機システムの整備（平成 21 年 3 月稼働予定）、情報セキュリティ体制の確立（平成 20 年 4 月運用開始）、e-learning の在り方（平成 21 年 4 月稼働予定）、計算機室入退室のための IC カード化（平成 21 年 4 月導入予定）並びに人事給与システム構築（平成 20 年 4 月運用開始）を含む業務情報基盤の整備等、全学的課題について一元的に検討を行い、目標とする成果が得られた。

今後、情報環境機構（情報環境企画室、学術情報メディアセンター及び情報化推進課で構成）では、業務並びに体制を精査し、情報環境関係業務の一層の効率的処理及び情報関係企画能力の強化を図る必要がある。

1 学群・学類

人文・文化学群

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | |
|--------------|---------|-----|--------|-------|-------|-----|-----|-----|
| | 1年次 | | 240 | 1,548 | 1,088 | 290 | 267 | |
| | 編入学・再入学 | | — | — | — | — | — | |
| 学生の進路 (人) | 卒業生 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | 研修医 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 公務員 | | | |
| | — | — | — | — | — | — | — | — |

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 人文・文化学群

- ①「筑波スタンダード」の学群・学類版を作成した。
- ②学群の改組を機に「人文・文化学群共通科目（コア・カリキュラム）」を新たに開設した。これらの科目は、学群が取り扱う学問全体の鳥瞰図を与え、かつ、広い学問的視野を養うことを目的としたもので、学群の教育組織としての機能を保証する役割も担っている。
- ③学群共通科目を対象に本年度第2・第3学期に実施した計2回のアンケートでは、そのいずれにおいても、教員の熱意、新しい考え方や知識の修得、勉学意欲の喚起、総合的満足度のすべての質問項目に関して、80%をはるかに上回る肯定的回答が得られている。また、自分の所属する学類ではめったに受講できないような内容の授業を敢えて受講する学生が大勢いることも学群共通科目の履修上の特徴になりつつある。
- ④本学群の部局細則により、学生が1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を45単位と定め、学生が十分な学習時間を確保できるように配慮している。

(2) 人文学類

- ①本学類の特色でもある幅広いカリキュラム編成と少人数演習による高度な専門教育を実施した。
- ②学類HPに『人文学類案内』、『人文学類で学ぼう』などを公開し、更にこれらの一部をブログ化し、学類広報活動を充実させた。また、学類案内の発送先となる高校を大幅に増やすなど、今後の学類広報戦略を立案し、効果的な広報活動を推進した。
- ③主専攻説明会（平成20年1月30日実施）や学類主催の就職説明会（平成19年6月20日（一般企業）、学生の意識向上を図るなど、学生に対するキャリア支援体制を充実させた。

(3) 比較文化学類

- ①上級英語クラス等の開設や大学院開設科目履修の認可等を通して、教育課程を改善した。
- ②授業評価アンケート及び研修会の実施等、FD活動を積極的に行った。
- ③クラス担任や指導教員等を通して、学生の相談・支援に積極的に取り組んだ。
- ④社会との連携を目指した活動として文化講演会を開催し、多数の参加者を得た。
- ⑤パンフレットの作成、学類誌の刊行、各種大学説明会等への参加、ホームページの内容改善等を通して、学内外に対する情報の提供・公開に積極的に取り組んだ。

(4) 日本語・日本文化学類

- ①国際理解力の養成を目的に、新入生オリエンテーションにおいてJICA研修生との交流会を、フレッシュマン・セミナーの一環として日本語・日本文化研修留学生による研究発表及び留学生との懇親会を、そして課外活動としてクラス代表の主催による留学生との懇親会を、それぞれ実施した。
- ②卒業論文演習や一部の演習科目において少人数授業を実施することができた。
- ③本部からの予算措置と事務職員や関係教員の尽力により、予定通り卒業生の追跡調査を実施できた。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 人文・文化学群

- ①毎月1回定例の学群長・学類長連絡会を開催し、学生異動や教育課程の編成等の問題を中心に意見交換を行うなど、運営面においても学群としての一体感が醸成されつつある。
- ②教育の内容・方法の点検・改善と将来構想の明確化を目的に、学群長、各学類長、及び各学類の教育課程委員長から成る学群の自己点検・評価委員会を組織した。また、学群の教育課程委員会とFD委員会を設けた。
- ③学群の広報委員会が中心となって学群のHPを立上げ、3学類分のシラバスを掲載した。

(2) 人文学類

- ①入試検討委員会を中心に、アドミッション・ポリシーを含め、最近の入試状況の変化に即した選抜方法の再検討に着手した。
- ②年間修得15単位未満の学生などに対して、クラス担任及び父兄と連携しきめ細かい個別指導を行った。

- ③クラス連絡会（7月3日、12月7日の2回実施）における学生との意見交換、更には専門科目を対象に実施した授業アンケートの結果を踏まえ、授業内容の更なる充実を図った。
 - ④学生の専攻選択を支援するため、主専攻コースの演習授業を一定期間学生に公開した。
 - ⑤学類独自のキャリアアップシートを作成し、キャリアポートフォリオと連動させ、学類学生の自己啓発活動や学生生活を支援している。
- (3) 比較文化学類
- ①学生のキャリア支援の取組として、OB・OG 交流会を積極的に援助した。
 - ②クラス連絡会（6、11月に開催）において出された学生の要望を授業に反映させた。
 - ③大学説明会において模擬授業を実施し、他府県の高校生に学類の授業を直接紹介した。
 - ④学生への対応改善のため、1～4年次まで同一クラス・同一担任とすることを決定した。
- (4) 日本語・日本文化学類
- ①協定校の大連大学の協力を得ながら海外での授業の開設に向け目下準備中である。
 - ②海外における教育実習科目（国際実地研修）をインターンシップ科目とし、卒業生の声を載せた「卒業生は今」を発行し、大学院説明会を開催して学類生の進路選択の参考に資するなど、キャリア支援活動にも積極的に取り組んだ。
 - ③国際交流協定締結の拡大に貢献した。その結果、トルコのボアジチ大学との交流協定には、本学類の他、新たに人文・文化学群、国際総合学類、地域研究研究科が加わり、スロベニアのリュブリャナ大学との交流協定には新たに比較文化学類、国際総合学類、地域研究研究科、人文社会科学研究科が加わった。
 - ④1年次から4年次までの持ち上がりのクラス担任制の下、学生の勉学上・生活上の悩みや課題を把握し即座に対応できる指導体制を構築した。
 - ⑤大部分の学類生に留学生のチューターを務めさせ、国際理解力の涵養を図った。

3. 自己評価と課題

(1) 人文・文化学群

学群共通科目の開設とこれらの科目を対象とする学生による授業評価アンケートの実施や、学類間の連携・協力体制の強化を目指した取組の開始など、新学群としての独自性や特色を前景化するための諸活動を積極的に展開してきた。今後も、各学類の自律性を尊重しつつ、学群全体としての将来構想を更に明確化し、新しい時代のリーダーに相応しい人材の養成を目指していくことが課題となる。

(2) 人文学類

優秀な学生を確保するために、学類学生の意見等を取り入れながら、『人文学類案内』などの内容を見直し、より効果的な広報活動を進めていく予定である。また、「質の高い大学教育推進プログラム」等の公募型教育支援プログラムに積極的に応募することも今後の大きな課題である。

(3) 比較文化学類

学類の重点施策・改善目標等は概ね達成できたと言える。特に上級英語クラスの設置、『比較文化研究』の刊行、学類文化講演会の開催は、学生の学力の向上や学類の教育活動の公開、文化研究の社会的意義の確認という点から大いに評価できる。一方、学生の生活・キャリア支援に対する学類体制の整備を急いで進めていく必要があることや、入学志願者数の改善に一層注力する必要があることなど、今後の課題もいくつか残されている。

(4) 日本語・日本文化学類

ICT 技術力、英語運用能力向上のための教育については、費用と時間の関係で当初の目標を達成できなかったが、卒業生の追跡調査は実施できた。また、日本語や日本文化を世界に伝える人材の養成という本学類の目標を達成するためにインターンシップを導入し、留学生との交流を積極的に行った点も評価できる。今後の課題は、卒業生の追跡調査によって収集した資料の管理と利用の方針を決めることである。

社会・国際学群

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | |
|--------------|---------|-----|--------|-------|-----|-----|-----|-----|
| | 1年次 | | 160 | 1,249 | 972 | 204 | 173 | |
| | 編入学・再入学 | | — | — | — | — | — | |
| 学生の進路 (人) | 卒業者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | 研修医 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 公務員 | | | |
| — | — | — | — | — | — | — | — | |

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 基本方針について

改組により新たに発足した社会・国際学群では、改組の理念・目標である「社会科学分野の総合的な専門教育を担う社会学類と、社会科学を中心に応用的な学融合教育を担う国際総合学類の、連携と相互補完関係を推進する」体制の基礎を築いた。

(2) 重点施策・改善目標等について

- ①学群としての「筑波スタンダード」の策定、及び「中期目標期間の評価に係る現況調査」を実施した。また、監事による監査の機会に学群の運営全般にわたり FD を実施した。
- ②学園祭におけるホームカミングデーに関して、国際総合学類は最初の卒業生から 20 年という参加資格を得て初めての参加、及び社会学類の参加により、積極的に卒業生との交流を図った。
- ③学群 HP の開設及び学群紹介パンフレットの新発行により、学群の理念・教育目標を情報発信し、入学を目指す受験生及び卒業生の進路先の理解を得る努力を行った。
- ④社会学類と国際総合学類ともに、大学説明会にはそれぞれ 500 名以上の参加者を得て、社会・国際学群の存在感を示すことができた。また、国際総合学類では春の進学説明会を東京キャンパスで実施し 40 名以上の参加者を得た。
- ⑤20 年度入試の前期日程の志願倍率は社会学類が 9.3 倍、国際総合学類が 4.5 倍、後期日程は社会学類が 23.2 倍、国際総合学類が 7.8 倍であった。優秀な学生を確保するという視点に立って多様で効果的な入試の在り方について検討し、社会学類では平成 22 年度から「後期課程」、国際総合学類では平成 21 年度から「AC 入試」を廃止することとした。
- ⑥教育成果の検証の観点から、社会学類及び国際総合学類において、学類独自の授業評価を実施した。さらに国際総合学類では、2 年次から 3 年次に進級する学生を主な対象とした評価アンケート、及び卒業式の際に卒業生を対象とした評価アンケートを実施した。
- ⑦学群独自の「就職活動への心構えの会」「複数の企業の就職担当者」「OB・OG を招いた就職説明会」を開催し、より学群にマッチした就職支援活動を行った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) 「青木彰記念・ジャーナリズムとメディアの現在」「超高速インターネット衛星を用いた遠隔教育と教育の国際化」
平成 19 年度学内教育プロジェクト公募に、「青木彰記念・ジャーナリズムとメディアの現在」「超高速インターネット衛星を用いた遠隔教育と教育の国際化」が採択された。
- (2) 高度先端 ICT 技術を活用した授業用教室整備及び設備新設
平成 19 年度学群教育用設備整備等経費の募集に、「高度先端 ICT 技術を活用した授業用教室整備及び設備新設」が採択された。
- (3) 「コラボ型ネットワークを用いた遠隔教育」
平成 19 年度現代 GP: の公募に、「コラボ型ネットワークを用いた遠隔教育」を提案し、大学本部からの提案項目に採択された。
- (4) 「異分野学生の協同によるコンテンツ開発演習 -異分野学生の Match Making による協同型コンテンツ開発演習プログラム-」
情報学群が提案し採択された「異分野学生の協同によるコンテンツ開発演習 -異分野学生の Match Making による協同型コンテンツ開発演習プログラム-」に共同実施学群として参画した。
- (5) 「アジアにおける協調的先端学術連携融合に関わる基盤形成事業 -多地点間遠隔教育ネットワーク・システムによるアジア e ラーニング授業-」
平成 20 年度概算要求に、「アジアにおける協調的先端学術連携融合に関わる基盤形成事業 -多地点間遠隔教育ネットワーク・システムによるアジア e ラーニング授業-」を提案し、採択された。平成 21 年度の概算要求として継続申請する。
- (6) 「筑波大学における 8 月入学(第 2 学期)の拡充に向けた調査研究 -教育の質を保証する国際化・多様化プロジェクト-」
平成 20 年度概算要求に、「筑波大学における 8 月入学(第 2 学期)の拡充に向けた調査研究 -教育の質

を保証する国際化・多様化プロジェクト-」を提案し、採択された。平成 21 年度の概算要求として継続申請する。

- (7) 模擬法廷を活用した体験型社会教育及び遠隔教育形成事業-裁判員制度実施による社会的ニーズに対応した大学教育の創成-

平成 20 年度「学群教育用設備整備等経費」要求として申請した。

- (8) 「体験型教育を活用した実践的社会科学教育プログラム -社会科学を体感する実践型教育による総合力ある人材育成-

平成 20 年度公募型予算要求(質の高い大学教育プログラム)に「体験型教育を活用した実践的社会科学教育プログラム -社会科学を体感する実践型教育による総合力ある人材育成-」を予備申請した。

3. 自己評価と課題

- (1) 平成 19 年度の基本方針に掲げた教育目標の達成及び社会学類と国際総合学類の連携と相互補完関係を推進する体制の確立については、おおむね目標を達成することができた。今後は、さらに情報の共有化に留意し、教員及び支援職員を含めた学群としての一体感の醸成に努めることが肝要である。

- (2) 重点施策・改善目標については、平成 20 年度の概算要求項目に掲げた「アジアにおける協調的先端学術連携融合に関わる基盤形成事業 -多地点間遠隔教育ネットワーク・システムによるアジア e ラーニング授業-」が採択されたこと、さらに平成 20 年度の概算要求項目に採択された「筑波大学における 8 月入学(第 2 学期)の拡充に向けた調査研究 -教育の質を保証する国際化・多様化プロジェクト-」の実施主体部局になったことから、当初の計画以上の成果を上げることができた。今後は、これらのプロジェクトを着実に運営していくことが肝要である。

- (3) 平成 19 年度の学群基本方針に則った運営及び重点施策・改善目標の実現を背景にして、平成 20 年度に向けて「模擬法廷を活用した体験型社会教育及び遠隔教育形成事業-裁判員制度実施による社会的ニーズに対応した大学教育の創成-」や「体験型教育を活用した実践的社会科学教育プログラム -社会科学を体感する実践型教育による総合力ある人材育成-」など、新たな革新的提案が数多くなされるようになり、学群方針の学群内部への浸透が感じられる。

人間学群

| 学生の確保 (人) | 年次 | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | |
|--------------|---------|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 1年次 | 120 | 404 | 381 | 147 | 133 | | |
| | 編入学・再入学 | — | — | — | — | — | | |
| 学生の進路 (人) | 卒業生 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | 研修医 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 公務員 | | | |
| | — | — | — | — | — | — | — | — |

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

平成19年度は、人間学群発足の年となり、新学群における教育・運営の円滑な実施を中心として、「魅力ある人間学群づくり」と「地域・社会・世界に向けた人間学群の情報発信」を重点施策に、「学生生活支援の充実」と「高大連携の促進」を改善目標に、それぞれ掲げ学群の運営を行った。

(1) 重点施策

① 魅力ある人間学群づくり

新しい教育体制における人間学群の教育を混乱なく実施し、新3学類との連携による新学群の運営を円滑に行うことができた。

② 地域・社会・世界に向けた人間学群の情報発信

新学群・新3学類に関する情報をパンフレット・インターネット・高校生講座等で積極的に発信し、活発な情報発信ができた。

(2) 改善目標

① 学生生活支援の充実

新3学類間の連絡及び教員と学生との情報交換を密に行い、学生のニーズに応えられる体制づくりができた。

② 高大連携の促進

平成18年度に引き続いての高大連携を促進できた。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 魅力ある人間学群づくり

① 人間学群教員会議と人間学類教員会議を合同で実施することで、新学群・新学類と人間学類に共通の議題を効率よく審議でき、教員の時間的負担も軽減することもできた。

② 新入生オリエンテーションを人間学群新3学類合同で行うことで、人間学群の教育についての理解を促進することができた。

③ 1年生が履修できる人間学群共通科目（コア・カリキュラム）と新学類専門基礎科目を開講し、1年次から専門教育を学べるカリキュラムを実施できた。

④ 新学群・新学類・人間学類の授業内容を学生が理解しやすいように、人間学群と人間学類のシラバスを合本で作成した。

⑤ 通年形式の授業が主であった人間学類の授業形態を人間学群では一新し、学期集中型で2時間連続の授業形態とすることで1学期に2単位の授業を設定することを可能とし、短期間で効率よく学修できる教育体制を構築することができた。

⑥ サービスラーニングに関する学群教育プロジェクト内容について人間学群共通科目で授業を行い、学群教員によるプロジェクトと学生の教育を一体化させた教育を行うことができた。

⑦ 卒業生・大学院生・学類4年生による就職・進学・進路決定についての講演や解説を人間学群共通科目として実施し、キャリア教育を昨年度以上に充実させることができた。

⑧ 教育学・心理学・障害科学に関連する大学内外の社会的活動について評価・指導を行う授業を人間学群共通科目に位置づけることで、参加型の実習教育を推進できた。

⑨ 人間学群共通科目中の基幹6科目について、大学全体で実施される質問紙とは別に、授業の改善点をより明確にできる独自の評価質問紙を作成し、学生による授業評価を実施した。

⑩ 人間学群ファカルティ・デベロップメント（FD）委員会を設置し、新学類FD委員会、人間学群教育課程専門委員会及び人間学群就職委員会と協働して人間学群共通科目の内容を検討し、学群共通科目の充実化を推進することができた。

⑪ 教室を改修することで小中学校模擬教室と福祉介護実習室を新設するとともに、プレイルームの行動観察機器を更新し、教育学・心理学・障害科学の実習環境を整備した。

⑫ 人間学群と人間学類卒業生との連携を強化するために計画された卒業生名簿の作成を実施に移すことができた。

(2) 地域・社会・世界に向けた人間学群の情報発信

① 教育プロジェクトとしてサービスラーニングに関する講演・シンポジウムを開催し、人間学群が地域

と連携した教育を行っていることについての情報発信を行った。

- ②教員・一般社会人を対象とした公開講座の他、高校生を対象とした公開講座を新3学類全てで実施し、学群新学類についての情報発信に努めた。
- ③近隣高等学校への出張授業を行うとともに、高等学校へ向けての人間学群についての情報発信を行った。
- ④学生の社会貢献活動を単位認定する授業を設定することで、学生の社会参加を促進することができた。
- ⑤タイ国での教育体験実習を行うことで、人間学群・人間学類についての国際的な情報発信を継続できた。

(3) 学生生活支援の充実

- ①人間学群新3学類及び人間学類合同の人間学群・人間学類懇親会を行うことで、新3学類及び人間学類の学生相互における交流と共同意識を促進することができた。
- ②人間学群及び人間学類の学生と教員とのミーティング(学期中、月1回)とクラス連絡会(年に2回)を通じ、学生と教員間で定期的に意見交換することで、学生の要望に対して迅速な対応を行うことができた。
- ③身体障害、発達障害、精神障害など、さまざまな支援ニーズのある学生に対して、担任、関連する委員会、各障害や問題に造詣の深い教員の連携により、適宜、可能な対応を行うことができた。

(4) 高大連携の促進

- ①障害のある高校生を対象とした特別選抜入試を継続実施し、合格者には事前指導を行う形式で高大連携を推進した。
- ②附属高等学校(特別支援学校高等部を含む)との意見交換の場を設置し、今後の高大連携のあり方について検討を行った。

3. 自己評価と課題

- (1)カリキュラム、授業形態を一新した人間学群の運営を、大きなトラブルを生じることもなく実施することができたと自己評価している。一方、新カリキュラムの中で若干の準備不足があった授業もあり、今年度の経験を基に来年度は事前準備を整えて授業を実施できるようにする必要がある。
- (2)人間学群と人間学類の授業が学年進行で実施されるため、来年度、人間学類の授業の中で授業形態の変更が行われる授業があり、学生の混乱がないよう十分な次損指導を行う必要がある。
- (3)人間学群FD委員会と3学類FD委員会を設置し、それぞれ連携を取りながら授業検討を行ったが、新学類の授業が増える来年度は、それぞれの役割分担を明確にしながらもより有機的に連携して学群・学類のカリキュラムを検討していく必要がある。
- (4)大学全体で実施される授業評価とは別に、独自に作成した質問紙を用いた授業評価を学群共通科目基幹6科目に関して行うことができたが、来年度は、全ての学群共通科目と可能な範囲での学類科目に広げて実施することが望まれる。
- (5)教育プロジェクトによりサービスラーニングの教育を実施することができたが、単発に終わらず、来年度も継続して実施することが望まれる。
- (6)実習環境の整備を進めることができたが、教育実習機器にはまだ不足が目立つところがあり、来年度以降も引き続き学群教育環境の整備に努力する必要がある。
- (7)卒業生名簿の第1版を作成したが、住所不明の卒業生も少なくなく、未だ不完全なものであり、来年度、継続して追補修正していく必要がある。
- (8)障害がある学生支援の内容が発達障害や精神障害へと多様になってきている現状は、これまでの障害科学類を中心とした支援だけではニーズに応えられる支援ができなくなる可能性が大きく、今後、多様な障害のある学生支援体制を全学的に整備していく必要があり、人間学群はその活動に大きく貢献する意識を持つ必要がある。
- (9)高大連携を基にした特別選抜入学試験を実施できたが、受験生が全国から集まってくる傾向が高まりつつあるため、遠方の合格者に対する入学前の指導のあり方を検討していく必要がある。

生命環境学群

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | |
|--------------|---------|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 1年次 | | 250 | 969 | 743 | 307 | 290 | |
| | 編入学・再入学 | | — | — | — | — | — | |
| 学生の進路 (人) | 卒業生 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | 研修医 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 公務員 | | | |
| — | — | — | — | — | — | — | — | |

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況 〔生物学類〕

- (1)強い学習意欲を持った学生を対象とした「研究マインド応援プログラム」の一環として、1年生全員に特別講義「生命科学の最前線」を行うとともに、1年生1名、2年生2名の特別研究生を選抜し、研究室に配属して自主的研究活動を行わせた。
- (2)科学コミュニケーション教育を専門とする専任の外国人教員により、3年生を対象に通年の専門外国語の授業（必修）等を実施した。
- (3)成績評価基準ガイドラインを設定するとともに全科目の評点分布情報を全教員で共有し、ガイドラインに合わない科目に関しては担当者から理由・意見を聴取することで、学類全体で適切な成績評価体制を確立した。
- (4)「TWINS 双方向型リアルタイムシステム」による授業評価と「つくば生物ジャーナル」による評価結果と担当教員のコメントの完全公開を実施し、問題のある授業にはカリキュラム委員会による指導を行った。
- (5)国際生物学オリンピックつくば2009の開催に向け、準備委員会を立ち上げるとともに、生物オリンピック・サマー・サイエンスキャンプ筑波2007を実施した。

〔生物資源学類〕

- (1)海外協定校との連携によるアジア共通カリキュラム(単位相互認証プログラム)の開発と試行による生物資源科学・農学教育の国際化推進について：本年度は、タイ王国カセサート大学との連携による「国際農業研修Ⅰ」及びカセサート大学と本学の学生による学術文化交流のための「国際大学交流セミナー」を共通プログラムの一部として試行した他、両大学の実務者会議を開催し、単位相互認証に必要な協定書の改定(案)について基本合意を得るなど、教育の国際化推進に着実な成果が得られている。
- (2)つくば市との連携による「マイスター育成講座」の継続的運営計画の策定とインターンシップ・キャリア教育の充実：本年度で現代GPとしての取組が終了するが、学生及び市民から継続的な実施について強い要請があること等から、大学本部(教育担当副学長)及びつくば市と協議し、当面、3年間の継続的運営計画を策定した他、引き続き本事業をインターンシップ科目として正規カリキュラムの中に位置づけて運営する体制を整備するなど、着実な成果が得られている。
- (3)FD活動の一層の強化と授業改善等による学生の学習意欲向上のための取組：学生による授業評価について、学生の評価や意見に対する教員の対応を「教員回答書」として学類長に提出することを義務づける新たな仕組みを導入するとともに、学生と教員による「教員回答書」の随時閲覧を可能にする体制を整備した他、「数学」と「物理」について教員とTAが連携する学類独自のリメディアル教育を試行するなど、教員のFDと学生の学習意欲向上に期待される成果が得られつつある。

〔地球学類〕

- (1)地球学類の1年次専門授業(地球環境学、地球進化学)で授業評価を行い、専門授業の更なる充実を図った。
- (2)筑波スタンダードの策定とともに、充実したカリキュラム、シラバスの作成を心がけた。
- (3)高校生対象の体験学習の実施と地元高校での出前授業を積極的に行なった。
- (4)学類運営委員会を活用し、学生の指導体制を強化した。その結果、1年生での休学、退学、15単位未満履修者を出さなかった。
- (5)学類再編に伴う問題点の評価を実施中である。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

〔生物学類〕

成績評価基準ガイドラインの設定、全科目の評点分布情報の全教員での共有、「TWINS 双方向型リアルタイムシステム」による授業評価の実施と「つくば生物ジャーナル」による結果の完全公開を通して、学類全体のファカルティ・ディベロップメントを推進した。

〔生物資源学類〕

- (1)教育上の特色ある取組として以下の取組を行った。
 - ①現代GP「新しい課題対応型体験学習プログラムの開発」の実施(芸術専門学群と共同実施)。
 - ②日本学術振興会の“ひらめき・ときめきサイエンス”事業として、「生態系における土壌のはたらきを

探ろう」を本学において実施。

- ③JST 地域科学技術理解増進活動推進事業として、茨城県自然博物館と連携して「湿原生態系における絶滅危惧植物の保全と土壌を理解しよう」を実施。
 - ④高大連携事業の取組として、全国の高等学校で 25 回の出前講義を実施。
- (2) 運営上の特色ある取組として以下の取組を行った。
- ①大学院前期専攻（生物資源科学専攻）との連携による学部・大学院連携教育体制の整備のための WG の設置。
 - ②農林学系と連携した教員の学内サバティカル制度（教育専念義務の一定期間免除）の継続実施。

[地球学類]

- (1) 学類生による専門授業の評価を実施し、その結果を各教員へ周知・徹底し、授業改善につとめた。
- (2) 二つの主専攻からなる地球学類では、バランスのとれたカリキュラムの改善を実施中である。
- (3) 数理工学等支援室、生命環境科学等支援室に対応をお願いしている地球学類では年度初めは混乱があったものの現時点ではスムーズな運営が行なわれるようになった。

3. 自己評価と課題

- (1) 生命と環境を共通のキーワードとする 3 つの学類で構成される本学群は、筑波大学の中では大学院と一体化した唯一の新学群であり、この組織編制上の長所を生かし、各学類は、学士課程と大学院修士・博士課程との連続性に配慮した教育課程を編成している。このような新学群の特色及び教育目標・内容については、志願者及び入学者の状況等から、十分社会に認知され高い評価を得ていると判断できる。
- (2) 各学類は、学群の教育目標に基づいてそれぞれが育成すべき人物像を明確にしたうえで、体系的かつ学際的な教育課程の編成に努めている。また、早期研究室配属プログラムの導入や国際学生交流セミナーの実施など、教育方法の改善・工夫や学生の主体的な学習を促す様々な取組が実施されている。
- (3) 学生による授業評価は、全ての学類で恒常的な自己点検手段として実施されているほか、成績評価ガイドラインの設定、リメディアル教育の導入、シラバスの改善・工夫など、学類の特性に応じた方法により組織的かつ継続的な教育改善の取組が実施されている。
- (4) 一方、学群としての独自性あるいは教育的使命という観点から分析すると、新学群の発足に伴って導入された「学群コア科目」は、従来の専門基礎科目の中から各学類が他学類の学生に提供する科目を整理した段階にとどまっており、必ずしも本来の目的を満たしていない。生命と環境を扱う 3 つの学類が担う専門分野は、いずれもフィールド・サイエンスに属し、野外での実習や実験が教育上極めて重要である。また、生命科学・環境科学は、人間生活に密接な関わりをもつ学問領域であり、こうした本学群の教育内容の特徴や基本的使命を踏まえ、今後は「学群コア科目」の改善・充実を図る必要がある。
- (5) 各学類の履修基準は、それぞれに十分な検討を踏まえて設定されており、学類としての完成度は高いと思われるが、学群教育の視点でみると、他学類の科目や関連科目の扱いが学類ごとに異なっており、この点についても学群の教育目標・基本方針に即して検討する必要がある。

理工学群

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | |
|--------------|---------|-----|--------|-------|-------|-----|-----|-----|
| | 1年次 | | 520 | 1,641 | 1,359 | 626 | 587 | |
| | 編入学・再入学 | | — | — | — | — | — | |
| 学生の進路 (人) | 卒業者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | 研修医 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 公務員 | | | |
| | — | — | — | — | — | — | — | — |

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

- (1) 学類間の密接な連携と各学類のカリキュラムやシラバスの充実や見直しを経常的に行った。
- (2) ゆとり教育世代や多様な入学試験の入学学生に対して、きめ細かい基礎教育や基礎専門教育を実施した。
- (3) 大学院への進学を見据えた基礎的教育の充実など、初年度としての理工学群の教育体制の整備を進めた。
- (4) 授業評価や教員研修を活用して、本学群にFD委員会を設置し、情報の共有化を行うなどの活動を進めた。
- (5) 学類が提供してきた活動が今回の改組再編で低下することなく一層充実するよう体制の整備を進めた。
- (6) 学生実験室や実験機器の一層の高度化とリニューアルを行うため、設備整備費の申請準備を進めた。
- (7) 学生の学力低下と学習意欲の低下に対処するための教育体制を整備した。
- (8) 教育の質の向上を図るとともに、成績不良者に対するきめ細かい指導を行う体制を整えた。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) 理・工学分野の融合と特徴を社会に発信するために、理工学群発足記念行事を開催した。
- (2) 学群・学類長・クラス担任などを中心に、学生生活全般について初年度の支援体制を整備した。
- (3) パンフレット配布、大学説明会、体験学習などを通じて広報や高大連携活動を一層進めた。
- (4) 工学システム学類では、平成21年度のJABEEの継続審査に向けて、点検改善を引き続き進めた。

3. 自己評価と課題

(1) 自己評価

入試対策、教育体制の整備・充実、就職支援・学生生活相談の実質的な指導体制、社会・地域との連携については、微小ながら着実に進展した。また、理工学群発足記念行事式典を通じて、理・工学分野の学生と教職員の一体化がはかられ、新学群として順調な滑り出しができた。

(2) 課題

学群運営委員会は、新学群に期待されている部局としての役割を果たすための施策を検討する必要がある。そのため、これからは運営委員会のWGとしての機能を有効に果たすことを目的に、新しい組織設置に着手する必要がある。

情報学群

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | |
|--------------|---------|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 1年次 | | 230 | 846 | 641 | 266 | 251 | |
| | 編入学・再入学 | | — | — | — | — | — | |
| 学生の進路 (人) | 卒業生 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | 研修医 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 公務員 | | | |
| | — | — | — | — | — | — | — | — |

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況 (情報科学類)

- (1) 学類内に設置したFD委員会を中心に、マークシート形式の授業評価を、年度当初より本格的に実施し、その結果を各教員にフィードバックした。
- (2) 昨年度に引き続き、大学院コンピュータサイエンス専攻と連携して、産業界からの講師による実践的IT授業科目の開講を実施した。
- (3) 情報特別演習や技術英語などの個人発想型科目を学生が選択するように推奨した。
- (4) WebCTによる授業科目のeラーニング化の試行を続け、各科目におけるeラーニングコンテンツの整備をさらに推し進めた。
- (5) 昨年度に引き続き、1学年を1クラス20名程度の4クラス編成とし、クラス担任によるよりきめ細かい学生の指導を図った。また、クラス連絡会を3回開催し、学生と教員間のコミュニケーションの円滑化を図ることを続行した。
- (6) 筑波大学と中国浙江大学や北京航空航天大学との間の交流協定の締結を前提に、両大学間との学生の交換プログラムについて検討を進めた。
- (7) キャンパスOJTに関する覚書の取り交わしを行い、平成21年度からの実施に向け体制を整えた。これに伴い、情報科学類としてキャンパスOJTで使用予定の実験室の確保に関して検討した。

(情報メディア創成学類)

- (1) 教育用計算機システム、および、マスタープランとして位置づけた高精細・インタラクティブ・立体映像によるコミュニケーションメディアシステムのうち、高精細・高輝度・大画面映像投射装置を導入した。また、芸術専門学群特色GP「アート・デザイン教育による3C力の育成」の協力を得て、映像編集・CGの演習室であるクリエイティブメディアラボ(平成20年度整備)の設計をした。
- (2) 平成20年度以降開設科目の準備をするとともに、カリキュラムの継続的整備(履修モデルの検討など)を行った。
- (3) 成績データを整備し、成績評価の厳格化の実施の徹底のためのFDに活用した。また、学生の単位取得状況を把握し、履修指導および複数科目で単位を落とした学生への早めのケアに活用した。
- (4) 新設学類として、特に広報面でのWEBを始めとする各種媒体を用いた情報発信を引き続き積極的に進めた。また、平成21年度からの3年次編入学のための広報活動を開始した。

(知識情報・図書館学類)

- (1) 2年次以降の新教育課程の具体的準備を進めた。GPAによる成績評価を導入し、学生自身の学習上の指標、クラス担任による学修指導上の指標として活用した。また、学生による授業評価・卒業生等による教育評価・成績評価実態等の分析を行い、企画、評価に活用した。21年度に向けた実習用施設・設備の計画、図書館情報専門学群生への学群改組にともなう説明会等を行った。20年度の三年次編入試験の企画を行い、広報の準備を行っている。
- (2) 「学問と社会」、「社会体験実習」等のキャリア科目を新設し、また卒業生の講演会を行うなど、キャリア教育を充実させた。また、修学指導のための学生指導カルテを導入した。進路指導においては、キャリアコンサルタントを設置し、学生個人へのコンサルティングを充実させるとともに、9月に進路指導会、企業合同説明会、面接指導会を開催し、進路指導を充実させた。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫 (情報科学類)

- (1) 産業界からの講師による実践的IT科目、情報特別演習や技術英語などの個人発想型科目等、特色ある授業科目を通常の講義や実習科目に有機的に組み合わせることで学生の学習意欲を引き出すよう工夫した。
- (2) 情報教育においては極めて重要な基礎科目や体験型科目に関して、eラーニングコンテンツの整備を積極的に進めた。
- (3) 学類内における統一的な基準に基づく成績評価の厳格化を継続して実施した。
- (4) 学群再編に伴い、情報メディア創成学類および国際総合学類の教育に関して、協力や連携を進めた。
- (5) 付属坂戸高校との高大連携活動を継続して実施した。

(情報メディア創成学類)

- (1)異なる入試への定員の配分や選抜方法の検討に資するため、第1期生から、入学試験の種類(AC入試・推薦入試・前期・後期・留学生特別選抜)・高校での履修状況・高校の成績・入学試験の成績と入学後の成績との相関を分析するデータの整備に着手した。
- (2)アートセンス、コミュニケーション能力を養う「コンテンツ表現演習」、問題発見能力、問題解決能力を養う「コンテンツ応用論」など、産業界の第一線からの講師による授業科目を実施した。
(知識情報・図書館学類)
- (1)図書館情報学の進歩、我が国の知識基盤社会化の進展などに対応して、伝統的な図書館情報学教育をさらに発展させる総合的な教育課程改革を進め、19年度から新教育課程を実施しつつある。
- (2)学類教員の共通理解を促進するために学類教員会議を毎月開催し、一方、個別グループに意思決定を委譲して、全体として合理的、効率的な運営を図った。

平成19年度に文部科学省の「現代的ニーズ取組支援プログラム」に採択され、「異分野学生の協働によるコンテンツ開発演習」の演習テーマとして、情報学群の特徴でもある情報科学的素養と高い社会的倫理と問題発見・問題解決能力を持つ人材を育成し、「協働型演習」という新たな授業形態の取組を行い、学群教育の実質化を図っている。

また、ベンチャー企業と連携して実践的情報処理技術者の育成プログラム(組込み技術者養成キャンパスOJT)を計画・推進している。

AC入試、推薦入試、前期・後期入試、留学生特別選抜等に加えて、「国際科学オリンピック特別選抜」による入試を検討し、入試形態の多様化を図っている。また、編入学入試における情報科学類と情報メディア創成学類の併願制度の導入も検討している。

3. 自己評価と課題

情報学群は、平成19年度に1年生を受け入れている。学年進行と共に、カリキュラム内容の充実、実験設備の拡充や活発なFD活動を通して、情報学群教育の改善・改良を推進していく必要がある。さらに、入学者の志願率などから、情報学群の高大連携やWeb等による更なる広報活動を継続し、情報発信の強化を一層邁進する必要がある。

医学群

| 学生の確保 (人) | 年次 | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | |
|--------------|---------|------|--------|------|------|------|------|-----|
| | 1年次 | 202 | 767 | 753 | 214 | 204 | | |
| | 編入学・再入学 | — | — | — | — | — | | |
| 学生の進路 (人) | 卒業者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | 研修医 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 公務員 | | | |
| | —(—) | —(—) | —(—) | —(—) | —(—) | —(—) | —(—) | |

() は前年度の数値を示す。

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

平成 19 年度は医学類、看護学類、医療科学類の 3 学類体制を迎えての初年度であり、学類間の情報流通を促進し、教育資源の共有化などを通して医学群としての教育体制を確立し、その環境を整備すること、これにより教育成果の向上、医学群関連の各種資格試験の合格実績の確保を図ることを基本目標とした。

(1) 学群・学類間の協議と連携

- ① 3 学類体制を円滑に運用するために学類長会議を新設し最低月 1 回の会議を開催して教育の企画・運用について話し合い、情報を交換して、医学群としてまとまりのある教育体制を構築している。
- ② 医学教育企画評価室に看護学類、医療科学類の委員に加わり、カリキュラムの運用、改変、学業成績の管理などに連携が進んでいる。これにより教員数の少ない医療科学類を支援できた。
- ③ 医学群として 3 学類を包括した進学案内書(ガイドブック)を編集・作成した。今年度初めての試みであったが順調に推移した。今後毎年この様式のガイドブックを作成する予定である。

(2) 教育、資格試験の合格

本学群卒業生の昨年度の医療関連各種資格試験の合格率はいずれも全国平均を上回っている。医師国家試験合格率(113/118、97.4%)は上昇して、全国の医学部、医科大学の 5 位に位置している。看護師(54/56、96.4%)、保健師(64/66、97%)、助産師(7/7、100%)はほぼ横ばい、臨床検査技師の合格率(25/33、75.8%)は低下した。

(3) 多様な入学者選抜

医学類、医療科学類は高い倍率を維持している。3 学類ともに後期選抜入試を行って、学力と論述能力等に優れた志願者を選抜できた。

(4) カリキュラムの編成・実施

- ① 医学類では新カリキュラムの学生が初めて共用試験(OSCE(客観的臨床能力評価試験), CBT(Computer Based Test))を受験し、極めて良好な成績を得て全員臨床実習に進んでいる。看護学類でも OSCE や IBT(Internet Based Test)を順調に試行している。
- ② 3 学類のカリキュラム編成・実施に医学教育企画評価室が大きな役割を果たし、教育が円滑に進んでいる。

(5) 少人数による授業の実施と成績評価

医学類では問題解決型テュートリアル教育を実施、テューター、学力試験評価、共用試験成績を組み合わせて、また臨床実習では指導教員のみならず、看護師、患者の評価などを取り入れて多角的評価を実施した。医療科学類では実技試験を導入して実習教育(技能と態度)を改善した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) 3 学類体制を円滑に運用するために学群長・学類長間の定期的な打ち合わせの会、学類長会議を新設するとともに、医学教育企画評価室に看護学類、医療科学類が参加して教育実施・企画に医学群としての統一性を図っている。
- (2) 医学類においては新カリキュラム(新筑波方式)が進行しており、少人数テュートリアル教育は 3 年次まで、4 年次生は臨床実習に入っている。斬新な医学教育がいよいよ臨床現場でも推進されている。
- (3) 医学、看護、医療科学の学生がケア・コロキウム(Co-Workshop)のコースを協同して学習し、医療人としての共通認識やチーム医療意識を育成している。看護学類、医療科学類共通の少人数教育モデルを提供するとともに、教育スペースの有効利用にも資している。
- (4) 医学類のテュートリアル教育ではテューター、レポート評価、科目ごとの学力試験、共用試験成績を組み合わせて、また臨床実習では医学の指導教員のみならず、看護師、患者の評価などを取り入れて学業成績を多角的に評価している。このような多角的評価は医学教育企画評価室を経て学生指導・支援に活用されている。学生の指導・支援に医学教育企画評価室と教員とが密接に連携している点も本学医学教育上の特色である。

3. 自己評価と課題

平成 19 年度の重点施策、改善目標として掲げた計画の多くはほぼ達成、あるいは達成途上にあつてほぼ満足してよいと考えている。ただし、臨床検査技師の資格試験合格率が全国平均は上回っているとはいえ低下した点は反省材料である。看護学類、医療科学類の 4 年次生の試験を中心とした各種試験や成績評価を見直すとともに、カウンセリング、学生支援を強化してゆく予定である。また、看護学類では昨年度の選抜試験の志願者数が低下しており、その要因の解析とともに志願者増を目指して活動を開始している。

体育専門学群

| 学生の確保 (人) | 年次 | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | |
|--------------|----------|---------|--------|------|------|--------|--------|-----|
| | 1年次 | 240 | 767 | 753 | 214 | 204 | | |
| 編入学・再入学 | — | — | — | — | — | | | |
| 学生の進路 (人) | 卒業生 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | 研修医 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 公務員 | | | |
| 251(249) | 157(118) | 126(91) | 26(22) | 5(5) | —(—) | 55(60) | 39(71) | |

() は前年度の数値を示す。

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 卒業生の追跡による教育効果の検証

卒業生の動向を、学群就職委員会と学群教育課程委員会等との協力により把握し、本学群の教育方針・内容が、社会にどのように貢献しているかということを具体的に点検する予定である。

調査対象を卒業後 5 年目、15 年目、25 年目に決定し、調査用紙の作成中である。調査の実施は平成 20 年の 5 月～6 月を予定している。

(2) 少人数による授業の実施

平成 20 年度以降に新たな体芸棟が全面的に使用可能になる予定であるため、その完成予定の状況を想定した対応を進める。

これまでに各教員が担当している授業について、少人数化することの必要性と可能性について調査を実施したが、少人数化を望む意見は必ずしも多くないという結果を得ている。

(3) 全ての部局において FD を実施

体育専門学群 FD 委員会を設置し、それを中心として、平成 17 年度より試行的に開始している学生による授業評価を更に進めるとともに、学群で開設している全ての授業の教育効果を高めるための方策を検討する。

今年度は予定通り実技系の授業（26 科目）について、学生による授業評価を 2 学期に実施した。その結果は各授業担当者に通知するとともに、今後この結果をどのように授業改善に結びつけていくかということを検討中である。

(4) クラス制度を根幹とした学生組織の活性化・強化

平成 19 年度より、クラス担任の持ち上がり制を導入し、入学から卒業まで一貫したクラスとクラス担任の関係を維持することとしたが、学生並びに担任教員からは比較的良い評価を受けている。

また今年度は当初の予定通り、各学期に 1 度、合計 3 回のクラス連絡会を開催し、活発な意見交換を行うことによって、クラス機能の実質化の試みを行った。

但し一方で、多くの学生が体育系の部活動の傘下で、諸々の指導や管理を受けているため、学群課外活動連絡会との連携を企画したが、十分な成果は得られておらず、今後継続的にそのあり方の検討が必要な事態である。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

今年度に入り企画し、全学的サポートをいただいた「チュートリアルシステムによる学群生の単位の実質化」として、試合等で欠席する学生の学習支援を行っているが、既にいくつかの講義の V T R 収録と提供を実施している。次年度はこれを更に改善・発展させる予定である。

3. 自己評価と課題

2 年間にわたる学群棟改修工事に伴う学群運営への影響を最小限に出来たことは、関係教職員並びに学生の協力の成果である。次年度以降は、それらを効率良く活用するためのソフト面での工夫が課題である。

また今後における本学群の最大の課題は、これまでに把握されている学生や教員の実態並びに今後実施する卒業生対象の調査結果等を踏まえた、抜本的な教育課程の改訂である。その際特に、現代社会からのニーズへの対応と、この度改組された研究科との整合性の検討が要求される。

芸術専門学群

| 学生の確保 (人) | 年次 | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | |
|--------------|----------|---------|---------|-------|-------|-------|---------|---------|
| | 1年次 | 100 | 462 | 387 | 118 | 113 | | |
| | 編入学・再入学 | — | — | — | — | — | | |
| 学生の進路 (人) | 卒業者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | 研修医 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 公務員 | | | |
| | 115(114) | 52(50) | 48(44) | 3(6) | 1(—) | —(—) | 42(37) | 21(27) |

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

教育組織改革については、一昨年度より独立の修士と博士課程が人間総合科学研究科の前後期制に移行したのを受け連携を深める努力をした。学群から博士課程まで一貫した教育体制は芸術専門学群の特徴であり、現在、前期博士課程に在籍する45%が、また後期課程では33%が芸術専門学群からの進学者である。

また、17年度に始まった特色GPは学内外で多様なプロジェクトを遂行し成果を上げている。それらの活動は2冊の詳細な報告書にまとめられた。さらに、生物資源学類と分担して行ってきた現代GPは、市民を授業に参加させ学群生がそれをサポートするプログラムだが2年を経て終了した。今後も公開講座に学生を参加させる等、理念を引き継ぎ、大学と社会を繋ぐ芸術教育をすすめる。

就職率の向上については、実態の把握に努め、芸術の特殊性はあるものの、就職率向上の方法を積極的に検討した。卒業生の名簿整備も芸術学生委員会を中心に行い、20年度も引き続き行う。

学生生活については、学生委員会、芸術学生生活支援室を中心に、一般学生の授業や施設等、多様な要望に応え、また精神的に不安定な学生に対応した。

施設、設備については、安全に関わるため、老朽化が進む実態の把握に努め、改修の機会をのがさないように準備をした。併せて、廊下棟の放置作品等の撤去や処分を検討実施した。

共通科目『芸術』開講に向けて新しいアトリエを整備した。また体芸棟のアスベスト撤去及び耐震補強のための工事が(西側)19年7月に終了予定であったが、工期が延長し2学期からの共用開始となった。しかし施設部、支援室、学生、教員等多くの協力で、新しく質の高い教育環境が生まれた。車椅子使用の学生のために、学群棟及び学系棟の入り口を自動ドアに改修した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

20年度より全学教養科目の一つとして新しく共通科目『芸術』(12科目24単位)を開講する準備を、教育プロジェクト支援経費を受け行った。カリキュラムの検討、場所の整備、学生意向調査、海外の大学視察、シラバスの作成を行った。

芸術全組織が協力して学内に積極的に芸術作品を設置した。これまでも行ってきたが、19年度は特に大会館、新設の交流会館、新装なった体芸棟を中心に行った。合わせてユニバーシティ・ギャラリー内には寄贈を受けた石井コレクションの展示室も完成し、本格的な芸術作品収蔵庫も体芸棟1階に完成した。加えて、大会館内にアートスペースと称する本格的アートギャラリーが完成した。アートのあるキャンパスづくりに貢献した。

3. 自己評価と課題

19年度の計画は概ね達成したと考えている。断続的ではあるが、平成5年ごろより続けてきたFD活動に対して、19年度人間総合科学研究科FD奨励賞を得た。展覧会や作品集刊行まで含む、芸術特有の広い観点からの様々なFD活動が評価されたと考えているが、今後とも学生の意向や社会のニーズを反映し、カリキュラムや新しい専門領域の立ち上げなどをすすめ、競争力を高める。

さらに、教育環境の改善に努める。老朽化した工房の機器類の更新は、危険を孕むだけに、早急な対応が必要である。また、国際交流について、現在進行中の中国及びオランダの大学との締結を実現し、実質的交流を開始できるよう努力する。これらが締結すると海外の6大学が国際交流締結校となる。

2 大学院

(大学院修士課程)

地域研究研究科

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | | 志願者 | | 受験者 | | 合格者 | | 入学者 | |
|--------------|--------|--------|--------|----------------|------|-----------------|------|-----------------|-------|----------------|-----|----------------|
| | | 1年次 | | 50(50) ※ 10 | | 91(106) ※ 40 | | 88(100) ※ 40 | | 56(70) ※ 18 | | 45(63) ※ 15 |
| 学生の進路 (人) | 修了者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | | 研究員 | 進学者 | その他 | | |
| | | | 企業 | 教員 | 大学教員 | 独法等 | 公務員 | | | | | |
| | 66(69) | 27(18) | 20(14) | 4(3) | —(1) | — | 3(1) | 1(—) | 13(2) | 25(49) | | |

() は、前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

- 教育目標全体について：地域研究研究科における教育目標の重点は次の三点である。第一に、学際性の強化である。第二に高度の専門性を有する職業人の育成である。第三に、外国人留学生を多く受入れ、英語による科目開講等、国際化に対応することである。第一、第二の課題についてはカリキュラムの改善・拡充を通して強化ができた。第三の課題については、在学学生の半数近くが留学生になる状況を実現し、多様なニーズに応える努力を払った。特に JICE との協力の下、国際関係論特別コース（英語プログラム）の受け入れを継続し、受け入れ分野を従来の国際関係論のみから、国際関係論、公共政策、教育政策の 3 分野としカリキュラムの充実を行った。本年 10 名の修了者（7 月修了）を出し、14 名の入学者を受入れた。（9 月入学）また今年度発足の国費留学生大学推薦枠英語特別プログラム「中央アジア日本研究者再教育プログラム」（12 月入学）には百名近くの応募者より選抜き国費留学生 6 名、私費留学生 5 名（うちカザフスタン政府奨学 3 名）計 11 名の入学者を受入れた。更に国費留学生大学推薦枠英語特別プログラムの再募集に「中央アジア文化教育スタッフ教育プログラム」開設計画で応募し国費留学生 4 名分（各年度）の枠が認められ、平成 20 年 12 月受入れに向けてプログラム開設の準備が進められている。
- 教育課程の見直し：日本語教育専門家養成を強化するため日本語研究コースの充実、教育スタッフの大幅な増加、日本語教師養成プログラムの修了生増を実現した。国際開発関連の学外機関との連携において JICA 筑波センターとの協力によるインターンシップ科目の拡充を図った。言語文化科目の必修単位数の再検討を行い特殊言語の教育の強化を図った。
- 教育研究指導・教育方法の改善：①インターネット活用の必要性の高まりに応じて、学内サテライトの構成単位としての強化と学内の連携強化を図り、ホームページの充実、コンピューター室の特設や端末機器の整備に努めた。学生のサテライト利用頻度は学内 2 位の実績を残している。②CIS 諸国、ラテンアメリカを中心に交流協定を 10 校増やし、短期留学生の受け入れと学生及び教員の派遣計 15 名の交流の成果をあげた。③コースの副専攻制を導入し、柔軟な教育体制の強化を図った。④外国人非常勤講師の担当科目の多様化を重視し、英語による開設科目 50 科目以上を実現し、質的充実にも努めた。⑤国際関係論特別コース（英語プログラム）、国費留学生大学推薦枠英語特別プログラム「中央アジア日本研究者再教育プログラム」においてインターネットを活用した募集、現地面接試験、渡航前の正規生としての受け入れの入試制度を推進しいずれも成功裡に遂行した。
- 社会との連携：①オケージョナルペーパーシリーズの刊行体制を整え第 3 号を発行した。②地域研究各分野の研究会を 10 回開催した。③中央アジアに関わる大型の国際会議を筑波大学中央アジア連携センターとの協力のもとに 2 度にわたり開催し研究交流に資した。④ホームページの整備を通じて情報の公開に努めた。⑤海外からの来訪者、客員研究員等を招き研究会、協定締結準備を行った。⑥帯広市との協力のもとに英語による留学生プログラムの一環としてウインタースクールを開設し 26 名の留学生の参加をえて成功裡に遂行した。帯広市民との交流の実を挙げる事ができた。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- JICE 等との協力で発足させた国際関係論特別コース（英語プログラム）を専任担当者と固有の科目群、指導体制をもつコースとして確立させている。1 年制プログラムとしての修了者を 10 名送り出し、14 名の入学者を受け入れている。この成果を踏まえて JICE 受け入れ枠は平成 20 年度は 16 名に拡大している。更に本年 12 月の「中央アジア日本研究者再教育国費留学生特別プログラム」の開設についても専任担当者と固有の科目群、指導体制をもつコースとして確立させている。更に平成 20 年 12 月開設予定の英語特別プログラム「中央アジア文化教育スタッフ教育プログラム」についても専任担当者と固有の科目群、指導体制をもつコースとして確立させている。3 つのプログラムはいずれも国内外の競争的環境

の中で設立、遂行されているものであり、国際関係論特別コース（英語プログラム）における JICE 奨学金枠の順調な増加、2つの中央アジア特別プログラムにおける国費留学生大学推薦枠計 10 名分（各年度）の枠の確保、カザフスタン政府奨学金枠の獲得（今年度 3 名分、平成 20 年度 10 名分の見込み）は本研究科のプログラムが外部機関によって高く評価されていることの証左であると考えられる。こうして全体としての留学生数が全学生数の約半数に達している状況を安定的に確保するべく、日本語教育を含む受入れ体制の整備を進めた。また短期留学制度による受入れ・派遣の更なる拡充を目指して受入・派遣留学生数と協定校の増加に努めた。

- (2) 日本語教育分野の強化の取組み：中期計画に記されている日本語教育専門職大学院設立を将来の目標に展望しつつ、留学生センター日本語部門等との協力を強め日本語研究コースの強化を進めた。教育実習制度の確立を行ない、海外協定校におけるインターンシップについての調査と試行を行った。
- (3) 国際開発分野の強化に向けた取組み：国際開発分野への就職を志向する学生のニーズに対応するべく筑波 JICA センターとの協力のもとに国際開発インターンシップ科目の開設等を行なった。国際協力、国際開発分野の非常勤講師の増加を通じてこの分野のカリキュラムの充実を進めた。
- (4) 地域社会との連携活動の取組み：帯広市との協力のもとに英語による留学生プログラムの一環としてウインタースクールを開設し（3 単位分）26 名の留学生に対して現地視察等を含む実地教育を行った。併せて市民向けの講演会、交流会を開催し留学生と帯広市民との交流の実を挙げることができ、今後のインターンシップ、現地調査に向けた布石とすることができた。

3. 自己評価と課題

- (1) 現状の修士課程研究科としての実績は極めて良好な課題達成を実現できたと思われる。入試における志願者が競争的環境の中で若干の減少を見たが、年 2 回入試を行う体制に切り替えることによって定員を上回る合格者の質と数の確保を行った。現在中期計画の進行過程にあり、現状を維持・発展させながら平成 20 年 4 月に博士課程人文社会科学研究科への統合を図る準備が順調に進められた。
- (2) 博士課程人文社会科学研究科と協力し、中期計画に基づく本研究科の改組（現在の修士課程研究科を博士前期課程の国際地域研究専攻に再編すると共に本研究科を主たる基盤とした博士後期課程の専攻、国際日本研究専攻を設置する）に向けて多くの協議を重ね、基本方針通りの改組が達成された。
- (3) 中期計画の中でうたわれている日本語教育専門職大学院設立については当面、人文社会科学研究科前期課程国際地域研究専攻のコースとして位置づける方向で調整を行った。多くの協議が重ねられた。また現状の日本語研究コースのスタッフの拡充、カリキュラムの充実が進められた。
- (4) 改組後の人事配置その他で懸案を抱えたままの移行になり、平成 20 年度に向けて多くの課題が残された。

教育研究科

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | | |
|--------------|--------------|--------|--------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|------|---------|
| | | 1年次 | | 181(171) ※ - | 393(319) ※ 6 | 374(303) ※ 6 | 207(195) ※ 2 | 180(168) ※ 1 | | |
| 学生の進路 (人) | 修了者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | | 研究員 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 大学教員 | 独法等 | 公務員 | | | |
| | 151 (172) | 64(63) | 18(16) | 44(43) | -(-) | -(-) | 2(4) | -(-) | 1(2) | 86(107) |

() は、前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

- (1) 教育研究科の改組・再編の概算要求を行い実現した。
- (2) 教育研究科の改組・再編に伴い、平成 20 年度から特別支援教育専攻を新設し、教科教育専攻に保健体育教育コースと芸術科教育コースを新設した。
- (3) 保健体育教育コースと芸術科教育コースの新設に伴い、新たに教授 1、准教授 1 の配置を実現し、人事を進めた。
- (4) 平成 18 年度教員養成 GP「資質の高い教員養成推進プログラム」採択課題：「高度な専門性と授業力を備えた高等学校教員養成のための授業開発」に関する平成 19 年度の各種取り組みを実施した。全体で 338 頁の報告書を作成した。また、その成果をカリキュラム改善に反映し平成 20 年度から実施することになった。
- (5) 東京地区は、平成 20 年度「生涯発達システム科学専攻」（人間総合科学研究科）の設置を実現した。
- (6) 10 月期入試を実施し、定員充足率の満たないスクールリーダーシップ開発専攻は 2 月期に 2 次募集を行い、新設の特別支援教育専攻、保健体育教育コース、芸術科教育コースは 2 月期入試を実施した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) 平成 19 年度「教育プロジェクト支援経費」に取組名称「大学院における専修免許課程の先導的カリキュラム・モデルの創出」で申請し採択された。この経費 200 万円を活用し、専修免許課程としての教育研究科の授業・カリキュラムの改善を進めるとともに、他大学の非教員養成系の専修免許課程のカリキュラム・制度に関する資料収集を進めた。
- (2) 外国人教員研修留学生プログラムを実施し、第 28 期留学生を受け入れた。
- (3) 学生と教員の懇談会を開催し、親睦を図るとともに学生のニーズを把握し、学生の研究・学習環境の整備を進めた。
- (4) 教育研究科長賞を設けて優秀な学生を顕彰し、学生の学習・研究意欲の増進に努めた。

3. 自己評価と課題

これまでの継続的な取組み・運営の実績以外に、特に高く評価される点は、第一に、近年の懸案であった教育研究科の改組・再編を実現したことである。具体的には、特別支援教育専攻を新設し、教科教育専攻に保健体育教育コースと芸術科教育コースを新設し、教員人事枠 2 を新たに配置するとともに、2 学期入試を実施し、十分な広報の時間を持たなかったにもかかわらず、学生を 8 名確保することができた。第二に、教員養成 GP「高度な専門性と授業力を備えた高等学校教員養成のための授業開発」を研究科を挙げて実施し、貴重な研究・実践成果を挙げることができたことである。第三に、平成 19 年度「教育プロジェクト支援経費」に採択され、研究科の専修免許課程の充実を図ったことである。

課題としては、第一に、新設の専攻及びコースの教育・指導体制の充実を図ることである。第二に、スクールリーダーシップ開発専攻及び特別支援教育専攻の定員充足率が下降気味であるので、定員充足率を高めることである。

体育研究科

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | | |
|--------------|--------------|------------|------------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|-----------------|------------|------------|
| | | 1年次 | | 144(144) ※ - | 274(267) ※ 21 | 268(261) ※ 20 | 164(158) ※ 7 | 160(153) ※ 6 | | |
| 学生の進路 (人) | 修了者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | | 研究員 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 大学教員 | 独法等 | 公務員 | | | |
| | 147 (150) | 80 (52) | 44 (32) | 18 (19) | 13 (-) | 1 (-) | 4 (1) | - (-) | 12 (20) | 55 (78) |

() は、前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 体育研究科の改組再編について

平成 20 年 4 月より、体育研究科は人間総合科学研究科前期博士課程体育学専攻（定員 120 名）ならびに同研究科修士課程スポーツ健康システム・マネジメント専攻（定員 24 名）に改組再編された。それに伴い、教育課程ならびにカリキュラムの改編をはかった。

(2) 保健体育教育コースの新設について

修士課程教育研究科教科教育専攻の中に平成 20 年 4 月より、新たに保健体育教育コースを専任教員 2 名で新設した。新コースの教育課程の編成においては、体育学専攻との連携を配慮しながら進めた。

(3) トップアスリート・セカンドキャリア支援プロジェクトについて

スポーツ健康システム・マネジメント専攻が中心となり、トップアスリートのセカンドキャリア支援教育のためのカリキュラム開発が行われた。本年度はプロジェクトの最終年度（平成 17 年度～19 年度）にあたり、報告書の作成ならびに平成 20 年 3 月 1 日に内外の関係者を招きプロジェクト成果発表会（東京国際フォーラム）を開催した。

(4) 院生のアメニティの向上について

体芸棟の改修工事に伴って大学院生の控え室が整備された。従来の個別研究領域に分かれた部屋の利用ではなく、いくつかの研究領域がグループ化され、共同利用するようになった。以前よりも学生個々が専有できるスペースは少なくなったが、学生間のコミュニケーションが促進され、好い刺激となっているようである。

(5) 推薦入試制度について

平成 18 年度より体育研究科に導入された推薦入試（定員 30 名）は、平成 19 年度に初めての修了生を出した。推薦入試により合格した学生の指導教員（20 名）に対してアンケートを実施し、当該学生の在学中の修学や研究面ならびに推薦入試制度の評価を求めた。その結果、非常に高い評価がなされた。

(6) 修士論文提出について

修士論文に関わる題目提出の手続き、提出方法ならびに最終試験の方法等について検討し、簡略化を図った。本年度の終業年内での修士論文提出率は 78%（昨年：75%）であり、若干の向上をみることができた。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 学生教育における実習・臨床の場の充実について

体育総合実験棟（通称、SPEC）は、学内外の利用者に対して、それぞれの専門性（例えば、スポーツ医学、栄養、心理、バイオメカニクス、コーチング他）から支援活動を行い、関係の学生にとって実習・臨床の場として機能した。

(2) 推薦入試制度の採用について

推薦入試を採用することにより、優秀な志願者の確保ならびに学内進学率を高めた。

(3) 就職支援について

就職支援のための基礎データとして、一昨年より着手されたこれまでの修了学生の名簿整備の作業を引き続き行った。また、修士論文提出時に修了後の進路調査を行い、全員から関連情報の収集を図った。

3. 自己評価と課題

体育研究科を人間総合科学研究科内の 2 つの専攻として改組再編し、また教育研究科内に保健体育教育コースを新設した。このことにより、体育スポーツ系で進学を希望する学部学生は、進路選択の幅を広げることができた。今後は、専攻内の諸規則の見直し、ならびに体育スポーツ系の後期博士課程に位置付く各専攻との連携を検討する必要がある。

引き続き、修士論文提出率の向上、修了後の進路指導、特別実習の履修等を含めた教育研究指導の充実を目指す。

(大学院博士課程)

人文社会科学研究科

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | |
|--------------|--------|--------|-----------|----------------|------------------|------------------|----------------|----------------|-------|
| | | 1年次 | ※ 8 | 77(77) ※ 8 | 165(121) ※ 60 | 162(117) ※ 60 | 91(86) ※ 29 | 81(81) ※ 29 | |
| | 3年次編入学 | ※ - | -(※ - | 31(32) ※ 15 | 29(32) ※ 18 | 15(16) ※ 8 | 13(16) ※ 8 | | |
| 学生の進路 (人) | 修了者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | | 研究員 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 大学教員 | 独法等 | 公務員 | | |
| | 35(40) | 18(12) | 2(-) | 2(8) | 11(-) | 1(-) | 2(4) | 8(9) | 9(19) |

・() は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 教育

- ①各専攻において、研究発表及び論文投稿等を促進した。更に、大学院教育改革支援プログラムの経済的援助のもとに院生の国際学会での研究発表を支援する体制を整備した。
- ②改組後の新専攻カリキュラムとして論文作成指導に関する授業科目を各専攻で構想し整備した。

(2) 研究

- ①教員業績評価作業を機に研究者情報システム (TRIOS) への研究情報等の登録を推進した。
- ②若手教員に厚く教育研究費を配分し、研究科独自にスタートアップ支援を実施するなど、配分システムの改善に努めた。
- ③科学研究費補助金等の競争的研究資金への応募率は 71.8% に達し今年度の目標 (70%) を超えた。
- ④「国際比較日本研究センター」は準備室を設置。比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトの成果を継承し、グローバル COE 獲得の拠点とする等の設置目的を明確化した。
- ⑤グローバル COE プログラム「社会的つながりの公共政策学」及び「サステナビリティ研究」のプレ戦略イニシアティブ応募を支援。社会貢献プログラム「筑波山ルネッサンス」及び日独共同研究「少子高齢社会の家族政策」を支援。競争型外部資金獲得に向けてこれらの研究プログラムを発展させた研究企画を奨励した。
- ⑥博士論文の図書館データベースへの登録促進について研究科運営委員会で申し合わせを行い、各専攻で論文執筆者に登録を呼びかけた。

(3) その他 (国際連携・社会貢献等)

- ①地域研究研究科と協力して中央アジア国際連携センターの運営に参画支援。非常勤研究員 1 名を配置。
- ②「筑波山を中心とする文化資源再生プロジェクト (筑波山ルネッサンス)」を「社会連携推進室」を中心に推進し、北条地区の町おこし活動等を実施。2 月には第 3 回シンポジウムを開催した。
- ③来年度以降の研究科改組に合わせて「世界銀行等大学院奨学金プログラム」を、従来の一専攻内でなく二専攻で共同して運営し、新たな学位を授与する構想を設定した。さらに世界銀行側の要請により次期留学生より 5 名増員して 15 名を受け入れることとなった。

(4) 管理運営

- ①地域研究研究科の前期課程への統合、区分制への移行、新専攻の設置を含む、来年度からの研究科の改組を、設置審の審査、概算要求の認可を経て確定させた。
- ②教員業績評価試行 WG を結成し、研究科としての評価基準等を定め、教員業績評価の試行を実施した。
- ③人文社会系 5 学系の整理・統合については、学系の在り方についての方針が策定されるまで実施を見合わせる事となった。
- ④改組に応じた事務支援体制を整備した。
- ⑤教員人事管理のあり方は改組に応じて来年度以降具体化する予定である。
- ⑥外国語センター、留学生センターとの協力関係のあり方の再考も来年度以降具体的な検討を行うこととなった。
- ⑦研究科の改組等に伴う課題の発生に応じて支援事務体制を見直し、事務処理の効率化・簡素化を図った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1)平成 20 年度における改組・再編に取り組んだ。新専攻準備委員会を結成し、現行の研究科運営委員会と協力しつつ改組の構想を練り、区分制と 5 年一貫制の並存、国際日本研究専攻の新設、地域研究研究科の統合、研究指導・論文指導の授業科目化、等、大学院教育の実質化に応えたユニークな新研究科への改組・再編を確定した。
- (2)学習者主体の専攻横断型教育のアイデアを「新領域開拓のための人社系異分野融合型教育」として大学院教育改革プログラムに応募、認可を受け、研究科内に「インターファカルティ教育研究イニシアティブ (IFERI)」機構を立ち上げた。
- (3)「国際比較日本研究センター準備室」を設置し、既存の「社会連携推進室」と共に既存の特プロの成果

を継承し、新たな国際比較研究プロジェクトの拠点を整備した。

3. 自己評価と課題

- (1) 平成 20 年度以降の研究科の改組・再編案の立案と実施に向けての準備をほぼ予定どおり完了したのは評価すべき点である。今後は、改組・再編された研究科で充実した教育研究活動を円滑に実施することが課題となる。具体的には次のような活動を課題とする。
 - ①改組・再編の理念に応じた教育活動の実施
 - ②研究科及び専攻の運営に関する諸規則の整備
 - ③研究室、ゼミ室、専攻事務室等の諸施設の再配置による整備
- (2) 「インターファカルティ教育研究イニシアティブ (IFERI)」や「社会連携推進室」等の新たな戦略的教育研究機構を整備できたことも評価すべき点であるが、外部資金獲得の面ではいまだ不十分でもあるので、教育研究プロジェクト等の企画を奨励し、より重点的・戦略的な教育研究体制を構築することが課題である。

ビジネス科学研究科

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | |
|--------------|------------------|------|---------------|-----------------|-----------------|---------------|---------------|------|---------|
| | 1年次 (博士前期課程) | | 60(60) ※ - | 204(167) ※ - | 198(162) ※ - | 71(67) ※ - | 64(60) ※ - | | |
| | 1年次 (博士後期課程) | | 23(23) ※ - | 70(77) ※ - | 66(73) ※ - | 29(25) ※ - | 26(24) ※ - | | |
| | 1年次 (専門職学位課程) | | 70(70) ※ - | 541(509) ※ - | 126(139) ※ - | 78(82) ※ - | 69(73) ※ - | | |
| | 3年次編入学 | | (-) ※ - | (-) ※ - | (-) ※ - | (-) ※ - | () ※ - | | |
| 学生の進路 (人) | 修了者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | | 研究員 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 大学教員 | 独法等 | 公務員 | | |
| | 120(71) | -(-) | -(-) | -(-) | -(-) | -(-) | -(-) | -(-) | 120(71) |

・() は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 平成19年度筑波大学年度計画の達成状況

- ① 社会人を対象とする専ら夜間に教育を行う法科大学院(法曹専攻)は、18年度に続き19年度入試志願倍率も11.8倍と、法曹を目指す者達から高い支持を得ている。
- ② 平成17年4月に設置された国際経営プロフェッショナル専攻(専門職大学院)は、平成19年4月に設置審査の要件を満たし、完成年度を迎えることができ、受験者数も安定的に増えてきている。
- ③ ビジネス科学研究科FD委員会を設置するとともに、各専攻においてFDを実施した。特に、国際経営プロフェッショナル専攻では教員10名が5日間にわたり、カナダ・ウェスタンオンタリオ大学において、「ケース・スタディーメソッド」教授法研修を受けた。また、引き続き東京キャンパス全体で授業アンケートを実施した。さらに、昨年と同様に、夜間社会人大学院生の意向調査の実施、教職員と大学院生との懇談会の開催など、学生ニーズの把握と運営改善への反映に努めた。
- ④ 大学研究センターにおいては、外部資金等を獲得し、イノベーション論及び経営学の視点に立った研究プロジェクト4件を開始した。また、大学経営分野に関する教育研究体制を再検討し、今後のあるべき姿を報告書に取りまとめた。報告書の趣旨に沿って教育研究プログラムの整備を図った。
- ⑤ 国公立大学等との連携・支援に関する具体的方策として、SCSを利用した合同授業「トップレクチャー」を企画、実施し、小樽商科大学、京都大学、大阪大学、琉球大学、筑波大学本校に配信した。
- ⑥ 社会への情報発信の一環として、ホームページの作成更新の他、新聞・雑誌等による情報発信、社会に開かれた大学院展への出展(Web参加)、大学院説明会・オープンキャンパス・公開講座・公開研究会の実施を推進した。

(2) 平成19年度研究科重点施策の達成状況

研究科の特色を活かした教育研究機能の強化を図るため、以下の施策を実施した。

① 教育

- ・ 社会人のための博士後期課程早期修了プログラムを実施し、当該プログラムに受け入れた2名は、平成20年3月に学位を取得し、修了した。
- ・ 国際経営プロフェッショナル専攻で採択された「教育プロジェクト支援経費」において、海外ビジネススクール等の教員3名(英国、米国、台湾)、および米国人実業家を招聘した講演会及び本学教員による海外大学でのFD講演会を実施し、「海外ビジネススクールとの教員交流を通じた教授法開発」に繋がった。
- ・ 研究発表や研究論文の出版等を成績対象として重視した。
- ・ 企業科学分野、経営システム科学分野において4プログラム制を実施した。
- ・ 企業法学専攻においては、今後更に拡大が見込まれる税法の履修希望者に対応すべく、20年度から既存の4履修コースに加え「税法コース」を新設するとともに、関連する授業科目の拡充を図った。

② 研究

- ・ 基礎研究や新たな研究領域の創出に繋がる研究を支援するため、研究科内プロジェクト経費を増額したところ、複数組織にまたがる研究プロジェクトとして3件の応募があるなど前年を上回る申請があり、厳正な審査の上、研究助成を行った。
- ・ ドイツ連邦共和国ルートヴィヒ・マクシミリアン・ミュンヘン大学と学生交流に関する部局間協定を締結した。

③ その他(社会貢献、管理運営等)

- ・ 東京キャンパスが持つ資源の有効活用を図るため、新たに秋葉原ダイビルに産学官連携支援、就職活動支援及び受験・進学情報支援の機能を位置付けることとし、20年1月にビジネス科学等支援室(秋葉原地区)に東京リエゾン係が設置された。
- ・ 公開講座・公開研究会等の実施、社会への情報発信、大学運営への協力などを行った。

- ・東京税理士会から補佐人認定研修として、科目等履修生 29 名を受け入れた。
- ・ビジネス科学等支援室の大塚地区と秋葉原地区における会計事務を一元化（大塚地区）した。また、定期的に連絡会を開催して大塚地区と秋葉原地区との円滑なコミュニケーションに努めた。
- ・ビジネス科学等支援室における総務系の事務室と会計系の事務室を統合し、業務の円滑化を図った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

①教育

特別教育研究経費(教育改革経費)「筑波エグゼクティブ・ディベロップメント・プログラム開発事業プロジェクト」を受託し、教材開発を行った。当該プロジェクトの第3年度として、ジュニアプログラムの教材開発を一段と進め、開発した教材の試行、レビュー、改善を重点的に行った。

②研究

- ・科研費の申請率の向上、特に基盤研究(A)などの大型研究の申請率の向上に努めた結果、新規の申請件数は前年度に比べて3倍となった。
- ・各種財団等の助成事業の申請に努めた結果、合わせて4件・約600万円が採択され、寄附金として受け入れを行った。

③その他(社会貢献、管理運営等)

大学研究センターにおいては、研究成果の社会還元の一環として、大学職員の職務遂行能力アップを目指した大学研究センター主催の短期集中公開研究会(年2回、2回目から大学マネジメントセミナーに名称変更)、大学マネジメントワークショップ(年1回)、大学マネジメント事例研究(年1回、本年度新設)を開催した。

3. 自己評価と課題

- (1) 研究科内専攻及び支援室が離れた両地区(大塚地区、秋葉原地区)に跨ることで生じる事務量と困難の増大にも拘わらず、教職員の創意工夫で乗り切ることができた。
- (2) 平成19年度大学院教育改革支援プログラム及び専門職大学院等教育推進プログラムに応募したが、いずれも採択に至らなかった。組織的取組みを強化し、外部資金を獲得することが今後の課題である。
- (3) 教員の研究面では個人研究が中心であり、組織的展開が弱い面があった。筑波地区体育科学系の教員と共同で申請した大型学内プロジェクトAの採択を機会に今後も、分野横断的な組織的研究を支援していく必要がある。
- (4) 募集要項のWeb化等により、各専攻の志願者増に繋がった。この傾向を維持することが次年度以降の課題である。

数理工学物質科学研究科

| | | | | | | | | | | |
|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------|------------|------------|------------|
| 学生の確保 (人) | 年次 | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | | | |
| | 1年次 (博士前期課程) | 240(240) ※ 4 | 395(376) ※ 8 | 367(356) ※ 8 | 314(292) ※ 6 | 267(243) ※ 4 | | | | |
| | 3年次編入学 | —(—) | —(—) | —(—) | —(—) | —(—) | | | | |
| | 1年次 (博士後期課程) | 95 | 76 ※ 8 | 73 ※ 8 | 72 ※ 7 | 72 ※ 7 | | | | |
| | 3年制博士課程 | 6(6) | 17(5) ※ 12 | 16(5) ※ 11 | 12(5) ※ 8 | 11(5) ※ 7 | | | | |
| 学生の進路 (人) | 修了者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | | 研究員 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 大学教員 | 独法等 | 公務員 | | | |
| | 307 (302) | 215 (225) | 201 (208) | 6 (9) | — (—) | 5 (—) | 3 (8) | 26 (17) | 37 (47) | 29 (13) |

・() は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 教育

- ①学類教育支援経費の実施、カリキュラム改善、FD活動等を推進し、部局評価の準備を進めた。
- ②前期課程：TOEICなどの利用開始、広報推進など、充足率の向上を図った。
- ③後期課程：早期修了制度、RA、TAの充実等、充足率改善策を実施した。
- ④宇宙史一貫教育プログラムの導入等、教育研究域の拡大充実を図った。

(2) 研究

- ①3大学連携事業推進、宇宙史一貫教育プログラム事業による国際連携の推進、G-COE準備等、国内外の教育研究機関との連携の推進を図った。科研費・外部資金獲得状況はおおむね順調に推移した。
- ②物質・材料工学専攻教員増等、教育研究態勢整備を推進した。
- ③教員業績評価の試行を行った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 教育・研究

- ①研究科修了生によるオムニバス講座を開設し、研究科RA制度の下に後期課程学生に研究支援し、研究科プロジェクト研究員制度を着実に運用した。
- ②中期目標期間の評価における学部・研究科等の現況調査表を作成した。
- ③協定による客員研究員制度を設け、外部機関との研究協力態勢の強化を推進した。
- ④女性教員の採用増を図った。
- ⑤ヒトを対象とする研究の倫理に関する内規を作成した。
- ⑥安全衛生管理を徹底するために、化学物質を取扱う研究室の教職員、学生を対象に「化学物質取扱者のための安全衛生講習会」を異なる講習内容で4月と11月の2回実施した。また、研究科の全ての実験室に常備することを目的とした安全衛生管理マニュアル（化学実験編、物理実験編）を作成した。

(2) 大学運営

- ①副研究科長の役割分担を再確認し、教育研究企画、管理運営等の中核的業務の充実を図った。
- ②テニユアトラック制の規則等を整備し、運用を開始した。
- ③電子掲示板システムをさらに充実させ、事務支援態勢の充実を図った。

3. 自己評価と課題

- (1) 教員の業績評価方法、評価体制等について更に検討する必要がある。
- (2) 研究科RA制度の導入は多額の資金を要し、その確保は今後の課題である。
- (3) 物質創成先端科学専攻の一層の充実計画を更に進める必要がある。
- (4) 概算要求、G-COE、外部資金応募などに係る支援体制を一層充実させる必要がある。
- (5) 学際物質科学研究センター建屋は未整備に留まった。
- (6) 後期課程の充足率改善のための1つの方策として優秀な留学生の確保が課題である。
- (7) 物件費は運営費交付金(教育研究経費)が減じる一方で、外部資金は増大し、前者の割合は30%以下である。後者、特に大型資金は一部の研究者に偏在している。基盤的研究を支える方策の検討が必要である。

システム情報工学研究科

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | | 志願者 | | 受験者 | | 合格者 | | 入学者 | |
|--------------|-----------------|--------------|--------------|----------|----------|----------|----------|-----------|------------|------------|----------|--|
| | 1年次 (博士前期課程) | | 361(361) | | 518(436) | | 500(420) | | 455(377) | | 397(328) | |
| | 1年次 (博士後期課程) | | 106(106) | | 72(61) | | 71(61) | | 66(5) | | 64(55) | |
| 学生の進路 (人) | 修了者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | | 研究員 | 進学者 | その他 | | |
| | | | 企業 | 教員 | 大学教員 | 独法等 | 公務員 | | | | | |
| | 363 (336) | 283 (270) | 272 (260) | 1 (4) | 1 (-) | 3 (-) | 6 (6) | 7 (13) | 29 (23) | 44 (30) | | |

・※は外国人留学生を内数で示す。

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 大学院教育、教育課程

- ① 数理工学科学研究科およびビジネス科学研究科と連携しつつ、平成19年度から3ヵ年計画で特別教育研究経費「社会人のための博士学位早期取得教育プログラムの確立」(平成19～21年度)を実施した。平成19年度は研究科に「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」第1期生として履修生10名を迎え、そのうち8名が1年間で博士号を取得した。また、平成20年度に予定している外部評価についての準備を進めた。関連して、先導的・大学改革推進委託事業「博士課程「短期在学コース」の創設に係わる課題等に関する調査研究」(平成18～19年度)を実施した。
- ② 先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム「高度IT人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラム」(実施年度平成18～21年度)を着実に実施し、国内における強力な高度IT人材育成拠点としての実績を積み上げた。日本経団連を窓口して産業界13社との連携を着実に推進した。また、電気通信大学及び東京理科大学と大学間連携を実施した。IT専門職大学院創設の環境条件の整備を行った。

(2) 国際交流

- ① 浙江大学、北京航空航天大学との大学間協定、部局間協定の締結を推進した。
- ② 中国政府国家建設高水準大学公派研究生項目プロジェクトに対応した入試実施体制の整備を進めた。

(3) 公募型教育プログラム、教育改善

公募型教育プロジェクトへの応募を奨励した。プロジェクトを獲得した場合、プロジェクトを実施しやすくするように研究科として学内負担分などの一部について、資金的な支援を行った。

- ① 公募型教育プログラムとして、新たにサービス・イノベーション人材育成推進プログラム「顧客志向ビジネス・イノベーションのためのサービス科学」(平成19～21年度)、大学院教育改革支援プログラム「達成度評価システムによる大学院教育実質化」(平成19～21年度)が採択され、それらを実施した。
- ② 魅力ある大学院教育イニシアティブ「実践IT力を備えた高度情報学人材育成」プログラム(実施年度平成18～19年度)、特色ある大学教育支援プログラム「プロジェクト実習による高度専門技術者養成」(実施年度平成18～20年度)を引き続き実施した。
- ③ 派遣型高度人材育成協同プラン「実システム開発指向高度人材育成プログラム」(実施年度平成17～21年度、北大他7大学の共同プロジェクト)を引き続き実施した。

(4) 社会との連携、産官学連携

- ① 国土技術政策総合研究所との共同研究を実施した。
- ② 三菱地所、建築研究所等と連携協定を締結し、公共政策分野の実践教育の充実を図った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 部局運営

- ① 研究科としては、専攻の独自性を尊重した運営を継続するとともに、スリムな研究科をめざした。研究科の共通予算についてもスリム化を図り、各専攻への予算配分を機械的に行うようにした。
- ② 研究科の運営委員会を毎月2回開催とし(従来は毎月1回開催)、部局内での情報伝達や意思決定のスピードアップを図った。
- ③ 研究科の各種委員会を整理統合するとともに、新たに、「学務・カリキュラム委員会」「博士早期修了プログラム実施委員会」「教員評価委員会」「研究倫理委員会」を新設した。

(2) 広報

- ① 研究科ホームページのリニューアルを行い、ホームページの内容の充実を図った。
- ② 研究科のパンフレットを始めとし、社会人向けのリーフレット、各種入試案内リーフレット等、様々なパンフレット、リーフレット、ポスターを作成し、配布した。
- ③ 博士後期課程の早期修了プログラムのホームページを立ち上げた。また、博士後期課程の早期修了プログラム履修希望者用にリーフレットを作成し、配布した。
- ④ 専攻レベルで「専攻公開」や一般向けの講演会等を積極的に複数回実施し、学内外への広報に努めた。
- ⑤ 高等専門学校専攻科の学生を一定期間にわたり各教員の研究室に受け入れる「研究室体験」を実施した。
- ⑥ 複数専攻において、専攻パンフレットを発行した。

- ⑦研究科や専攻の Web ページの日本語版、英語版の充実に努めた。
- (3) グローバル COE プログラム、戦略イニシアティブ
- ①グローバル COE プログラム「サイバニクス：人・機械・情報系の融合複合」（平成 19～23 年度）が採択され、また同拠点が戦略イニシアティブ（S）としても採択された。これに伴い、教員、研究員を公募するとともに本プログラムで特色ある講義「サイバニクスチュートリアルスタディ」「サイバニクスインターンシップ」を開始した。
- ②プレ戦略イニシアティブ「地球以遠への発展を目指す宇宙開発技術」を実施した。
- ③プレ戦略イニシアティブ「総合的都市再生学知の創出拠点」を実施し、グローバル COE の申請を行ったが結果は残念ながら不採択であった。
- (4) 基盤教育研究費の傾斜配分
研究における教員のグループ化促進および研究活動の活性化のため、基盤教育研究費の重点配分を引き続き実施した。基盤教育研究費の重点配分は、個人配分およびグループ配分からなり、個人配分は外部資金の申請/獲得実績に基づいて基盤教育研究費の一部を傾斜配分した。また、グループ配分は、教員グループの評価により、研究グループのリーダーに配分した。
- (5) 大型研究プロジェクトの奨励
- ①研究科や専攻において大型研究プロジェクトへの応募を奨励し、研究支援体制の整備、拡充を図った。
- ②科学技術振興調整費「高セキュリティ機能を実現する次世代 OS 環境の開発」、NEDO「自立動作支援ロボット及び実用化技術の開発」、NEDO「Pairing Lite の研究開発」、SCOPE「アドホックユビキタス通信環境向きデータ駆動ネットワークキングプロセッサの研究開発」、SCOPE「視覚情報に基づく人間とロボットの対面およびネットワークコミュニケーション」等の大型外部研究資金等を得て、社会的にもインパクトの大きな研究プロジェクトを複数実施した。
- (6) その他
- ①支援室における大学院生の支援体制の一層の充実に努めた。研究科 Web における「学生用のページ」の利便性の向上を図り、休講等の授業関係、論文関係情報、奨学金関係等、履修上また学生生活上必要な情報を公開扱いとした。
- ②研究科で、関連専攻長および関連学類長の推薦に基づき、教員 11 名を「教育貢献賞」として表彰した。
- ③情報分野で国内最大級の学会を本学に誘致し、過去最多の発表件数を記録する等、情報分野の学術振興に貢献した。また、これに連動して研究科の情報分野の教育研究活動に関する情報発信を積極的に行った。
- ④学群教育との一貫性を推進した。学群との連携を強化し、平成 19 年度から学群在学中の学生が、科目等履修生として博士前期課程の授業科目を受講し得るようになった。
- ⑤教員の職務の級の弾力化を実施した。

3. 自己評価と課題

(1) 部局運営

国立大学法人化以降、部局としての研究科の役割は増大しており、各種の改革についてスピード感を持ち実行する必要がある。こうした状況においては複線的で重層的な管理体制はマイナスに働く。したがって法人化に当たって研究科を中心とした管理体制を構築したことはまことに適切であった。また、人事・予算・施設の管理という点では、専攻レベルの管理だけでなく、より大局的な見地からの対応が求められている。

平成 19 年度に新設した研究科の委員会、すなわち「学務・カリキュラム委員会」、「博士早期修了プログラム実施委員会」、「教員評価委員会」、「研究倫理委員会」などもこれらの必要に迫られて設置したものである。また平成 20 年度には、さらに「戦略企画室」、「施設委員会」を新設する予定である。

部局運営という点では、当初スリムな組織を目指したが、スリム化という観点だけでは立ち行かないことが分かった。ただし、組織は対策を講じないとどんどん肥大化するので、組織の簡素化、効率化への不断の努力が必要であろう。

(2) 広報

博士前期課程については、研究科各専攻への志願者が、他大学からの受験者などにより、前年度と比べ大幅に増加した。また、博士後期課程の早期修了プログラムについても、ほぼ前年度と同様の志願者を集めることができた。こうした事実は Web での広報を中心とする研究科の広報が成功していることを示しているように思われる。

(3) 公募型教育プログラム、教育改善

公募型教育プロジェクトの採択では大きな成果を挙げた。これらは、研究科における「専攻を主体とする運営」により、研究科内で「専攻が競い合う」ことにより、専攻レベルでの企画能力が高まっていることを示している。今後は採択されたプログラムを活用し、研究科における継続的な教育改善に結び付けたい。

(4) グローバル COE プログラム、研究推進

学内で唯一のグローバル COE プログラムである「サイバニクス：人・機械・情報系の融合複合」（平成 19～23 年度）を獲得できたのは研究科や大学全体にとって大きな成果である。今後、研究科としてもグローバル COE プログラムの推進のために最大限の支援をしていきたい。また、研究科において、大型研究プ

プロジェクトの採択が相次いだ。これらのプロジェクトの支援も積極的に行いたい。

研究推進に当たっては、戦略イニシアティブ、TARA センター、ベンチャービジネスラボ、ILC など関連組織との連携が不可欠である、研究プロジェクトであっても人材育成、教育プログラム等について問われることが多くなっている。どうしたら関連組織との一体化した施策を展開できるかが課題である。

(5) 博士後期課程の定員充足

残念ながら博士後期課程については、志願者が入学定員を下回っているのが現状である。原因については様々なことが考えられるが、今後、前期課程からの進学者を増やすための施策や後期課程学生への学費補助等、様々な対策を考えたい。

(6) 教員配置について

教員流動化を実施した。また教員の職務の級の弾力化についても、研究科に内規や申し合わせを作り、実施した。

専攻間の教員配置の偏りの緩和についても検討を行ったが、総人件費縮減策の一環であるいわゆる「実員上限枠の設定」によって、実施には至らなかった。

生命環境科学研究科

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | | |
|--------------|-----------------|--------------|---------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------|------------|------------|
| | 1年次 (5年一貫制) | | 42(42) ※ 5 | 56(73) ※ 5 | 55(68) ※ 5 | 48(62) ※ 3 | 43(58) ※ 3 | | | |
| | 3年次編入学 | | 6(—) | 5(16) ※ 1 | 5(16) ※ 1 | 5(14) ※ 1 | 5(13) ※ 1 | | | |
| | 1年次 (博士前期課程) | | 155(240) | 195(376) ※ 11 | 191(356) ※ 11 | 187(292) ※ 11 | 174(243) ※ 11 | | | |
| | 1年次 (博士後期課程) | | 113(101) | 102(63) ※ 32 | 98(63) ※ 32 | 96(62) ※ 31 | 94(59) ※ 31 | | | |
| | 3年制博士課程 | | —(—) | 8(7) ※ 5 | 8(7) ※ 5 | 7(7) ※ 5 | 7(7) ※ 5 | | | |
| 学生の進路 (人) | 修了者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | | 研究員 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 大学教員 | 独法等 | 公務員 | | | |
| | 229 (256) | 116 (149) | 88 (124) | 4 (6) | 4 (—) | 12 (—) | 8 (19) | 26 (28) | 37 (37) | 50 (42) |

・() は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 教育

- ①国際研修生、特別枠国費留学生の受入などにより研究者養成とともに高度職業人の育成を行った。海外協定校との共通カリキュラムの開発については協議・検討した。
- ②5年一貫制博士課程である地球環境科学専攻と地球進化科学専攻を前後期制博士課程へ改組し、前期課程として地球科学専攻を設立した。また、独立修士課程の環境科学研究科を前期課程として編入し、後期課程として持続環境学専攻を立ち上げた。これらにより、中期目標に掲げた研究科の教育・研究体制をほぼ確立できた。
- ③研究科、各専攻のホームページの充実、英文化を行ない、シラバスも作成した。また、専攻説明会を複数回実施するなど広報活動を活発に行い、充足率の改善などもみられた。
- ④海外協定機関(全学22、部局間25)、UNESCOなどとの国際協力協定や二国間協力事業(フランス、インドネシア、チュニジアなど)等に基づき、若手研究者、大学院生の派遣・交流を促進することができた。北京の6大学・1研究所とのプレスチューデントフォーラムを開催し、9名の院生を派遣し、学術交流を促進した。
- ⑤サイエンスコミュニケーション及び研究倫理に関する教育を研究科共通科目(13科目)として充実させるとともに、各専攻においても英語によるプレゼンテーションなどの教科(8科目)も開講した。
- ⑥教育・研究機関、官庁、民間企業等のインターンシップを推進し、一部単位化するとともに、キャリアデザインルームによるキャリアパスなどの個別カウンセリング体制を構築した。
- ⑦各専攻で教員・学生懇談会を開催するとともに、学生委員を設置し、学生からの意見、要望、苦情などの窓口とした。修了生からの評価を得るシステムについては、検討段階である。
- ⑧連携大学院について、連携先、分野の見直しなどを行い、改善した。

(2) 研究

- ①19年度の科学研究費の獲得は136件(うち継続83件)、517,755千円であり、その他の競争的外部資金の獲得件数、金額ともある程度の水準を達成したが、さらなる獲得に向け、戦略室を中心に研究科内での横断的研究課題の発掘、研究者グループの形成により、大型の研究資金への申請態勢を整えた。関連センターはそれぞれの特徴を活かし、国内外の各種プロジェクトを獲得・実施し、高い活性を示した。研究学園都市・関連機関との連携、共同研究などは専攻単位で行っていたが、つくば3Eフォーラムなどで研究科として包括的な態勢を整えつつある。
- ②研究科の施設・設備の導入・管理のマスタープランに基づき、計画的に学内、研究科内の資金の充当、外部資金への申請を行い、整備を進めるとともに、共同利用化など管理体制の効率化を図ることができてきている。
- ③茨城県やつくば市などとの連携を中心に各種事業、公開講座などにより研究成果の社会還元を積極的に行った。

(3) その他(社会貢献・管理運営)

- ①全専攻でテニヤ・トラック制を導入し、優秀な若手研究者の獲得を目指している。とくに科学技術振興調整費「若手研究者の自立的支援」プロジェクトにより、7名を採用した。
- ②国際生物オリンピック、2009年つくば大会の開催に向けて準備を行っている。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- ①研究科の構成主体となっているフィールド科学を推進するため、関連5センターの活用を含めて、国内外における野外実習・調査を取り入れている。

- ②新たに設置した「企画運営室」を中心に、下部に戦略室を設け、広報、学生支援、同窓会ネットワーク、概算要求、各種競争資金、国際連携事業、地域連携事業の各担当を置き、とくにこれまで教員個人が取り組んできた国際連携や社会貢献を研究科として取り組む体制を構築し、成果が得られ始めている。
- ③キャリアデザインルームにおいて、公認のカウンセラーによるキャリアパスなどの個別カウンセリングを行っており、他の研究科院生、学類生も含め多くの相談を受けた。

3. 自己評価と課題

平成19年度までに計画していた教育・研究・その他(社会貢献・管理運営)については概ね達成できたと評価している。FD活動、評価体制などについては、今後も継続して改善する必要がある。

人間総合科学研究科

| | 年次 | | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | | | |
|-----------------|--------------|----------------|------------------|-----------------|-------------------|------------------|------------------|----------|-----------|------------|--------|
| | 学生の確保 (人) | 1年次 (5年一貫制) | ※ 14 | 155(165) | ※ 38 | 244(225) | ※ 36 | 237(216) | ※ 21 | 165(147) | ※ 21 |
| 3年次編入学 | | ※ - | -(-) | ※ 12 | 56(59) | ※ 10 | 53(55) | ※ 4 | 38(46) | ※ 4 | 38(45) |
| 1年次 (博士前期課程) | | | 75 | ※ 8 | 150 | ※ 8 | 144 | ※ 3 | 119 | ※ 2 | 99 |
| 1年次 (博士後期課程) | | | 10 | ※ 7 | 21 | ※ 6 | 20 | ※ 5 | 12 | ※ 5 | 12 |
| 3年制博士課程 | | | 13(13) | ※ 5 | 23(39) | ※ 5 | 21(21) | ※ 3 | 15(15) | ※ 3 | 15(15) |
| 学生の進路 (人) | | 修了者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | | 研究員 | 進学者 | その他 |
| | 179 (128) | 104 (59) | 企業 62 (26) | 教員 - (21) | 大学教員 22 (-) | 独法等 13 (-) | 公務員 7 (12) | (43) | 18 (1) | 21 (25) | |

・() は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

人間総合科学研究科では、平成 19 年度の教育研究の基本方針として次の 3 つを掲げた。

- ①教育研究活動の一層の活性化を図り、各専攻及び分野における最先端の教育研究拠点の整備をさらに進める。
- ②世界水準の独創性の高い先端研究を積極的に展開し、グローバル COE プログラム等へ果敢に挑戦するとともに、世界に向かって研究成果の情報発信をさらに進める。
- ③大学院教育の実質化を推進し、各専攻において自己点検・評価を行うとともに、すべての教員の資質・能力の向上を図る FD 活動を展開する。

これらのうち①については、芸術専攻の前期・後期区分制の実現とともに、20 年度概算要求事項として組織整備計画を策定し、修士研究科の組入れを含む区分制への全面的移行を実現させた。また②については、本学のプレ戦略イニシアティブに応募し、そのうち 2 件はグローバル COE 申請候補となった。③については、大学院教育の実質化に向けた規程を整備するとともに、外部講師等を招聘しつつ研究科全体の FD 研修会を 5 回開催した。以上により、上記の基本方針は確実に実行されたといえる。

次に、研究科の年度計画に掲げた重点施策について、「教育」面における達成状況は以下のとおりである。

- ①学問分野の特性や養成する人材に対応した多様な課程・専攻編制による研究科の整備をさらに推進し、新領域・新分野の創生を含む柔軟で弾力的な組織編制の実現を図る。

これについては、「ディシプリンの再生」を改革理念とし、体育研究科及び教育研究科の一部を前期課程に組入れ、「広さ」と「深さ」を基調に従来の 5 年一貫制から前期課程と後期課程の区分制への全面的移行を図るとともに、新たに生涯発達科学分野や医学専攻の新分野創生を企てた。計画目標は期待を上回り達成できた。

- ②入試方法の多様化、カリキュラムの充実、学習指導法の改善、適切な成績評価等の開発を図るとともに、研究指導体制や学位論文審査体制の整備等により、課程制大学院の実質化に向けた質と量の両面における一層の向上・充実に努める。

これについては、改組再編による教育課程の見直しをはじめ、大学院教育の実質化に対応して研究科及び各専攻において養成する人材育成を具体的に明文化するとともに、アドミッション・ポリシーの明確化、FD 規程の整備、成績評価基準の明示、ダブルメジャープログラムの策定などを行った。また、研究科の理念・使命を明確にするために、「人間総合科学研究科の憲章」を制定した。計画目標は順調に達成された。

- ③大学院学生の国内外における研究成果発表や海外研究活動等をさらに奨励するとともに、優秀論文や顕著な業績等に対する顕彰を積極的に推進する。

これについては、多くの専攻・学系等において、国際会議等の開催をはじめ独自の取り組みとして研究誌の発行や作品展の企画等を実施しているほか、優秀な最終論文または学術論文を顕彰するため専攻長賞等を設け、授与している。研究科全体としても、昨年度に続いて優秀な学生に対する「研究科長賞」を授与した。計画目標は順調に達成された。

- ④学内外の博士研究員支援制度や RA 等を積極的に活用し、将来の中核的な人材の育成を一層推進する。これについては、日本学術振興会特別研究員、学内の博士特別研究員及び RA は複数の者が採用されている。TA や RA により教育経験を積む一方で、スポーツイベントにおける指導経験や美術制作等を通じて専門的な能力を高めた。医学系でも、実行力のある中間評価により進級が適切に行われ、高い率の学位取得へと結び付けた。計画目標は順調に達成された。

他方、「研究」面における重点施策及びその達成状況は、次のとおりである。

- ①グローバル COE プログラムをはじめ世界レベルの研究拠点の整備を進め、独創性の高い先端研究や横断的な共同研究を積極的に展開し、世界に向かって研究成果の情報発信を促進する。

これについては、21世紀COE「こころを解明する感性科学の推進」(平成15～19年度)が完成年度を迎え、中間評価ではB評価となり、先端的研究の充実と学際・融合研究の向上が認められた。また、学内のプレ戦略イニシアティブでは、医学系と、体育・芸術・学際系の2件のグローバルCOEへの申請が採択されたほか、教員研修・研修研究分野(人間系)と世界文化遺産分野(芸術系)及び次世代医療研究開発・教育統合センターのプロジェクト3件が採択された。

さらには、「理論系と制作系の共同研究:江戸前期の湯島聖堂に関する復元的研究」は、芸術理論研究者と美術制作系研究者との共同作業による研究活動状況を示すものであり、芸術学系内の学際的協力という新しい研究体制の構築として特筆できるものである。

②学内研究資金の効率的な配分システムを構築し、組織的な研究基盤の整備とともに、新任や若手の教員による萌芽的研究の一層の推進を図る。

これについては、研究費や学内プロジェクト資金の重点的配分を行うとともに、副研究科長(3名)、研究科長補佐(2名)及び広報委員会委員長に自由裁量費を設け、研究基盤の整備を図った。また、若手教員に対する学術奨励賞を研究科及び専攻レベルで拡充し、研究へのインセンティブを強化したことにより、大学院生の研究論文数や学会発表数、受賞件数の増加につながった。

③大型研究資金を含む科学研究費等の外部資金の一層の獲得に努めるとともに、産学連携研究の推進のための基盤整備を一層進める。

これについては、産学連携研究の推進を図り、新たな寄附講座の設置を通して長寿医学に関する新しい研究領域を創生し、さらに本学初の寄附研究部門(不整脈)の新設など、産学連携研究の一層の推進が図られた。

このほか、教員評価制度の確立に向けた評価体制の整備、テニユア・トラック制や級の弾力化の導入など人事制度の整備、大学院教育の実質化に向けた諸規程等の整備を積極的に図った。また、総合研究棟Dや体育総合実験棟(SPEC)の活用による地域住民の健康・スポーツ・芸術活動の支援や県内・市内の小中高校16校との研究協力校協定の締結(体育科学系)、次世代医療研究開発・教育統合センターにおける寄附教育講座による地域医療の充実、さらには教育開発国際協力研究センターによる国際教育研究活動、生命科学動物資源センターにおける遺伝子改変マウス及びマウスES細胞の開発・提供、動物実験の適正化に関する普及活動など、地域貢献や社会(国際)貢献も順調に行われた。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 教育

①学校教育学専攻「課程博士授与率の向上」

平成17・18年度の課程博士の授与率は0%であったが、3～4年生を対象に「投稿形式論文発表会I・II」を開催したほか、5年生全員に個別の研究指導委員会を設置して集団指導体制で随時学習を促進してきた効果があつて、本年度は3名の博士授与となった。

②医学系「教育方法と教育環境改善」

平成17・18年度に文部科学省の「魅力ある大学院教育」イニシアティブ教育プログラム(医療系)において採択された「世界基準を体感する武者修行応援プログラム」を基盤に、大学院生の国際活動(国際派遣、招聘国際セミナー、海外医学教育など)を単位化した「国際実践医学研究特論」と医学を学ぶ大学院生に最先端技術の基礎と実践を教育する「最先端医学研究セミナー」及びこれらの基礎科目である6つの「概論」科目を開設し、プログラム終了後も継続して教育の充実を図った。

③基礎医学系「大学院教育を担当する教員の質の向上」

医学系博士課程に所属する基礎医学系の教員については、教員の任期制(ローリングテニユア)を導入しており、この制度に基づく教授の再任評価・審査を実施した(基礎医学系)。教員評価は、教育活動、研究活動、病院活動、学内運営、社会貢献の観点から行われた。

また、振興調整費(若手研究者の自立的な研究環境整備促進)に医学系及び生物学系が協力して提案した「次代を担う若手大学人育成プログラム」が採択され、テニユア制の特任助教及び特任准教授を任用し、大学院の教育研究の充実を図った。

④フロンティア医科学専攻「修士論文中間発表会」

今年度から修士論文中間発表会を、運営も質疑応答もすべて学生主体で行なうように変更した。特に、積極的に質疑応答を行う習慣は日本人大学院生にとって不足しているため、この点の改善の必要性を学生に訴えての改革となった。この成果はすぐに表れ、「つくば医科学研究交流会」という筑波大学若手研究者の研究発表会でも教員や博士課程大学院生に混じって、多くの本専攻学生が質問に立つ姿が見られた。

(2) 研究

①学際系「世界レベルの教育研究拠点の形成」

研究科の学際的な特徴を生かして、21世紀COE「健康・スポーツ科学研究の推進」(平成18年度まで)に続き、「こころを解明する感性科学の推進」による教育研究拠点の形成を図った。また、他研究科が拠点リーダーの案件においても当研究科の教員が参加した。

②人間系「レフェリー制学術誌の刊行と発行回数増加」

教育学系教員が中心となって創設した筑波大学教育学会の機関誌『筑波教育学研究』及び障害科学系『障害科学研究』の継続・刊行、心理学系『筑波大学心理学研究』の発行回数を年1回から年2回へ増加

を行った。

③障害科学系『障害科学の展開』6巻シリーズ（明石書店）の出版企画と刊行」

障害科学系の研究成果を学士課程及び大学院課程の教育に反映させるために、障害科学系の教員全員が中心となって、障害にかかわる基本的問題から学校教育、福祉、心理、生理・医学、研究法の6巻の出版を企画し、平成19年度にすでに3巻を刊行し、平成20年9月までに全巻刊行の予定である。

④芸術学系「理論系と制作系の共同研究：江戸前期の湯島聖堂に関する復元的研究」

芸術理論研究者と美術制作系研究者との共同作業による研究活動状況を示すものである。芸術学系内の学際的協力という新しい研究体制の構築により、大きく研究水準が向上した。

⑤全学系「若手研究者に対する研究へのインセンティブの拡大・強化」

若手教員に対しては学術奨励賞（心理学系「上武学術奨励賞」等、障害科学系「障害科学学会研究奨励賞」、体育科学系「河本記念研究奨励賞」、基礎医学系「つくば医科学研究奨励賞」「太田敏子賞（優秀論文賞）」など）及び学内プロジェクト資金の重点的配分を行い、次代の教育研究を担う大学院生には優れた研究成果に対する学術奨励賞の授与（専攻長賞、研究科長賞）と研究環境の改善を行うことで、研究へのインセンティブを強化したことが、研究論文数の増加・学会発表数の増加・受賞件数の増加につながった。

⑥「生命科学動物資源センター棟の施設整備と運営」

生命科学動物資源センターPFI事業による施設整備（発生工学棟の新設と既存施設の改修）を進めるとともに、業務のアウトソーシングや利用料金への課金制度の導入を実施し、遺伝子マウスを用いる研究環境を全国トップレベルに改善した。

⑦次世代医療研究開発・教育統合センター「患者治療立脚型のCPRに必要な研究支援体制の整備」

生活習慣病寄付講座をセンター内に設置し、CPR実行に不可欠の人材を日立、グラクソ・スミスクラインから採用した。また、データセンター運用に必要な人材の採用も進み、CRCを採用した。産学連携研究の推進の一環としての努力は本学初めての寄附研究部門（不整脈）の新設にもつながった。

(3)運営

①研究科運営の機動力強化と効率化をめざして、研究科長補佐を設置し、教育研究及び国際戦略のため人員を2名配置した。

②「敬愛」と「協働」を根本精神とし、「融合」「再生」「先端」「国際」を共通のキーワードとする教育研究の理念や基本的役割・使命を明確にした「人間総合科学研究科の憲章」を制定した。

③大学院教育の実質化の実現をめざし、大学院部局細則をはじめ、FD、アドミッション・ポリシー、成績評価基準、ダブルメジャー（デュアル・ディグリー）プログラム等の規程の整備を行った。

④教育プロジェクト経費により、研究科FDを年5回実施し、教職員・学生の資質・能力向上のための意識変革を喚起した。また、研究科全体のFD実態調査や学生による授業評価等を実施し、教育効果の検証を行った。

3. 自己評価と課題

研究科の掲げた平成19年度の基本方針、年度計画に掲げた教育及び研究の重点施策はいずれも着実に実行され、年度目標を達成することができた。中でも注目したいのは、法人化後の組織整備計画であった5年一貫制から区分制への全面移行計画を完成させたこと、21世紀COEについて前年度終了の体育拠点形成の最終評価Bに続き、感性科学の拠点形成の中間評価でもB評価を得ることができたこと、などである。

大学院教育の実質化に向けた体制や規程の整備に沿った真の実行化はこれからの課題である。

図書館情報メディア研究科

| 学生の確保 (人) | 年次 | | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | | |
|--------------|-----------------|------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------|-----------|-----------|
| | 1年次 (博士前期課程) | | 37(37) ※ ー | 98(53) ※ 4 | 96(50) ※ 4 | 57(44) ※ 1 | 49(40) ※ 1 | | | |
| | 1年次 (博士後期課程) | | 21(21) ※ ー | 27(29) ※ 3 | 26(28) ※ 3 | 23(23) ※ 3 | 22(22) ※ 3 | | | |
| 学生の進路 (人) | 修了者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | | 研究員 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 大学教員 | 独法等 | 公務員 | | | |
| | 35 (39) | 26 (12) | 20 (11) | 1 (1) | 4 (ー) | 1 (ー) | ー (ー) | ー (2) | 1 (10) | 8 (15) |

・() は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 教育に関する目標

①教育の成果の検証

研究科の教育課程や学生支援、進路等に関する評価を行う活動評価委員会を設置し、修了生の教育効果の評価及び修了生に対する社会的評価の検証のため、学生の就職先に対してヒアリング調査を行った。

②英語による授業の実施

英語による授業の実施に向けて大学院教育企画グループにおいて、教員へのアンケートを行い英語による授業の可能性を探った。その結果、様々な形で対応可能と答えた教員は2割程度にとどまった。また、教員負担が大きいという意見も多くあり、英語科目の開講は慎重に行う必要があることが分かった。

③成績評価の明確化と授業評価

- ・従来通り達成目標の項目を含むシラバスを作成し、適切な成績評価を実施した。
- ・授業評価については1・2学期に7科目について試行を行い、3学期から本格導入して20科目で行った。その結果についてはFD委員会で鋭意分析中である。

④学位授与の質と量の向上

- ・教育研究指導は、中間発表会を開催する事により、研究の進捗状況をチェックするとともに、複数教員による指導体制を維持し、多面的な指導を行っている。
- ・学位授与率の向上を目指し、既にある大学院の学会発表支援の予算を増やした。その結果、平成18年度が41件185万円程であったのに対し、平成19年度は53件221万円程となり、大学院生の研究活動を活性化させることができた。
- ・研究の進展状況の把握のため学年末に研究活動報告書を提出させた。提出率は休学者を除いて博士前期課程は1・2年次ともに75%程、博士後期課程は1年次が90%、2年次78%、3年次45%程であった。

(2) 研究に関する目標

①基盤的研究設備の整備

- ・講堂の映像及び音響設備に関する改修・整備を情報学群と連携して行い、高精細プロジェクタと音響設備を導入した。
- ・大学院生室を研究分野に配分し、研究分野の共同研究室と連動させながら利用することにより、学年を越えた院生間の交流を増やし研究の活性化を図った。

②共同研究の活性化

知的コミュニティ基盤研究センターでは、共同研究等に関して下記のような活動を行った。

- ・岡山県との共同研究協定の下に岡山県立図書館との協調的活動
- ・図書館や博物館コミュニティとの連携による、機関リポジトリや博物館資料の情報記述法の研究
- ・医療分野での利用者コミュニティ形成のための情報共有と交換のためのツールの研究
- ・材料科学領域の研究コミュニティを支援するための情報資源の収集
- ・データベース領域の国内会議 DBWeb2007 (2007. 11 参加者数 350 名) の共催及びつくばの地域コミュニティとの連携による講演会の開催や地域コミュニティとの協同イベントのサポート

③国際共同研究推進や国際会議の開催

知的コミュニティ基盤研究センターでは、国際的活動に関して下記のような活動を行った。

- ・コミュニティにおける情報の共有や流通をテーマとする国際シンポジウムの開催(2008. 2)及びアジア太平洋地域における図書館情報学教育と実践に関する国際会議のつくばでの開催(2009. 3)の準備
- ・フィンランドの健康情報研究チームとの連携による国際共同研究
- ・アジア太平洋地域における情報学関連の大学院・学部等のコンソーシアムの構築の準備
- ・Dublin Core Metadata Initiative(DCMI)との共同による DCMI metadataschema registry サービスの稼働

(3) 教育・研究組織の見直しに関する目標

情報メディア創成学類の大学院組織の整備に向け、組織企画調整グループを設置しその検討を始めた。

また、組織再編について、広く教員の意見を聴取した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 特色ある取り組み

- ① 社会人学生への対応のため、東京サテライト及び春日キャンパスで授業の夜間及び土曜日開講を行っている。テレビ会議システムによる授業を合わせて 40 科目を開講し、延べ 300 名が受講した。
- ② 図書館経営管理コースを研究科として独自に設置し、図書館経営に係る高度専門職業人を養成している。コースの全ての科目を受講し一定の要件を満たした者に修了証を交付している。本年度は交付申請を受付中だが、昨年度は 9 名に修了証を交付した。
- ③ 大学院生の教育研究の活性化のため研究科の予算により学会発表支援を行うとともに、同窓会（茗溪会支部図書館情報学橋会）の寄附を受けて海外研修支援を行った。後者については、本年度 3 名の大学院生に支援した。
- ④ 研究費を全員一律の基盤研究費と、研究業績を査定して加重配分する特別研究費により配分している。さらに実質的な支援として研究成果公表を金銭的に支援することにより、研究活動の活性化を図っている。平成 19 年度は 23 件 135 万円程を支援した。
- ⑤ 研究科教員が閲覧できる Web サイトを運営し、各種申請書や会議資料を置いて、電子的情報共有に役立てている。

(2) 円滑に進めるための工夫

- ① 毎週研究科の執行部による会合を開き、運営状況の把握及び情報流通に努めている。
- ② 委員会組織ではなくより少人数のグループにできるだけ多くの事項を付託すると同時に、運営委員会や研究科長の専決事項を増やして、小回りのきく運営体制を実施している。
- ③ 研究科の全教員が出席する教員会議を月に 1 回開催し、全学的に決定した事から運営委員会等で決定した事まで詳細な報告を行い、全教員が必要な情報の共有を行えるようにしている。
- ④ 教員評価については、教員会議の中で時間をかけた説明会の実施や個別の質問等への丁寧な応答、さらに評価結果を研究科長から個別の教員に面談により返す等、十分な配慮を行った。
- ⑤ 新任教員に対して、研究科長による研究科の教育や研究、運営等についてのガイダンスを実施している。また、年度末に教員の状況把握のため、研究科長と教員とのヒアリングを実施した。

3. 自己評価と課題

平成 19 年度の重点施策、改善目標については、概ね達成できた。

教育に関する目標では英語による授業の実施には引き続き検討が必要であることが分かった。また、教育の成果の検証は引き続きそのやり方等を含めて検討が必要であることが明らかになった。一方、学生からの授業評価や研究活動報告書などを新たに実施した事は評価できる。

研究に関する目標では、大学院生室の再配置については、多くの教員が評価している。共同研究等については、知的コミュニティ基盤研究センターが中心となり多様な活動を展開していることは一定の評価ができる。

組織の見直しに関する目標は、研究科内での議論を始めたが、多様な意見があることが分かった。

3 全国共同利用施設

計算科学研究センター

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況 〔平成 19 年度年度計画記載事項の達成状況〕

① 6. 研究の実施体制 ○全国共同研究 計算科学研究センターにおいて全国共同利用施設に相応しい研究を推進、研究棟の整備

平成 17 年度より推進中の「計算科学による新たな知の発見・統合・創出」事業（特別教育研究経費（拠点形成））により開発・製作中の超並列クラスタ計算機 PACS-CS が完成し、素粒子宇宙分野、物質生命分野、地球生物環境分野等における計算を行った。10 月より、PACS-CS の全国共同利用を開始した。共用スペースの拡充等を実現するため研究棟増築により、研究スペースの整備・拡充を行った。

② 6. 研究の実施体制 ○全国共同研究 計算科学研究センターにおいて全国共同利用の附置研究所への転換に向けて検討、第三者評価を実施

10 月末に第三者評価を実施。同時に、科学技術・学術審議会研究環境基盤部会における審議の方向性等に注意を払いつつ、附置研化を行う場合の方向性等について検討した。

〔重点施策・改善目標の達成状況〕

(1) 拠点形成事業・大型プロジェクト研究の推進

「計算科学による新たな知の発見・統合・創出」事業最終年度を迎え、超並列クラスタシステム PACS-CS が本格稼働している。9 月にはシンポジウムを行い、成果発表を行った。これを活用し、最終年度の成果を得るべく、計算科学諸分野の研究を推進した。

科学研究費補助金特別推進研究による FIRST プロジェクトは、最終成果に向け研究を推進した。

超並列クラスタシステム PACS-CS による計算科学を推進する特別教育研究経費によるプロジェクト「計算科学による先導的知の創出推進事業」を計画、20 年度から実施予定である。

以上に加えて、JST CREST2 件、科学振興調整費プロジェクト、科研費による大型プロジェクト (S) 1 件、(A) 4 件等などを推進した。

(2) 次世代スーパーコンピュータ開発プロジェクトへの貢献

国の次世代スーパーコンピュータプロジェクトの開発実施主体である理化学研究所と、「最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用」プロジェクト推進のための連携・協力に関する基本協定」に基づき、共同研究を開始した。センターにプロジェクトチームを構成し、共同研究体制を整備した。また、センター教員 3 名が理化学研究所客員研究員に委嘱され、次世代スーパーコンピュータの開発に貢献している。

(3) 共同研究・共同利用体制の整備

PACS-CS 稼働開始に伴い、全国共同利用のための体制を整備し、共同利用を実施するためのプログラム「学際共同利用プログラム」を 10 月から実施した。共用スペースの拡充等を実現する研究棟増築は予定どおり進み、平成 18 年度末に竣工し、移転・施設整備を行った。

次期スーパーコンピュータの調達・運用について、東京大学情報基盤センター、京都大学学術情報メディアセンターと基本仕様を共通化する「オープンスーパーコンピュータアライアンス」を締結し、調達作業を行った。95 テラフロップスのシステムが、6 月から稼働の見込みである。

(4) 附置研究所化への検討と第三者評価

全国共同利用の附置研究所への転換に向けて、平成 16 年度のセンター改組以降の活動について第三者評価を 10 月末に実施した。8 月には、科学技術・学術審議会研究環境基盤部会によるヒアリングが実施され、センターの活動に説明した。また附置研究所・施設の在り方、全国共同利用の位置付け、大型装置整備に関する考え方等に関する審議に関する情報収集に努めた。

(5) 重点とする研究目標

センター全体としては、上記(1)に記した拠点形成事業、大型プロジェクト等を中心に、計算科学の学際的研究の遂行と成果の実現を図り、さらに、(2)に記した次世代スーパーコンピュータへの貢献に努力を傾注した。各部門の成果は次のとおりである。

〔素粒子宇宙研究部門〕

素粒子分野では、PACS-CS を使って近似なしの格子 QCD シミュレーションを従来に比べて格段に軽い 5 つの ud クォーク質量について完了させた。さらに、ほぼ自然界の値でのシミュレーションを開始し目標をほぼ達成した。ハドロン質量などは自然界の値に近いという有望な結果を得た。また、このゲージ配位を使った核力の計算を開始した。宇宙物理分野では、文部科学省特別推進研究「融合型並列計算機による宇宙第一世代天体の起源の解明」(H16~H19)に基づき、総演算性能 36Tflops の 256 ノードからなる宇宙シミュレータ FIRST を完成させ、大規模流体シミュレーション、輻射流体シミュレーションによる宇宙第一世代星形成、銀河進化、銀河団衝突の先駆的研究を行った。

〔物質生命研究部門〕

平成 19 年度は大規模第一原理計算用のプログラム開発、およびそれを用いて、半導体界面、半導体欠陥、炭素ナノ物質及びバイオ物質等の計算を行った。平成 19 年度の主な成果は以下のとおりである。①大規模並列化に適した実空間密度汎関数法のプログラム (RSDFT) を計算機工学のグループ

と共同で開発した。特にグラムシュミットの直行化においては、計算機工学で考案された「行列積のアルゴリズム」を取り入れることにより高い並列化効率を得ることに成功した。この結果、RSDFTは理研の次世代スパコンプロジェクトの中核アプリとして選定された。②RSDFTをPACS-CSで実行させることにより、1万原子を超えるSiクラスターの第一原理計算の実行に世界で初めて成功した。③実時間密度汎関数法により、光支援の絶縁破壊現象のシミュレーションに成功した。さらに本手法を原子核反応に応用することにも成功した。④CPMDを用いた量子論的計算により、シトクロム酸化酵素における原子レベルのプロトン移動機構の提案を行った。⑤レプリカ交換法により、これまで正確な計算が不可能であった芳香環どうしのスタッキングに対して、立体構造の正確な再現に成功した。

[地球生物環境研究部門]

科研費による「北極振動の成因解明と長周期変動の力学プロセスの研究」の結果として、北極振動は、任意の定常外力に共鳴して起こる大気大循環の力学的な特異固有モードとして理解された。領域気象モデルWRFを用いたメソ気象シミュレーションが行われ、さらにネスティング技法により都市キャノピーモデルの開発が行われている。2007年の夏には40.9度という猛暑の記録が更新され、WRFを用いた猛暑の特徴の再現と理解ができた。生物科学分野では、大規模遺伝子データ解析による真核生物グループ間の系統樹分析が行われ、複数遺伝子配列データ解析に向けた方法論の検討と解析を行った。PACS-CSおよびグリッドコンピューターに並列化Tree-Puzzleをインプリメントし、24遺伝子10,000アミノ酸座位に対し、945樹形に対する網羅的系統樹探索を行った。

[超高速計算システム研究部門]

超並列クラスタシステムPACS-CSの本格稼動に伴い、通信ライブラリの性能向上等を通じアプリケーション性能を向上させた。次世代スーパーコンピュータ要素技術に関し、日立製作所との共同研究により、低電力デバイス・オンチップメモリ・ベクトル加速機構の組み合わせにより当初目標を達成する電力性能が得られることをシミュレーションで示した。グリッド研究においては、素粒子物理学分野の生成データの国内共有化を進め、複数サイトに跨るJLDGの認証とアクセスを可能とした。計算宇宙分野の専用クラスタFIRSTに分散ファイルシステムGfarmを本格適用し、同システムのファイルシステムの効率的運用を進めた。筑波大学次期スパコン、T2K筑波システムの導入に際し、アプリケーションの予備ベンチマーキングを行い、マルチコアノードにおけるQCD等のアプリケーションで高性能を得るためのチューニング方法について検討した。組み込み向け並列プラットフォームに関する研究では、低電力・高性能・高信頼通信ネットワークの開発と、省電力サーバシステムのソフトウェア制御に関する研究を推進した。

[計算情報学研究部門]

計算情報学セミナーを隔月で開催し部門内での問題意識共有と連携研究開発を行うとともに、他部門とも協力して実世界計算情報学の基盤形成へ向けた活動を開始した。計算知能分野では、情報統合基盤システム、データマイニング・知識発見、XML・Webプログラミング、気象データベースの研究開発を推進した他、素粒子分野データグリッド運用構築への協力を開始した。計算メディア分野では、監視カメラ映像を活用した歩行者視覚支援、自由視点映像の生成と提示、非較正カメラ群による多視点同時観測技術、モバイルカメラによる高自由度映像監視技術の研究開発を推進した。また、HPC部門と連携してセンシングWebの研究を開始した。以上に関して、特にイノベーション・ジャパン2007大学出展者部門におけるMicrosoft Innovation Award部門賞(IT分野)などを受賞した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 部門間の連携研究の推進

計算科学は科学諸分野と計算機科学・情報科学の協力により飛躍的に進歩しうる。本センターでは、素粒子分野と超高速計算システム分野、物質生命分野と超高速計算システム分野、地球環境分野と計算知能分野などが具体的な研究課題についてワーキンググループを設置して定期開催を行い、共同研究を進めている。素粒子物理学のQCDコードの開発、超並列密度汎関数法コードRS-DFTコードの開発、素粒子国際データグリッドILDG及び国内グリッドJLDGの構築、気象データベースgpv/jmaの構築と運用などはその具体的な成果であり、今後一層強化する予定である。

(2) 次期スーパーコンピュータ調達を契機とする筑波大学・東京大学・京都大学の連携

本連携は、平成20年6月に稼動する次期システムについて、筑波大・東大・京大が、基本仕様を共通化することにより、次期システムの方向性を指し示すと共に、運用開始後の運用連携を視野に入れた連携を行うもので、この計画に基づき調達を行った。さらに、平成20年4月には連携協定を締結し、これから運用・人材育成・研究で連携していく計画である。この連携は、計算科学の国全体としての発展・推進のためのひとつの方向性として進めている。

(3) 人材育成への取り組み

計算科学に関する人材育成への取り組みとして、計算科学に関する大学院共通科目やデュアルディグリー制度などを計画している。これについては平成20年度から開始する予定で進めている。

3. 自己評価と課題

(1) 自己評価

今年度はセンターの重点プロジェクトである「計算科学による新たな知の発見・統合・創出」事業最終

年度を迎え、超並列クラスタシステム PACS-CS が順調に稼動しており、9月にはシンポジウムを行い、完成式典および成果発表を行った。また、全国共同利用も開始した。10月には国外から4人、国内から4人の委員を迎え、法人化以降のセンターの活動および将来計画についての外部評価を行った。その評価結果において、センターが進める学際的な計算科学について非常に高く評価され、センターの方向性についても強い支持を得た。これから、次期スパコンの運用による計算科学の研究の拡大、国家プロジェクトである次世代スパコンへの貢献などにより、センターの計算科学での拠点としての位置をいっそう強化する必要がある。

(2) 課題

① 全国共同利用と次期スパコンの運用

19年度から「学際共同利用プログラム」として、PACS-CSの全国共同利用を始めたが、この中で新しい試みである、学際的なプロジェクトを支援する「学際開拓プログラム」についてはこれから活発化させていく必要がある。また、このプログラムにより、次期スパコンを運用していく予定であるが、負担金についての方針、PACS-CS、次期スパコン全体の運用体制の確立などを急ぐ必要がある。

② 附置研究所化

本センターの最大の懸案であり、科学技術・学術審議会における審議に注意を払いつつも、本センターとして目指すべき方向のイメージを早急に固め、学内コンセンサスを取る必要がある。

③ 予算面での課題

基盤教育研究経費および間接経費の配分方式は、全学的な研究システムの整備の中で、研究センターの位置づけに関わる課題として引き続き検討する必要がある。

④ 運営体制の課題

センターの充実に伴い、研究企画・財務・総務広報等のそれぞれの面で検討事項・処理事項と事務量が大幅に増大した。これらに対応して高い研究活動を維持・発展するには、センター長・部門長を中心とするセンターの執行体制の検討が必要である。また厳しい職員教員数流動化が必要とされる中で効率的な事務体制の構築の必要がある。特に次期スパコンの稼動に当たり運用支援体制の強化を図る必要がある。

プラズマ研究センター

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

- (1) プラズマ研究センターと核融合研究所との双方向型共同研究等の拡充・推進及びジャイロトロン開発
 - ① 自然科学研究機構 核融合科学研究所との双方向型共同研究等を、新システムとして順調に推進しており、広く学内外の共同研究者数 80 名以上、内学外の共同研究員 60 名以上の参加（学長名で委嘱）を得て、全国共同研究の拠点としての役割を着実に推進している。
 - ② 既に、双方向型共同研究から発した学術論文数約 110 編、国際会議等の発表数約 270 件という、多くの顕著な実績・成果をあげつつ、着々と共同研究の推進を具体的な形にして行っている。
 - ③ 好例として双方向型共同研究開始により具体化が可能となった直接発電の研究において、60%の高効率の発電の検証を得た。
 - ④ 筑波大学-自然科学研究機構間で締結した「ジャイロトロン 技術開発共同研究」実施契約書に基づき開発を開始した 1 MW 級大電力ジャイロトロンの開発は順調に進展し、1 MW 以上の発振を確認し、長パルスに於いても 1 MW 級の出力を達成しているまた、その試験のための電源整備を含めて核融合科学研究所との連携をさらに拡充、推進している。
- (2) 電場シアー生成メカニズムとその効果の物理及びプラズマパラメータの向上

当センターの中期計画の柱は「核融合実用に必要不可欠で未解決な課題である、電位形成・電位によるプラズマ閉じ込め向上の物理機構の解明に向け、プラズマ物理・核融合研究の進展を喚起する一層の研究展開を図る。」これは国際熱核融合実験炉 ITER をはじめ、トカマク・ヘリカル型プラズマ閉じ込め形式をも含む広範な学術普遍性と、核融合実用のための高プラズマ閉じ込め(Hモード)・径方向エネルギー輸送障壁(ITB)生成メカニズムの心臓部の研究という、極めて重要な位置づけを持つ。

 - ① 高電位生成のためのプラグ部用ジャイロトロンの高性能化を通じてプラグ部電位の維持時間の拡大をはかり、昨年度の 2 倍の維持時間 30ms を達成した。
 - ② また、中央部プラズマの電子加熱用ジャイロトロンについても入射パルス幅を大きく進展させ、これまでに得られた世界最高のプラズマ閉じ込め電位の成果を、これまでの 1/5 倍の 5-7 百 eV の高電子温度のプラズマにて実現し、電位による閉じ込め改善研究の拡張を達成した。
 - ③ ペレット入射燃料補給によるプラズマ密度の増大によりパラメータの向上を得た。
 - ④ 高電位形成に伴う電場シアーの制御をビームプローブの径方向電位測定により確認することに世界に先駆けて成功し、プラズマの閉じ込めを劣化させる揺動の抑制、高電場シアー形成に基づく揺動の抑制、並びにこれに伴う異常輸送の抑制を示唆する径方向流子束の評価を得た。この世界に先駆けた揺動制御の成功、これによるプラズマ閉じ込めの向上と電位・電場シアーの相関に関する結果は、電位による閉じ込め改善メカニズムの究明を進展させた。
- (3) 共同研究等による連携
 - ① ミラー特有の他形式にはない利点であるミラー端部を利用する直接発電の研究が、双方向型共同研究の主要課題の 1 つとして進んでおり、既に発電の実証としてのランプの点灯や先に述べた 60%の高効率発電の達成が得られている。これは同時に本学システム情報工学研究科等との学内共同利用研究として進展している
 - ② 地域連携研究として、つくば市の高エネルギー物理学研究機構フォトンファクトリーや産業総合研究所の放射光を用い、計測器開発・校正研究が進展している。また、日本原子力研究開発機構との協力研究を実施し、ミラー特有のイオン波動加熱物理から発した、他形式にも普遍的なプラズマ安定性研究が進展し、この成果が高く評価され文部科学大臣賞を受賞した。
 - ③ 平成 19 年 9 月 国際原子力機関 (IAEA) の IAEA TM 国際会議 [H-mode 及び ITB 物理] の開催、日本を含む 10 カ国から、105 名 (内海外 37 名) の参加を得て熱心な発表と議論が行われた。
 - ④ 平成 19 年末の自然科学研究機構 核融合科学研究所の双方向型共同研究の成果に対する 外部評価の実施に伴い、当センターの成果をまとめて、核融合科学研究所と協力して自己評価書を作成した。
 - ⑤ 日本学術振興会の二国間交流事業に採択された、韓国基礎科学研究所との交流を積極的に行った。韓国から 3 名の研究者が来学した。また、日韓核融合協力事業に基づき、2 名の研究者をワークショップへ派遣した。
 - ⑥ ロシアとの共同研究としては、ロシア科学アカデミー クルチャトフ研究所の世界的理論家であるパスツコフ博士が 6 週間滞在し、また、日米協力事業で、米国テキサス大学オースチン校から同じく理論の大家であるホートン博士 1 名が 10 日間滞在した。
- (4) 学術雑誌、国際会議、学会発表、学生教育
 - ① 原著論文約 24 編、国内外の会議発表件数約 32 件である。
 - ② 自然科学類・工学基礎学類の卒研究生 11 名、大学院の研究科にあっては、数理解析科学研究所・大学院生 23 名の日々の研究指導を行った。この内から卒業論文 10 編、修士論文 11 編、博士論文 3 編が作成された。
- (5) 管理運営及び基盤的研究設備・機器の整備点検
 - ① センター細則に規定する各種委員会の制度に則し、国内外の情勢分析と当センターの位置づけや在り方の検討、人事や管理運営の円滑化への種々の検討等が有意義に議論され、実施した。

- ②センターの防災安全管理組織の正副責任者を柱に防災訓練が実施された。最近の平均約 40 名の指導学生が常駐するセンターとしての安全管理責任は重く、加えて双方向型共同研究で来所する 60 名を超える他大学の研究者・学生の安全確保のためにも、安全教育の徹底・非常時の避難訓練の実施・学生の保険加入・各種安全に関するマニュアル・冊子の作成・配布等、従来にも増して一層の注意が払われ、これらの整備を行った
- ③センターの基盤設備・機器の整備点検を継続し良好な稼働状況を確認しながら、設備の更新整備充実を行い、遅滞無く研究を進めた。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1)自然科学研究機構核融合科学研究所等との双方向型共同研究等の一層の拡充と推進を実施し、効率的な運営を行った。
- (2)「核融合実用に必要不可欠で未解決な課題である、電位形成・電位によるプラズマ閉じ込め向上の物理機構の解明」のため、高電位生成用マイクロ波共振装置ジャイロトロンを用いた、高プラズマ閉じ込め実験の拡充を実施した。
- (3)上記の強化策として、平成 17 年 9 月 27 日に締結した「大学共同利用機関法人自然科学研究機構と国立大学法人筑波大学のプラズマ物理・核融合分野における学術交流に関する協定書」の「協定書第 2 条」に謳う、「(1)プラズマ物理・核融合分野での双方向性を持つ共同研究活動の構築。更には(2)プラズマの加熱及び制御に有効な大電力マイクロ波共振器ジャイロトロンの研究及び開発。(3)プラズマ物理・核融合分野と他の分野との学術連携及び産業応用の積極的推進」を具体化として、平成 18 年度に実施契約を締結した筑波大学と自然科学研究機構間で「ジャイロトン 技術開発共同研究」を平成 19 年度も継続し、1 MW 級の大電力ジャイロトロンの共同開発をさらにすすめた。また、ジャイロトン電源改造と、ジャイロトン開発の推進については、学術交流協定の下に、核融合科学研究所と密接な連携を図り、核融合科学研究所からの資源（大型機器や予算）の移設により、効率的な運用を行った。
- (4)プラズマ電子高温加熱用ジャイロトン電源の整備により、電場シアア生成メカニズムとその効果の究明、ガンマ 10 プラズマパラメータの更なる向上の推進を図った。
- (5)これらの最先端科学実験を国内外の一流の研究者と実施する中で、斯界でも有名となっている、当センターの人材育成・人材輩出の更なる推進を図った。
- (6)双方向型共同研究については、①公募要領をホームページ等により公開し、広範な応募と審査委員会による公正な審査と採択、②受入機関として、当センターの防災安全管理委員会によるマニュアルの作成・配布と適切な指導（当部局細則第 1 号第 9 条～第 12 条）、③双方向型共同研究に来学する多数の学外共同研究員への、事務書類・旅費・研究費・宿泊、その他様々な対応業務の整備。④更に、公開の成果報告会を行うと共に、国際会議、学会、学術雑誌への発表を積極的に促している。

3. 自己評価と課題

研究面では、センターが誇るジャイロトン開発で、1 MW の発振に成功し、高く評価され、核融合科学研究所との「ジャイロトン 技術開発共同研究」を継続し、さらに、推進することとなった。電位によるプラズマ閉じ込めの改善研究では、世界最先端にあるセンターのビームプローブにより、電位の構造と揺動の関係を明確にし、また、揺動から評価した径方向粒子束と閉じ込め改善との相関関係を示したことから、電位と閉じ込めの改善の物理をさらに進展させることができ、中期計画・中期目標の達成に大きく貢献した。また、ジャイロトンの開発と偏波器導入による中央部の電子サイクロトロン加熱の進展は、プラズマの閉じ込めの改善と高エネルギーイオンのロスメカニズムの解明に大きく貢献した。

双方向型共同研究の柱の一つである直接発電、また、高速カメラによるプラズマ壁相互作用の詳細な研究は今後のセンターの更なる研究の進展に貢献するものである。

また、筑波大学-自然科学研究機構間で「ジャイロトン 技術開発共同研究」実施契約の締結等、国内外の当センターへの研究協力のニーズの高まりと捉え、一層の努力を重ねるべき課題と位置づけている。また、共同研究委員会や研究発表促進・倫理委員会の設置、ホームページ等による情報公開により、共同研究の運営の透明性と研究データ管理の透明性をより一層高める体制整備を進める。

本学が拓き着実に進展する電位・電場によるプラズマ閉じ込めへの効果・新手法・メカニズムの研究、更に上述の当センターの世界の核融合研究に果たす独自の特長・位置づけを、更なる教育研究の展開・拡充の基盤に据え、これらの研究計画に基づくセンターの教育研究の質の向上と、核融合実用への貢献、学術的に広く普遍性をもつ、上記研究成果の一層の発展、国内外への学術・技術・人材育成への顕著な貢献を期し今後も着実に研究を推進する。

4 学内共同教育研究施設

先端学際領域研究センター

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) TARA プロジェクト

平成 19 年度は、新たに 5 件（新規 1 件、アスペクト教授 1 件）の TARA プロジェクトが研究を開始した。また、平成 16 年度の 2 プロジェクト、平成 17 年度の 6 プロジェクト、平成 18 年度の 7 プロジェクトと併せて合計 20 の TARA プロジェクト研究を実施した。

平成 18 年度 TARA プロジェクトの中間評価を 11 月に公開審査で実施した。中間評価では 6 プロジェクトの継続が承認された。これらの審査では、従来通り学内審査員と学外審査員は 1 対 2 の比率で審査委員会を構成した。

なお、平成 20 年度の TARA プロジェクト新規募集分については、本学の先端学際研究の発展をより一層推進するため新たなプロジェクト形態を検討する必要が生じ、また、リサーチ・リープ支援教員の配置枠の確保が難しいことから、一旦募集を取りやめることとしたが、現在、再開に向けた議論を鋭意進めているところである。

(2) 大型競争的資金の獲得

平成 14 年度より引き続いて、本センター関連教員が、科学技術振興事業団の戦略的創造研究推進事業の「ERATO」及び「CREST」の研究代表者、文部科学省の都市エリア産学官連携促進事業（発展型）の研究サブリーダーや文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（S）の研究代表者となるなど、数々の大型競争的資金を獲得している。

なお、TARA プロジェクト等の科学研究費補助金等を含めた外部資金は約 896,829 千円であった。

(3) 産学リエゾン共同研究（ILC）センターとの連携

アスペクト研究会、公開セミナー等を実施し、産官学による研究者交流の促進を図った。また、平成 14 年度より ILC センターが設立され、同センターとの連携により、共同研究開発および知的財産戦略支援等を通じて、研究成果の特許化、さらには実用化を進めている。現在、ILC プロジェクト 23 件の内、TARA プロジェクトと関連するもの 5 件が進行中である。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 人事及び研究組織

法人化に伴う機構改革で平成 16 年度から、TARA センターは、センター人事委員会の設置が承認された。平成 19 年度は 10 回の人事委員会を開催し、研究組織人事を行った。

平成 19 年度中の人事は、次のとおりである。客員教員 15 名（Ⅰ種 8 名、Ⅱ種 5 名、Ⅲ種 2 名）の客員教員を TARA プロジェクトに配置した。TARA プロジェクトのリサーチ・リープ支援教員として講師 2 名、助教 1 名、非常勤研究員 5 名、研究支援推進員 1 名及びリサーチ・アシスタント（RA）4 名を任用した。また、アスペクト講師 1 名の転出に伴う後任補充を行い 1 名を採用した。

(2) 任期制とアスペクト専任教授の再任資格審査

TARA センターの 6 つの研究アスペクトには、専任の教授と講師が各 1 名ずつ配置されており、アスペクトは 7 年程度で見直すことになっている。

「大学の教員等の任期に関する法律」（平成 9 年法律第 82 号）が施行されたことに伴い、TARA センターでは積極的に任期制を導入することになり、平成 10 年 4 月 1 日から「筑波大学教員の任期に関する規則」が施行された。これを受けて、アスペクト教授及び講師に対して、正式に 7 年間の任期制（再任可。ただし、教授以外は 1 回限り。）が導入されたが、法人化に伴い 5 年間の任期制となった。

平成 19 年度には 5 年の任期満了となったアスペクト教授 1 名がおり、外部審査委員を含む再任資格審査委員会を設置し、厳正かつ公正な審査が行われ、再任が認められた。

3. 自己評価と課題

(1) 研究組織・研究環境

TARA センターは、時代の要請に応じた最先端研究を常に維持・形成する目的で固定的な研究部門を置かず、研究アスペクトのもとに 3 年を研究期間とするプロジェクトを構成し、研究を推進する流動的研究施設である。平成 10 年度から TARA センター専任教員に正式に任期制が導入されたことは、研究組織の流動化、研究活動の活性化に寄与するものであり、当センターの設立の理念が実現したものとして評価される。しかし、国立大学の法人化に伴い、任期制については改めて検討する必要が生じている。特に専任教授の任期が 5 年となることは、人材確保の観点からそのインセンティブの問題と合わせて早急な検討が必要であるが、十分な議論ができていない。

また、TARA プロジェクトは厳密な外部評価を受けて採択されたものであり、文字通り本学を代表するような研究がほとんどであるにもかかわらず、学内の支援体制は極めて不十分である。これまで、1) プロジェクトが成立した際にすぐに研究が開始できるよう研究環境の整備、2) 先端的研究を遂行するために十分な研究費の確保と研究支援スタッフの充実等を図るため様々な検討を行ってきたが、教員定員の流動化などの要因が発生したことにより十分な施策を立てられない状況にある。このため、今後は、

教員定員の流動化から定員の削減を視野に入れつつ、新たなプロジェクト形態の検討及び実施年数等について検討していくこととした。

(2) 研究成果の社会還元

TARA センターの設置目的のひとつは「研究成果の社会還元」である。当センターとしては、政府出資の研究所や企業の研究者を共同研究のチームに加えて、当該共同研究を進めることによって技術移転を推進することとしている。また、このほか、研究内容によっては、生じた発明について特許を出願し、特許の実施許諾を通じて技術移転を行うなど、研究を通して積極的に社会に貢献していくよう一層努力していくこととしている。平成 14 年度より産学リエゾン共同研究 (ILC) センターが設立され、現在、ILC プロジェクト (計 23 件) に TARA プロジェクトと関連するものが 5 件進行中であり、同センターとの強力な連携を引き続き推進していく。

(3) 外部資金

プロジェクトが独自に獲得した平成 18 年度の外部資金は、約 896,829 千円であり、これは、筑波大学の平均を大きく超えるものである。しかしながら、自助努力により外部資金を獲得するだけでなく、学内からの支援を一層受けられるような仕組みが必要であると考えます。

(4) 若手教員 (リサーチ・リープ支援教員) の人材育成

TARA センターでは、任期付のリサーチ・リープ支援教員を TARA プロジェクトに配置し、リサーチ・リープ教員 (プロジェクト代表者) が行う TARA プロジェクトを支援している。

TARA プロジェクトが開始された平成 6 年度からのこれまで、延べ 90 名のリサーチ・リープ支援教員が配置され活躍しているが、プロジェクト終了後の現職位等を調査した結果、約 80% が教員等の職位に就いていることが判明した。

このことは、TARA プロジェクトが目指している学際的な先端基礎研究の推進の外、若手教員の育成を図ったということを示しており、TARA プロジェクトのもう一つの大きな成果と言えよう。

外国語センター

- 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況
 - 外国語については、外国語センターを設置して、全学の基礎科目共通科目として、英語 194 コマ、独語 73 コマ、仏語 57 コマ、中国語 44 コマ、ロシア語 23 コマ、スペイン語 20 コマ、朝鮮語 8 コマ、合計 419 コマの外国語の授業を実施した。
 - 英語とドイツ語に関しては、英語・ドイツ語検定試験実施要領に基づき、英語・ドイツ語履修者及び検定不合格者を対象に、英語検定試験・ドイツ語検定試験を 2 月 22 日に実施した。2 年生以上で前年度までの検定不合格者を対象に 8 月 31 日に 8 月期英語検定試験・8 月期ドイツ語検定試験を、平成 19 年度卒業予定の者で検定にまだ合格していない者に対して、1 月 9 日に特別措置英語検定試験を、1 月 16 日に特別措置ドイツ語検定試験を実施した。
 - 英語に関しては、4 月と 8 月に習熟度別クラス編成のためのプレイスメントテストを実施した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 教育

① 教育の基本方針

ア. 実質陶冶としての言語教育

創造的な知性と豊かな国際性を備えた人材を養成し、学術文化の進展に寄与することを目的とした本学の建学の理念に基づいて、大学 1 年次終了に相応しい、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」ことのバランスのとれた実用的能力を養い、英語とドイツ語に関しては、学類で定められた必要単位は、各授業の評価と検定試験のいずれもが合格したときに認定した。

イ. 形式的陶冶としての語学教育

論理的思考はことばによって養われるものであることは、日本語と共に外国語の学習にあっても変わらないので、外国語の学習を通じて、深くものを考え、洞察し、推理する精神的能力を養うことを旨として、授業を実施した。

② 外国語センターにおける教育・研究や運営上の特色ある取り組み等

ア. 新入生に贈る筑波大学外国語センター主催公開講演会の開催

平成 19 年 4 月 26 日（水曜）に学生会館国際会議室において、新入生に贈る筑波大学外国語センター主催公開講演会（講師：安井泉 外国語センター長・人文社会科学部教授、演題：外国語を 100 倍楽しむ法——知れば知るほどおもしろい ことばの楽しさむずかしさ——ことばとして英語と日本語を楽しむ）を開催、講演の様子は CD 化されて外国語センター・テープライブラリーで聴くことが可能となっている。

イ. 中国語では「最低所要学習事項リスト」を作成

中国語では学習の指針が「最低所要学習事項リスト」として、中国語受講者全員に配布され、統一のアチーブメントテストと授業の成績との両方を考慮して単位を認定する方式は 2 年目となった。

ウ. 他大学等より講師を招き外国語教育に関する研究会を年 3 回程度開催した。

（第 1 回 学術講演会）

日時： 平成 19 年 10 月 25 日（木） 16:00 - 17:30
講師： 三森ゆりか先生（つくば言語技術教育研究所長）
演題： 外国語学習に必要な日本語の能力
場所： 共同利用棟 A201

（第 2 回 学術講演会）

日時： 平成 19 年 12 月 7 日（金） 16:30～18:00
講師： 山田雄一郎 先生（広島修道大学教授）
演題： 「われわれは何故ことばを学ぶのか」
場所： 総合研究棟 B 1 階 公開講義室

エ. ドイツ語、中国語、ロシア語の自由科目（特設）の実施

ドイツ語、中国語、ロシア語では、夏期に、大学間交流協定に基づき、学生をパイロット大学（ドイツ語）、湖南大学（中国語）、ロシア連邦のサンクト・ペテルブルグ大学（ロシア語）に派遣し、約一ヶ月の短期語学研修を受講させ、自由科目（特設）（ドイツ語、中国語、ロシア語）として単位の認定を行った。

③ 恒常的な取り組み

ア. シラバスの充実

外国語センターでは、大学の中期目標にある「学習目標、授業方法・計画、評価基準のシラバスへの明示」以上の情報（授業の目標、各学期授業計画、成績評価方法と基準、予習・復習・課題、教科書、オフィスアワー等）をシラバスにすでに掲載しているが、必要に応じて「成績評価方法と基準」などの中身をさらに充実させた。

イ. 学期ごとの成績評価を実施

大学の中期目標にある「学期ごとの成績評価を実施」は、外国語センターではすでに実施している。

ウ. 学生の理解度に応じたアフターケアの実施

再履修の学生に関しては、4月に個別指導を行い再履修の履修クラス決定について指導を行った。英語検定試験の不合格者を対象とする英語の基本的事項を総合的に再学習することに重点を置いた「英語Ⅴ」の科目を学期集中授業として全学群対象に実施しているが、必要に応じてその中身をさらに充実させた。

(2) 研究

外国語センター紀要『外国語教育論集』第30号(2008年3月、237頁)を発行した。(外国語センター紀要『外国語教育論集』(第29号(2007年3月、214頁)、第28号(2006年3月発行、237頁、第27号(2005年3月発行)は201頁)

(3) その他(社会貢献、管理運営等)

① 英語教育学講座(公開講座)の充実を図った。

高等学校・中学校の英語の教員を対象に英語教育学講座(公開講座)を4日間(合計24.5時間、7月23日~7月26日、募集人数20名のところ参加人数61名)にわたり実施し、高校・中学の教員に対して、「英語教員のための英語の魅力再発見」と題して英語をことばとして楽しむすべをあますところなく展開する90分の講義を12コマ実施した。大学で培っていることばへの向き合い方、ことばを読み解くおもしろさを英語教育に盛り込むべくその知見を社会に還元した。本公開講座では、初めての試みとして、公開講座講義資料をハンドアウト集として講座開始の数週間前に受講予定者に事前に配布した。事前配布が想像以上に功を奏したことに加えて、本講座に関する満足度の高さは、公開講座修了後に行われた受講者アンケートの自由記載にも細かく現れていた。アンケートの中には、教え方など実践講座はよく目にするが、本講座のように「英語などことば自体の魅力を取り上げる趣旨のセミナーや研修は他に例がなく大変貴重である」という声も多数聞かれた。

② 高大連携のさまざまな可能性の模索

社会貢献プロジェクト「外国語情報コンテンツ発信支援プロジェクト」に30万円の配分を受け、つくば市と連携して異文化言語共生の方策について協議を重ね、外国語情報コンテンツ発信支援プロジェクトに関する講演会を2回と、「仕事と外国語」シリーズ第3回の講演会を開催した。

(第1回 地域社会貢献公開講演会)

日時：平成19年11月22日(木)17:00-18:30

講師：河原 俊昭(京都光華女子大学教授)

演題：日本の自治体における言語サービスの現状と課題

場所：共同利用棟A201

(第2回 地域社会貢献公開講演会)

日時：平成20年1月16日(水)16:45-18:15

講師：金田一 真澄(慶應義塾大学教授)

演題：日本の外国語教育と複言語・複文化主義——小中高大一貫教育への寄与と課題——

場所：1B 208 教室

(外国語センター主催公開講演会「仕事と外国語」(第3回))

日時：平成19年12月6日(木)17:00-18:30

講師：竹本啓一(独立行政法人国際協力機構〔JICA〕人間開発部第4グループ保健人材育成チーム チーム長)

演題：国際協力事業と外国語——私の語学放浪記——

場所：共同利用棟A201

3. 自己評価と課題

(1) 教育

① 学群ごとの固定時間割の実施

平成19年度の学群・学類再編に向けて、共通科目の履修の方法について全学群・学類のカリキュラムの調整を行い、第一外国語(英語)に関しては学群ごとの固定時間割を実現することができた。第2外国語の固定時間割の調整は依然として課題が残されているが、各学群・学類の事情があり実現が難しいのが実情である。

② 英語カリキュラムの検討

英語検定試験のより効果的な運用を含む英語のカリキュラムの具体的改善策を外国語センターの英語セクションの会議を通じて検討を続けた。平成20年度には改善案の実施に向けての手続きに入り、平成21年度からの実施が予定されている。

③ 固定時間割の厳守

カリキュラムの一部整備、及び、各学群・学類における固定時間割の厳守を全学学群学類連絡会、全学教育課程委員会を通じて徹底した。

④ サテライト室の教育的運用

サテライト室の教育的運用をいっそう図るために、ログインIDなどの効率的運用が提案され実施されるようになったが、有意的な改善とはならなかった。

⑤LL 教室改善のための概算要求について

平成 21 年度概算要求を行った。文部科学省から財務省には満額で要求されたが、財務省では認められなかった。

⑥テープライブラリーの改善について

テープライブラリーを全面改装して、外国語学習メディアライブラリーとする平成 20 年度予算要求を行った。

⑦テープライブラリーの開館時間延長

非常勤職員、派遣職員の雇用によるテープライブラリーの開館時間延長を引き続き行った。

(2) 研究

大学教育としての外国語教育の吟味を各外国語において行った。

①中国語においては、「最低所要学習項目リスト」が完成し、新たな指針に基づいた教育が 2 年目となり、定着するに至っている。

②ドイツ語教員第 2 回懇談会の開催。平成 18 年に続いてドイツ語の外国人教員 2 名が呼びかけ、常勤、非常勤のドイツ語教員が平成 19 年 4 月 4 日に懇談会をもち、授業の工夫改善の案等について討議を行った。2 回目の開催となるが非常に有意義なものとなった。

体育センター

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 教育

- ①昨年度末に体育センター独自の学生による授業計画を定時・集中ともに実施し、その結果を集計、各教員に配布した。質問項目ごとに評価の高かった教員の上位 5 名を体育センター内で公表した。
- ②FD では教員の相互授業研修制度の導入を試行した。
- ③共通体育に 17 名の学群教員から協力を得、センター教員はほぼ全員学群教育や大学院教育を担当するなど学群・大学院と本センターとの連携を維持した。
- ④体育専門学群の教育専攻学生のインターンシップに相当する「体育授業理論実習Ⅲ」を大多数の教員が担当した。

(2) 研究

- ①大学体育を再検討するために「知の競争時代における大学体育モデルの再構築に関する実践的研究」について科学研究費補助金を申請した。
- ②「大学体育研究」第 30 号の充実を図り、共通体育授業実践報告を掲載した。

(3) 体育施設の管理運営

- ①施設の管理運営に関し、毎学期ごとに破損箇所の点検を行い、必要な手立てを行った。また管理運営上の留意事項について、会議等で確認徹底を図った。
- ②施設整備計画については、体育科学系の教員をぼうがん網羅した委員会が新たに設立され、その委員会に施設部委員会委員の一部が参加する形で将来に向けて計画が立案されつつある。
- ③本学施設計画室 WG の中に体育施設改善 WG が構成され、はじめて施設部と体育センターとの合同による WG が発足し、体育施設全体の見直しや改修及び新設について検討された。

(4) その他（社会貢献、管理運営等）

- ①体育会活動の指導と育成、スポーツ・デーの運営協力については、その機能は十分に果たした。
- ②11 月のつくばマラソンを例年通り、つくば市、読売新聞、茨城陸協と共同開催した。
- ③12 月の全日本大学女子選抜駅伝では陸上競技場がゴールとなり、テレビによって全国に紹介された。
- ④本センター教員の指導する課外活動クラブが「つくばユナイテッド」活動の一環として地域の子供向けに多数のスポーツ教室を開催した。
- ⑤体育センターウェブサイトをリニューアルし、授業の変更などを携帯電話で確認できるようにした。
- ⑥体育センター案内パンフレットを刷新した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) 1 年次で第 1 希望科目を履修できなかった学生に次年度の優先的選択権を付与するシステムを継続し、その評価を実施した。
- (2) 学内プロジェクトとして「地域貢献に関するプロジェクト」が立案検討されたが、提出には至らなかった。
- (3) 危機管理の一環として「教育プロジェクト支援経費」の補助を受け、体育センター主催で体育科学系教員を対象とした「心肺蘇生法と AED 講習会」を昨年に続き 2 回開催した。また、AED 2 台、トレーナー 3 台を購入した。
- (4) FD 委員会が主催して FD ミーティング「教員のリスク管理能力開発の推進」を 3 回開催した。

3. 自己評価と課題

本年度も体育センターの基本的な役割は果たせたものと評価できる。

教育面では、昨年度も実施した学生による授業評価はおよそ 80% の回答率で、授業満足度が 6 段階で平均値は 5.3 であった。また学生の授業参加意欲も 6 段階の 4.9 となった。ここ数年高値安定していることを評価したい。

本年度は、1 年次の第 1 希望科目を 2 年次で優先履修可能とするシステムが始動し、学生の正課体育に対する積極的な取組み体制が満足されたと評価できる。

研究面では、30 年以上の歴史をもつスポーツ・デーの実態について、資料を収集し、大学体育研究で発表した。

懸案であった体力測定における体脂肪の測定値に関して検討され、次年度よりデータ収集を簡略化することになった。

また、地域貢献に関するプロジェクトは委員会において検討されたが、時期尚早という理由で申請には至らなかった。しかしこの分野は社会からの要求が高いものであり、継続して検討することは確認された。

体育施設の修理・改修は緊急性のあるものについてはほぼ実施された。体育合宿所は内部改修工事を終えたが、保守管理のための恒常的な予算確保が急務である。また春日地区を含めた体育施設の有効利用計画を進める必要がある。

人件費抑制に伴う補充人事の遅れが表面化し、教員の授業負担増で教育面でのサービス低下が避けられない様相を呈してきた。とくに準研究員の 6 ヶ月遅れ人事は新学期のオリエンテーションに支障をきたしている。先を見通した人事対策が課題である。

留学生センター

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 年度計画関係

① 短期留学希望者に対する留学し易い環境の整備

- ア. 本学への留学希望者向けに、国内外の留学フェア・説明会等で直接情報提供を行った。
- イ. 国際課との連携により、新規渡日の留学生に対し在留資格認定証明書の代理申請を行った。
- ウ. 私費外国人研究生の受入れ回数を増加すべく検討を重ね、20 年度から年 3 回受入れることとした（従来は年 2 回受入れ）。
- エ. 海外留学希望者の英語力向上のため、TOEFL 講座を充実させた。
- オ. 海外留学の前段階として、オーストラリアにおける夏期英語研修を 20 年度から実施すべく、現地調査や希望学生に対する説明会を実施した。
- カ. 海外留学に関する学内広報を充実させた。

② 留学生相談室と相談サービスの広報、周知

留学生向けの各種オリエンテーションや教員を対象とした指導ガイドの配布等により、留学生相談室と相談サービスについて広報、周知を行った。

③ 渡日前入学許可の早期導入

大学院における特別プログラムに対して現地での面接の実施を支援し、外国人留学生の渡日前入学許可を推進した。

④ チューターや指導教員のためのハンドブックの改訂と留学生相談指導体制の充実

留学生向けの全体オリエンテーション（計 4 回）、チューター向けオリエンテーション（2 回）、日韓共同理工系学部留学生オリエンテーションの実施や、「チューターのためのマニュアル」の改訂とオンライン化、「教員のための留学生指導ガイド」の改訂・配布、在籍状況確認の実施等により留学生相談指導体制を充実させた。この結果、単純な相談内容は少数となり、個人的な心理ケアのような、より深く高度・高次元な対応を要する相談の割合が増加した（年間相談件数約 200 件）。

⑤ 留学生（外国人学生を含む）に対する宿舎の確保等の各種支援、日本語教育、各種相談指導、地域社会との交流、短期交換留学支援等の充実

- ア. 留学生センターでは、各部門間の垣根を越えた横断的な連携体制を構築し、センター一丸となった留学生支援に取り組んだ。
- イ. 国内外の各種留学フェア・説明会に参加して本学への留学希望者に直接情報提供を行うとともに、各種相談に応じた。また、e-mail による照会にも日英両言語で対応した（年間約 1,000 件）。
- ウ. 新規渡日の留学生に対して学生宿舎の確保に努めた。また、日英両言語による各種オリエンテーションを実施した。
- エ. 個々の地域交流団体等との交流事業を推進するとともに、各地域交流団体、奨学団体が一同に会する意見交換会を開催した。意見交換会では、本学の留学生交流の取り組み等について担当副学長から説明を行うとともに、各団体から本学への要望等を聴取した。
- オ. カリキュラムの抜本的見直しを行い、日本語教育の充実を図った。
- カ. 問題を抱える留学生に対し、複数言語によるよりきめ細かな、心理性格相談を含む質の高い相談指導を行った。また、指導教員、チューター、教育組織、支援組織からの相談にも多数対応した（相談件数の約 15%）。
- キ. つくば中央警察署の協力を得て、留学生のための安全講話を 2 回開催した。
- ク. 筑波大学短期留学国際プログラム（短期留学生向けの英語による特別プログラム）の充実方策について検討し、20 年度から新規科目を開設することとした。
- ケ. 筑波大学留学生後援会による各種事業を推進した。

⑥ UMAP の UCTS による単位互換方式の活用の促進

派遣学生が所属する教育組織と協議し、単位互換のための最低申請科目数などを決め、それに即して学生を指導した。また、カリフォルニア大学との間で UMAP 単位互換方式（UCTS）を活用した。

(2) 重点施策・改善目標関係

① 留学生専門教育教員の分散化に伴う、全学的な連携支援体制構築の呼び掛けに加えて、国際連携室での検討を踏まえた、全学的な留学生受入れ体制の整備・充実

大学執行部、国際連携室、留学生センターを中心に、留学生受入れ体制を含めた全学的な国際連携推進体制の整備について検討を進めた。

② 日本語補講の成績処理システムの構築と運用

情報化推進室の協力を得て成績管理処理システム（ISCCMS）を改善した。

③ 日本語補講の教育効果の測定と効率的なカリキュラムの再編

- ア. 「日本語能力測定システム（Placement Test、Spot、レベル認定テスト等）」を構築し、運用した。このシステムの導入により、受講生の日本語能力を短時間に測定し、効果を上げることができた。
- イ. 日本語補講の受講生に対し各学期授業評価アンケートを行い、教育効果を測定した。
- ウ. 従来のカリキュラムを抜本的に見直し、より効率的なプログラムとした。また、受講生が多い授業については、2 クラスの並列授業を開講した。

- ④在外現職日本語教師（韓国等）に対する日本語再教育プログラムの検討と実施
京畿道外国語教育研修院（韓国、協定校）との日本語再教育プログラムのカリキュラムを検討し、同研修院において平成19年8月末から4週間、当センターにおいて平成20年1月初旬から4週間、現職日本語教員に対する再教育研修を実施した。
- ⑤つくば市における日本語教育・交流の促進
つくば都市振興財団のボランティア養成講座の一環として、「日本語e-learning」の教材を開発し、実施した。
- ⑥web 日本語テスト（「日本語能力測定システム」）の本格的な実施
各学期、web 日本語テストをPlacement Testの一部として実施し、同テストの効率化を図った。
- ⑦オリエンテーション資料（ビデオ・スライド）の改訂と充実
学内組織の改組再編に伴い、各種オリエンテーション資料（ビデオ・スライド）を改訂した。
ア. 事務部門が実施する「到着オリエンテーション」の内容を考慮して、相談指導部門による「新入留學生オリエンテーション」の内容を重点化した。
イ. 「新入留學生オリエンテーション」の内容と視聴覚材料の経常的改訂、合理化に加えて、今年度はつくば中央警察署の協力を得て、安全講話を2回実施した。
ウ. 私費外国人研究生の受入れ時期の増加に対応して、12月にもオリエンテーションを開催した。
- ⑧在籍状況確認と指導教員へのフィードバックの実施
ア. 4度目の「留學生の在籍状況確認」を実施した（平成16年度から開始）。在籍状況に懸念のあるケースに関してフィードバックを行い、問題の早期発見に努めるとともに、懸念のあるケースの多くを早期解決に導いた。
イ. 並行して、全留學生の在留期限の確認作業を実施した。
- ⑨指導教員・チューター用の留學生指導ガイドの改訂発行（年度計画と一部重複）
「教員のための留學生指導ガイド」を改訂した。また、「チューターのためのマニュアル」をオンライン化した。
- ⑩海外留学に関する学内広報の充実
海外留学専用掲示板の充実、海外留学説明会の周知徹底等を行った。また、「海外留学ミニガイド」（仮称）を作成すべく準備を進めた。
- ⑪海外留学希望者のニーズを考慮した「TOEFL講座」等の充実
TOEFL 講座受講者の英語力により、入門者コースと上級者コースの2コースを開講し、それぞれのレベルで内容を強化した。また、TOEFL 講座受講者には、TOEFL-ITP（模擬試験）を受験させることで目的意識を明確にさせ、学習意欲を向上させるよう努めた。
- ⑫「筑波大学短期留学国際プログラム（JTP）」のカリキュラム充実の検討
JTPのカリキュラムをさらに充実させるために、新科目を数科目提供することを決定した。
- ⑬教育組織と連携した、UMAPの単位互換方式（UCTS）の利用の促進等、短期留学における単位互換の促進に向けた支援（年度計画と一部重複）
派遣学生が所属する教育組織と協議し、単位互換のための最低申請科目数などを決め、それに即して学生を指導した。また、カリフォルニア大学との間でUMAP 単位互換方式（UCTS）を活用した。
- ⑭協定校への派遣学生を増やすための方策の検討（年度計画と一部重複）
ア. 海外留学希望者の英語力向上のため、TOEFL 講座を充実させた。
イ. 海外留学の前段階として、オーストラリアにおける夏期英語研修を20年度から実施すべく、現地調査や希望学生に対する説明会を実施した。
ウ. カリフォルニア大学及びコロラド大学の夏期語学研修に学生3名を派遣した。
エ. 海外留学説明会における説明内容を充実させた。
- ⑮教育組織と連携した、派遣学生に対する危機管理の体制の充実
留學生センター対応の協定校への派遣学生の危機管理について、教育組織との協議に基づき指導を行った。
- ⑯日本語教員の研修・研究活動の充実
国内外の学会、研究会等の積極的に参加した。
- ⑰e-learning・遠隔教育のための日本語教育教材の研究開発促進
留學生センターの日本語教師に対し、ICT（情報通信技術）を使用する授業に関するアンケート調査を行い、ニーズ等の現状を把握した。また、中級教材の整備・拡充を行った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) 授業評価のアンケートに基づいた評価結果報告書によって授業改善とカリキュラム再編を行った。
- (2) 地域研究研究科の改組再編の検討に伴い、留學生センターで実施している日本語のカリキュラムを見直した。
- (3) 「日本語能力測定システム」を、将来、遠隔教育システムに組み込む可能性について、検討を行った。
- (4) 留學生受入れ時期の多様化に応じて、相談部門と事務部門の密な連携のもとに、使用言語も含めて個々の受入れ状況に柔軟に対応したオリエンテーションを実施した。今後もこのような多様化への対応を進め、受入れ業務の効率化・有効化を図る。

- (5) 留学生対象の安全講習を英語で行うなど、入国管理と安全・治安に関わる面をつくば中央警察署との連携を強化した。
- (6) 本学の短期留学制度（派遣・受入れ）について留学生センターで検討を続けている。
- (7) 海外での安全・危機管理について関係教育組織を協議しつつ、学生指導を行っている。

3. 自己評価と課題

留学生センターでは、部門ごとにそれぞれの業務を遂行するとともに、新たな支援方策の導入や改善に努めた。日本語等教育部門では、カリキュラムの見直しを行い、より効率的な授業を行った。また、相談指導部門では、オリエンテーションと連動して留学生に対する安全講話を新たに実施するなど、きめ細かな相談指導業務を行った。短期留学・交流部門でも、海外留学の活性化の一環としてオーストラリア夏期英語研修導入の準備を行い、20年度から実施する体制作りを行うなど、センター全体として留学交流の促進と留学生に対する支援を強化した。

また、各部門間の連携を強化するため、留学生センター連絡会を原則毎月開催して、学内外の国際連携の動向や留学生交流をめぐる各種情報の共有等に努めるとともに、留学生センターのあり方について議論を重ね、今後の方向性について一定の共通理解を得ることができた。しかしながら、部門ごとの具体的な業務内容等については今後の検討課題となっている。

アドミッションセンター

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) アドミッションセンター入学試験（AC 入試）の企画立案と実施

- ①教育組織（学群・学類）と協議し平成 21 年度から以下の 3 つの変革を行うこととした。
- ②6 学類で国際科学オリンピック特別選抜をアドミッションセンターが実施する入試として企画・立案。
- ③国際総合学類の AC 入試（4 名）を廃止。
- ④数学類、物理学類、化学類で AC 入試募集人員を各 2 名と定員化した（合計 6 名増募）。

(2) 入学者選抜方法の調査・研究

- ①入学者選抜に関する調査・研究を行い、推薦入学、個別学力検査のための参考資料を提供した。
- ②19 年 5 月、全国大学入学者選抜研究連絡協議会第 2 回大会において次の 2 件の研究発表を行った。
「AO 入試『志望理由書』の研究－何がどう書かれたか－」（島田准教授）
「『AO 入試制度』の評価に向けて－入学者選抜の「当事者」および企業人担当者へのディスカッション調査を通じて－」（全センター教員）
- ③入試研究会を開催し、模擬試験での志願状況などの情報を教育組織に伝えた。教育組織の入試担当者など 37 名が参加した。
- ④授業の成績によらない学生評価のため、学長表彰、学群長表彰者の調査を行った。

(3) 入学広報

- ①筑波大学入学案内 2008 の編集、発行を行った。
- ②アドミッションセンターの教職員が、高校での説明会や会場設定型の説明会 73 カ所に参加した。
- ③秋葉原地区での東京リエゾンオフィス(TLO)において受験生向けの広報・進学相談コーナーを開設し相談業務を開始した。
- ④大学説明会日程、進学説明会日程、募集要項、試験結果、過去問題など、受験生や高校が大学に求める情報を教育プロジェクトにより「学群入試」Web に反映させ、入試情報を充実させた。
- ⑤「大学説明会」の個人からの参加申込受付を学群入試の Web サイトにおいて行い、受験生の申込手続きの改善を図った。
- ⑥「大学説明会」の一部の催しの参加申込受付を携帯電話サイトにおいて試験的に行った。
- ⑦教育プロジェクトにより、TLO の協力、キャリア支援室、就職課の参加も得て、秋葉原地区において春の進学説明会を開催した。のべ 546 名の参加申込があった。
- ⑧学外における大学説明会の自主開催の検討を行った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- ①AC 入試 I 期生物学類のセンター試験成績の利用を廃止し、よりアドミッションポリシーに即した選抜を行った。
- ②筑波大学入学案内 2008 の編集に際し、卒業時の教員免許取得実績など新たに情報を追加するとともに、広報戦略室にデザインを依頼し、教育組織ごとにアドミッションポリシーを記載して視認性を高めた。
- ③広報戦略室開設の自由科目「筑波大学を創る」の協力により入学案内について学生からの意見を集めた。

3. 自己評価と課題

- ①AC 入試を支障なく実施できた。
- ②5 分野の国際科学オリンピックの成績優秀者を対象とした特別選抜を 6 学類で実施する運びとなったことは評価できるが、実際にどのくらいの志願者があり合格者を得られるかが課題。
- ③学長表彰、学群長表彰に AC 入試による入学者が多かった。これまでの AC 入試の成果と考えられる。
- ④教育組織と連携しつつ全国 70 ヶ所以上の進学説明会に参加し、のべ 1000 名以上の受験生等に対する面談、講演等を行ったことは広報上の効果大と評価。予算が少ない中でどのように続けていくかが課題。
- ⑤新入生アンケートにより「入学案内 2007」の効果が大きかったことが分かった。広報戦略室との連携の成果と考える。

産学リエゾン共同研究センター

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 企業等との共同研究、受託研究の増大と研究成果の社会還元への促進

企業出身者である技術移転マネージャー 2 名、ビジネス・インキュベーション・マネージャー 1 名、文部科学省派遣産学官連携コーディネータ 1 名を雇用するとともに、本学名誉教授等であるシニア・コーディネータ 8 名を委嘱するなど、リエゾン活動を推進する体制の整備を図った。

平成 19 年度は 12 回の研究開発交流会等の開催、14 回に及ぶ科学技術相談会の開催及び出展等を行ったほか、外国を含め他大学や行政機関等から 18 回、延べ 216 名の来訪者が当センターを訪れた（最近 5 年間で 1 千名を超える来訪者があった）。

これらにより、共同研究（335 件、857 百万円、前年度比 151 百万円、21.4%増）及び受託研究（211 件、2,404 百万円、前年度比 587 百万円、32.3%増）の大幅な増加をみた。

また、発明届出件数は 179 件（うち 98 件について本学承継を決定）、前年度に比べ 47 件、35.6%の増をみたほか、特許権実施料等収入でも 27,975 千円となり、前年度の 4,400 千円から大幅に増加した。このように本学では発明の届出が大幅に増加しているが、特許出願に関しては他大学に先駆けて精選の方針を打ち出し、届出のあった発明のうちの約 2 分の 1 について承継し特許出願することとして特許関連費用をできるだけ抑えるとともに、実施料等収入の増大に努めた。

さらに、本学が企業と共同で開発した第二世代高速 OCT 機（眼底像撮影装置）に関して、技術移転マネージャーが共同研究の組織化に寄与し欧米に先行して製品化に結び付けることができた。このため、産学連携により技術的ギャップである死の谷を乗り越えた成功例として、文部科学省の大学知的財産本部整備事業に関する総合評価書（平成 19 年 12 月）において、当該事業の 3 つの成果事例のうちの 1 つに取り上げられた。

(2) 本学発ベンチャーの増大と育成支援

平成 19 年度において 6 社の筑波大学発ベンチャーが新たに設立され、平成 20 年 3 月末現在で累計 68 社となった。これは平成 16 年度～18 年度の 3 年間連続して年間ベンチャー設立数が全国第 1 位であったのに続いて国公立大学の中でもトップクラスの設立数である。（19 年度の全国順位はまだ集計されておらず不明）

また、筑波大学発ベンチャーの中でも、CYBERDYNE(株)は第 5 回産学官連携功労者表彰（平成 19 年度）において経済産業大臣賞を受賞した（山海嘉之教授及び本学知的財産統括本部が共同受賞）。さらに、ソフトイーサ(株)が平成 19 年度情報化月間情報化促進貢献企業等表彰の中の経済産業大臣表彰「情報化促進部門」に選出され、(株)つくばウェルネスリサーチ代表取締役社長久野譜也准教授が“Japan Venture Awards 2008” 起業家部門委員長特別賞を受賞した（平成 20 年 2 月）。

(3) 公募プロジェクト方式による産学連携活動の支援

平成 19 年度の産学連携推進プロジェクト（共同研究・創業支援・ベンチャー支援）の募集を全学に向けて行い、その結果 13 件の応募があり、さらにベンチャー支援プロジェクトに関する追加募集で 2 件の応募があった（計 15 件）。これらについて学外委員を含めた専門研究者等により構成した審査委員会において厳正な審査を行い、8 件のプロジェクトを採択した（共同研究プロジェクト 3 件、創業支援プロジェクト 1 件、ベンチャー支援プロジェクト 4 件）。これらのプロジェクトは、年度当初から研究が開始され、継続分と合わせて 23 件のプロジェクトが進行した。これらのうち共同研究・創業支援プロジェクトについては、平均 260 万円の研究費支援を行ったほか、ベンチャー支援プロジェクトについては研究用スペースの提供を中心とした支援を行った。

(4) 知的財産統括本部と連携しての本学知的財産管理体制の整備

平成 19 年度において、100 件以上の共同研究等の契約事務に対応するとともに、179 件の発明等の届出について職務発明の認定及び承継の判定を行った。また、ILC 教授兼利益相反アドバイザーが学内教職員からの 10 件の利益相反に関する相談に対応して問題の発生を未然に防止した。さらに各研究科におけるヒトを対象とした研究に係る利益相反取扱いの作成等を指導するとともに、利益相反委員会や利益相反アドバイザーボードの各種見解の取りまとめを行った。

(5) 産学官連携に関する調査研究の充実とそれに基づくシステム開発

筑波大学発ベンチャーに関する学内調査を実施（8 年度目）し、それに基づくベンチャー支援策の充実を図るとともに、過去 6 年間の大学発ベンチャーに関する全国調査を分析した論文を学会誌に発表した。また、大学と企業との共同研究における発明者の特定と特許出願時の持分認定に係る全国調査に関する論文を 2 編、大学知的財産本部整備事業における大学評価に関する論文を 1 編それぞれレフェリー付き学会誌に発表した。さらに、全国の国公立大学教員並びに国立大学法人経営協議会委員を対象として「大学における産学連携に係る倫理基準の構築に関する研究」のためのアンケート調査を実施するとともに、過去 10 年間の主要全国紙から産学連携に係る倫理に関する新聞記事をすべて抽出し、新聞における問題意識と倫理基準に関する調査を行い、これらの結果を次年度に報告書及び論文として取りまとめることとしている。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1) 本学発ベンチャーの支援のためのベンチャー・キャピタル等との提携

日本アジア投資(株)と提携してビジネス・プラン作成支援を受けるとともに、同社と共同でつくばテクノロジーシード(株)を設立して早期の技術シーズに対して少額の資金の投資を行う仕組みを整備した。

また、本学卒業生や企業OB等により本学発ベンチャーを支援する組織として、「筑波大メンターの会」を結成し、メンターと本学発ベンチャーのマッチングやベンチャー経営者と学生との交流会等の活動を支援した。

(2) 本学保有知的財産の積極的活用のための体制整備

本学では知的財産権の管理を徹底させることと併せて、研究成果の活用やその事業化を推進することにより、社会貢献を実現することに力を入れている。このため、平成19年度は、以下のように、他大学や企業における本学保有の知的財産権の無償使用を簡便な手続きにより認めることとした。目先の利益の追求よりも、企業との共同研究の拡大や本学の研究成果による社会貢献の実例の増大が将来の大きな利益につながると考えられるからである。

①平成19年度から筑波大学が3つの分野(トマト、粘菌、カタユウレイボヤ)において文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクトの中核的拠点(ただし、カタユウレイボヤはサブ拠点)に新規採択されたことに伴い、MTA(Material Transfer Agreement)のひな型を作成し関連規約の整備を支援した。

②科学技術振興調整費の重要課題解決型研究の一つとして筑波大学が中心となって開発した高セキュリティ機能を持った次世代OS環境「セキュアVM」を実現するソフトウェア「BitVisor」を世界に向けて発信していくために、この基本的なソフトウェアを無償で公開(オープンソースソフトウェア)することを決定し、平成20年3月からの公開の実現に寄与した。

③総合科学技術会議の提案を踏まえ、本学保有の知的財産権を他大学等における非営利的目的による研究に使用する場合はむしろのこと、企業における研究であっても基礎研究や事業化段階に入る前の研究に使用する場合には、簡便な手続きにより原則無償で使用できることを認めていく方針を確認した。総合科学技術会議の場合は、大学等での使用の場合は原則無償とし、企業での使用の場合は、政府資金が原資であるかどうかなどを考慮し、合理的な範囲で円滑な使用に配慮するものとしているが、本学においては、企業における使用の場合も、事業化段階に入る前の研究での使用については原則無償とし、これによって、むしろ企業との共同研究の拡充につながり、本学の研究成果の事業化に結び付きやすくなることを期待することとした。

(3) 地元金融機関等及び業界団体、つくば市、茨城県等との提携

地元金融機関(常陽銀行等)と提携してベンチャーの上場準備の支援(費用折半による人材の派遣)を受けるとともに、茨城産業会議やつくば市、茨城県等とも提携して共同で産学連携を推進した。

(4) 本学名誉教授等の活用

本学名誉教授等をシニア・コーディネータとして活用して、企業出身の技術移転マネージャーや産学官連携コーディネータ等と組み合わせることにより、企業の需要に応じたきめ細かなコーディネート業務を推進した。

3. 自己評価と課題

- (1) 本学では産学リエゾン共同研究センターの専任教員2名のほか、技術移転マネージャー2名(常勤)、ビジネス・インキュベーション・マネージャー1名(非常勤)及び産学官連携コーディネータ1名(常勤)が産学リエゾン共同研究センターと知的財産統括本部の業務を兼務する形態を取り、これにより共同研究支援と技術移転の業務を兼務する体制ができ、共同研究と特許権実施料等収入の大幅な増大に結び付いた。
- (2) このように本学では他大学にない独自の産学連携推進体制を整備し、このため知的財産統括本部の設置においても既存の定員を最大限に活用するとともに、企業出身者でも常勤3名、非常勤1名という最小限の人員により最大限の効果をあげることができた。しかもこれらの企業出身者の雇用経費はすべて文部科学省の競争的資金を獲得したことによるものである。
- (3) 今後の課題としては、産学連携に関する内部人材の育成、特に契約、知的財産、国際産学連携活動に関して、外部人材の活用を図りながら自前の人材を育成していく必要がある。

北アフリカ研究センター

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

- (1) JBIC（国際協力銀行）奨学金によるチュニジア留学生を研究生として受入れ
15名のチュニジア留学生を受入れ、平成20年4月より各々担当教授の指導の基に博士課程において博士号の取得を目指し勉学中である。
- (2) JICA（国際協力機構）研修生の受入れ
バイオテクノロジー部門及び水環境部門において4名のJICA研修生を受入れ、研修成果報告会において関係教員からの評価も実施した。また、テクノパーク運営管理研修を2月に実施した。
- (3) 国際交流協定
エジプト・アインシャム大学との国際交流協定締結の参加機関として本センターが加わり、研究者・学生交流の活動範囲を広げた。
- (4) JICA（国際協力機構）専門家派遣
①前年度に引続き森尾講師を長期専門家として派遣している。
②安部特任教授を短期専門家として2回チュニジアへ派遣し、テクノパーク建設に関わる研究推進事業に対して適切な助言・指導を行い、JICAほか関係省庁担当者会議にて報告書の説明を行った。
- (5) アラビア語学研修派遣
チュニジア政府奨学金により、アラビア語学研修に本学学生7名を1ヶ月間派遣し、語学以外にも現地の文化・学生交流を体験させた。
- (6) エル・カンタウィ・フォーラム：チュニジア-日本 文化・科学・技術学術会議（TJASSST2007）
TJASSST2007も8回目の開催となり本センターのコーディネイトにより、国内から21大学・機関の94名が参加し、そのうち75名が研究発表を行った。
- (7) 概算要求（研究推進）事業費の獲得
平成20年度からの文部科学省の概算要求（研究推進）事業費を申請し、各年2000万円、5年間の事業費を獲得することができた。
- (8) 各種助成金への申請
文部科学省国際協カイニシアティブ教育協力拠点形成事業及びJICA課題別研修事業の採択ならびに複数の科学研究費補助金及び民間企業助成金への申請を行った。
- (9) 全学独立センター
本センターは、学内共同教育研究施設の一つとして生命環境科学研究科の関連センターの位置づけで平成16年4月1日に設置されたが、生命環境科学研究科の活動範囲を超えてより広範な事業の戦略的な展開を目指していること、さらには、本格的に文理融合型の研究活動を可能とするために、大学の研究及び国際戦略の下、独立して運営を行う全学的なセンターとして位置づける必要があるとの観点から、平成19年4月1日に全学独立センターとなった。
- (10) パンフレット刷新
センター各種事業の研究成果を逐次「速報つくば」により学内広報するとともに、全学独立センターとして新たにパンフレット（和・英）を刷新し、学内外への宣伝を行った。
- (11) 共同研究員・客員共同研究員
共同研究員及び客員共同研究員の充実ならびに財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センターとの協力に合意した。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) 教育
文部科学省「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業において「一村一品プロジェクトを支援するバイオアッセイ技術習得のための食農環境教育モデルの構築」事業が採択され、スファックス大学およびスファックスバイオテクノロジーセンターから2名の博士課程大学院学生を2ヶ月にわたり招聘し、バイオアッセイ技術に関する教育指導を行った。
- (2) 研究
①チュニジアとの国際共同研究である、「チュニジア乾燥地生物資源からの有用成分探査プロジェクト」および「チュニジア乾燥地水資源リスク評価プロジェクト」を推進し、国際誌5報、特許出願優先権主張2件の研究業績を得た。特に、チュニジア産オリーブおよびアロマ植物の機能性解析に関する研究では、本センターを中心として、産業技術総合研究所、食品総合研究所の国内先端研究機関の研究者らと共同で推進し、国内における中心的地位の確立に努めた。また、コスモ石油との共同研究により、研究員を雇用するとともに乾燥地環境保全型農業の研究を推進させた。
②世界遺産専攻で招聘したりビアの研究者3名が、センター客員共同研究員室において1ヶ月間研究を行ない、連携を図った。
③ヨルダン科学技術大学 MAJED ABU-ZREIG 教授を乾燥地農業技術に係る共同研究の一環として1ヶ月間招聘し、講演会等を開催し研究交流を図った。
④外務省 ODA 関連プロジェクト「地球規模課題対応型国際科学技術協力事業」申請に向け準備を行った。
- (3) 研究員教員制度を構築

共同研究員制度によりセンター各種研究事業への協働作業を行ってきたが、大型外部資金獲得にあたり、国際担当副学長と相談の上、新たに研究員教員制度を構築し、より戦略的で先進的な研究推進が可能となった。

(4) ホームページのリニューアル

ホームページのリニューアルに着手し本格的に学術情報メディアセンターのサーバーを活用し、年度初めにコンテンツの充実・情報発信、センター宣伝を積極的に行った。

3. 自己評価と課題

(1) 自己評価

- ①文部科学省の平成 20 年度からの研究推進事業費（概算要求）を獲得することができ、センター事業に必要な契約研究員を配置する可能性が開けた。
- ②JICA 研修生の受け入れ、JBIC 奨学金によるチュニジア留学生の博士課程入学など人材育成事業を展開した。
- ③ブルギバスクールへの本学学生派遣について、組織的に取り組んだ。
- ④エル・カンタウィ・フォーラム：チュニジア-日本 文化・科学・技術学術会議（TJASSST2007）をチュニジアと共同主催した。
- ⑤教員実行定員を 2 つ確保した。
- ⑥大型助成金へトライし、国際協カイニシアティブ事業、JICA 課題別研修事業が採択された。
- ⑦研究員教員制度の構築により、大型外部資金獲得のための協力体制を確立した。
- ⑧HP リニューアルに着手し、学内外、海外への学術研究活動の宣伝を活発化した。
- ⑨定例セミナーを 10 回、開催した。平成 20 年 3 月 16 日にはチュニジアの研究者を 4 名と文科省の国際統括官を招聘して、東京キャンパスにおいて特別国際セミナー「北アフリカ地域と日本の知的パートナーシップ：チュニジアとの学術交流の成果と今後の課題」を開催し、57 名の参加者を得て盛況であった。

(2) 課題

- ①エジプトカイロ大学及びリビア大学院アカデミーとの国際交流協定締結が平成 19 年度中に完了しなかった。
- ②全学独立センターとして位置付けられた後の拡大する活動に必要な予算について、恒常的確保が十分でない。
- ③センターの将来計画やビジョンを中長期的な視野で検討し、研究やセンター活動の軌道修正などに取り組むための検討を行なう機会をもっと増やす必要があったが、平成 20 年度から支給される文科省研究推進事業費によって、センターの 4 分野が北アフリカ学構築に向けて、さらに発展することが期待される。

研究基盤総合センター

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

- (1)平成 18 年 4 月より 4 部門構成となり、より有機的な運営を目指し、幅の広い学内教育研究活動支援業務を行っている。
- (2)センター各部門における達成状況は以下のとおりである。

<応用加速器部門>

- ①12MV タンデム加速器、1 MV タンデトロン加速器とその周辺装置の維持管理により、高効率かつ安定なビーム供給を達成し、学内外の研究、教育、産業利用に貢献した。
- ②文科省先端研究施設共用イノベーション創出事業を開始し、企業研究者によるイオンビーム分析、微細加工、照射試験の産業利用（総計マシンタイム約 600 時間）を推進した。
- ③共同利用における有料サービス化を目指して取り扱い機器の自動化、簡素化が進められた。
- ④中華人民共和国よりポストドク 1 名を招き、加速器質量分析の共同研究が行われた。
- ⑤ビーム放射線・放射線計測の応用分野に関するセミナー（3 月 26 日秋葉原ダイビル）にて実施した。

<低温部門>

- ①低温寒剤の安定的な供給が成された：3 月 31 日現在で低温寒剤の供給量は次の通り。（ ）内は前年度値
液体ヘリウム：79,534 ㍑ (82,906 ㍑) 液体窒素：331,654 ㍑ (309,640 ㍑)
低温寒剤の利用は 4 研究科 24 専攻、2 学類、6 センター、222 研究室に広がり、全学における教育・研究・診療活動に寄与した。
- ②液体窒素密閉容器検査所として 19 年度には全学で 30 本の低温容器再検査を行い、教育・研究活動を支援した。
- ③低温関連の大型装置を共同利用に供し、研究活動を支援した。大型装置共同利用者数 58 名 (36 名)

<分析部門>

- ①ガスクロマトグラフ質量分析装置のライブラリーソフトを搭載し、利用者のデータ解析の便を図った。
- ②プラズマ発光分光分析装置に水素化物発生装置を装備し、良質のデータ提供を可能にした。
- ③自動 X 線回折装置のデータ処理装置を更新し、利用者の便宜を図った。
- ④核磁気共鳴装置 (AVANCE600) のデータ処理装置更新を行い利用者の便宜を図った。
- ⑤国立大学法人機器・分析センター会議に参加し、連携を図った。

<工作部門>

- ①依頼件数及び納期は前年並みの水準を維持した。
- ②機械工作の実技講習会、ガラス実技講習会を通年で実施した。
- ③学園都市内他組織（産総研、物材機構等）との技術交流について職員レベルで推進を行った。
- ④今年度の結論として、各組織の工作部門が協議し互いに協力し合っていく方向で協議に入ることが決まったが、筑波大学としては更に具体的な案件を基に試作協力を行い、実績を積み重ねることとした。
- ⑤技術水準を維持するため老朽化設備を除却し、フライス盤等新規工作機械の導入を行った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

<応用加速器部門>

主に高校生の施設見学を継続的に受入れている（19 年度は 744 名）

<低温部門>

低温寒剤利用者への保安教育の一環として低温寒剤利用説明会を開催し（4 月 11 日、12 日）教職員 15 名（昨年度 30 名）、学生 377 名（昨年度 410 名）の受講があった。
施設見学では、19 年度は 430 名を受け入れ、広報活動に努めた。

<分析部門>

研究基盤充実を目指す化学系研究設備有効活用ネットワークに参画し、北関東地域の幹事校として取り組んでいる。19 年度はネットワークの試行が行われた。

<工作部門>

- ①学類の授業に関連した試作業を一部優先的に実施した。
- ②内作利用の推進、設計指導の強化を行った。

3. 自己評価と課題

各部門で共通な課題は施設の老朽化とサービスの基盤をなす機器の老朽化で、更新が大きな課題となっている。

<応用加速器部門>

施設内に老朽化対策（床、壁、屋根等の修理）を必要とする箇所が多数ある

<分析部門>

全学共同利用部門として広範な専攻分野の利用があり、利用頻度の高い部門としての役割を果たした。教育研究で今後も必要とされる大型分析機器の老朽化に対応した更新が課題である。

アイソトープ総合センター

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況
 - (1) 生物および理・工学系の幅広い研究者が放射性物質や放射線を取り扱う共同利用施設として、その維持・管理を行った。
 - (2) 学外放射線施設利用者に対して筑波大学側の窓口としての役割を果たした。
 - (3) 放射線作業従事者としての登録者は 225 名で、その内当施設利用者は 46 名である。
 - (4) 放射線の研究を行うために必要な初心者教育は 5 回の開催で 243 名が修了した。
 - (5) エックス線装置の安全管理体制の確立と放射線漏洩測定等の指導および実施を行った。また、新人のエックス線作業員への初心者教育を 2 回開催し 90 名が修了した。
 - (6) 高校生対象の「身近な放射線」の授業が 1 回行われた。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫
エックス線装置の安全管理体制については、放射線管理委員会およびエックス線管理専門委員会の決定に基づき全学一斉の初心者教育の実施と放射線漏洩測定に関する体制の確立をアイソトープ総合センターが中心となって行い、制度の定式化を図った。

3. 自己評価と課題
全学についての放射線同位元素及びエックス線装置等の管理について指導、助言、及び支援を行うことがセンターにおける役割の大きな位置付けとなったと考えて運営を行い、成果を挙げたことを評価している。特にエックス線装置の管理については、大学内で個々のエックス線装置責任者に任せて進められてきた放射線漏洩測定や初めての作業従事に関する教育を大学全体で一元化することを制度的に定式化できたことは評価される。

保健管理センター

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) カウンセリング機能及び修学相談等学生生活全般の支援機能を充実

- ① カウンセリング及び修学相談等の学生相談及び精神衛生相談は、平成 18 年度と同様に心理カウンセラー（教員 3 名、非常勤 2 名）と精神科医師（教員 2 名、非常勤 1 名）の体制で行った。学生相談の延べ利用者数は 2,809 人、精神衛生相談は 2,951 人で、平成 18 年度と比較しそれぞれ 24 人、185 人増加した。
- ② 精神・心理的問題を持つ学生に対し、保護者や教職員等との連携を図りながら、個別の精神衛生相談や心理相談活動を実施した。また、修学や進路等の問題についての相談・支援活動も実施した。
- ③ 精神・心理的問題予防のために、オリエンテーションや広報誌等により啓発活動を実施した。また、学生の心理発達教育のためのキャンパスライフセミナーを開催した。
- ④ 学生生活支援室や学生担当教員室等と連携し、その活動に協力した。また、学生生活支援担当教職員に対する学内研修会の実施・協力を行った。

(2) 学生の心と身体の健康管理に対する専門的支援を充実

- ① 学生の健康管理のために、一般定期健康診断及び特殊健康診断を実施した。一般定期健康診断の受診率は学群生 86.3%、大学院生 57.7%であった。異常者に対する再検査・精密検査や生活指導・食事指導等の事後措置を行うとともに、専門的医療が必要な場合には、附属病院等と連携しながら対処した。
- ② 学生に対する診療、健康相談及び応急措置等については、内科、整形外科、歯科、精神科で実施した。より専門的医療が必要な状態の場合には、附属病院等の医療機関への紹介を行う等、適切に対処した。
- ③ 学内の感染症対策として、全国的な成人麻疹の流行に対する大学の緊急対策に協力し、感染者の把握を行うとともに、麻疹流行に対する啓発活動や教育実習等の学外実習者に対する麻疹抗体検査及びワクチン接種を実施した。その他、学生・教職員を対象とした破傷風予防接種、医学専門学群生を対象とした B 型肝炎ウイルスワクチン接種やツベルクリン反応検査を実施した。
- ④ 健康診断証明書の発行については、平成 20 年 1 月から自動発行システムの稼働が開始され、学生の利便性が向上した。定型外の証明書については、従来通り保健管理センターで発行した。
- ⑤ 保健管理センター内の掲示物、ホームページ、パンフレット配布、広報誌等への執筆や講演等を通して、健康や安全衛生に関する最新でわかりやすい情報提供に努めた。
- ⑥ 第 45 回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会を主催し、学生・教職員の心身の健康管理に関するテーマについて専門家の講演会及びその後の討論を通して、本学のみならず関東甲信越地区の高等教育機関の保健管理施設に働く担当職員を対象に健康教育を行った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) 平成 17 年度に実施した学生生活アンケートの調査データをもとに、学群生と大学院生約 11,000 人の類型化を試み、筑波大学で現在必要とされる学生支援の方策などについての基礎資料を作成した。
- (2) キャンパスライフセミナーの内容や対象を再検討し、全学的なより一般の学生を対象とするものにリニューアルした。
- (3) ハラスメント委員会と連携し、ハラスメント相談員の研修を担当した。
- (4) 保健管理センターの教員 5 人が大学本部等事業場など 4 事業場の産業医を、保健師・看護師 2 人が大学本部等事業場の衛生管理者を担当し、職場及び学生の修学環境についての巡視、健康診断結果に基づいた相談・指導、安全衛生委員会への出席、長時間労働者への面接指導等の活動を実施した。また、環境安全管理室と連携し、大学における安全衛生の推進に努めた。

3. 自己評価と課題

学生相談では、アカデミック・ハラスメントの問題等、相談内容が広範かつ複雑になっている。ハラスメント問題では学生相談室のみの対応では限界もあり、この点をマネージメントできる組織・体制を確立する必要がある。また、学生相談機能のさらなる充実のためにマンパワー強化の検討が必要である。精神衛生相談に伴う薬物療法のために薬剤費が増加しセンター予算を圧迫しているが、早期の治療が必要なことが多く本学周囲に精神科の医療機関が少なくこと等から、今後もセンターでの診療は継続する必要があると考えられるが、利用者数が年々増加している現状から今後の方針についての検討が必要である。

成人麻疹の流行に対し感染者数の把握、啓発活動、教育実習等の学外実習者に対するワクチン接種等を実施したが、今後新型インフルエンザの流行も危惧されており、大学としての対応策の検討が必要と考えられる。

5 附属図書館

1. 平成19年度年度計画及び平成19年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況

(1) 教育・研究支援

① 図書、雑誌、電子媒体等を系統的に収集整備

教育・研究用学術図書(8,321冊)、人文社会系コレクション(235冊)、参考図書(1,128冊)等の他、寄贈図書の収集にも積極的に努め、総計25,266冊の図書を収集整備した。

また、雑誌については、一部購入タイトルの見直しを行った上で、継続して提供するとともに、平成18年度拡充した電子的資料を継続して提供した。

② 利用者サービスの充実・強化を図るとともに、館内環境の改善等により、来館者の増加、利用者満足度の向上を図る。

学生希望図書のWeb申し込み受付開始、教員向けにe-DDS(学内の図書館所蔵雑誌の文献複写電子デリバリーサービス)の開始、図書搬送サービス申し込みのWeb化等を行うとともに、附属図書館Webサイトの改善等図書館ポータル機能の向上に努め非来館型サービスの強化を図った。

また、運動障害学生の利用環境を改善するために、車椅子用机を中央図書館に増設し、体育・芸術図書館・医学図書館に新たに設置した。さらに、自動貸出装置の更新・増設、視聴覚メディアカウンターのメインカウンターとの統合、新着図書コーナーのリニューアル等の館内環境の改善を行ったほか、中央図書館エントランスを改装してコーヒージョップを設置するなど来館者の増加、利用者満足度の向上を図った。

③ 図書館蔵書コレクションの充実を図るために選定方針の見直しを行う。

従来の子算費目を再編し、高度な研究に対応できる人文社会コレクションの構築と、大学院生の教育・研究に必要な新刊学術図書の選定収集に重点をおいた。また、教員からは授業に密着した教育用図書、学生からは学習研究に資する学生希望図書の推薦を受け、多様な観点から学術図書の収集に努めた。さらに、資料選定方針等について検討し規則等の制定を行ったうえで、図書館職員による選書班を編成し、担当分野の新刊学術図書の網羅的な収集を図った。

④ 図書館情報学に関する国際的資料センターとして、更なる資料充実を図る。

教育・研究学術図書、人文社会系コレクション経費により、米国図書館情報学学位論文等の資料の収集を行った。

⑤ 図書購入から整理までに要する期間の短縮を行う等、利用者サービスの向上を図る。

Web発注を活用するとともに、図書購入から整理までの流れを見直し、教員特別貸出、学生希望等優先度の高い図書については、特に迅速に対応できる体制を整え、利用できるようになるまでの期間を大幅に短縮した。

(2) 学術情報サービス

① 研究プロジェクト報告、研究紀要、学位論文、貴重書等の電子化・組織化を図り、利用者のアクセシビリティ等を一層促進する。また、未入力之和古書・漢籍の遡及入力事業を継続実施する。

学内生産情報資源として、研究紀要1,139件(累計10,554件)を電子化し289件の博士学位論文全文登録許諾を得た。学内収集資料としては貴重書等990点(累計8,626点)を電子化したほか、本年度予定していた和古書・漢籍の遡及入力(10,989冊)を終えた。

② 新たな電子図書館システムを活用し、学術機関リポジトリの構築やネットワーク上の情報資源へのナビゲート機能の最適化を図る。

昨年度に引き続き、国立情報学研究所からの委託事業「次世代学術コンテンツ基盤共同構築」により、学術機関リポジトリ(つくばリポジトリ)の充実を図り、学位論文、研究紀要に加え学術雑誌掲載論文等(586件)のコンテンツ拡充を行った。また、機関リポジトリ横断検索システムを試験的に公開し、学術情報へのナビゲート機能の向上を図った。

③ 教育・研究基盤としての電子ジャーナル、データベース等を整備方針に従って充実させる。

整備方針に従って、電子的資料(電子ジャーナル・データベース)を継続して提供するとともに、平成21年度以降の資料拡充と安定的提供に向けて検討を開始した。

④ 電子図書館機能の充実を図るとともに、附属図書館研究開発室の研究成果を生かしつつ、学内で生産される学術情報を収集・管理・提供・発信することにより学術情報サービス機能の高度化を図る。

e-DDS(ドキュメント・デリバリー・サービス)の運用開始や電子ジャーナル、データベースの横断検索機能の向上等、電子図書館機能の充実を図るとともに、学術機関リポジトリ(つくばリポジトリ)との連携により、学内で生産される学術情報の収集・発信機能を向上させ、学内外の学術情報を総合的に収集・管理し、利用者へ効率的に提供する機能の高度化を図った。

(3) 社会貢献

① 地域住民等学外者に対し、展示会の開催、利用範囲の拡大等をとらして図書館公開サービスの充実を図る。

一般学外者に対する図書貸出(利用登録者1,734人)、文献複写サービスを実施した。また、公開事業として、附属図書館企画展「古地図の世界—世界図とその版木—」(入場者1,700人)を実施した。

② 職員のリカレント教育を推進するため、大学図書館職員長期研修の充実・発展を図る。

大学図書館職員のリカレント教育を推進するため、大学図書館職員に求められる専門性とマネジメン

ト・企画能力の向上を図るカリキュラムを作成し、筑波大学春日キャンパスを会場として、大学図書館職員長期研修を実施した。

③国立大学図書館協会の理事館として協会活動に積極的に貢献する。

国立大学図書館協会の理事館として、関東地区の中心的な役割を果たすとともに、国立大学図書館協会学術情報委員会の委員長館として、「電子図書館機能の高次化に向けて：3」、「今後の図書館システムの方向性について」、「目録所在情報システム更新に対する要望について」といった各種報告書を取りまとめた。

(4)管理運営

①利用者サービスの向上及び業務処理の効率化を図るため、事務組織の機能の機動性及び弾力性を高める。新たに企画担当グループ、図書調達室、図書整備室のグループを明確化し、業務の機動性を高めた。また、館内に横断的な複数のワーキンググループを設置し課題を検討・処理するとともに、研究開発室協力者等により係を越えた弾力的組織運用を実施した。

②図書館施設の狭隘化等に係る施設・設備の整備・充実に努める。

11,333冊の不用候補図書の選定、不用決定を進め、書架狭隘化の軽減に努めた。また、改修・耐震工事に向けて、今後の図書館施設のあり方について検討を行った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

(1)図書館ボランティアについて、活動内容、範囲等を検討・整理し、充実に図る。

団塊の世代退職者等多様な新規ボランティアを多数受け入れ、附属図書館ボランティア活動の一層の活性化を実現した。

(2)研究開発室を中心として、先駆的図書館サービスの実現に向けた研究開発を継続推進する。

附属図書館研究開発室において、「電子図書館の整備状況および動向に関する調査研究」、「研究成果の発信と権利処理に関する研究」、「学術機関リポジトリ構築とリソースオーガナイザに関する研究」、「大学図書館職員の専門性と人材育成のあり方に関する研究」、「図書館リテラシー教育の教育組織との効果的な連携に関する企画・実施」、「附属図書館企画展の実施」の6テーマを設定して研究開発活動を行った。

(3)情報リテラシー教育を充実させる。

附属図書館研究開発室の研究開発テーマである「図書館リテラシー教育の教育組織との効果的な連携に関する企画・実施」に職員が協力者として参加し、総合科目「図書館情報リテラシー」で4コマの講義・実習を担当した。

3. 自己評価と課題

(1)教育・研究基盤としての電子ジャーナル、データベースについては、平成20年度までの安定的な予算確保がされているが、平成21年度以降も引き続き安定的に提供できるよう、拡充を含めた予算確保のため、検討を開始した。

(2)教育・研究用の図書、雑誌、電子ジャーナル、データベース等の継続的な整備・充実に努めることができたが今後もより充実を図っていく。

(3)研究成果報告書、学位論文、貴重書等の電子化を継続実施できたが、蓄積量の増大に伴い、電子化画像の全体像が把握しにくくなったため、画像インタフェースの改善に着手した。今後も継続して検討し、一層の改善を図る必要がある。

(4)平成19年度も引き続き、次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業の委託をうけ、つくばリポジトリのコンテンツ充実に努め、学術雑誌論文600件他、収載件数は18,000件を超えるものとすることができた。さらに、つくば3Eフォーラムと連携し発表された資料の保存、発信も行った。

また、スペインの研究機関 Centro Superior de Investigaciones Cientificas(CSIC)が運営する Webometrics Ranking of World Universities の世界リポジトリランキングでつくばリポジトリが世界第8位(国内第1位)の評価を受けた。

(5)職員のスキルアップやキャリアパス、利用者サービス拡大に継がる組織再編等の検討を行ったが、今後も継続的に検討していく必要がある。

(6)貴重書等の常設展、図書館独自の企画展「古地図の世界ー世界図とその版木ー」及び学外者に対する利用サービス拡大等により社会貢献を行うことができた。

(7)国立大学図書館協会学術情報委員会委員長館として、機関リポジトリを始めとする新たな学術情報提供サービスのあり方等に関してや今後の図書館システムのあり方についての検討を行い報告書等としてまとめ、全国の会員館への資料・情報の提供が行えた。また、関東地区理事館として、地区内会員館の連携強化に貢献した。

6 附属病院

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況
 - (1) 平成 19 年 7 月に総合がん診療センターを設置し、院内がん登録 380 件、がん患者相談・支援 100 件を行った。また、がんの各専門医による治療法の包括的な議論の場として 24 の「がんボード分科会」を設置するとともに、公開型のがん関連講演会を 2 回開催した。
 - (2) 本院への患者紹介をしやすいように「診療案内」を平成 19 年 6 月に改訂し、近隣医療機関及び関係機関 1,217 箇所へ配付した。また、他病院等からの電話による紹介患者受け入れが、平成 18 年度 504 件に対して平成 19 年度 1,387 件と大幅な受入増とし連携強化を図った。
 - (3) 手術、検査等における患者の確認のためのリストバンドについて、適時適切な処理を行えるようシステムを変更した。また、救急受付において、診察券を発行できるようにし、安全管理の徹底と医師の業務軽減を図った。
 - (4) 入院時検査報告書を病歴室で退院時に一括処理を行うシステムを構築し、病棟における報告書の貼付ミスや紛失防止及び病棟における事務的負担の軽減を行った。
 - (5) 料金計算体制の改善を行うとともに、収納業務の効率化により、会計の待ち時間の短縮化を図り、平均待ち時間が 20 分弱になり、従来と比べ 10 分程度短縮された。また、これまでの冊子型の「入院案内」を、患者にわかりやすいパンフレット型に改訂した。さらに、入退院受付に医療費の自動支払機を設置し、患者の利便性を図った。
 - (6) 本院の医師臨床研修プログラムは、基本研修科目である内科・外科・救急(麻酔)の研修場所(院内・院外)の組み合わせにより、A~F のサブプログラムに分かれているが、外科及び麻酔を院内で研修したいという研修医のニーズに合わせ、G コースを追加し平成 20 年度から研修開始した。
 - (7) 地域等からのニーズに応え、本院の後期研修プログラムにリハビリテーション養成コースを追加し、平成 20 年度の研修から募集開始することとしている。また、今まで完全に分離していた大学院との兼務について検討を行ってアカデミックレジデントとしての受入体制を整え、平成 20 年度の研修から募集開始することとしている。さらに、後期研修修了者で、より専門性の高い知識・技術の修得を目的とする者をクリニカルフェローとして位置づける体制を整えた。
 - (8) NPO 法人卒後臨床研修評価機構による第三者評価を受けるべく受審申込みを行い、平成 20 年度の早い時期に訪問調査を受ける準備を開始した。
 - (9) 眼底三次元画像解析や超音波骨折治療法など 3 件の先進医療の届出を行った。
 - (10) 平成 19 年度においては、副病院長が陽子線医学利用研究センター長を兼務し、附属病院全体の運営の中でのセンターとの連携を強化した。陽子線治療機器については、製造会社が医療用具として申請し、現在、国(厚生労働省)が審査中である。承認後は速やかに先進医療の届出を行うこととしている。なお、平成 19 年度は 211 名の患者に対して陽子線治療を行った。さらに、診療に係わる人材育成プログラム「関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点」、「粒子線治療人材育成プログラム」などのプロジェクトの中で、放射線治療に係わる医師・医学物理士・放射線技師・看護師などの育成にも参画して高度医療人養成を推進した。
 - (11) 専任の臨床検査技師(1名)を雇用し、治験に係る各種検査がより円滑に実施可能となった。
 - (12) 病床稼働率は 89%を確保しつつ、平均在院日数は昨年度よりも 0.5 日短縮し、及び高額手術件数の増加等に伴い入院診療単価が、また、外来化学療法の件数増加等に伴い外来診療単価がそれぞれ上昇し、これらに伴い病院収入金額は前年度実績を約 3.9 億円上回る約 164.8 億円を確保した。
 - (13) 診療実績に応じた看護師配置及び診療体制の向上に向けて、病院講師(4人)、医員(5人)、看護師(34人)、コ・メディカル(14人)の増員を図った。
 - (14) 次期統合医療情報システムの円滑な稼働に向けて医療品及び医療材料の現行物流管理システムの運用面での改善を図り、医薬品のオンライン自動発注(VAN)を実現する一方、手術部門で使用する汎用材料(カスタムキットを含む)に係る手術材料管理システムを新たに構築した。また、医療法の改正を契機として、医療機器安全管理責任者を選任し、併せて臨床工学技士(ME)の所属を物流センターに変更の上、人工呼吸器及び除細動装置等の生命維持装置を同センターで一元管理することとした。
 - (15) 入院患者の重症度の上昇に伴い、軽症病棟のうち 4 病棟を中症病棟(一般)へ転用した。
 - (16) 平成 18 年度病床稼働実績を踏まえて、各診療グループの配分病床数の見直しを行った。
 - (17) 手術室における看護師の負荷業務の軽減化のため洗浄業務を外部委託して、手術室の有効利用による増収を図った。
 - (18) 各病棟の症度に応じた看護師の配置を検討し、新看護体制(7対1)も視野に入れた看護師の配置を行った。
 - (19) 医療の安全確保及び特定機能病院としての高度な先進医療の提供のため、経済的効果も考慮の上、患者監視装置等を導入した。
 - (20) 画像のフィルムレス化、地域医療機関との連携等を考慮した新統合医療情報システムの運用開始に向け、本院の実状に合わせたカスタマイズや運用等を検討するためのワーキンググループ及び同グループ長会議を実施するとともに、オーダーリングシステムの操作訓練や全診療グループ、システムに係わる全部局を対象とした運用リハーサルを 3 回実施し、平成 20 年 3 月 31 日に新システムへの移行を行った。
 - (21) 諸料金規定の見直し検討を行い、妊婦と薬相談料の新設や分娩介助料、妊婦健診料の改定により、増収

を図った。

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) 新カリキュラムに基づく先進的な医学教育（新筑波方式）の実施及び先進医療の推進等を目的とした附属病院再開整備計画について、国立大学病院初となるPFI方式という新たな整備手法により平成19年度施設整備概算要求を行った。また、事業の実施に向けた実施準備経費が予算措置されたことから、平成19年8月には特定事業の選定、同年9月には入札公告を行い、平成20年3月に2グループより入札提案書の提出があった。
- (2) 附属病院を含む筑波大学、千葉大学及び埼玉医科大学の共同による「関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点」の取組みが、がんプロフェッショナル養成プランに採択され、3大学が各拠点となり、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師等、がんに特化した専門家チームを養成するため、その受入れに係る準備を開始した。
- (3) 「女性医師・看護師キャリアアップ支援システム」の取組みが、医療人GPに採択され、女性医師・看護師の妊娠・出産・育児後の復職を支援するため、その受入れに係る準備を開始した。
- (4) 平成20年2月に「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、がん専門医の育成やがん診療の高度化など高度で専門的ながん診療の機能を担うこととなった。
- (5) 筑波大学附属病院と東京理科大学薬学部が、より緊密かつ組織的な連携及び協力体制を構築することにより、双方の教育・研究の発展と充実に資することを目的として、平成19年11月に東京理科大学薬学部との連携及び協力に関する協定を締結した。
- (6) 筑波大学と茨城県が、緊密な連携と協力により地域保健・地域医療の課題に適切に対応し、茨城県の保健医療の発展に寄与することを目的として、平成20年3月に茨城県との地域保健・地域医療の充実強化のための連携に関する協定を締結した。

3. 自己評価と課題

年度当初に、病院長、副病院長及び病院総務部長による全職員を対象とした附属病院運営方針説明会を開催して情報の共有化を図り、また、附属病院の経営基盤の確立に向けては具体的数値目標を掲げた行動計画として、「平成19年度附属病院収入・支出目標達成のためのアクションプログラム」を策定し、電子媒体・紙媒体を通じて院内各組織に周知した。

これらの結果、平均在院日数が昨年度と比較し0.5日短縮したことに伴い、病床稼働率は約1%低下したが、新入院患者の増加による病床回転数の向上、及び高額手技手術件数の増加等による入院診療単価の上昇、及び外来化学療法件数増加等による外来診療単価の上昇に伴い、病院収入金額は前年度実績を約3.9億円上回る約164.8億円を達成することができたことは評価できる。

今後も、中期目標・中期計画に基づく年度計画の円滑な遂行のため、先進医療と良質な診療技術の提供、及び病院運営の効率化と経営の安定化に向けた継続的努力により、自立的な病院の運営を目指す。

附属病院の建物は、建設から概ね30年が経過し、病院全体がインフラ関連を中心に老朽化しており、近年の医療制度の変化や医学教育の改革、先進医療の推進、救急医療の充実、さらには院内のIT化等にも対応し難いものとなっている。これらの病院が抱える問題点を抜本的に改善し、単なる建替えではなく「明日の医療・医学を創る力に」をコンセプトとして病院施設の一層の高度化機能強化を目的とする再開整備計画について、PFI方式という新たな整備手法により平成19年度施設整備概算要求を行い、再開整備事業の実施に向けた実施準備経費が予算措置された。

このことから、国立大学病院では初となるPFI方式により事業を実施することとしており、平成19年度はPFI法に基づき、平成19年8月には特定事業の選定、同年9月には入札公告を行い、平成20年3月に2グループより入札提案書の提出があった。

また、平成18年度診療報酬改定において、特定機能病院に新設された上位看護配置基準（7対1（現行10対1））を充たした場合は、大幅な増収（約7.5億円）が見込めるところであり、看護師確保は重要な課題である。

平成20年度からの7対1看護体制に向けては80人超の増員を必要とするが、平成19年度においては41人の看護師を増員確保し、大学を挙げて平成20年度の看護師確保に取り組んだ結果、34人の増員確保を行うことができ、当初の予定どおり平成20年度から7対1看護体制が実施できることとなった。

しかし、病院再開発に向けた高度・急性期医療の展開に当たっては、毎年度40人を超える看護師の増員が必要であることから、今後も大学を挙げて取り組んでいく必要がある。

7 附属学校教育局

1. 平成 19 年度年度計画及び平成 19 年度重点施策・改善目標等に記載されている事項についての達成状況【平成 19 年度年度計画に記載されている事項についての達成状況】

- (1) 地域社会等との連携、協力、社会サービス等に係る具体的方策
小・中・高校生の自然や科学に対する興味や関心を育むため、18 年度に朝永振一郎博士生誕 100 年記念事業として創設した「科学の芽」賞を 19 年度も引き続き実施。
前年度に引き続き、第 2 回目の「科学の芽」賞を実施した。
- (2) 学校運営の改善に関する具体的方策
指導教員と特別支援教育研究センターが連携し、附属学校における特別支援教育の充実に向けた支援を実施。
附属学校における特別支援教育の充実を図るため、以下のとおり支援を行った。
 - ① 各普通附属学校において特別支援教育コーディネーターを指名し、特別支援教育推進のための校内委員会を設置した。また、指導教員が中心となり、特別支援教育コーディネーター等を対象とした研修会を行った。
 - ② 附属特別支援学校と特別支援教育研究センターが連携・構成する 5 部門会議等において障害の枠組みを超えた実践研究を実施した。また、研究成果は特別支援教育研究センター主催セミナー及び研究紀要において報告した。
 - ③ 附属特別支援学校 5 校の機能的な統合を更に図るため、「特別支援教育筑波モデル (Next 50)」として、統合キャンパス構想等を取りまとめた。
- (3) 大学との連携・協力の強化に関する具体的方策
 - ① 指導教員を中心に附属学校の教育研究活動への支援を強化。
指導教員が主宰するプロジェクト研究の在り方を見直し、また、附属学校において、指導教員による実践授業等を行った。
 - ② 大学・附属学校連携委員会を中心に、学群と附属学校の連携によるキャリア教育に関する先導的実践研究を行うとともに、附属学校と大学教員の連携により現職教員研修の内容を充実させるなど、引き続き大学との連携・協力の強化を図る。
附属学校教育局の研究プロジェクトとして「高大連携によるキャリア教育の有り方に関する研究」を昨年度に引き続き行った。
また、指導主事、学校教員、スクールカウンセラー等を対象とする講座「子ども臨床」の研修を昨年度に引き続き開催した。
- (4) 附属学校の目標を達成するための入学者選抜の改善に関する具体的方策
特定の附属学校の通学区域を見直す。
特定の附属学校の通学区域を見直し、平成 20 年度入学者から適用することとした。
- (5) 公立学校との人事交流に対応した体系的な教職員研修に関する具体的方策
 - ① 引き続き公立学校との円滑な人事交流を推進。
各附属学校における教員人事に係る事情聴取を早期に行い、交流可能な情報を各教育委員会に提示し、積極的に人事交流の促進に努めた。
 - ② 附属学校教員のための研修会等のさらなる充実。
新任教員対象の研修として昨年度実施した「新任教員交流会」の他に、「附属学校見学会」を実施した。
- (6) 附属学校等の整備
 - ① 現職教員研修事業のさらなる充実。
特別支援教育研究センターの長期研修事業において、各県各教育委員会から派遣された現職教員を対象に半年及び 1 年間の研修を実施した。
また、現職教員等を対象とした免許法認定公開講座（特別支援学校教諭）及び聴覚障害・発音指導研修講座を実施した。
 - ② 前年度に引き続き附属学校が所有する教育資料を整備。
17 年度から 3 年計画でスタートした「第一次教育資料の整備」が完了し、筑波ギャラリーへ資料の一部を展示した。
 - ③ 安全対策マニュアルを引き続き検証し、必要に応じ内容を改訂。
 - ④ 児童の通学途上における安全確保の徹底を図る。
*③及び④の実施状況については、附属学校の安全管理に関する具体的方策に記載
- (7) 理療科教員の養成に関する具体的方策
新カリキュラムに基づいた教育を開始し、初年度についての内部教育評価を実施した。
- (8) 運営組織の効果的・機能的な運営に関する具体的方策
附属学校教育局において、附属学校教育のあるべき姿と今後の財政状況等に対応できる附属学校のあり方についての検討を本格化。
附属学校の経営戦略を視野に入れ、障害附属学校 5 校の機能的な統合を更に図るため、「特別支援教育筑波モデル (Next50)」として統合キャンパス構想等を取りまとめた。

また、教育長のリーダーシップの下、普通附属学校6校の在り方についても検討委員会を設置し検討を進めた。

(9)業務のアウトソーシング等に関する具体的方策

附属久里浜特別支援学校におけるスクールバス運行業務のアウトソーシングを図る。

所有していたスクールバスを廃車し、スクールバス運行業務のすべてを外部委託した。

(10)附属学校の安全管理に関する具体的方策

①安全対策マニュアルを引き続き検証し、必要に応じ内容を改訂。

附属全11校で防犯訓練を実施するとともに、安全対策マニュアルの確認・見直しを行った。

②児童の通学途上における安全確保を徹底。

通学路の安全点検を実施し、「子ども110番の家」との連携を図るとともに、前年度に引き続き防犯アラームを配布（貸与）した。

③食中毒防止に関する講習会を開催し、前年度に引き続き衛生管理の徹底を図った。

(11)附属学校の実施状況

①附属小学校：小・中・高の児童生徒を対象に先導的な教科から公開授業を行うなど、カリキュラム開発に関する調査・研究を実施。

小・中・高と大学との連携に基づく先導的実験（カリキュラム開発と実践プログラムの提案）を四校研や公開授業等を通して推進した。また、先導的実験の具体的内容をまとめた「四校研活動報告書（平成16～19年度）中期計画中間まとめー筑波大塚プランを目指してー」を20年3月に作成した。

②附属中学校：小・中・高の児童生徒を対象に先導的な教科から公開授業を行うなど、カリキュラム開発に関する調査・研究を実施。

小・中・高と大学との連携に基づく先導的実験（カリキュラム開発と実践プログラムの提案）を四校研や公開授業等を通して推進した。また、先導的実験の具体的内容をまとめた「四校研活動報告書（平成16～19年度）中期計画中間まとめー筑波大塚プランを目指してー」を20年3月に作成した。

③附属駒場中学校：中等教育6カ年間で視野に入れた新たな角度から、豊かな教養と科学的なリテラシーを持つトップリーダーを育成。

文部科学省指定スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の新たな1年目として、生徒のサイエンスコミュニケーション能力育成のスタートを切った。

④附属高等学校：小・中・高の児童生徒を対象に先導的な教科から公開授業を行うなど、カリキュラム開発に関する調査・研究を実施。

小・中・高と大学との連携に基づく先導的実験（カリキュラム開発と実践プログラムの提案）を四校研や公開授業等を通して推進した。また、先導的実験の具体的内容をまとめた「四校研活動報告書（平成16～19年度）中期計画中間まとめー筑波大塚プランを目指してー」を20年3月に作成した。

⑤附属駒場高等学校：中等教育6カ年間で視野に入れた新たな角度から、豊かな教養と科学的なリテラシーを持つトップリーダーを育成。

文部科学省指定スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の新たな1年目として、生徒のサイエンスコミュニケーション能力育成のスタートを切った。

⑥附属坂戸高等学校：総合学科における「ICT人材育成」の研究を推進。

最終年度を迎えた文部科学省指定「ICT人材育成プロジェクト」事業を実施し、報告書を作成した。

⑦附属視覚特別支援学校：障害の特性に応じた特別支援教育を実施・推進。

特別支援教育研究センターと連携し、視覚障害教育の実践及び研究を推進するとともに、現職教員研修に協力した。

⑧附属聴覚特別支援学校：障害の特性に応じた特別支援教育を実施・推進。

特別支援教育研究センターと連携し、聴覚障害教育の実践及び研究を推進するとともに、現職教員研修に協力した。

⑨附属大塚特別支援学校：障害の特性に応じた特別支援教育を実施・推進。

特別支援教育研究センターと連携し、知的障害に関わる特別支援教育の実践及び研究を推進するとともに、現職教員研修に協力した。

⑩附属桐が丘特別支援学校：障害の特性に応じた特別支援教育を実施・推進。

特別支援教育研究センターと連携し、肢体不自由及び重度・重複障害教育の実践並びに研究を推進するとともに、現職教員研修に協力した。

⑪附属久里浜特別支援学校：障害の特性に応じた特別支援教育を実施・推進。

特別支援教育研究センターと連携し、自閉症者を対象とする教育の実践及び研究を推進するとともに、現職教員研修に協力した。

【重点施策として掲げた事項の達成状況】

(1)今後の附属学校のあり方について更に検討を加える。

附属学校の経営戦略を視野に入れ、障害附属学校5校の機能的な統合を更に図るため、「特別支援教育筑波モデル(Next50)」として、統合キャンパス構想等を取りまとめた。

また、教育長のリーダーシップの下、普通附属学校6校の在り方についても「普通附属学校将来構想検討委員会」を設置し検討を進めた。

(2)大学と附属学校との連携を強化する。

指導教員が主宰するプロジェクト研究の在り方を見直し、附属学校において、指導教員による実践授業等を行った。

- (3) 附属学校における特別支援教育の充実に向け支援する。
各普通附属学校において特別支援教育コーディネーターを指名し、特別支援教育推進のための校内委員会を設置した。また、指導教員が中心となり、特別支援教育コーディネーター等を対象とした研修会を行った。
- (4) 附属学校の安全管理の徹底を図るため、全 11 校において防犯訓練を実施し、必要に応じて安全マニュアルを改訂する。
全 11 校において防犯訓練を実施し、安全マニュアルの確認、見直しを行った。
- (5) 児童の通学途上の安全確保を図るため、通学路の再点検を実施するとともに、「子ども 110 番の家」、不審情報システムを活用する。
通学路を再点検し、通学途上の「子ども 110 番の家」を確認するとともに、前年度に引き続き防犯アラームを配布（貸与）した。（附属小学校）
また、自治体等が作成した不審者情報システムを活用した。
- (6) 小・中・高と大学との連携に基づく先導的実験－カリキュラム開発と実践プログラム－の提案を行う。
小、中、高と大学教員の参加のもとに、公開授業を行い、各校種から見たカリキュラム改善等について具体的提案を行うとともに、連携して教材開発を行った。（附属小学校、附属中学校、附属高等学校）
- (7) 再指定を受けたスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業を推進する。
SSH 事業の新たな 1 年目として、生徒のサイエンスコミュニケーション能力育成のスタートを切り、従来の科学的リテラシー育成のためのさまざまな実験講座や講演会に加え、国際交流の強化を図り、大学の教員研修留学生との定期的な交流を始めた。また、サイエンスコミティを立ち上げ、生徒による SSH の評価や希望を入れるチャンネルを作った。（附属駒場中・高等学校）
- (8) 文部科学省指定「発達障害支援モデル事業」及び最終年度を迎える「ICT 人材育成プロジェクト」事業を推進する。
「発達障害支援モデル事業」は、校内組織を作り、大学との連携のもと、発達障害に関する校内研修や担当教員の力量の向上に努めた。
最終年度を迎えた「ICT 人材育成プロジェクト」は、計画どおり研究が進み、20 年 3 月には報告書を作成した。（附属坂戸高等学校）
- (9) 視覚障害教育の一層の充実のため、指導法・教材の研究成果をブックレットや国内外の研究会等を通じて発信する。
視覚障害教育の一層の充実のため、指導法・教材の研究成果を視覚障害教育ブックレットや国内外の研究会等を通じて発信した。（附属視覚特別支援学校）
- (10) 特別支援教育研究センターと連携し、聴覚障害教育の実践及び研究を推進する。
聴覚障害教育の実践及び研究を推進するとともに、その成果を文部科学省委託事業の「聴覚障害教育担当教員講習会」などを通じて発信した。（附属聴覚特別支援学校）
- (11) 特別支援教育研究センターと連携し、知的障害に関わる特別支援教育の実践及び研究を推進する。
「知的障害と肢体不自由を併せ持つ児童に関する研究」を推進するとともに、「視覚障害と知的障害を伴う幼児に関する研究」を開始した。
また、日常の生活指導及び単元学習・作業学習等の集団指導を核とした知的障害カリキュラムの実践を推進した。（附属大塚特別支援学校）
- (12) 特別支援教育研究センターと連携し、肢体不自由及び重度・重複障害教育の実践並びに研究を推進する。
肢体不自由及び重度・重複障害教育の実践並びに研究を推進するとともに、「センター的機能を果たす特別支援学校のあり方」（肢体不自由教育が培ってきた専門性に基づく連携体制とその拡充）をテーマに、肢体不自由教育実践協議会を開催し、その成果を国内外に発信した。（附属桐が丘特別支援学校）
- (13) 社会の要請に応じた自閉症教育に係る教育研究を推進し、関係機関に対して研究成果の普及を図る。
国立特別支援教育総合研究所と共催で全国の自閉症教育の指導者を対象に、実技演習を伴う研修会を開催し、自閉症教育に関する研究成果の普及に努めた。また、全国の自閉症教育関係者を対象に開催した研究協議会において、社会参加と自立を促す幼稚部、小学部一貫した教育課程の編成等について報告し、その成果の普及を図った。（附属久里浜特別支援学校）

2. 各組織における教育・研究、大学運営上の特色ある取組及びそれらの活動を円滑に進めるための工夫

- (1) 全国の小・中・高校生を対象に自然や科学への関心と芽を育むことを目的として、朝永振一郎記念第 2 回「科学の芽」賞を実施した結果、全国及び海外 4 ヶ国の日本人学校から小・中・高校生部門を合わせて 846 件、延べ 921 名の応募があり、昨年度と比較して全体で 201 件の増、延べ人数で 130 名の増となった。
- (2) 附属学校の実態を理解してもらうため、各学校の教育実践に関する「日本の教育を拓く」を出版した。
- (3) 附属学校教育局教育相談室及び心理・心身障害教育相談室（大塚地区相談グループ）で、本学附属学校及び地域の小・中学校等において、障害、いじめ等により支援が必要な児童、生徒等への教育相談サービスを提供した。
- (4) 文部科学省拠点システム構築事業「国際教育協カイニシアティブ」（第 2 年次）の指定を受け、青年海外

協力隊派遣現職教員への支援や派遣隊員の報告会を開催し、国際教育協力を推進した。また、この実績を活かした「国際教育協力ハンドブック」を20年2月に作成した。(附属小学校)

- (5) 北京師範大学との国際交流協定締結やシンガポールのホアチョン校と生徒の短期交換留学を行うなど国際交流教育を推進した。(附属中学校)
- (6) 青少年リーダーズサミットへの生徒派遣やシンガポールのホアチョン校と生徒の短期交換留学を行うなど国際交流教育を推進した。(附属高等学校)
- (7) 若手外交官の日本語ブラッシュアップ研修、ジャパンリターンプログラムの日本語サミット参加の若者との交流に生徒会・生徒自治会が参加した。
また、同窓会である若菜会が立ち上げた「筑駒人材バンク」を活用して、社会貢献・地域貢献のため、第1回筑駒アカデミアを世田谷区教育委員会との共催で開催した。(附属駒場中・高等学校)
- (8) キャリア教育に関する実践研究(学校設定教科「産業」)を推進するとともに、産学連携による教科「情報」のための英語教材開発に取り組み、12月に完成したテキストに基づき研究授業を行った。(附属坂戸高等学校)
- (9) 日本視覚障害社会科教育研究会及び日本視覚障害算数・数学教育研究会を発足し、研究会を通じて教科に関する指導法等を全国に発信した。
また、中・高継続による盲聾教育の実践と研究を推進するとともに、通級指導学級及び0歳児からの早期教育相談の充実に努めた。(附属視覚特別支援学校)
- (10) 「乳幼児教育相談部門」で実施している幼稚園入園前の聴覚障害のある乳幼児と保護者に対する早期指導に、年間約60名の乳幼児が登録して定期的に来校した。
また、文部科学省委託事業の「聴覚障害教育担当教員講習会」においては、聴覚障害教育の基本的事項の講義と幼稚部から高等部専攻科までの全学部の授業を公開して、理論と実践の研修を提供した。(附属聴覚特別支援学校)
- (11) センターの機能(外部支援)の推進のため、文京区教育委員会と連携し、支援部の実践を継続した。また、幼児段階の特別支援教室の試行を継続した。(附属大塚特別支援学校)
- (12) 「特別支援教育における自立活動の時間を展開する」をテーマに自立活動セミナーを開催し、これまで肢体不自由教育において培ってきた自立活動に関する専門性、特に指導方法を踏まえ、社会的要請に応えるべく教育関係者、関係諸機関に広く発信した。(附属桐が丘特別支援学校)
- (13) 文部科学省研究開発学校の「自閉症児のための教育課程に関する研究開発」の成果を研究発表大会で報告した。
また、教育開発国際協力センターと協力し、インドネシアやボリビアの教員等を対象に授業改善や自閉症教育に関する内容・方法の普及に努めた。(附属久里浜特別支援学校)

3. 自己評価と課題

平成19年度は法人化4年目に当たり、第1期の評価に当たっては極めて重要な年度であった。今年度の最大の成果は附属学校の将来構想についての見通しを開くことができたことである。すでに、特別支援学校に関しては平成18年度以降本格的に検討を開始し、平成19年12月には「支援を必要とする子どもたちのために―特別支援教育 筑波モデル (Next 50) ―」(最終報告書)をまとめた。

普通附属学校の将来構想についても昨年度から本格的に検討を始め、附属学校を「先導的教育拠点」「教師教育拠点」「国際教育拠点」の3つの拠点にすることで合意ができたことは大きかった。これはそのまま特別支援学校の将来構想にも踏襲できるものと考えている。各学校の内容を示した著書「日本の教育を拓く」の刊行も対社会的には大きな意義を持っていた。

また、今年度は例年以上に国際化対応の成果が生み出すことができた。文科省拠点システム構築事業(附属小)、青少年リーダーサミット(附属高)など、各校とも国際交流に力を入れた年度であった。資金的援助を行ったことが大きかったが、次年度以降も継続する必要がある。

今後の課題としては、やはり次期中期目標・中期計画にどのような事項が盛り込めるかがキーとなる。そのためには、将来構想の具体的なアクションプランを構築することが焦眉の課題となる。また、教員免許状更新講習で附属学校を活用することになっているが、これへの対応も重要な課題である。

1 管理運営関係

(1) 沿革

- 昭37. 9 東京教育大学, 5学部の統合移転候補地の調査を決定
38. 9 研究学園都市を筑波地区に建設することを閣議了解
42. 7 東京教育大学, 「総合大学として発展することを期し, 条件付きで筑波に土地を希望する」ことを決定
42. 9 筑波地区への移転予定機関として, 東京教育大学, 東京医科歯科大学医学部附属病院霞ヶ浦分院等36機関を閣議了解
44. 7 東京教育大学, 「筑波における新大学のビジョンの実現を期して筑波に移転する」旨を表明
44. 11 文部省に筑波新大学創設準備調査会を設置
45. 5 筑波研究学園都市建設法成立
46. 6 東京教育大学, 「筑波新大学に関する基本計画案」を決定
46. 7 筑波新大学創設準備調査会, 「筑波新大学のあり方について」文部大臣に報告
46. 10 文部省に筑波新大学創設準備会を設置
47. 5 筑波研究学園都市に新設移転する研究教育機関として, 筑波新大学(仮称)等42機関を閣議決定, 東京教育大学に筑波新大学創設準備室を設置
47. 8 政府機関の移転を繰り上げ, 昭和50年度までに完了することを閣議了解
48. 2 国立学校設置法等の一部を改正する法律案を閣議決定
48. 10 筑波大学設置「国立学校設置法等の一部を改正する法律(昭和48年法律第103号)」
三輪知雄, 学長に就任
- 第一学群「人文学類, 社会学類, 自然科学類」, 医学専門学群, 体育専門学群, 26学系, 体育センター, 農林技術センター, 附属図書館, 保健管理センターを設置
49. 4 外国語センター, 加速器センター, 計算センター(昭53.4学術情報処理センターに改組), 企画調査室を設置
50. 4 第二学群「比較文化学類, 人間学類, 生物学類, 農林学類(平6.4生物資源学類に改称)」, 芸術専門学群, 大学院修士課程「地域研究研究科」, 大学院博士課程「哲学・思想研究科, 歴史・人類学研究科, 文芸・言語研究科, 社会科学研究科, 生物科学研究科, 数学研究科, 物理学研究科, 化学研究科, 地球科学研究科」, 教育機器センター, アイソトープセンター, 水理実験センター(平12.4陸域環境研究センター(～平22.3)に転換), 附属病院創設準備室を設置
50. 10 国民体力特別プロジェクト研究組織(～昭55.3)を設置
51. 4 「(修士課程)経営・政策科学研究科(平17.4システム情報工学研究科に改組・再編), 体育研究科」, 「(博士課程)教育学研究科, 心理学研究科, 心身障害学研究科, 農学研究科, 体育科学研究科, 芸術学研究科」を設置
51. 5 低温センター, 分析センター, 動物実験センター(平成13.4生命科学動物資源センターに転

換), 下田臨海実験センター, 附属病院を設置

51. 8 宮島龍興, 学長に就任
52. 4 第三学群「社会工学類, 情報学類, 基礎工学類(平10.4工学基礎学類に改組)」, 「(修士課程) 教育研究科, 環境科学研究科(平19.4生命環境科学研究科に改組・再編), 芸術研究科(平19.4人間総合科学研究科に改組・再編)」, 工作センター, 菅平高原実験センターを設置
52. 5 核物性特別プロジェクト研究組織(～昭57.3)を設置
53. 3 東京教育大学閉学
53. 4 「(修士課程) 理工学研究科(平16.4数理物質科学研究科, 平17.4システム情報工学研究科及び生命環境科学研究科に改組・再編)」, 「(博士課程) 社会工学研究科」, 理療科教員養成施設, 学校教育部, 附属10学校を設置
53. 5 ラテンアメリカ特別プロジェクト研究組織(～昭58.3)を設置
53. 10 筑波大学医療技術短期大学部を併設
54. 4 「(修士課程) 医科学研究科(平18.4人間総合科学研究科に改組・再編)」, プラズマ研究センターを設置
55. 4 福田信之, 学長に就任
「(博士課程) 医学研究科」, 粒子線医科学センター(～平2.3), 運動処方特別プロジェクト研究組織(～昭57.3)を設置
56. 4 「(博士課程) 工学研究科」を設置
57. 4 熱帯農林資源特別プロジェクト研究組織(～昭62.3), 老化特別プロジェクト研究組織(～昭62.3)を設置
58. 4 「(第三学群) 国際関係学類(平7.4国際総合学類に改組)」, 本能特別プロジェクト研究組織(～昭63.3)を設置
59. 4 留学生教育センター(平3.4留学生センターに改称), 遺伝子実験センターを設置
60. 4 「(第二学群) 日本語・日本文化学類」を設置
61. 4 阿南功一, 学長に就任
大学研究センターを設置
62. 5 物質の進化特別プロジェクト研究組織(～平4.3), 変換技術開発特別プロジェクト研究組織(～平4.3)を設置
63. 4 代謝特別プロジェクト研究組織(～平5.3)を設置
- 平元. 4 大学院修士課程に夜間開講の専攻を設置
大学院修士課程において昼夜開講制を実施
2. 6 陽子線医学利用研究センター(～平12.3)を設置
3. 4 「(第三学群) 工学システム学類」を設置
4. 4 江崎玲於奈, 学長に就任
「(博士課程) 国際政治経済学研究科」, 計算物理学研究センター(～平14.3), 新国際システム特別プロジェクト研究組織(～平9.3), 循環器系バイオシステム特別プロジェクト研究組織

(～平9.3) を設置

大学院博士課程において連携大学院方式（第一号連携大学院方式）を実施

5. 4 「(修士課程) バイオシステム研究科 (平17.4生命環境科学研究科に改組・再編)」, 地球環境変化特別プロジェクト研究組織 (～平10.3) を設置
6. 5 先端学際領域研究センターを設置
7. 4 大学院博士課程において昼夜開講制を実施
8. 4 大学院博士課程に夜間開講の専攻 (後期3年博士課程) を設置
9. 4 東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織 (～平14.3), 感性評価構造モデル構築特別プロジェクト研究組織 (～平14.3) を設置
10. 4 北原保雄, 学長に就任
動的脳機能とこころのアメニティ特別プロジェクト研究組織 (～平15.3) を設置
11. 4 構造工学系を機能工学系に改称, アドミッションセンターを設置
12. 4 「(博士課程) 生命環境科学研究科, 数理物質科学研究科, システム情報工学研究科 (社会工学研究科, 生物科学研究科, 農学研究科, 数学研究科, 物理学研究科, 化学研究科, 地球科学研究科, 工学研究科の改組)」, 陽子線医学利用研究センター (～平22.3) を設置
13. 4 「(博士課程) 人文社会科学研究科, ビジネス科学研究科, 人間総合科学研究科 (哲学・思想研究科, 歴史・人類学研究科, 文芸・言語研究科, 教育学研究科, 心理学研究科, 心身障害学研究科, 社会科学研究科, 国際政治経済学研究科, 経営・政策科学研究科 (経営システム科学専攻, 企業法学専攻及び企業科学専攻), 医学研究科, 体育科学研究科及び芸術学研究科の改組)」 を設置
14. 4 産学リエゾン共同研究センター, 教育開発国際協力研究センター, 計算物理学研究センター (～平24.3; 平16.4計算科学研究センターに改組), ナノサイエンス特別プロジェクト研究組織 (～平19.3), 獲得性環境因子の生体応答システム特別プロジェクト研究組織 (～平19.3) の設置
大学院修士課程において連携大学院方式を実施
14. 10 図書館情報大学と統合「国立学校設置法の一部を改正する法律 (平成14年法律第23号)」
医学専門学群「医学類, 看護・医療科学類」, 図書館情報専門学群, 「(博士課程) 図書館情報メディア研究科」, 図書館情報学系, 知的コミュニティ基盤研究センター (～平24.3) を設置
15. 4 学際物質科学研究センターの設置 (～平25.3)
比較市民社会・国家・文化特別プロジェクト研究組織 (～平20.3) の設置
16. 4 国立大学法人筑波大学設置「国立大学法人法 (平成15年法律第112号)」
岩崎洋一, 学長に就任
看護科学系, 特別支援教育研究センター, 北アフリカ研究センター, 学術情報メディアセンター (教育機器センター及び学術情報処理センターを統合), 研究基盤総合センター (加速器センター, 低温センター, アイソトープセンター, 分析センター及び工作センターを統合), 附属久里浜養護学校を設置

大学院修士課程芸術研究科（世界遺産専攻）を設置

大学院博士課程において連携大学院方式（第二号連携大学院方式）を実施（数理工質科学研究科物質・材料工学専攻）

大学院博士課程数理工質科学研究科を5年一貫制博士課程から区分制博士課程に転換

17. 4 大学院専門職学位課程（法曹専攻，国際経営プロフェッショナル専攻）を設置

大学院博士課程生命環境科学研究科（生命産業科学専攻）を設置

大学院博士課程において連携大学院方式（第二号連携大学院方式）を実施（生命環境科学研究科先端農業技術科学専攻）

大学院博士課程システム情報工学研究科，生命環境科学研究科（構造生物科学専攻，情報生物科学専攻，国際地縁技術開発科学専攻，生物圏資源科学専攻，生物機能科学専攻）を5年一貫制博士課程から区分制博士課程に転換

18. 4 大学院修士課程教育研究科（スクールリーダーシップ開発専攻）を設置

大学院博士課程人間総合科学研究科（フロンティア医科学専攻（修士課程），コーチング学専攻（後期のみの博士課程），世界文化遺産学専攻（後期のみの博士課程））を設置

アイソトープ総合センターを設置

18. 10 次世代医療研究開発・教育統合センターを設置

19. 4 学群改組を実施（9学群23学類により編制）

人文・文化学群（人文学類，比較文化学類，日本語・日本文化学類），社会・国際学群（社会学類，国際総合学類），人間学群（教育学類，心理学類，障害科学類），生命環境学群（生物学類，生物資源学類，地球学類），理工学群（数学類，物理学類，化学類，応用理工学類，工学システム学類，社会工学類），情報学群（情報科学類，情報メディア創成学類，知識情報・図書館学類），医学群（医学類，看護学類，医療科学類），体育専門学群，芸術専門学群

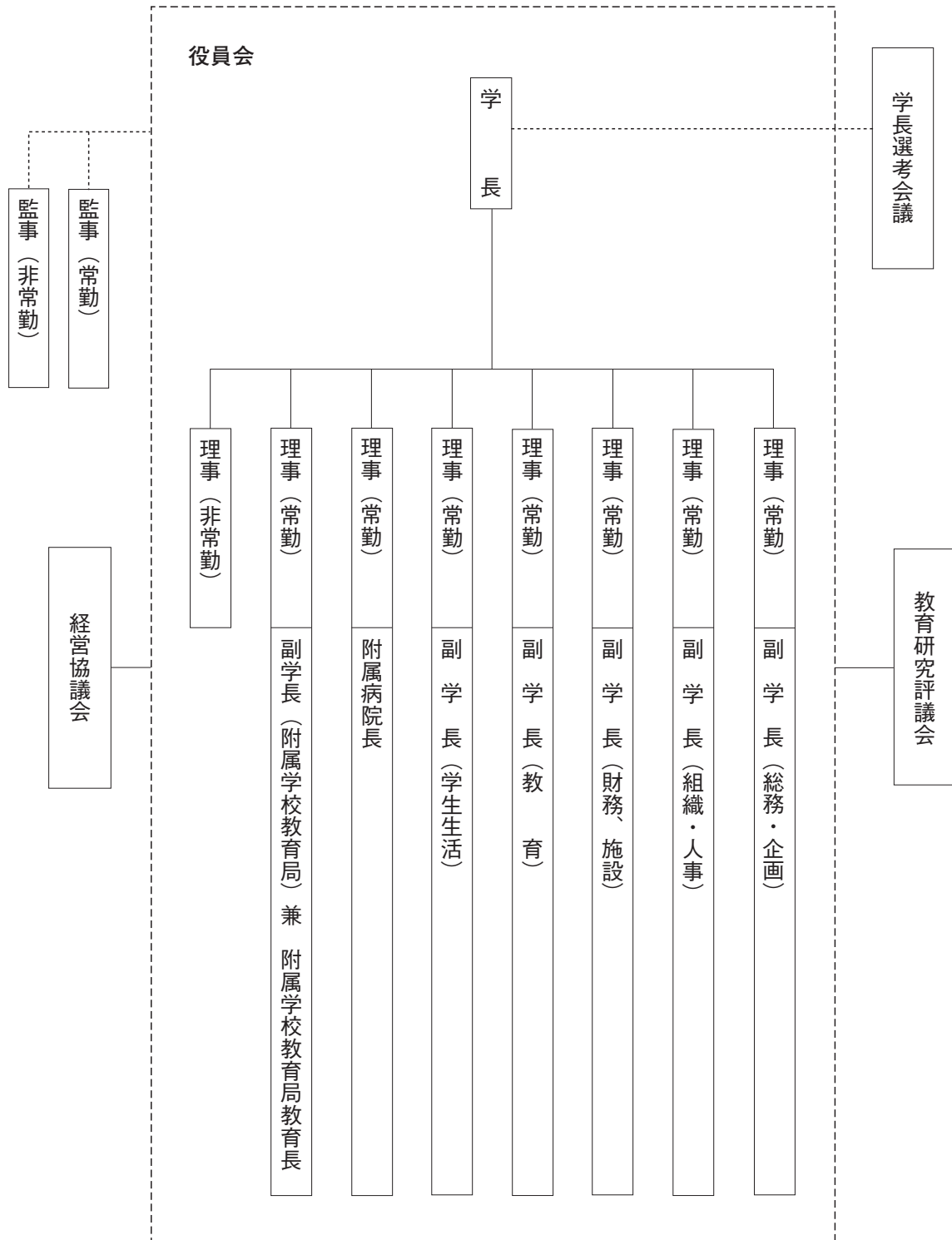
大学院博士課程生命環境科学研究科（地球環境科学専攻，地球進化科学専攻），人間総合科学研究科（芸術学専攻）を5年一貫制から区分制に転換

大学院博士課程生命環境科学研究科（地球科学専攻（博士前期課程），環境科学専攻（博士前期課程），地球環境科学専攻（博士後期課程），地球進化科学専攻（博士後期課程），持続環境学専攻（博士後期課程）），人間総合科学研究科（看護科学専攻（修士課程），世界遺産専攻（博士前期課程），芸術専攻（博士前・後期課程））を設置

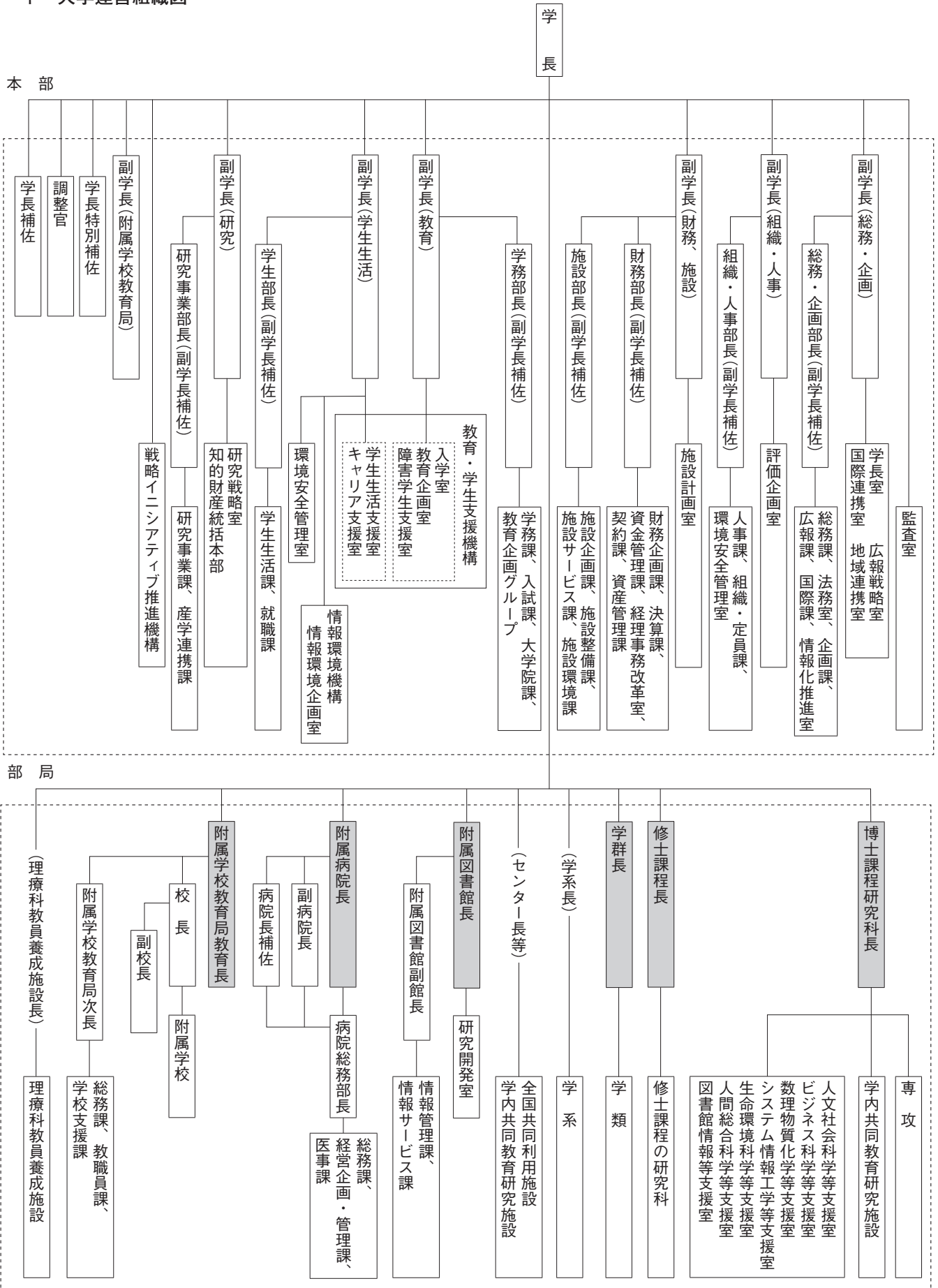
附属盲学校，聾学校，大塚養護学校，桐が丘養護学校，久里浜養護学校を特別支援学校に変更
「学校教育法等の一部を改正する法律（平成18年法律第80号）」

(2) 運営組織等

ア 法人運営組織図



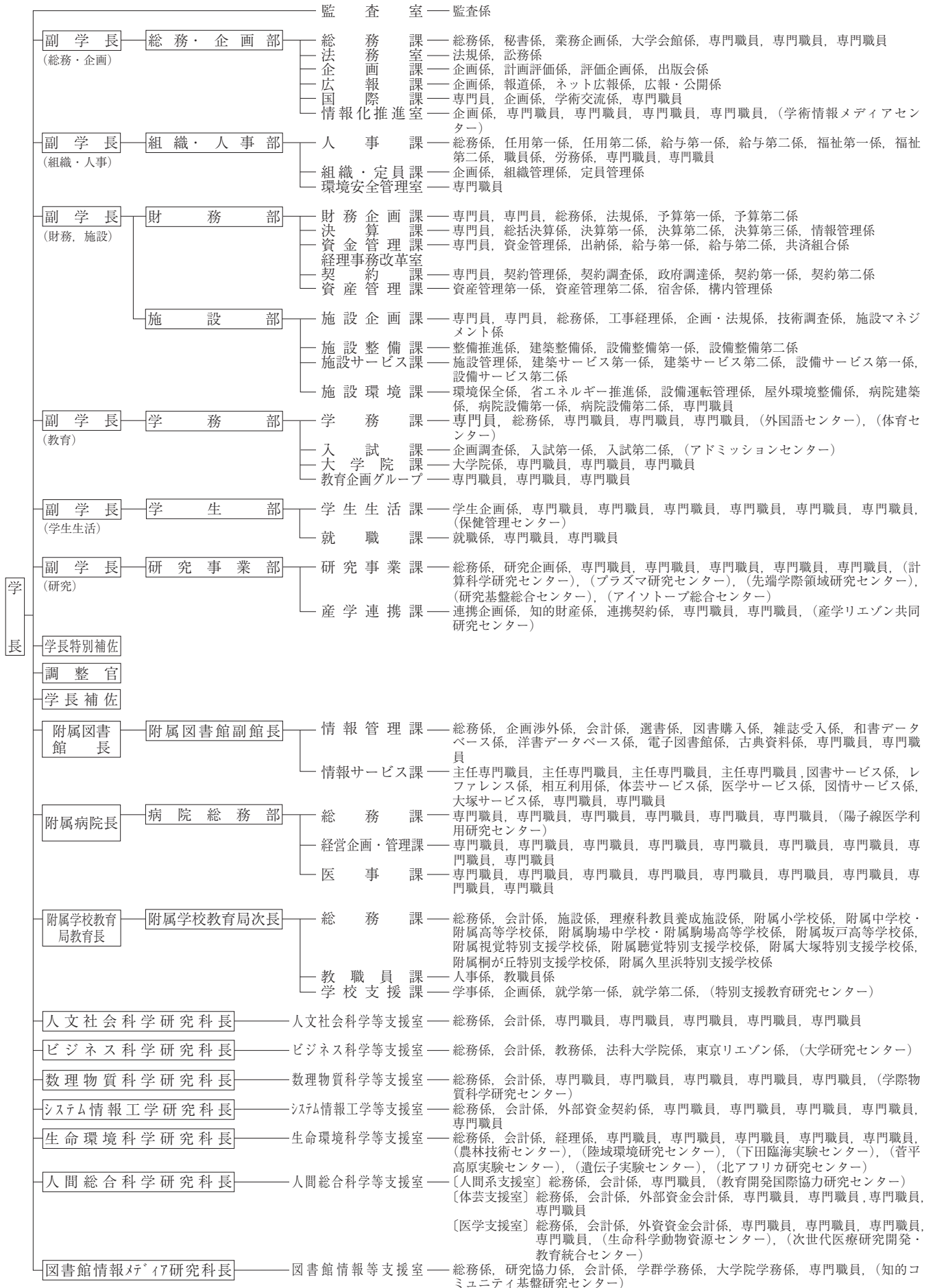
イ 大学運営組織図



(注) ■ は部局長を示す。

ウ 事務機構図

(平成20年3月1日現在)



(3) 制定改廃法人規則等

○法人規則

国立大学法人筑波大学海外拠点規則の一部を改正する法人規則（平成19年5月31日法人規則第36号）

国立大学法人筑波大学校章等規則（平成19年6月14日法人規則第37号）

国立大学法人筑波大学出版会規則（平成19年6月21日法人規則第38号）

国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年6月28日法人規則第39号）

国立大学法人筑波大学寄附講座及び寄附研究部門に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年6月28日法人規則第40号）

国立大学法人筑波大学大学院学則の一部を改正する法人規則（平成19年6月28日法人規則第41号）

国立大学法人筑波大学職員の安全衛生管理規則の一部を改正する法人規則（平成19年6月28日法人規則第42号）

国立大学法人筑波大学学群学則の一部を改正する法人規則（平成19年6月28日法人規則第43号）

国立大学法人筑波大学利益相反規則の一部を改正する法人規則（平成19年7月27日法人規則第44号）

国立大学法人筑波大学知的財産規則の一部を改正する法人規則（平成19年7月20日法人規則第45号）

国立大学法人筑波大学部局長等の選考及び任期に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年7月26日法人規則第46号）

国立大学法人筑波大学附属病院規則の一部を改正する法人規則（平成19年8月27日法人規則第47号）

国立大学法人筑波大学コンプライアンス推進規則の一部を改正する法人規則（平成19年10月25日法人規則第48号）

国立大学法人筑波大学男女共同参画推進委員会規則（平成19年10月25日法人規則第49号）

国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年11月13日法人規則第50号）

国立大学法人筑波大学内部監査規則の一部を改正する法人規則（平成19年11月16日法人規則第51号）

国立大学法人筑波大学財務規則の一部を改正する法人規則（平成19年11月16日法人規則第52号）

国立大学法人筑波大学財産管理規則の一部を改正する法人規則（平成19年11月16日法人規則第53号）

国立大学法人筑波大学附属病院短時間勤務職員就業規則（平成19年12月20日法人規則第54号）

国立大学法人筑波大学附属病院職員就業規則の一部を改正する法人規則（平成19年12月20日法人規則第55号）

国立大学法人筑波大学本部等職員就業規則の一部を改正する法人規則（平成19年12月20日法人規則第56号）

国立大学法人筑波大学本部等職員の給与に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年12月20日法人規則第57号）

国立大学法人筑波大学本部等職員の勤務時間及び休暇に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年12月20日法人規則第58号）

国立大学法人筑波大学本部等非常勤職員の勤務時間及び報酬に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年12月20日法人規則第59号）

国立大学法人筑波大学附属病院職員の給与に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年12月20日法人規則第60号）

国立大学法人筑波大学附属病院職員の勤務時間及び休暇に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年12月20日法人規則第61号）

国立大学法人筑波大学附属病院非常勤職員の勤務時間及び報酬に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年12月20日法人規則第62号）

国立大学法人筑波大学附属学校職員の給与に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年12月20日法人規則第63号）

国立大学法人筑波大学附属学校職員の勤務時間及び休暇に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年12月20日法人規則第64号）

国立大学法人筑波大学附属学校非常勤職員の勤務時間及び報酬に関する規則の一部を改正する法人規則（平成19年12月20日法人規則第65号）

国立大学法人筑波大学契約職員就業規則（平成19年12月20日法人規則第66号）

国立大学法人筑波大学大学院学則の一部を改正する法人規則（平成19年12月20日法人規則第67号）

国立大学法人筑波大学保育施設規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月10日法人規則第1号）

国立大学法人筑波大学本部等職員就業規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第2号）

国立大学法人筑波大学本部等職員の給与に関する規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第3号）

国立大学法人筑波大学本部等職員の勤務時間及び休暇に関する規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第4号）

国立大学法人筑波大学本部等非常勤職員就業規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第5号）

国立大学法人筑波大学本部等非常勤職員の勤務時間及び報酬に関する規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第6号）

国立大学法人筑波大学附属病院職員就業規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第7号）

国立大学法人筑波大学附属病院職員の給与に関する規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第8号）

国立大学法人筑波大学附属病院職員の勤務時間及び休暇に関する規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第9号）

国立大学法人筑波大学附属病院非常勤職員就業規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第10号）

国立大学法人筑波大学附属病院非常勤職員の勤務時間及び報酬に関する規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第11号）

国立大学法人筑波大学附属学校職員就業規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第12号）

国立大学法人筑波大学附属学校職員の給与に関する規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第13号）

国立大学法人筑波大学附属学校職員の勤務時間及び休暇に関する規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第14号）

国立大学法人筑波大学附属学校非常勤職員就業規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第15号）

国立大学法人筑波大学附属学校非常勤職員の勤務時間及び報酬に関する規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第16号）

国立大学法人筑波大学契約職員就業規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第17号）

国立大学法人筑波大学職員の退職金に関する規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月13日法人規則第18号）

国立大学法人筑波大学情報セキュリティ規則（平成20年3月12日法人規則第19号）

国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月27日法人規則第20号）

国立大学法人筑波大学共催及び後援に関する規則等の一部を改正する法人規則（平成20年3月27日法人規則第21号）

国立大学法人筑波大学附属学校校則の一部を改正する法人規則（平成20年3月27日法人規則第22号）

国立大学法人筑波大学財務規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月27日法人規則第23号）

国立大学法人筑波大学学群学則の一部を改正する法人規則（平成20年3月27日法人規則第24号）

国立大学法人筑波大学大学院学則の一部を改正する法人規則（平成20年3月27日法人規則第25号）

国立大学法人筑波大学知的財産規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月31日法人規則第26号）

教育研究組織の長等の選考及び任期に関する規則の一部を改正する法人規則（平成20年3月28日法人規則第27号）

○法人規程

国立大学法人筑波大学医学専門学群に置かれる学類への編入学に関する規程の一部を改正する法人規程（平成19年4月16日法人規程第37号）

国立大学法人筑波大学動物実験取扱規程の一部を改正する法人規程（平成19年6月1日法人規程第38号）

国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則施行規程の一部を改正する法人規程（平成19年6月28日法人規程第39号）

国立大学法人筑波大学科目等履修生等の授業料等に関する規程の一部を改正する法人規程（平成19年6月28日法人規程第40号）

国立大学法人筑波大学環境安全管理室規程の一部を改正する法人規程（平成19年6月28日法人規程第41号）

国立大学法人筑波大学情報環境機構規程の一部を改正する法人規程（平成19年6月28日法人規程第42号）

国立大学法人筑波大学知的財産統括本部規程の一部を改正する法人規程（平成19年7月20日法人規程第43号）

国立大学法人筑波大学戦略イニシアティブ推進機構規程（平成19年7月26日法人規程第44号）

国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則施行規程の一部を改正する法人規程（平成19年8月31日法人規程第45号）

国立大学法人筑波大学法人文書開示規程の一部を改正する法人規程（平成19年8月31日法人規程第46号）

国立大学法人筑波大学保有個人情報の開示等に関する規程の一部を改正する法人規程（平成19年8月31日法人規程第47号）

国立大学法人筑波大学財務規則施行規程の一部を改正する法人規程（平成19年11月16日法人規程第48号）

国立大学法人筑波大学財産管理施行規程の一部を改正する法人規程（平成19年11月16日法人規程第49号）

国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則施行規程の一部を改正する法人規程（平成19年12月18日法人規程第50号）

国立大学法人筑波大学本部等職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する規程の一部を改正する法人規程（平成19年12月20日法人規程第51号）

国立大学法人筑波大学本部等職員の手当に関する規程の一部を改正する法人規程（平成19年12月20日法人規程第52号）

国立大学法人筑波大学附属病院職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する規程の一部を改正する法人規程（平成19年12月20日法人規程第53号）

国立大学法人筑波大学附属病院職員の手当に関する規程の一部を改正する法人規程（平成19年12月20日法人規程第54号）

国立大学法人筑波大学附属学校職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する規程の一部を改正する法人規程（平成19年12月20日法人規程第55号）

国立大学法人筑波大学附属学校職員の手当に関する規程の一部を改正する法人規程（平成19年12月20日法人規程第56号）

国立大学法人筑波大学職員の休暇に関する規程の一部を改正する法人規程（平成19年12月20日法人規程第57号）

国立大学法人筑波大学科目等履修生等の授業料等に関する規程の一部を改正する法人規程（平成19年12月20日法人規程第58号）

国立大学法人筑波大学学位規程の一部を改正する法人規程（平成20年2月20日法人規程第1号）

国立大学法人筑波大学附属図書館規則施行規程の一部を改正する法人規程（平成20年2月28日法人規程第2号）

国立大学法人筑波大学つくば・地域連携推進室規程（平成20年2月28日法人規程第3号）

国立大学法人筑波大学本部等職員の採用、昇任、退職等に関する規程の一部を改正する法人規程（平成20年3月13日法人規程第4号）

国立大学法人筑波大学本部等職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する規程の一部を改正する法人規程（平成20年3月13日法人規程第5号）

国立大学法人筑波大学本部等職員の手当に関する規程の一部を改正する法人規程（平成20年3月13日法人規程第6号）

国立大学法人筑波大学附属病院職員の採用、昇任、退職等に関する規程の一部を改正する法人規程（平成20年3月13日法人規程第7号）

国立大学法人筑波大学附属病院職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する規程の一部を改正する法人規程

(平成20年3月13日法人規程第8号)

国立大学法人筑波大学附属病院職員の手当に関する規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月13日法人規程第9号)

国立大学法人筑波大学附属学校職員を採用、昇任、退職等に関する規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月13日法人規程第10号)

国立大学法人筑波大学附属学校職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月13日法人規程第11号)

国立大学法人筑波大学附属学校職員の手当に関する規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月13日法人規程第12号)

国立大学法人筑波大学附属学校教員の再雇用に関する規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月13日法人規程第13号)

国立大学法人筑波大学職員の育児休業及び介護休業等に関する規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月13日法人規程第14号)

国立大学法人筑波大学職員の休暇に関する規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月13日法人規程第15号)

国立大学法人筑波大学職員の服務監督者に関する規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月13日法人規程第16号)

国立大学法人筑波大学職員職務評価規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月13日法人規程第17号)

国立大学法人筑波大学職員懲戒規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月13日法人規程第18号)

国立大学法人筑波大学におけるハラスメントの防止等に関する規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月13日法人規程第19号)

国立大学法人筑波大学非常勤職員を採用等に関する規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月13日法人規程第20号)

国立大学法人筑波大学の情報の格付け及び取扱制限に関する規程(平成20年3月12日法人規程第21号)

国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則施行規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月27日法人規程第22号)

国立大学法人筑波大学学長室規程等の一部を改正する法人規程(平成20年3月27日法人規程第23号)

国立大学法人筑波大学財務規則施行規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月27日法人規程第24号)

筑波大学学生表彰に関する規程(平成20年3月27日法人規程第25号)

国立大学法人筑波大学研究戦略室規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月31日法人規程第26号)

国立大学法人筑波大学戦略イニシアティブ推進機構規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月31日法人規程第27号)

国立大学法人筑波大学職務発明規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月31日法人規程第28号)

国立大学法人筑波大学プログラムの著作物等取扱規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月31日法人規程第29号)

国立大学法人筑波大学成果有体物取扱規程の一部を改正する法人規程(平成20年3月31日法人規程第30号)

国立大学法人筑波大学教育・学生支援機構規程の一部を改正する法人規程（平成20年3月31日法人規程第31号）

国立大学法人筑波大学大学教員の任期に関する規程の一部を改正する法人規程（平成20年3月28日法人規程第32号）

○法人細則

国立大学法人筑波大学学群入学資格審査等に関する法人細則の一部を改正する法人細則（平成19年4月16日法人細則第18号）

国立大学法人筑波大学学群編入学及び転入学に関する法人細則の一部を改正する法人細則（平成19年4月16日法人細則第19号）

国立大学法人筑波大学学群入学資格審査細則の一部を改正する法人細則（平成19年4月16日法人細則第20号）

国立大学法人筑波大学学群再入学に関する法人細則の一部を改正する法人細則（平成19年4月16日法人細則第21号）

国立大学法人筑波大学大学院連絡会議に関する法人細則の一部を改正する法人細則（平成19年4月27日法人細則第22号）

国立大学法人筑波大学知的財産権返還契約細則の一部を改正する法人細則（平成19年6月13日法人細則第23号）

国立大学法人筑波大学保育施設運営細則の一部を改正する法人細則（平成19年6月15日法人細則第24号）

保育施設ボランティアに関する細則（平成19年8月20日法人細則第25号）

国立大学法人筑波大学法人文書の開示の手続きに関する細則の一部を改正する法人細則（平成19年8月31日法人細則第26号）

国立大学法人筑波大学コンプライアンス通報細則の一部を改正する法人細則（平成19年10月31日法人細則第27号）

国立大学法人筑波大学の財務に関する内部監査細則を廃止する法人細則（平成19年11月16日法人細則第28号）

国立大学法人筑波大学大学院博士課程第3年次編入学及び転入学に関する法人細則の一部を改正する法人細則（平成19年12月20日法人細則第29号）

国立大学法人筑波大学科目等履修生細則の一部を改正する法人細則（平成20年3月27日法人細則第1号）

国立大学法人筑波大学研究生細則の一部を改正する法人細則（平成20年3月27日法人細則第2号）

国立大学法人筑波大学の分任会計機関等並びに会計機関等の補助者の任命に関する取扱いを定める法人細則の一部を改正する法人細則（平成20年3月27日法人細則第3号）

国立大学法人筑波大学債権管理事務取扱細則の一部を改正する法人細則（平成20年3月27日法人細則第4号）

国立大学法人筑波大学出納事務取扱細則の一部を改正する法人細則（平成20年3月27日法人細則第5号）

国立大学法人筑波大学余裕金の運用に関する細則の一部を改正する法人細則（平成20年3月27日法人細則第6号）

国立大学法人筑波大学の会計機関等の使用する公印に関する法人細則の一部を改正する法人細則（平成20年3月27日法人細則第7号）

国立大学法人筑波大学財産管理事務取扱細則の一部を改正する法人細則（平成20年3月27日法人細則第8号）
国立大学法人筑波大学の財産管理役、財産管理役代理及び財産管理代行者の業務の範囲並びに指定する職位を定める法人細則の一部を改正する法人細則（平成20年3月27日法人細則第9号）

○学長告示

国立大学法人筑波大学大学本部等事業場及び東京キャンパス事業場の適用範囲についての一部を改正する学長告示（平成19年12月20日学長告示第3号）

国立大学法人筑波大学大学本部等事業場及び東京キャンパス事業場の適用範囲についての一部を改正する学長告示（平成20年3月27日学長告示第1号）

○教育研究評議会規程

国立大学法人筑波大学教育研究評議会の議事等に関する規程の一部を改正する教育研究評議会規程（平成19年12月20日教育研究評議会規程第1号）

○附属病院規程

国立大学法人筑波大学附属病院の組織及び運営に関する規程の一部を改正する附属病院規程（平成19年6月25日附属病院規程第4号）

国立大学法人筑波大学附属病院の組織及び運営に関する規程の一部を改正する附属病院規程（平成19年8月27日附属病院規程第5号）

筑波大学附属病院の組織及び運営に関する規程の一部を改正する附属病院規程（平成19年9月10日附属病院規程第6号）

筑波大学附属病院の組織及び運営に関する規程の一部を改正する附属病院規程（平成19年10月22日附属病院規程第7号）

筑波大学附属病院の組織及び運営に関する規程の一部を改正する附属病院規程（平成19年11月22日附属病院規程第8号）

○附属病院細則

国立大学法人筑波大学附属病院看護学類生育成奨学金貸与細則（平成19年5月7日附属病院細則第15号）

国立大学法人筑波大学附属病院諸料金細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年5月7日附属病院細則第16号）

国立大学法人筑波大学附属病院歯科技工室の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年5月7日附属病院細則第17号）

国立大学法人筑波大学附属病院医療倫理委員会細則（平成19年6月18日附属病院細則第18号）

国立大学法人筑波大学附属病院特別委員会細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年6月18日附属病院細則第19号）

国立大学法人筑波大学附属病院諸料金細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年6月18日附属病院細則第

20号)

国立大学法人筑波大学附属病院臨床腫瘍センターの組織及び運営に関する細則（平成19年6月25日附属病院細則第21号）

国立大学法人筑波大学附属病院医療倫理委員会細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年6月25日附属病院細則第22号）

国立大学法人筑波大学附属病院看護部長候補者選考細則（平成19年7月9日附属病院細則第23号）

国立大学法人筑波大学附属病院子ども虐待対策委員会細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年8月27日附属病院細則第24号）

国立大学法人筑波大学附属病院諸料金細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年8月27日附属病院細則第25号）

国立大学法人筑波大学附属病院臨床腫瘍センターの組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年9月10日附属病院細則第26号）

筑波大学附属病院諸料金細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年9月10日附属病院細則第27号）

国立大学法人筑波大学附属病院レジデント臨床研修細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年10月22日附属病院細則第28号）

国立大学法人筑波大学附属病院病院会議細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年11月9日附属病院細則第29号）

国立大学法人筑波大学附属病院病院連絡会議細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年11月9日附属病院細則第30号）

国立大学法人筑波大学附属病院病院経営協議会細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年11月9日附属病院細則第31号）

国立大学法人筑波大学附属病院常置委員会細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年11月9日附属病院細則第32号）

国立大学法人筑波大学附属病院特別委員会細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年11月9日附属病院細則第33号）

国立大学法人筑波大学附属病院病院経営戦略会議細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年11月9日附属病院細則第34号）

国立大学法人筑波大学附属病院経営戦略室細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年11月9日附属病院細則第35号）

国立大学法人筑波大学附属病院副病院長の職務分担に関する細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年11月9日附属病院細則第36号）

国立大学法人筑波大学附属病院病院長補佐に関する細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年11月9日附属病院細則第37号）

国立大学法人筑波大学附属病院における医薬品等受託研究取扱細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年11月9日附属病院細則第38号）

国立大学法人筑波大学附属病院治験管理室細則の一部を改正する附属病院細則（平成19年11月9日附属病院細

則第39号)

国立大学法人筑波大学附属病院 I S O 推進室細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第40号)

国立大学法人筑波大学附属病院病態栄養部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第41号)

国立大学法人筑波大学陽子線医学利用研究センター細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第42号)

国立大学法人筑波大学附属病院救急救命士気管挿管受託実習生受入細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第43号)

国立大学法人筑波大学附属病院物流センターの組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第44号)

国立大学法人筑波大学附属病院病棟及び外来の管理に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第45号)

国立大学法人筑波大学附属病院病院登録医受入細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第46号)

国立大学法人筑波大学附属病院緩和ケアセンターの組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第47号)

国立大学法人筑波大学附属病院総合周産期母子医療センターの組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第48号)

国立大学法人筑波大学附属病院検査部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第49号)

国立大学法人筑波大学附属病院手術部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第50号)

国立大学法人筑波大学附属病院放射線部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第51号)

国立大学法人筑波大学附属病院救急部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第52号)

国立大学法人筑波大学附属病院医療情報部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第53号)

国立大学法人筑波大学附属病院リハビリテーション部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第54号)

国立大学法人筑波大学附属病院総合臨床教育センターの組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第55号)

国立大学法人筑波大学附属病院集中治療部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第56号)

国立大学法人筑波大学附属病院輸血部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年

11月9日附属病院細則第57号)

国立大学法人筑波大学附属病院光学医療診療部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則
(平成19年11月9日附属病院細則第58号)

国立大学法人筑波大学附属病院病理部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年
11月9日附属病院細則第59号)

国立大学法人筑波大学附属病院血液浄化療法部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則
(平成19年11月9日附属病院細則第60号)

国立大学法人筑波大学附属病院臨床医療管理部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則
(平成19年11月9日附属病院細則第61号)

国立大学法人筑波大学附属病院医療福祉支援センターの組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院
細則 (平成19年11月9日附属病院細則第62号)

国立大学法人筑波大学附属病院歯科技工室の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成
19年11月9日附属病院細則第63号)

国立大学法人筑波大学附属病院薬剤部の組織及び業務分掌に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成
19年11月9日附属病院細則第64号)

国立大学法人筑波大学附属病院看護部の組織及び業務分掌に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成
19年11月9日附属病院細則第65号)

国立大学法人筑波大学附属病院感染管理室の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則 (平成
19年11月9日附属病院細則第66号)

国立大学法人筑波大学附属病院研修登録医受入細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病
院細則第67号)

国立大学法人筑波大学附属病院利用細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院細則第68
号)

国立大学法人筑波大学附属病院臨床修練運営細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病院
細則第69号)

国立大学法人筑波大学附属病院リスクマネジメント委員会細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11
月9日附属病院細則第70号)

国立大学法人筑波大学附属病院保険診療委員会細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病
院細則第71号)

国立大学法人筑波大学附属病院高度先進医療専門委員会細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9
日附属病院細則第72号)

国立大学法人筑波大学附属病院脳死判定委員会細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月9日附属病
院細則第73号)

国立大学法人筑波大学附属病院遺伝子治療臨床研究審査委員会細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年
11月9日附属病院細則第74号)

国立大学法人筑波大学附属病院薬剤師実務受託研修生受入細則の一部を改正する附属病院細則 (平成19年11月

9日附属病院細則第75号)

国立大学法人筑波大学附属病院受託実習生受入細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第76号)

国立大学法人筑波大学附属病院病院研修生受入細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第77号)

国立大学法人筑波大学附属病院診療情報提供細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第78号)

国立大学法人筑波大学附属病院校費負担患者取扱細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第79号)

国立大学法人筑波大学附属病院薬剤師実務受託実習生受入細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第80号)

国立大学法人筑波大学附属病院臨床研究倫理審査委員会細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第81号)

国立大学法人筑波大学附属病院における未収附属病院収入の徴収不能引当金の算定に関する細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第82号)

国立大学法人筑波大学附属病院つくばヒト組織診断センターの組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第83号)

国立大学法人筑波大学附属病院つくばヒト組織診断センター病理組織検査等受託細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第84号)

国立大学法人筑波大学附属病院つくばヒト組織診断センター病理解剖受託細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第85号)

国立大学法人筑波大学附属病院看護部職員の勤務時間等に関する細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第86号)

国立大学法人筑波大学附属病院看護学類生育成奨学金貸与細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第87号)

国立大学法人筑波大学附属病院医療倫理委員会細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第88号)

国立大学法人筑波大学附属病院看護部長候補者選考細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月9日附属病院細則第89号)

筑波大学附属病院救急部の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月22日附属病院細則第90号)

筑波大学附属病院看護部の組織及び業務分掌に関する細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月22日附属病院細則第91号)

筑波大学附属病院諸料金細則の一部を改正する附属病院細則(平成19年11月26日附属病院細則第92号)

筑波大学附属病院薬剤師実務受託研修生受入細則の一部を改正する附属病院細則(平成20年1月7日附属病院細則第1号)

筑波大学附属病院医療ガス安全管理委員会細則（平成20年2月4日附属病院細則第2号）

筑波大学附属病院諸料金細則の一部を改正する附属病院細則（平成20年2月25日附属病院細則第3号）

筑波大学附属病院研修登録医受入細則の一部を改正する附属病院細則（平成20年3月10日附属病院細則第4号）

筑波大学附属病院諸料金細則の一部を改正する附属病院細則（平成20年3月24日附属病院細則第5号）

○附属学校教育局規程

国立大学法人筑波大学附属学校専攻科規程の一部を改正する附属学校教育局規程（平成20年3月27日附属学校教育局規程第1号）

国立大学法人筑波大学附属学校教育局の組織及び運営に関する規程の一部を改正する附属学校教育局規程（平成20年3月27日附属学校教育局規程第2号）

国立大学法人筑波大学附属学校教育局附属学校管理規程の一部を改正する附属学校教育局規程（平成20年3月27日附属学校教育局規程第3号）

○附属学校教育局細則

国立大学法人筑波大学附属学校の入学に関する細則の一部を改正する附属学校教育局細則（平成19年5月25日附属学校教育局細則第8号）

国立大学法人筑波大学附属学校教育局の組織及び運営に関する細則の一部を改正する附属学校教育局細則（平成20年3月27日附属学校教育局細則第1号）

国立大学法人筑波大学理療科教員養成施設細則の一部を改正する附属学校教育局細則（平成20年3月27日附属学校教育局細則第2号）

国立大学法人筑波大学附属学校職員会議細則の一部を改正する附属学校教育局細則（平成20年3月27日附属学校教育局細則第3号）

国立大学法人筑波大学附属学校学校評議員細則の一部を改正する附属学校教育局細則（平成20年3月27日附属学校教育局細則第4号）

○部局細則

博士課程の研究科

人文社会科学研究科

国立大学法人筑波大学大学院博士課程人文社会科学研究科人事委員会細則の一部を改正する部局細則（平成19年5月8日人文社会科学研究科部局細則第1号）

国立大学法人筑波大学大学院人文社会科学研究科テニユア・トラック制に関する細則（平成19年5月17日人文社会科学研究科部局細則第2号）

国立大学法人筑波大学大学院人文社会科学研究科大学教員業績評価の試行実施に係る評価委員会細則（平成19年6月6日人文社会科学研究科部局細則第3号）

国立大学法人筑波大学大学院博士課程人文社会科学研究科人事委員会細則の一部を改正する部局細則（平

成20年3月5日人文社会科学部局細則第1号)

ビジネス科学研究科

国立大学法人筑波大学大学院博士課程ビジネス科学研究科人事委員会に関する細則の一部を改正する部局細則(平成19年5月10日ビジネス科学研究科部局細則第3号)

国立大学法人筑波大学大学院ビジネス科学研究科大学教員業績評価の試行実施に係る評価委員会細則(平成19年6月28日ビジネス科学研究科部局細則第4号)

国立大学法人筑波大学大学院博士課程ビジネス科学研究科テニユア・トラック制に関する細則(平成19年7月17日ビジネス科学研究科部局細則第5号)

数理物質科学研究科

国立大学法人筑波大学大学院数理物質科学研究科人事委員会細則の一部を改正する部局細則(平成19年4月5日数理物質科学研究科部局細則第3号)

大学教員業績評価の試行実施に係る数理物質科学研究科評価委員会細則(平成19年6月8日数理物質科学研究科部局細則第4号)

国立大学法人筑波大学大学院博士課程数理物質科学研究科大学教員のテニユア・トラック制に関する細則(平成19年7月11日数理物質科学研究科部局細則第5号)

国立大学法人筑波大学数理物質科学研究科研究倫理委員会細則の一部を改正する部局細則(平成19年10月19日数理物質科学研究科部局細則第6号)

システム情報工学研究科

国立大学法人筑波大学大学院博士課程システム情報工学研究科人事委員会細則の一部を改正する部局細則(平成19年4月5日システム情報工学研究科部局細則第2号)

国立大学法人筑波大学大学院博士課程システム情報工学研究科における大学教員予備選考基準及び手順の一部を改正する部局細則(平成19年4月5日システム情報工学研究科部局細則第3号)

国立大学法人筑波大学大学院博士課程システム情報工学研究科テニユア・トラック制に関する細則(平成19年6月7日システム情報工学研究科部局細則第4号)

国立大学法人筑波大学大学院博士課程システム情報工学研究科研究倫理委員会細則(平成19年7月10日システム情報工学研究科部局細則第5号)

国立大学法人筑波大学大学院博士課程システム情報工学研究科大学教員業績評価の試行実施に係る評価委員会細則(平成19年11月28日システム情報工学研究科部局細則第6号)

筑波大学大学院学則に基づくシステム情報工学研究科細則(平成20年3月26日システム情報工学研究科部局細則第1号)

生命環境科学研究科

国立大学法人筑波大学大学院博士課程生命環境科学研究科の大学教員選考審査手続及び部局人事委員会に関する細則の一部を改正する部局細則(平成19年4月11日生命環境科学研究科部局細則第3号)

国立大学法人筑波大学下田臨海実験センター細則及び国立大学法人筑波大学菅平高原実験センター細則の一部を改正する部局細則(平成19年4月11日生命環境科学研究科部局細則第4号)

国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科ヒトを対象とする研究の倫理に関する委員会細則の一部

を改正する部局細則（平成19年4月11日生命環境科学研究科部局細則第5号）

大学教員業績評価の試行実施に係る生命環境科学研究科評価委員会細則（平成19年5月9日生命環境科学研究科部局細則第6号）

生命環境科学研究科大学教員のテニユア・トラック制に関する細則（平成19年7月11日生命環境科学研究科部局細則第7号）

生命環境科学研究科大学教員のテニユア・トラック制に関する細則の一部を改正する部局細則（平成19年9月12日生命環境科学研究科部局細則第8号）

国立大学法人筑波大学陸域環境研究センター細則の一部を改正する部局細則（平成20年1月16日生命環境科学研究科部局細則第1号）

国立大学法人筑波大学下田臨海実験センター細則の一部を改正する部局細則（平成20年2月13日生命環境科学研究科部局細則第2号）

国立大学法人筑波大学大学院博士課程生命環境科学研究科の大学教員選考審査手続及び部局人事委員会に関する細則等の一部を改正する部局細則（平成20年3月5日生命環境科学研究科部局細則第3号）

人間総合科学研究科

国立大学法人筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科人事委員会細則の一部を改正する部局細則（平成19年4月27日人間総合科学研究科部局細則第2号）

国立大学法人筑波大学大学院人間総合科学研究科大学教員のテニユア・トラック制に関する細則（平成19年7月17日人間総合科学研究科部局細則第3号）

人間総合科学研究科ファカルティ・ディベロップメント推進委員会細則（平成19年4月27日人間総合科学研究科部局細則第4号）

国立大学法人筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科学位論文審査等実施細則の一部を改正する部局細則（平成19年4月27日人間総合科学研究科部局細則第5号）

国立大学法人筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒトES細胞に関する倫理委員会細則の一部を改正する部局細則（平成19年7月27日人間総合科学研究科部局細則第6号）

国立大学法人筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科人事委員会細則の一部を改正する部局細則（平成19年7月17日人間総合科学研究科部局細則第7号）

大学教員業績評価の施行実施に係る人間総合科学研究科評価委員会細則（平成19年9月28日人間総合科学研究科部局細則第8号）

国立大学法人筑波大学次世代医療研究開発・教育統合センター細則の一部を改正する部局細則（平成19年11月19日人間総合科学研究科部局細則第9号）

国立大学法人筑波大学生命科学動物資源センター遺伝子改変マウス作製等受託細則の一部を改正する部局細則（平成20年1月9日人間総合科学研究科部局細則第1号）

図書館情報メディア研究科

大学教員業績評価の試行実施に係る図書館情報メディア研究科評価委員会細則（平成19年4月18日図書館情報メディア研究科部局細則第4号）

国立大学法人筑波大学大学院博士課程図書館情報メディア研究科におけるテニユア・トラック制に関する

細則（平成19年7月17日図書館情報メディア研究科部局細則第5号）

図書館情報メディア研究科自己点検・評価等に関する細則（平成20年3月19日図書館情報メディア研究科部局細則第1号）

学群

人文・文化学群

国立大学法人筑波大学人文・文化学群運営委員会細則（平成19年4月1日人文・文化学群部局細則第1号）

国立大学法人筑波大学人文・文化学群学類教員会議細則（平成19年4月1日人文・文化学群部局細則第2号）

国立大学法人筑波大学人文・文化学群履修細則（平成19年4月1日人文・文化学群部局細則第3号）

国立大学法人筑波大学人文・文化学群運営委員会細則の一部を改正する部局細則（平成20年3月17日人文・文化学群部局細則第1号）

社会・国際学群

国立大学法人筑波大学社会・国際学群運営委員会細則（平成19年4月1日社会・国際学群部局細則第1号）

国立大学法人筑波大学社会・国際学群学類教員会議細則（平成19年4月1日社会・国際学群部局細則第2号）

国立大学法人筑波大学社会・国際学群履修細則（平成19年4月1日社会・国際学群部局細則第3号）

人間学群

国立大学法人筑波大学人間学群教員会議細則（平成19年4月11日人間学群部局細則第1号）

国立大学法人筑波大学人間学群学類教員会議細則（平成19年4月11日人間学群部局細則第2号）

国立大学法人筑波大学人間学群履修細則（平成19年4月11日人間学群部局細則第3号）

国立大学法人筑波大学人間学群教員会議細則等の一部を改正する部局細則（平成20年2月13日人間学群部局細則第1号）

生命環境学群

国立大学法人筑波大学生命環境学群運営委員会細則（平成19年4月12日生命環境学群部局細則第1号）

国立大学法人筑波大学生命環境学群学類教員会議細則（平成19年4月12日生命環境学群部局細則第2号）

国立大学法人筑波大学生命環境学群履修細則（平成19年4月12日生命環境学群部局細則第3号）

国立大学法人筑波大学生命環境学群運営委員会細則等の一部を改正する部局細則（平成20年1月24日生命環境学群部局細則第1号）

理工学群

国立大学法人筑波大学理工学群運営委員会細則（平成19年4月4日理工学群部局細則第1号）

国立大学法人筑波大学理工学群学類教員会議細則（平成19年4月4日理工学群部局細則第2号）

国立大学法人筑波大学理工学群履修細則（平成19年4月25日理工学群部局細則第3号）

国立大学法人筑波大学理工学群運営委員会細則の一部を改正する部局細則（平成19年10月24日理工学群部局細則第1号）

局細則第4号)

国立大学法人筑波大学理工学群履修細則の一部を改正する部局細則（平成20年2月27日理工学群部局細則第1号）

情報学群

国立大学法人筑波大学情報学群運営委員会細則（平成19年4月1日情報学群部局細則第1号）

国立大学法人筑波大学情報学群学類教員会議細則（平成19年4月1日情報学群部局細則第2号）

国立大学法人筑波大学情報学群履修細則（平成19年4月1日情報学群部局細則第3号）

国立大学法人筑波大学情報学群履修細則の一部を改正する部局細則（平成20年1月16日情報学群部局細則第1号）

体育専門学群

国立大学法人筑波大学体育専門学群履修細則の一部を改正する部局細則（平成19年11月21日体育専門学群部局細則第1号）

芸術専門学群

国立大学法人筑波大学芸術専門学群履修細則の一部を改正する部局細則（平成19年12月12日芸術専門学群部局細則第1号）

第二学群

国立大学法人筑波大学第二学群運営委員会細則等の一部を改正する部局細則（平成20年3月13日第二学群部局細則第1号）

第三学群

国立大学法人筑波大学第三学群運営委員会細則の一部を改正する部局細則（平成19年4月25日第三学群部局細則第1号）

国立大学法人筑波大学第三学群学類教員会議細則の一部を改正する部局細則（平成19年4月25日第三学群部局細則第2号）

国立大学法人筑波大学第三学群履修細則の一部を改正する部局細則（平成19年4月25日第三学群部局細則第3号）

国立大学法人筑波大学第三学群履修細則の一部を改正する部局細則（平成19年9月26日第三学群部局細則第4号）

全国共同利用施設

計算科学研究センター

国立大学法人筑波大学計算科学研究センターにおける大学教員の任用に関する細則の一部を改正する部局細則（平成19年9月28日計算科学研究センター部局細則第1号）

筑波大学計算科学研究センターにおける大学教員のテニユア・トラック制に関する細則（平成19年9月28日計算科学研究センター部局細則第2号）

プラズマ研究センター

国立大学法人筑波大学プラズマ研究センターにおける教員の任用に関する細則の一部を改正する部局細則

(平成19年4月5日プラズマ研究センター部局細則第2号)

学内共同教育研究施設

北アフリカ研究センター

国立大学法人筑波大学北アフリカ研究センター細則（平成19年4月11日北アフリカ研究センター部局細則第1号）

国立大学法人筑波大学北アフリカ研究センターの措置定員教員の任用に関する細則（平成19年5月17日北アフリカ研究センター部局細則第2号）

研究基盤総合センター

筑波大学研究基盤総合センターにおける化学系研究設備有効活用ネットワーク登録設備の利用に関する細則（平成19年8月30日研究基盤総合センター部局細則第4号）

アイソトープ総合センター

国立大学法人筑波大学アイソトープ総合センターの措置定員教員の任用に関する細則の一部を改正する部局細則（平成20年3月21日アイソトープ総合センター部局細則第1号）

アイソトープ総合センター措置定員教員のテニユア・トラック制に関する細則（平成20年3月21日アイソトープ総合センター部局細則第2号）

附属図書館

国立大学法人筑波大学附属図書館利用細則の一部を改正する部局細則（平成20年3月28日附属図書館部局細則第1号）

(4) 主要行事

| | | |
|--------------|--------------------------|------------------|
| 入学式 | 学群（理療科教員養成施設を含む），大学院 | 4月9日（月） |
| | 学群（第2学期推薦入学），大学院（第2学期入学） | 8月8日（水） |
| 新入生オリエンテーション | 学群（4月入学） | 4月9日（月）～11日（水） |
| | （第2学期推薦入学） | 8月8日（水） |
| | 大学院 | 4月9日（月） |
| | 外国人留学生（4月入学）私費外国人留学生 | 4月10日（火） |
| | （ ）国費外国人留学生 | 4月11日（水） |
| | （9月入学）私費外国人留学生 | 9月10日（月） |
| | （10月入学）国費外国人留学生 | 10月12日（金） |
| スポーツ・デー | 春季 | 5月19日（土）～20日（日） |
| | 秋季 | 10月20日（土）～21日（日） |

| | | |
|-----------|--|---------------|
| 入学試験等（学群） | 受験生のための大学説明会 | |
| | 〔人文・文化学群（人文学類），社会・国際学群（国際総合学類）， 生命環境学群（生物学類，地球学類），理工学群（応用理工学類，社会工学類）， 情報学群（情報科学類），医学群（看護学類）〕 | 8月1日（水） |
| | 〔人文・文化学群（比較文化学類），社会・国際学群（社会学類）， 生命環境学群（生物学類），理工学群（数学類，物理学類，化学類）， 情報学群（知識情報・図書館学類），医学群（医療科学類）， 体育専門学群〕 | 8月2日（木） |
| | 〔人文・文化学群（日本語・日本文化学類）， 人間学群（教育学類，心理学類，障害科学類），生命環境学群（生物資源学類）， 理工学群（工学システム学類），情報学群（情報メディア創成学類）， 医学群（医学類），芸術専門学群〕 | 8月3日（金） |
| | 平成19年度アドミッションセンター入試（第Ⅱ期）（工学システム学類） | |
| | 第1次選考 | 6月15日（金） |
| | 第2次選考 | 6月29日（金） |
| | 平成19年度第2学期推薦入学 | 7月4日（水） |
| | 平成20年度学群編入学（自然学類，生物学類，生物資源学類，社会工学類， 国際総合学類，情報学類，工学システム学類，工学基礎学類， 看護・医療科学類） | 7月4日（水），5日（木） |
| | 平成20年度学群編入学（学士）（医学類） | 7月4日（水），5日（木） |
| | 平成20年度学群編入学試験（図書館情報専門学群） | 7月27日（金） |
| | 平成20年度アドミッションセンター入試（第Ⅰ期） | |

| | | |
|------------------------|--|--------------------------|
| | 第1次選考 | 10月2日(火) |
| | 第2次選考 | 10月9日(火)～19日(金) |
| 平成20年度推薦入学 | 第1次選考(障害科学類(障害者特別選抜)のみ) | 11月16日(金) |
| | 第2次選考(社会学類, 障害科学類, 知識情報・図書館学類) | 11月28日(水) |
| | 〃 (上記以外の学群・学類) | 11月28日(水), 29日(木) |
| 平成20年度帰国生徒特別選抜(芸術専門学群) | | 11月28日(水), 29日(木) |
| 平成20年度大学入試センター試験 | | 1月19日(土), 20日(日) |
| 平成20年度学群編入学(社会学類) | | 2月25日(月), 26日(火) |
| 平成20年度私費外国人留学生特別選抜 | 第1次選考(医学類のみ) | 2月13日(水) |
| | 第2次選考 | 2月25日(月), 26日(火) |
| | | (2月26日は体育専門学群, 芸術専門学群のみ) |
| 平成20年度個別学力検査等 | | |
| | 第1段階選抜 前期日程 | 2月13日(水) |
| | 後期日程 | 2月28日(木) |
| | 第2段階選抜 前期日程(人文・文化学群, 社会・国際学群, 人間学群, 生命環境学群, 理工学群, 情報学群) | 2月25日(月) |
| | 〃 〃 (医学群, 体育専門学群, 芸術専門学群) | 2月25日(月), 26日(火) |
| | 〃 後期日程 | 3月12日(水) |

入学試験(大学院)

平成20年度修士課程入学試験

- ・ 体育研究科(スポーツ科学専攻)推薦入学 7月9日(月)
- ・ 体育研究科(スポーツ健康システム・マネジメント専攻)推薦入学 7月28日(土)
- ・ 教育研究科(カウンセリング専攻),
体育研究科(スポーツ健康システム・マネジメント専攻) 8月25日(土), 26日(日)
- ・ 地域研究, 教育研究科(障害児教育, スクールリーダーシップ開発, 教科教育専攻)
10月18日(木), 19日(金)
- ・ 体育研究科(スポーツ科学専攻) 10月18日(木)
- ・ 教育研究科(スクールリーダーシップ開発, 教科教育専攻)2次募集 2月6日(水)
- ・ 教育研究科(特別支援教育専攻) 2月6日(水)

平成20年度博士課程入学試験

- ・ 人文社会科学研究科(文芸・言語, 現代文化・公共政策, 社会科学, 国際政治経済学専攻),

- 数理解物質科学研究科（博士前期課程），システム情報工学研究科（博士前期課程），
図書館情報メディア研究科（博士前期課程）推薦入学…………… 7月9日（月）
- ・生命環境科学研究科（国際地縁技術開発科学，生物圏資源科学，生物機能科学，
生命産業科学，先端農業技術科学専攻），
人間総合科学研究科（先端応用医学，分子情報・生体統御医学，病態制御医学，
機能制御医学，社会環境医学専攻）…………… 8月21日（火）
 - ・数理解物質科学研究科（博士前期課程，物質・材料工学専攻），
生命環境科学研究科（地球科学，生物科学，生物資源科学，生命共存科学専攻），
人間総合科学研究科（フロンティア医科学，看護科学，心理学，ヒューマン・ケア科学，
感性認知脳科学，スポーツ医学，体育科学専攻），
図書館情報メディア研究科（博士前期課程）第1回…………… 8月21日（火），22日（水）
 - ・システム情報工学研究科（博士後期課程）第1回…………… 8月22日（水）
 - ・数理解物質科学研究科（博士後期課程）…………… 8月23日（木）
 - ・システム情報工学研究科（博士前期課程）第1回，
図書館情報メディア研究科（博士後期課程）第1回…………… 8月23日（木），24日（金）
 - ・ビジネス科学研究科（企業科学専攻）…………… 9月9日（日）
 - ・ビジネス科学研究科（企業法学専攻）…………… 9月16日（日）
 - ・人文社会科学（歴史・人類学専攻），
生命環境科学研究科（生物科学，持続環境学専攻）…………… 10月18日（木）
 - ・生命環境科学研究科（環境科学専攻），
人間総合科学研究科（芸術（博士前期課程），世界遺産専攻）…………… 10月18日（木），19日（金）
 - ・ビジネス科学研究科（経営システム科学専攻）…………… 11月17日（土），18日（日）
 - ・人文社会科学研究科（国際公共政策専攻），生命環境科学研究科（地球環境科学専攻），
人間総合科学研究科（生命システム医学，疾患制御医学専攻，世界文化遺産学，
ヒューマン・ケア科学，コーチング学専攻）…………… 2月4日（月）
 - ・システム情報工学研究科（社会システム・マネジメント，リスク工学（博士前期課程），
知能機能システム（博士後期課程），
構造エネルギー工学専攻（博士後期課程））第2回・2次募集，
生命環境科学研究科（国際地縁技術開発科学，生物圏資源科学，生物機能科学，
生命産業科学，先端農業技術科学専攻）2次募集…………… 2月4日（月）
 - ・人文社会科学研究科（哲学・思想，歴史・人類学，文芸・言語，現代語・現代文化，
経済学，法学，国際地域研究，国際日本研究専攻），
生命環境科学研究科（地球進化科学専攻），
人間総合科学研究科（教育学，教育基礎学，学校教育学，心理，心理学，障害科学，
感性認知脳科学（博士前期課程），体育科学，芸術（博士後期課程），
スポーツ医学専攻）…………… 2月4日（月），5日（火）

- ・数理物質科学研究科（博士前期課程，物質・材料工学専攻），
生命環境科学研究科（地球科学，生物資源科学，生命共存科学専攻）2次募集
..... 2月4日（月），5日（火）
- ・システム情報工学（社会システム工学，経営・政策科学，
コンピュータサイエンス専攻）第2回・2次募集，
図書館情報メディア研究科（博士前期課程）第2回..... 2月4日（月），5日（火）
- ・人文社会科学（哲学・思想，歴史・人類学，文芸・言語専攻），
生命環境科学（生命共存科学専攻）3年次編入学..... 2月4日（月），5日（火）
- ・生命環境科学研究科（構造生物科学，情報生物科学専攻），
人間総合科学研究科（感性認知脳科学専攻（博士後期課程））..... 2月5日（火）
- ・数理物質科学研究科（博士後期課程），
生命環境科学研究科（生物科学専攻）2次募集..... 2月5日（火）
- ・システム情報工学研究科（知能機能システム（博士前期課程），
構造エネルギー工学（博士前期課程），
リスク工学専攻（博士後期課程））第2回・2次募集 2月5日（火）
- ・生命環境科学研究科（環境科学専攻）2次募集，
図書館情報メディア研究科（博士後期課程）第2回..... 2月5日（火），6日（水）
- ・生命環境科学（持続環境学専攻）2次募集..... 2月6日（水）
- ・ビジネス科学研究科（企業法学，企業科学専攻）2次募集..... 2月3日（日）

平成20年度専門職学位課程入学試験

- ・ビジネス科学研究科（法曹専攻）..... 11月11日（日），12月9日（日）
- ・ビジネス科学研究科（国際経営プロフェッショナル専攻）..... 3月1日（土）～9日（日）

- 永年勤続者（20年）表彰式.....10月1日（月）
- 永年勤続者（退職時）表彰式..... 3月31日（月）
- 名誉教授称号授与式..... 6月6日（水）
- 篤志解剖体慰霊式.....10月10日（水）
- 学園祭（雙峰祭）.....10月6日（土）～8日（月）
- 卒業式・学位授与式 学群（第1学期末卒業式），大学院（7月期）..... 7月25日（水）
大学院（12月期）.....12月5日（水）
学群（理療科教員養成施設を含む），大学院（3月期）..... 3月25日（火）

(5) 役員・役職員名簿

ア 役員名簿

| | | |
|--------------|-------|---------------------|
| 学 長 | 岩崎 洋一 | |
| 理 事 (副学長) | 工藤 典雄 | |
| 〃 (〃) | 腰塚 武志 | |
| 〃 (〃) | 泉 紳一郎 | |
| 〃 (〃) | 波多野澄雄 | |
| 〃 (〃) | 吉武 博通 | |
| 〃 (〃) | 谷川 彰英 | |
| (附属学校教育局教育長) | | |
| 〃 (附属病院長) | 山田 信博 | |
| 〃 | 岸 輝雄 | 非常勤 (物質・材料研究機構理事長) |
| 監 事 | 合志 陽一 | |
| 〃 | 吉井 毅 | 非常勤 (新日本製鐵株式会社常任顧問) |

イ 役職員名簿

| | |
|--------|-------|
| 副学長 | 水林 博 |
| 学長特別補佐 | 宇川 彰 |
| 〃 | 井上 勲 |
| 〃 | 辻中 豊 |
| 附属図書館長 | 植松 貞夫 |

(博士課程研究科長)

| | | | |
|--------------|-------|---------------|-------|
| 人文社会科学研究科長 | 坪井 美樹 | 生命環境科学研究科長 | 田瀬 則雄 |
| ビジネス科学研究科長 | 江口 隆裕 | 人間総合科学研究科長 | 清水 一彦 |
| 数理物質科学研究科長 | 赤平 昌文 | 図書館情報メディア研究科長 | 中山 伸一 |
| システム情報工学研究科長 | 田中 二郎 | | |

(人間総合科学研究科の副研究科長)

| | |
|----------------|-------|
| 人間総合科学研究科副研究科長 | 中村満紀男 |
| 〃 | 五十殿利治 |
| 〃 | 吉川 裕之 |

(専攻長)

| | | | |
|-------------|-------|------------------|---------------|
| 人文社会科学研究科 | | | |
| 哲学・思想専攻長 | 堀池 信夫 | 現代文化・公共政策専攻長 | 川那部保明 |
| 歴史・人類学専攻長 | 片岡 一忠 | 社会科学専攻長 | 好井 裕明 |
| 文芸・言語専攻長 | 廣瀬 幸生 | 国際政治経済学専攻長 | 前川 啓治 |
| ビジネス科学研究科 | | | |
| 経営システム科学専攻長 | 小倉 昇 | 法曹専攻長 | 新井 誠 |
| 企業法学専攻長 | 青山 慶二 | 国際経営プロフェッショナル専攻長 | 椿 広計 ~19.8.31 |
| 企業科学専攻長 | 津田 和彦 | | 永井 裕久 19.9.1~ |
| 数理物質科学研究科 | | | |
| 数学専攻長 | 竹内 光弘 | 電子・物理工学専攻長 | 秋本 克洋 |

| | | | | |
|------------------|-------|--------------------|-------|-----------|
| 物理学専攻長 | 金谷 和至 | 物性・分子工学専攻長 | 戸嶋 信幸 | ～19.11.30 |
| 化学専攻長 | 山本 泰彦 | | 鈴木 博章 | 19.12.1～ |
| 物質創成先端科学専攻長 | 鍋島 達弥 | 物質・材料工学専攻長 | 井上 悟 | |
| システム情報工学研究科 | | | | |
| 社会システム工学専攻長(区分制) | 中村 豊 | 知能機能システム専攻長 | 鬼沢 武久 | |
| 経営・政策科学専攻長 | 高木 英明 | 構造エネルギー工学専攻長 | 河合 達雄 | |
| 社会システム・マネジメント専攻長 | 香田 正人 | 社会システム工学専攻長(一貫制) | 香田 正人 | |
| リスク工学専攻長 | 内山 洋司 | 計量ファイナンス・マネジメント専攻長 | 香田 正人 | |
| コンピュータ工学専攻長 | 北川 博之 | | | |
| 生命環境科学研究科 | | | | |
| 生物学専攻長 | 沼田 治 | 先端農業技術科学専攻長 | 二宮 正士 | |
| 生物資源科学専攻長 | 東 照雄 | 地球科学専攻長(前期) | 手塚 章 | |
| 構造生物学専攻長 | 沼田 治 | 地球環境科学専攻長(後期) | 手塚 章 | |
| 情報生物学専攻長 | 白岩 善博 | 地球進化科学専攻長(後期) | 荒川 洋二 | |
| 生命共存科学専攻長 | 福島 武彦 | 環境科学専攻長(前期) | 佐藤 俊 | |
| 国際地縁技術開発科学専攻長 | 土居 修一 | 持続環境学専攻長(後期) | 佐藤 俊 | |
| 生物圏資源科学専攻長 | 弦間 洋 | 地球環境科学専攻長(一貫制) | 手塚 章 | |
| 生物機能科学専攻長 | 松本 宏 | 地球進化科学専攻長(一貫制) | 荒川 洋二 | |
| 生命産業科学専攻長 | 佐竹 隆顕 | | | |
| 人間総合科学研究科 | | | | |
| フロンティア医科学専攻長 | 加藤 光保 | 病態制御医学専攻長 | 兵頭一之介 | 19.5.1～ |
| 教育学専攻長 | 窪田 眞二 | 機能制御医学専攻長 | 榊原 謙 | |
| 学校教育学専攻長 | 塚田 泰彦 | 社会環境医学専攻長 | 永田 恭介 | |
| 心理学専攻長 | 吉田富二雄 | 体育科学専攻長 | 西平 賀昭 | |
| 心身障害学専攻長 | 長崎 勤 | コーチング学専攻長 | 朝岡 正雄 | |
| | 河内 清彦 | 芸術専攻長(前期) | 玉川 信一 | |
| | 大久保一郎 | 芸術専攻長(後期) | 五十殿利治 | |
| ヒューマン・ケア科学専攻長 | 久野 節二 | 芸術学専攻長(一貫制) | 五十殿利治 | |
| 感性認知脳科学専攻長 | 鯨坂 隆一 | 世界文化遺産学専攻長 | 日高健一郎 | |
| スポーツ医学専攻長 | 大河内信弘 | 世界遺産専攻長(前期) | 斎藤 英俊 | |
| 先端応用医学専攻長 | 野口 雅之 | 看護科学専攻長 | 高田ゆり子 | |
| 分子情報・生体統御医学専攻長 | | | | |
| 図書館情報メディア研究科 | | | | |
| 図書館情報メディア専攻長 | 石塚 英弘 | | | |
| (課程長) | | | | |
| 修士課程長 | 工藤 典雄 | | | |
| (修士課程研究科長) | | | | |
| 地域研究研究科長 | 小野澤正喜 | 環境科学研究科長 | 佐藤 俊 | |
| 教育研究科長 | 大高 泉 | 芸術研究科長 | 玉川 信一 | |
| 体育研究科長 | 中込 四郎 | | | |
| (学群長) | | | | |
| 人文・文化学群長 | 山田 宣夫 | 体育専門学群長 | 野村 良和 | |
| 社会・国際学群長 | 北脇 信彦 | 芸術専門学群長 | 西川 潔 | |

| | | | |
|---------|-------|------------|-------|
| 人間学群長 | 宮本 信也 | 第一学群長 | 山田 宣夫 |
| 生命環境学群長 | 林 純一 | 第二学群長 | 林 純一 |
| 理工学群長 | 岡本 健一 | 第三学群長 | 吉田 雅敏 |
| 情報学群長 | 海老原義彦 | 医学専門学群長 | 大塚 藤男 |
| 医学群長 | 大塚 藤男 | 図書館情報専門学群長 | 石井 啓豊 |

(副学群長)

| | |
|----------|-------|
| 理工学群副学群長 | 吉田 雅敏 |
|----------|-------|

(学類長)

| | | | |
|-------------|-------|-------------|-------|
| 人文・文化学群 | | | |
| 人文学類長 | 伊藤 眞 | 日本語・日本文化学類長 | 江藤 秀一 |
| 比較文化学類長 | 竹村喜一郎 | | |
| 社会・国際学群 | | | |
| 社会学類長 | 本澤巳代子 | 国際総合学類長 | 福井 幸男 |
| 人間学群 | | | |
| 教育学類長 | 堀 和郎 | 障害科学類長 | 園山 繁樹 |
| 心理学類長 | 小川 俊樹 | | |
| 生命環境学群 | | | |
| 生物学類長 | 佐藤 忍 | 地球学類長 | 指田 勝男 |
| 生物資源学類長 | 金井 幸雄 | | |
| 理工学群 | | | |
| 数学類長 | 伊藤 光弘 | 応用理工学類長 | 大嶋 建一 |
| 物理学類長 | 矢花 一浩 | 工学システム学類長 | 安信 誠二 |
| 化学類長 | 新井 達郎 | 社会工学類長 | 小場瀬令二 |
| 情報学群 | | | |
| 情報科学類長 | 山口 喜教 | 知識情報・図書館学類長 | 石井 啓豊 |
| 情報メディア創成学類長 | 磯谷 順一 | | |
| 医学群 | | | |
| 医学類長 | 原 晃 | 医療科学類長 | 浦山 修 |
| 看護学類長 | 佐伯 由香 | | |
| 第一学群 | | | |
| 人文学類長 | 伊藤 眞 | 自然学類長 | 伊藤 光弘 |
| 社会学類長 | 本澤巳代子 | | |
| 第二学群 | | | |
| 比較文化学類長 | 竹村喜一郎 | 生物学類長 | 佐藤 忍 |
| 日本語・日本文化学類長 | 江藤 秀一 | 生物資源学類長 | 金井 幸雄 |
| 人間学類長 | 宮本 信也 | | |
| 第三学群 | | | |
| 社会工学類長 | 小場瀬令二 | 工学システム学類長 | 安信 誠二 |
| 国際総合学類長 | 福井 幸男 | 工学基礎学類長 | 大嶋 建一 |
| 情報学類長 | 山口 喜教 | | |
| 医学専門学群 | | | |
| 医学類長 | 原 晃 | 看護・医療科学類長 | 浦山 修 |

(学系長)

| | | | |
|-------------|-------|-----------|------------------|
| 哲学・思想学系長 | 堀池 信夫 | 化学系長 | 山本 泰彦 |
| 歴史・人類学系長 | 片岡 一忠 | 地球科学系長 | 指田 勝男 |
| 文芸・言語学系長 | 廣瀬 幸生 | 物理工学系長 | 秋本 克洋 |
| 現代語・現代文化学系長 | 鷲尾 龍一 | 物質工学系長 | 戸嶋 信幸 ~ 19.11.30 |
| 教育学系長 | 手打 明敏 | | 鈴木 博章 19.12.1 ~ |
| 心理学系長 | 菊地 正 | 機能工学系長 | 村上 正秀 |
| 障害科学系長 | 中村満紀男 | 電子・情報工学系長 | 北川 博之 |
| 社会科学系長 | 好井 裕明 | 体育科学系長 | 阿江 通良 |
| 社会工学系長 | 香田 正人 | 芸術学系長 | 穂積 毅重 |
| 生物科学系長 | 白岩 善博 | 基礎医学系長 | 澁谷 彰 |
| 農林学系長 | 本田 洋 | 臨床医学系長 | 大河内信弘 |
| 農林工学系長 | 佐藤 政良 | 社会医学系長 | 石井 哲郎 |
| 応用生物化学系長 | 内山 裕夫 | 看護科学系長 | 川口 孝泰 |
| 数学系長 | 竹内 光弘 | 図書館情報学系長 | 石塚 英弘 |
| 物理学系長 | 金谷 和至 | | |

(全国共同利用施設の長)

| | | | |
|-------------|-------|-------------|--------------------------------|
| 計算科学研究センター長 | 佐藤 三久 | プラズマ研究センター長 | 長 照二 ~ 20.3.6 今井 剛 20.3.7 ~ |
|-------------|-------|-------------|--------------------------------|

(学内共同教育研究施設の長)

| | | | |
|----------------|---------------|---------------------|-------|
| 先端学際領域研究センター長 | 深水 昭吉 | アドミッションセンター長 | 白川 友紀 |
| 外国語センター長 | 安井 泉 | 産学リエゾン共同研究センター長 | 油田 信一 |
| 体育センター長 | 宮下 憲 | 教育開発国際協力研究センター長 | 中田 英雄 |
| 農林技術センター長 | 坂井 直樹 | 知的コミュニティ基盤研究センター長 | 杉本 重雄 |
| 陸域環境研究センター長 | 田中 正 | 学際物質科学研究センター長 | 大塚 洋一 |
| 生命科学動物資源センター長 | 八神 健一 | 特別支援教育研究センター長 | 前川 久男 |
| 下田臨海実験センター長 | 稲葉 一男 | 北アフリカ研究センター長 | 塩尻 和子 |
| 菅平高原実験センター長 | 徳増 征二 | 学術情報メディアセンター長 | 板野 肯三 |
| 留学生センター長 | Stefan KAISER | 研究基盤総合センター長 | 松内 一雄 |
| 遺伝子実験センター長 | 鎌田 博 | アイソトープ総合センター長 | 大塩 寛紀 |
| 大学研究センター長 | 鈴木 久敏 | 次世代医療研究開発・教育統合センター長 | 落合 直之 |
| 陽子線医学利用研究センター長 | 松村 明 | 保健管理センター所長 | 大塚 盛男 |

(理療科教員養成施設長)

| | |
|------------|-------|
| 理療科教員養成施設長 | 吉川 恵士 |
|------------|-------|

(附属学校長)

| | | | |
|-----------|-------|--------------|-------|
| 附属小学校長 | 田中 統治 | 附属視覚特別支援学校長 | 皆川 春雄 |
| 附属中学校長 | 阿部 生雄 | 附属聴覚特別支援学校長 | 四日市 章 |
| 附属駒場中学校長 | 柿蔭 眞 | 附属大塚特別支援学校長 | 柳本 雄次 |
| 附属高等学校長 | 田上不二夫 | 附属桐が丘特別支援学校長 | 安藤 隆男 |
| 附属駒場高等学校長 | 柿蔭 眞 | 附属久里浜特別支援学校長 | 西川 公司 |
| 附属坂戸高等学校長 | 中村 徹 | | |

(6) 役員・教職員数

ア 役員・教職員数総表

平成20年3月1日現在

| 職名 部局等名 | 学長 | 理事・ 監事 | 学長、 副学長、 研究科 長、 図書館 長 | 教 授 | 准教授 | 講 師 | 助 教 | 助 手 | 大 学 教 員 計 | 研 究 員 等 | 附 属 学 校 教 員 | 事 務 、 技 術 員 | 合 計 |
|----------------|----|-----------|--------------------------------------|--------|-----|--------|--------|--------|-----------------------|------------------|----------------------------|----------------------------|--------|
| 学長 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 理事・監事 | | 10 | | | | | | | | | | | 10 |
| 副学長（理事でない） | | | 1 | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 調整官 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 監査室 | | | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| 総務・企画部 | | | | | | | | | | | | 81 | 81 |
| 組織・人事部 | | | | | | | | | | | | 44 | 44 |
| 財務部 | | | | | | | | | | | | 64 | 64 |
| 施設部 | | | | | | | | | | | | 48 | 48 |
| 学務部 | | | | | | | | | | | | 54 | 54 |
| 学生部 | | | | | | | | | | | | 38 | 38 |
| 研究事業部 | | | | | | | | | | | | 66 | 66 |
| 人文社会科学研究科 | | | 1 | 101 | 98 | 49 | 5 | | 254 | 1 | | | 255 |
| 人文社会科学等支援室 | | | | | | | | | | | | 35 | 35 |
| ビジネス科学研究科 | | | 1 | 34 | 21 | 1 | | | 57 | | | | 57 |
| ビジネス科学等支援室 | | | | | | | | | | | | 22 | 22 |
| 数理物質科学研究科 | | | 1 | 70 | 65 | 61 | 24 | | 221 | 5 | | | 226 |
| 数理物質科学等支援室 | | | | | | | | | | | | 63 | 63 |
| システム情報工学研究科 | | | 1 | 86 | 80 | 54 | 2 | | 223 | 7 | | | 230 |
| システム情報工学等支援室 | | | | | | | | | | | | 65 | 65 |
| 生命環境科学研究科 | | | 1 | 85 | 58 | 65 | 22 | | 231 | 18 | | | 249 |
| 生命環境科学等支援室 | | | | | | | | | | | | 123 | 123 |
| 人間総合科学研究科 | | | 1 | 197 | 175 | 234 | 29 | 2 | 638 | 10 | | | 648 |
| 人間総合科学等支援室 | | | | | | | | | | | | 160 | 160 |
| 図書館情報メディア研究科 | | | 1 | 28 | 22 | 12 | 3 | | 66 | | | | 66 |
| 図書館情報等支援室 | | | | | | | | | | | | 24 | 24 |
| 計算科学研究センター | | | | | | | | | | 3 | | | 3 |
| 先端学際領域研究センター | | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| 留学生センター | | | | | | | | | | | | 10 | 10 |
| 産学リエゾン共同研究センター | | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| 北アフリカ研究センター | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| 附属図書館 | | | 1 | | | | | | 1 | | | 68 | 69 |
| 附属病院 | | | | | | | | | | 17 | | 643 | 660 |
| 病院総務部 | | | | | | | | | | | | 107 | 107 |
| 附属学校教育局 | | | | | | | | | | | | 77 | 77 |
| 附属学校 | | | | | | | | | | | 525 | | 525 |
| 合計 | 1 | 10 | 9 | 601 | 519 | 476 | 85 | 2 | 1,692 | 66 | 525 | 1,795 | 4,089 |

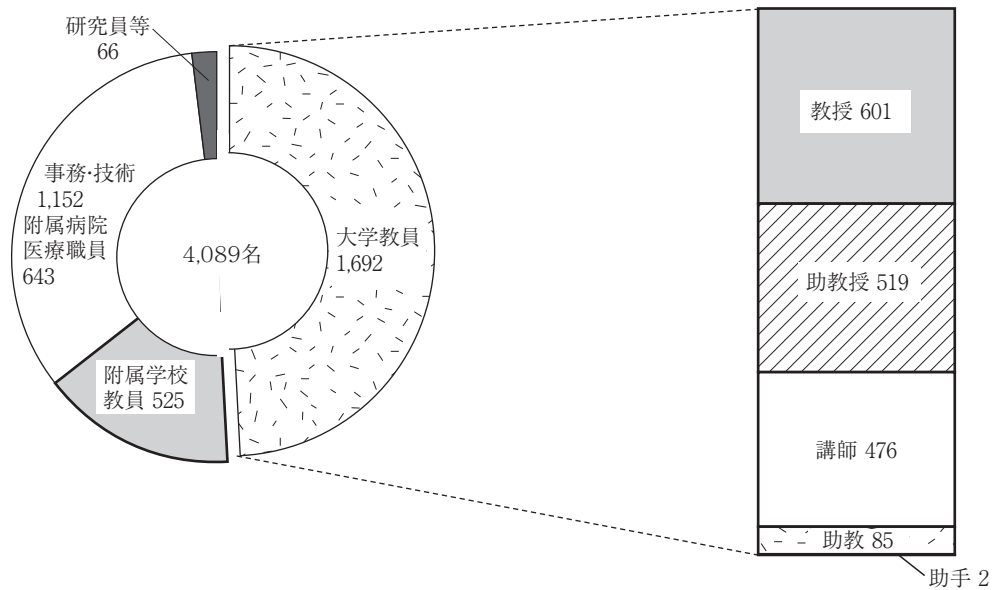
（注）附属学校教育局には、附属学校勤務の事務・技術職員45名を含む。

イ 役員数（平成20年3月1日現在）

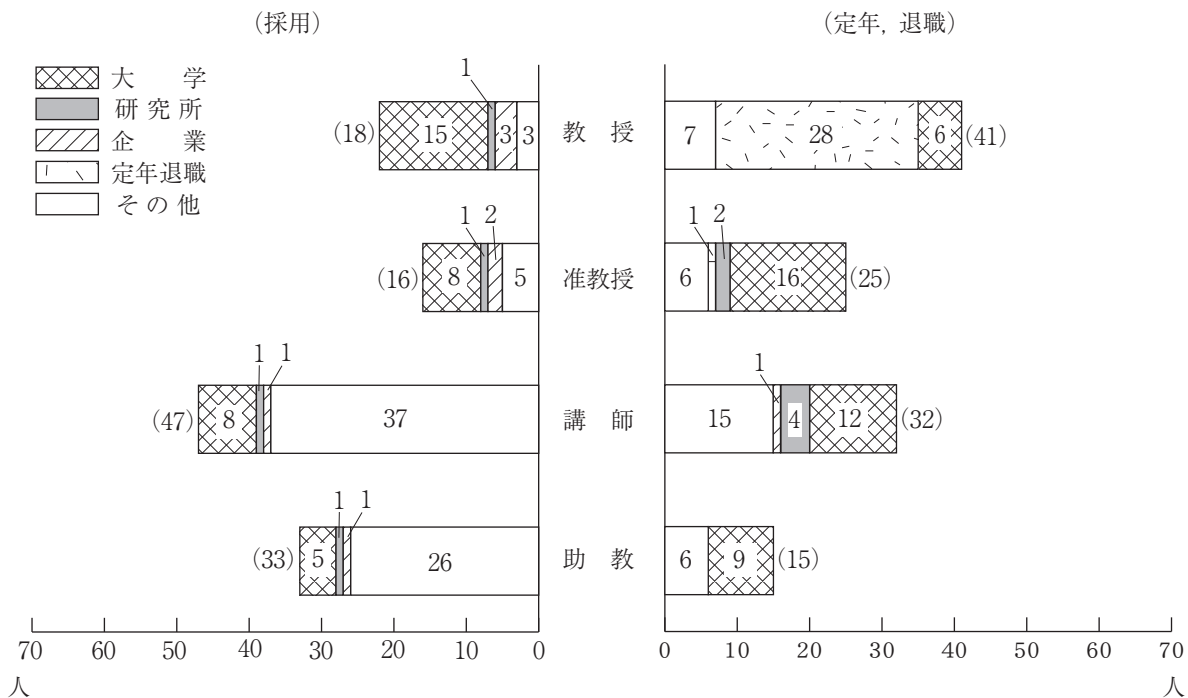
| | 現員 |
|----|----|
| 学長 | 1 |
| 理事 | 8 |
| 監事 | 2 |

ウ 教 職 員 数 (平成20年 3月 1日現在)

副学長・研究科長・附属図書館長 9



エ 大学教員異動状況



(7) 予算決算

ア 貸借対照表

貸借対照表 (平成20年3月31日現在)

(単位：千円)

| | | | |
|------------------------------|-------------|-------------|--|
| 資産の部 | | | |
| Ⅰ 固定資産 | | | |
| 1 有形固定資産 | | | |
| 土地 | | 249,724,830 | |
| 建物 | 75,188,653 | | |
| 建物減価償却累計額 | △18,152,146 | | |
| 建物減損損失累計額 | △59,629 | 56,976,878 | |
| 構築物 | 6,763,979 | | |
| 構築物減価償却累計額 | △3,217,188 | | |
| 構築物減損損失累計額 | △14,174 | 3,532,616 | |
| 機械装置 | 4,273 | | |
| 機械装置減価償却累計額 | △1,760 | 2,513 | |
| 工具器具備品 | 21,640,072 | | |
| 工具器具備品減価償却累計額 | △12,622,148 | 9,017,924 | |
| 図書 | | 9,483,034 | |
| 美術品・収蔵品 | | 650,178 | |
| 船舶 | 24,174 | | |
| 船舶減価償却累計額 | △22,894 | 1,279 | |
| 車両運搬具 | 94,069 | | |
| 車両運搬具減価償却累計額 | △46,989 | 47,081 | |
| 建設仮勘定 | | 595,428 | |
| その他の有形固定資産 | 13,767 | | |
| その他の有形固定資産減価償却累計額 | △1,522 | 12,245 | |
| 有形固定資産合計 | | 330,044,006 | |
| 2 無形固定資産 | | | |
| 特許権 | | 10,008 | |
| 借地権 | | 235,000 | |
| ソフトウェア | | 76,694 | |
| 電話加入権 | | 12,787 | |
| 特許権仮勘定 | | 120,387 | |
| その他の仮勘定 | | 588 | |
| その他の無形固定資産 | | 20,375 | |
| 無形固定資産合計 | | 475,838 | |
| 3 投資その他の資産 | | | |
| 投資有価証券 | | 1,593,958 | |
| 破産債権, 再生債権, 更生債権その他これらに準ずる債権 | 24,347 | | |
| 貸倒引当金 | △24,347 | - | |
| 長期未収附属病院収入 | 151,018 | | |
| 徴収不能引当金 | △151,018 | - | |
| その他の投資等 | | 5,494 | |
| 投資その他の資産合計 | | 1,599,452 | |
| 固定資産合計 | | 332,119,296 | |
| Ⅱ 流動資産 | | | |
| 現金及び預金 | | 14,045,391 | |
| 未収学生納付金収入 | | 129,201 | |
| 未収附属病院収入 | 2,989,271 | | |
| 徴収不能引当金 | △20,279 | 2,968,992 | |
| 未収金 | | 243,841 | |
| 有価証券 | | 2,499,958 | |
| たな卸資産 | | 28,739 | |
| 医薬品及び診療材料 | | 283,087 | |
| 前渡金 | | 53 | |
| 前払費用 | | 11,425 | |
| 未収収益 | | 12,626 | |
| その他の流動資産 | | 2,209 | |
| 流動資産合計 | | 20,225,523 | |
| 資産合計 | | 352,344,820 | |

負債の部

I 固定負債

資産見返負債

| | | |
|---------------|-----------|------------|
| 資産見返運営費交付金等 | 5,395,251 | |
| 資産見返補助金等 | 161,208 | |
| 資産見返寄附金 | 2,252,500 | |
| 資産見返物品受贈額 | 9,352,765 | |
| 建設仮勘定見返運営費交付金 | 380,291 | |
| 建設仮勘定見返補助金寄附金 | 4,418 | 17,546,433 |

国立大学財務・経営センター債務負担金

| | | |
|---------|--|------------|
| 長期借入金 | | 44,804,200 |
| 退職給付引当金 | | 40,344 |
| 長期リース債務 | | 1,476,499 |
| 長期PFI債務 | | 1,835,417 |

固定負債合計

71,416,806

II 流動負債

| | | |
|----------------------------|-----------|--|
| 運営費交付金債務 | 1,622,634 | |
| 預り補助金等 | 10,116 | |
| 寄附金債務 | 2,643,724 | |
| 前受受託研究費等 | 343,413 | |
| 前受受託事業費等 | 43,794 | |
| 前受金 | 10,245 | |
| 預り研究費補助金等 | 310,120 | |
| 預り金 | 428,168 | |
| 一年以内返済予定国立大学財務・経営センター債務負担金 | 834,358 | |
| 一年以内返済予定長期借入金 | 6,712,850 | |
| 未払金 | 9,484,242 | |
| リース債務 | 760,633 | |
| PFI債務 | 165,469 | |
| 賞与引当金 | 323,060 | |
| 未払費用 | 988,737 | |
| 未払消費税等 | 28,500 | |
| その他の流動負債 | 6,721 | |

流動負債合計

24,716,785

負債合計

96,133,591

純資産の部

I 資本金

| | | |
|-------|-------------|-------------|
| 政府出資金 | 232,964,303 | |
| 資本金合計 | | 232,964,303 |

II 資本剰余金

| | | |
|----------------|-------------|--|
| 資本剰余金 | 37,070,852 | |
| 損益外減価償却累計額 (△) | △19,819,303 | |
| 損益外減損損失累計額 (△) | △73,803 | |

資本剰余金合計

17,177,746

III 利益剰余金

| | | |
|----------------|------------|--|
| 教育研究環境等整備積立金 | 737,175 | |
| 病院再開発・運営改善等積立金 | 1,472,183 | |
| 積立金 | 1,937,031 | |
| 当期末処分利益 | 1,922,791 | |
| (うち当期総利益) | 1,922,791) | |

利益剰余金合計

6,069,180

純資産合計

256,211,229

負債純資産合計

352,344,820

イ 損益計算書

損 益 計 算 書
(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：千円)

| | | | |
|---------------|------------|------------|------------|
| 経常費用 | | | |
| 業務費 | | | |
| 教育経費 | | 5,059,417 | |
| 研究経費 | | 5,759,161 | |
| 診療経費 | | | |
| 材料費 | 6,806,627 | | |
| 委託費 | 1,161,686 | | |
| 設備関係費 | 1,614,762 | | |
| 研修費 | 171 | | |
| 経費 | 507,541 | 10,090,786 | |
| 教育研究支援経費 | | 2,001,130 | |
| 受託研究費等 | | 2,821,274 | |
| 受託事業費等 | | 478,533 | |
| 役員人件費 | | 160,510 | |
| 教員人件費 | | | |
| 常勤職員給与 | 24,619,555 | | |
| 非常勤職員給与 | 571,644 | 25,191,199 | |
| 職員人件費 | | | |
| 常勤職員給与 | 13,183,318 | | |
| 非常勤職員給与 | 2,011,763 | 15,195,080 | 66,757,091 |
| 一般管理費 | | | 2,695,111 |
| 財務費用 | | | |
| 支払利息 | | 1,384,953 | 1,384,953 |
| 雑損 | | | 32,604 |
| 経常費用合計 | | | 70,869,758 |
| 経常収益 | | | |
| 運営費交付金収益 | | | 36,590,178 |
| 授業料収益 | | | 8,353,190 |
| 入学金収益 | | | 1,368,817 |
| 検定料収益 | | | 310,969 |
| 附属病院収益 | | | 16,883,160 |
| 受託研究等収益 | | | |
| 国又は地方公共団体 | 812,123 | | |
| その他 | 2,465,878 | 3,278,001 | |
| 受託事業等収益 | | | |
| 国又は地方公共団体 | 205,655 | | |
| その他 | 296,866 | 502,520 | |
| 施設費収益 | | | 392,826 |
| 補助金等収益 | | | 486,854 |
| 寄附金収益 | | | 842,314 |
| 資産見返負債戻入 | | | |
| 資産見返運営費交付金等戻入 | 899,925 | | |
| 資産見返補助金等戻入 | 20,740 | | |
| 資産見返寄附金戻入 | 465,946 | | |
| 資産見返物品受贈額戻入 | 744,124 | 2,130,735 | |
| 財務収益 | | | |
| 受取利息 | | 26,594 | |
| 有価証券利息 | | 23,243 | |
| 為替差益 | | 540 | 50,377 |

| | | |
|-------------|---------|-----------------------|
| 雑益 | | |
| 公開講座収入 | 21,392 | |
| 財産貸付料収入 | 97,237 | |
| 学生寄宿舎収入 | 208,220 | |
| 職員寄宿舎料収入 | 268,488 | |
| 文献複写料収入 | 7,594 | |
| 研究関連収入 | 602,256 | |
| 徴収不能引当金戻入 | 37,333 | |
| その他の雑益 | 268,897 | 1,511,416 |
| | | <hr/> |
| 経常収益合計 | | 72,701,358 |
| 経常利益 | | <hr/> 1,831,600 |
| 臨時損失 | | |
| 固定資産除却損 | 11,530 | 11,530 |
| | <hr/> | |
| 臨時利益 | | |
| 固定資産売却益 | 157 | |
| 資産見返物品受贈額戻入 | 5,646 | |
| 資産見返寄附金戻入 | 5,884 | |
| その他の臨時利益 | 1,783 | 13,470 |
| | <hr/> | |
| 当期純利益 | | 1,833,540 |
| 目的積立金取崩額 | | 89,251 |
| 当期総利益 | | <hr/> <hr/> 1,922,791 |

ウ 決算報告書

平成19事業年度 決算報告書

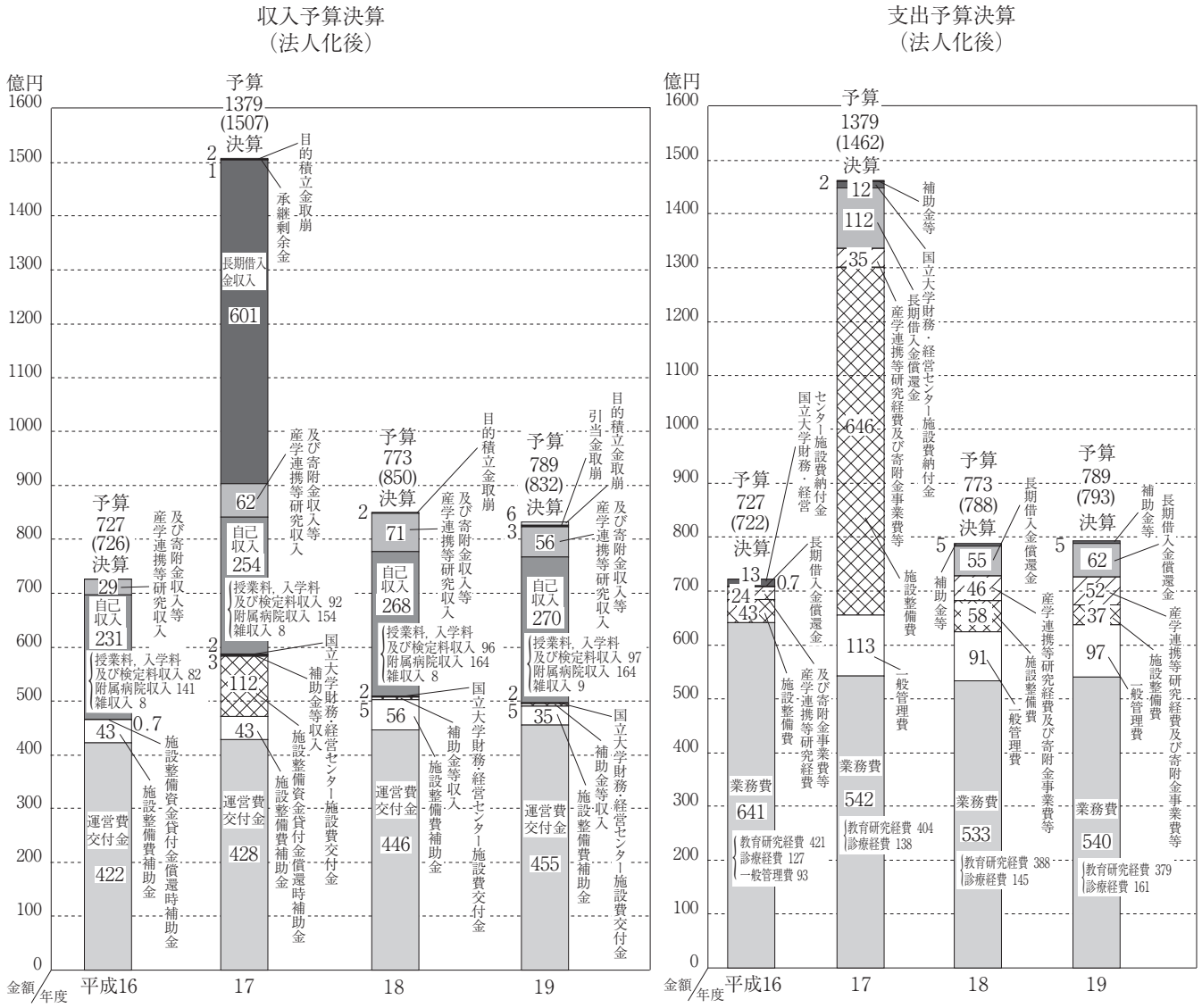
国立大学法人 筑波大学

(単位：百万円)

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差額 (決算-予算) | 備 考 |
|---------------------|--------|--------|---------------|-------|
| 収 入 | | | | |
| 運営費交付金 | 44,305 | 45,491 | 1,186 | (注1) |
| 施設整備費補助金 | 3,508 | 3,507 | △1 | (注2) |
| 船舶建造費補助金 | 0 | 0 | 0 | |
| 補助金等収入 | 468 | 542 | 74 | (注3) |
| 国立大学財務・経営センター施設費交付金 | 168 | 168 | 0 | |
| 自己収入 | 26,246 | 27,078 | 832 | |
| 授業料, 入学料及び検定料収入 | 9,598 | 9,701 | 103 | (注4) |
| 附属病院収入 | 15,891 | 16,478 | 587 | (注5) |
| 財産処分収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 雑収入 | 757 | 899 | 142 | (注6) |
| 産学連携等研究収入及び寄附金収入等 | 3,738 | 5,591 | 1,853 | (注7) |
| 引当金取崩 | 0 | 274 | 274 | (注8) |
| 長期借入金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 貸付回収金 | 0 | 0 | 0 | |
| 承継剰余金 | 0 | 2 | 2 | (注9) |
| 旧法人承継積立金 | 0 | 0 | 0 | |
| 目的積立金取崩 | 421 | 569 | 148 | (注10) |
| 計 | 78,854 | 83,222 | 4,368 | |
| 支 出 | | | | |
| 業務費 | 54,937 | 54,003 | △934 | (注11) |
| 教育研究経費 | 39,253 | 37,883 | △1,370 | |
| 診療経費 | 15,684 | 16,120 | 436 | |
| 一般管理費 | 9,810 | 9,671 | △139 | (注12) |
| 施設整備費 | 3,676 | 3,675 | △1 | (注13) |
| 船舶建造費 | 0 | 0 | 0 | |
| 補助金等 | 468 | 542 | 74 | (注14) |
| 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等 | 3,738 | 5,227 | 1,489 | (注15) |
| 貸付金 | 0 | 0 | 0 | |
| 長期借入金償還金 | 6,225 | 6,225 | 0 | |
| 国立大学財務・経営センター施設費納付金 | 0 | 0 | 0 | |
| 計 | 78,854 | 79,343 | 489 | |
| 収入-支出 | 0 | 3,879 | 3,879 | |

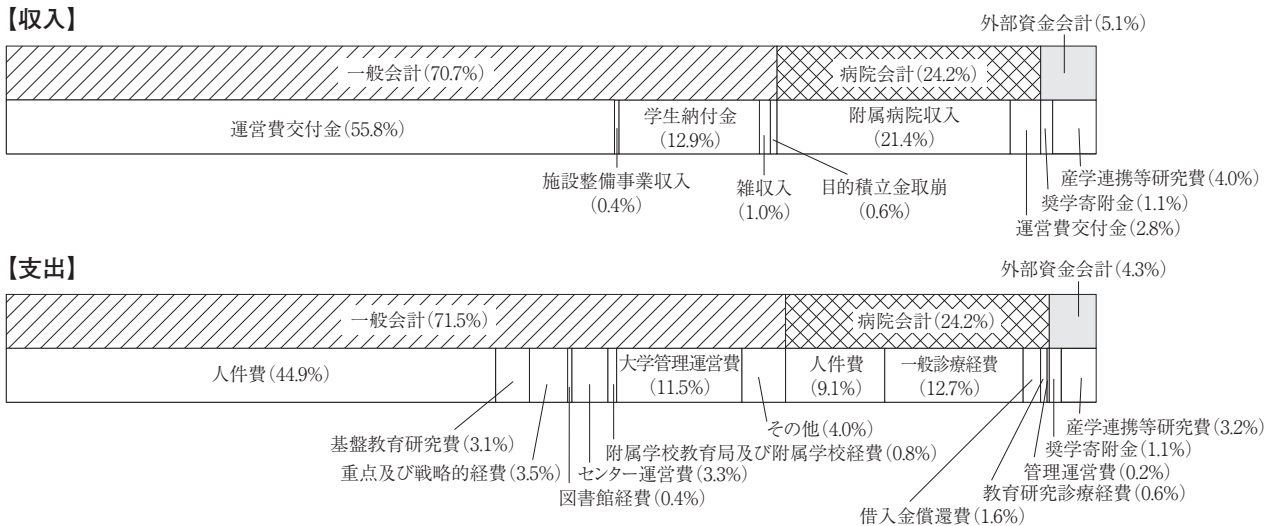
- (注1) 運営費交付金については、平成18年度末の退職金支給対象者が見込額を下回ったため、平成18年度から平成19年度への繰越額分が予算額に比して決算額が1,186百万円多額となっています。
- (注2) 施設整備費補助金については、執行計画に変更が生じたため、予算額に比して決算額が1百万円少額となっています。
- (注3) 補助金等収入については、受入金額が増加したため予算額に比して決算額が74百万円多額となっています。
- (注4) 授業料については休学者等が増加したため見込額を下回ったが、入学料については入学者数が見込者数を上回ったため、決算額としては103百万円多額となっています。
- (注5) 附属病院収入については、在院日数の短縮化、手術件数の増加などの経営改善により、予算額に比して決算額が587百万円多額となっています。
- (注6) 雑収入については、主に特許権収入、不用物品売払代及び保育料収入などの増により予算額に比して決算額が142百万円多額となっています。
- (注7) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、予算段階では予定していなかった（国の各組織、独立行政法人及び民間）からの受託研究の獲得に努めたことなどにより、予算額に比して決算額が1,853百万円多額となっています。
- (注8) 引当金取崩については、主に附属病院の賞与引当金を取り崩したもので決算額が274百万円多額となっています。
- (注9) 承継剰余金については、予算段階では予定していなかった損害賠償等があり、決算額が2百万円多額となっています。
- (注10) 目的積立金取崩については、予算段階で予定していなかった附属病院立体駐車場等のため取崩しを行ったため、予算額に比して決算額が148百万円多額となっています。
- (注11) 業務費のうち教育研究経費については、予算段階では予定していなかった任用計画の見直しによる人件費の減少などにより1,370百万円少額となっています。また、診療経費については、附属病院収入増に伴う医薬品及び診療材料等の増により436百万円多額となっています。
- (注12) 一般管理費については、経費節減等の努力により、139百万円少額となっています。
- (注13) 施設整備費については、(注2)に示した理由により、予算額に比して決算額が1百万円少額となっています。
- (注14) 補助金等については、(注3)に示した理由により、予算額に比して決算額が74百万円多額となっています。
- (注15) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、(注7)に示した理由により、予算額に比して決算額が1,489百万円多額となっています。

工 収入支出概況



(注) 1. 表中数字は、決算額を、() は決算総額を示す。

オ 平成19年度予算構成図 (当初予算)



注) 一般会計と外部資金会計の収入と支出の0.8%の差異は、支出において外部資金会計の間接経費を一般会計の重点及び戦略的経費に繰り入れているため生じたものである。

2 教育関係

(1) 学 年 暦

平成19年度学年暦

| 事 項 | 学 群 | 大 学 院 |
|--|---|--|
| | | ●大学院 (東京キャンパス・夜間) |
| 第1学期 (4月1日～7月31日) 学年開始 春季休業 入学式 新入生オリエンテーション 第1学期授業開始 春季スポーツ・デー 第1学期授業終了 第1学期期末試験 夏季休業 第1学期卒業式 大学院学位記授与式 | 4月1日 (日) 4月1日 (日)～4月7日 (土) 4月9日 (月) 4月9日 (月)～4月11日 (水) 4月12日 (木) 5月19日 (土)～5月20日 (日) 6月25日 (月) 6月26日 (火)～7月2日 (月) 7月3日 (火)～7月31日 (火) 7月25日 (木) | 4月1日 (日) 4月1日 (日)～4月7日 (土) 4月9日 (月) 4月9日 (月) 4月10日 (火) 5月19日 (土)～5月20日 (日) 6月25日 (月) 6月26日 (火)～7月2日 (月) ●6月26日 (火)～6月30日 (土) 7月3日 (火)～7月31日 (火) 7月25日 (水) |
| 第2学期 (8月1日～11月30日) 夏季休業 第2学期入学式 第2学期授業開始 開学記念日 学園祭 筑波キャンパス電気設備点検(全学停電) 秋季スポーツ・デー 第2学期授業終了 第2学期期末試験 秋季休業 | 8月1日 (水)～8月31日 (金) 8月8日 (水) 9月3日 (月) 10月1日 (月) 10月6日 (土)～10月8日 (月) 10月13日 (土)～10月14日 (日) 10月20日 (土)～10月21日 (日) 11月19日 (月) 11月20日 (火)～11月26日 (月) 〔ただし、11月23日(金)の休日〕 〔に当たる期末試験は、11月16日〕 〔(金)に繰り上げて実施する。〕 | 8月1日 (水)～8月31日 (金) 8月8日 (水) 9月3日 (月) ●9月1日 (土) 10月1日 (月) 10月6日 (土)～10月8日 (月) 10月13日 (土)～10月14日 (日) 10月20日 (土)～10月21日 (日) 11月19日 (月) 11月20日 (火)～11月26日 (月) ●11月20日 (火)～11月24日 (土) 〔ただし、11月23日(金)の休日〕 〔に当たる期末試験は、11月16日〕 〔(金)に繰り上げて実施する。〕 |
| 第3学期 (12月1日～3月31日) 第3学期授業開始 大学院学位記授与式 冬季休業 英語・ドイツ語検定試験 第3学期授業終了 第3学期期末試験 春季休業 卒業式 大学院学位記授与式 学年終了 | 12月3日 (月) 12月27日 (木)～1月6日 (日) 2月22日 (金) 2月29日 (金) 3月3日 (月)～3月7日 (金) 3月8日 (土)～3月31日 (月) 3月25日 (火) 3月31日 (月) | 12月3日 (月) ●12月1日 (土) 12月5日 (水) 12月27日 (木)～1月6日 (日) 2月29日 (金) ●2月23日 (土) 3月3日 (月)～3月7日 (金) ●2月26日 (火)～3月1日 (土) 3月8日 (土)～3月31日 (月) ●3月2日 (日)～3月31日 (月) 3月25日 (火) 3月31日 (月) |

(備考)

- 1 定期健康診断の日程については、別に定め、実施時間に当たる学群・学類の当該年次及び研究科の授業は、臨時休業とする。(東京キャンパス・夜間を除く)
- 2 10月1日(月)の開学記念日は、休業とせずに授業を実施する。9月19日(水)は、振替え授業日とし、月曜日の授業を実施する。10月4日(木)は、振替え授業日とし、金曜日の授業を実施する。12月18日(火)は、振替え授業日とし、月曜日の授業を実施する。1月23日(水)は、振替え授業日とし、月曜日の授業を実施する。2月20日(水)は、振替え授業日とし、金曜日の授業を実施する。2月28日(木)は、振替え授業日とし、月曜日の授業を実施する。(東京キャンパス・夜間を除く)
- 3 学園祭の実施に伴い、10月5日(金)午後(3時限以降)及び10月9日(火)午前(1,2時限)の学群の授業は、準備及び後片付けのため、臨時休業とする。
- 4 英語・ドイツ語検定試験の実施に伴い、2月22日(金)午前(3時限まで)の学群の授業は、臨時休業とする。
- 5 学群の入学者選抜の実施に伴う臨時休業は、準備及び後片付けに要する時間を含め、別に定める。(東京キャンパス・夜間を除く)
- 6 卒業予定者及び修了予定者に対する第3学期期末試験に関する特別措置については、別に定める。

イ 大 学 院

(ア) 修士課程研究科現員表

(平成 20 年 3 月 1 日現在)

| 研究科 | 専攻 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 (後期1年, 医学1年) | | 4年次 (後期2年, 医学2年) | | 5年次 (後期3年, 医学3年) | | (医学4年) | | 合計 | |
|----------|-------------------|----------|------------------------|-----|--------------------|---------------------|----|---------------------|----|---------------------|----|--------|----|--------------|----------------------------|
| | | 入学 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 取 容 定員 | 現員 |
| 地域 研究 | 地域研究 | 50 | △25 ※14 ×40 70 (43) | 50 | 75 (46) ×20 | | | | | | | | | 100 | △25 ※14 ×60 145 (89) |
| | 障害児教育 | 35 | 36 (22) ×1 ※1 | 35 | 44 (33) ×5 | | | | | | | | | 70 | 80 (55) ×6 ※1 ×4 |
| 教 育 | スクールリーダーシップ開発 | 20 | 17 (5) | 19 | 20 (11) ×4 | | | | | | | | | 39 | 37 (16) ×4 |
| | 教科教育 | 80 | 80 (33) | 80 | 76 (29) ×2 | | | | | | | | | 160 | 156 (62) ×2 |
| | カウンセリング | 46 | 47 (32) | 46 | 53 (32) | | | | | | | | | 92 | 100 (64) |
| | 小計 | 181 | 180 (92) ×1 ※1 | 180 | 193 (105) ×11 | | | | | | | | | 361 | 373 (197) ×12 ※1 |
| | 環境 科学 | | | 102 | △1 110 (38) ×11 | | | | | | | | | 102 | △1 110 (38) ×11 |
| 体 育 | スポーツ科学 | 120 | 132 (28) ×6 | 120 | 156 (38) ×9 | | | | | | | | | 240 | 288 (66) ×15 |
| | スポーツ健康システム・マネジメント | 24 | 27 (14) | 24 | 39 (13) | | | | | | | | | 48 | 66 (27) ×15 |
| | 小計 | 144 | 159 (42) ×6 | 144 | 195 (51) ×9 | | | | | | | | | 288 | 354 (93) ×15 |
| 芸 術 | 美術 | | | 25 | 30 (18) ×5 | | | | | | | | | 25 | 30 (18) ×5 |
| | デザイン | | | 25 | 41 (18) ×9 | | | | | | | | | 25 | 41 (18) ×9 |
| | 世界遺産 | | | 15 | 22 (16) ×4 | | | | | | | | | 15 | 22 (16) ×4 |
| | 小計 | | | 65 | 93 (52) ×18 | | | | | | | | | 65 | 93 (52) ×18 |
| 修士 計 | | 375 | △25 ※15 ×47 409 177 | 541 | △1 666 292 ×69 | | | | | | | | | 916 | △26 ※15 ×116 1075 (469) |

(イ) 博士課程研究科現員表

(平成 20 年 3 月 1 日現在)

| 研究科 | 専攻 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 (後期1年, 医学1年) | | 4年次 (後期2年, 医学2年) | | 5年次 (後期3年, 医学3年) | | (医学4年) | | 合計 | |
|----------------------|------------------------------|--------------------------|-------------------------|-----------------|----------------|---------------------|---------------|---------------------|---------------|---------------------|------------------|--------|-----|--------------------------|--------------------------|
| | | 入学 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 収容 定員 | 現員 |
| 人文社会科学 | 哲学・思想 (一貫制博士課程) | 6 | 6 | 6 | 7 (5) × 2 | 6 | 8 (2) × 1 | 6 | 4 (1) | 6 | 22 (7) × 3 | | | 30 | 47 (15) × 6 |
| | 歴史・人類学 (一貫制博士課程) | 14 | 13 (5) | 14 | 10 (7) | 14 | 5 (3) × 1 | 14 | 10 (4) | 10 | 27 (10) × 3 | | | 66 | 65 (29) × 4 |
| | 文芸・言語 (一貫制博士課程) | 20 | 20 (11) × 5 | 20 | 26 (15) × 10 | 20 | 20 (10) × 10 | 20 | 34 (14) × 11 | 20 | 64 (42) × 17 | | | 100 | 164 (92) × 53 |
| | 現代文化・公共政策 (一貫制博士課程) | 14 | 14 (9) × 2 | 14 | 13 (7) × 2 | 14 | △ 1 × 7 | 14 | 10 (6) × 2 | 14 | 37 (25) × 12 | | | 70 | △ 1 × 25 (59) |
| | 社会科学 (一貫制博士課程) | 13 | 7 (6) × 2 | 13 | 11 (7) × 1 | 13 | 6 (3) | 13 | 5 (2) × 1 | 9 | 18 (10) × 4 | | | 61 | 47 (28) × 8 |
| | 国際政治経済学 (一貫制博士課程) | 10 | 20 (10) × 19 | 10 | 9 (5) × 4 | 10 | 11 (7) × 7 | 10 | △ 1 × 3 | 10 | 22 (9) × 10 | | | 50 | △ 1 × 43 (72) |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 人文社会科学 計 | 77 | 80 (41) × 28 | 77 | 76 (46) × 19 | 77 | △ 1 × 26 (37) | 77 | △ 1 × 17 (31) | 69 | 190 (103) × 49 | | | 377 | △ 2 × 139 (487) |
| ビジネス科学 | 経営システム科学 (博士前期課程) | 30 | 32 (4) | 30 | 43 (9) | | | | | | | | | 60 | 75 (13) |
| | 企業法学 (博士前期課程) | 30 | 32 (9) | 30 | 47 (6) | | | | | | | | | 60 | 79 (15) |
| | 前期小計 | 60 | 64 (13) | 60 | 90 (15) | | | | | | | | | 120 | 154 (28) |
| | 企業科学 (博士後期課程) | | | | | 23 | 26 (6) | 23 | 23 (2) | 23 | 74 (11) | | | 69 | 123 (19) |
| | 法曹(法科大学院) (専門職学位課程) | 40 | 43 (7) | 40 | 39 (8) | 40 | 39 (11) | | | | | | | 120 | 121 (26) |
| | 国際経営プロフェッショナル (専門職学位課程) | 30 | △ 34 ※ 11 × 2 (34 (16)) | 30 | △ 24 (24 (6)) | | | | | | | | | 60 | △ 58 ※ 11 × 2 (58 (22)) |
| | 専門職学位小計 | 70 | △ 34 ※ 11 × 2 (77 (23)) | 70 | △ 24 (63 (14)) | 40 | 39 (11) | | | | | | | 180 | △ 58 ※ 11 × 2 (179 (48)) |
| ビジネス科学 計 | 130 | △ 34 ※ 11 × 2 (141 (36)) | 130 | △ 24 (153 (29)) | 63 | 65 (17) | 23 | 23 (2) | 23 | 74 (11) | | | 369 | △ 58 ※ 11 × 2 (456 (95)) | |
| 数理物質科学 | 数学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | | 12 | 8 | | | 12 | 8 |
| | 物理学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | | 20 | 19 (2) | | | 20 | 19 (2) |
| | 化学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | | 17 | 16 (1) × 1 | | | 17 | 16 (1) × 1 |
| | 物質創成先端科学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | | 16 | 6 | | | 16 | 6 |
| | 電子・物理工学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | | 18 | 12 × 2 | | | 18 | 12 × 2 |
| | 物性・分子工学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | | 14 | △ 1 × 3 (17 (1)) | | | 14 | △ 1 × 3 (17 (1)) |
| | 一貫制小計 | | | | | | | | | 97 | △ 1 × 6 (78 (4)) | | | 97 | △ 1 × 6 (78 (4)) |
| | 数学 (博士前期課程) | 24 | 24 (3) × 1 | 24 | 22 (1) × 1 | | | | | | | | | 48 | 46 (4) × 1 |
| | 物理学 (博士前期課程) | 40 | 37 (3) × 1 | 40 | 46 (6) | | | | | | | | | 80 | 83 (9) × 1 |
| | 化学 (博士前期課程) | 34 | 38 (6) × 1 | 34 | 37 (11) | | | | | | | | | 68 | 75 (17) × 1 |
| | 物質創成先端科学 (博士前期課程) | 38 | 36 (3) × 1 | 38 | 30 (6) | | | | | | | | | 76 | 66 (9) × 1 |
| | 電子・物理工学 (博士前期課程) | 50 | 60 (2) × 1 | 50 | 50 | | | | | | | | | 100 | 110 (2) × 1 |
| | 物性・分子工学 (博士前期課程) | 54 | 71 (6) × 1 | 54 | 64 (9) × 3 | | | | | | | | | 108 | 135 (15) × 4 |
| | 前期小計 | 240 | 266 (23) × 4 | 240 | 249 (33) × 4 | | | | | | | | | 480 | 515 (56) × 8 |
| | 数学 (博士後期課程) | | | | | 12 | 7 | 12 | 9 | | | | | 24 | 16 |
| | 物理学 (博士後期課程) | | | | | 20 | 20 (2) × 1 | 20 | 10 (1) × 1 | | | | | 40 | 30 (3) × 2 |
| | 化学 (博士後期課程) | | | | | 17 | 7 (3) × 1 | 17 | 6 (1) × 1 | | | | | 34 | 13 (4) × 1 |
| | 物質創成先端科学 (博士後期課程) | | | | | 15 | 4 × 1 | 15 | 5 × 1 | | | | | 30 | 9 × 2 |
| | 電子・物理工学 (博士後期課程) | | | | | 18 | 17 (3) × 2 | 18 | 7 × 1 | | | | | 36 | 24 (3) × 3 |
| | 物性・分子工学 (博士後期課程) | | | | | 13 | 18 (1) × 2 | 13 | 7 (1) × 2 | | | | | 26 | 25 (2) × 4 |
| 物質・材料工学 (3年制博士課程) | | | | | 6 | △ 2 × 9 (13) | 6 | △ 2 × 5 (8 (2)) | 6 | △ 2 × 3 (6 (1)) | | | 18 | △ 6 × 17 (27 (3)) | |
| 後期小計 | | | | | 101 | △ 2 × 16 (86 (9)) | 101 | △ 2 × 10 (52 (5)) | 6 | △ 2 × 3 (6 (1)) | | | 208 | △ 6 × 29 (144 (15)) | |
| 数理物質科学 計 | 240 | 266 (23) × 4 | 240 | 249 (33) × 4 | 101 | △ 2 × 16 (86 (9)) | 101 | △ 2 × 10 (52 (5)) | 103 | △ 3 × 9 (84 (5)) | | | 785 | △ 7 × 43 (737 (75)) | |
| システム情報工学 | 社会システム工学 (一貫制博士課程) | | | | | | | 1 | | 9 (4) × 2 | | | | 10 (4) × 2 | |
| | 計量ファイナンス・マネジメント (一貫制博士課程) | | | | | | | | | 2 (1) × 1 | | | | 2 (1) × 1 | |
| | リスク工学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | | 1 × 1 | | | | 1 × 1 | |
| | コンピュータサイエンス (一貫制博士課程) | | | | | | | 3 | | 12 (1) × 5 | | | | 15 (1) × 5 | |
| | 知能機能システム (一貫制博士課程) | | | | | | | | | 7 × 1 | | | | 7 × 1 | |

| 研究科 | 専攻 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 (後期1年, 医学1年) | | 4年次 (後期2年, 医学2年) | | 5年次 (後期3年, 医学3年) | | (医学4年) | | 合計 | | | | | |
|-------------------------|---------------------------|---------------------|-----------|------|-----|---------------------|--------|---------------------|----------|---------------------|-------|----------|------|----------|-----------|-----------|------|-----------|-------|
| | | 入学 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 収容 定員 | 現員 | | | | |
| システム情報工学 | 構造エネルギー工学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | |
| | 一貫制小計 | | | | | | | 4 | | 32 (6) | × 9 | | | 36 (6) | × 9 | | | | |
| | 社会システム工学 (博士前期課程) | 55 | 64 (8) | × 7 | 55 | 49 (13) | × 10 | | | | | | | 110 | 113 (21) | × 17 | | | |
| | 経営・政策科学 (博士前期課程) | 53 | 42 (20) | × 27 | 53 | 42 (18) | × 23 | | | | | | | 106 | 84 (38) | × 50 | | | |
| | リスク工学 (博士前期課程) | 30 | 32 (2) | × 7 | 43 | 32 (1) | | | | | | | | 73 | 64 (3) | × 7 | | | |
| | コンピュータサイエンス (博士前期課程) | 83 | 105 (9) | × 20 | 83 | 84 (10) | × 13 | | | | | | | 166 | 189 (19) | × 33 | | | |
| | 知能機能システム (博士前期課程) | 72 | 91 (10) | × 7 | 72 | 82 (6) | × 4 | | | | | | | 144 | 173 (16) | × 11 | | | |
| | 構造エネルギー工学 (博士前期課程) | 68 | 60 (1) | × 3 | 55 | 59 (4) | × 3 | | | | | | | 123 | 119 (5) | × 6 | | | |
| | 前期小計 | 361 | 394 (50) | × 71 | 361 | 348 (52) | × 53 | | | | | | | 722 | 742 (102) | × 124 | | | |
| | 社会システム・マネジメント (博士後期課程) | | | | | | × 8 | 26 | 15 (7) | × 7 | 26 | 8 (1) | × 3 | | 78 | 44 (10) | × 18 | | |
| | リスク工学 (博士後期課程) | | | | | | × 1 | 12 | 5 | × 1 | 12 | 3 (1) | × 1 | | 36 | 12 (2) | × 3 | | |
| | コンピュータサイエンス (博士後期課程) | | | | | | × 9 | 28 | 23 (2) | × 8 | 28 | 15 (1) | × 6 | | 84 | 61 (6) | × 23 | | |
| | 知能機能システム (博士後期課程) | | | | | | × 3 | 24 | 16 (2) | × 3 | 24 | 10 (1) | × 3 | | 72 | 38 (4) | × 12 | | |
| | 構造エネルギー工学 (博士後期課程) | | | | | | | 16 | 2 | × 3 | 16 | 6 | × 2 | | 48 | 18 (1) | × 5 | | |
| | 後期小計 | | | | | | × 21 | 106 | 61 (11) | × 25 | 106 | 43 (4) | × 15 | | 318 | 173 (23) | × 61 | | |
| | システム情報工学 計 | 361 | 394 (50) | × 71 | 361 | 348 (52) | × 53 | 106 | 61 (11) | × 21 | 106 | 73 (8) | × 25 | 106 | 75 (10) | × 24 | 1040 | 951 (131) | × 194 |
| | 生命環境科学 | 地球環境科学 (一貫制博士課程) | | | | 10 | 19 (5) | × 1 | | 4 (1) | 7 | 10 (5) | × 1 | 7 | 15 (4) | × 3 | 24 | 48 (15) | × 5 |
| | | 地球進化科学 (一貫制博士課程) | | | | 11 | 17 (8) | | | | 6 | 9 (3) | × 2 | 6 | 9 (2) | × 1 | 23 | 35 (13) | × 3 |
| | | 構造生物学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | 2 (1) | | 5 (1) | | | | 7 (2) | | | |
| 情報生物学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | | | | 7 (4) | | | | 7 (4) | | | | |
| 生命共存科学 (一貫制博士課程) | | 21 | 11 (5) | × 2 | 21 | 20 (4) | | 21 | 9 (1) | × 2 | 11 | 8 (2) | × 1 | 11 | 18 (5) | × 6 | 85 | 66 (17) | × 11 |
| 国際地縁技術開発科学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | | | | 6 (2) | × 1 | | | 6 (2) | | | × 1 | |
| 生物圏資源科学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | | 1 | | 3 (1) | | | | 4 (1) | | | × 1 | |
| 生物機能科学 (一貫制博士課程) | | | | | | | | | 1 | | 5 (1) | × 1 | | | 6 (1) | | | × 1 | |
| 一貫制小計 | | 21 | 11 (5) | × 2 | 42 | 56 (17) | × 1 | 21 | 13 (2) | × 2 | 24 | 31 (11) | × 4 | 24 | 68 (20) | × 12 | 132 | 179 (55) | × 21 |
| 地球科学 (博士前期課程) | | 39 | 32 (8) | × 1 | | | | | | | | | | | 39 | 32 (8) | × 1 | | × 1 |
| 生物学 (博士前期課程) | | 49 | 42 (21) | × 1 | 49 | 43 (19) | × 1 | | | | | | | | 98 | 85 (40) | × 1 | | × 1 |
| 生物資源科学 (博士前期課程) | | 106 | 146 (59) | × 24 | 106 | 103 (51) | × 8 | | | | | | | | 212 | 249 (110) | × 32 | | × 32 |
| 環境科学 (博士前期課程) | | 84 | 103 (33) | × 14 | | | | | | | | | | | 84 | 103 (33) | × 14 | | × 14 |
| 前期小計 | | 278 | 323 (121) | × 39 | 155 | 146 (70) | × 9 | | | | | | | | 433 | 469 (191) | × 48 | | × 48 |
| 地球環境科学 (博士後期課程) | | | | | | | | 11 | 8 (2) | × 5 | | | | | 11 | 8 (2) | × 5 | | × 5 |
| 地球進化科学 (博士後期課程) | | | | | | | | 8 | 3 (1) | × 1 | | | | | 8 | 3 (1) | × 1 | | × 1 |
| 構造生物学 (博士後期課程) | | | | | | | | 9 | 11 (5) | × 1 | 9 | 7 (1) | × 1 | 9 | 5 | × 1 | 27 | 23 (6) | × 1 |
| 情報生物学 (博士後期課程) | | | | | | | | 17 | 6 (1) | × 1 | 17 | 19 (3) | × 2 | | 51 | 37 (8) | × 3 | | × 3 |
| 国際地縁技術開発科学 (博士後期課程) | | | | | | | | 22 | 12 (5) | × 3 | 22 | 9 (3) | × 5 | 22 | 10 (2) | × 5 | 66 | 31 (10) | × 13 |
| 生物圏資源科学 (博士後期課程) | | | | | | | | 20 | 10 (4) | × 7 | 20 | 15 (7) | × 6 | 20 | 15 (4) | × 7 | 60 | 40 (15) | × 20 |
| 生物機能科学 (博士後期課程) | | | | | | | | 21 | 15 (5) | × 2 | 21 | 15 (2) | × 4 | 21 | 9 (1) | × 3 | 63 | 39 (8) | × 9 |
| 生命産業科学 (博士後期課程) | | | | | | | | 12 | 21 (7) | × 13 | 12 | 28 (10) | × 15 | 12 | 20 (10) | × 10 | 36 | 69 (27) | × 38 |
| 持続環境学 (博士後期課程) | | | | | | | | 12 | 19 (3) | × 7 | | | | | 12 | 19 (3) | × 7 | | × 7 |
| 先端農業技術科学 (3年制博士課程) | | | | | | | | 6 | 6 (3) | × 1 | 6 | 8 (2) | × 2 | 6 | 4 (1) | × 2 | 18 | 18 (6) | × 3 |
| 博士後期小計 | | | | | | | | 138 | 111 (36) | × 39 | 107 | 101 (28) | × 34 | 107 | 75 (22) | × 27 | 352 | 287 (86) | × 100 |
| 生命環境科学 計 | | 299 | 334 (126) | × 41 | 197 | 202 (87) | × 10 | 159 | 124 (38) | × 41 | 131 | 132 (39) | × 38 | 131 | 143 (42) | × 39 | 917 | 935 (332) | × 169 |
| 人間総合科学 | フロンティア医科学 (修士課程) | 50 | 65 (34) | × 1 | 50 | 60 (31) | × 1 | | | | | | | 100 | 125 (65) | × 2 | | × 2 | |
| | 看護科学 (修士課程) | 15 | 22 (20) | × 1 | | | | | | | | | | 15 | 22 (20) | × 2 | | × 2 | |
| | 前期小計 | 65 | 87 (54) | × 1 | 50 | 60 (31) | × 1 | | | | | | | 115 | 147 (85) | × 2 | | × 2 | |

| 研究科 | 専攻 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 (後期1年, 医学1年) | | 4年次 (後期2年, 医学2年) | | 5年次 (後期3年, 医学3年) | | (医学4年) | | 合計 | |
|-----------------------|-------------------------|-------------------------------------|----------------|--------------------------------|---------------|------------------------------|---------------|------------------------------|---------------|------------------------------|----------------|-------------|-------------|-------------------------------------|------------------|
| | | 入学定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 取容定員 | 現員 |
| 人間総合科学 | 教育学 (一貫制博士課程) | 8 | 5 (3) × 1 | 8 | 5 (2) × 1 | 8 | 8 (7) × 2 | 8 | 7 (1) × 2 | 8 | 6 (4) × 2 | | | 40 | 31 (17) × 8 |
| | 学校教育学 (一貫制博士課程) | 6 | 6 (2) × 1 | 6 | 7 (4) × 1 | 6 | 6 (3) × 1 | 6 | 8 (3) × 1 | 6 | 17 (5) × 2 | | | 30 | 44 (17) × 5 |
| | 心理学 (一貫制博士課程) | 8 | 7 (6) | 8 | 4 (1) | 8 | 8 (5) | 8 | 9 (4) | 8 | 16 (6) | | | 40 | 44 (22) × 4 |
| | 心身障害学 (一貫制博士課程) | 8 | 12 (6) | 8 | 6 (5) | 8 | 8 | 8 | 10 (4) | 8 | 18 (11) | | | 40 | 54 (26) × 9 |
| | ヒューマン・ケア科学 (一貫制博士課程) | 22 | 21 (17) × 2 | 22 | 16 (13) × 1 | 22 | 27 (19) × 1 | 18 | 22 (15) × 3 | 18 | 39 (24) × 2 | | | 102 | 125 (88) × 13 |
| | 感性認知脳科学 (一貫制博士課程) | 13 | 14 (7) × 1 | 13 | 11 (4) × 2 | 13 | 17 (9) × 7 | 13 | 10 (6) × 2 | 13 | 16 (8) × 1 | | | 65 | 68 (34) × 10 |
| | スポーツ医学 (一貫制博士課程) | 8 | 7 (4) × 3 | 8 | 6 (1) × 1 | 8 | 15 (5) × 3 | 8 | 21 (9) × 1 | 8 | 17 (7) × 2 | | | 40 | 66 (26) × 3 |
| | 先端応用医学 (医学の課程) | | | | | 15 | 14 (2) × 4 | 15 | 15 (8) × 4 | 15 | 20 (3) × 3 | 15 | 11 (6) × 3 | 60 | 60 (14) × 14 |
| | 分子情報・生体統御医学 (医学の課程) | | | | | 11 | 16 (5) × 1 | 11 | 9 (4) × 1 | 11 | 12 (3) × 1 | 11 | 20 (7) × 1 | 44 | 57 (19) × 2 |
| | 病態制御医学 (医学の課程) | | | | | 8 | 14 (3) × 2 | 8 | 6 (3) × 1 | 8 | 8 (1) × 1 | 8 | 5 (2) × 3 | 32 | 33 (9) × 7 |
| | 社会環境医学 (医学の課程) | | | | | 13 | 16 (8) × 3 | 13 | 12 (7) × 1 | 13 | 12 (6) × 1 | 13 | 15 (6) × 3 | 52 | 55 (27) × 3 |
| | 体育科学 (一貫制博士課程) | 20 | 11 (3) × 2 | 20 | 6 (1) × 2 | 20 | 16 (6) × 2 | 20 | 16 (3) × 3 | 20 | 44 (7) × 5 | | | 100 | 93 (20) × 12 |
| | 芸術学 (一貫制博士課程) | | | 10 | 13 (10) × 2 | 2 | (2) × 4 | 7 | 16 (9) × 5 | 7 | 18 (8) × 5 | | | 24 | 49 (29) × 11 |
| | 一貫制小計 | 93 | 83 (48) × 10 | 103 | 74 (41) × 9 | 155 | 178 (81) × 25 | 158 | 176 (79) × 26 | 158 | 252 (100) × 24 | 62 | 65 (27) × 7 | 729 | 828 (376) × 101 |
| | 芸術 (博士前期課程) | 60 | 74 (42) × 10 | | | | | | | | | | | 60 | 74 (42) × 10 |
| | 世界遺産 (博士前期課程) | 15 | 17 (12) × 10 | | | | | | | | | | | 15 | 17 (12) × 10 |
| | 博士前期小計 | 75 | 91 (54) × 10 | | | | | | | | | | | 75 | 91 (54) × 10 |
| | コーチング学 (3年制博士課程) | | | | | 6 | 6 (1) × 8 | 6 | 7 (1) × 8 | | | | | 12 | 13 (2) × 8 |
| | 芸術 (博士後期課程) | | | | | 10 | 20 (9) × 3 | | | | | | | 10 | 20 (9) × 3 |
| | 世界文化遺産学 (博士後期課程) | | | | | 7 | 9 (6) × 11 | 7 | 6 (5) × 11 | | | | | 14 | 15 (11) × 11 |
| | 博士後期小計 | | | | | 23 | 35 (16) × 36 | 13 | 13 (6) × 26 | | | | | 36 | 48 (22) × 11 |
| | 人間総合科学 計 | 233 | 261 (156) × 21 | 153 | 134 (72) × 10 | 178 | 213 (97) × 36 | 171 | 189 (85) × 26 | 158 | 252 (100) × 24 | 62 | 65 (27) × 7 | 955 | 1114 (537) × 124 |
| | 図書館情報メディア | 図書館情報メディア (博士前期課程) | 37 | 49 (26) × 1 | 37 | 45 (19) × 2 | | | | | | | | 74 | 94 (45) × 3 |
| 図書館情報メディア (博士後期課程) | | | | | | 21 | 21 (15) × 3 | 21 | 21 (13) × 3 | 21 | 73 (33) × 10 | | | 63 | 115 (61) × 16 |
| 図書館情報メディア 計 | 37 | 49 (26) × 1 | 37 | 45 (19) × 2 | 21 | 21 (15) × 3 | 21 | 21 (13) × 3 | 21 | 73 (33) × 10 | | | 137 | 209 (106) × 19 | |
| 博士課程の研究科合計 | 1377 | △ 49 ※ 11 × 168 1525 (458) × 215 | 1195 | △ 27 × 98 1207 (338) × 167 | 705 | △ 3 × 143 638 (224) × 143 | 630 | △ 3 × 119 563 (183) × 119 | 611 | △ 3 × 155 891 (304) × 155 | 62 | 65 (27) × 7 | 4580 | △ 85 ※ 11 × 690 4889 (1534) × 7 | |
| 大学院合計 | 1752 | △ 74 ※ 26 × 635 1934 (635) × 215 | 1736 | △ 28 × 630 1873 (630) × 167 | 705 | △ 3 × 143 638 (224) × 143 | 630 | △ 3 × 119 563 (183) × 119 | 611 | △ 3 × 155 891 (304) × 155 | 62 | 65 (27) × 7 | 5496 | △ 111 ※ 26 × 806 5964 (2003) × 7 | |

| 課程 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 (後期1年, 医学1年) | | 4年次 (後期2年, 医学2年) | | 5年次 (後期3年, 医学3年) | | (医学4年) | | 合計 | |
|-------------------------|------|-------------------------------------|------------------------------|--------------------------------|---------------------|------------------------------|---------------------|------------------------------|---------------------|------------------------------|--------|-------------|------|-------------------------------------|
| | 入学定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 定員 | 現員 | 取容定員 | 現員 |
| 修士合計 A | 440 | △ 25 ※ 15 × 48 496 (231) × 125 | 591 | △ 2 × 70 726 (323) × 68 | | | | | | | | | 1031 | △ 27 ※ 15 × 118 1222 (554) × 193 |
| 博士前期合計 B | 1051 | △ 15 × 125 1187 (287) × 2 | 853 | △ 2 × 68 878 (189) × 24 | | | | | | | | | 1904 | △ 58 ※ 11 × 2 2065 (476) × 48 |
| 専門職学位課程合計 C | 70 | △ 34 ※ 11 × 40 77 (23) × 29 | 70 | △ 63 (14) × 29 | 40 | △ 1 × 53 39 (11) × 53 | | | | | | | 180 | △ 3 × 276 179 (48) × 217 |
| 一貫制博士課程合計 D | 191 | 174 (94) × 222 | 206 (104) × 253 | 259 (120) × 259 | 259 | 259 (120) × 259 | 259 | 284 (121) × 348 | 348 | △ 1 × 100 620 (233) × 7 | 62 | 65 (27) × 7 | 1335 | 1608 (699) × 217 |
| 博士後期課程 + 3年制博士課程合計 E | | △ 74 ※ 26 × 215 77 (23) × 215 | △ 28 × 167 28 (167) × 167 | △ 3 × 143 340 (93) × 143 | 412 | △ 3 × 119 340 (93) × 119 | 371 | △ 2 × 72 279 (62) × 72 | 263 | △ 2 × 55 271 (71) × 55 | | | 1046 | △ 6 × 217 890 (226) × 7 |
| 合計 | 1752 | △ 74 ※ 26 × 635 1934 (635) × 215 | 1736 | △ 28 × 630 1873 (630) × 167 | 705 | △ 3 × 143 638 (224) × 143 | 630 | △ 3 × 119 563 (183) × 119 | 611 | △ 3 × 155 891 (304) × 155 | 62 | 65 (27) × 7 | 5496 | △ 111 ※ 26 × 806 5964 (2003) × 7 |

(注) 1. () は女子, × は外国人留学生, △ は第2・3学期入学者, ※ は短期在学コース(1年)の学生を内数で示す。

2. 第2学期入学者の年次上げは8/1付けであるが, 学生数表等統計上は4/1付けで年次上げしている。

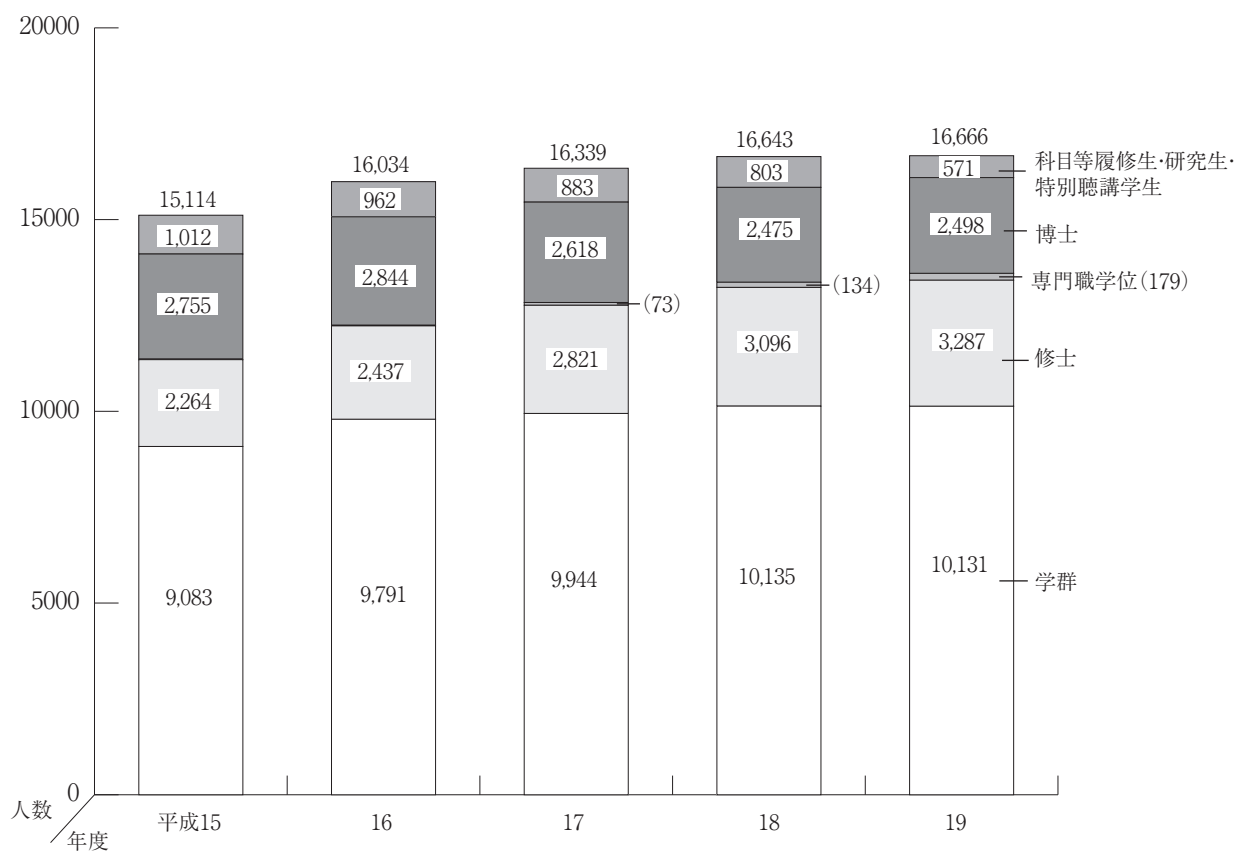
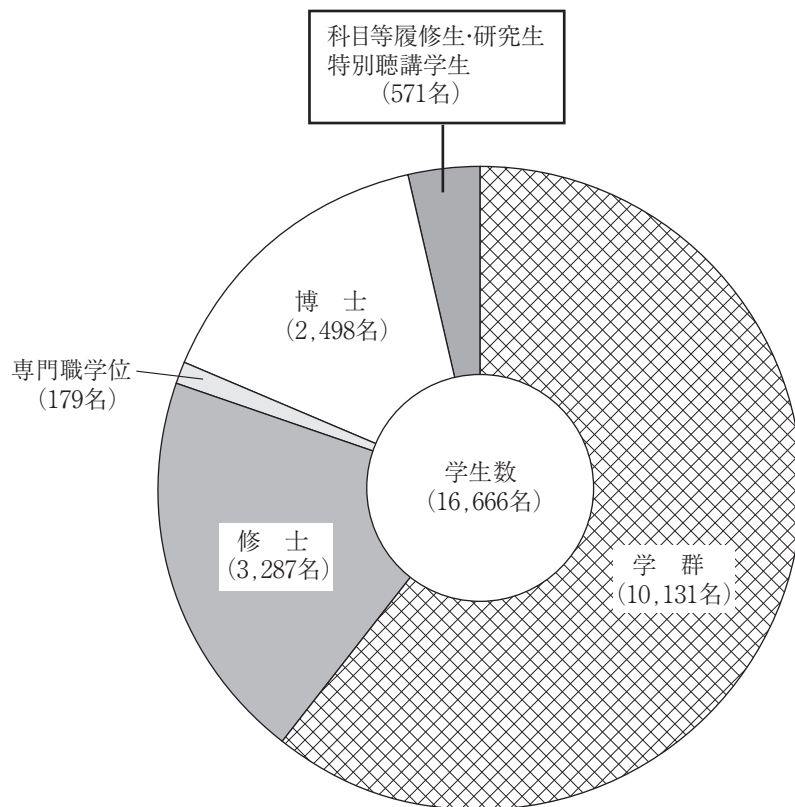
ウ 科目等履修生・研究生・特別聴講学生

(平成20年3月1日現在)

| 所 属 | | 科目等履修生 | 研究生 | 特別聴講学生 | 計 | |
|---------------------------------------|---------------------|-------------------------------------|------------------|----------------------|--------------------|------------------|
| 学 | 第一学群 | 人 文 学 類 | 17 (10) | | 17 (10) | |
| | 社 会 学 類 | 8 (8) ※4 (4) | | | 8 (8) ※4 (4) | |
| | 第二学群 | 自 然 学 類 | 21 (4) | | | 21 (4) |
| | | 比 較 文 化 学 類 | 10 (4) ※1 (1) | | | 10 (4) ※1 (1) |
| | | 日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類 | 12 (5) ※3 (2) | | | 12 (5) ※3 (2) |
| | | 日 本 語 間 学 類 | 24 (9) ※1 (1) | | | 24 (9) ※1 (1) |
| | 第三学群 | 生 物 学 類 | 4 (3) | | | 4 (3) |
| | | 生 物 資 源 学 類 | 16 (5) | | | 16 (5) |
| | | 社 会 工 学 類 | 7 (3) | | | 7 (3) |
| | | 国 際 綜 合 学 類 | 6 (4) ※4 (3) | | | 6 (4) ※4 (3) |
| | | 情 報 学 類 | 5 (2) ※1 (1) | | | 5 (2) ※1 (1) |
| | | 工 学 シ ス テ ム 学 類 | 5 (2) | | | 5 (2) |
| | 医学専門学群 | 工 学 基 礎 学 類 | 3 | | | 3 (0) |
| | | 医 学 専 門 学 類 | 1 (1) | | | 1 (1) |
| | 図書館情報専門学群 | 看 護 ・ 医 療 科 学 類 | 3 (3) ※1 (1) | | | 3 (3) ※1 (1) |
| | | 図 書 館 情 報 専 門 学 類 | 7 (3) | | | 7 (3) |
| | 人文・文化学群 | 人 文 学 類 | 2 (1) | 1 | 6 (6) ※6 (6) | 9 (7) ※6 (6) |
| | | 比 較 文 化 学 類 | 1 (1) ※1 (1) | | 6 (4) ※6 (4) | 7 (5) ※7 (5) |
| | 社会・国際学群 | 日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類 | 2 (2) ※2 (2) | | 12 (10) ※12 (10) | 14 (12) ※14 (12) |
| | | 社 会 学 類 | 1 (1) ※1 (1) | 1 | 4 (4) ※4 (4) | 6 (5) ※5 (5) |
| 人間学群 | 国 際 綜 合 学 類 | 1 (1) | | 17 (8) ※17 (8) | 18 (9) ※17 (8) | |
| | 教 育 学 類 | | 17 (6) | 4 (1) ※4 (1) | 21 (7) ※4 (1) | |
| 生命環境学群 | 心 理 学 類 | | 1 | | 1 | |
| | 障 害 科 学 類 | | 4 (3) | 2 (1) ※2 (1) | 6 (4) ※2 (1) | |
| 理工学群 | 生 物 学 類 | | 2 (1) | | 2 (1) | |
| | 生 物 資 源 学 類 | 1 | 2 (1) | 1 (1) ※1 (1) | 4 (2) ※1 (1) | |
| 情報学群 | 地 球 学 類 | | | | | |
| | 数 理 学 類 | 2 | | | 2 | |
| 医学群 | 物 理 学 類 | | | | | |
| | 化 学 類 | | | | | |
| 芸術専門学群 | 応 用 理 工 学 類 | | 1 | | 1 | |
| | 工 学 シ ス テ ム 学 類 | | 2 | 2 ※2 | 4 ※2 | |
| 修士課程 | 社 会 工 学 類 | 1 ※1 | 1 | | 2 ※1 | |
| | 情 報 科 学 類 | 1 (1) | | | 1 (1) | |
| 大学院 | 情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類 | | | | | |
| | 知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類 | | 2 (1) | | 2 (1) | |
| 大学院 | 医 学 群 | | 2 (1) | | 2 (1) | |
| | 看 護 科 学 類 | 1 (1) | | | 1 (1) | |
| 大学院 | 医 療 科 学 類 | 1 (1) | | | 2 (2) | |
| | 体 育 専 門 学 類 | 86 (15) | 11 (1) | 1 ※1 | 98 (16) ※1 | |
| 大学院 | 芸 術 専 門 学 類 | 14 (7) ※1 | 5 (3) | 2 (1) ※2 (1) | 21 (11) ※3 (1) | |
| | 学 群 | 263 (97) ※21 (17) | 53 (18) | 57 (36) ※57 (36) | 373 (151) ※78 (53) | |
| 大学院 | 修士課程 | 地 域 研 究 科 | 7 (5) ※4 (3) | 1 ※20 (16) | 6 (5) ※6 (5) | 14 (10) ※30 (24) |
| | | 教 育 研 究 科 | 16 (13) ※2 (1) | 13 (7) ※21 (13) | | 29 (20) ※30 (14) |
| | | 体 育 研 究 科 | 3 (1) ※1 (1) | 8 (1) ※19 (9) | | 11 (2) ※20 (10) |
| | | 小 計 | 26 (19) ※7 (5) | 22 (8) ※60 (38) | 6 (5) ※6 (5) | 54 (32) ※73 (48) |
| | 博士課程 | 人 文 社 会 科 学 研 究 科 (一貫制) | 11 (8) ※2 (1) | 5 (4) ※30 (20) | 1 (1) ※1 (1) | 17 (13) ※33 (22) |
| | | ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科 (博 士 前 期 課 程) | 21 (2) ※0 (0) | 1 | | 22 (2) |
| | | ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科 (博 士 後 期 課 程) | 1 (0) ※0 (0) | | | 1 |
| | | ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科 (専 門 職 位 課 程) | 1 (1) ※0 (0) | | | 1 (1) |
| | | 数 理 物 質 科 学 研 究 科 (博 士 前 期 課 程) | 1 (0) ※0 (0) | 1 ※8 (3) | | 2 ※8 (3) |
| | | 数 理 物 質 科 学 研 究 科 (博 士 後 期 課 程) | | 5 (1) ※1 | | 5 (1) ※1 (0) |
| | | 数 理 物 質 科 学 研 究 科 (一貫制) | | | | 0 (0) ※0 (0) |
| | | シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科 (博 士 前 期 課 程) | 6 (3) ※5 (2) | 1 ※46 (18) | | 7 (3) ※51 (20) |
| | | シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科 (博 士 後 期 課 程) | | 1 (1) ※1 (1) | | 1 (1) ※1 (1) |
| | | 生 命 環 境 科 学 研 究 科 (博 士 前 期 課 程) | | 5 (2) ※62 (31) | | 5 (2) ※62 (31) |
| | | 生 命 環 境 科 学 研 究 科 (博 士 後 期 課 程) | | 11 (3) ※3 (2) | | 11 (3) ※3 (2) |
| | | 生 命 環 境 科 学 研 究 科 (一貫制) | 1 (0) ※0 (0) | 1 | | 2 (0) ※0 (0) |
| | | 人 間 綜 合 科 学 研 究 科 (修 士 課 程) | | 1 | | 1 (0) ※0 (0) |
| | | 人 間 綜 合 科 学 研 究 科 (博 士 前 期 課 程) | 1 (1) ※0 (0) | 2 (1) ※48 (30) | | 3 (2) ※48 (30) |
| | | 人 間 綜 合 科 学 研 究 科 (博 士 後 期 課 程) | | 4 (4) ※1 (1) | | 4 (4) ※1 (1) |
| | | 人 間 綜 合 科 学 研 究 科 (一貫制) | 7 (6) ※2 (2) | 33 (10) ※2 (1) | | 40 (16) ※4 (3) |
| 図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科 (博 士 前 期 課 程) | 20 (8) ※0 (0) | 2 (1) ※8 (6) | | 22 (9) ※8 (6) | | |
| 図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科 (博 士 後 期 課 程) | | | | 0 (0) ※0 (0) | | |
| 小 計 | 70 (29) ※9 (5) | 73 (27) ※210 (113) | 1 (1) ※1 (1) | 144 (57) ※220 (119) | | |
| 大 学 院 計 | 96 (48) ※16 (10) | 95 (35) ※270 (151) | 7 (6) ※7 (6) | 198 (89) ※293 (167) | | |
| 合 計 | 359 (145) ※37 (27) | 148 (53) ※270 (151) | 64 (42) ※64 (42) | 571 (240) ※371 (220) | | |

(注) 1. () は女子を、※は外国人留学生を、それぞれの内数で示す。
 2. 研究生には、特別研究学生(他大学と本学との協議により、本学で研究指導を受ける者)を含む。
 3. 日本語・日本文化研修留学生は、学群の科目等履修生として受け入れている。

工 学 生 数



(3) 授業科目数及び授業担当教員数

ア 学群（19年度入学者）

| 学群・学類等 | | 授 業 科 目 数 | | | | 授 業 担 当 教 員 数 | | | |
|---------|------------|-----------|--------|------------|-------|---------------|---------|-------|-------|
| | | 専門科目 | 専門基礎科目 | 共通科目及び関連科目 | 計 | 教員会議構成員 | その他専任教員 | 非常勤教員 | 計 |
| 共通科目等 | 総合科目 | | | 246 | 246 | 1,579 | | 106 | 1,685 |
| | 体育 | | | 77 | 77 | | 30 | 16 | 46 |
| | 外国語 | | | 419 | 419 | | 84 | 50 | 134 |
| | 国語 | | | 61 | 61 | 4 | 2 | 5 | 11 |
| | 情報処理 | | | 72 | 72 | | 33 | 21 | 54 |
| | 小計 | | | 875 | 875 | 1,583 | 149 | 198 | 1,930 |
| 全学群対象 | | | | 7 | 7 | 3 | | 4 | 7 |
| 人文・文化学群 | 人文学類 | 26 | 31 | | 57 | 44 | 8 | 8 | 60 |
| | 比較文化学類 | 8 | 59 | | 67 | 74 | 5 | 3 | 82 |
| | 日本語・日本文化学類 | 9 | 10 | 8 | 27 | 13 | 1 | 3 | 17 |
| | 小計 | 43 | 100 | 8 | 151 | 131 | 14 | 14 | 159 |
| 国際社会学群 | 社会学類 | 25 | 9 | | 34 | 20 | 5 | 2 | 27 |
| | 国際総合学類 | 5 | 23 | | 28 | 22 | | | 22 |
| | 小計 | 30 | 32 | | 62 | 42 | 5 | 2 | 49 |
| 人間学群 | 学群コア | | 12 | | 12 | 25 | | | 25 |
| | 教育学類 | 24 | 18 | 23 | 65 | 27 | | 3 | 30 |
| | 心理学類 | 5 | | | 5 | 9 | | | 9 |
| | 障害科学類 | 7 | | | 7 | 12 | | | 12 |
| | 小計 | 36 | 30 | 23 | 89 | 73 | | 3 | 76 |
| 生命環境学群 | 生物学類 | 15 | 15 | | 30 | 38 | 29 | 2 | 69 |
| | 生物資源学類 | 2 | 28 | | 30 | 43 | 38 | | 81 |
| | 地球学類 | | 16 | | 16 | 18 | 19 | | 37 |
| | 小計 | 17 | 59 | | 76 | 99 | 86 | 2 | 187 |
| 理工学群 | 数学類 | | 71 | | 71 | 27 | 19 | 7 | 53 |
| | 物理学類 | | 41 | | 41 | 15 | 18 | 3 | 36 |
| | 化学類 | | 17 | | 17 | 15 | 19 | | 34 |
| | 応用理工学類 | 1 | 29 | | 30 | 32 | | 1 | 33 |
| | 工学システム学類 | 6 | 26 | 1 | 33 | 34 | 10 | 7 | 51 |
| | 社会工学類 | | 35 | 2 | 37 | 38 | | | 38 |
| | 小計 | 7 | 219 | 3 | 229 | 161 | 66 | 18 | 245 |
| 情報学群 | 情報科学類 | 15 | 11 | 2 | 28 | 22 | | 3 | 25 |
| | 情報メディア創成学類 | | 18 | 2 | | 30 | 1 | 3 | 34 |
| | 知識情報・図書館学類 | | 12 | 2 | 14 | 45 | | 7 | 52 |
| | 小計 | 15 | 41 | 6 | 62 | 97 | 1 | 13 | 111 |
| 医学群 | 医学類 | 4 | 9 | 3 | 16 | 268 | | 1 | 269 |
| | 看護学類 | 75 | 33 | 3 | 111 | 30 | 8 | 5 | 43 |
| | 医療科学類 | 3 | 14 | 6 | 23 | 16 | 14 | | 30 |
| | 小計 | 82 | 56 | 12 | 150 | 314 | 22 | 6 | 342 |
| 体育専門学群 | | | 35 | | 35 | 109 | | 1 | 110 |
| 芸術専門学群 | | 25 | 33 | | 58 | 59 | | 3 | 62 |
| その他 | 日本語・日本事情 | | | 22 | 22 | 4 | 5 | 3 | 12 |
| | 教職科目 | | | 18 | 18 | 15 | | 5 | 20 |
| 合計 | | 193 | 473 | 968 | 1,634 | 2,452 | 256 | 255 | 2,963 |

(注) 1. 授業科目数は、他学群・学類開設科目を指定しているものを除く。

2. 総合科目における授業担当教員数は延人数。

イ 学群 (18年度以前入学者)

| 学群・学類等 | | 授 業 科 目 数 | | | | 授 業 担 当 教 員 数 | | | |
|-----------|------------|-----------|--------|------------|-------|---------------|---------|-------|-------|
| | | 専門科目 | 専門基礎科目 | 共通科目及び関連科目 | 計 | 教員会議構成員 | その他専任教員 | 非常勤教員 | 計 |
| 共通科目等 | 総合科目 | | | | | | | | |
| | 体育 | | | 121 | 121 | | 41 | 14 | 55 |
| | 外国語 | | | 63 | 63 | | 29 | 9 | 38 |
| | 情報処理 | | | | 0 | | | | 0 |
| | 小計 | | | 184 | 184 | | 70 | 23 | 93 |
| 全学群対象 | | | 19 | 19 | 5 | | 6 | 11 | |
| 第一学群 | 人文学類 | 265 | | | 265 | 64 | 26 | 10 | 100 |
| | 社会学類 | 164 | | | 164 | 42 | 18 | 9 | 69 |
| | 自然科学類 | 263 | | | 263 | 189 | 10 | 21 | 220 |
| | 小計 | 692 | | | 692 | 295 | 54 | 40 | 389 |
| 第二学群 | 比較文化学類 | 204 | 74 | | 278 | 74 | 23 | 23 | 120 |
| | 日本語・日本文化学類 | 90 | 9 | | 99 | 22 | 5 | 13 | 40 |
| | 人間学類 | 218 | 14 | | 232 | 96 | | 58 | 154 |
| | 生物学類 | 79 | 25 | | 104 | 60 | 50 | 12 | 122 |
| | 生物資源学類 | 383 | 25 | | 408 | 110 | 37 | 28 | 175 |
| | 小計 | 974 | 147 | | 1,121 | 362 | 115 | 134 | 611 |
| 第三学群 | 社会学類 | 85 | 39 | 2 | 126 | 70 | 3 | 15 | 88 |
| | 国際総合学類 | 93 | 24 | | 117 | 39 | | 9 | 48 |
| | 情報学類 | 101 | 14 | | 115 | 64 | 6 | 32 | 102 |
| | 工学システム学類 | 219 | | 1 | 220 | 73 | 3 | 29 | 105 |
| | 工学基礎学類 | 123 | 50 | | 173 | 74 | 1 | 9 | 84 |
| | 小計 | 621 | 127 | 3 | 751 | 320 | 13 | 94 | 427 |
| 医学専門学群 | 医学類 | 20 | | 15 | 35 | 268 | | 71 | 339 |
| | 看護・医療科学類 | 132 | 46 | 3 | 181 | 46 | 74 | 36 | 156 |
| | 小計 | 152 | 46 | 18 | 216 | 314 | 74 | 107 | 495 |
| 体育専門学群 | 248 | 65 | | 313 | 109 | | 23 | 132 | |
| 芸術専門学群 | 184 | 28 | | 212 | 59 | | 14 | 73 | |
| 図書館情報専門学群 | 111 | 54 | | 165 | 61 | | 12 | 73 | |
| その他 | 日本語・日本事情 | | | | | | | | |
| | 教職科目 | | | 155 | 155 | 113 | | 59 | 172 |
| | 博物館に関する科目 | | | 4 | 4 | 7 | | 4 | 11 |
| 合計 | | 2,982 | 467 | 383 | 3,832 | 1,645 | 326 | 516 | 2,487 |

- (注) 1. 授業科目数は、他学群・学類開設科目を指定しているものを除く。
 2. 総合科目及び日本語・日本事情は19年度入学者 ((3)-ア) を参照。

ウ 大 学 院

| 課程・研究科等 | | 授業科目数 | 授 業 担 当 教 員 数 | | | | |
|------------------|-------------|-------|---------------|-------------|-------|-----|-----|
| | | | 教員会議 構成員 | その他 専任教員 | 非常勤教員 | 計 | |
| 修 士 課 程 | 地域研究研究科 | 189 | 77 | | 23 | 100 | |
| | 教育研究科 | 457 | 150 | | 67 | 217 | |
| | 環境科学研究科 | 65 | 71 | | 13 | 84 | |
| | 体育研究科 | 336 | 102 | | 23 | 125 | |
| | 芸術研究科 | 155 | 59 | | 5 | 64 | |
| | 小 計 | 1,202 | 459 | | 131 | 590 | |
| 博 士 課 程 | 人文社会科学研究科 | 423 | 211 | | 23 | 234 | |
| | ビジネス科学研究科 | 前期 | 124 | 57 | 67 | 124 | |
| | | 後期 | 48 | | | | |
| | | 専門職 | 140 | | | | |
| | 数理物質科学研究科 | 一貫 | 72 | 218 | 27 | 53 | 298 |
| | | 前期 | 296 | | | | |
| | | 後期 | 123 | | | | |
| | システム情報工学研究科 | 前期 | 361 | 236 | | 12 | 248 |
| | | 後期 | 28 | | | | |
| | 生命環境科学研究科 | 一貫 | 317 | 246 | | 76 | 322 |
| | | 前期 | 732 | | | | |
| | | 後期 | 61 | | | | |
| | 人間総合科学研究科 | 一貫 | 790 | 469 | | 75 | 544 |
| | | 修士 | 119 | 184 | | 5 | 189 |
| | | 前期 | 165 | 59 | | 8 | 67 |
| | | 後期 | 13 | 34 | | 1 | 35 |
| | | 3年制 | 3 | 18 | | | 18 |
| 図書館情報メディア研究科 | 前期 | 257 | 77 | | 2 | 79 | |
| | 後期 | 61 | | | | | |
| 小 計 | 3,710 | 1,809 | 27 | 322 | 2,158 | | |
| 合 計 | 4,912 | 2,268 | 27 | 453 | 2,748 | | |

- (注) 1. 授業科目数は、他研究科開設科目を指定しているもの及び研究指導を除く。
 2. 非常勤教員は、連携大学院方式による教員を含まない。
 3. 数理物質科学研究科のその他専任教員は、物質・材料工学専攻(連係大学院)の教員。

(4) 卒業・修了者等数

ア 学群卒業者

[平成20年3月31日]

| 学類・学類 | | 卒業 年次 定員 | 編入学 定員 | 本年度卒業生(学位「学士」取得者)数 | | | 累 計 | |
|----------|------------|----------------|-----------|--------------------|-----------------|----------------------|-------------------|--|
| | | | | 学 位 記 | | 計 | | |
| 第一学群 | 人文学類 | 120 | | 人文学 | 111 (58) ※1 | 111 (58) ※1 | 3,687 (1,779) ※15 | |
| | 社会学類 | 80 | <10> | 社会学 | 28 (15) | 109 (51) ※1 | 3,412 (1,092) ※33 | |
| | | | | 法学 | 52 (24) ※1 | | | |
| | | | | 政治学 | 24 (10) | | | |
| 自然科学類 | 200 | | 理学 | 206 (49) ※2 | 206 (49) ※2 | 6,361 (1,284) ※11 | | |
| 小 計 | 400 | <10> | | 426 (158) ※4 | 426 (158) ※4 | 13,460 (4,155) ※59 | | |
| 第二学群 | 比較文化学類 | 80 | | 文学 | 9 (8) ※1 | 89 (72) ※1 | 2,534 (1,537) ※13 | |
| | | | | 比較文化 | 80 (64) | | | |
| | 日本語・日本文化学類 | 40 | | 文学 | 45 (39) | 45 (39) | 1,343 (1,027) ※18 | |
| | 人間学類 | 120 | | 人間科学 | 119 (61) ※1 | 119 (61) ※1 | 3,673 (2,087) ※14 | |
| | 生物学類 | 80 | | 理学 | 88 (37) ※5 | 88 (37) ※5 | 2,500 (1,010) ※17 | |
| | 生物資源学類 | 120 | <10> | 生物資源学 | 136 (64) ※3 | 141 (65) ※3 | 2,169 (1,014) ※11 | |
| | | | | 農学 | 5 (1) | | | |
| 農林学類 | | | 農学 | | | 2,057 (514) ※4 | | |
| 小 計 | 440 | <10> | | 482 (274) ※10 | 482 (274) ※10 | 14,276 (7,189) ※77 | | |
| 第三学群 | 社会工学類 | 120 | | 社会工学 | 135 (29) ※3 | 135 (29) ※3 | 3,545 (515) ※49 | |
| | 国際総合学類 | 80 | | 国際関係学 | 74 (49) ※2 | 99 (67) ※4 | 1,011 (632) ※63 | |
| | | | | 国際開発学 | 25 (18) ※2 | | | |
| | 国際関係学類 | | | 国際関係学 | | | 1,001 (466) ※64 | |
| | 情報学類 | 80 | | 情報科学 | 32 (2) ※1 | 103 (9) ※4 | 2,755 (351) ※53 | |
| | | | | 情報工学 | 71 (7) ※3 | | | |
| | 工学システム学類 | 130 | | 工学 | 160 (16) ※2 | 160 (16) ※2 | 1,635 (145) ※32 | |
| | 工学基礎学類 | 120 | <10> | 工学 | 112 (4) | 112 (4) | 904 (60) ※8 | |
| 基礎工学類 | | | 工学 | | | 3,765 (500) ※20 | | |
| 小 計 | 530 | <10> | | 609 (125) ※13 | 609 (125) ※13 | 14,616 (2,669) ※289 | | |
| 医学専門学群 | 医学専門学群 | 95 | <5> | 医学 | 108 (36) ※2 | 108 (36) ※2 | 2,851 (783) ※7 | |
| | 看護・医療科学類 | 70 | <10> | 看護学 | 66 (66) | 66 (66) | 138 (133) | |
| | | 37 | <3> | 医療科学 | 34 (25) | 34 (25) | 74 (51) | |
| | 小 計 | 202 | <18> | | 208 (127) ※2 | 208 (127) ※2 | 3,063 (967) ※7 | |
| 体育専門学群 | 240 | | 体育学 | 251 (72) ※1 | 251 (72) ※1 | 7,315 (1,841) ※6 | | |
| 芸術専門学群 | 100 | | 芸術学 | 115 (87) ※2 | 115 (87) ※2 | 2,915 (1,634) ※15 | | |
| 専図書館情報学群 | 図書館情報専門学群 | 150 | <30> | 図書館情報学 | 171 (104) ※4 | 176 (104) ※4 | 305 (197) ※5 | |
| | 図情大からの移籍学生 | | | 図書館情報学 | 5 (0) | | 3,816 (2,550) ※34 | |
| | 小 計 | 150 | <30> | | 176 (104) ※4 | 176 (104) ※4 | 4,121 (2,747) ※39 | |
| 合 計 | 2,062 | <78> | | 2,267 (947) ※36 | 2,267 (947) ※36 | 59,766 (21,202) ※492 | | |

- (注) 1. () は女子を, ※は外国人留学生を, それぞれ内数で示し, < >は第3年次編入学定員を外数で示す。
 2. 卒業者数には, 第2学期推薦入学者等の年度途中卒業者29名を含む。
 3. 累計には, 東京教育大学からの移管学生を含む。
 4. 農林学類は, 平成6年度から生物資源学類へ名称変更。
 5. 国際総合学類は, 平成7年度に国際関係学類を改組。
 6. 工学基礎学類は, 平成10年度に基礎工学類を改組。
 7. 図情大からの移籍学生の累計は, 平成15年度をもって閉学した図書館情報大学の卒業者を含む。

イ 大学院修了者等

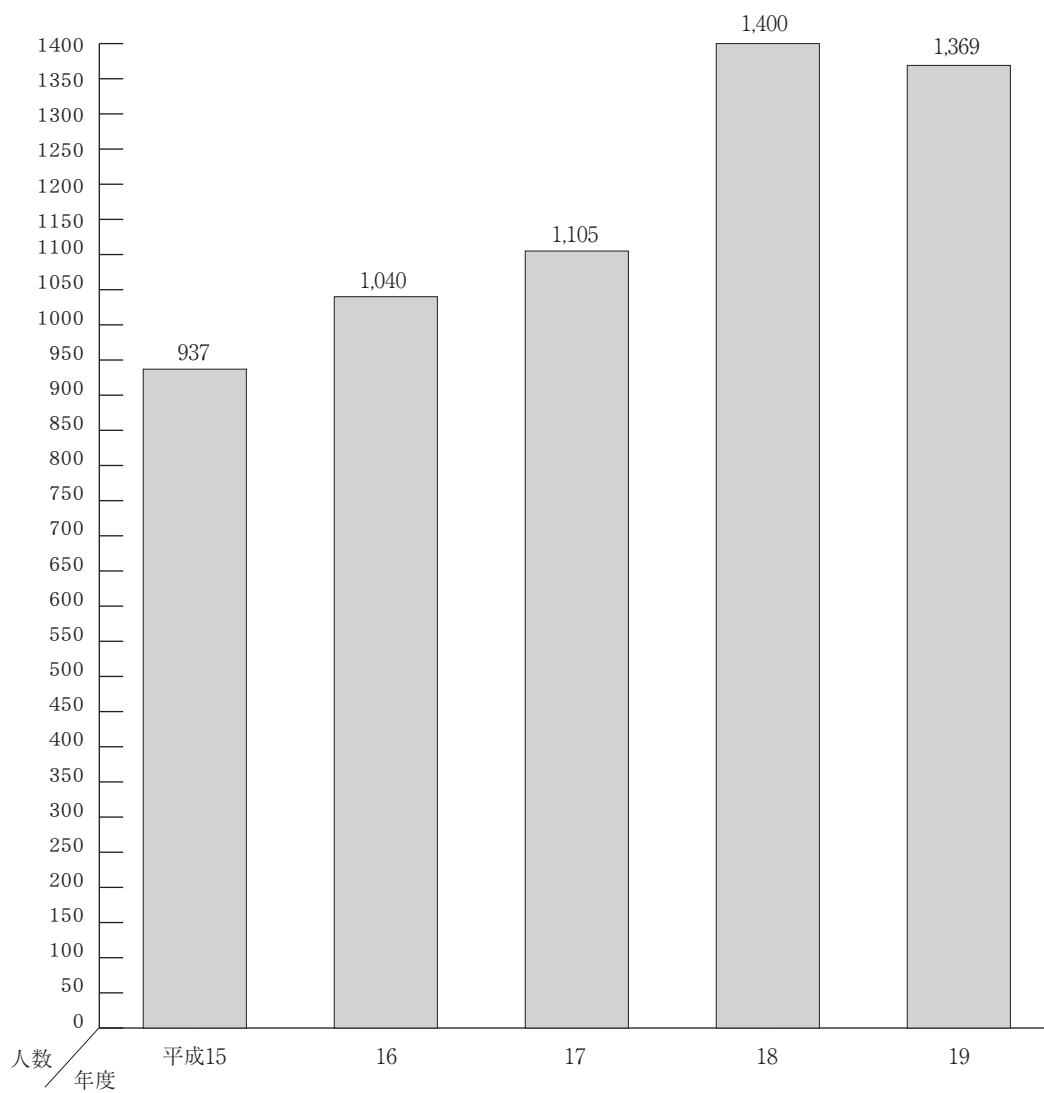
(ア) 修士課程修了者

(平成20年3月31日現在)

| 研究科 | 専攻 | 学位(専攻分野の名称) | 本年度修了者数 | 累 計 |
|-----------------------------------|---------------------------|----------------|--------------------|-------------------------|
| 地 域 研 究 | 地 域 研 究 | 国際学修士 | | 563 (287) ※ 207 |
| | | 修士(国際学) | | 8 (6) |
| | | 修士(地域研究) | 66 (40) ※ 28 | 941 (577) ※ 308 |
| 教 育 | 障 害 児 教 育 | 教育学修士 | | 290 (125) ※ 18 |
| | | 修士(教育学) | 37 (29) ※ 4 | 557 (392) ※ 43 |
| | ス ク ー ル リ ー ダ ー シ ッ プ 開 発 | 修士(教育学) | 16 (10) ※ 3 | 16 (10) ※ 3 |
| | | 教育学修士 | | 735 (189) ※ 42 |
| | 教 科 教 育 | 修士(教育学) | 57 (23) ※ 1 | 1,386 (582) ※ 57 |
| | | 教育学修士 | | 30 (12) |
| | カ ウ ン セ リ ン グ | 修士(教育学) | | 2 (2) |
| | | 修士(カウンセリング) | 17 (10) ※ 1 | 372 (240) ※ 2 |
| | | 修士(リハビリテーション) | 24 (13) | 381 (215) |
| | | 修士(学術) | | 1 |
| 修士(学術) | | | 540 (48) ※ 128 | |
| 経 営 ・ 政 策 科 学 | 経 営 ・ 政 策 科 学 | 修士(経済学) | | 333 (65) ※ 60 |
| | | 修士(ビジネス) | | 109 (32) ※ 49 |
| | | 修士(社会工学) | | 56 (5) ※ 6 |
| | | 修士(経営科学) | | 272 (67) ※ 136 |
| | | 修士(公共政策) | | 1 |
| | 経 営 シ ス テ ム 科 学 | 経営学修士 | | 25 (2) |
| | | 修士(経営学) | | 256 (47) |
| | 企 業 法 学 | 修士(経営システム科学) | | 121 (19) |
| | | 修士(法学) | | 320 (47) |
| | 理 工 学 | 理 工 学 | 工学修士 | |
| 修士(工学) | | | | 2,326 (181) ※ 197 |
| 理学修士 | | | | 411 (44) ※ 6 |
| 修士(理学) | | | | 733 (118) ※ 16 |
| 環 境 科 学 | 環 境 科 学 | 学術修士 | | 922 (127) ※ 36 |
| | | 修士(学術) | | 91 (21) ※ 3 |
| バ イ オ シ ス テ ム | バ イ オ シ ス テ ム | 修士(環境科学) | 98 (34) ※ 8 | 1,686 (590) ※ 185 |
| 医 科 学 | 医 科 学 | 修士(学術) | | 851 (299) ※ 90 |
| 体 育 | 体 育 方 法 学 | 医学修士 | | 242 (63) ※ 7 |
| | | 修士(医学) | | 681 (352) ※ 32 |
| | コ ー チ 学 | 体育学修士 | | 251 (60) ※ 14 |
| | | 修士(体育学) | | 429 (123) ※ 71 |
| | 健 康 教 育 学 | 体育学修士 | | 328 (25) ※ 15 |
| | | 修士(体育学) | | 679 (120) ※ 54 |
| | ス ポ ー ツ 健 康 科 学 | 体育学修士 | | 218 (42) ※ 12 |
| | | 修士(体育学) | | 429 (182) ※ 33 |
| | ス ポ ー ツ 科 学 | 修士(体育学) | 125 (32) ※ 7 | 235 (81) ※ 6 |
| | | 修士(体育学) | | 252 (72) ※ 22 |
| ス ポ ー ツ 健 康 シ ス テ ム ・ マ ネ ジ メ ン ト | 修士(体育学) | 12 (3) | 40 (10) | |
| | 修士(保健学) | 10 (8) | 43 (36) | |
| 芸 術 | 美 術 | 芸術学修士 | | 175 (45) ※ 9 |
| | | 修士(芸術学) | 27 (15) ※ 5 | 440 (210) ※ 40 |
| | デ ザ イ ン | 芸術学修士 | | 190 (49) ※ 43 |
| | | 修士(芸術学) | 2 (1) | 28 (15) ※ 3 |
| | 世 界 遺 産 | 修士(デザイン学) | 32 (14) ※ 9 | 481 (171) ※ 159 |
| | | 修士(世界遺産学) | 11 (10) ※ 1 | 34 (31) ※ 2 |
| | 修士(学術) | 7 (6) ※ 2 | 20 (14) ※ 2 | |
| 数 理 物 質 科 学 | 数 学 | 修士(理学) | 11 (1) ※ 1 | 44 (1) ※ 1 |
| | | 修士(数学) | 9 (1) | 15 (1) ※ 1 |
| | 物 理 学 | 修士(理学) | 29 (5) | 89 (8) ※ 1 |
| | | 修士(物理学) | 13 (1) | 22 (2) ※ 1 |
| | 化 学 | 修士(理学) | 35 (11) | 108 (33) ※ 1 |
| | | 修士(理学) | 16 (6) | 52 (16) ※ 1 |
| | 物 質 創 成 先 端 科 学 | 修士(数学) | | 1 |
| | | 修士(物理学) | | 2 |
| | 電 子 ・ 物 理 工 学 | 修士(工学) | 11 | 27 |
| | | 修士(工学) | 46 | 146 (9) ※ 4 |
| 物 性 ・ 分 子 工 学 | 修士(工学) | 63 (9) ※ 3 | 180 (25) ※ 10 | |
| | 修士(工学) | 14 (3) ※ 6 | 22 (5) ※ 8 | |
| シ ス テ ム 情 報 工 学 | 社 会 シ ス テ ム 工 学 | 修士(社会工学) | 30 (10) ※ 4 | 48 (14) ※ 6 |
| | | 修士(社会経済) | 1 | 2 |
| | 経 営 ・ 政 策 科 学 | 修士(ビジネス) | 33 (15) ※ 19 | 80 (27) ※ 34 |
| | | 修士(公共政策) | 2 (1) ※ 1 | 9 (3) ※ 2 |
| | リ ス ク 工 学 | 修士(工学) | 20 (1) | 35 (2) ※ 1 |
| | | 修士(社会工学) | 6 | 7 |
| | コ ン ピ ュ ー タ サ イ エ ン ス | 修士(工学) | 79 (10) ※ 14 | 141 (19) ※ 21 |
| 修士(工学) | | 77 (5) ※ 6 | 161 (13) ※ 14 | |
| 構 造 エ ネ ル ギ ー 工 学 | 修士(工学) | 54 (3) ※ 3 | 105 (4) ※ 3 | |
| 生 命 環 境 科 学 | 生 物 科 学 | 修士(生物化学) | 3 (1) | 8 (4) |
| | | 修士(理学) | 35 (15) ※ 1 | 78 (41) ※ 3 |
| | 生 物 資 源 科 学 | 修士(学術) | 10 (7) ※ 4 | 21 (13) ※ 7 |
| | | 修士(生物工学) | 25 (9) ※ 2 | 48 (20) ※ 7 |
| | | 修士(生物資源工学) | 6 (3) | 16 (7) ※ 4 |
| 修士(農学) | 67 (34) ※ 12 | 131 (66) ※ 20 | | |
| ビ ジ ネ ス 科 学 | 企業法学 | 19 (2) | 165 (26) | |
| | 経営システム科学 | 修士(経営システム科学) | 2 | 26 (2) |
| 人 間 総 合 科 学 | フ ロ ン テ ィ ア 医 科 学 | 修士(経営学) | 28 (6) | 170 (35) |
| | | 修士(医学) | 55 (28) | 55 (28) |
| 図 書 館 情 報 メ デ ィ ア | 図 書 館 情 報 メ デ ィ ア | 修士(図書館情報学) | 15 (7) | 75 (50) ※ 5 |
| | | 修士(情報学) | 12 (4) ※ 1 | 72 (30) ※ 15 |
| | | 修士(学術) | 2 (1) | 11 (5) ※ 2 |
| 計 | | | 1,369 (446) ※ 146 | 22,474 (6,589) ※ 2,344 |

(注) 1. () は女子を, ※は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。
 2. 平成3年7月以降の学位についてその種類が廃止され, 単に「修士」とすることとされた。

〔修士課程修了者数の推移〕



(イ) 博士課程修了者

(平成19年3月31日現在)

| 研究科 | 専攻 | 学位(専攻分野の名称) | 本年度修了者数 | 累 計 |
|-----------------|-----------------------|----------------|-------------|---------------|
| 人 文 社 会 科 学 | 哲 学 ・ 思 想 | 博士(文学) | 1 | 6 |
| | | 歴 史 ・ 人 類 学 | 博士(文学) | 2 |
| | 文 芸 ・ 言 語 | 博士(文学) | 7 (4) ※ 4 | 21 (12) ※ 13 |
| | | 博士(言語学) | 4 (2) ※ 2 | 13 (9) ※ 7 |
| | 現代文化・公共政策 | 博士(言語学) | 1 (1) | 5 (4) |
| | | 博士(文学) | 1 (1) | 2 (1) |
| | | 博士(学術) | | 1 |
| | | 博士(政治学) | 3 (2) ※ 3 | 3 (2) 3 |
| | 社 会 科 学 | 博士(経済学) | 1 | 2 ※ 1 |
| | | 博士(社会学) | 5 (3) ※ 1 | 8 (4) ※ 2 |
| 国 際 政 治 経 済 学 | 博士(国際政治経済学) | 3 (1) ※ 3 | 10 (4) ※ 9 | |
| ビ ジ ネ ス 科 学 | 企 業 科 学 | 博士(システムマネジメント) | 5 | 13 |
| | | 博士(経営学) | 5 (1) | 20 (2) |
| | | 博士(法学) | 4 (1) | 16 (3) |
| 数 理 物 質 科 学 | 数 学 | 博士(理学) | 6 | 21 (1) |
| | | 博士(数学) | 1 | 4 |
| | 物 理 学 | 博士(理学) | 10 (1) | 33 (1) |
| | | 博士(物理学) | 2 | 6 (1) |
| | 化 学 | 博士(理学) | 12 (1) ※ 1 | 37 (6) ※ 3 |
| | 物質創成先端科学 | 博士(理学) | 2 | 7 (3) ※ 2 |
| | | 博士(工学) | | 5 ※ 1 |
| | 電 子 ・ 物 理 工 学 | 博士(工学) | 15 ※ 1 | 44 (3) ※ 4 |
| 物 性 ・ 分 子 工 学 | 博士(工学) | 14 (1) ※ 2 | 34 (2) ※ 9 | |
| 物 質 ・ 材 料 工 学 | 博士(工学) | 7 (1) ※ 4 | 9 (2) ※ 5 | |
| シ ス テ ム 情 報 工 学 | 社会システム工学 | 博士(工学) | | 12 (2) ※ 4 |
| | | 博士(社会工学) | 1 (1) | 14 (2) ※ 5 |
| | | 博士(社会経済) | 1 | 8 (2) ※ 5 |
| | 社会システム・マネジメント | 博士(マネジメント) | | 1 ※ 1 |
| | | 博士(社会経済) | 1 | 1 |
| | | 博士(社会工学) | 3 | 3 |
| | | 博士(工学) | 2 (1) ※ 1 | 2 (1) ※ 1 |
| | リ ス ク 工 学 | 博士(工学) | 4 | 12 (1) ※ 4 |
| | | 博士(社会工学) | | 2 |
| | コ ン プ ュ ー タ サ イ エ ン ス | 博士(工学) | 18 (2) ※ 5 | 53 (6) ※ 16 |
| | 知 能 機 能 シ ス テ ム | 博士(工学) | 11 ※ 1 | 35 ※ 7 |
| | 構 造 エ ネ ル ギ ー 工 学 | 博士(工学) | 6 ※ 2 | 19 ※ 5 |
| | 計量ファイナンス・マネジメント | 博士(ファイナンス) | | 2 (1) ※ 2 |
| 博士(マネジメント) | | | 4 (2) ※ 4 | |
| 博士(社会工学) | | | 1 | |
| 生 命 環 境 科 学 | 地 球 環 境 科 学 | 博士(理学) | 4 (1) ※ 1 | 22 (6) ※ 4 |
| | 地 球 進 化 科 学 | 博士(理学) | 8 (1) ※ 1 | 12 (3) ※ 2 |
| | 構 造 生 物 科 学 | 博士(理学) | 5 | 18 (3) |
| | 情 報 生 物 科 学 | 博士(理学) | 7 (3) | 38 (12) ※ 1 |
| | 生 命 共 存 科 学 | 博士(理学) | 8 (2) ※ 5 | 22 (7) ※ 10 |
| | | 博士(農学) | 2 (1) | 4 (2) |
| | | 博士(生命共存科学) | | 7 (1) ※ 4 |
| | 国際地縁技術開発科学 | 博士(学術) | | 11 (7) ※ 2 |
| | | 博士(生物資源工学) | 2 ※ 2 | 15 (4) ※ 13 |
| | 生 物 圏 資 源 科 学 | 博士(農学) | 3 (2) ※ 2 | 33 (12) ※ 13 |
| | | 博士(学術) | | 7 (3) ※ 4 |
| | 生 物 機 能 科 学 | 博士(農学) | 10 (3) ※ 5 | 46 (9) ※ 21 |
| | | 博士(生物工学) | 4 ※ 3 | 22 (7) ※ 11 |
| | 博士(農学) | 4 (1) ※ 1 | 23 (6) ※ 2 | |

| 研究科 | 専攻 | 学位(専攻分野の名称) | 本年度修了者数 | 累 計 |
|-----------|-------------|----------------|----------|-----------|
| 生命環境科学 | 生物機能科学 | 博士(学術) | | 3 |
| | 生命産業科学 | 博士(農学) | 3 | 3 |
| | | 博士(生物科学) | 2(2)※1 | 2(2)※1 |
| | | 博士(生物工学) | 7(3)※7 | 7(3)※7 |
| | | 博士(学術) | 2(1) | 21 |
| 先端農業技術科学 | 博士(農学) | 5(1)※1 | 5(1)※1 | |
| 人間総合科学 | 教育学 | 博士(教育学) | | 1 |
| | 学校教育学 | 博士(教育学) | 4(3)※1 | 5(4)※1 |
| | 心理学 | 博士(心理学) | 2 | 9(1) |
| | | 博士(学術) | | 1※1 |
| | 心身障害学 | 博士(心身障害学) | 1(1) | 8(6)※2 |
| | ヒューマン・ケア科学 | 博士(ヒューマン・ケア科学) | 10(8)※1 | 24(19)※3 |
| | | 博士(心理学) | 3(1) | 9(1) |
| | | 博士(教育学) | 1 | 3(2) |
| | | 博士(医学) | | 2(2) |
| | | 博士(学術) | 1(1) | 3(3) |
| | 感性認知脳科学 | 博士(感性科学) | 1(1)※1 | 5(3)※5 |
| | | 博士(神経科学) | 5(4) | 11(5) |
| | | 博士(行動科学) | 3(2) | 4(2) |
| | スポーツ医学 | 博士(スポーツ医学) | 10(6)※2 | 26(12)※7 |
| | | 博士(医学) | | 1 |
| | | 博士(学術) | 1 | 1 |
| | 先端応用医学 | 博士(医学) | 15(6) | 59(13)※8 |
| | 分子情報・生体統御医学 | 博士(医学) | 11(7)※4 | 51(20)※10 |
| | 病態制御医学 | 博士(医学) | 18(9)※2 | 55(20)※8 |
| | 機能制御医学 | 博士(医学) | 3(1) | 31(9)※1 |
| 社会環境医学 | 博士(医学) | 6(1)※3 | 41(17)※9 | |
| 体育科学 | 博士(体育科学) | 8(2)※3 | 26(5)※6 | |
| | 博士(学術) | 1※1 | 5(1)※2 | |
| 芸術学 | 博士(芸術学) | 2(1) | 11(5)※1 | |
| | 博士(デザイン学) | 5(1)※2 | 14(6)※8 | |
| 図書館情報メディア | 図書館情報メディア | 博士(図書館情報学) | 3(2)※1 | 6(4)1 |
| | | 博士(情報学) | 3 | 14(5)※2 |
| | | 博士(学術) | | 6(1)※2 |
| 哲学・思想 | 哲学 | 文学博士 | | 3 |
| | | 博士(文学) | | 5(1)※1 |
| | 倫理学 | 文学博士 | | 8(1)※2 |
| | | 博士(文学) | | 2 |
| | 宗教学・比較思想学 | 博士(学術) | | 3※2 |
| | | 文学博士 | | 2 |
| 歴史・人類学 | 史学 | 博士(文学) | | 2 |
| | | 博士(学術) | | 2 |
| | | 文学博士 | | 1 |
| | 文化人類学 | 博士(文学) | | 11(2)※8 |
| | | 博士(学術) | | 9(4)※3 |
| | | 文学博士 | | 3(1)※1 |
| 文芸・言語 | 文学 | 文学博士 | | 6(2)※6 |
| | | 博士(文学) | | 9(2)※3 |
| | | 博士(学術) | | 2(1)※1 |
| | 各国文学 | 文学博士 | | 2(1)※2 |
| | | 博士(文学) | | 22(13)※14 |
| | 博士(学術) | | 2(2)※1 | |
| | 文学博士 | | 2(2)※1 | |
| | 博士(文学) | | 11(4)※2 | |

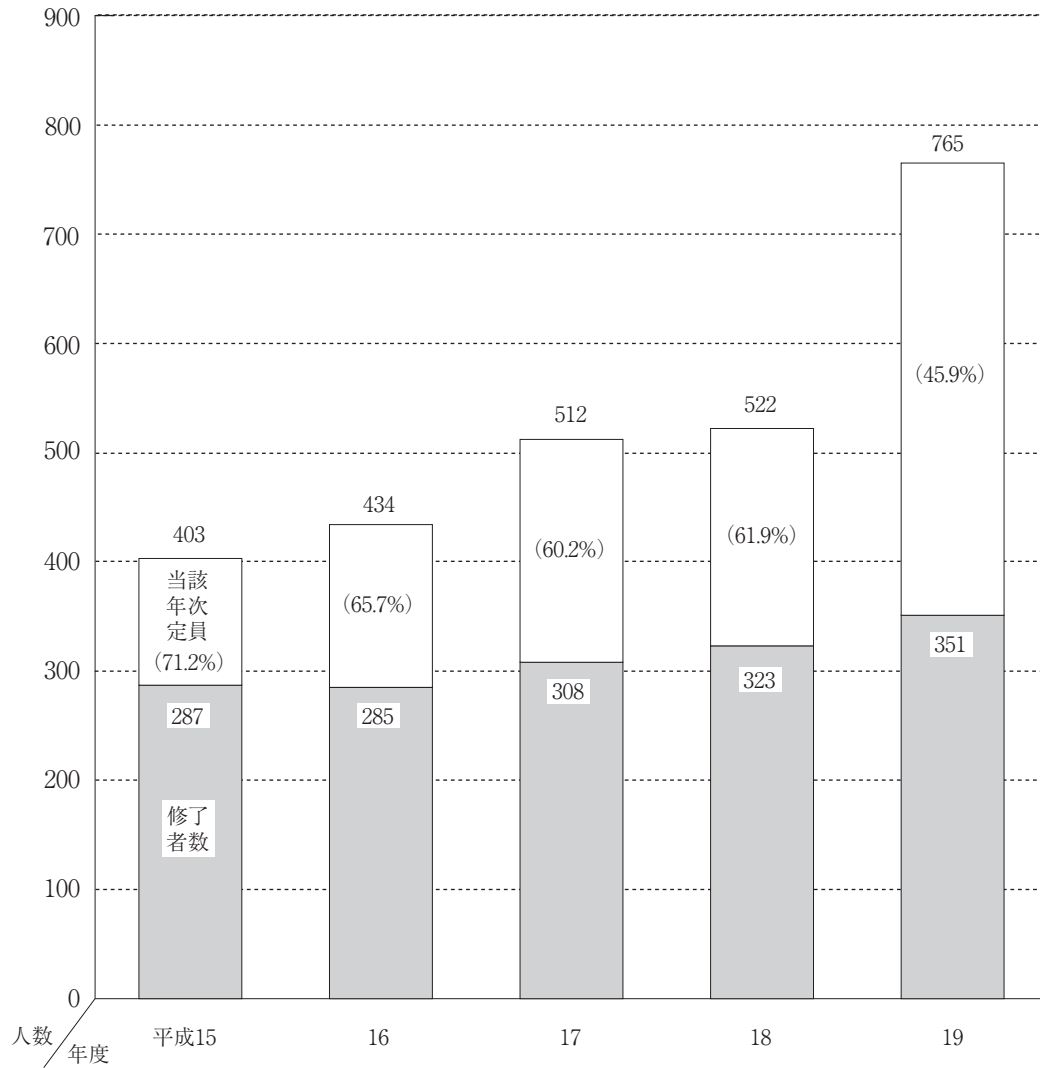
| 研究科 | 専攻 | 学位(専攻分野の名称) | 本年度修了者数 | 累 計 | |
|-------------------|---------------------|------------------|--------------|---------------|---|
| 文 芸 ・ 言 語 | 各 国 文 学 | 博士(学術) | | 6 (2) ※ 5 | |
| | | 文学博士 | | 8 (3) ※ 7 | |
| | 言 語 学 | 博士(言語学) | | 47 (22) ※ 35 | |
| 教 育 学 | 教 育 学 | 教育学博士 | | 3 ※ 2 | |
| | | 教育学博士 | | 6 (4) ※ 5 | |
| | 教 育 基 礎 学 | 博士(教育学) | | 12 (8) ※ 10 | |
| | 学 校 教 育 学 | 教育学博士 | | 2 ※ 2 | |
| | | 博士(教育学) | | 17 (7) ※ 14 | |
| 心 理 学 | 心 理 学 | 教育学博士 | | 6 (1) | |
| | | 博士(心理学) | | 44 (13) ※ 5 | |
| | | 学術博士 | | 4 (1) ※ 2 | |
| 心 身 障 害 学 | 心 身 障 害 学 | 教育学博士 | | 22 (10) ※ 2 | |
| | | 博士(教育学) | | 23 (11) ※ 6 | |
| | | 博士(心身障害学) | | 26 (15) ※ 6 | |
| | | 学術博士 | | 1 (1) | |
| | | 博士(学術) | | 1 | |
| 社 会 科 学 | 法 学 | 法学博士 | | 11 ※ 2 | |
| | | 博士(法学) | | 23 (3) ※ 11 | |
| | 経 済 学 | 経済学博士 | | 1 ※ 1 | |
| | | 博士(経済学) | | 7 (1) ※ 4 | |
| | 社 会 学 | 社会学博士 | | 8 (2) ※ 5 | |
| | 博士(社会学) | | 24 (3) ※ 17 | | |
| 社 会 工 学 | 計 量 計 画 学 | 経済学博士 | | 1 | |
| | | 学術博士 | | 1 ※ 1 | |
| | | 博士(社会経済) | | 13 (3) ※ 8 | |
| | | | 博士(経営工学) | | 1 |
| | 経 営 工 学 | 学術博士 | | 10 (1) ※ 8 | |
| | | 博士(経営工学) | | 27 (6) ※ 18 | |
| | | 博士(社会経済) | | 1 ※ 1 | |
| | 都 市 ・ 地 域 計 画 学 | 学術博士 | | 11 (1) ※ 8 | |
| | | 博士(社会工学) | | 3 ※ 1 | |
| | | 博士(都市・地域計画) | | 30 (3) ※ 20 | |
| | 計 量 ファイナンス ・ マネジメント | 博士(経営学) | | 4 (1) ※ 4 | |
| | | 博士(計量ファイナンス) | | 3 | |
| | 社 会 経 済 シ ス テ ム | 博士(社会経済) | | 3 (1) ※ 3 | |
| 都 市 ・ 環 境 シ ス テ ム | 博士(社会工学) | | 9 (2) | | |
| | 博士(都市・環境システム) | | 2 ※ 2 | | |
| シ ス テ ム 情 報 数 理 | 博士(数理工学) | | 1 ※ 1 | | |
| 国 際 政 治 経 済 学 | 国 際 政 治 経 済 学 | 博士(学術) | | 2 (1) ※ 1 | |
| | | 博士(国際政治経済学) | | 21 (4) ※ 15 | |
| 経 営 ・ 政 策 科 学 | 企 業 科 学 | 博士(法学) | | 5 (1) | |
| | | 博士(経営学) | | 8 (3) | |
| | | 博士(システムズ・マネジメント) | | 10 (1) | |
| 生 物 科 学 | 生 物 学 | 理学博士 | | 36 (2) ※ 6 | |
| | | 博士(理学) | | 56 (16) ※ 5 | |
| | | 博士(生物科学) | | 3 | |
| | 生 物 物 理 化 学 | 理学博士 | | 34 (4) ※ 2 | |
| | | 博士(理学) | | 85 (23) ※ 9 | |
| | | 博士(学術) | | 8 (1) | |
| | | 博士(生物科学) | | 1 | |
| 農 学 | 農 林 学 | 農学博士 | | 41 (4) ※ 13 | |
| | | 博士(農学) | | 87 (9) ※ 35 | |
| | 農 林 工 学 | 農学博士 | | 21 ※ 10 | |

| 研究科 | 専攻 | 学位(専攻分野の名称) | 本年度修了者数 | 累 計 |
|-----------|-------------|-------------|-----------------|----------------------|
| 農 学 | 農 林 工 学 | 博士(農学) | | 99 (13) ※ 53 |
| | | 農学博士 | | 59 (6) ※ 18 |
| | 応 用 生 物 化 学 | 博士(農学) | | 175 (41) ※ 50 |
| | | 学术博士 | | 7 |
| | | 博士(学術) | | 42 (8) ※ 5 |
| 数 学 | 数 学 | 理学博士 | | 19 ※ 1 |
| | | 博士(理学) | | 53 (6) ※ 6 |
| | | 博士(数学) | | 17 1 ※ 3 |
| 物 理 学 | 物 理 学 | 理学博士 | | 119 (2) ※ 3 |
| | | 博士(理学) | | 122 (7) ※ 9 |
| | | 博士(物理学) | | 21 (1) ※ 1 |
| | | 学术博士 | | 1 |
| 化 学 | 化 学 | 理学博士 | | 98 (6) ※ 6 |
| | | 博士(理学) | | 94 (9) ※ 7 |
| 地 球 科 学 | 地 理 学・水 文 学 | 理学博士 | | 46 (3) ※ 19 |
| | | 博士(理学) | | 50 (8) ※ 15 |
| | 地 質 学 | 理学博士 | | 28 (3) ※ 6 |
| | | 博士(理学) | | 75 (15) ※ 28 |
| 工 学 | 物 理 工 学 | 工学博士 | | 32 ※ 8 |
| | | 博士(工学) | | 102 (3) ※ 21 |
| | 物 質 工 学 | 工学博士 | | 21 ※ 3 |
| | | 博士(工学) | | 132 (6) ※ 31 |
| | 構 造 工 学 | 工学博士 | | 18 ※ 3 |
| | | 博士(工学) | | 86 (6) ※ 26 |
| | 知 能 機 能 工 学 | 博士(工学) | | 54 (4) ※ 9 |
| 電子・情報工学 | | 工学博士 | | 21 ※ 8 |
| | | 博士(工学) | | 134 (9) ※ 42 |
| 医 学 | 形 態 系 | 医学博士 | | 19 (1) |
| | | 博士(医学) | | 103 (24) ※ 17 |
| | 生 化 系 | 医学博士 | | 30 (4) ※ 1 |
| | | 博士(医学) | | 114 (42) ※ 13 |
| | 生 理 系 | 医学博士 | | 53 (3) ※ 2 |
| 博士(医学) | | | 173 (50) ※ 24 | |
| 生 物 系 | 医学博士 | | 19 (4) ※ 1 | |
| | 博士(医学) | | 67 (19) ※ 7 | |
| 環 境 生 態 系 | 医学博士 | | 34 (6) ※ 2 | |
| | 博士(医学) | | 81 (36) ※ 7 | |
| 体 育 科 学 | 体 育 科 学 | 教育学博士 | | 30 (3) ※ 12 |
| | | 博士(体育科学) | | 88 (11) ※ 22 |
| | | 学术博士 | | 5 |
| | | 博士(学術) | | 20 (6) ※ 6 |
| 芸 術 学 | 芸 術 学 | 学术博士 | | 4 (1) ※ 1 |
| | | 博士(芸術学) | | 34 (25) ※ 9 |
| | | 博士(デザイン学) | | 39 (11) ※ 23 |
| 計 | | | 351 (102) ※ 80 | 4,814 (969) ※ 1,176 |

(注) 1 () は女子を, ※は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。

2 平成3年7月以降の学位についてその種類が廃止され, 単に「博士」とすることとされた。

〔博士課程修了状況の推移〕



()内は、年次定員に対する修了者率(%)を示す。

(ウ) 博士課程修士学位授与者

(平成20年3月31日現在)

| 研究科 | 専攻 | 学位(専攻分野の名称) | 本年度授与者数 | 累 計 |
|-----------------|------------------------------|-------------|---------------|----------------|
| 人 文 社 会 科 学 | 哲 学 ・ 思 想 | 修士(文学) | 6 (4) ※ 2 | 37 (14) ※ 7 |
| | | 歴 史 ・ 人 類 学 | 6 (4) | 50 (22) ※ 5 |
| | 文 芸 ・ 言 語 | 修士(言語学) | 14 (9) ※ 4 | 60 (34) ※ 19 |
| | | 修士(文学) | 10 (4) ※ 3 | 61 (33) ※ 19 |
| | 現 代 文 化 公 共 政 策 | 修士(学術) | 1 | 11 (5) ※ 3 |
| | | 修士(言語学) | 2 | 21 (12) ※ 7 |
| | | 修士(政治学) | 7 (3) ※ 2 | 24 (11) ※ 9 |
| | | 修士(文学) | 3 (3) | 16 (10) ※ 1 |
| | 社 会 科 学 | 修士(経済学) | | 9 (2) ※ 2 |
| | | 修士(社会学) | 2 (2) ※ 1 | 16 (10) ※ 4 |
| | | 修士(法学) | 6 (4) | 21 (13) ※ 3 |
| | 国 際 政 治 経 済 学 | 修士(国際政治経済学) | 8 (5) ※ 3 | 76 (28) ※ 58 |
| | | 修士(学術) | 1 (1) | 2 (2) |
| 数 理 物 質 科 学 | 数 学 | 修士(理学) | | 43 (1) |
| | | 修士(数学) | | 4 |
| | 物 理 学 | 修士(理学) | | 58 (5) |
| | | 修士(物理学) | | 13 (1) |
| | 化 学 | 修士(理学) | | 66 (14) ※ 2 |
| | | 修士(工学) | | 36 (6) |
| | 物 質 創 成 先 端 科 学 | 修士(工学) | | 22 (2) |
| | | 修士(物理学) | | 3 |
| | | 修士(工学) | | 66 (3) |
| | 電 子 ・ 物 理 工 学 | 修士(工学) | | 76 (7) ※ 2 |
| 物 性 ・ 分 子 工 学 | | 修士(工学) | | |
| シ ス テ ム 情 報 工 学 | 社 会 シ ス テ ム 工 学 | 修士(社会経済) | | 7 ※ 1 |
| | | 修士(社会工学) | | 53 (8) ※ 6 |
| | | 修士(工学) | | 27 (2) ※ 6 |
| | リ ス ク 工 学 | 修士(工学) | | 48 (5) ※ 4 |
| | | 修士(社会工学) | | 5 (1) |
| | コ ン プ ュ ー タ サ イ エ ン ス | 修士(工学) | | 159 (11) ※ 15 |
| | 知 能 機 能 シ ス テ ム | 修士(工学) | | 134 (9) ※ 6 |
| | 構 造 エ ネ ル ギ ー 工 学 | 修士(工学) | | 101 (5) ※ 1 |
| | 計 量 ファ イ ナ ン ス ・ マ ネ ジ メ ン ト | 修士(ファイナンス) | | 15 ※ 1 |
| | | 修士(マネジメント) | | 3 (1) ※ 3 |
| | | 修士(社会工学) | | 10 |
| 生 命 環 境 科 学 | 地 球 環 境 科 学 | 修士(理学) | 18 (6) ※ 1 | 79 (25) ※ 4 |
| | | 修士(地球環境科学) | 1 | 3 (2) |
| | 地 球 進 化 科 学 | 修士(理学) | 12 (4) | 59 (18) ※ 4 |
| | | 修士(地球科学) | | 1 |
| | 構 造 生 物 科 学 | 修士(理学) | 1 (1) | 36 (13) |
| | | 修士(生物科学) | | 3 (2) ※ 1 |
| | 情 報 生 物 科 学 | 修士(理学) | | 98 (37) |
| | | 修士(生物科学) | | 8 (1) |
| | 生 命 共 存 科 学 | 修士(理学) | 13 (5) | 62 (21) ※ 4 |
| | | 修士(農学) | 6 | 19 (3) |
| | | 修士(生命共存科学) | | 19 (6) ※ 6 |
| | 国 際 地 縁 技 術 開 発 科 学 | 修士(農学) | | 54 (24) ※ 6 |
| | | 修士(生物資源工学) | | 16 (4) ※ 7 |
| | | 修士(学術) | | 14 (7) ※ 3 |
| 生 物 圏 資 源 科 学 | 修士(農学) | | 88 (31) ※ 15 | |
| | 修士(学術) | | 4 (3) ※ 1 | |
| 生 物 機 能 科 学 | 修士(農学) | 1 | 38 (12) ※ 1 | |

| 研究科 | 専攻 | 学位(専攻分野の名称) | 本年度授与者数 | 累 計 |
|-----------|------------|----------------|----------------|----------------|
| 生命環境科学 | 生物機能科学 | 修士(生物工学) | | 25 (5) ※ 2 |
| | | 修士(学術) | | 3 |
| 人間総合科学 | 教育学 | 修士(教育学) | 5 (2) ※ 2 | 33 (18) ※ 7 |
| | 学校教育学 | 修士(教育学) | 7 (4) ※ 1 | 33 (12) ※ 3 |
| | 心理学 | 修士(心理学) | 6 (2) | 39 (14) |
| | 心身障害学 | 修士(心身障害学) | 8 (5) | 31 (17) ※ 3 |
| | ヒューマン・ケア科学 | 修士(ヒューマン・ケア科学) | 5 (4) ※ 1 | 31 (29) ※ 8 |
| | | 修士(教育学) | 1 (1) | 4 (3) |
| | | 修士(心理学) | 9 (7) | 44 (23) ※ 1 |
| | | 修士(体育科学) | | 2 (1) |
| | | 修士(心身障害学) | | 1 |
| | 感性認知脳科学 | 修士(学術) | | 2 (1) |
| | | 修士(感性科学) | 6 (2) ※ 3 | 14 (5) ※ 6 |
| | | 修士(行動科学) | 4 (1) ※ 1 | 22 (14) ※ 2 |
| | | 修士(神経科学) | 5 (1) | 22 (10) |
| | スポーツ医学 | 修士(スポーツ医学) | 4 ※ 1 | 43 (10) ※ 12 |
| | 体育科学 | 修士(学術) | 1 (1) | 3 (1) |
| | | 修士(体育科学) | 9 (3) ※ 1 | 45 (8) ※ 7 |
| 芸術学 | 修士(デザイン学) | 5 (5) | 17 (8) ※ 5 | |
| | 修士(学術) | | 1 | |
| | 修士(芸術学) | 10 (7) ※ 2 | 36 (26) ※ 5 | |
| 哲学・思想 | 哲学 | 文学修士 | | 19 (1) |
| | | 修士(文学) | | 18 (3) ※ 1 |
| | 哲学・思想 | 修士(文学) | | 1 |
| | 倫理学 | 文学修士 | | 20 (3) ※ 6 |
| | | 修士(文学) | | 18 (4) ※ 2 |
| | | 修士(学術) | | 5 ※ 4 |
| 宗教学・比較思想学 | 文学修士 | | 30 (9) ※ 7 | |
| | 修士(文学) | | 20 (3) ※ 1 | |
| | 修士(学術) | | 3 (1) | |
| 歴史・人類学 | 史学 | 文学修士 | | 88 (14) ※ 12 |
| | | 修士(文学) | | 71 (23) ※ 2 |
| | | 修士(学術) | | 10 (3) ※ 2 |
| | 文化人類学 | 文学修士 | | 65 (16) ※ 10 |
| | | 修士(文学) | | 48 (10) ※ 3 |
| | | 修士(学術) | | 5 (3) ※ 2 |
| 文芸・言語 | 文学 | 文学修士 | | 20 (7) ※ 2 |
| | | 修士(文学) | | 23 (11) ※ 7 |
| | | 修士(学術) | | 1 (1) ※ 1 |
| | 各国文学 | 文学修士 | | 107 (39) ※ 12 |
| | | 修士(文学) | | 65 (22) ※ 4 |
| | | 修士(学術) | | 10 (4) ※ 9 |
| 言語学 | 文学修士 | | 118 (24) ※ 16 | |
| | 修士(言語学) | | 117 (56) ※ 36 | |
| | 修士(学術) | | 5 (4) ※ 1 | |
| 教育学 | 教育学 | 教育学修士 | | 65 (4) ※ 4 |
| | 教育基礎学 | 教育学修士 | | 29 (10) ※ 4 |
| | | 修士(教育学) | | 64 (21) ※ 5 |
| | 学校教育学 | 教育学修士 | | 37 (6) ※ 5 |
| | | 修士(教育学) | | 62 (18) ※ 11 |
| 心理学 | 心理学 | 教育学修士 | | 94 (19) ※ 6 |

| 研究科 | 専攻 | 学位（専攻分野の名称） | 本年度授与者数 | 累 計 |
|------------------------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|
| 心 理 学 | 心 理 学 | 修士（心理学） | | 111（48）※ 9 |
| 心 身 障 害 学 | 心 身 障 害 学 | 教育学修士 | | 71（16）※ 4 |
| | | 修士（教育学） | | 23（12）※ 4 |
| | | 修士（心身障害学） | | 48（22）※ 4 |
| 社 会 科 学 | 法 学 | 法学修士 | | 17（5）※ 2 |
| | | 修士（法学） | | 35（9）※ 14 |
| | 経 済 学 | 経済学修士 | | 12 ※ 2 |
| | | 修士（経済学） | | 21（7）※ 7 |
| | 社 会 学 | 社会学修士 | | 23（6）※ 8 |
| 修士（社会学） | | 37（12）※ 15 | | |
| 計 量 計 画 学 | 経済学修士 | | 2（1） | |
| 社 会 工 学 | 計 量 計 画 学 | 学術修士 | | 11 ※ 1 |
| | | 修士（社会経済） | | 19（2）※ 7 |
| | 経 営 工 学 | 学術修士 | | 19 ※ 5 |
| | | 修士（経営工学） | | 38（8）※ 15 |
| | 都 市・地 域 計 画 学 | 学術修士 | | 8（1）※ 1 |
| | | 修士（都市・地域計画） | | 32（5）※ 12 |
| | 社 会 経 済 シ ス テ ム | 修士（社会経済） | | 7 ※ 1 |
| | シ ス テ ム 情 報 数 理 | 修士（社会工学） | | 1 |
| | | 修士（数理工学） | | 12（1）※ 3 |
| | 都 市・環 境 シ ス テ ム | 修士（社会工学） | | 12（6） |
| 修士（都市・環境システム） | | | 7（1）※ 1 | |
| 計 量 ファ イ ナ ン ス ・ マ ネ ジ ム ン ト | 修士（社会工学） | | 3 | |
| | 修士（計量ファイナンス） | | 10（2）※ 2 | |
| 国 際 政 治 経 済 学 | 国 際 政 治 経 済 学 | 修士（国際政治経済学） | | 5（2）※ 3 |
| | | 修士（学術） | | 52（18）※ 34 |
| 生 物 科 学 | 生 物 学 | 修士（国際政治経済学） | | 57（24）※ 33 |
| | | 理学修士 | | 52（7）※ 4 |
| | | 修士（理学） | | 78（27）※ 1 |
| | 生 物 物 理 化 学 | 修士（生物科学） | | 6（1） |
| | | 理学修士 | | 74（16）※ 2 |
| | | 修士（理学） | | 113（44）※ 2 |
| 修士（生物科学） | | 1（1） | | |
| 農 学 | 農 林 学 | 農学修士 | | 64（2）※ 14 |
| | | 修士（農学） | | 122（29）※ 18 |
| | 農 林 工 学 | 農学修士 | | 47（1）※ 8 |
| | | 修士（農学） | | 80（15）※ 13 |
| 応 用 生 物 化 学 | 農学修士 | | 112（13）※ 10 | |
| | 修士（農学） | | 177（51）※ 12 | |
| 数 学 | 数 学 | 理学修士 | | 90（2）※ 2 |
| | | 修士（理学） | | 76（11）※ 2 |
| | | 修士（数学） | | 46（5） |
| 物 理 学 | 物 理 学 | 理学修士 | | 178（6）※ 1 |
| | | 修士（理学） | | 156（9） |
| | | 修士（物理学） | | 54（5） |
| 化 学 | 化 学 | 理学修士 | | 111（13）※ 4 |
| | | 修士（理学） | | 117（19）※ 1 |
| | | 修士（化学） | | 3（1） |
| 地 球 科 学 | 地 理 学・水 文 学 | 理学修士 | | 83（5）※ 15 |
| | | 修士（理学） | | 79（11）※ 2 |
| | | 修士（地球科学） | | 1 |

| 研究科 | 専攻 | 学位（専攻分野の名称） | 本年度授与者数 | 累 計 |
|---------------|---------|-------------|-----------------|----------------------|
| 地 球 科 学 | 地 質 学 | 理学修士 | | 42 (6) ※ 6 |
| | | 修士（理学） | | 74 (14) ※ 19 |
| | | 修士（地球科学） | | 1 |
| 工 学 | 物 理 工 学 | 工学修士 | | 53 |
| | | 修士（工学） | | 155 (4) ※ 1 |
| | 物 質 工 学 | 工学修士 | | 58 (4) |
| | | 修士（工学） | | 172 (10) ※ 2 |
| | 構 造 工 学 | 工学修士 | | 63 (1) |
| | | 修士（工学） | | 171 (7) ※ 3 |
| 知 能 機 能 工 学 | 修士（工学） | | 101 (4) ※ 1 | |
| 電 子 ・ 情 報 工 学 | 工学修士 | | 60 (1) ※ 2 | |
| | 修士（工学） | | 203 (11) ※ 9 | |
| 体 育 科 学 | 体 育 科 学 | 教育学修士 | | 96 (11) ※ 23 |
| | | 修士（体育科学） | | 118 (24) ※ 27 |
| 芸 術 学 | 芸 術 学 | 学術修士 | | 34 (15) ※ 2 |
| | | 修士（芸術学） | | 35 (22) ※ 5 |
| | | 修士（デザイン学） | | 23 (9) ※ 9 |
| 計 | | | 203 (100) ※ 28 | 7,715 (1,675) ※ 879 |

(注) 1. () は女子を, ※は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。

2. 平成3年7月以降の学位についてその種類が廃止され, 単に「修士」とすることとされた。

(エ) 論文博士学位授与者

(平成20年3月31日現在)

| | 学位(専攻分野の名称) | 本年度授与者数 | 累 計 |
|----------------|------------------|--------------|--------------------|
| 平成3年6月までの学位授与数 | 文学博士 | | 72 (4) ※ 11 |
| | 教育学博士 | | 86 (13) ※ 12 |
| | 法学博士 | | 1 |
| | 経済学博士 | | 2 |
| | 社会学博士 | | 2 (1) ※ 1 |
| | 理学博士 | | 290 (19) ※ 11 |
| | 農学博士 | | 67 (1) ※ 6 |
| | 工学博士 | | 33 (1) |
| | 学術博士 | | 22 (1) ※ 3 |
| | 医学博士 | | 122 (13) ※ 1 |
| 平成3年7月以降の学位授与数 | 博士(文学) | 14 (3) | 176 (32) ※ 16 |
| | 博士(言語学) | 6 ※ 1 | 46 (7) ※ 6 |
| | 博士(教育学) | 3 (1) | 89 (10) ※ 7 |
| | 博士(心理学) | 1 (1) | 66 (22) ※ 3 |
| | 博士(心身障害学) | | 26 (8) ※ 1 |
| | 博士(法学) | 1 | 18 (2) ※ 4 |
| | 博士(経済学) | | 9 |
| | 博士(社会学) | | 21 (9) ※ 2 |
| | 博士(社会工学) | | 2 |
| | 博士(社会経済) | | 11 ※ 1 |
| | 博士(経営工学) | | 6 (1) ※ 1 |
| | 博士(数理工学) | | 1 ※ 1 |
| | 博士(都市・地域計画) | | 4 (1) ※ 2 |
| | 博士(ファイナンス) | | 1 |
| | 博士(システムズ・マネジメント) | 1 (1) | 4 (1) |
| | 博士(国際政治経済学) | | 8 (7) ※ 5 |
| | 博士(理学) | 6 (2) ※ 2 | 232 (31) ※ 16 |
| | 博士(生物科学) | | 3 |
| | 博士(数学) | | 7 (2) |
| | 博士(物理学) | | 1 |
| | 博士(化学) | | 2 (1) |
| | 博士(地球科学) | | 1 ※ 1 |
| | 博士(農学) | 11 (4) ※ 2 | 173 (21) ※ 18 |
| | 博士(生物資源工学) | | 4 ※ 1 |
| | 博士(生物工学) | | 11 (3) ※ 2 |
| | 博士(工学) | 5 | 280 (22) ※ 30 |
| | 博士(生命共存科学) | 1 | 1 |
| | 博士(感性科学) | | 8 (2) ※ 1 |
| | 博士(行動科学) | 1 | 5 (1) |
| | 博士(スポーツ医学) | 1 | 6 (2) |
| | 博士(医学) | 7 (2) | 307 (52) ※ 6 |
| | 博士(体育科学) | 4 (1) | 67 (4) ※ 4 |
| 博士(ヒューマン・ケア科学) | | 3 (3) | |
| 博士(芸術学) | 3 | 19 (1) ※ 1 | |
| 博士(デザイン学) | 1 | 13 (2) ※ 1 | |
| 博士(学術) | 3 | 40 (9) ※ 5 | |
| 博士(図書館情報学) | | 2 (1) ※ 2 | |
| 博士(情報学) | 2 | 2 | |
| 合 計 | | 71 (15) ※ 5 | 2,372 (310) ※ 182 |

(注) 1. ()は女子を, ※は外国人をそれぞれ内数で示す。

2. 平成3年7月以降の学位についてその種類が廃止され, 単に「博士」とすることとされた。

(オ) 専門職課程修了者

(平成20年3月31日現在)

| 研究科 | 専攻 | 学位(専攻分野の名称) | 本年度修了者数 | 累計 |
|--------|---------------|-------------|----------|----------|
| ビジネス科学 | 国際経営プロフェッショナル | 国際経営修士(専門職) | 26(5)※6 | 30(6)※6 |
| | 法曹(法科大学院) | 法務博士(専門職) | 31(9)※ | 31(9) |
| 計 | | | 57(14)※6 | 61(15)※6 |

(注) () は女子を, ※は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。

(5) 特別支援学校教員資格認定試験

| 科目 | 受験者数 | 第1次試験 合格者数 | 第2次試験 合格者数 | 合格率 (%) |
|------------------|---------|---------------|---------------|------------|
| 自立活動 (視覚障害教育) | 75[8] | 22[8] | 9 | 12.0 |
| 自立活動 (言語障害教育) | 221[27] | 62[27] | 28 | 12.7 |
| 合計 | 296[35] | 84[35] | 37 | 12.5 |

(注) 1. [] は, 第1次試験免除者を内数で示す。

2. 試験日程等は, 次のとおりである。

第1次試験 8月19日(日) 場所 東京キャンパス

第2次試験 10月7日(日) 場所 東京キャンパス

最終合格発表 11月20日(火) 官報で公告

(6) 学生の身分異動

ア 学群

| 所 属 | | 休 学 | 退 学 | 除 籍 | 計 |
|-------------|---------------------|-----------|----------|-------|-----------|
| 第一学群 | 人 文 学 類 | 24 (15) | 4 (2) | | 28 (17) |
| | 社 会 学 類 | 27 (9) | 5 (2) | | 32 (11) |
| | 自 然 学 類 | 13 (3) | 9 (2) | 1 | 23 (5) |
| 第二学群 | 比 較 文 化 学 類 | 25 (18) | 4 (2) | 1 (1) | 30 (21) |
| | 日 本 語・日 本 文 化 学 類 | 11 (6) | 2 (2) | | 13 (8) |
| | 人 間 学 類 | 21 (12) | 5 (3) | | 26 (15) |
| | 生 物 学 類 | 8 (3) | 3 | | 11 (3) |
| | 生 物 資 源 学 類 | 17 (11) | 4 (2) | | 21 (13) |
| 第三学群 | 社 会 工 学 類 | 17 (2) | 3 | | 20 (2) |
| | 国 際 総 合 学 類 | 46 (31) | 5 (2) | | 51 (33) |
| | 情 報 学 類 | 10 (1) | 5 | | 15 (1) |
| | 工 学 シ ス テ ム 学 類 | 15 (2) | 8 | | 23 (2) |
| | 工 学 基 礎 学 類 | 7 | 7 | | 14 |
| 医 学 専 門 学 群 | | 4 (2) | 1 (1) | | 5 (3) |
| 門学専 学群 | 医 学 類 | 3 (1) | | | 3 (1) |
| | 看 護・医 療 科 学 類 | 8 (5) | 3 (2) | | 11 (7) |
| | 図 書 館 情 報 専 門 学 群 | 31 (15) | 11 (6) | | 42 (21) |
| 文化学 学群 | 人 文 学 類 | 3 (2) | 3 (2) | | 6 (4) |
| | 比 較 文 化 学 類 | 2 (2) | 1 (1) | 1 (1) | 4 (4) |
| | 日 本 語・日 本 文 化 学 類 | 1 | | | 1 |
| 国際社会 学群 | 社 会 学 類 | 1 | | | 1 |
| | 国 際 総 合 学 類 | | | | |
| 人間学 学群 | 教 育 学 類 | | | | |
| | 心 理 学 類 | | | | |
| | 障 害 科 学 類 | | | | |
| 生命環境 学群 | 生 物 学 類 | 2 (1) | 1 | | 3 (1) |
| | 生 物 資 源 学 類 | | | | |
| | 地 球 学 類 | | | | |
| 理工学 学群 | 数 学 類 | 1 | | | 1 |
| | 物 理 学 類 | | 1 | | 1 |
| | 化 学 類 | 1 | 1 | | 2 |
| | 応 用 理 工 学 類 | 4 | 3 (1) | | 7 (1) |
| | 工 学 シ ス テ ム 学 類 | | | | |
| | 社 会 工 学 類 | 1 | 1 | | 2 |
| 情報学 学群 | 情 報 科 学 類 | | 1 | | 1 |
| | 情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類 | | | | |
| | 知 識 情 報・図 書 館 学 類 | 2 | 1 | | 3 |
| 医学 学群 | 医 学 類 | 1 | | 1 | 2 |
| | 看 護 学 類 | | 1 (1) | | 1 (1) |
| | 医 療 科 学 類 | 1 | 1 | | 2 |
| 体 育 専 門 学 群 | | 12 (1) | 5 | 4 (2) | 21 (3) |
| 芸 術 専 門 学 群 | | 23 (16) | 3 (2) | 1 (1) | 27 (19) |
| 学 群 計 | | 342 (158) | 102 (33) | 9 (5) | 453 (196) |

(注) () は女子を内数で示す。

イ 大 学 院

| | | 休 学 | 退 学 | 除 籍 | 計 |
|-------------------------|---------------|-----------|----------|--------|-----------|
| 地 域 研 究 研 究 科 | 修 士 課 程 | 14 (9) | 6 (3) | | 20 (12) |
| 教 育 研 究 科 | 修 士 課 程 | 31 (20) | 9 (4) | 1 (0) | 41 (24) |
| 環 境 科 学 研 究 科 | 修 士 課 程 | 7 (2) | 5 (1) | 1 (1) | 13 (4) |
| 体 育 研 究 科 | 修 士 課 程 | 36 (9) | 6 (1) | 1 (0) | 43 (10) |
| 芸 術 研 究 科 | 修 士 課 程 | 18 (10) | 4 (3) | | 22 (13) |
| 小 計 (修士課程研究科) | | 106 (50) | 30 (12) | 3 (1) | 139 (63) |
| 人 文 社 会 科 学 研 究 科 | 一 貫 制 博 士 課 程 | 132 (70) | 59 (28) | 1 (0) | 192 (98) |
| ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科 | 博 士 前 期 課 程 | 29 (5) | 9 (0) | 1 (1) | 39 (6) |
| | 博 士 後 期 課 程 | 46 (6) | 16 (3) | | 62 (9) |
| | 専 門 職 学 位 課 程 | 20 (3) | 3 (0) | | 23 (3) |
| 数 理 物 質 科 学 研 究 科 | 一 貫 制 博 士 課 程 | 6 (1) | 10 (1) | | 16 (2) |
| | 博 士 前 期 課 程 | 7 (1) | 5 (1) | 1 (0) | 13 (2) |
| | 博 士 後 期 課 程 | 2 (0) | 6 (0) | | 8 (0) |
| シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科 | 一 貫 制 博 士 課 程 | 23 (6) | 10 (2) | 1 (0) | 34 (8) |
| | 博 士 前 期 課 程 | 24 (4) | 18 (3) | 2 (1) | 44 (8) |
| | 博 士 後 期 課 程 | 6 (3) | 7 (1) | 1 (1) | 14 (5) |
| 生 命 環 境 科 学 研 究 科 | 一 貫 制 博 士 課 程 | 28 (13) | 55 (16) | | 83 (29) |
| | 博 士 前 期 課 程 | 15 (7) | 18 (7) | | 33 (14) |
| | 博 士 後 期 課 程 | 18 (8) | 19 (4) | | 37 (12) |
| 人 間 総 合 科 学 研 究 科 | 一 貫 制 博 士 課 程 | 100 (50) | 59 (16) | 2 (1) | 161 (67) |
| | 修 士 課 程 | 4 (3) | 2 (1) | 1 (1) | 7 (5) |
| | 博 士 前 期 課 程 | 3 (3) | 0 (0) | | 3 (3) |
| | 博 士 後 期 課 程 | 2 (1) | 1 (1) | | 3 (2) |
| 図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科 | 博 士 前 期 課 程 | 10 (5) | 0 (0) | | 10 (5) |
| | 博 士 後 期 課 程 | 27 (15) | 8 (2) | | 35 (17) |
| 小 計 (博士課程研究科) | | 502 (204) | 305 (86) | 10 (5) | 817 (295) |
| 大 学 院 計 | | 608 (254) | 335 (98) | 13 (6) | 956 (358) |

(注) () は女子を内数で示す。

(7) 入学者選抜

ア 学 群

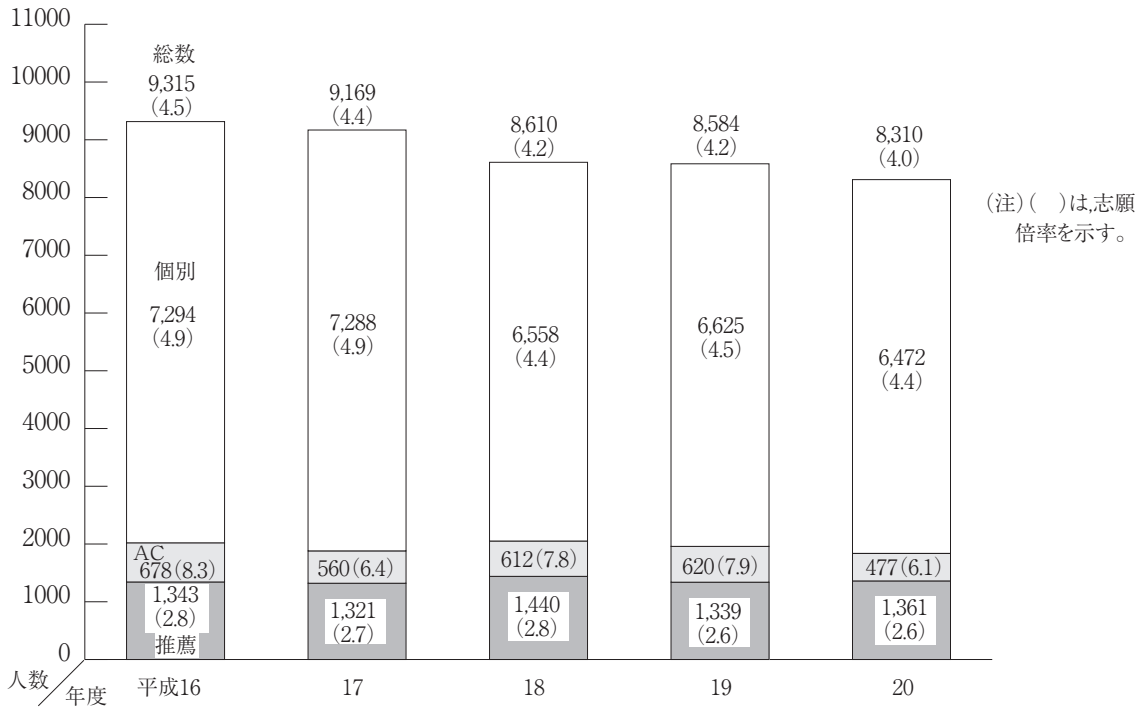
(ア) 平成20年度入学者選抜

(平成20年4月1日)

| 学群・学類 | 入学定員 | アドミッションセンター入試 | | | | 推薦入学 | | | | 個別学力検査等 | | | | 外国人留学生特別選抜 | | | 合格者数計 | 入学者数計 | | |
|---------|----------------|---------------|--------------|------------|------------|-----------|----------------|--------------|--------------|-------------|------------------|----------------|----------------|--------------|------------|------------|----------------|----------------|--------------|-----------|
| | | 募集人員 | 志願者数 | 合格者数 | 入学者数 | 募集人員 | 志願者数 | 合格者数 | 入学者数 | 募集人員 | 志願者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願者数 | 合格者数 | 入学者数 | | | | |
| 人文・文化学群 | 人文学類 | 120 | 5 | (15) 31 | (3) 4 | (3) 4 | 28 | (37) 61 | (20) 28 | (20) 28 | 87 | (204) 536 | (44) 108 | (38) 93 | (1) 1 | (0) 0 | (0) 0 | (67) 140 | (61) 125 | |
| | 比較文化学類 | 80 | 5 | (13) 21 | (1) 3 | (1) 3 | 20 | (46) 56 | (20) 21 | (20) 21 | 55 | (152) 247 | (51) 73 | (49) 69 | (3) 4 | (1) 1 | (1) 1 | (73) 98 | (71) 94 | |
| | 日本語・ 日本文化学類 | 40 | 2 | (8) 10 | (2) 2 | (1) 1 | 10 | (24) 29 | (10) 10 | (10) 10 | 28 | (97) 144 | (27) 39 | (22) 33 | (2) 4 | (0) 2 | (0) 1 | (39) 53 | (33) 45 | |
| | 計 | 240 | 12 | (36) 62 | (6) 9 | (5) 8 | 58 | (107) 146 | (50) 59 | (50) 59 | 170 | (453) 927 | (122) 220 | (109) 195 | (6) 9 | (3) 3 | (2) 2 | (179) 291 | (165) 264 | |
| 社会・国際学群 | 社会学類 | 80 | - | - | - | - | (25) 43 | (13) 16 | (13) 16 | | 64 | (196) 735 | (31) 91 | (27) 71 | (1) 3 | (0) 1 | (0) 1 | (44) 108 | (40) 88 | #(0) 1 |
| | 国際総合学類 | 80 | 4 | (14) 25 | (1) 2 | (1) 2 | 24 | (56) 69 | (19) 24 | (19) 24 | 52 | (139) 287 | (30) 64 | (26) 55 | (7) 11 | (0) 1 | (0) 1 | (50) 91 | (46) 82 | #(1) 1 |
| | 計 | 160 | 4 | (14) 25 | (1) 2 | (1) 2 | 40 | (81) 112 | (32) 40 | (32) 40 | 116 | (335) 1,022 | (61) 155 | (53) 126 | (8) 14 | (0) 2 | (0) 2 | (94) 199 | (86) 170 | #(1) 2 |
| 人間学群 | 教育学類 | 35 | 3 | (5) 9 | (1) 2 | (1) 2 | 7 | (8) 18 | (5) 9 | (5) 9 | 25 | (49) 108 | (14) 31 | (13) 29 | (1) 1 | (1) 0 | (0) 0 | (21) 43 | (19) 40 | |
| | 心理学類 | 50 | - | - | - | - | (37) 47 | (10) 12 | (9) 11 | | 38 | (96) 205 | (18) 43 | (18) 42 | (2) 5 | (0) 0 | (0) 0 | (28) 55 | (27) 53 | |
| | 障害科学類 | 35 | - | - | - | - | (19) 21 | (14) 15 | (14) 15 | | 20 | (38) 72 | (14) 25 | (13) 22 | (2) 2 | (0) 0 | (0) 0 | (28) 40 | (27) 37 | |
| | 計 | 120 | 3 | (5) 9 | (1) 2 | (1) 2 | 34 | (64) 86 | (29) 36 | (28) 35 | 83 | (183) 385 | (46) 99 | (44) 93 | (5) 8 | (1) 1 | (0) 0 | (77) 138 | (73) 130 | |
| 生命環境学群 | 生物学類 | 80 | 3 | (5) 18 | (1) 4 | (0) 3 | 20 | (13) 29 | (12) 20 | (12) 20 | 57 | (93) 277 | (23) 67 | (20) 60 | (2) 2 | (0) 2 | (0) 2 | (36) 93 | (32) 85 | #(1) 1 |
| | 生物資源学類 | 120 | 4 | (13) 31 | (1) 4 | (1) 4 | 33 | (42) 71 | (25) 34 | (25) 34 | 83 | (175) 429 | (51) 101 | (46) 95 | (3) 4 | (1) 1 | (1) 1 | (78) 140 | (73) 134 | |
| | 地球学類 | 50 | 3 | (3) 9 | (1) 4 | (1) 4 | 12 | (15) 32 | (7) 12 | (7) 12 | 35 | (32) 109 | (14) 43 | (14) 41 | (2) 2 | (0) 0 | (0) 0 | (22) 59 | (22) 57 | |
| | 計 | 250 | 10 | (21) 58 | (3) 12 | (2) 11 | 65 | (70) 132 | (44) 66 | (44) 66 | 175 | (300) 815 | (88) 211 | (80) 196 | (7) 13 | (1) 3 | (1) 3 | (136) 292 | (127) 276 | #(1) 1 |
| 理工学群 | 数学類 | 40 | 若干名 | (1) 10 | (0) 3 | (0) 3 | 10 | (6) 28 | (4) 13 | (4) 13 | 30 | (7) 80 | (2) 35 | (2) 33 | (0) 0 | (-) - | (-) - | (6) 51 | (6) 49 | |
| | 物理学類 | 60 | 若干名 | (0) 5 | (0) 2 | (0) 2 | 15 | (2) 30 | (0) 16 | (0) 16 | 45 | (16) 142 | (4) 50 | (4) 47 | (0) 1 | (0) 0 | (0) 0 | (4) 68 | (4) 65 | #(0) 2 |
| | 化学類 | 50 | 若干名 | (1) 7 | (0) 1 | (0) 1 | 15 | (12) 29 | (8) 17 | (8) 17 | 35 | (30) 115 | (10) 42 | (10) 41 | (3) 3 | (1) 1 | (1) 1 | (19) 61 | (19) 60 | #(0) 1 |
| | 応用理工学類 | 120 | 4 | (1) 8 | (0) 1 | (0) 1 | 16 | (3) 19 | (3) 16 | (3) 16 | 100 | (45) 364 | (13) 123 | (13) 116 | (0) 3 | (0) 0 | (0) 0 | (16) 140 | (16) 133 | #(0) 1 |
| | 工学システム学類 | 130 | 10 | (6) 49 | (4) 5 | (3) 4 | 20 | (6) 57 | (2) 22 | (2) 22 | 100 | (31) 436 | (7) 126 | (7) 118 | (2) 12 | (1) 5 | (1) 3 | (14) 158 | (13) 147 | #(1) 4 |
| | 社会工学類 | 120 | 5 | (3) 11 | (1) 3 | (1) 3 | 20 | (10) 37 | (8) 23 | (8) 23 | 95 | (33) 298 | (13) 122 | (11) 107 | (12) 16 | (4) 4 | (4) 4 | (26) 152 | (24) 137 | |
| | 計 | 520 | 19 | (12) 90 | (5) 15 | (4) 14 | 96 | (39) 200 | (25) 107 | (25) 107 | 405 | (162) 1,435 | (49) 498 | (47) 462 | (17) 35 | (6) 10 | (6) 8 | (85) 630 | (82) 591 | #(1) 8 |
| 情報学群 | 情報科学類 | 80 | 8 | (1) 21 | (0) 7 | (0) 7 | 12 | (5) 21 | (5) 13 | (5) 13 | 60 | (12) 201 | (2) 74 | (2) 68 | (2) 10 | (1) 3 | (2) 2 | (8) 97 | (7) 90 | #(0) 1 |
| | 情報メディア創成学類 | 50 | 4 | (1) 15 | (0) 4 | (0) 4 | 8 | (4) 21 | (2) 9 | (2) 9 | 38 | (33) 147 | (9) 45 | (9) 43 | (2) 5 | (2) 2 | (2) 2 | (13) 60 | (13) 58 | |
| | 知識情報・図書館学類 | 100 | 5 | (15) 24 | (2) 2 | (2) 2 | 20 | (50) 67 | (20) 20 | (20) 20 | 75 | (140) 258 | (50) 87 | (45) 78 | (0) 2 | (0) 0 | (0) 0 | (72) 109 | (67) 100 | |
| | 計 | 230 | 17 | (17) 60 | (2) 13 | (2) 13 | 40 | (59) 109 | (27) 42 | (27) 42 | 173 | (185) 606 | (61) 206 | (56) 189 | (4) 17 | (3) 5 | (2) 4 | (93) 266 | (87) 248 | #(0) 1 |
| 医学群 | 医学類 | 95 | - | - | - | - | (88) 196 | (14) 35 | (14) 35 | | 60 | (121) 344 | (15) 62 | (14) 60 | (0) 2 | (0) 0 | (0) 0 | (29) 97 | (28) 95 | |
| | 看護学類 | 70 | - | - | - | - | (45) 47 | (20) 20 | (20) 20 | | 50 | (111) 118 | (54) 56 | (51) 52 | (0) - | (-) - | (-) - | (74) 76 | (71) 72 | |
| | 医療科学類 | 37 | - | - | - | - | (31) 38 | (10) 12 | (10) 12 | | 25 | (72) 135 | (14) 29 | (12) 26 | (1) 1 | (0) 0 | (0) 0 | (24) 41 | (22) 38 | |
| | 計 | 202 | - | - | - | - | (164) 281 | (44) 67 | (44) 67 | | 135 | (304) 597 | (83) 147 | (77) 138 | (1) 3 | (0) 0 | (0) 0 | (127) 214 | (121) 205 | |
| 体育専門学群 | 240 | 8 | (40) 100 | (5) 11 | (5) 11 | 84 | (58) 135 | (34) 86 | (34) 86 | 148 | (95) 490 | (28) 154 | (26) 150 | (0) 2 | (0) 0 | (0) 0 | (67) 251 | (65) 247 | | |
| 芸術専門学群 | 100 | 5 | (57) 73 | (2) 4 | (2) 4 | 35 | (136) 160 | (33) 38 | (33) 38 | 60 | (134) 195 | (54) 73 | (48) 66 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 | (90) 116 | (84) 109 | | |
| 合計 | 2,062 | 78 | (202) 477 | (25) 68 | (22) 65 | 519 | (778) 1,361 | (318) 541 | (317) 540 | 1,465 | (2,151) 6,472 | (592) 1,763 | (540) 1,615 | (49) 102 | (13) 25 | (11) 20 | (948) 2,397 | (890) 2,240 | #(3) 12 | |
| 前年度合計 | 2,062 | 78 | (297) 624 | (39) 80 | (39) 79 | 514 | (791) 1,339 | (318) 569 | (317) 568 | 1,470 | (2,336) 6,625 | (611) 1,740 | (557) 1,575 | (53) 99 | (24) 34 | (19) 27 | (992) 2,423 | (932) 2,249 | #(7) 17 | |

(注) 1. ()内は、女子を内数で、入学者数欄中#は国費、外国政府派遣または日韓共同理工系留学生を外数で示す。
 2. アドミッションセンター入試(第Ⅱ期)(平成20年8月入学)において、工学システム学類で若干名の募集を行う。

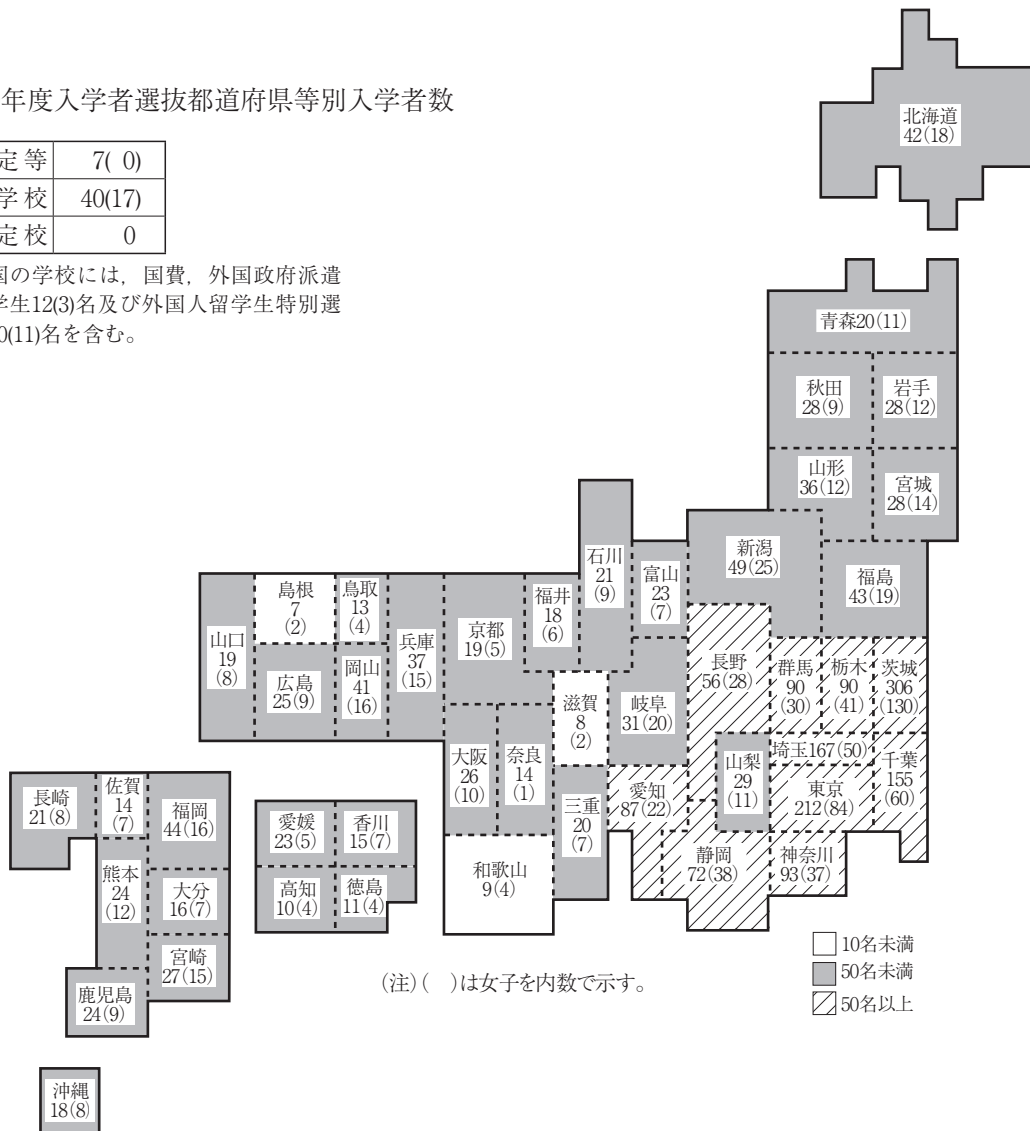
(イ) 志願者の推移



(ウ) 平成20年度入学者選抜都道府県等別入学者数

| | |
|-------|--------|
| 高卒認定等 | 7 (0) |
| 外国の学校 | 40(17) |
| 在外指定校 | 0 |

(注) 外国の学校には、国費、外国政府派遣留学生12(3)名及び外国人留学生特別選抜20(11)名を含む。



(エ) 平成20年度編入学・再入学・帰国生徒特別選抜

(平成20年4月1日)

| 学群 | 学 類 | 編 入 学 | | | 再 入 学 | | | 帰国生徒特別選抜 | | |
|-----------|-------------------|-----------|----------|----------|-------|-------|-------|----------|-------|-------|
| | | 志願者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願者数 | 合格者数 | 入学者数 |
| 第一 | 人 文 学 類 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 社 会 学 類 | 72 (34) | 12 (8) | 11 (7) | - | - | - | - | - | - |
| | 自 然 学 類 | 34 (8) | 15 (2) | 11 (2) | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) | - | - | - |
| | 小 計 | 106 (42) | 27 (10) | 22 (9) | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) | - | - | - |
| 第二 | 比 較 文 化 学 類 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 日 本 語・日 本 文 化 学 類 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 人 間 学 類 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 生 物 学 類 | 3 (2) | 1 (0) | 1 (0) | - | - | - | - | - | - |
| | 生 物 資 源 学 類 | 34 (10) | 13 (2) | 12 (2) | - | - | - | - | - | - |
| | 小 計 | 37 (12) | 14 (2) | 13 (2) | - | - | - | - | - | - |
| 第三 | 社 会 工 学 類 | 31 (4) | 9 (0) | 7 (0) | - | - | - | - | - | - |
| | 国 際 総 合 学 類 | 3 (2) | 1 (0) | 1 (0) | - | - | - | - | - | - |
| | 情 報 学 類 | 100 (6) | 29 (3) | 22 (1) | - | - | - | - | - | - |
| | 工 学 シ ス テ ム 学 類 | 126 (2) | 28 (0) | 22 (0) | - | - | - | - | - | - |
| | 工 学 基 礎 学 類 | 40 (4) | 24 (0) | 20 (0) | - | - | - | - | - | - |
| | 小 計 | 300 (18) | 91 (3) | 72 (1) | - | - | - | - | - | - |
| 医学 | 医 学 類 | 173 (61) | 10 (2) | 5 (0) | - | - | - | - | - | - |
| | 小 計 | 173 (61) | 10 (2) | 5 (0) | - | - | - | - | - | - |
| 医学専門 | 看 護・医 療 (看 護) | 57 (55) | 11 (11) | 10 (10) | - | - | - | - | - | - |
| | 看 護・医 療 (医 療) | 10 (10) | 3 (3) | 3 (3) | - | - | - | - | - | - |
| | 小 計 | 67 (65) | 14 (14) | 13 (13) | - | - | - | - | - | - |
| 体育専門学群 | | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 芸術専門学群 | | - | - | - | - | - | - | 10 (6) | 5 (2) | 4 (2) |
| 図書館情報専門学群 | | 81 (27) | 35 (11) | 31 (10) | - | - | - | - | - | - |
| | 合 計 | 764 (225) | 191 (42) | 156 (35) | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 10 (6) | 5 (2) | 4 (2) |

(注) 1. () は女子を内数で示す。

2. 編入学とは大学等に2年以上在学した者で2・3年次に入学, 再入学とは本学退学者で退学時年次又は引続年次に入学する者である。

3. 医学群医学類の編入学は学士の学位を有する者で2年次第1学期に入学する者である。

4. 帰国生徒特別選抜とは, 海外帰国生徒 (海外で2年以上継続在学) の特別選抜を行い4月に入学する者である。

(オ) 平成19年度 第2学期推薦入学・アドミッションセンター入試 (第Ⅱ期)

(平成19年8月1日)

| 学群 | 学 類 | 第2学期推薦入学 | | | アドミッションセンター入試(第Ⅱ期) | | |
|--------|---------------------|----------|---------|---------|--------------------|-------|-------|
| | | 志願者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願者数 | 合格者数 | 入学者数 |
| 人文・文化 | 人 文 学 類 | 0 (0) | - | - | - | - | - |
| | 比 較 文 化 学 類 | 9 (4) | 4 (2) | 3 (1) | - | - | - |
| | 日 本 語・日 本 文 化 学 類 | 0 (0) | - | - | - | - | - |
| | 小 計 | 9 (4) | 4 (2) | 3 (1) | - | - | - |
| 社会・国際 | 社 会 学 類 | 4 (1) | 4 (1) | 4 (1) | - | - | - |
| | 国 際 総 合 学 類 | 7 (3) | 4 (3) | 4 (3) | - | - | - |
| | 小 計 | 11 (4) | 8 (4) | 8 (4) | - | - | - |
| 人間 | 教 育 学 類 | 1 (0) | 0 (0) | 0 (0) | - | - | - |
| | 心 理 学 類 | 6 (5) | 3 (3) | 3 (3) | - | - | - |
| | 障 害 科 学 学 類 | 0 (0) | - | - | - | - | - |
| | 小 計 | 7 (5) | 3 (3) | 3 (3) | - | - | - |
| 生命環境 | 生 物 学 類 | 3 (2) | 2 (2) | 2 (2) | - | - | - |
| | 生 物 資 源 学 類 | 2 (0) | 0 (0) | 0 (0) | - | - | - |
| | 地 球 学 類 | 0 (0) | - | - | - | - | - |
| | 小 計 | 5 (2) | 2 (2) | 2 (2) | - | - | - |
| 理工 | 数 学 類 | 0 (0) | - | - | - | - | - |
| | 物 理 学 類 | 0 (0) | - | - | - | - | - |
| | 化 学 類 | 0 (0) | - | - | - | - | - |
| | 応 用 理 工 学 類 | 0 (0) | - | - | - | - | - |
| | 工 学 シ ス テ ム 学 類 | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 4 (0) | 1 (0) | 1 (0) |
| | 社 会 工 学 類 | 2 (1) | 2 (1) | 2 (1) | - | - | - |
| | 小 計 | 3 (1) | 3 (1) | 3 (1) | 4 (0) | 1 (0) | 1 (0) |
| 情報 | 情 報 科 学 類 | 2 (1) | 0 (0) | 0 (0) | - | - | - |
| | 情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類 | 0 (0) | - | - | - | - | - |
| | 知 識 情 報・図 書 館 学 類 | 0 (0) | - | - | - | - | - |
| | 小 計 | 2 (1) | 0 (0) | 0 (0) | - | - | - |
| 医学 | 医 学 類 | - | - | - | - | - | - |
| | 看 護 学 類 | - | - | - | - | - | - |
| | 医 療 科 学 類 | - | - | - | - | - | - |
| | 小 計 | - | - | - | - | - | - |
| 体育専門学群 | | 10 (4) | 3 (2) | 3 (2) | - | - | - |
| 芸術専門学群 | | - | - | - | - | - | - |
| | 合 計 | 47 (21) | 23 (14) | 22 (13) | 4 (0) | 1 (0) | 1 (0) |

(注) 1. () は女子を内数で示す。

2. 第2学期推薦入学とは, 海外帰国生徒 (海外で2年以上継続在学) の推薦入学選抜を行い, 第2学期に入学する者である。

イ 大 学 院

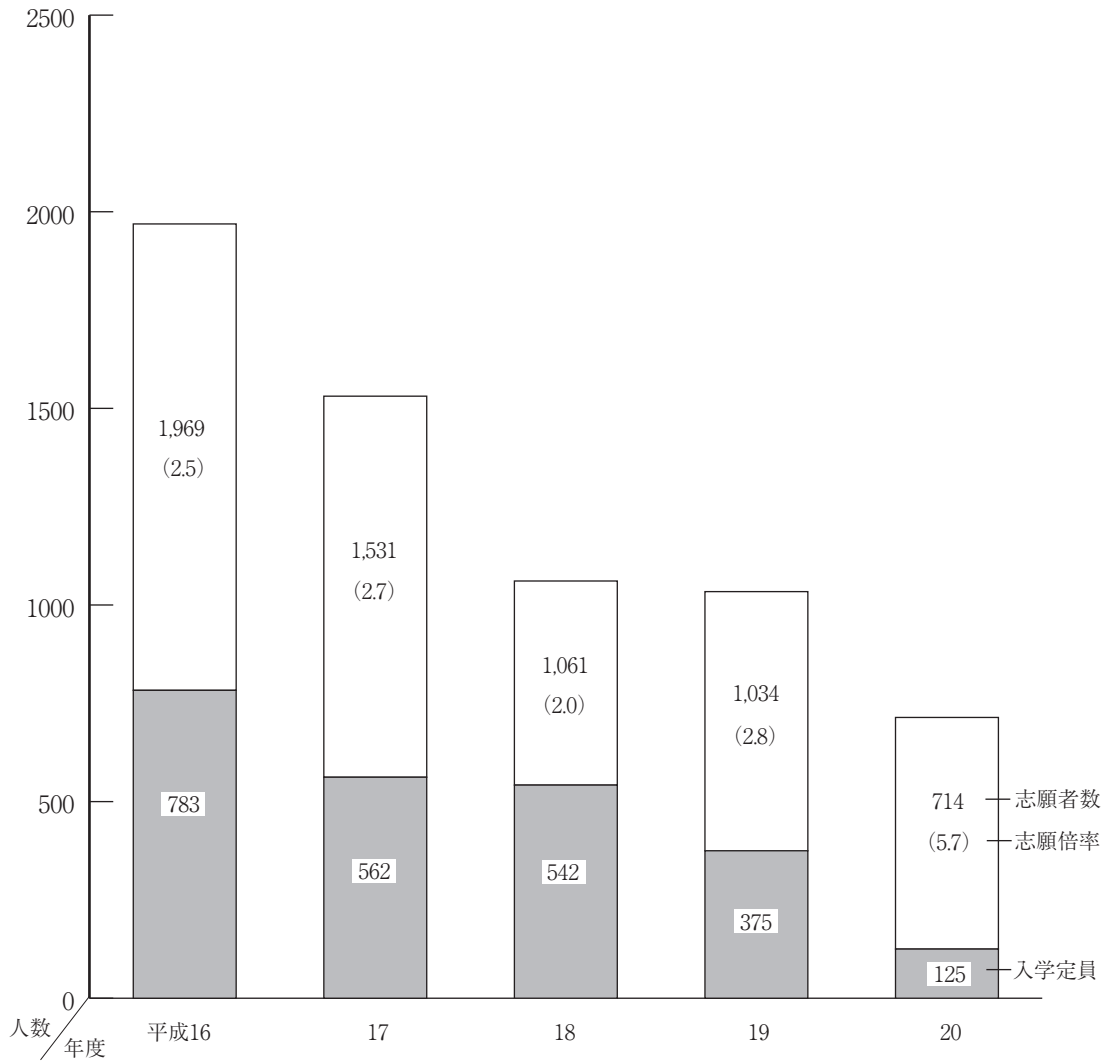
(ア) 平成20年度修士課程研究科入学者選抜

(平成20年4月1日現在)

| 課程 | 研究科 | 専攻 | 定員 | 志願者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 受験者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 合格者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 入学者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | |
|-------------|---------|--------------------|---------------|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|---|
| 修 | 地 域 研 究 | 地域研究 | 50 | 64 | 47 | 27 | 60 | 43 | 26 | 49 | 36 | 21 | 41 | 30 | 18 | |
| | | 教 育 | 障害児教育 | 35 | 61 | 35 | 6 | 58 | 32 | 5 | 34 | 18 | 4 | 31 | 17 | 4 |
| | | | 社会人特別選抜 | | 8 | 5 | | 8 | 5 | | 5 | 4 | | 5 | 4 | |
| | | | スクールリーダーシップ開発 | 20 | 19 | 7 | 1 | 19 | 7 | 1 | 13 | 6 | 1 | 12 | 5 | 1 |
| | | | 社会人特別選抜 | | 5 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 | 4 | 2 | |
| | | | 教科教育 | 80 | 92 | 30 | | 84 | 27 | | 72 | 22 | | 61 | 19 | |
| | | | 社会人特別選抜 | | 16 | 7 | 2 | 16 | 7 | 2 | 13 | 6 | 2 | 13 | 6 | 2 |
| | | | 特別支援教育 | *15 | 8 | 3 | | 8 | 3 | | 4 | 2 | | 3 | 1 | |
| | | | 社会人特別選抜 | | 8 | 6 | | 8 | 6 | | 7 | 5 | | 7 | 5 | |
| | | | ※カウンセリング | 46 | 156 | 100 | | 152 | 98 | | 48 | 32 | | 46 | 31 | |
| | | 小 計 | 196 | 373 | 196 | 10 | 358 | 188 | 9 | 201 | 98 | 8 | 182 | 90 | 7 | |
| 士 | 体 育 | スポーツ科学 | 100 | 175 | 50 | 5 | 170 | 47 | 5 | 110 | 28 | 4 | 101 | 26 | 4 | |
| | | 社会人特別選抜 | 20 | 41 | 12 | 14 | 40 | 12 | 14 | 22 | 5 | 5 | 21 | 5 | 5 | |
| | | ※スポーツ健康システム・マネジメント | 24 | 61 | 27 | | 59 | 25 | | 27 | 14 | | 26 | 13 | | |
| | | 小 計 | 144 | 277 | 89 | 19 | 269 | 84 | 19 | 159 | 47 | 9 | 148 | 44 | 9 | |
| 修 士 課 程 合 計 | | | 390 | 714 | 332 | 56 | 687 | 315 | 54 | 409 | 181 | 38 | 371 | 164 | 34 | |

- (注) 1. 地域研究研究科の入学定員には、国際関係論短期特別プログラム（募集人員5名、4月上旬合格発表、8月1日入学予定）を含む。また、同研究科の入学定員は、大学院の改組・再編により、人文社会科学研究科に移行。
2. 教育研究科の定員には、現職教員1年制プログラムを含む。また、同研究科障害児教育専攻の入学定員は、大学院の改組・再編により、新設される特別支援教育専攻及び人間総合科学研究科に移行。カウンセリング専攻の入学定員は、大学院の改組・再編により、人間総合科学研究科に移行。
3. 体育研究科の入学定員は、大学院の改組・再編により、人間総合科学研究科に移行。
4. *印を付した専攻の定員は、募集人員を示す。
5. ※は、専ら夜間において教育を行う課程。

〔修士課程志願者数の推移〕



※博士前期課程を除く。

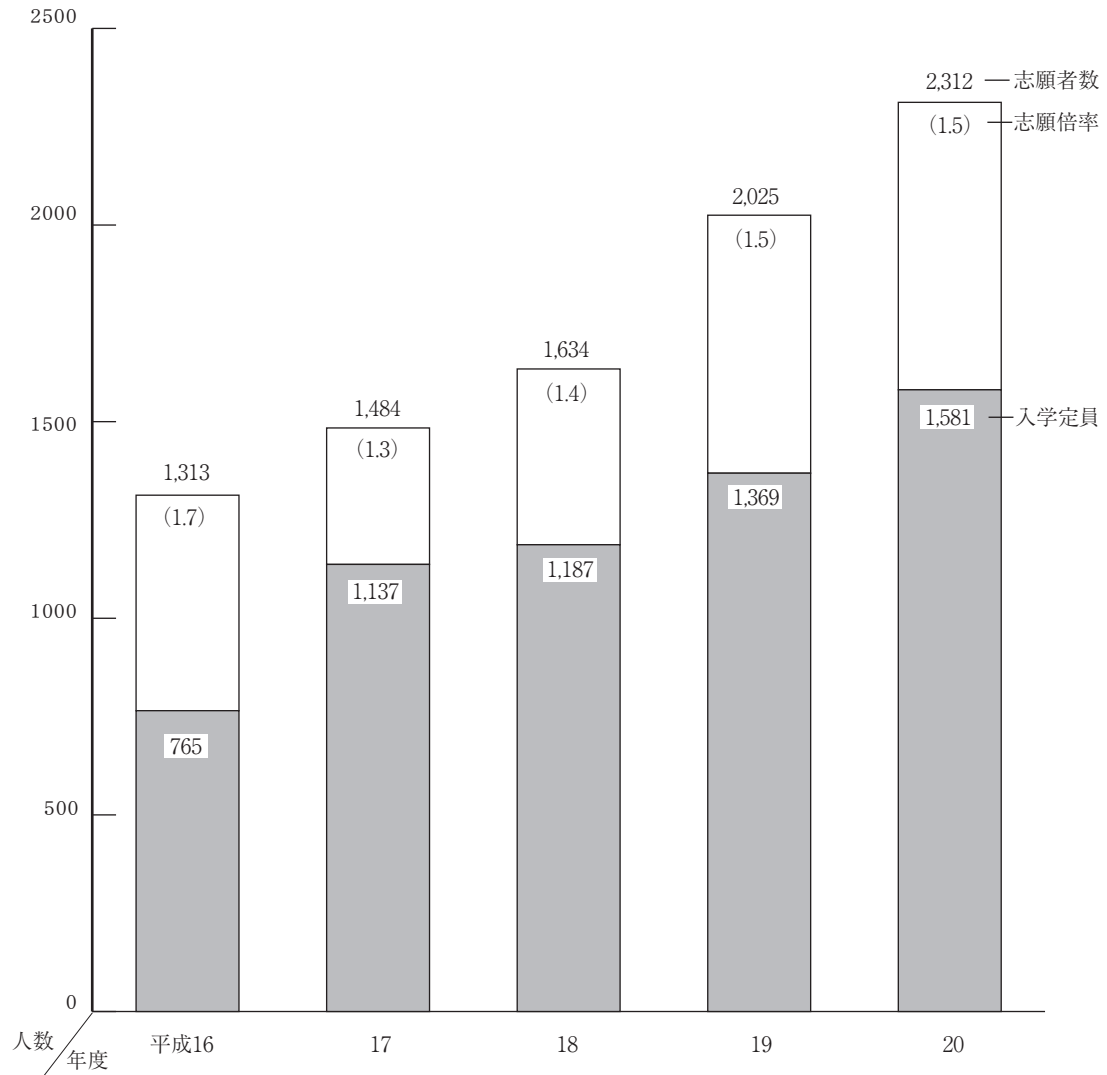
(イ) 平成20年度博士課程研究科入学者選抜 (一貫)

(平成20年4月1日現在)

| 課程 | 研究科 | 専攻 | 定員 | 志願者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 受験者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 合格者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 入学者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | |
|------------------|------------------|-----------|-------------|---------|--------|----------|---------|--------|----------|---------|--------|----------|---------|--------|----------|----|
| 博 士 一 貫 | 人文社会科学 | 哲学・思想 | 6 | 12 | 2 | 1 | 11 | 1 | 1 | 7 | 1 | 1 | 6 | 1 | 1 | |
| | | 歴史・人類学 | 14 | 18 | 4 | | 15 | 4 | | 13 | 4 | | 12 | 4 | | |
| | | 文芸・言語 | 20 | 33 | 16 | 12 | 33 | 16 | 12 | 21 | 10 | 6 | 21 | 10 | 6 | |
| | | 現代文化・公共政策 | 14 | 16 | 8 | 4 | 16 | 8 | 4 | 14 | 6 | 3 | 11 | 5 | 2 | |
| | | 社会科学 | 13 | 8 | 5 | 3 | 8 | 5 | 3 | 5 | 4 | 2 | 5 | 4 | 2 | |
| | | 国際政治経済学 | 10 | 8 | 6 | 6 | 8 | 6 | 6 | 4 | 2 | 2 | 4 | 2 | 2 | |
| | 小計 | | | 77 | 95 | 41 | 26 | 91 | 40 | 26 | 64 | 27 | 14 | 59 | 26 | 13 |
| | 生命環境科学 | 生命共存科学 | | 21 {1} | 16 | 4 | | 16 | 4 | | 16 | 4 | | 16 | 4 | |
| | 博 士 一 貫 | 人間総合科学 | 心理学 | 8 | 12 | 6 | | 12 | 6 | | 5 | 3 | | 4 | 2 | |
| | | | ヒューマン・ケア科学 | 22 | 57 | 44 | 1 | 57 | 44 | 1 | 17 | 16 | 1 | 16 | 15 | 1 |
| | | | 感性認知脳科学 | 13 {1} | 22 {3} | 12 | 5 | 22 {3} | 12 | 5 | 17 {3} | 10 | 4 | 14 {3} | 9 | 4 |
| | | | スポーツ医学 | 8 | 19 | 9 | 7 | 18 | 8 | 7 | 15 | 7 | 4 | 14 | 6 | 4 |
| | | | 先端応用医学 | 15 {1} | 12 | 3 | 2 | 12 | 3 | 2 | 11 | 3 | 2 | 10 | 3 | |
| | | | 分子情報・生体統御医学 | 15 {1} | 7 | 3 | | 7 | 3 | | 7 | 3 | | 6 | 2 | |
| | | | 病態制御医学 | 11 {2} | 8 | 3 | | 8 | 3 | | 7 | 2 | | 7 | 2 | |
| | | | 機能制御医学 | 8 {1} | 1 {1} | | | 1 {1} | | | 1 {1} | | | 1 {1} | | |
| 社会環境医学 | | | 13 {2} | 14 {2} | 7 | 2 | 13 {2} | 6 | 1 | 12 {2} | 6 | 1 | 12 {2} | 6 | 1 | |
| 生命システム医学 | | | *若干名 | 5 | | | 5 | | | 4 | | | 3 | | | |
| 昼夜開講制 | | | | 4 | 3 | | 4 | 3 | | 4 | 3 | | 4 | 3 | | |
| 疾患制御医学 | | | *若干名 | 10 | 6 | 2 | 10 | 6 | 2 | 10 | 6 | 2 | 9 | 6 | 1 | |
| 昼夜開講制 | | | | 14 | 3 | 1 | 14 | 3 | 1 | 14 | 3 | 1 | 14 | 3 | 1 | |
| 体育科学 | | 20 | 8 | 1 | | 8 | 1 | | 6 | 1 | | 6 | 1 | | | |
| 小計 | | | {8} | 193 {6} | 100 | 20 | 191 {6} | 98 | 19 | 130 {6} | 63 | 15 | 120 {6} | 58 | 12 | |
| 一貫制博士課程合計 | | | 98 {9} | 304 {6} | 145 | 46 | 298 {6} | 142 | 45 | 210 {6} | 94 | 29 | 195 {6} | 88 | 25 | |

- (注) 1. 人文社会科学研究科現代文化・公共政策専攻, 社会科学専攻, 国際政治経済学専攻の入学定員は, 大学院の改組・再編により同研究科博士前期課程へ移行。
2. 人間総合科学研究科心理学専攻, ヒューマン・ケア科学専攻, 感性認知脳科学専攻, スポーツ医学専攻, 体育科学専攻の入学定員は, 大学院の改組・再編により同研究科博士前期課程へ移行。
また, 同研究科先端応用医学専攻, 分子情報・生体統御医学専攻, 病態制御医学専攻, 機能制御医学専攻, 社会環境医学専攻の入学定員は, 大学院の改組・再編により同研究科生命システム医学専攻, 疾患制御医学専攻へ移行。
3. { } 内は, 連携大学院方式を内数で示す。
4. *印を付した専攻の定員は, 募集人員を示す。
5. 人間総合科学研究科生命システム医学専攻(昼夜開講制除く)及び疾患制御医学専攻(昼夜開講制除く)の志願者数, 受験者数, 合格者数, 入学者数欄には, ダブルメジャープログラムを含む。

〔博士課程志願者数の推移〕



※後期3年制博士課程及び博士後期課程を除く。

平成16年度より、大学院学則に基づく博士前期課程を含むものとした。

平成18年度より、人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻を含むものとした。

(ウ) 平成20年度博士課程研究科入学者選抜 (第3年次編入学)

(平成20年4月1日現在)

| 課程 | 研究科 | 専攻 | 定員 | 志願者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 受験者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 合格者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 入学者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 |
|--------------|--------|--------|----|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|
| 博士 3 編 | 人文社会科学 | 哲学・思想 | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | 1 | | |
| | | 歴史・人類学 | | 7 | 2 | | 5 | 2 | | 5 | 2 | | 5 | 2 | |
| | | 文芸・言語 | | 7 | 5 | 5 | 7 | 5 | 5 | 3 | 3 | 2 | 3 | 3 | 2 |
| | 小計 | | | 15 | 7 | 5 | 13 | 7 | 5 | 9 | 5 | 2 | 9 | 5 | 2 |
| | 生命環境科学 | 生命共存科学 | | 4 | 0 | 2 | 2 | 4 | 0 | 2 | 2 | 4 | 0 | 2 | 2 |
| 第3年次編入学合計 | | | 19 | 0 | 9 | 7 | 17 | 0 | 9 | 7 | 13 | 0 | 7 | 4 | |

(注) 1. | | 内は、連携大学院方式を内数で示す。

2. 第3年次編入学については、若干名で募集。

(エ) 平成20年度博士前期課程研究科入学者選抜 (前期課程)

(平成20年4月1日現在)

| 課程 | 研究科 | 専攻 | 定員 | 志願者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 受験者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 合格者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 入学者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 |
|---|-----------------|-----------|-------|-------|------|----------|-------|------|----------|-------|------|----------|-------|------|----------|
| 博 士 前 期 | 人文社会科学 | 現代語・現代文化 | *6 | 7 | 6 | 2 | 7 | 6 | 2 | 3 | 3 | 1 | 2 | 2 | 1 |
| | | 国際公共政策 | 15 | 17 | 7 | 5 | 16 | 6 | 5 | 10 | 5 | 3 | 8 | 5 | 3 |
| | | 経済学 | *6 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | | 法学 | 7 | 3 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | | 国際地域研究 | *5 | 19 | 15 | 15 | 19 | 15 | 15 | 17 | 14 | 13 | 17 | 14 | 13 |
| | 小計 | | 39 | 48 | 31 | 25 | 47 | 30 | 25 | 32 | 24 | 19 | 29 | 23 | 19 |
| | ビジネス科学 | ※経営システム科学 | 30 | 128 | 26 | | 126 | 26 | | 33 | 9 | | 28 | 7 | |
| | | ※企業法学 | 30 | 51 | 11 | | 49 | 11 | | 39 | 8 | | 32 | 6 | |
| | | 小計 | | 60 | 179 | 37 | | 175 | 37 | | 72 | 17 | | 60 | 13 |
| | 数理物質科学 | 数学 | 23 | 45 | 6 | 4 | 43 | 6 | 4 | 31 | 4 | 2 | 26 | 3 | 2 |
| | | 社会人特別選抜 | 1 | 1 | | | 1 | | | 0 | | | | | |
| | | 物理学 | 39 | 86 | 15 | 5 | 83 | 15 | 5 | 66 | 13 | 2 | 45 | 11 | 1 |
| | | 社会人特別選抜 | 1 | 0 | | | | | | | | | | | |
| | | 化学 | 32 | 43 | 10 | | 41 | 9 | | 40 | 9 | | 31 | 7 | |
| | | 社会人特別選抜 | 2 | 0 | | | | | | | | | | | |
| | | 物質創成先端科学 | 36 | 45 | 10 | 3 | 43 | 9 | 3 | 37 | 7 | 1 | 35 | 7 | 1 |
| | | 社会人特別選抜 | 2 | 1 | | 1 | 0 | | | | | | | | |
| | | 電子・物理工学 | 48 | 54 | 1 | | 52 | 1 | | 50 | 1 | | 46 | 1 | |
| | | 社会人特別選抜 | 2 | 0 | | | | | | | | | | | |
| 物性・分子工学 | 52 | 56 | 3 | 2 | 56 | 3 | 2 | 53 | 3 | 2 | 51 | 3 | 2 | | |
| 社会人特別選抜 | 2 | 1 | | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | |
| 小計 | | 240 | 332 | 45 | 15 | 320 | 43 | 14 | 278 | 37 | 7 | 235 | 32 | 6 | |
| シ ス テ ム 工 学 | 社会システム工学 | 55 | 76 | 19 | 11 | 73 | 19 | 11 | 60 | 16 | 9 | 55 | 14 | 6 | |
| | 経営・政策科学 | 53 | 81 | 30 | 47 | 78 | 28 | 46 | 60 | 20 | 33 | 55 | 20 | 32 | |
| | 社会人特別選抜 | 若干名 | 4 | | 4 | 4 | | 4 | 4 | | 4 | 4 | | 4 | |
| | リスク工学 | 28 | 46 | 4 | 4 | 45 | 4 | 4 | 38 | 3 | 3 | 32 | 3 | 3 | |
| | 社会人特別選抜 | 2 | 1 | | | 1 | | 1 | | | 1 | | | | |
| | コンピュータサイエンス | 81 | 161 | 17 | 26 | 149 | 16 | 26 | 124 | 12 | 15 | 111 | 12 | 13 | |
| | 社会人特別選抜 | 2 | 3 | | 1 | 3 | | 1 | 3 | | 1 | 3 | | 1 | |
| | 知能機能システム | 70 | 162 | 11 | 13 | 154 | 10 | 13 | 130 | 9 | 12 | 119 | 9 | 11 | |
| | 社会人特別選抜 | 2 | 1 | | | 1 | | 1 | | | 1 | | | | |
| | 構造エネルギー工学 | 66 | 104 | 5 | 1 | 96 | 3 | 1 | 91 | 3 | 1 | 73 | 2 | 1 | |
| 社会人特別選抜 | 2 | 2 | | 1 | 2 | | 1 | 2 | | 1 | 2 | | 1 | | |
| 小計 | | 361 | 641 | 86 | 108 | 606 | 80 | 107 | 514 | 63 | 79 | 456 | 60 | 72 | |
| 生 命 環 境 科 学 | 地球科学 | 39 | 51 | 14 | 3 | 50 | 13 | 3 | 44 | 13 | 3 | 35 | 11 | 2 | |
| | 生物科学 | 47 | 50 | 17 | 5 | 49 | 17 | 5 | 44 | 16 | 3 | 40 | 15 | 3 | |
| | 社会人特別選抜 | 2 | 3 | 2 | | 3 | 2 | | 3 | 2 | | 3 | 2 | | |
| | 生物資源科学 | 92 | 153 | 70 | 18 | 146 | 66 | 18 | 144 | 65 | 18 | 136 | 60 | 18 | |
| | 社会人特別選抜 | 14 | 9 | 3 | 7 | 9 | 3 | 7 | 9 | 3 | 7 | 9 | 3 | 7 | |
| | 環境科学 | 74 | 107 | 36 | 13 | 104 | 35 | 12 | 96 | 34 | 12 | 89 | 33 | 11 | |
| 社会人特別選抜 | 10 | 1 | | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | |
| 小計 | | 278 | 374 | 142 | 46 | 362 | 136 | 45 | 341 | 133 | 43 | 313 | 124 | 41 | |
| 人 間 総 合 科 学 | フロンティア医科学(修士課程) | 50 | 88 | 41 | 2 | 84 | 39 | 2 | 68 | 31 | 2 | 51 | 26 | 2 | |
| | 社会人特別選抜 | 若干名 | 8 | 3 | | 8 | 3 | | 7 | 3 | | 7 | 3 | | |
| | 看護科学 | 15 | 25 | 25 | | 24 | 24 | | 16 | 16 | | 14 | 14 | | |
| | 社会人特別選抜 | 若干名 | 8 | 7 | | 8 | 7 | | 2 | 2 | | 2 | 2 | | |
| | 教育学 | *18 | 19 | 7 | 6 | 18 | 7 | 6 | 13 | 5 | 4 | 13 | 5 | 4 | |
| | 心理 | *4 | 12 | 7 | | 12 | 7 | | 5 | 1 | | 5 | 1 | | |
| | 障害科学 | *若干名 | 10 | 7 | 2 | 9 | 6 | 1 | 3 | 2 | 1 | 3 | 2 | 1 | |
| | 感性認知脳科学 | *若干名 | 4 | 3 | | 4 | 3 | | 3 | 2 | | 3 | 2 | | |
| | 芸術 | 40 | 109 | 58 | 6 | 103 | 54 | 6 | 59 | 32 | 4 | 57 | 30 | 4 | |
| | 社会人特別選抜 | 20 | 29 | 18 | 13 | 29 | 18 | 13 | 14 | 9 | 8 | 14 | 9 | 8 | |
| 世界遺産 | 15 | 43 | 31 | 4 | 39 | 28 | 4 | 18 | 14 | | 18 | 14 | | | |
| 小計 | | 355 | 207 | 33 | 338 | 196 | 32 | 208 | 117 | 19 | 187 | 108 | 19 | | |
| 図 書 館 情 報 メ デ ィ ア | 図書館情報メディア | 37 | 73 | 32 | 12 | 72 | 32 | 12 | 48 | 25 | 7 | 41 | 19 | 6 | |
| | 社会人特別選抜 | | 6 | 3 | | 5 | 2 | | 3 | 2 | | 3 | 2 | | |
| | 小計 | | 37 | 79 | 35 | 12 | 77 | 34 | 12 | 51 | 27 | 7 | 44 | 21 | 6 |
| 博士前期課程合計 | | | 1,015 | 2,008 | 583 | 239 | 1,925 | 556 | 235 | 1,496 | 418 | 174 | 1,324 | 381 | 163 |

- (注) 1. | | 内は連携大学院方式を内数で示す。
2. *印を付した専攻の定員は、募集人員を示す。
3. ※は、専ら夜間において教育を行う課程。

(オ) 平成20年度博士課程研究科入学者選抜 (後期課程)

(平成20年4月1日現在)

| 課程 | 研究科 | 専攻 | 定員 | 志願者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 受験者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 合格者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 入学者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | | | | | | |
|-----------|-----------|---------------|------|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|----|----|-----|-----|----|----|
| 人文社会科学 | | 現代語・現代文化 | *若干名 | 5 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 | 3 | 1 | | 2 | 1 | | | | | | | |
| | | 国際公共政策 | *10 | 6 | 3 | 1 | 6 | 3 | 1 | 4 | 3 | 1 | 4 | 3 | 1 | | | | | | |
| | | 経済学 | *若干名 | 2 | | 1 | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | |
| | | 法学 | *若干名 | 3 | | | 3 | | | 0 | | | | | | | | | | | |
| | | 国際日本研究 | *9 | 12 | 6 | 9 | 12 | 6 | 9 | 10 | 4 | 7 | 9 | 4 | 7 | | | | | | |
| 小 | 計 | | 28 | 12 | 12 | 27 | 12 | 11 | 18 | 8 | 8 | 16 | 8 | 8 | | | | | | | |
| ビジネス科学 | ※企業科学 | | 23 | 77 | 10 | | 73 | 10 | | 27 | 4 | | 27 | 4 | | | | | | | |
| 数理物質科学 | | 数学 | 12 | 6 | | 1 | 6 | | 1 | 6 | | 1 | 6 | | 1 | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 若干名 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 物理学 | 20 | 13 | 1 | | 12 | 1 | | 11 | 1 | | 11 | 1 | | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 若干名 | 1 | | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | |
| | | 化学 | 17 | 8 | 1 | 1 | 8 | 1 | 1 | 8 | 1 | 1 | 8 | 1 | 1 | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 若干名 | 5 | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 | | | | | | |
| | | 物質創成先端科学 | 15 | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 若干名 | 1 | | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | |
| | | 電子・物理工学 | 18 | 9 | 2 | | 9 | 2 | | 9 | 2 | | 8 | 2 | | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 若干名 | 7 | 2 | 1 | 7 | 2 | 1 | 7 | 2 | 1 | 7 | 2 | 1 | | | | | | |
| 物性・分子工学 | 13 | 7 | 1 | 5 | 7 | 1 | 5 | 7 | 1 | 5 | 6 | | 4 | | | | | | | | |
| 社会人特別選抜 | 若干名 | 0 | | | 0 | | | 0 | | | 0 | | | | | | | | | | |
| 小 | 計 | | 95 | 58 | 6 | 4 | 8 | 57 | 6 | 4 | 8 | 56 | 6 | 4 | 3 | 7 | | | | | |
| システム情報工学 | | 社会システム・マネジメント | 21 | 11 | 1 | | 6 | 11 | 1 | 6 | 8 | 1 | | 4 | 8 | 1 | 4 | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 5 | 3 | | | 3 | | | 3 | | | 3 | | | | | | | | |
| | | リスク工学 | 10 | 4 | 1 | 2 | 4 | 1 | 2 | 4 | 1 | 2 | 4 | 1 | 2 | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 2 | 3 | | | 3 | | | 2 | | | 2 | | | | | | | | |
| | | コンピュータサイエンス | 26 | 22 | 1 | 1 | 7 | 22 | 1 | 7 | 20 | 1 | 7 | 20 | 1 | 7 | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 2 | 5 | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | | | | | | |
| | | 知能機能システム | 22 | 9 | 2 | 3 | 8 | 2 | 3 | 8 | 2 | 3 | 5 | | 1 | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 2 | 4 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | | | | | | |
| | | 構造エネルギー工学 | 14 | 4 | | 3 | 4 | | 3 | 4 | | 3 | 3 | | 2 | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 2 | 3 | | | 3 | | | 3 | | | 3 | | | | | | | | |
| 小 | 計 | | 106 | 68 | 6 | 22 | 66 | 6 | 22 | 60 | 6 | 20 | 56 | 4 | 17 | | | | | | |
| 生命環境科学 | | 地球環境科学 | 11 | 10 | 2 | 4 | 10 | 2 | 4 | 8 | 2 | 4 | 7 | 2 | 4 | | | | | | |
| | | 地球進化科学 | 8 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 構造生物科学 | 9 | 9 | 1 | 2 | 9 | 1 | 2 | 9 | 1 | 2 | 9 | 1 | 2 | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 若干名 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | | | | | | |
| | | 情報生物科学 | 17 | 11 | 5 | 5 | 11 | 5 | 5 | 11 | 5 | 5 | 9 | 4 | 4 | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 若干名 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 国際地縁技術開発科学 | 18 | 14 | 8 | 10 | 14 | 8 | 10 | 14 | 8 | 10 | 14 | 8 | 10 | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 4 | 8 | 1 | | 8 | 1 | | 8 | 1 | | 8 | 1 | | | | | | | |
| | | 生物圏資源科学 | 16 | 14 | 6 | 10 | 14 | 6 | 10 | 14 | 6 | 10 | 14 | 6 | 10 | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 4 | 3 | | | 3 | | | 3 | | | 3 | | | | | | | | |
| | | 生物機能科学 | 17 | 14 | 2 | 4 | 14 | 2 | 4 | 14 | 2 | 4 | 13 | 1 | 3 | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 4 | 4 | 2 | | 4 | 2 | | 4 | 2 | | 4 | 2 | | | | | | | |
| | | 生命産業科学 | 10 | 6 | 2 | 1 | 5 | 2 | 1 | 5 | 2 | 1 | 5 | 2 | 1 | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 2 | 2 | | | 2 | | | 2 | | | 2 | | | | | | | | |
| | | 持続環境学 | 10 | 30 | 10 | 14 | 29 | 10 | 14 | 26 | 10 | 14 | 26 | 10 | 14 | | | | | | |
| 社会人特別選抜 | 2 | 8 | 2 | | 8 | 2 | | 8 | 2 | | 7 | 1 | | | | | | | | | |
| 小 | 計 | | 132 | 135 | 43 | 49 | 133 | 43 | 49 | 128 | 43 | 49 | 123 | 44 | 40 | 47 | | | | | |
| 人間総合科学 | | 教育基礎学 | *若干名 | 1 | | | 1 | | | 0 | | | | | | | | | | | |
| | | 学校教育学 | *若干名 | 3 | 2 | | 3 | 2 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | |
| | | 心理学 | *4 | 1 | | | 1 | | | 0 | | | | | | | | | | | |
| | | 障害科学 | *若干名 | 5 | 5 | 2 | 5 | 5 | 2 | 4 | 4 | 2 | 4 | 4 | 2 | | | | | | |
| | | 感性認知脳科学 | *若干名 | 6 | 3 | 1 | 6 | 3 | 1 | 5 | 2 | | 5 | 2 | | | | | | | |
| | | 体育科学 | 15 | 19 | 5 | 3 | 18 | 5 | 3 | 15 | 4 | 1 | 15 | 4 | 1 | | | | | | |
| | | 芸術 | 10 | 3 | 2 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | | | 1 | | | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | 若干名 | 8 | 3 | 2 | 8 | 3 | 2 | 6 | 2 | 1 | 6 | 2 | 1 | | | | | | |
| | | 世界文化遺産学 | 7 | 15 | 11 | 5 | 14 | 11 | 4 | 13 | 11 | 3 | 12 | 10 | 2 | | | | | | |
| | | ※生涯発達科学 | 6 | 31 | 18 | | 31 | 18 | | 9 | 2 | | 9 | 2 | | | | | | | |
| 小 | 計 | | 92 | 49 | 14 | 90 | 49 | 13 | 54 | 26 | 7 | 53 | 25 | 6 | | | | | | | |
| 図書館情報メディア | 図書館情報メディア | 社会人特別選抜 | 21 | 5 | 2 | 2 | 5 | 2 | 2 | 4 | 2 | 2 | 4 | 2 | 2 | | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | | 12 | 4 | | 11 | 3 | | 10 | 3 | | 10 | 3 | | | | | | | |
| 小 | 計 | | 21 | 17 | 6 | 2 | 16 | 5 | 2 | 14 | 5 | 2 | 14 | 5 | 2 | | | | | | |
| 博士後期課程合計 | | | | 377 | 144 | 475 | 144 | 130 | 107 | 462 | 144 | 129 | 105 | 357 | 144 | 96 | 94 | 342 | 144 | 89 | 87 |

(注) 1. | |内は連携大学院方式を内数で示す。

2. *印を付した専攻の定員は、募集人員を示す。

3. ※は、専ら夜間において教育を行う課程。

(カ) 平成20年度博士課程研究科入学者選抜 (3年制博士)

(平成20年4月1日現在)

| 課程 | 研究科 | 専攻 | 定員 | 志願者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 受験者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 合格者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 入学者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | |
|-------|-----------|------------|-----|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|---|
| 3年制博士 | 数理物質科学 | 物質・材料工学 | 6 | 16 | 4 | 8 | 14 | 3 | 7 | 12 | 3 | 5 | 12 | 3 | 5 | |
| | | 社会人特別選抜 | 若干名 | 8 | 1 | 3 | 8 | 1 | 3 | 7 | 1 | 3 | 4 | | 1 | |
| | 小計 | | 6 | 24 | 5 | 11 | 22 | 4 | 10 | 19 | 4 | 8 | 16 | 3 | 6 | |
| | 生命環境科学 | 先端農業技術科学 | 6 | 8 | 1 | | 8 | 1 | | 8 | 1 | | 8 | 1 | | |
| | 人間総合科学 | ヒューマン・ケア科学 | *12 | 22 | 15 | | 22 | 15 | | 20 | 13 | | 20 | 13 | | |
| | | スポーツ医学 | *6 | 8 | 2 | 1 | 6 | 1 | | 6 | 1 | | 5 | 1 | | |
| | | コーチング学 | 6 | 6 | 2 | 1 | 6 | 2 | 1 | 6 | 2 | 1 | 6 | 2 | 1 | |
| | 小計 | | 24 | 36 | 19 | 2 | 34 | 18 | 1 | 32 | 16 | 1 | 31 | 16 | 1 | |
| | 3年制博士課程合計 | | | 36 | 68 | 25 | 13 | 64 | 23 | 11 | 59 | 21 | 9 | 55 | 20 | 7 |

(注) 1. | | 内は連携大学院方式を内数で示す。

2. *印を付した専攻の定員は、募集人員を示す。

(キ) 平成20年度博士課程研究科入学者選抜 (専門職学位課程)

| 課程 | 研究科 | 専攻 | 定員 | 志願者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 受験者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 合格者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 入学者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 |
|-------|--------|------------------|----|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|
| 専門職学位 | ビジネス科学 | ※法曹専攻 | 40 | 472 | 91 | | 101 | 16 | | 47 | 9 | | 40 | 8 | |
| | | ※国際経営プロフェッショナル専攻 | 30 | 57 | 21 | 1 | 56 | 20 | 1 | 37 | 15 | 1 | 32 | 14 | 14 |
| | 合計 | | 70 | 529 | 112 | 1 | 157 | 36 | 1 | 84 | 24 | 1 | 72 | 22 | 14 |

(注) 1. ※は、専ら夜間において教育を行う課程

2. 法曹専攻の受験者数は、第2段階2次試験の数である。

3. 国際経営プロフェッショナル専攻は、8月入学のため平成19年度の入学者数を掲載。

(ク) 改組・再編となる研究科の入学者数(再掲)

(平成20年4月1日現在)

| 課程 | 研究科 | 専攻 | 定員 | 入学者数 | 女子内数 | 外国人留学生数 内 | |
|----------|--------------------|-------------|----|------|------|--------------|---|
| 修士 | 地域研究 | 地域研究 | | | | | |
| | 教育 | 障害児教育 | | | | | |
| | | 社会人特別選抜 | | | | | |
| | | スクールリーダーシップ | 20 | 12 | 5 | 1 | |
| | | 社会人特別選抜 | | 4 | 2 | | |
| | | 教科教育 | 80 | 61 | 19 | | |
| | | 社会人特別選抜 | | 13 | 6 | 2 | |
| | | 特別支援教育 | | 7 | 4 | | |
| | 社会人特別選抜 | 25 | 9 | 6 | | | |
| | 小計 | | | 125 | 106 | 42 | 3 |
| 体育 | スポーツ科学 | | | | | | |
| | 社会人特別選抜 | | | | | | |
| | ※スポーツ健康システム・マネジメント | | | | | | |
| 人文社会科学 | 哲学・思想 | | 6 | 6 | 1 | 1 | |
| | 歴史・人類学 | | 12 | 12 | 4 | | |
| | 文芸・言語 | | 20 | 21 | 10 | 6 | |
| | 現代文化・公共政策 | | | | | | |
| | 社会科学 | | | | | | |
| | 国際政治経済学 | | | | | | |
| 小計 | | | 38 | 39 | 15 | 7 | |
| 博士 一貫 | 人間総合科学 | 心理学 | | | | | |
| | | ヒューマン・ケア科学 | | | | | |
| | | 感性認知脳科学 | | | | | |
| | | スポーツ医学 | | | | | |
| | | 先端応用医学 | | | | | |
| | | 昼夜開講制 | | | | | |
| | | 分子情報・生体統御医学 | | | | | |
| | | 昼夜開講制 | | | | | |
| | | 病態制御医学 | | | | | |
| | | 昼夜開講制 | | | | | |
| | | 機能制御医学 | | | | | |
| | | 昼夜開講制 | | | | | |
| | | 社会環境医学 | | | | | |
| | | 昼夜開講制 | | | | | |
| | | 体育科学 | | | | | |
| | | 生命システム医学 | | 28 | 21 | 8 | 1 |
| | | 昼夜開講制 | | | 4 | 3 | |
| 疾患制御医学 | | 34 | 27 | 11 | 1 | | |
| 昼夜開講制 | | | 14 | 3 | 1 | | |
| 小計 | | | 62 | 66 | 25 | 3 | |
| 博士 前期 | 人文社会科学 | 現代語・現代文化 | 10 | 9 | 6 | 2 | |
| | | 国際公共政策 | 15 | 16 | 8 | 5 | |
| | | 経済学 | 9 | 2 | 2 | 1 | |
| | | 法学 | 7 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 国際地域研究 | 45 | 62 | 47 | 34 | |
| 小計 | | | 86 | 90 | 64 | 43 | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--------|--------------------------|-----|-----|-----|----|---|
| 博 士 前 期 | 人間総合科学 | フロンティア医科学（修士課程） | 50 | 56 | 31 | 2 | |
| | | 社会人特別選抜 | 若干名 | 7 | 3 | | |
| | | ※スポーツ健康システム・マネジメント（修士課程） | 24 | 27 | 14 | | |
| | | 看護科学 | 15 | 14 | 14 | | |
| | | 社会人特別選抜 | 若干名 | 2 | 2 | | |
| | | 教育学 | 18 | 15 | 7 | 4 | |
| | | 心理 | 16 | 17 | 10 | 1 | |
| | | 障害科学 | 20 | 33 | 19 | 5 | |
| | | 感性認知脳科学 | 14 | {1} | {3} | 11 | 4 |
| | | 体育学 | 100 | 121 | 33 | 8 | |
| | | 社会人特別選抜 | 20 | 21 | 5 | 5 | |
| | | 芸術 | 40 | 57 | 30 | 4 | |
| | | 社会人特別選抜 | 20 | 14 | 9 | 8 | |
| | | 世界遺産 | 15 | 18 | 14 | | |
| | | ※生涯発達 | 46 | 46 | 31 | | |
| 小 計 | | 398 | {1} | {3} | 233 | 41 | |
| 博 士 後 期 | 人文社会科学 | 現代語・現代文化 | 8 | 2 | 1 | | |
| | | 国際公共政策 | 10 | 4 | 3 | 1 | |
| | | 経済学 | 5 | 1 | | | |
| | | 法学 | 5 | 0 | | | |
| | | 国際日本研究 | 9 | 9 | 4 | 7 | |
| | 小 計 | | 37 | 16 | 8 | 8 | |
| | 人間総合科学 | 教育基礎学 | 8 | 0 | | | |
| | | 学校教育学 | 6 | 1 | 1 | | |
| | | 心理学 | 6 | 0 | | | |
| | | 障害科学 | 10 | 4 | 4 | 2 | |
| 感性認知脳科学 | | 10 | {1} | 5 | 2 | | |
| 体育科学 | | 15 | 15 | 4 | 1 | | |
| 芸術 | | 10 | 1 | | | | |
| 社会人特別選抜 | | 若干名 | 6 | 2 | 1 | | |
| 世界文化遺産学 | 7 | 12 | 10 | 2 | | | |
| ※生涯発達科学 | 6 | 9 | 2 | | | | |
| 小 計 | | 78 | {1} | {0} | 25 | 6 | |
| 3 年 制 博 士 | 人間総合科学 | ヒューマン・ケア科学 | 18 | 20 | 13 | | |
| | | スポーツ医学 | 12 | 5 | 1 | | |
| | | コーチング学 | 6 | 6 | 2 | 1 | |
| | 小 計 | | 36 | 31 | 16 | 1 | |

(注)

1. 修士課程教育研究科の改組・再編により、障害児教育専攻の合格者が、同研究科特別支援教育専攻及び人間総合科学研究科博士前期課程に、カウンセリング専攻合格者が、人間総合科学研究科博士前期課程に移行したものである。
2. 人文社会科学研究科の改組・再編により、一貫制博士課程現代文化・公共政策専攻、社会科学専攻及び国際政治経済学専攻の1年次合格者及び修士課程地域研究研究科の合格者が、人文社会科学研究科博士前期課程に移行したものである。
3. 人間総合科学研究科の改組・再編により、同研究科一貫制博士課程（先端応用医学専攻、分子情報・生体統御医学専攻、病態制御医学専攻、機能制御医学専攻、社会環境医学専攻を除く）1年次の合格者、修士課程体育研究科の合格者が、人間総合科学研究科博士前期課程に移行したものである。
また、先端応用医学専攻、分子情報・生体統御医学専攻、病態制御医学専攻、機能制御医学専攻、社会環境医学専攻の合格者が、人間総合科学研究科生命システム医学専攻、疾患制御医学専攻に移行したものである。
4. { } 内は連携大学院方式を内数で示す。
5. ※は、専ら夜間において教育を行う課程。
6. 人間総合科学研究科生命システム医学専攻（昼夜開講制を除く）及び疾患制御医学専攻（昼夜開講制を除く）の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数欄には、ダブルメジャープログラムを含む。

(ケ) 大使館推薦による国費外国人留学生

(平成20年4月1日現在)

| 課程 | 研究科 | 専攻 | 定員 | 志願者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 受験者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 合格者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 入学者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 |
|------|----------|---------------|----|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|
| 博士前期 | システム情報工学 | 知能機能システム | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 合 計 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 博士後期 | システム情報工学 | 社会システム・マネジメント | | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 1 |
| | 合 計 | | | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 1 |

(コ) 再入学

| 課程 | 研究科 | 専攻 | 定員 | 志願者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 受験者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 合格者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 | 入学者数 | 女子内数 | 外国人留学生内数 |
|----|-----|--------|----|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|------|------|----------|
| 修士 | 体 育 | スポーツ科学 | | 2 | 1 | | 2 | 1 | | 2 | 1 | | 2 | 1 | |
| | 合 計 | | | 2 | 1 | | 2 | 1 | | 2 | 1 | | 2 | 1 | |

3 研究関係

(1) 紀要等発行状況

| 紀要等名 | 主な配布先 | 編集・発行 |
|---|---------------------------|---------------------|
| 哲学・思想論集 第33号 | 全国研究機関 | 哲学・思想専攻 |
| 歴史人類 第36号 | 国公立大学，関連研究機関等 | 歴史・人類学専攻 |
| 筑波大学 先史学・考古学研究 第19号 | | |
| 文藝言語研究52, 53号 文藝篇 | 国公立の関係大学等 | 文芸・言語専攻 |
| 文藝言語研究52, 53号 言語篇 | | |
| 論叢 現代文化・公共政策VOL.6, 7 | 国内外の関係大学，関連研究機関等 | 現代文化・公共政策専攻 |
| 筑波大学地域研究29号 | 国内外の大学附属図書館および 学内外の研究者 | 地域研究研究科 |
| 平成19年度日本語教育実習報告論文集 | 国公立大学附属図書館および 学内外の研究者 | 地域研究研究科日本語教師養成プログラム |
| 社会学ジャーナル 第33号 | 筑波大学出身者，転出教員，各大学図書館，研究所 | 社会学研究室 |
| 筑波法政 第43, 44号 | 各大学図書館 | 社会科学系 |
| 経済学論集 第58, 59号 | 各大学図書館 | 社会科学専攻経済学分野 |
| 経済学論究 第26号 | | |
| 国際政治経済学研究20, 21号 | 国内外の関係大学等 | 国際政治経済学専攻 |
| 2006〔平成18〕年度筑波大学数学系年次報告 | 国内理工系大学，研究機関，学内関係者 | 数学系 |
| Tsukuba Journal of Mathematics Vol.31 No.1, No.2 | 国内外の大学，研究機関，学内関係者 | |
| 平成18年度物理学系年次研究報告 | 国内理工系大学，研究機関，学内関係部局 | 物理学系 |
| 物理工学系－研究室紹介－ | 学類生，教員 | 物理工学系 |
| 筑波大学物理工学系研究案内 | 教員 | |
| リスク工学研究 | 国公立大学，高専，企業等 | リスク工学専攻 |
| テクニカルレポート 久野誉人 | 国立国会図書館 他 | コンピュータサイエンス専攻 |
| テクニカルレポート 亀山幸義 | | |
| テクニカルレポート システム開発型 研究プロジェクト2007年度 研究成果 報告 | 文部科学省 他 | |
| TSUKUBA GEOENVIRONMENTAL SCIENCES Vol.3 (2007) | 国内外の大学，研究機関等 | 地球環境科学専攻 |
| 人文地理学研究32号，2008 | | |
| 地域研究年報 第30号，2008 | | |
| Earth Evolution Sciences, University of Tsukuba, Vol.2 | 地球科学関連主要大学 | 地球進化科学専攻 |
| 筑波大学農林社会経済研究 | 大学，研究機関等 | 農林学系 |
| 教育学系論集 第32集 | 国立私立大学，関連研究機関 | 教育学系 |
| 教育学論集 第3号 | 国立私立大学，関連研究機関 | 教育学専攻 |

| 紀 要 等 名 | 主な配布先 | 編集・発行 |
|--|---|-------------------------------|
| 筑波大学心理学研究 第34, 35号 | 国立図書館, 心理学関係学部を持つ全国の国立大学, 主要私立大学, 主要な研究所 | 心理学系 |
| 筑波大学発達臨床心理学研究 第19巻 | 心理相談室を設置している全国の主要な大学, 公的相談機関 | 発達臨床心理相談室 |
| 筑波大学臨床心理学論集22集 | 心理相談室を設置している全国の主要な大学, 公的相談機関 | 心理相談室 |
| 筑波大学芸術年報 2007 | 国公立大学, 美術館・博物館, 関連研究機関, 学内関係部局等 | 芸術学系 |
| 芸術研究報 28 | | |
| 芸術研究報・作品集 19 | | |
| 21世紀COEプログラム「こころを解明する感性科学の推進」2006年度研究報告書 | 全国の大学・研究所の関連部署, 21世紀COEプログラム採択拠点 | 21世紀COEプログラム「こころを解明する感性科学の推進」 |
| 筑波大学体育科学系紀要 第31巻 | 国内の大学等 | 体育科学系 |
| 筑波大学体育科学系研究業績集 2007, 1～2007, 12 | | |
| 筑波大学体育科学系研究業績集 補遺 2007, 1～2007, 12 | | |
| スポーツコーチング研究 第6巻 | オンラインジャーナル (http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/sc/) | 体育科学系コーチング学分野 |
| 図書館情報メディア研究 5巻1号 2007, 5巻2号2007 | 学内関係部局, 国内外の大学図書館等 | 「図書館情報メディア研究」編集委員会 |
| プラズマ研究センター平成18年度年次報告 | 国内外の関係者, 関係大学, 関連研究機関 等 | プラズマ研究センター |
| 外国語教育論集第30号 | 国公立大学, 関係機関, 学内関係部局 | 外国語センター |
| 大学体育研究 第30号 | 国公立体育系大学, 学内関係部局 | 体育センター |
| 体育センター年次報告書 (平成18年度版) | 学内関係部局 | |
| 農林技術センター研究報告 | 全国国公立大学附属農場, 学内関係部局等 | 農林技術センター |
| 農林技術センター活動報告 | | |
| 農林技術センター演習林報告 | | |
| Tsukuba Asian Seminar on Agricultural Education (TASAE) | 国内外の大学, セミナー参加者 | |
| Journal of Developments in Sustainable Agriculture | インターネット公開 | |
| 筑波大学陸域環境研究センター報告第 8号(2007) | 学内関係部局, 国公立大学関係学科, 国内外の関係研究機関 | 陸域環境研究センター |
| 筑波大学陸域環境研究センター報告第 8号別冊(2007) | | |
| 筑波大学陸域環境研究センター報告第 8号別冊no.2(2008) | | |
| 筑波大学留学生センター日本語教育論 集23号 | 附属図書館, 研究機関等 | 留学生センター |

| 紀 要 等 名 | 主な配布先 | 編集・発行 |
|--|--|--|
| 大学研究 35号, 37号 | 全国の高等教育研究機関高等教育研究者 | 大学研究センター |
| 陽子線医学利用研究会報告集 | 国内の関連機関等 | 陽子線医学利用研究センター |
| 産学リエゾン共同研究センター年報 (平成18年度) | 組織の長, 文部科学省, 各国立大学法人地域共同研究センター, 茨城県等 | 産学リエゾン共同研究センター |
| 平成18年度学際物質科学研究センター年報 | 学内関係部局 | 学際物質科学研究センター |
| 筑波大学特別支援教育研究 | 教職員, 全国の教育研究センター等関係機関 | 特別支援教育研究センター |
| Tunisia-Japan Symposium on Society, Sciences and Technology (TJASSST) 2007 : | 学内共同研究員, 会議参加者 | 北アフリカ研究センター |
| UTTC Annual Report 2006 | 国内外関係研究機関等 | 研究基盤総合センター応用加速器部門 |
| 筑波大学学校教育論集30巻 | 国公立大学等 | 附属学校教育局 |
| 研究紀要 第60号 | 全国国立大学附属中学校 | 附属中学校 |
| 研究資料〈教育課程研究〉43号 総合学習研究 (33) | | |
| 研究紀要 第49巻 | 文部科学省及び関係機関, 国立大学附属高等学校, 学内関係者 | 附属高等学校 |
| 筑波大学附属駒場論集 第47集 | 国立大学附属中学校・附属高等学校, 本校関係機関, 学内関係部局等 | 附属駒場中・高等学校 |
| 筑波大学社会貢献プロジェクト第1回 筑駒アカデミア報告書 | 本校関係機関, 学内関係部局, 研究関係者 | |
| スーパーサイエンスハイスクール研究 開発実施報告書 | S S H関係学校, 学内関係部局, 研究関係者 | |
| 研究紀要 第45集 | 文部科学省, 学内関係者, 国立大学附属学校, 全国総合学科高等学校, 埼玉県公立高等学校等 | 附属坂戸高等学校 |
| 第10回総合学科研究大会資料集 (2分冊) | | |
| I C T人材育成プロジェクト研究開発 実施報告書 (第3年次) | | |
| 「高等学校における発達障害支援モデル事業」中間報告書 (第1年次) | | |
| 視覚障害教育研究協議会資料集 | 視覚障害教育研究協議会参加者及び視覚障害教育関係機関 | 附属視覚特別支援学校 |
| 研究紀要 39巻 | 全国各盲学校 | |
| 筑波大学聾学校紀要第30巻 | 公私立聾学校, 各種関係機関等 | 附属聴覚特別支援学校 |
| 筑波大学附属聾学校 学習指導案集 | 第9回アジア太平洋地域聴覚障害問題会議・第40回全日本聾教育研究大会 (関東大会) 参会者 | 附属聴覚特別支援学校 (第9回アジア太平洋地域聴覚障害問題会議・第40回全日本聾教育研究大会 (関東大会) 組織委員会) |
| 筑波大学附属聾学校 資料集 | | |
| 研究紀要 第52集 | 特別支援学校 (養護学校), 障害児教育研究機関, 学内関係部局 | 附属大塚特別支援学校 |
| 筑波大学附属桐が丘特別支援学校研究紀要第43巻 | 学内関係者・各関係機関・附属学校・公立肢体不自由学校 | 附属桐が丘特別支援学校 |
| 文部科学省研究開発学校 (平成19～21年度) 研究開発実施報告書 (第1年次) | 知的障害養護学校等 | 附属久里浜特別支援学校 |

(2) 各種受賞

ア 学会賞等

| 所属・職名 | 氏名 | 賞名 | 受賞論文等 | 受賞月 |
|----------------------------------|----------------|--|--|-------|
| 人文社会科学研究所 准教授 | 鈴木 一人 | 平成19年度国際安全保障学会最優秀新人論文賞 | 『フランスとESDP - 「ドゴール=ミッテラン主義」の制度化過程 -』に対して | 19.12 |
| ビジネス科学研究科 教授 | 新井 誠 | Marquis 版 who's Who in the World (25th Silver Anniversary Edition) に掲載 | 信託法・成年後見法における研究成果に対して | 19.11 |
| ビジネス科学研究科 教授 | 小倉 昇 | The Best Paper Award of Japanese Association of Management Accounting | 論文「M&Aと提携が財務業績に及ぼす影響」(鈴木浩三との共著論文) に対して | 19.9 |
| ビジネス科学研究科 教授 | 弥永 真生 | International Academy of Comparative Law 準会員へ選考 | 比較法におけるこれまでの業績に対して | 19.10 |
| ビジネス科学研究科 教授 | 山田 秀 | 2007年度日経品質管理文献賞 | 中條武志教授(中央大学)との共同編著書籍:「マネジメントシステムの審査・評価に携わる人のためのTQMの基本」の功績に対して | 19.11 |
| 数理物質科学研究科 教授 | 赤平 昌文 | 第12回日本統計学会賞 | 「多年にわたり統計学、特に統計的推測理論とその応用に関する優れた業績を残した」ことに対して | 19.9 |
| 数理物質科学研究科 教授 助教 | 大塩 寛紀 志賀 拓也 | 第46回電子スピンスイエンズ学会年会優秀講演賞 | Syntheses and magnetism of chiral low dimensional complexes (キラル低次元錯体の合成と磁性) | 19.11 |
| 数理物質科学研究科 (計算科学研究センター) 教授 | 白石 賢二 | 応用物理学会 J J A P 論文賞 | Modified Oxygen Vacancy Induced Fermi Level Pinning Model Extedable to P-Metal Pinning | 19.9 |
| 数理物質科学研究科 (計算科学研究センター) 准教授 | 岡田 晋 | 日本物理学会若手奨励賞 | 炭素クラスター及びカーボンナノチューブの第一原理電子状態計算 | 19.9 |
| 数理物質科学研究科 准教授 | 木塚 徳志 | Int. Metallographic Contest, 3rd(2007) in Class in Electron Microscopy-Transmission and Analytical | Toughness of Carbon nanocapsules | 19.8 |
| 数理物質科学研究科 准教授 | 長谷 宗明 | 第2回日本物理学会 若手奨励賞 | 物理学分野の若手研究者の奨励 | 19.12 |
| 数理物質科学研究科 准教授 | 丸本 一弘 | 平成19年度電子スピンスイエンズ学会奨励賞 | 「電子スピン共鳴を用いた有機デバイスのマイクロ特性評価法の開発」に対して | 19.11 |
| 数理物質科学研究科 准教授 | 假家 強 | プラズマ核融合学会 第12回技術進歩賞 | I T E R 用 ジャイロトロン の 開 発 | 19.11 |

| 所属・職名 | 氏名 | 賞名 | 受賞論文等 | 受賞月 |
|--|------------------------|--|--|-------|
| 数理物質科学研究科 (先端学際領域研究センター) 講師 | 尾崎 信彦 | 第20回安藤博記念学術奨励賞 | 半導体スピントロニクス材料への応用を目指した強磁性半導体(Zn, Cr)Teに関する研究に対して | 19.6 |
| 数理物質科学研究科 (先端学際領域研究センター) 講師 | 土屋 敬広 | 日本化学会第22回若い世代の特別講演会賞 | 「金属内包フラーレンを鍵物質とする超分子系の構築」の研究に対して | 20.3 |
| 数理物質科学研究科 講師 | 二瓶 雅之 | 日本化学会第87春季年会優秀講演賞 | キューブ状コア構造をもつシアン化物イオン架橋鉄8核錯体における多段階酸化還元挙動 | 19.4 |
| 数理物質科学研究科 講師 | 安塚 周磨 | 分子性導体 チャレンジャー賞 | 超高圧下における有機伝導体の物性研究に関するこれまでの業績に対して | 20.1 |
| 数理物質科学研究科 講師 | 山村 泰久 | 2007年度日本熱測定学会奨励賞 | 負の熱膨張物質の熱力学的特性と相転移現象 | 19.10 |
| 数理物質科学研究科 助教 | 桑原 純平 | 日本化学会第88春季年会優秀講演賞(学術) | 「環状Rh錯体を用いた分子認識のアロステリック制御」 | 20.3 |
| 数理物質科学研究科 助教 | 早川 一郎 | 第49回天然有機化合物討論会奨励賞 | 腫瘍細胞増殖阻害マクロライド・ハテルマライドNAメチルエステルの合成とビセライド類の合成研究 | 19.12 |
| 数理物質科学研究科 助教 | 安野 晃 | 平成19年度電気学会年電子・情報・システム部門大会 優秀論文発表賞 | フーリエドメイン光コヒーレンストモグラフィーによる眼底・前眼イメージング | 20.3 |
| システム情報工学研究科 教授 | 石田 政義 | 第17回太陽光発電国際会議PVSEC-17 (17th International Photovoltaic Science and Engineering Conference), PVSEC Poster Award | Experimental Studies on Detecting a Disconnection Position of between PV Modules by the Electric Capacitance Measurement | 19.12 |
| システム情報工学研究科 (計算科学研究センター) 教授 准教授 講師 | 大田 友一 亀田 能成 北原 格 | 画像電子技術賞 | ネットワークによるライブ配信とインタラクティブ提示が可能な自由視点映像方式 | 19.6 |
| システム情報工学研究科 (計算科学研究センター) 教授 | 大田 友一 | Microsoft Innovation Award 大学出展部門部門賞(IT分野) | 複合現実感を利用して人間の視覚を支援する技術 | 19.8 |
| システム情報工学研究科 (計算科学研究センター) 教授 | 北川 博之 | 電子情報通信学会第13回データ工学ワークショップ優秀論文賞 | 時間的近さを考慮した話題構造マイニング | 19.7 |

| 所属・職名 | 氏名 | 賞名 | 受賞論文等 | 受賞月 |
|--------------------------------|-------------------------|--|--|-------|
| システム情報工学研究科 教授 | 山海 嘉之 | 経済産業大臣賞（第6回産学官連携功労者表彰） | 「身体機能を拡張するロボットスーツHAL」の開発 | 19.6 |
| システム情報工学研究科 教授 | 山海 嘉之 | 第3回つくばベンチャー大賞 大賞 | 大学の研究成果を社会に還元する大学発ベンチャー企業「CYBERDYNE株式会社」 | 19.10 |
| システム情報工学研究科 教授 | 山海 嘉之 | 文部科学省 ナイスステップな研究者2007 | 身体機能を拡張するロボットスーツHALの開発と実用化推進 | 19.12 |
| システム情報工学研究科 教授 | 宮本 定明 | Fellow, IFSA (International Fuzzy Systems Association) | ファジィ理論分野におけるこれまでの業績に対して | 19.6 |
| システム情報工学研究科 准教授 | 佐藤(イリチュ) 美佳 | 2nd Runner up Award (Artificial Neural Networks in Engineering 2007, St. Louis, USA) | データマイニングにおける業績に対して | 19.11 |
| システム情報工学研究科 講師 | 岡島 敬一 | エネルギー・資源学会第11回茅奨励賞 | 廃棄・リサイクルを含めた太陽電池のライフサイクル評価 | 19.7 |
| システム情報工学研究科 講師 | 谷口 綾子 | 平成19年度日本道路会議優秀論文賞 | 高崎市および龍ヶ崎市における転入者対象モビリティ・マネジメントの効果分析 | 19.11 |
| システム情報工学研究科 講師 | 延原 肇 | International Symposium on Advanced Intelligent Systems (ISIS2007) Recognition Award | 国際会議ISIS2007の貢献に対して | 19.9 |
| 生命環境科学研究科 教授 | 井上 勲 | 日本植物学会賞・特別賞 | 「藻類30億年の自然史」出版の高い評価・植物学教育分野における貢献 | 19.7 |
| 生命環境科学研究科 教授 講師 | 井上 勲 中山 剛 | 国際藻類学会誌PhycologiaのTyge Christensen Prize 2006受賞 | 2005年に国際藻類学会誌Phycologiaに投稿された論文中、最も優れた論文に贈られる | 20.2 |
| 生命環境科学研究科 教授 | 内山 裕夫 | International Symposium on Microbial Ecology Asia 2007 Best Poster Award | 優れたポスター発表に対して | 19.9 |
| 生命環境科学研究科 (遺伝子実験センター) 教授 | 鎌田 博 | 日本植物細胞分子生物学会「学術賞」 | 「植物細胞組織培養技術を活用した分化全能性発現機構に関する研究」 | 19.8 |
| 生命環境科学研究科 教授 教授 講師 | 小林 達彦 杉浦 則夫 内海 真生 | 第10回日本水処理生物学会論文賞 | Biochemical characteristics of microcystin LR degradation by typical protease. Jpn. J. Water Treatment Biology, 42(1): 27-35. (2006) | 19.11 |
| 生命環境科学研究科 教授 | 永木 正和 | 農業情報学会学術賞 | 「農業情報経営学の構築－行動科学の視点－」が農業情報システムに関する学術の進歩に寄与 | 19.9 |

| 所属・職名 | 氏名 | 賞名 | 受賞論文等 | 受賞月 |
|--------------------------------------|-------|--|---|-------|
| 生命環境科学研究科 教授 | 丸山 幸夫 | 第5回日本作物学会論文賞 (The 5th Best Paper Award of Crop Science Society of Japan) | 日本作物学会紀事掲載論文「高土 壌窒素条件下におけるダイズ窒素 固定量および窒素固定寄与率の品 種間差異」(第75巻4号350-359 頁, 2006年)に対して | 20.3 |
| 生命環境科学研究科 教授 | 村山 祐司 | Marquis Who's Who in Asia, 2007 | アジアにおけるGIS研究活動に 関して | 19.7 |
| 生命環境科学研究科 教授 | 村山 祐司 | International Scientists of the Year 2007, IBC England, 2008 | 地理情報科学分野における国際的 研究活動に関して | 20.3 |
| 生命環境科学研究科 教授 | 渡邊 信 | 日本微生物資源学会学会賞 | 微生物及びこれに準ずる培養生物 の系統保存及び関連分野の学術の 進歩に寄与した研究者に授与され る貴重な賞 | 19.6 |
| 生命環境科学研究科 (計算科学研究セン ター) 准教授 | 稲垣 祐司 | 平成19年度科学技術分野文 部科学大臣表彰若手科学者 賞 | 翻訳伸長因子EF-1aの機能分 解と水平移動の研究 | 19.4 |
| 生命環境科学研究科 准教授 | 高谷 直樹 | 平成19年度科学技術分野文 部科学大臣表彰若手科学者 賞 | 真菌の新規呼吸発酵機構とその制 御に関する研究 | 19.4 |
| 生命環境科学研究科 (農林技術セン ター) 准教授 | 瀧川 具弘 | 農業機械学会学術賞 | 「自立走行車両の走行軌跡制御の 開発とその応用に関する研究」 | 19.4 |
| 生命環境科学研究科 (農林技術セン ター) 准教授 | 田島 淳史 | 全国大学附属農場教育賞 (The Educational Award of the Japan University Farm Consortium) | わが国における農学教育カリキュ ラムの分析によるフィールドサイ エンスセンター教育構築へのアプ ローチ | 19.10 |
| 生命環境科学研究科 准教授 | 辻村 真貴 | 日本地下水学会功労賞 | 学会編集委員会幹事としての貢献 に対して | 19.5 |
| 生命環境科学研究科 准教授 | 中田 和人 | 日本学術振興会賞 | ミトコンドリアゲノム突然変異に よるミトコンドリア病発症機構の 解明 | 20.3 |
| 生命環境科学研究科 (下田臨海実験セン ター) 講師 | 笹倉 靖徳 | 平成19年度科学技術分野文 部科学大臣表彰若手研究者 賞 | 海産脊索動物ホヤにおける突然変 異体作製方法の研究 | 19.4 |
| 生命環境科学研究科 講師 | 橋本 義輝 | 平成19年度 日本放線菌学 会 浜田賞 | ニトリル代謝系酵素・遺伝子の機 能解析と放線菌遺伝子発現系の開 発 | 19.5 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 阿江 通良 | 平成19年度日本スポーツ方 法学会奨励賞 | スイング速度の異なるバレーボ ール選手のスパイク動作に関する研 究-スパイク動作指導におけるポ イント- | 20.3 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 赤座 英之 | 日本癌治療学会第13回中山 恒明賞 | 膀胱温存を目指した膀胱癌治療の 戦略の構築 | 19.10 |

| 所属・職名 | 氏名 | 賞名 | 受賞論文等 | 受賞月 |
|------------------------|---------------|--|--|-------|
| 人間総合科学研究科 教授 | 逢坂 卓郎 | 北米照明学会賞 | 作品“SUPER NOVA”に対して | 19.5 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 大鹿 哲郎 | 日本眼科学会評議員会賞 | 眼科学におけるこれまでの業績に 対して | 19.4 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 小玉 正博 | 第3回アジア健康心理学会 議優秀ポスター発表賞 | ストレス反応に対するフロー体験 の役割 | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 橘 直隆 | 日本野外教育学会優秀論文 賞 | 長期キャンプが小中学生の生きる 力に及ぼす影響（野外教育研究, 第6巻第2号掲載, 2003） | 19.6 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 松崎 一葉 | 平成19年度体力栄養免疫学会 菅原賞 | 当学会への多大な貢献に対して | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 南 学 | European Radiology, Interpretation Corner, Winner Award 2007 | 同雑誌の2007年の症例読影（臨床 能力）部門の優秀者に対して | 20.3 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 茂呂 雄二 | 日本教育心理学会優秀論文 賞 | 看護学生の状況間移動に伴う『異 なる時間の流れ』の経験と生成－ 校内学習から院内実習への移動と 学習過程の状況論的分析－ | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 茂呂 雄二 | 日本教育心理学会優秀論文 賞 | 科学的概念と日常経験知間の矛盾 を解消するための対話活動を通し た概念理解の検討 | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 准教授 講師 | 岩本 義輝 尾崎 繁 | 日本感性工学会平成19年度 論文賞 | Can we evaluate kansei by physiological measurement? Kansei Engineering International 6, 25-28 (2006) | 19.8 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 久野 譜也 | Japan Venture Awards 2008 起業家部門 委員長 特別賞 | (株)つくばウエルネスリサーチ 起業に対して | 20.2 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 酒井 利信 | 日本武道学会平成19年度優 秀論文賞 | 記紀神話にみられる弓矢につい て（武道学研究第39巻第2号, 2006） | 19.8 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 坂入 洋右 | 第9回池見研究奨励賞 | 水難救助活動における監視作業 に有効な休息法：自律訓練法と 軽運動の比較（自律訓練研究 26,2006.） | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 高野 晋吾 | 第35回日本小児神経外科学 会 優秀論文 | 小児脳幹グリオーマに対するQO Lを考えた手術・化学療法の取り 組み | 19.5 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 鶴岡 秀一 | 日本臨床薬理学会 臨床薬 理研究振興財団賞 学術論 文賞 | 前年に発表された論文に対して | 19.12 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 野津 有司 | 日本学校保健学会学会賞 | 日本の高校生における危険行動の 実態および危険行動間の関連－日 本青少年危険行動調査2001年の結 果－ | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 橋本佐由理 | 平成19年度日本幼少児健康 教育学会 濱田靖一賞 | 「子育て中の母親のメンタルヘル スの背景要因」の研究発表に対し て | 20.2 |

| 所属・職名 | 氏名 | 賞名 | 受賞論文等 | 受賞月 |
|-------------------------------|-------|---|--|-------|
| 人間総合科学研究科 准教授 | 平山 素子 | 名古屋市芸術奨励賞 | 年間の舞台活動に対して | 20.1 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 平山 素子 | 朝日舞台芸術賞 | Life Casting－型取られる生命－ | 20.1 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 仏山 輝美 | 第7回前田寛治大賞展 佳作賞二席 | 作品「Eating Habits Ⅲ」に対して | 19.8 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 森岡 隆 | 第61回日本書芸院展 史呂賞（しゅうしょう） | 作品「山桜花」に対して | 19.4 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 森岡 隆 | 第24回読売書法展 読売新聞社賞 | 作品「若山牧水・桜の歌五首」に対して | 19.8 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 臼井 丈一 | 第8回腎不全病態治療研究会会長賞 | 腎不全の病態解明、治療への貢献に対する評価 | 19.12 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 加治 優一 | ロート賞 | 眼科学における研究業績に対して | 19.4 |
| 人間総合科学研究科 （附属学校教育局） 講師 | 菅野 和恵 | 第19回日本特殊教育学会研究奨励賞 | ダウン症児・者における非単語の記憶－長期的な語彙知識の役割－ | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 国松 聡 | 第93回北米放射線学会 Certificate of Merit（教育展示・銅賞） | MR Iの脂肪抑制法に関する教育展示に対して | 19.12 |
| 人間総合科学研究科 （保健管理センター） 講師 | 佐々木恵美 | 第45回全国大学保健管理研究集会優秀演題賞 | うつ病、引きこもり、人格障害の陰で見逃された双極性障害－自験11例より－ | 19.10 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 角 大悟 | 第二回つくば医科学研究交流会筑波分子医学協会奨励賞 | 「親電子性環境化学物質のケミカルバイオロジー」に関する業績に対して | 19.11 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 角 大悟 | 平成19年度日本薬学会環境・衛生部会賞 | 「親電子性環境化学物質の生体影響と生体応答」に関する業績に対して | 19.11 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 森 健作 | 第14回肝血流動態イメージング研究会 優秀論文賞銀賞 | RFAにおける肝臓MR Iの造影手法に関する新技術に対して | 20.1 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 山本 純偉 | 平成19年度第54回日本麻酔科学会ベストプレゼンター賞 | 「プロポフォールの大脳皮質GABA作動性トニックカレントへの作用」の発表に対して | 19.6 |
| 人間系支援室 準研究員 | 室谷 直子 | 第2回障害科学学会研究奨励賞 | 読み障害児の言語性ワーキングメモリ課題遂行上の特徴と音読の効果について（LD研究, 15, 100-109, 2006） | 19.7 |
| 図書館情報メディア 研究科 教授 | 谷口 祥一 | 日本図書館情報学会賞 | 著書『A Conceptual Modeling Approach to Design of Catalogs and Cataloging Rules』の刊行に対して | 19.10 |
| 図書館情報メディア 研究科 准教授 | 池内 淳 | 日本図書館情報学会活動貢献賞 | 日本図書館情報学会ウェブサイトの運営管理をはじめとする積年にわたる学会活動への貢献による | 19.10 |

| 所属・職名 | 氏名 | 賞名 | 受賞論文等 | 受賞月 |
|-------------------------|-------|---------------------------|--------------------------------|-------|
| 図書館情報メディア 研究科 准教授 | 藤井 敦 | インターネットコンファ レンス2007論文賞 | Web情報検索に関する研究内容 に対して | 19.10 |
| 附属駒場高等学校 教諭 | 大野 新 | 19年度日本国際地図学会教 育普及賞 | 「環境地図」の普及に対して | 20.2 |
| 附属駒場高等学校 教諭 | 梶山 正明 | 19年度化学教育有功賞 | 実社会との関係を重視した化学の 教材開発と普及に対して | 20.3 |

イ 研究助成等

| 所属・職名 | 氏名 | 賞名 | 受賞論文等 | 受賞月 |
|-------------------------------------|-------|------------------------------------|---|-------|
| 人文社会科学研究科 教授 | 本澤巳代子 | (財)サントリー文化財団 人文科学, 社会科学に関する助成 | ドイツの「家族のための地域同盟サービスセンター」の活動と地方自治体の少子化対策 | 19.7 |
| 人文社会科学研究科 講師 | 小野 正樹 | (財)博報児童教育振興会 第3回博報「ことばと教育」研究助成 | 意見を述べる際の配慮方法について－新聞・テレビ・ラジオのメディアを比較して－ | 20.1 |
| 人文社会科学研究科 講師 | 花木 伸行 | (財)稲盛財団 研究助成(人文・社会科学分野) | 特許申請データによる産学・産産ネットワーク構造とR&D生産性に関する実証研究 | 19.4 |
| 人文社会科学研究科 講師 | 山本 真 | (財)JFE21世紀財団 アジア歴史研究助成 | 近現代中国における立憲主義の受容とその社会的背景 | 19.9 |
| 数理工学物質科学研究科 (先端学際領域研究センター) 教授 | 赤阪 健 | 科学技術振興機構 重点地域研究開発推進プログラムシーズ発掘試験助成金 | 金属内包フラーレンに基づく機能性センサーの開発 | 19.7 |
| 数理工学物質科学研究科 教授 | 市川 淳士 | 財団法人上原記念生命科学財団研究助成金 | 含フッ素生理活性物質を指向する遷移金属錯体経由の合成反応開発 | 20.3 |
| 数理工学物質科学研究科 教授 | 大塩 寛紀 | 池谷科学技術振興財団研究助成金 | 外場応答性単分子磁石の構築 | 19.4 |
| 数理工学物質科学研究科 (研究基盤総合センター) 教授 | 工藤 博 | 高エネルギー加速器研究機構加速器科学支援事業(大学等連携支援事業) | マルチタンデム静電加速器による重イオンビーム学際利用への新展開 | 19.6 |
| 数理工学物質科学研究科 准教授 | 木塚 徳志 | 銅及び銅合金技術研究会助成 | 原子直視法によるナノメートル級微細銅配線の力学特性解析 | 20.3 |
| 数理工学物質科学研究科 (先端学際領域研究センター) 講師 | 土屋 敬広 | 新化学発展協会研究奨励金 | 機能性磁性－伝導ハイブリッド細線の構築 | 19.5 |
| 数理工学物質科学等支援室 準研究員 | 中谷 昌史 | 田中貴金属工業株式会社「貴金属に関わる研究助成金」MMS賞 | L10-FePtナノ粒子の直接合成法確立と垂直磁気記録媒体への応用 | 19.10 |
| システム情報工学研究科 教授 | 大澤 義明 | 財団法人全国銀行学術研究振興財団 | 地域間移動モビリティと間接税競争 | 20.2 |
| システム情報工学研究科 教授 | 大澤 義明 | 財団法人国土技術研究センター研究開発助成 | 建築基準法天空率規制に関する解析的研究 | 20.3 |
| システム情報工学研究科 教授 | 大澤 義明 | 財団法人大林都市研究振興財団 | 学園都市ルーバン・ラ・ヌーブとつくばとの比較分析－建設後40年を経過して－ | 20.3 |
| システム情報工学研究科 教授 | 鈴木 勉 | 旭硝子財団自然科学系研究助成(第3分野/特定研究助成B) | 公共交通利用を促進する環境負荷低減型都市空間構造に関する研究 | 19.4 |

| 所属・職名 | 氏名 | 賞名 | 受賞論文等 | 受賞月 |
|-----------------------------------|-------|---|--|-------|
| システム情報工学研究科 准教授 | 酒井 宏 | 財団法人大川情報通信基金 | 形状知覚の神経メカニズムに基づく自然画像を対象にした図地分離アルゴリズム | 19.4 |
| システム情報工学研究科 (計算科学研究センター) 講師 | 天笠 俊之 | 日本データベース学会 東芝ソリューションTX2アカデミック支援プログラム | 大規模気象データベースにおけるメタデータ管理に関する研究 | 19.10 |
| システム情報工学研究科 講師 | 伊藤 誠 | 財団法人日産科学振興財団第33回日産学術研究助成金 | 運転支援システムの支援限界に対する過信をもたらす要因の探求 | 19.5 |
| システム情報工学研究科 (計算科学研究センター) 講師 | 川島 英之 | みずほ学術振興基金 | 異種ロボット間におけるジェスチャコンテンツ共有基盤の構築 | 19.4 |
| システム情報工学研究科 講師 | 谷口 綾子 | 社団法人土木学会技術推進機構 平成19年度地域ITの実践に関する調査研究(国土交通省国土技術政策総合研究所からの委託) | IT・アナログ連携型公共交通情報提供システムに関する研究開発 | 19.12 |
| システム情報工学研究科 講師 | 延原 肇 | 財団法人テレコム先端技術支援センター研究助成 | 超高耐性電子透かし技術のための超離散的画像符号化 | 19.4 |
| 生命環境科学研究科 (北アフリカ研究センター) 教授 | 磯田 博子 | 地域イノベーション創出総合支援事業「シーズ発掘試験」 | カフェオイルキナ酸を用いたアルツハイマー症予防食品の研究開発 | 19.7 |
| 生命環境科学研究科 (北アフリカ研究センター) 教授 | 磯田 博子 | 三井物産環境基金 | 北アフリカの限界乾燥地域における有用生物資源の調査研究 | 20.3 |
| 生命環境科学研究科 (農林技術センター) 准教授 | 田島 淳史 | 全国大学附属農場教育賞 | わが国における農学教育カリキュラムの分析によるフィールドサイエンスセンター教育構築へのアプローチ | 19.10 |
| 生命環境科学研究科 (下田臨海実験センター) 講師 | 笹倉 靖徳 | 公益信託成茂動物科学振興基金 | 原始脊索動物ホヤ幼生の神経細胞アトラスの作製 | 19.9 |
| 生命環境科学研究科 講師 | 中野賢太郎 | 財団法人住友財団研究助成金 | 織毛虫テトラヒメナから辿る細胞質分裂の分子機構の確立過程についての研究 | 19.11 |
| 生命環境科学研究科 (下田臨海実験センター) 研究員 | 保住 暁子 | (社)日本動物学会 平成19年度江上基金 | Analysis of Axonemal Proteins in <i>Ciona intestinalis</i> | 19.5 |

| 所属・職名 | 氏名 | 賞名 | 受賞論文等 | 受賞月 |
|-----------------------|---------------|-----------------------------------|--|-------|
| 人間総合科学研究科 教授 | 有波 忠雄 | 財団法人 先進医薬研究振興財団 | ゲノムワイド解析による統合失調病の抗精神病薬原性遅発性ジスキネジアの病態解析 | 19.12 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 加藤 光保 | 日本化学工業協会 | 化学発がん物質の解毒を抑制する宿主要因-トランスフォーミング増殖因子 β シグナルによるNrf2活性の抑制機序の解析 | 19.12 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 衣笠 隆 | 財団法人 大和証券ヘルス財団第34回調査研究助成(平成19年度) | 高齢者の転倒経験は静的バランス能力, 動的バランス能力, 反応バランス能力によって相違するか? | 19.11 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 熊谷 嘉人 | レドックス生命科学第170委員会「産学共同研究のための研究費助成」 | 環境中親電子性物質によって化学修飾を受けたレドックスセンサーを認識するC-S切断酵素の探索 | 19.11 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 高橋 智 | 第39回(2007年度)内藤記念科学奨励金 | 大Maf群転写因子の細胞分化と疾患発症における機能解析 | 19.11 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 高橋 智 | 財団法人 病態代謝研究会 | 細胞分化における大Maf群転写因子MafA, MafBの機能解析 | 19.12 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 田神 一美 | 日本道路会議奨励賞 | テニスコート舗装の輻射熱測定 | 19.11 |
| 人間総合科学研究科 教授 講師 | 玉岡 晃 富所 康志 | 2007年度アストラゼネカ・リサーチ・グラント | Analysis of novel A β molecule in Alzheimer brains | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 土屋 尚之 | 平成19年度第39回内藤記念科学奨励金 | リウマチ膠原病の病因・病態におけるI型インターフェロン関連遺伝子群の役割に関する研究 | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 松崎 一葉 | 茨城産業保健推進センター研究助成 | 『ラインケア支援の方策マニュアル』を用いた管理職教育とその効果に関する実践研究 | 19.5 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 吉川 裕之 | 財団法人 喫煙科学研究財団 | 子宮頸部発がんの危険因子としての喫煙に関する研究 | 19.6 |
| 人間総合科学研究科 教授 | 濱田 博文 | 財団法人文教協会平成19年度調査・研究助成 | 小・中学校における学校教職員の多様化の進展と協働の実態に関する基礎的研究 | 19.7 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 小池 関也 | 財団法人ミズノスポーツ振興会助成金 | 全身の運動方程式に基づく高速スポーツ動作の動力学的分析 | 19.5 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 鴨田 知博 | 財団法人 成長科学協会 | 特発性低身長症におけるIGFBP-1遺伝子多型に関する研究 | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 小島 寛 | 平成19年度第15回黒住医学研究振興財団研究助成 | 同種造血幹細胞移植後急性GVHDの客観的診断マーカーとしての血中可溶性CD226測定意義の検討 | 19.10 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 小島 寛 | 桐仁会研究助成 | 血液学領域における研究 | 19.10 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 小島 寛 | 財団法人先進医薬研究振興財団 | 巨核球造血, 血小板産生, 血小板活性化におけるアポトーシス関連シグナルの関与 | 19.11 |

| 所属・職名 | 氏名 | 賞名 | 受賞論文等 | 受賞月 |
|------------------|--------------|--|--|-------|
| 人間総合科学研究科 准教授 | 渋谷 和子 | 財団法人 病態代謝研究会 | 実験的自己免疫性脳脊髄炎（EAE）病態におけるDNAM-1の役割 | 19.12 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 島野 仁 | 財団法人 日本応用酵素協会 | HMG CoA還元酵素骨格筋特異的ノックアウトマウスを用いたスタチン作用横紋筋融解症発症機序に関する研究 | 19.6 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 島野 仁 | 財団法人地域医学研究基金 | 脂質転写調節因子SREBP1cの腎臓作用の解析に関する研究 | 20.2 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 高野 晋吾 | 財団法人内視鏡医学研究振興財団 | 神経内視鏡による深部脳腫瘍の生物学的特性診断（腫瘍血管新生と低酸素状態）とvascular targeting療法の確立 | 20.1 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 竹越 一博 | 山口内分泌疾患研究振興協会 | 悪性褐色細胞腫の遺伝子解析法と悪性化機序に関する研究 | 20.2 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 橋本佐由理 | 生き生き健康増進財団 生活習慣病予防等に関する研究助成金 | 糖尿病患者への生き方変容支援による血糖改善効果 | 20.3 |
| 人間総合科学研究科 准教授 | 本間 真人 | 財団法人臨床薬理研究振興財団 | SCN5AとCYP2D6遺伝子多型解析によるナトリウムチャンネル阻害剤の適正使用に関する研究 | 19.12 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 石黒 浩毅 | 公益信託今井きみ記念ストレス関連疾患研究助成基金 | ストレス誘因のうつ病やアルコール依存症における内因性カナビノイドの作用の解明 | 19.6 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 大川(鎮西) 敬子 | 日本人工臓器学会Yoshimi Memorial T.M.P.Grant | 細胞の分化を誘導する力学的nicheの検索 | 20.2 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 大越 靖 | 愛知県がん研究振興会 第32回（平成19年度）がんその他の悪性新生物研究助成 | 自己血清とリツキシマブの脳室内投与による脳悪性リンパ腫の新規治療法の開発 | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 奥脇 暢 | (財)金原一郎記念医学医療振興財団助成金 | 白血病関連遺伝子NPM1の変異と細胞がん化 | 19.11 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 小野寺雅史 | (財)三井生命厚生事業団 医学研究助成 | 乳癌に対する癌ワクチンとしての遺伝子改変HER2発現樹状細胞の臨床応用化 | 19.10 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 角 大悟 | 住友財団環境研究助成 | メチル水銀に対する生体防御における転写因子Nrf2の役割及びNrf2活性化食品成分によるメチル水銀の毒性軽減 | 19.11 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 中川 嘉 | 財団法人ノバルティス科学振興財団 | 生活習慣病改善因子TFE3による脂質代謝異常の改善プログラムの構築 | 19.6 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 中川 嘉 | 財団法人 武田科学振興財団 | 肥満形成を制御する転写因子TFE3の分子基盤の解明 | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 中川 嘉 | 財団法人 病態代謝研究会 | 脂肪組織のTFE3による生活習慣病病態への統合的機能解析 | 19.12 |

| 所属・職名 | 氏名 | 賞名 | 受賞論文等 | 受賞月 |
|---------------------------------------|--------|-------------------------------------|--|-------|
| 人間総合科学研究科 講師 | 中川 嘉 | (財)医学応用研究財団 第27回(平成19年度)研究 助成 | エネルギー代謝に関する新たな 転写因子CREB-Hの機能解析 | 20.1 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 名川 勝 | 千葉県血清研究所記念保健 医療福祉基金調査研究事業 | ニートや、在宅期間が長いなど非 社会的な課題を抱える発達障害者 等に対する支援に関する実践的研 究 | 19.6 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 三輪 佳宏 | 財団法人 島津科学技術振 興財団 | デグラトンプローブを用いた動物 個体内分子イメージングと数学的 評価に関する研究 | 20.1 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 山岸 良匡 | 平成19年度かなえ医薬振興 財団海外留学助成金 | 大規模多人種コホートにおける循 環器疾患の遺伝及び環境要因に関 する疫学研究 | 19.10 |
| 人間総合科学研究科 講師 | 巖 栄治 | 財団法人上原記念生命科学 財団 | ストレス因子による新たな摂食調 節機構に関する研究 | 20.1 |
| 人間総合科学研究科 助教 | 鈴木 裕之 | 財団法人 武田科学振興財 団 | Tsc-22による幹細胞の増殖制御 機構 | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 助教 | 小金澤禎史 | 財団法人 武田科学振興財 団 | 人工脳脊髄液灌流標本を用いた交 感神経自発放電発生機構への電気 生理学的アプローチ | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 助教 | 小金澤禎史 | (財)金原一郎記念医学医療振 興財団助成金 | 低酸素環境下における交感神経緊 張性放電発生機構の解明 | 19.9 |
| 人間総合科学研究科 助教 | 中田 由夫 | (財)ミズノスポーツ振興会 | 運動実践がもたらすメタボリック シンドローム構成因子の改善：加 齢を考慮した検討 | 19.6 |
| 人間総合科学研究科 (先端学際領域研究 センター) 助教 | 村田聡一郎 | 上原記念生命科学財団研究 奨励金 | 血小板による肝硬変治療法の研究 | 19.12 |
| 図書館情報メディア 研究科 講師 | 水落 憲和 | 財団法人吉田科学技術財団 研究助成金 | 高品質ダイヤモンドの合成及び多 量子ビットの実証と量子アルゴリ ズムの実証研究 | 19.8 |
| 北アフリカ研究セン ター 研究員 | 韓 峻奎 | 地域イノベーション創出総 合支援事業「シーズ発掘試 験」 | チュニジアオリーブ由来 apigenin7-glucosideの白血病細胞 分化誘導作用 | 19.7 |
| 北アフリカ研究セン ター 研究員 | 山田パリーダ | 地域イノベーション創出総 合支援事業「シーズ発掘試 験」 | 天然有機物由来フルボ酸を用いた 抗アレルギー物質の研究開発 | 19.7 |

(3) 科学研究費補助金決定状況 (新規+継続分)

ア 総括表

(平成20年3月31日現在) (単位：千円)

| 研究科 | 種目 | 特別推進研究 | | 特定領域研究 | | 特別研究促進費 | | 学術育成研究費 | | 基礎研究(S) | | 基礎研究(A) | | | | 基礎研究(B) | | | | 基礎研究(C) | | 若手研究(若手研究) | | 若手研究(A) | | 若手研究(B) | | 萌芽研究 | | 研究成果公開促進費 | | 特別研究員奨励費 | | 合計 | |
|--------|--------------|--------|--------|--------|---------|---------|-------|---------|----|---------|---------|---------|---------|----|--------|---------|---------|------|--------|---------|---------|------------|--------|---------|---------|---------|---------|------|---------|-----------|--------|----------|---------|--------|-----------|
| | | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 一般 | | 海外学術 | | 審査区分 | | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| | | | | | | | | | | | | | | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 人文社会科学 | 研究 | 1 | 52,390 | 2 | 12,200 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 11,440 | 15 | 52,780 | 8 | 27,170 | 51 | 60,580 | 1 | 1,390 | 0 | 0 | 26 | 23,900 | 10 | 8,600 | 2 | 10,500 | 20 | 17,199 | 137 | 278,149 |
| ビジネス科学 | 研究 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 10,660 | 8 | 38,870 | 1 | 4,160 | 12 | 17,550 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 6,537 | 4 | 4,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 33 | 82,277 |
| 数理物質科学 | 研究 | 1 | 10,790 | 41 | 241,000 | 1 | 1,000 | 0 | 0 | 3 | 93,600 | 8 | 130,910 | 0 | 0 | 31 | 143,855 | 0 | 0 | 45 | 73,877 | 2 | 2,590 | 2 | 22,100 | 15 | 23,800 | 0 | 0 | 0 | 0 | 32 | 26,569 | 213 | 809,591 |
| システム情報 | 工学研究科 | 0 | 0 | 6 | 19,900 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 68,640 | 0 | 0 | 27 | 141,440 | 2 | 4,160 | 39 | 59,280 | 3 | 3,260 | 2 | 21,190 | 20 | 28,900 | 1 | 1,700 | 10 | 8,800 | 143 | 387,270 | | |
| 生命環境科学 | 研究 | 0 | 0 | 17 | 114,087 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 79,950 | 12 | 138,190 | 2 | 19,370 | 27 | 127,530 | 7 | 27,820 | 22 | 38,350 | 2 | 2,740 | 6 | 47,580 | 17 | 26,600 | 4 | 9,757 | 32 | 29,681 | 172 | 691,821 | | |
| 人間総合科 | 学 研究科 (人間系) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 21,060 | 2 | 20,670 | 7 | 31,590 | 1 | 1,560 | 17 | 24,960 | 1 | 1,080 | 1 | 4,810 | 5 | 4,700 | 1 | 2,100 | 8 | 6,300 | 52 | 125,051 | | |
| 人間総合科学 | 研究科(体芸) | 0 | 0 | 4 | 36,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 58,370 | 1 | 11,180 | 28 | 151,450 | 0 | 0 | 27 | 40,188 | 2 | 2,640 | 0 | 0 | 10 | 10,026 | 13 | 12,700 | 0 | 0 | 12 | 11,700 | 103 | 334,754 |
| 人間総合科学 | 研究科(医学) | 0 | 0 | 22 | 126,900 | 2 | 7,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 45,760 | 1 | 10,010 | 25 | 165,100 | 2 | 11,440 | 52 | 94,787 | 4 | 5,100 | 2 | 26,130 | 31 | 43,453 | 21 | 31,100 | 0 | 0 | 14 | 13,000 | 179 | 580,280 |
| 人間総合科学 | 研究科(附属学校教育局) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 10,920 | 0 | 0 | 1 | 1,430 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 900 | 1 | 300 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 13,550 | |
| 図書館情報 | メディア研究科 | 0 | 0 | 1 | 3,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 19,630 | 0 | 0 | 10 | 14,170 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 8,300 | 4 | 3,100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 27 | 48,200 |
| 計算科学研究 | センター | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1,170 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 4,400 | 7 | 6,070 |
| 先端学際領域 | 研究センター | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 90 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 90 | |
| 体育センター | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 500 | |
| 研究基盤総合 | センター | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1,520 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1,520 | |
| 附属病院 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 合計 | | 2 | 63,180 | 93 | 553,587 | 3 | 8,500 | 0 | 0 | 6 | 173,550 | 39 | 473,590 | 7 | 72,670 | 175 | 883,165 | 21 | 76,310 | 277 | 426,342 | 15 | 18,800 | 13 | 121,810 | 173 | 201,613 | 110 | 144,300 | 8 | 24,057 | 133 | 117,649 | 1,075 | 3,359,123 |

※奨励研究は除く。

イ 種目別採択状況

(金額の単位：千円)

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|----------|-----------|-----------|-------|---|---|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 特別推進研究 | 16002003 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 梅村 雅之 | 融合型並列計算機による宇宙第一世代天体の起源の解明 | 10,790 |
| | 17002001 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 辻中 豊 | 日韓米独中における3レベルの市民社会構造とガバナンスに関する総合的比較実証研究 | 52,390 |
| 特定領域研究 | 14087201 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | 澤村 京一 | 求愛歌による性的隔離の分子機構 | 7,000 |
| | 16073204 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 木越 英夫 | 海洋産生物活性物質の合成と活性発現の分子機構 | 7,100 |
| | 16074203 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 大塩 寛紀 | 外場応答性配位空間の創成と機能発現 | 3,100 |
| | 16082203 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 吉川 正志 | 先進シナリオに則した電位閉じ込め効果究明のための新しい電位計測 | 2,900 |
| | 17013016 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 高橋 智 | Mafがん遺伝子による細胞のがん化機構の解明 | 9,400 |
| | 17013018 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 永田 恭介 | 転座型クロマチンリモデリング因子による細胞がん化機構の解析 | 10,700 |
| | 17015006 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 赤座 英之 | 前立腺がんのリスク評価と化学予防 | 16,200 |
| | 17022052 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 設楽 宗孝 | 動機づけに基づく目標指向行動の脳内情報処理メカニズムの解明 | 11,700 |
| | 17024006 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 榊 正幸 | 神経回路形成の動態を制御する新規細胞間シグナルの解析 | 18,900 |
| | 17054004 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 深水 昭吉 | 転写修飾を介したホメオスタシスを制御するDECODER回路の解明 | 25,300 |
| | 17054005 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 柳澤 純 | 核内レセプターの転写を制御するユビキチンリガーゼ複合体の研究 | 21,000 |
| | 17063001 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 常木 晃 | 西アジアにおける都市化過程の研究 | 7,400 |
| | 17064002 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 押山 淳 | ナノ・バイオ物質における形状と機能の量子デザイン | 10,200 |
| | 17069004 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 大塚 洋一 | 固定電極にリンクしたナノスケール導体の電気伝導特性 | 30,800 |
| | 17079008 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 金保 安則 | G蛋白質シグナルによるリン脂質代謝制御と細胞形態制御の分子メカニズム解析 | 19,000 |
| | 18012009 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 加藤 光保 | がんの発生におけるTGF-βシグナルの役割に関する遺伝子改変マウスを用いた研究 | 4,900 |
| | 18014005 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 吉川 裕之 | 子宮頸部発がんの宿主要因としてのHLA遺伝子多型に関する民族疫学的研究 | 5,400 |
| 18016002 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 三輪 佳宏 | 生細胞内分子間相互作用の定量的解析技術の開発 | 3,600 | |
| 18017003 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 漆原 秀子 | 細胞性粘菌を用いた多細胞体制成立のゲノム基盤に関する研究 | 4,300 | |
| 18017011 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 石田健一郎 | ヌクレオモルフゲノムをモデルとした共生者ゲノムの縮小進化に関する比較ゲノム解析 | 4,800 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|----------------------------|-------------|-------------|-------------|----------------------------------|---|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 特 定 領 域 研 究 | 18018003 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 野口恵美子 | 大規模全ゲノム関連解析によるアトピー性喘息疾患遺伝子の探索 | 4,300 |
| | 18018005 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 土屋 尚之 | 全身性エリテマトーデスの遺伝素因におけるI型インターフェロン制御系分子群の役割 | 3,600 |
| | 18019006 | 人間総合科学研究科 | ・ 助教 | 小金澤禎史 | 睡眠覚醒サイクル発現におけるオレキシン神経の役割について | 2,200 |
| | 18020006 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 桜井 武 | 扁桃体機能、情動の制御に関わる新規神経ペプチドの検索とその生理作用の解明 | 3,600 |
| | 18022006 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 古久保克男 (徳永克男) | ショウジョウバエキノコ体をモデルとする高次構造構築機構の分子遺伝学的解析 | 3,800 |
| | 18023008 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 玉岡 晃 | 酸化ストレスによるBACE1発現変化とアミロイドβ蛋白との相関に関する解析 | 2,400 |
| | 18023009 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 有波 忠雄 | 統合失調症のジェネティクス・エピジェネティクス解析に基づく疾患パスウェイ解析 | 4,300 |
| | 18026002 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 講師 | 平下 博之 | サブミリ波での原始銀河観測に向けた理論的枠組みの構築 | 1,000 |
| | 18028006 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 講師 | 二瓶 雅之 | 外場誘起スピン転移による分子性導体の伝導性制御 | 2,000 |
| | 18029010 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 水林 博 | 水素誘起構造緩和およびパルス通電結晶化による金属ガラスの安定性と結晶化の研究 | 3,200 |
| | 18030003 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 准教授 | 佐々木正洋 | マイクロプラズマ制御のための微視的表面物性の計測と制御 | 2,400 |
| | 18032015 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 繁森 英幸 | 多元的スクリーニング系を用いた未開拓乾燥地生物資源由来の生体機能分子の探索 | 3,100 |
| | 18033004 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 齋藤 一弥 | 異方性固体の反応速度論 | 2,100 |
| | 18033005 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 鍋島 達弥 | 動的錯体による応答性配位空間の創出と機能の多段階制御 | 1,900 |
| | 18033006 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 山本 泰彦 | 四重鎖DNAを利用したヘム錯体の空間配列制御とヘム核酸創製 | 1,900 |
| | 18033007 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 寺西 利治 | 多座チオール配位子空間に閉じ込められた微細金ナノ粒子の特異電子・光物性 | 1,700 |
| | 18035002 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 准教授 | 市村 真 | イオンサイクロトロン周波数帯の高周波入射によるプラズマ診断法の開発 | 1,900 |
| | 18043007 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 初貝 安弘 | 量子液体相におけるトポロジカル秩序 | 1,400 |
| | 18051002 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 渋谷 彰 | 精子細胞分化におけるFcα/μRの役割 | 3,600 |
| | 18051003 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 谷本 啓司 | YAC-TgMを用いた受精後メチル化インプリンティング成立・維持機構の解明 | 2,700 |
| 18052001 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 島野 仁 | CDKインヒビターp21の脂肪細胞分化、肥大化における役割の検討 | 4,300 | |
| 18054004 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 准教授 | Boero Mauro | タンパク質超分子中のプロトン移動機構の電子レベルでの解明 | 3,300 | |
| 18055004 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 奥脇 暢 | クロマチンの構造・機能を制御する酸性分子シャペロン | 4,100 | |

| 種 目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研 究 課 題 名 | 交付を 受けた 研究費 |
|----------------------------|-----------|-----------|-------|----------------------------|---------------------------------------|-------------------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏 名 | | |
| 特 定 領 域 研 究 | 18055030 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 久武 幸司 | 新規コアクチベーターによる転写過程の包括的調節機構の解析 | 4,300 |
| | 18057003 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 三輪 佳宏 | デグラトンプローブを用いたG蛋白質相互作用因子の解析 | 2,800 |
| | 18058014 | 生命環境科学研究科 | ・ 助教 | 増本 博司 | 真核生物におけるヒストンのアセチル化と染色体分配への関与 | 1,287 |
| | 18059004 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 三輪 佳宏 | invivoイメージングによるトランスポートソーム生理機能の解析 | 2,300 |
| | 18060004 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 渋谷 彰 | 生殖・神経環境におけるI g A / I g M抗体の機能 | 3,800 |
| | 18060005 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 塩見 健輔 | エンドスルファターゼSulfFPによる細胞間シグナリングの調節機構の解明 | 2,300 |
| | 18060006 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 馬場 忠 | 子宮の細胞外環境と精子機能制御 | 3,500 |
| | 18061001 | 人文社会科学研究所 | ・ 教授 | 砂川有里子 | 代表性を有する書き言葉コーパスを活用した日本語教育研究 | 4,800 |
| | 18063003 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 白石 賢二 | 第一原理量子論によるナノデバイス材料・界面の物性予測 | 11,900 |
| | 18063004 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 佐野 伸行 | 微視的揺らぎと少数電子系の輸送機構 | 11,400 |
| | 18064004 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 一戸 雅聡 | ケイ素-ケイ素三重結合を機軸とするケイ素多重結合の化学 | 8,900 |
| | 18064005 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 鍋島 達弥 | 金属錯体超分子の創製と分子認識・外部刺激応答機能 | 7,300 |
| | 18069001 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 上殿 明良 | III族窒化物半導体の点欠陥と発光ダイナミックスの研究 | 15,900 |
| | 18071002 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 金 信弘 | 陽子反陽子衝突実験CDFによるトップとボトム・フレーバーの物理 | 35,800 |
| | 18076006 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 千葉 智樹 | ユビキチンシステムの個体生物学 | 18,700 |
| | 19018006 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 秋根 茂久 | らせん型d-f系多核錯体を基盤とする新規な発光型自己集合体の構築 | 1,800 |
| | 19019002 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 矢花 一浩 | 光に起因する電子・イオンダイナミクスに対する実時間シミュレーション法の開発 | 1,700 |
| | 19019003 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 館野 賢 | 量子ハイブリッド分子動力学法による生体機能の量子デザイン | 2,400 |
| | 19020010 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 三浦 勝清 | ケイ素置換炭素小分子の設計・創製に基づく効率的有機合成法の開発 | 2,300 |
| | 19020011 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 藤澤 清史 | マンガンを用いた新規重合触媒の開発 | 1,700 |
| 19020012 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 関口 章 | ケイ素多重結合を活用した炭素π電子系化合物の構築 | 2,300 | |
| 19021007 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 長崎 幸夫 | 遺伝子センシングを可能とするバイオナノ粒子の材料設計 | 2,600 | |
| 19022004 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 関口 章 | アセチレンケイ素類縁体の重合によるπ共役高分子の構築 | 1,400 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|----------|-----------|--------------|-------|----------------------------------|---|-------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 特定領域研究 | 19024006 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 北川 博之 | 能動的リソースマイニングに基づく異種情報統合基盤の研究 | 5,500 |
| | 19024007 | 図書館情報メディア研究科 | ・准教授 | 藤井 敦 | WWWのオンラインマニュアル化による知識検索 | 3,000 |
| | 19024008 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 前田 敦司 | 通信端点における分散検知モジュールによる侵入防止機構 | 2,400 |
| | 19024009 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 建部 修見 | 情報爆発時代を支えるスケーラブルな広域分散ファイルシステムの研究 | 5,400 |
| | 19024010 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 森田 昌彦 | 分散表現と自律ダイナミクスに基づく人間の情報処理の計算モデル | 2,700 |
| | 19024011 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 酒井 宏 | 高い頑健性を実現する形状認知メカニズムとその形状表現形式 | 2,600 |
| | 19025002 | システム情報工学研究科 | ・講師 | 亀田 敏弘 | 分子動力学法を用いた金属多結晶の粒界近傍の現象把握と支配的メカニズム抽出 | 1,300 |
| | 19026002 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 山部紀久夫 | 極薄シリコン酸化膜の原子的レベルの膜厚高均一・高均質化技術の研究開発 | 2,400 |
| | 19027009 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 赤阪 健 | 金属内包フラーレン：ランタニド原子と典型元素の相乗効果による動的制御 | 2,600 |
| | 19027010 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 三浦 勝清 | 金属交換反応に基づく複合型元素化合物の創製と触媒的有機合成反応への利用 | 2,500 |
| | 19027011 | 数理物質科学研究科 | ・講師 | 二瓶 雅之 | シアン化物イオン架橋多核錯体における多段階電子移動と物性変換 | 2,500 |
| | 19029005 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 赤阪 健 | 未知なる金属内包フラーレンの探索 | 1,700 |
| | 19029006 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 関口 章 | 高周期元素メタロアロマティシティーの実験的及び理論的検証 | 1,800 |
| | 19031002 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 齋藤 一弥 | サーモトロピック液晶に特異的なIm3mキュービック相 | 5,000 |
| | 19037004 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | 中野賢太郎 | 自立型ナノシステムとしてのアクチン細胞骨格の細胞周期に伴う構造変換のメカニズム | 3,100 |
| | 19038003 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 奥脇 暢 | 核小体形成ダイナミクスの分子解剖 | 4,100 |
| | 19038004 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 三輪 佳宏 | 時間軸に沿った核での物質動態可視化システムの開発 | 3,900 |
| | 19041012 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 竹内 薫 | ネガティブストランドウイルスゲノムの複製と転写の分子機構と宿主制御因子 | 7,700 |
| | 19043006 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | 岩井 宏暁 | 生殖過程における細胞壁マトリックス糖鎖の作用機構に関する分子生物学的解析 | 2,900 |
| | 19043007 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 鎌田 博 | 高等植物の胚発生維持・栄養成長相への転換を制御するクロマチンリモデリング機構 | 2,800 |
| 19044007 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | 村山 明子 | ユビキチンプロテオソーム系によるクロマチン構造の変換機構の解析 | 3,200 | |
| 19044008 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 馬場 忠 | 精子GPIアンカーセリンプロテアーゼTESP5による細胞機能制御 | 3,200 | |
| 19045006 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 吉村建二郎 | 真核細胞の細胞内機械受容機構の解明 | 3,400 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|---------|----------|-------------|-------|-------|---|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 特定領域研究 | 19048011 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 准教授 | 黒田 眞司 | 強磁性半導体の特性制御とスピン源への応用 | 7,600 |
| | 19049007 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 寺西 利治 | ナノ粒子超格子に基づく光磁場増強場の創出とその新奇化学反応への展開 | 10,000 |
| | 19050001 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 新井 達郎 | 巨大構造変化を伴うフォトクロミック系の創出 | 9,100 |
| | 19054002 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 講師 | 岡田 晋 | ナノチューブ複合構造体の物性解明と物質設計 | 11,500 |
| 特別研究促進費 | 19549001 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 研究員 | 梅田 貴士 | 有限温度格子QCDによるチャーモニウム消失温度の研究 | 1,000 |
| | 19599003 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 詫間 浩 | 孤発性筋萎縮性側索硬化症におけるRNA編集新規基質の探索とバイオマーカーの開発 | 1,500 |
| | 19900005 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 山田 信博 | 日本の臨床研究推進に関する調査研究 | 6,000 |
| 基盤研究(S) | 15104005 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 守友 浩 | 放射光粉末構造解析による光励起状態の構造決定 | 11,960 |
| | 15104009 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 遠藤 一佳 | 貝殻形成に関わる遺伝子の網羅的探索：軟体動物ゲノムプロジェクトに向けて | 11,960 |
| | 17108004 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 深水 昭吉 | 妊娠中毒症における母胎間ネットワークの解明 | 21,320 |
| | 18104005 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 宇川 彰 | 超並列クラスタ計算機による計算素粒子物理学の展開 | 24,180 |
| | 19100007 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 林 純一 | 突然変異導入マウス作製による哺乳類ミトコンドリアゲノムの生理的役割の全貌解明 | 46,670 |
| | 19105001 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 関口 章 | 低配位及び多重結合高周期典型元素化合物の創製と物性に関する系統的研究 | 57,460 |
| 基盤研究(A) | 16200021 | ビジネス科学研究科 | ・ 教授 | 椿 広計 | 技術開発促進のための新たな統計科学体系とそれに基づく情報システム開発 | 10,660 |
| | 16200041 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 高木 英樹 | トータルスポーツパフォーマンス（人間力）向上を目指した教育システムの構築 | 7,540 |
| | 16200043 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 西嶋 尚彦 | 子どもの体力向上のための運動、遊び、健康生活習慣に関する研究 | 5,980 |
| | 16206012 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 巨瀬 勝美 | 超高分解能MRマイクロスコープによるヒト胚子三次元構造データベースの構築 | 4,810 |
| | 16206055 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 鈴木 弘之 | 火災加熱を受ける鋼骨組のシステムとしての構造安定性と火災時リダンダンシー | 2,730 |
| | 16208023 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 足立 泰久 | 農業環境におけるコロイド界面現象と流体運動が協同する物質動態とその予測制御 | 4,940 |
| | 17200002 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 佐藤 三久 | 大容量分散コンピューティングのための大規模スケラブルP2Pグリッド基盤の研究 | 6,760 |
| | 17202023 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 村山 祐司 | 地理情報科学の教授法の確立 | 10,010 |
| | 17203043 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 四日市 章 | インクルーシブ社会実現に向けた包括的支援システム開発 | 9,490 |
| | 17204003 | 数理工学物質科学研究科 | ・ 教授 | 山口 孝男 | 多様体の収束・崩壊理論とリッチ流および特異空間の幾何学・解析学 | 7,670 |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|-----------------------------|-----------|-------------|-------|---|--|--------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 基 盤 研 究 (A) | 17206045 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 山海 嘉之 | 自律・随意複合型サイバニックロボットスーツの開発とその基盤技術化 | 7,930 |
| | 17206062 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 日高健一郎 | ハギア・ソフィア大聖堂の修復史とその評価、および今後の修復・保存に関する研究 | 7,800 |
| | 17206083 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 村上 正秀 | P I V 計測による超流動乱流特性の解明 | 7,540 |
| | 17208001 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 渡邊 和男 | 遺伝子組換え植物のバイオセーフティーとリスクコミュニケーション：環境耐性事例展開 | 11,050 |
| | 18200005 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 北川 博之 | 高機能分散ストリーム処理に基づく実時間実世界情報基盤の構築 | 10,660 |
| | 18200011 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 大田 友一 | シースルービジョン：監視カメラ映像を活用する歩行者のための視覚支援方式の開発 | 14,820 |
| | 18200033 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 長崎 幸夫 | バイオフィロンティア界面の創成によるナノバイオセンシング | 12,090 |
| | 18201031 | システム情報工学研究科 | ・講師 | 伊藤 誠 | 非拘束モニタリングにもとづく追突防止支援と過信抑制インタフェース | 18,200 |
| | 18202027 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 山下 清海 | 日本におけるエスニック地理学の構築のための理論的および実証的研究 | 6,500 |
| | 18203040 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 中村満紀男 | 特殊教育とインクルーシブ教育の創造的融合による特別支援教育革新のための総合的研究 | 11,570 |
| | 18204028 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 舩本 泰章 | チャージチューナブル量子ドットのスピン緩和と制御 | 15,990 |
| | 18204031 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 門脇 和男 | 超伝導固有ジョセフソン接合によるテラヘルツ波の発振と応用 | 9,620 |
| | 18204043 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 田中 博 | 北極振動の成因解明と長周期変動の力学プロセスの研究 | 11,440 |
| | 18208003 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 弦間 洋 | 温暖化時代における果樹生活環の安定化－休眠芽のレドックスと水の動態制御の分子機構 | 11,830 |
| | 18208029 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 馬場 忠 | 雌性生殖器での精子機能制御の仕組み | 13,910 |
| | 18209008 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 松崎 一葉 | 睡眠・覚醒の制御機構におけるオレキシンの役割とその作用機構の解明 | 7,930 |
| | 19200033 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 八神 健一 | マイクロビーズ法によるマウス・ラット感染症の微量検査法の開発 | 20,930 |
| | 19200047 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 田中喜代次 | 要介護化予防を目的とした中・高齢期の身体機能改善のための包括的指針づくり | 17,680 |
| | 19201002 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 鞠子 茂 | 陸上生態系の炭素シンク能力における長期持続性の検証 | 13,260 |
| | 19201014 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 渡邊 信 | 炭化水素産生藻類による石油代替資源の開発に関する基盤技術研究 | 17,290 |
| 19202004 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 長田 年弘 | パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究－アジアの視座から見たギリシア美術 | 6,890 | |
| 19202027 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 田林 明 | 商品化する日本の農村空間に関する人文地理学的研究 | 11,050 | |
| 19203014 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 水鉋揚四郎 | バイオマス廃棄物の適正処理およびエネルギー利用による中国の統合的流域管理政策 | 8,970 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|---------|----------|-----------|------|-------|---|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 基盤研究(A) | 19204016 | 数理物質科学研究科 | ・講師 | 瀬田 益道 | 南極天文学を切り開くサブミリ波サーベイ望遠鏡の開発 | 26,520 |
| | 19205016 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 寺西 利治 | 平行・垂直 π 共役系で連結された微細金ナノ粒子超格子の電子輸送特性の解明 | 28,470 |
| | 19206010 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 青木 貞雄 | 時分割・元素識別可能な3次元分析X線顕微鏡の開発 | 25,740 |
| | 19208008 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 小林 達彦 | N-置換ホルムアミド代謝経路の全貌解明と有用物質生産への利用 | 17,940 |
| | 19209054 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 金子 道夫 | 神経芽腫臨床試験を基盤とした基礎医学的研究およびトランスレーショナルリサーチ | 16,900 |
| | 19209067 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 松田ひとみ | 高齢者の睡眠の質を向上させるための看護介入モデルと生理学的効果の評価指標 | 12,480 |
| | 16251002 | 人文社会科学研究所 | ・教授 | 塩尻 和子 | 現代イスラームにおける「平和と暴力」に関する比較宗教学的研究 | 11,440 |
| | 17252010 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 中田 英雄 | 途上国における特別支援教育開発の国際協力に関する研究 | 12,090 |
| | 17254003 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 斎藤 英俊 | 保存を前提とした歴史的建造物の活用に関する研究 | 11,180 |
| | 17255011 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 磯田 博子 | 北アフリカの限界乾燥地域における有用生物資源の調査研究 | 9,230 |
| | 18251002 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 安仁屋政武 | 南米パタゴニア氷原における氷河変動のメカニズムの解明と完新世古環境の復元 | 10,140 |
| | 18256005 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 我妻ゆき子 | バングラデシュ胎児コホートをを用いた、子供を取り巻く環境保健と疾病予防のための研究 | 10,010 |
| | 19252007 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 佐藤真理子 | 南南教育協力の必要性と可能性-環インド洋地域協力を留意して- | 8,580 |
| 基盤研究(B) | 16300201 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 阿江 通良 | アスリートのスポーツ障害発生の予測および予防に関するバイオメカニクス的研究 | 1,690 |
| | 16300202 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 野村 武男 | P I V法を用いた競泳動作のダイナミクスの解析とモデルの作成 | 1,690 |
| | 16310066 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 松石 清人 | 外場チューニングによる有機無機複合型ナノ量子ドット超格子の光学特性制御 | 1,040 |
| | 16320008 | 人文社会科学研究所 | ・教授 | 堀池 信夫 | 宋学西漸-イスラームからヨーロッパまで- | 2,210 |
| | 16320047 | 人文社会科学研究所 | ・准教授 | 沼田 善子 | 言語記述と言語教育の相互活性化のための日本語・中国語・韓国語対照研究 | 1,300 |
| | 16320061 | 人文社会科学研究所 | ・教授 | 鷺尾 龍一 | 助動詞の体系が言語に及ぼす影響に関する理論的・実証的総合研究 | 2,340 |
| | 16320064 | 人文社会科学研究所 | ・教授 | 小林 典子 | 言語テストS P O T - W E B版の開発と解答行動の研究 | 4,160 |
| | 16320105 | 人文社会科学研究所 | ・教授 | 常木 晃 | 西アジア先史時代における物質管理システムの研究-社会はどのように複雑化したか- | 3,250 |
| | 16330130 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 長崎 勤 | 発達障害児に対する会話発達アセスメント方法と支援プログラムの開発に関する研究 | 3,120 |
| | 16370034 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 吉村建二郎 | 鞭毛運動を制御するイオンチャネルの探索と解析 | 1,950 |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|-----------------------------|----------|--------------|-------|-------|--|-------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 基 盤 研 究 (B) | 16380003 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 大澤 良 | 他殖性ならびに自殖性植物集団における適応性関連遺伝子の挙動解析 | 3,120 |
| | 17300004 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 井田 哲雄 | 求解, 証明, 書換のインタラクションによる記号計算と記号計算グリッドの構築 | 3,900 |
| | 17300011 | システム情報工学研究科 | ・名誉教授 | 亀田 壽夫 | 情報ネットワークや分散システムにおける独立分散管理に関する研究 | 4,420 |
| | 17300028 | 図書館情報メディア研究科 | ・准教授 | 藤井 敦 | 不均一な情報の再構成によるマルチメディア百科事典コンテンツの構築と評価 | 4,550 |
| | 17300071 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | 伊藤 希 | 生物分類データベースを対象としたラフ集合理論に基づく概念体系比較に関する研究 | 2,340 |
| | 17300078 | 図書館情報メディア研究科 | ・教授 | 植松 貞夫 | 分散環境における異種メタデータの横断利用および学術機関リポジトリ運用に関する研究 | 2,730 |
| | 17300098 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 梶 正幸 | W n t シグナルを活性化する新規 D I X 蛋白 C c d 1 の神経回路形成における役割の解析 | 4,680 |
| | 17300192 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 近藤 良享 | アンチ・ドーピング教育の教材開発と支援システムの研究 | 3,900 |
| | 17300201 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 佐藤 臣彦 | 現代社会におけるスポーツの諸問題と多元的価値に関する研究 | 4,290 |
| | 17300203 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 本田 靖 | 暑熱耐性に対する幼少時からの環境・運動トレーニングの影響と改善策の開発 | 3,900 |
| | 17300205 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 徳山 薫平 | 運動が肝臓のインスリン感受性に及ぼす影響 | 4,290 |
| | 17300243 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 磯田 正美 | 科学博物館等における数学展示・実験教具とその実践手法の開発研究 | 4,420 |
| | 17300294 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 松岡 憲知 | 地球規模観測網に基づく周氷河地形変動のモデル化 | 4,030 |
| | 17310003 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 木村富士男 | アジアの多様な水問題に対応可能な地域・流域規模の降水量変動の把握と予測 | 7,540 |
| | 17310004 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 杉田 倫明 | アジア・ユーラシア大陸の蒸発量分布の年々変化と環境要因との関係の解明 | 1,170 |
| | 17310019 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 恩田 裕一 | パイピング型崩壊の発生メカニズムの解明と防災対策 | 4,680 |
| | 17310042 | 生命環境科学研究科 | ・名誉教授 | 田中 秀夫 | 自然界の微生物共生系を模した“単純な人工の活性汚泥”の構築とその利用 | 2,860 |
| | 17320023 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 五十殿利治 | 近代舞台美術に関する視覚文化的研究 | 6,110 |
| | 17320054 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 荒木 正純 | アジア(含オーストラリア)における英米文学の受容・変容(19世紀-21世紀) | 4,550 |
| | 17320076 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 加納千恵子 | 外国人学習者の漢字語彙処理能力測定システムの開発および利用に関する研究 | 3,120 |
| | 17320077 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 酒井たか子 | 聴覚刺激および視覚刺激による漢字・語彙能力と文法能力の差異の研究 | 1,300 |
| | 17330005 | ビジネス科学研究科 | ・教授 | 青柳 幸一 | 安全および予防をめぐる公法理論と政策論 | 4,810 |
| | 17330045 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 吉田あつし | 医療サービス産業の市場と組織に関する計量分析 | 5,070 |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-------------|-----------|-------|-------------------------------------|--|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (B) | 17330060 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 高崎 善人 | 紛争後の貧困と障害者の実態調査 | 9,620 |
| | 17330098 | ビジネス科学研究科 | ・ 教授 | 西尾チヅル | 環境コミュニケーションの長期効果に関する研究 | 5,330 |
| | 17330108 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 松村 和則 | 持続的ツーリズムと地域環境再生に関する理論的・実証的研究 | 3,770 |
| | 17330109 | 人文社会科学研究科 | ・ 教授 | 好井 裕明 | 被害当事者・家族のライフストーリーの社会学的研究 | 2,470 |
| | 17330144 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 大川 一郎 | 痴呆性高齢者の認知・前頭葉機能の改善に関する実験的・介入研究 | 5,590 |
| | 17330177 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 嶺井 明子 | 価値多元化社会におけるシチズンシップ教育の構築に関する国際的比較研究 | 5,460 |
| | 17330199 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 安藤 隆男 | 通常学級における脳性まひ児の学習支援に関わる開発研究 | 2,340 |
| | 17340001 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 宮本 雅彦 | 散在型有限単純群と頂点作用素代数に内包された対称性の発見 | 4,160 |
| | 17340052 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 中井 直正 | 水メーザーの観測によるセイファート銀河の統一モデルの再考 | 1,300 |
| | 17340066 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 金谷 和至 | 有限温度・有限密度QCDの非摂動論的研究 | 4,940 |
| | 17340093 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 野村晋太郎 | 結合ナノ構造中3He温度電子スピン密度分布のイメージング | 1,560 |
| | 17340101 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 神田 晶申 | メゾスコピック超伝導体における新しい渦糸状態の研究 | 2,340 |
| | 17340154 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 小笠原憲四郎 | 統合生層序に基づく本邦新生代貝類化石タイプ標本類の時間・空間分布 | 3,510 |
| | 17340158 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 角替 敏昭 | ゴンドワナ大陸衝突帯の超高温変成作用と流体組成 | 1,690 |
| | 17350077 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 中島 敏明 | メタゲノムからの生分解性プラスチック分解遺伝子の探索とモノマリーサイクルへの応用 | 4,160 |
| | 17350081 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 山本 泰彦 | 耐熱性シトクロムCの作用機構の解明と精密分子設計への応用 | 2,990 |
| | 17360004 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 秋本 克洋 | 環境温度に安定な光通信用半導体レーザの開発 | 4,420 |
| | 17360135 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 岡田 至崇 | 希釈窒化物混晶半導体量子ドットの自己形成過程とその制御 | 910 |
| | 17360253 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 福島 武彦 | 水-底質を一体化した湖沼物質収支勘定：底質の長期変化、物質収支、モデル化 | 2,730 |
| | 17360318 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 藤田 淳一 | 固相ナノチューブ成長その場観察技術の開発と触媒金属結晶面の同定 | 2,860 |
| 17360348 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 牧村 哲也 | レーザープラズマ軟X線による透明材料のナノ加工とナノ物質創製 | 2,210 | |
| 17360452 | システム情報工学研究科 | ・ 准教授 | 羽田野祐子 | 複雑系物理の手法に基づく地下水汚染予測モデルの実験的検証 | 1,430 | |
| 17370029 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 井上 勲 | エクスカバート類の微細構造・分子形質比較解析による初期真核生物像の探究 | 2,470 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-----------|--------------|-------|----------------------------------|--|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (B) | 17370030 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 町田龍一郎 | 昆虫類のベーサル・クレードの比較発生学的再考築－カマアシムシ目の発生学的研究－ | 1,950 |
| | 17380016 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 鈴木 雅和 | ネットワークゲームによる大規模都市公園の計画シミュレーションと計画者の選好特性 | 2,340 |
| | 17380051 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 星野 貴行 | 新規な有用脂肪酸エステルライブラリーの作製とその利用 | 4,680 |
| | 17380148 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 佐竹 隆顯 | 生体信号計測に基づく食品デザインに関する研究 | 4,550 |
| | 17380149 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 水谷 孝一 | 大規模空間における作物生育環境センシンググリッドの開発研究 | 3,250 |
| | 17390063 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 桜井 武 | レプチンおよびTNF α によるオレキシン産生神経の制御機構とその生理的意義の解明 | 4,550 |
| | 17390296 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 須磨崎 亮 | 肝胆瘻の発生・分化の分子機構の解明とその障害による小児疾患の病態解析 | 3,900 |
| | 17390359 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 大河内信弘 | 血小板を用いた新しい重症肝疾患に対する治療法の開発 | 2,470 |
| | 17390390 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 松村 明 | 熱外中性子を用いた悪性脳腫瘍に対する細胞選択的次世代粒子線治療の研究 | 6,110 |
| | 17390472 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 小室 広昭 | 小児に対するオーダーメイド型再生医療のための幹細胞基盤技術の開発と胎盤の利用 | 2,210 |
| | 17390575 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 江守 陽子 | 地域母子保健活動としての育児支援システム構築の試み | 3,510 |
| | 18300013 | システム情報工学研究科 | ・ 准教授 | 丸山 勉 | リコンフィギュラブルコンピューティングシステムにおける高速計算方式の確立 | 1,820 |
| | 18300040 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 岩田 洋夫 | 3次元無限歩行空間の生成とその評価 | 7,800 |
| | 18300071 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 久野 節二 | 快い匂い情報が感性の脳活動に及ぼす本能的影響とそのメカニズムの解明 | 5,720 |
| | 18300080 | 図書館情報メディア研究科 | ・ 教授 | 小野寺夏生 | 論文の引用を支配する要因に関する統計学的研究 | 5,590 |
| | 18300092 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 青嶋 誠 | 高次元小標本におけるデータ解析の数理統計学的基礎とその応用 | 3,640 |
| | 18300183 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 廣田 栄子 | 聴覚障害児における書記リテラシー形成の実態調査と評価・指導臨床システムの開発研究 | 2,340 |
| | 18300208 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 中込 四郎 | 臨床スポーツ心理学の構築 | 3,900 |
| | 18300215 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 前田 清司 | 運動の継続が動脈伸展性を改善させるメカニズムの解明：血管内皮機能との関連 | 4,940 |
| | 18300216 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 征矢 英昭 | 運動時のストレス反応とパフォーマンスに及ぼす脳幹の新規ペプチドの役割 | 11,310 |
| 18300221 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 宗像 恒次 | ウェブによるがん生存者の遠隔ストレスマネジメントシステム開発研究 | 9,750 | |
| 18310005 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 東 照雄 | 温暖化に伴う土壌有機物の動態解析と森林生態系変化予測 | 4,290 | |
| 18310051 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 内山 裕夫 | 微生物機能解析に基づく生物学的環境修復技術の新展開 | 5,850 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-------------|-------------|-------|-------------------------------------|--|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (B) | 18310075 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 木塚 徳志 | 原子ダイナミクス直接観察と対応させた単一ナノ結晶の個別分光 | 2,080 |
| | 18310101 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 山本 芳嗣 | 非対称地理データの分析とその視覚化 | 2,340 |
| | 18320018 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 山中 弘 | 場所をめぐる宗教的集合記憶と観光的文化資源の関係に関する宗教学的的研究 | 3,380 |
| | 18320063 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 森 芳樹 | 意味理解から見た言語の構成と伝達の定位と日独語の対照可能性 | 3,120 |
| | 18320115 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 山田 重郎 | テル・タバン出土の楔形文字アッカド語文書の研究 | 2,470 |
| | 18330029 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 首藤もと子 | 東アジアにおける越境労働移動の政治社会学的動態分析と入国管理政策の比較研究 | 6,240 |
| | 18330034 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 金子 守 | 帰納的ゲーム理論と限定合理性：経験からの社会観形成と行動決定 | 3,380 |
| | 18330057 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 大澤 義明 | 高速道路建設における国民投票の意義－民主主義と経済効率との対立に着目して－ | 2,990 |
| | 18330086 | ビジネス科学研究科 | ・教授 | 白田 佳子 | 破綻企業の事業再生可能性評価に関する実証研究 | 2,860 |
| | 18330161 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 大戸 安弘 | 前近代日本における識字力の分布および展開過程に関する研究 | 4,160 |
| | 18330185 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 唐木 清志 | アメリカ社会科のシチズンシップ教育に関する理論的・実践的研究 | 4,550 |
| | 18330198 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 生田 茂 | 音声発音システムを用いた特別支援教育の教材開発と教授手法の開発 | 3,770 |
| | 18330199 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 前川 久男 | 特別支援教育体制における盲・聾・養護学校のセンター的機能の確立・発展に関する研究 | 4,810 |
| | 18340034 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 磯崎 洋 | スペクトル理論・幾何学がもたらす逆問題の数値計算の発展 | 4,550 |
| | 18340126 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | 平井 寿子 | メタンハイドレートの超高温・高圧下における相変化と巨大氷惑星内部構造の推定 | 910 |
| | 18360005 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 末益 崇 | シリサイド半導体の禁制帯幅拡大と伝導型制御による高効率太陽電池 | 5,200 |
| | 18360006 | 数理物質科学研究科 | ・名誉教授 | 滝田 宏樹 | 強磁性半導体のドーピングによる磁性制御と電界制御磁気デバイスへの応用 | 6,240 |
| | 18360017 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 白石 賢二 | ナノ界面理論の新展開とそのナノデバイスへの応用 | 4,810 |
| | 18360029 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 安野 嘉晃 | 加齢黄斑変性の発生機構解明のためのヒト眼底分子ラマン分光イメージング装置の開発 | 4,810 |
| | 18360030 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 浅川 潔 | 半導体フォトリソニック結晶スラブ導波路における光パルス伝搬と非線形光学現象の基礎研究 | 8,060 |
| 18360043 | 数理物質科学研究科 | ・講師 | 笹 公和 | 極微量放射性核種シリコン32の加速器質量分析による超高感度検出法の開発 | 4,940 | |
| 18360044 | 数理物質科学研究科 | ・講師 | 渡辺 紀生 | ゾーンプレートを用いた硬X線干渉顕微鏡の開発とその応用 | 6,370 | |
| 18360083 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 阿部 豊 | 浮遊液滴の非線形ダイナミクスに関する研究 | 9,230 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|-----------------------------|-------------|-------------|-------|-----------------------------------|--|-------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 基 盤 研 究 (B) | 18360116 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 坪内 孝司 | 屋外を走行する作業自律移動機械の測位手法の定式化に関する研究 | 4,680 |
| | 18360160 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 佐野 伸行 | ナノスケール素子における高濃度電子輸送の3次元粒子シミュレーションによる研究 | 2,340 |
| | 18360223 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 山田 恭央 | 土粒子運動から構築する低速～高速地盤流動構成モデルの開発と応用 | 6,370 |
| | 18360241 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 石田 東生 | 乗用車の長期的走行再現シミュレータの開発と代替燃料車普及戦略への応用 | 6,110 |
| | 18360301 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 水林 博 | 非晶質合金におけるパルス通電結晶化とパルス通電再非晶質化に関する研究 | 2,470 |
| | 18360441 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 長 照二 | 帯状流の乱流渦によるプラズマ閉じ込め劣化の抑制効果と内部輸送障壁形成の相関究明 | 2,285 |
| | 18370053 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 金保 安則 | 脂質性シグナル伝達系の生理機能解析 | 7,670 |
| | 18380146 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 瀧川 具弘 | ヒッチ点位置制御によるけん引作業の効率化 | 5,460 |
| | 18390080 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 入江 賢児 | 細胞間接着シグナリングによる細胞極性の形成機構 | 4,030 |
| | 18390081 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 高橋 智 | 単球・マクロファージ系列の細胞分化における大Maf群転写因子の機能解析 | 5,070 |
| | 18390158 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 前野 哲博 | 医師過重労働と医療ミスに関する実証研究－医療の「安全と安心」確保のために－ | 1,950 |
| | 18390194 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 谷川 武 | 睡眠呼吸障害と高血圧・糖尿病の発症に関する前向き大規模コホート研究 | 6,630 |
| | 18390203 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 森田 展彰 | 薬物依存症者に対する心理プログラムの有効性に関する多施設研究 | 1,560 |
| | 18390268 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 山田 信博 | メタボリックシンドロームにおけるエネルギー代謝調節因子の探索とその機能解析 | 8,060 |
| | 18390359 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 小田 竜也 | 受容体を標的にしたりガンドートキシン産生細胞をマイクロカプセル化した新規抗癌治療 | 3,380 |
| | 18390374 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 平松 祐司 | TFP I 動員による体外循環中の組織因子阻害はヘパリンに代わる抗凝固戦略となるか？ | 2,210 |
| | 18390534 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 吉田 広 | 酸化ストレスタンパク質コンディショナルノックアウトマウスを用いた口腔病変の解析 | 5,850 |
| | 19300001 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 佐々木建昭 | 近似代数の算法と応用の研究 | 5,720 |
| | 19300004 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 追川 修一 | 組み込み非対称マルチコアシステムのための仮想基盤環境 | 3,900 |
| | 19300005 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 加藤 和彦 | 高水準なポリシー記述を可能にするアクセス制御機能 | 7,020 |
| 19300015 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 新城 靖 | 開かれた計算環境におけるケーパビリティに基づくアクセス制御 | 3,120 | |
| 19300033 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 田中 二郎 | ユビキタス環境用情報提示基盤ソフトウェアの研究開発 | 6,370 | |
| 19300074 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 宮本 定明 | ラフセット・クラスタリング技法の確立－ラフ集合論の新たな局面の開拓 | 7,150 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|-----------------------------|-------------|--------------|-------|--------------------------|--|--------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 基 盤 研 究 (B) | 19300081 | 図書館情報メディア研究科 | ・教授 | 杉本 重雄 | デジタル資料の長期保存とデジタルアーカイブの長期利用性に関する総合的研究 | 6,760 |
| | 19300143 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 杉山 文博 | メタボリックシンドローム・コンソミック系統の開発 | 5,070 |
| | 19300180 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 椎名 毅 | 超音波サテライトビュー映像法：高次生体機能・性状情報イメージング技術の開発 | 9,490 |
| | 19300208 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 酒井 利信 | 武道文化に関する教材の開発 | 3,900 |
| | 19300209 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 坂入 洋右 | ベスト・パフォーマンスのための個性対応型“身心の自己調整システム”の開発 | 3,120 |
| | 19300210 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 三木ひろみ | 体育学部生のキャリアプランニング教育プログラムと教材の開発 | 3,900 |
| | 19300213 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 藤井 範久 | 身体運動の最適化における運動決定規範に関する研究 | 8,710 |
| | 19300214 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 柳沢 和雄 | 新自由主義思想と生涯スポーツ振興体制の構造変容に関する研究 | 3,640 |
| | 19300215 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 西保 岳 | 反射性循環調節の複合作用とそのトレーニング効果に関する研究 | 13,130 |
| | 19300219 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 武政 徹 | サルコペニアの進行を運動負荷が抑制するメカニズムの解明 | 12,610 |
| | 19300228 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 河野 一郎 | 高齢者における免疫機能の低下に対する運動効果に関する研究 | 7,540 |
| | 19300229 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 久野 譜也 | メタボリックシンドローム予防を可能とする世代別の筋力水準及び運動プログラムの開発 | 8,320 |
| | 19300238 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 福井 幸男 | 製品の身体適合性評価指標の開発 | 2,860 |
| | 19300259 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 大高 泉 | ドイツ・アメリカ等における持続可能性のための環境教育の新展開と成果の国際比較研究 | 4,680 |
| | 19300271 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 北脇 信彦 | 超高速インターネット衛星によるユビキタス・ネットワークをつかった先端遠隔地教育 | 5,850 |
| | 19300304 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 田瀬 則雄 | 富士山周辺湧水の年代測定と地下水流動系の解明 | 7,020 |
| | 19300305 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 松倉 公憲 | 石灰岩の風化・剝蝕速度とカルスト地形の形成プロセス | 7,020 |
| | 19310003 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 濱 健夫 | 海洋腐植物質の動態とその海洋炭素循環における意義 | 12,220 |
| | 19310068 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 黒田 眞司 | 半導体中の磁性不純物の価数制御による強磁性ナノクラスターの自己形成 | 15,210 |
| | 19310104 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 糸井川栄一 | 市街地火災安全基準の性能規定化に関する数理的研究 | 9,880 |
| 19320070 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 廣瀬 幸生 | 談話のタイプと文法に関する日英語対照言語学的研究 | 3,250 | |
| 19330019 | ビジネス科学研究科 | ・教授 | 弥永 真生 | 商事法における会計基準の受容 | 3,120 | |
| 19330081 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 渡辺真一郎 | ワーク・ファミリー関係論の組織心理学的発展 | 2,600 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-----------|-------------|-------|--|--|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (B) | 19330126 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 安梅 勅江 | 大規模コホート調査に基づく気になる子どもへの早期支援プログラムの開発研究 | 4,290 |
| | 19330140 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 松井 豊 | ジャーナリストの惨事ストレスに対するケアシステムの構築 | 3,770 |
| | 19330152 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 小玉 正博 | 若年無業者の自立支援・社会参加のための心理教育プログラム開発に関する総合的研究 | 11,050 |
| | 19330167 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 水本 徳明 | 学校経営に関わるコンサルテーションのニーズ・手法・理論に関する研究 | 4,680 |
| | 19330196 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 清水 美憲 | 学習者の観点からみた算数・数学科授業に関する比較文化的研究 | 5,200 |
| | 19340020 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 赤平 昌文 | 生物情報を解明するための統計数学的基礎理論とその応用 | 4,940 |
| | 19340108 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | Boero Mauro | 電子ダイナミクスに基づく生体分子触媒反応のシミュレーション | 10,010 |
| | 19360082 | システム情報工学研究科 | ・ 准教授 | 榊原 潤 | 白内障手術に起因した角膜内皮細胞剥離を抑制するための手術用ハンドピースの開発 | 10,790 |
| | 19360268 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 吉田 友彦 | 高度成長期の首都圏における居住構造変容の日中比較研究 - 北京と東京を事例として - | 6,370 |
| | 19360269 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 大村謙二郎 | 社会経済の構造転換時代における地方中核産業都市の地域再生方策に関する日独比較研究 | 3,250 |
| | 19360285 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 上殿 明良 | 低速陽電子ビームによる絶縁膜/Si界面の遷移層及び歪の研究 | 2,600 |
| | 19360363 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 富重 圭一 | 微量で顕著な添加効果を示す貴金属修飾触媒の微細構造解析 | 8,840 |
| | 19360369 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 鈴木 博章 | 細胞情報センシングのための電気化学マイクロデバイスの構築 | 10,010 |
| | 19360370 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 青柳 秀紀 | プロトプラストの機能を高度利用した新規機能性物質の創製と利用 | 10,660 |
| | 19380133 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 佐藤 政良 | 日本とアジア諸国における参加型灌漑管理実現の共通原理 | 7,540 |
| | 19380190 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 谷本 啓司 | 染色体間相互作用による遺伝子発現制御メカニズムのin vivo解析 | 3,120 |
| | 19390014 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 柳澤 純 | 核内レセプターによる蛋白質分解機構の解析 | 10,010 |
| | 19390245 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 島野 仁 | 新規生活習慣病改善転写因子TFE3の多面的代謝作用機構の解析 | 11,310 |
| | 19390257 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 渋谷 彰 | DNAM-1を分子標的とした移植片対宿主病に対する免疫療法の基盤開発 | 9,880 |
| | 19390270 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 渋谷 和子 | LFA-1による自己反応性Th17細胞の分化・活性化・維持メカニズムの解析 | 8,060 |
| 19390271 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 土屋 尚之 | リウマチ膠原病のゲノム医療に向けての遺伝因子、環境因子、遺伝子環境相互作用の解析 | 5,590 | |
| 19390313 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 武田 徹 | 小動物用の機能・形態画像同時イメージング装置の開発 | 12,740 | |
| 19390387 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 落合 直之 | 末梢神経緩徐伸長による神経欠損間隙修復法の開発 | 9,360 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-------------|-------------|-------|---------------------------------------|--|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (B) | 19390402 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 高橋 宏 | 麻酔覚醒反応におけるオレキシン産生神経の役割：各種遺伝子操作マウスを用いた解析 | 11,830 |
| | 19390424 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 吉川 裕之 | 子宮頸癌撲滅のためのHPV型共通予防ワクチンの開発研究と治療ワクチンの基礎的研究 | 6,890 |
| | 19390439 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 大鹿 哲郎 | 高速Swept Source光干渉断層計の開発と前眼部の3次元・定量的解析 | 11,050 |
| | 19390545 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 川口 孝泰 | 複雑系カオス解析を用いたバイタルサイン情報の測定手法の開発 | 9,490 |
| | 16401022 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 村尾 修 | 台湾集集鎮における復興過程の構造化と世界の都市復興アーカイブに関する研究 | 3,380 |
| | 16401026 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 内山田 康 | ケララの場所を巡る宗教的実践と政治的実践に関する人類学的研究－クラヴァの事例 | 1,690 |
| | 16401027 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 古家 信平 | 遺体処理と祭祀に関する比較民俗学的調査研究 | 4,940 |
| | 16402012 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 高崎 善人 | 南太平洋伝統社会における持続的開発に関する世帯・共同体調査 | 3,900 |
| | 16402019 | ビジネス科学研究科 | ・教授 | 永井 裕久 | メタ認知活用による環境適合型グローバル・リーダーシップ行動モデルの構築 | 4,160 |
| | 17401018 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 片岡 一忠 | イラン・ファルス地方シヴァンド川ダム建設に伴う歴史資料・遺跡救済プロジェクト | 4,290 |
| | 17401025 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 常木 晃 | 都市化過程の考古学的研究 | 4,680 |
| | 17401030 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 手塚 章 | ヨーロッパ中軸地帯におけるトランスボーダー都市の空間動態 | 4,810 |
| | 17402037 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 清水 一彦 | 教師・子ども・カリキュラムの視点からみた義務教育制度の総合的再編に関する学術調査 | 1,560 |
| | 17405004 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 徳永 幸彦 | ユーラシア大陸におけるマルハナバチ群集の営巣行動と遺伝的多様性についての研究 | 1,430 |
| | 17405040 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 金井 幸雄 | 絶滅危惧種タマラオの生息数調査と城内保全に関する現地調査 | 3,250 |
| | 18401035 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 山下 清海 | 増加する華人ニューカマーズの中国における送付プロセスの解明 | 3,640 |
| | 18401037 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 小野沢正喜 | 東南アジア諸都市における宗教の活性化と日常生活の再編に関する比較研究 | 5,070 |
| | 18402007 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 中村 逸郎 | ロシア現代社会における非営利団体の活動実態にかんする実証研究 | 1,560 |
| | 18405018 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 小林勝一郎 | 熱帯・亜熱帯性雑草ツノアイアシの他感作用による雑草制御機構の解析 | 2,990 |
| | 18406003 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 熊谷 嘉人 | 南カリフォルニアでの生体内高分子と共有結合する大気中ナフタレン類 | 5,460 |
| 19401038 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 風間 計博 | 太平洋島嶼部における強制移住経験者の歴史認識構築と未来への投企に関する研究 | 1,040 | |
| 19402034 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 石井 健一 | 中国における文化政策とポピュラー文化の変容 | 780 | |
| 19404012 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 福島 武彦 | リモートセンシングによる東アジア湖沼・河川水質モニタリング手法の確立 | 7,020 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|----------|-----------|-------------|-------|-------------------|--|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 基盤研究(B) | 19405045 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 中村 徹 | 中央アジアのステップにおける農耕や牧畜等の人為圧の影響評価および生物多様性の保全 | 4,680 |
| | 19406003 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 金保 安則 | ベトナム特有の南方薬に含まれる生理活性成分シーズの探索 | 5,980 |
| 基盤研究(C) | 16500004 | システム情報工学研究科 | ・ 准教授 | 亀山 幸義 | メタ・プログラミングの基礎理論 | 650 |
| | 16500169 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 金野 秀敏 | 脳波を用いた痴呆発症リスク解析技術の基礎研究 | 780 |
| | 16500374 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 坂本 昭裕 | 脳みを抱える青少年を対象とした自然体験プログラムの心理臨床学的効果に関する研究 | 1,430 |
| | 16500405 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 齋藤 健司 | フランスにおけるドーピング法の形成と現状に関する研究 | 1,300 |
| | 16510102 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 藤原 良叔 | ソフトウェア・テストに用いる検査計画の構成に関する研究 | 1,170 |
| | 16510103 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 金澤雄一郎 | ランダム係数ロジットモデルを用いたアメリカ自動車需要の推定とマーケティング的考察 | 1,170 |
| | 16520228 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 大矢 俊明 | 述語合成に関する記述的・理論的研究～ドイツ語文法への対照言語学的接近～ | 1,040 |
| | 16520412 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 小松 香織 | 近代オスマン帝国社会にみるエスニシティと地域性 | 650 |
| | 16591637 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 佐藤 豊実 | 子宮頸部にneoplasticな病変がないHPV感染者の自然史の解明 | 910 |
| | 17500085 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 坂井 公 | 逆形不偏ゲームの分類と戦略の研究 | 910 |
| | 17500135 | ビジネス科学研究科 | ・ 准教授 | 領家 美奈 | ファジィモデリングによるナレッジモデル構築法に関する研究 | 1,170 |
| | 17500199 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 千葉 親文 | 網膜神経組織再生における分化転換の細胞・分子メカニズムに関する研究 | 1,040 |
| | 17500392 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 齊藤まゆみ | 聴覚障害者の視覚活用とリズム適応を目指した体育・スポーツ指導に関する研究 | 780 |
| | 17500623 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 東原 文子 | 学習困難児を抱える通常学級への支援をねらったコンピュータ利用学習の展開 | 650 |
| | 17510114 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 住田 潮 | CRMとインターネット：優良顧客識別アルゴリズムの評価とブラウジング行動解析 | 780 |
| | 17510115 | ビジネス科学研究科 | ・ 准教授 | 山田 秀 | コンピュータシミュレーションに対する実験計画法の適用による設計の最適化 | 1,300 |
| | 17520043 | 人文社会科学研究科 | ・ 教授 | 佐久間秀範 | 大乘仏教瑜伽行派の唯識観が外界を否定するものではなく実践理論であることの解明 | 1,040 |
| | 17520077 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 守屋 正彦 | 江戸前期儒教絵画に関する研究 | 910 |
| | 17520221 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | 平石 典子 | 近代化の過程における女性表象の諸相に関する比較文学的研究 | 1,040 |
| | 17520317 | 人文社会科学研究科 | ・ 教授 | 藤原 保明 | 英語の不定代名詞の通時的研究 | 1,300 |
| 17520365 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 相澤 啓一 | ドイツ語教育の到達目標としての通訳 | 910 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-----------|-------------|-------|---------------------------------------|---|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (C) | 17520366 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 卯城 祐司 | 英文訳読による指導の効果と評価の妥当性に関する、心的表象モデルに基づく検証 | 910 |
| | 17520367 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 久保田 章 | 中・高・大の連携を考慮したデータ援助型英語学習と教材開発の研究 | 910 |
| | 17520553 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 風間 計博 | 太平洋島嶼部から来た日本漁船出稼ぎ者における異文化環境下の順応過程に関する研究 | 1,300 |
| | 17530060 | 人文社会科学研究科 | ・ 教授 | 出口 正義 | 保険アクチュアリー制度の比較法的研究 | 130 |
| | 17530088 | ビジネス科学研究科 | ・ 教授 | 藤原 静雄 | ユビキタス社会における次世代個人情報保護法制の比較法的研究 | 650 |
| | 17530098 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 竹中 佳彦 | 政治的イデオロギーの態様とその変容に関する実証的・国際比較研究 | 910 |
| | 17530170 | 人文社会科学研究科 | ・ 教授 | 山田 直志 | 介護保険制度の改革と社会厚生の計量分析：医療経済学的アプローチ | 1,170 |
| | 17530205 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 藤井 英次 | 金融政策・インフレ環境の変化と為替レート の物価浸透率 | 1,430 |
| | 17530358 | 人文社会科学研究科 | ・ 教授 | 奥山 敏雄 | 死にゆく人の語りとスピリチュアリティに関する臨床社会学的研究 | 780 |
| | 17530359 | 人文社会科学研究科 | ・ 教授 | 土井 隆義 | 非行少年の家族が直面する諸問題についての調査研究 | 780 |
| | 17530415 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 名川 勝 | 知的障害者の地域生活における消費活動・金銭管理とその支援に関する研究 | 780 |
| | 17530500 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 濱口 佳和 | 青年期における能動的攻撃性・反応的攻撃性の発達臨床心理学的研究 | 520 |
| | 17530532 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 山田 一夫 | 雌ラットの性的動機づけに関与する脳内メカニズムの解明 | 1,430 |
| | 17530684 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 竹田 一則 | 重症心身障害児（者）における情動モニタリングに関する研究 | 910 |
| | 17530685 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 野呂 文行 | 軽度発達障害児の示す行動障害に対する全校的行動支援プログラムの開発 | 2,080 |
| | 17540008 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 内藤 聡 | アフィン量子群のレベル・ゼロ表現のフュージョン積と結晶基底の研究 | 1,170 |
| | 17540061 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 酒井 克郎 | 巾空間、写像空間および普遍空間のトポロジー | 1,300 |
| | 17540062 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 金戸 武司 | 厚み付き曲面における大域的結び目理論の研究 | 780 |
| | 17540101 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 小池 健一 | 非正則推定における情報不等式による逐次決定方式の有効性 | 910 |
| | 17540105 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 笠原 勇二 | 一次元拡散過程の加法的汎関数の研究 | 1,170 |
| 17540231 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 中務 孝 | 不安定核の応答・反応における多粒子系ダイナミクスの研究 | 871 | |
| 17540409 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 辻村 真貴 | マルチ・トレーサー手法による流域水・物質循環プロセスのモデル化に関する研究 | 1,170 | |
| 17540452 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 黒澤 正紀 | 高エネルギーイオン線による島弧衝突境界下のマグマ起源流体の研究 | 650 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-------------|--------------|-------|---|--|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (C) | 17540461 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 荒川 洋二 | 北中国地塊における中生代火成活動の元素・Nd-Sr-Pb同位体地球化学 | 650 |
| | 17550029 | 数理物質科学研究科 | ・講師 | Lee Vladimir | 高周期14族元素シクロブタジエンジアニオンの創製 | 1,170 |
| | 17550071 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 中谷 清治 | 多孔性微粒子における物質移動過程の温度ジャンプ・マイクロ化学分析 | 1,040 |
| | 17550094 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 三浦 勝清 | 白金およびインジウム触媒を利用する環境調和型有機合成法の開発 | 1,430 |
| | 17560029 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | Cole James B | 赤外・可視光領域のメタマテリアルの高精度数値シミュレーションとデバイス設計 | 910 |
| | 17560202 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 堀 憲之 | 新型非線形離散時間モデルを用いた小型浮揚ロボットの姿勢制御 | 780 |
| | 17560450 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 浅沼 順 | 大気中における熱・水蒸気・二酸化炭素輸送の時空間スケール解析 | 650 |
| | 17560582 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 谷本 久典 | ナノチャンネルを有する金属材料のチャンネル形態制御と機能化 | 910 |
| | 17560679 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 国森 公夫 | 赤外線化学発光分光による触媒反応励起分子の検知・役割解明・利用 | 780 |
| | 17580295 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | 岩井 宏暁 | 高等植物の細胞接着・細胞間移行関連遺伝子の同定と機能解明 | 1,430 |
| | 17590236 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 工藤 崇 | ムチン型糖鎖合成酵素遺伝子改変マウスによる白血球におけるムチン型糖鎖の機能解析 | 1,300 |
| | 17590292 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 野口 雅之 | ヒト肺腺がんの発がん初期に異常メチル化を示す発がん関連遺伝子の探索 | 1,170 |
| | 17590573 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 本田 克也 | マイクロダイゼクタを用いた、突然死事例における脳組織のミトコンドリアゲノム解析 | 650 |
| | 17591243 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 福光 延吉 | パーキンソンモデルマウスにおける交感神経の研究 | 1,300 |
| | 17591612 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 猪股 伸一 | レンチウイルスベクターを用いた難治性疼痛に対する遺伝子治療の基礎的研究 | 520 |
| | 17591722 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 松本 光司 | ヒトパピローマウイルスの感染制御に関与する免疫応答の解明 | 1,300 |
| | 17600003 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 逢坂 卓郎 | デジタルメディアと通信技術を基盤とした宇宙環境に於ける芸術の創造 | 1,170 |
| | 17600004 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 藤田 志朗 | 江戸前期儒教絵画と彫刻の復元研究 | 1,300 |
| | 18500045 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 高木 英明 | 移動体無線通信網におけるサービス品質の評価と通信資源の最適配分に関する理論的研究 | 1,170 |
| | 18500072 | 図書館情報メディア研究科 | ・准教授 | 阪口 哲男 | 迷惑メールの記述言語に依存しないフィルタリング方式の開発 | 1,170 |
| 18500103 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 三末 和男 | 創造支援を目的とした手描き作図環境に関する研究 | 1,950 | |
| 18500104 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 古川 宏 | エージェントチーム制御における個人戦略の多様性に適応する機能表示インタフェース | 1,040 | |
| 18500105 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 狩野 均 | 超並列多次元セルラコンピュータの創発的自動プログラミング方式 | 780 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|-----------------------------|-----------|--------------|-------|---|--|-------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 基 盤 研 究 (C) | 18500106 | ビジネス科学研究科 | ・教授 | 津田 和彦 | インターネットにおける発信情報の意図理解システムに関する研究 | 2,210 |
| | 18500147 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 大矢 晃久 | 移動中も計測可能な環境認識用走査型レーザ測距システム | 2,210 |
| | 18500170 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 遠藤 靖典 | 知識融合最適化による不確実データに対するクラスタリングアルゴリズムの開発 | 1,300 |
| | 18500186 | 図書館情報メディア研究科 | ・教授 | 谷口 祥一 | 包括的な根拠の記録を伴う書誌データとメタデータの効率的作成・高度活用に関する研究 | 1,300 |
| | 18500187 | 図書館情報メディア研究科 | ・准教授 | 歳森 敦 | 個人の情報ライフスタイルの解明と図書館利用に関する選好意識との対応関係 | 1,560 |
| | 18500191 | 人文社会科学研究科 | ・講師 | 海後 宗男 | ブロードバンド利用の社会的ニーズ～個人間ビデオ通信とデジタル・ファイル共有 | 1,430 |
| | 18500199 | 図書館情報メディア研究科 | ・講師 | 森田ひろみ | 認知心理学的手法を用いたワールドワイドウェブ情報探索方略の研究 | 1,430 |
| | 18500233 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 梶 和子 | 総腓骨神経の走行に異常を示す変異マウスの原因遺伝子の同定 | 1,820 |
| | 18500234 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 一條 裕之 | コンドロイチン硫酸の構造多様性と網膜軸索路形成 | 1,430 |
| | 18500473 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 菊 幸一 | 現代スポーツの公共性に関する文化社会学的研究 | 1,170 |
| | 18500520 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 村井 文江 | 問題解決型学習法を主体とした思春期健康支援プログラムの開発 | 1,690 |
| | 18500590 | 人間総合科学研究科 | ・研究員 | 右田 玲子 | 在宅高齢者の自立生活継続に関連する生活リズムに影響する要因に関する研究 | 278 |
| | 18510114 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 鈴木 勉 | 数理生態学的手法を応用した都市成長の数理モデルの開発 | 1,040 |
| | 18510115 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 橋本 昭洋 | 日本のQOL（生活の質）の推移測定 | 650 |
| | 18510116 | システム情報工学研究科 | ・講師 | 近藤 文代 | 日次POSデータを用いた重大事件ニュースの効果測定 | 1,170 |
| | 18510117 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 香田 正人 | ユビキタス・データマイニングの数理モデル構築と評価 | 1,950 |
| | 18510213 | 図書館情報メディア研究科 | ・教授 | 溝上智恵子 | 戦争記憶の表象モデル構築に関する研究：戦争博物館展示の政治学的分析 | 1,040 |
| | 18520002 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 桑原 直巳 | 近代修道制とカトリック的倫理教育に関する研究 | 1,170 |
| | 18520078 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | Ian Carruthe | 現代日本演劇史における西洋演劇の位置：現代演劇の成立過程の再検討 | 1,300 |
| | 18520152 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 近本 謙介 | 寺社勧進・修造をめぐる唱導文芸に関する文献学的研究－九条家と慶政の動向を中心に－ | 1,430 |
| 18520168 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 吉原ゆかり | 16世紀－18世紀イギリスにおける蒐集文化の研究 | 1,040 | |
| 18520169 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 秋山 学 | 古典古代学を基盤とした「東方予型論」の構築と可能性をめぐる研究 | 1,300 | |
| 18520170 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 竹谷 悦子 | 1930年代アフリカ系アメリカ人文学における「ブラック・オリエンタリズム」研究 | 650 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-----------|-------------|-------|--|---|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (C) | 18520257 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 青柳 悦子 | チュニジアの文学状況 | 910 |
| | 18520292 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 池田 潤 | 前2-1千年紀における北西セム語の等語線の再画定：GISによる言語地理学的研究 | 650 |
| | 18520293 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 佐々木勲人 | 中国東南方言資料による「文法化」に関する記述的研究 | 910 |
| | 18520349 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 橋本 修 | 従属節における、節の内部構造と文内位置との相関に関する研究 | 780 |
| | 18520532 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 楠木 賢道 | 康熙朝後半における内陸アジア政策の多元性と側近政治に関する研究 | 1,170 |
| | 18520619 | 人文社会科学研究科 | ・ 教授 | 真野 俊和 | 市町村合併状況下における民俗と行政の相互関係 | 1,170 |
| | 18520620 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 鈴木 伸隆 | フロンティアが誕生する時：フィリピンにおける米国植民地主義に関する研究 | 910 |
| | 18520621 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 徳丸 亜木 | 漁民信仰の民俗学的研究－フナダマ信仰を中心として－ | 1,170 |
| | 18530045 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 岡上 雅美 | 法人に対する刑事制裁をめぐる実体法的・手続法的諸問題に関する比較法的理論研究 | 1,300 |
| | 18530097 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 米沢 茂 | 西洋における社会契約思想の発展史的比較研究 | 1,690 |
| | 18530127 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 焼田 党 | 人口変動と人的資本形成に関する研究 | 1,040 |
| | 18530155 | 人文社会科学研究科 | ・ 教授 | 木下 太志 | 日本における出生率低下の構造と原因に関する総合的研究：1945-2000 | 650 |
| | 18530165 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 徳永 澄憲 | 我が国製造業における集積の経済の外部経済効果に関するパネル分析 | 1,950 |
| | 18530227 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 吉田 雅敏 | 公共サービス支出と家計生産に関する研究 | 1,040 |
| | 18530229 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 内藤 久裕 | 公共政策の家計内資源配分にあたえる影響の実証および理論的研究 | 1,430 |
| | 18530251 | 人文社会科学研究科 | ・ 教授 | 平沢 照雄 | 下請協同組合活動の破綻と再生に関する経済史的研究 | 650 |
| | 18530389 | 人文社会科学研究科 | ・ 教授 | John Mock | 国際系大学の存在と地域社会の相関関係－社会・経済・文化的観点からの指標の提示－ | 1,560 |
| | 18530476 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 吉田富二雄 | インターネット行動と攻撃性の分析 | 1,040 |
| | 18530531 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 杉江 征 | 心臓疾患における自律訓練法を用いた心理学的介入の治療効果の検討 | 1,950 |
| | 18530585 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 大谷 奨 | 公立高等学校の設置者変更に関する問題史的研究－戦前／戦後の連続性に注目して－ | 1,040 |
| 18530589 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 濱田 博文 | 学校の「自己評価」機能を促進する組織的要因に関する研究 | 1,040 | |
| 18530593 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 平山 満義 | 学習意欲向上のための「質量評価モデル」の適用と検証－「確かな学力」の実現 | 1,300 | |
| 18530647 | ビジネス科学研究科 | ・ 准教授 | 渡邊 聡 | 国内ビジネススクールの国際化に伴う新カリキュラム構築と多文化経営に関する調査研究 | 2,080 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-----------|-------------|--------|--|--|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (C) | 18530648 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 飯田 浩之 | 高等学校における教育活動組織化の態様と教員の教育指導, 生徒の学校関与 | 1,040 |
| | 18530681 | 人文社会科学研究所 | ・ 准教授 | 島田 康行 | 高大接続場面における高校生のコミュニケーション行動にみる「伝え合う力」の研究 | 650 |
| | 18530682 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 塚田 泰彦 | リテラシー学習の再構築のための創発的綴りの体系的研究 | 780 |
| | 18530683 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 井田 仁康 | ニュージーランドと日本の社会科における「基礎・基本」に関する比較研究 | 1,690 |
| | 18530684 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 江口 勇治 | 小・中学校における法教育の体系的基礎研究 | 1,430 |
| | 18530745 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 河内 清彦 | 障害学生との交流に対する健常学生の支援意欲向上教育プログラム作成への包括的研究 | 1,560 |
| | 18530746 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 柳本 雄次 | 幼稚園・保育所における「特別ニーズ」保育への専門的支援モデルの構築 | 1,430 |
| | 18540008 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 竹内 光弘 | ホップ代数とその量子代数学への応用 | 1,040 |
| | 18540009 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 増岡 彰 | ホップ代数を用いた微分・差分統一Picard-Vessiot理論 | 1,430 |
| | 18540010 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 木村 達雄 | 簡約可能概均質ベクトル空間の分類とその応用 | 1,040 |
| | 18540011 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 藤田 尚昌 | 構造系を持つ全行列多元環の研究 | 910 |
| | 18540065 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 田崎 博之 | 等質空間の積分幾何学とその応用 | 2,210 |
| | 18540066 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 川村 一宏 | バナッハ環の一般及び幾何学的トポロジー的研究 | 2,210 |
| | 18540067 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 伊藤 光弘 | 4次元微分ポアンカレ予想の微分幾何的解明と改変ヤマベ不変量 | 1,820 |
| | 18540109 | システム情報工学研究所 | ・ 准教授 | 繆 いん | 組合せ的デザイン理論を用いた周波数ホッピング系列の構成に関する研究 | 1,690 |
| | 18540158 | 数理物質科学研究科 | ・ 名誉教授 | 梶谷 邦彦 | ハミルトン流による偏微分方程式の大域的な研究 | 1,170 |
| | 18540202 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 山崎 満 | 相転移力学の保存則の表わす非線形多重双曲型偏微分方程式系の解の構造と特異摂動極限 | 206 |
| | 18540250 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 藏増 嘉伸 | 格子場の理論による標準理論の研究 | 1,170 |
| | 18540337 | 数理物質科学研究科 | ・ 助教 | 森下 将史 | 2次元量子固体多体交換相互作用の競合における不純物・磁場効果 | 1,820 |
| | 18540366 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 矢花 一浩 | フェムト秒多電子ダイナミクスの第一原理シミュレーション | 1,040 |
| 18540402 | 数理物質科学研究科 | ・ 名誉教授 | 住 斉 | 生体系における中間分子媒介, 協奏的, 電子, 励起およびプロトン移動過程の研究 | 780 | |
| 18540460 | 生命環境科学研究科 | ・ 研究員 | 更科 功 | 軟体動物の貝殻基質タンパク質の機能解析とその古生物学的応用 | 1,560 | |
| 18560030 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 渡辺 慶規 | 対称マッハツェンダー型フォトニック結晶光スイッチにおける導波路構造の最適化 | 1,690 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|-----------------------------|-----------|-------------|-------|--|--|-------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 基 盤 研 究 (C) | 18560052 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 吉瀬 章子 | 非線形半正定値計画問題に対する数値的に安定した主双対内点法の開発 | 1,690 |
| | 18560481 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 松島 亘志 | SPring-8マイクロX線CT実験による粒状体微視力学構成モデルの検証と高度化 | 1,430 |
| | 18560514 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 岡本 直久 | 鉄道新線沿線地域におけるモビリティ・マネジメント方策の実験的実施とその効果の検証 | 1,430 |
| | 18560589 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 小場瀬 令二 | オールドニュータウンとその周辺住宅地の持続性研究-筑波の場合- | 1,040 |
| | 18560671 | 数理物質科学研究科 | ・講師 | 池田 博 | 極低温用酸化物蓄冷材の開発 | 1,040 |
| | 18560746 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 市川 創作 | 多糖被覆磁性ナノ粒子を担体とした固定化酵素によるキトサンオリゴ糖の生産 | 1,430 |
| | 18560809 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 内山 洋司 | エネルギーチェーン多層評価手法による地域水素利用システム設計 | 1,300 |
| | 18570084 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 石田健一郎 | 二次共生による葉緑体獲得に伴うクロララクニオン藻の“植物”への適応進化の研究 | 1,170 |
| | 18570145 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 野口 巧 | 光化学系IIにおけるキノン電子受容体の反応と制御の分子メカニズム | 2,080 |
| | 18570164 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 久武 幸司 | リン酸化酵素によるクロマチン修飾の制御機構の解明 | 1,690 |
| | 18570188 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 木村 圭志 | 染色体凝縮タンパク質複合体コンデンシンの基本機能と分子構造の解析 | 2,210 |
| | 18570214 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 稲垣 祐司 | カタプレファリス類配列をふくむ連結データ系統解析によるクロミスタ仮説の検討 | 1,300 |
| | 18580050 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | Taylor De Ma | マダニのエクジステロイドによる産卵制御機構の解明 | 1,040 |
| | 18580213 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 納口るり子 | 農業経営のネットワーク組織と農業経営者の主体形成に関する研究 | 1,560 |
| | 18580325 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 坂井 直樹 | 耕地に適用可能な生物多様性指標の探索と水田共存生態系への応用 | 1,560 |
| | 18590465 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 本多伸一郎 | 新規IgM受容体を介した自己抗体産生抑制機構の解明 | 1,950 |
| | 18590506 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 内田 和彦 | ディファレンシャル・プロテオーム解析によるがん細胞生存シグナル因子の探索 | 1,820 |
| | 18590590 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 岡田 昌史 | 診療情報からの地域共通臨床研究データベース構築のための基礎調査 | 2,080 |
| | 18590836 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 石井 幸雄 | 転写因子NRF2を標的とした急性肺損傷および肺線維症に対する新たな治療法の開発 | 2,080 |
| | 18590878 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 平山 暁 | 非侵襲的レドックスイメージングによる高血圧性腎病変解析と酸化制御治療の開発 | 528 |
| 18590879 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 山縣 邦弘 | 糸球体上皮細胞におけるミトコンドリア機能と蛋白漏出・糸球体硬化病変形成機序の検討 | 1,950 | |
| 18590924 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 玉岡 晃 | アポリポ蛋白E 遺伝子改変マウス脳における酸化ストレスとアミロイドβ蛋白 | 1,690 | |
| 18591040 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 今川 重彦 | 低酸素応答系遺伝子群の遺伝子操作と臨床応用 | 1,690 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-------------|--------------|-------|------------------------------------|--|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (C) | 18591041 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 向井 陽美 | 転写因子 c - M y b による新たな巨核球造血制御機構の解明 | 1,690 |
| | 18591097 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 野口恵美子 | 喘息における疾患パスウェイ解析 | 2,210 |
| | 18591180 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 小野寺雅史 | 造血幹細胞遺伝子治療のための新規レトロウイルスベクターシステムの開発 | 1,690 |
| | 18591232 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 大塚 藤男 | ケラチン 1 遺伝子に存在するカルシウム・スイッチ応答配列の角化細胞分化における役割 | 910 |
| | 18591272 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 水上 勝義 | アルツハイマー病の神経細胞変性における興奮毒性に関する研究 | 1,300 |
| | 18591405 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 榊原 謙 | 血管新生療法に血管平滑筋細胞は必要か？ | 1,430 |
| | 18591539 | 人間総合科学研究科 | ・ 助教 | 穴見 洋一 | ヒト肺腺癌の発癌初期に係わる発現遺伝子の網羅的解析 | 1,690 |
| | 18591576 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 高野 晋吾 | 悪性腫瘍に対する血管内皮前駆細胞を用いた血管新生抑制療法 | 1,300 |
| | 18591739 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 島居 徹 | 腎癌におけるインターフェロン α の感受性予測とペプチド導入増感療法の開発 | 1,950 |
| | 18592341 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 日高紀久江 | 遷延性意識障害患者における活動性の向上を目的にした簡易栄養評価指標の開発 | 910 |
| | 18592376 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 水野 道代 | 術後大腸がん患者の適応を促すサポートプログラムが患者の Q O L に与える効果の検証 | 1,560 |
| | 19500051 | システム情報工学研究科 | ・ 准教授 | 木村 成伴 | データ圧縮を用いる場合における T L S の安全性向上のための研究 | 1,300 |
| | 19500074 | システム情報工学研究科 | ・ 准教授 | 蔡 東生 | 広域高度コラボ型モバイルネットワーク上での先端融合ウェアラブル情報機器実験 | 1,560 |
| | 19500114 | システム情報工学研究科 | ・ 准教授 | 山本 幹雄 | ベイズ統計学を利用した構文情報に基づく統計的機械翻訳モデルの開発 | 2,860 |
| | 19500115 | ビジネス科学研究科 | ・ 教授 | 吉田 健一 | リアルタイム・インターネット・マーケティング技術の研究 | 2,210 |
| | 19500202 | 図書館情報メディア研究科 | ・ 助教 | 松村 敦 | 利用者要求に基づいた異種情報資源へのアクセス手法の最適化に関する研究 | 1,690 |
| | 19500203 | 図書館情報メディア研究科 | ・ 講師 | 大庭 一郎 | 公共図書館における専門的職務と非専門的職務の区分を踏まえた職員制度の総合的研究 | 650 |
| | 19500377 | 図書館情報メディア研究科 | ・ 准教授 | 田中 和世 | 多自由度電動義手のための表面筋電位信号に基づく複合動作実時間制御の実現 | 1,950 |
| | 19500402 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 三好 浩稔 | ストローマ細胞表面分子を利用した造血幹細胞の三次元体外増幅法の開発 | 2,470 |
| | 19500502 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 村田 芳子 | 表現運動・ダンスにおける学習内容の選定と妥当性の検証 | 1,560 |
| 19500521 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 本間三和子 | 女子アスリートの成人身長予測プログラムの開発 | 910 | |
| 19500522 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 小池 関也 | 力覚情報に基づく野球打撃技術の解明 | 2,600 | |
| 19500590 | システム情報工学研究科 | ・ 准教授 | 中内 靖 | 摂食・生体情報のライフログコンテンツ化による統合的ヘルスケアシステム | 3,510 | |

| 種 目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研 究 課 題 名 | 交付を 受けた 研究費 |
|-----------------------------|-----------|--------------|-------|---------------------------------------|--|-------------------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏 名 | | |
| 基 盤 研 究 (C) | 19500591 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 堀米 仁志 | 凝固線溶系からみた小児期メタボリックシンドロームの特徴と効果的介入法に関する研究 | 3,770 |
| | 19500867 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 松井 敏也 | 環境汚染物質が炭酸カルシウム系文化財に及ぼす影響とその抑制に関する研究 | 2,730 |
| | 19500878 | 人文社会科学研究所 | ・ 教授 | 石井 英也 | 文化的景観の価値評価方法の確立に関する基礎的研究 | 2,210 |
| | 19510137 | システム情報工学研究科 | ・ 准教授 | 繁野麻衣子 | ネットワーク理論の基盤整備と伸張 | 1,560 |
| | 19510138 | ビジネス科学研究科 | ・ 准教授 | 山田 雄二 | 非流動性資産デリバティブの価格付けとヘッジ手法の確立 | 1,560 |
| | 19510139 | ビジネス科学研究科 | ・ 教授 | 鈴木 久敏 | 患者の顧客満足と病院選択行動に基づく病院経営の最適化 | 910 |
| | 19510268 | 人文社会科学研究所 | ・ 教授 | 姫岡とし子 | ジェンダーで読む労働運動－近代化過程のドイツを中心に | 1,300 |
| | 19520041 | 図書館情報メディア研究科 | ・ 教授 | 松本 浩一 | 宋代道教儀礼書と現代台湾の道教儀礼 | 1,820 |
| | 19520049 | 人文社会科学研究所 | ・ 講師 | 吉水千鶴子 | 『中観明句論註釈』の文献学的研究によるインド・チベット中観仏教思想史の再構築 | 1,300 |
| | 19520091 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 八木 春生 | 中国隋初期仏教美術様式、形式という新概念の成立 | 1,560 |
| | 19520092 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 森岡 隆 | 「高野切本古今集」全20巻の復元研究－古筆復元の方法論の確立－ | 260 |
| | 19520131 | 図書館情報メディア研究科 | ・ 教授 | 綿抜 豊昭 | 寛文期から元禄期にかけての名所資料に関する基礎的研究 | 1,560 |
| | 19520192 | 人文社会科学研究所 | ・ 教授 | 今泉 容子 | ブレイクの複合芸術においてコントラポスト体位をとる女の表象 | 2,470 |
| | 19520193 | 人文社会科学研究所 | ・ 教授 | 浜名 恵美 | シェイクスピア演劇の異文化パフォーマンス：相互理解促進モデル | 2,210 |
| | 19520289 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 菅野 智明 | 中国近代書論の文献学的研究 | 1,170 |
| | 19520326 | 人文社会科学研究所 | ・ 講師 | MIYAMOTO EDS | 日本語の文理解における負荷の計量化 | 1,690 |
| | 19520327 | 人文社会科学研究所 | ・ 教授 | 柳田 優子 | 日本語の格と語順の関係とその史的変化 | 780 |
| | 19520414 | 人文社会科学研究所 | ・ 准教授 | 和田 尚明 | 日英語ならびに西欧諸語における時制の比較研究 | 780 |
| | 19520441 | 人文社会科学研究所 | ・ 教授 | Kaiser Stefan | 横浜ピジンのデータベース化とデータベースを用いた簡略日本語表現の研究 | 1,560 |
| | 19520477 | 人文社会科学研究所 | ・ 准教授 | 平井 明代 | 学習へのプラスの波及効果を生む実用的スピーキングテストの研究・開発 | 1,040 |
| 19520597 | 人文社会科学研究所 | ・ 教授 | 片岡 一忠 | 五代宋時代の官印制度の研究 | 2,730 | |
| 19520692 | 人文社会科学研究所 | ・ 教授 | 前川 啓治 | 開発と実践－筑波山麓地域における地域づくり過程のアクター分析と政策的提言 | 1,430 | |
| 19530020 | ビジネス科学研究科 | ・ 教授 | 青山 慶二 | 多国籍企業の事業再編成に伴う無形資産取引とこれに対する移転価格税制のあり方 | 1,560 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|------------|-------------|-------|----------------------|---------------------------------------|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (C) | 19530044 | ビジネス科学研究科 | ・教授 | 江口 隆裕 | フランスにおける少子化対策法制の総合的研究 | 2,470 |
| | 19530084 | 人文社会科学研究所 | ・准教授 | 星野 豊 | 信託法理論から見た知的財産信託に関する多角的な研究 | 1,040 |
| | 19530231 | システム情報工学研究所 | ・教授 | 土井 正幸 | わが国の物流効率化による地域経済へのインパクト分析と運輸・地域経済協調政策 | 2,600 |
| | 19530301 | 人文社会科学研究所 | ・准教授 | 田中 洋子 | ドイツ大企業におけるホワイトカラーの生成についての実証研究 | 1,820 |
| | 19530379 | システム情報工学研究所 | ・講師 | 水野 誠 | 消費者間相互作用と選好の動的変化に関する研究 | 1,430 |
| | 19530553 | システム情報工学研究所 | ・講師 | 上市 秀雄 | 犯罪不安に関する認知・感情プロセスのモデル化とその応用 | 1,560 |
| | 19530578 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 徳田 克己 | 障害理解のための効果的かつ適正な障害シミュレーション体験方法の開発 | 1,300 |
| | 19530579 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 茂呂 雄二 | 学習科学の観点から学習過程を質的に明らかにするテキスト言説分析の提案 | 2,860 |
| | 19530612 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 山中 克夫 | 認知症高齢者のための認知機能活性化アプローチによる系統的プログラムの開発 | 3,380 |
| | 19530647 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 加藤 克紀 | 社会的経験が実験室マウスの社会行動発達に影響を及ぼす機序に関する研究 | 1,040 |
| | 19530648 | システム情報工学研究所 | ・准教授 | 酒井 宏 | 図地分離を導く因子の同定とその皮質メカニズムの解明 | 2,210 |
| | 19530743 | ビジネス科学研究科 | ・准教授 | 加藤 毅 | 知識基盤社会における大学教員の多様化と機能分化 | 910 |
| | 19530778 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 直江 俊雄 | 言語活動を重視した学習者中心の美術教育に関する研究 | 1,820 |
| | 19530858 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 原島 恒夫 | 聴覚処理障害児のスクリーニングおよび評価方法の開発 | 780 |
| | 19540006 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 森田 純 | 無限次元の代数群とリー環の研究, およびその物質科学・生命科学への応用 | 1,300 |
| | 19540007 | 数理物質科学研究科 | ・助教 | 木村健一郎 | モチーフの数論的性質の研究 | 1,430 |
| | 19540063 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 加藤 久男 | 可分距離空間とその上の連続写像の力学的・幾何学的構造の研究 | 1,950 |
| | 19540111 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 坪井 明人 | 1階言語で定義された算術理論のモデルの研究とその応用 | 1,170 |
| | 19540112 | 数理物質科学研究科 | ・講師 | 塩谷 真弘 | 小さな無限に内在する巨大な無限の研究 | 1,430 |
| | 19540162 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 平良 和昭 | 位相的手法による非線型境界値問題の研究 | 2,340 |
| 19540163 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 竹内 潔 | 代数解析学の幾何学への応用 | 1,820 | |
| 19540208 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 寛 知之 | 等質空間上のラドン変換と調和解析への応用 | 1,690 | |
| 19540261 | 計算科学研究センター | ・研究員 | 石井 理修 | 格子QCDによる核力の研究 | 1,170 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-----------|-------------|-------|---|--|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (C) | 19540329 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 長谷 宗明 | 赤外パルスレーザーを用いた凝縮系のフォノン・プラズモンの緩和ダイナミクス | 2,470 |
| | 19540412 | 数理物質科学研究科 | ・講師 | 富田 成夫 | 高速荷電粒子による液滴生成 | 3,640 |
| | 19540413 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 日野 健一 | 交差する振動磁場中の原子の擬エネルギー構造と量子制御 | 3,120 |
| | 19550029 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 一戸 雅聡 | 高周期14族元素常磁性化学種に関する研究 | 2,860 |
| | 19550176 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 西村 賢宣 | デンドリマー分子集積化による高効率光電子移動反応の研究 | 3,770 |
| | 19560225 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 藪野 浩司 | 非線形性の発現・操作によるナノ・マイクロマシンの高性能・高機能化に関する研究 | 1,950 |
| | 19560250 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 磯部大吾郎 | 宇宙での利用を目指した構造可変型多肢ロボットアームおよびその制御法の開発 | 2,860 |
| | 19560278 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 石川 本雄 | 大規模集中電源としてのCO ₂ 回収方式石炭燃焼MHD発電機の高性能化に関する研究 | 2,210 |
| | 19560367 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 満保 雅浩 | 高い信頼性を有する電子選挙システムの構成 | 2,080 |
| | 19560607 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 西川 潔 | 広告景観改良のための屋外広告設計指針策定に関する研究 | 1,690 |
| | 19560608 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 安藤 邦廣 | 茅葺きの材料・構法の地域特性と地域資源としての保全と活用の基礎的研究 | 1,950 |
| | 19560645 | 人間総合科学研究科 | ・研究員 | 平賀あまな | 国際社会における文化財保護と日本-国際条約・憲章・勸告の成立と日本の文化財概念- | 1,560 |
| | 19560661 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 喜多 英治 | 微粒子などの微細構造を利用した $a''-Fe_{16}N_2$ の磁気異方性の研究 | 2,990 |
| | 19560672 | 数理物質科学研究科 | ・講師 | 山村 泰久 | フレーム構造と負の熱膨張特性との相関に関する研究 | 3,510 |
| | 19560825 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 今井 剛 | 電子サイクロトロン加熱によるプラズマ能動制御と閉じ込め改善 | 2,340 |
| | 19570014 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 徳永 幸彦 | サギ類コロニー・集団時の形成要因としての歴史性についての研究 | 1,820 |
| | 19570052 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 松田 学 | ミルクスタシスを制御するローカルモノアミンネットワーク | 2,340 |
| | 19580012 | 生命環境科学研究科 | ・助手 | 加藤 盛夫 | イネのシンク・ソース研究における雌性不稔系統の利用およびバイオマス生産の研究 | 3,380 |
| | 19580022 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 黒田 乃生 | 遺産地区における森林の役割と保全手法-自然遺産と文化遺産保護の融合を目指して- | 1,690 |
| | 19580023 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | 福田 直也 | 青色光ならびに赤色光に対するペチュニアとトマトの開花及び茎伸長応答機構の解明 | 2,340 |
| 19580159 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | 上條 隆志 | 三宅島2000年噴火後8年間の陸上生態系の回復過程 | 2,860 | |
| 19580160 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 増田 美砂 | 森林経営のオルタナティブと政府セクターの役割：インドから学ぶこと | 2,860 | |
| 19580242 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 茂野 隆一 | アグリビジネスにおける研究開発が企業間競争、国際競争力に与える影響に関する研究 | 1,950 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-----------|-----------|-------|---------------------------------------|--|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 基 盤 研 究 (C) | 19580392 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 柏原 真一 | 生殖細胞の分化過程におけるmRNAポリA鎖の機能とその運命 | 3,770 |
| | 19590382 | 人間総合科学研究科 | ・助教 | 田原 聡子 | 腫瘍に対する免疫監視機構におけるDNAM-1の機能の解明 | 2,860 |
| | 19590621 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 奥野 純子 | 虚弱高齢者のふらつき・転倒と血清ビタミンD濃度との関連及び介護予防の介入研究 | 2,080 |
| | 19590876 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 檜澤 伸之 | 喘息と慢性閉塞性肺疾患との共通病態の解明－分子病態に基づく新たな分類を目指して－ | 2,617 |
| | 19590931 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 清水 芳男 | IgA腎症における糖鎖不全IgA1産生に対する黄色ブドウ球菌膜蛋白抗原の関与 | 251 |
| | 19590932 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 長田 道夫 | 糸球体の修復機構の解明と応用 | 2,470 |
| | 19590933 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 楊 景堯 | 新規Maf群転写因子関連糖尿病性腎症モデルマウスの作製および解析 | 1,950 |
| | 19591033 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 鈴木 浩明 | 骨格筋におけるPPAR δ 発現がインスリン抵抗性に及ぼす影響に関する検討 | 1,950 |
| | 19591094 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 小島 寛 | アポトーシス関連遺伝子改変マウスを用いた巨核球成熟、血小板産生機構の系統的解析 | 1,560 |
| | 19591095 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 清水 律子 | 幹細胞の自己複製に関わる転写因子GATA-1とGATA-2の機能解析 | 2,990 |
| | 19591151 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 住田 孝之 | シェーグレン症候群発症の分子機構：M3Rに対する免疫応答解析 | 2,860 |
| | 19591152 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 堤 明人 | トリステトラプロリンなどmRNA結合性蛋白と関節リウマチの病態の関連 | 2,080 |
| | 19591153 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 松本 功 | 自己免疫誘導性関節炎の制御機構と治療 | 1,690 |
| | 19591296 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 川内 康弘 | 新規カルシウム反応性転写因子が表皮角化細胞の分化・増殖に果たす役割の解明 | 3,380 |
| | 19591452 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 高田 義久 | 陽子線治療におけるボラス形状の最適化の研究 | 1,950 |
| | 19591501 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 柴原 健 | 胆道系悪性腫瘍の術後肝転移・腹膜播種転移に対する標的分子の探索と分子標的薬の選択 | 3,250 |
| | 19591574 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 近藤 匡 | 肝虚血再灌流障害における血小板、血管内皮相互作用の解明と障害予防法の新しい開発 | 2,080 |
| | 19591776 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 清水 雄 | プラスミドを用いた難治性疼痛に対する遺伝子治療の基礎的研究 | 1,170 |
| | 19591777 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 福田 妙子 | 急性ストレス時の鎮痛反応におけるニューロステロイドの役割 | 2,340 |
| | 19591778 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 山本 純偉 | オレキシン系を介した静脈麻酔作用の解明 | 910 |
| 19591923 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 沖 明典 | 抗癌剤に高感受性の卵巣癌由来細胞株の樹立及び抗癌剤治療モデルの創出 | 1,560 | |
| 19592052 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 工藤 寿美 | 鎖肛プタモデルにおける多因子遺伝研究－GLI2の網羅的遺伝子座相互作用分析 | 3,900 | |
| 19592427 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 佐伯 由香 | 睡眠を促す効果的な看護ケアに関する基礎的研究 | 2,340 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|----------|-----------|--------------|-------|---------------------------------------|--|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 基盤研究(C) | 19592428 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 林 啓子 | 笑いと経絡の脳内メカニズムを組み合わせた表情筋刺激効果の検討とケア技術への応用 | 3,250 |
| | 19600001 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 篠塚 友一 | 人口倫理学と世代間衡平性 | 650 |
| | 19610003 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 小野沢正喜 | 移行体制下の中央アジア諸国における民族集団、宗教、言語文化の動態に関する研究 | 2,470 |
| 萌芽研究 | 17650007 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 前田 敦司 | 一般化したLazyな木構造に基づくWeb向けスクリプト言語の研究 | 1,000 |
| | 17650069 | 図書館情報メディア研究科 | ・准教授 | 吉田 右子 | 公共図書館における図書館ボランティア活動の実証的研究 | 500 |
| | 17650147 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 椎名 毅 | 三次元超音波エラストマイクロスコープの開発 | 600 |
| | 17650277 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 松倉 公憲 | 花崗岩侵食地形の形成年代および侵食速度推定へのTCN法の適用 | 500 |
| | 17652008 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 廣瀬 浩司 | リズム性の概念による、身体性と社会性の相互作用についての現象学的研究 | 1,000 |
| | 17652010 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 五十殿利治 | 近代日本美術史と英文美術ジャーナリズム | 700 |
| | 17652026 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 川那部保明 | 現代ヨーロッパにおける文学・思想・芸術行為と新たな市民性の創出可能性の総合的研究 | 700 |
| | 17653026 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 高崎 善人 | 熱帯雨林における生業データ収集法の革新に向けて | 800 |
| | 17653093 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 水本 徳明 | 学校組織における「場」としての職員室に関する研究 | 500 |
| | 17653122 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 中村満紀男 | 日本最初期の点字雑誌「六つ星の光」「点字世界」における戦前の盲人の教育論・生活論 | 500 |
| | 17653123 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 熊谷 恵子 | Scotopic Sensitivity SyndromeのあるLD児の学習改善 | 300 |
| | 17654029 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 若林誠一郎 | Wickカリキュラスとその偏微分方程式論への応用 | 800 |
| | 17654071 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 谷口 伸彦 | 等エネルギー面上の場の理論の研究：量子カオスから量子的複雑流体・量子相転移へ | 500 |
| | 17655014 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 関口 章 | ケイ素三重結合化合物を鍵モノマーとするポリアセチレンケイ素類縁体の創製 | 800 |
| | 17656160 | 人文社会科学研究科 | ・講師 | 崔 宰英 | 震災時における個人交通需要の変動メカニズムのパラダイム構築に関する研究 | 1,100 |
| | 17659090 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 深水 昭吉 | 胎児発育遅延と母胎間ネットワークの解明 | 1,000 |
| | 17659438 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 松村 明 | 選択的アルファ線照射による脳血管形成術後の再狭窄予防に関する基礎的研究 | 1,400 |
| | 17659459 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 落合 直之 | 微小外力による反復性神経圧迫に伴う神経障害発生に関する基礎的研究 | 500 |
| | 17659667 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 櫻井 利江 | 自律神経応答性からみた覚醒系・安息系看護技術の時間生物学的適時性の解明 | 300 |
| 17659681 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 江守 陽子 | 産褥早期の育児負担感の軽減を目的とした訪問指導体制試案とoutcome評価 | 700 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|------------------|--------------|--------------|-------|-----------------------------------|--|-------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 萌 芽 研 究 | 17659705 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 新井 恵美 | 虚弱高齢者による昼間睡眠の生理学的意義と概日リズム調整への看護介入モデルの開発 | 400 |
| | 18650017 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 西原 清一 | 時代変化を伴う仮想都市空間の自動生成とシミュレーション | 1,500 |
| | 18650018 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 北川 博之 | 気象オントロジーを用いた気象情報データベース利用の高度化 | 1,600 |
| | 18650049 | 図書館情報メディア研究科 | ・講師 | 金 尚泰 | マルチダイナミックドキュメンテーションを用いた新概念の人体解剖学コンテンツ | 500 |
| | 18650081 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 桜井 武 | トランスジェニック動物を用いたインビボ神経細胞同定法の開発 | 700 |
| | 18650150 | システム情報工学研究科 | ・講師 | 北原 格 | 複合現実感を応用したリハビリテーションにおけるコミュニケーション支援メディア | 1,200 |
| | 18650186 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 前田 清司 | 動脈硬化改善に対する運動効果の個人差を規定する新規遺伝子の探索 | 1,300 |
| | 18650229 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 大高 泉 | 視覚障害生徒に対する科学教育の系統化とその健全生徒の理科授業への活用に関する研究 | 800 |
| | 18650266 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 山下 清海 | バブル経済崩壊後の日本における「新中華街」の設立に関する経済・文化地理学的研究 | 800 |
| | 18651100 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 木越 英夫 | 骨格筋タンパク質ミオシンと複合する新規海洋天然物の探索と創製 | 1,200 |
| | 18651101 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 繁森 英幸 | 果実・種子の増産を誘導する天然由来の機能性物質の探索と農園業への応用 | 1,300 |
| | 18652012 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 長田 年弘 | 古代ギリシア美術の私的領域に関する図像の研究 | 600 |
| | 18652021 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 谷口 孝介 | 『日本三代実録』の注釈的研究 | 500 |
| | 18652026 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 対馬美千子 | 現代ヨーロッパ文学・演劇・思想における身体的痛みの共有可能性の総合的研究 | 1,100 |
| | 18653003 | ビジネス科学研究科 | ・准教授 | 藤井 樹也 | IT化時代における英米5カ国の権利救済法制度の比較研究 | 1,000 |
| | 18653007 | ビジネス科学研究科 | ・教授 | 弥永 真生 | 種類株式の評価および会計処理 | 1,800 |
| | 18653026 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 永易 淳 | 情報と投資家行動の実証分析 | 500 |
| | 18653095 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 畔上 泰治 | 青少年保護を目的とした有害メディア規制に関する研究 | 500 |
| | 18655089 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 國府田悦男 | 水可溶性グラフト又はブロック共重合体と類似機能を有する高分子包括ナノ架橋体の合成 | 1,000 |
| | 18656005 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 秋本 克洋 | 有機分子が配位した希土類化合物の分子メモリへの応用 | 1,300 |
| 18656093 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 末益 崇 | アルカリ土類金属を用いたシリコンベース狭ギャップ半導体 | 1,500 | |
| 18656102 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 安永 守利 | 遺伝的アルゴリズムを利用した超高速VLSI向け分割不均一配線 | 2,100 | |
| 18656109 | 図書館情報メディア研究科 | ・教授 | 川原崎雅敏 | コンテキスト理解プラットフォームによるコンテンツハンドリングの研究 | 1,100 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|------------------|--------------|-------------|-------|--|---|-------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 萌 芽 研 究 | 18656144 | システム情報工学研究科 | ・講師 | 谷口 綾子 | コールバーグ道徳心理学に基づく対社会コミュニケーションに関する基礎的研究 | 1,000 |
| | 18656170 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 大村謙二郎 | ドイツを中心としたEUにおける地域整備に関わる地域ガバナンスの実態と展開の研究 | 1,500 |
| | 18656179 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 村尾 修 | 衛星画像等を用いた都市復興デジタルアーカイブズ構築に関する研究 | 1,000 |
| | 18656180 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 藤川 昌樹 | 積層パターンに着目した都市居住環境史の再構築 | 700 |
| | 18656202 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 水林 博 | Ta/Cu/Ta 薄膜で発現する特異な Ta キャップ効果 | 1,000 |
| | 18656235 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 富重 圭一 | グリセリンの水素化分解用金属-固体酸二元機能型触媒の開発 | 1,300 |
| | 18657067 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 馬場 忠 | 体細胞での精巣特異的遺伝子転写の抑制破綻と癌化 | 1,200 |
| | 18658052 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 田中 俊之 | 腸管上皮に発現する新奇カプサイシン受容体の栄養科学的活用 | 1,000 |
| | 18659074 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 高橋 智 | RNA i レトロウイルスを用いた遺伝子ノックダウンマウス作製法の開発 | 1,000 |
| | 18659144 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 葛岡 英明 | 気管挿管教育支援システムの開発 | 1,800 |
| | 18659167 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 熊谷 嘉人 | ディーゼル排出微粒子中に存在する未知の親電子性物質の新規探索法の開発 | 1,900 |
| | 18659179 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 谷川 武 | 地域住民における睡眠呼吸障害と血管内皮機能障害に関する疫学的研究 | 1,200 |
| | 18659180 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 田宮菜奈子 | 法医公衆衛生学の構築-根拠に基づく医療福祉政策立案の新しい方法論 | 1,000 |
| | 18659196 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 高橋 宏 | 漢方製剤生薬成分の胆汁うっ滞に対する胆汁分泌促進と肝保護の新しい効果と分子機構 | 900 |
| | 18659635 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 浅野 美礼 | 看護情報のアドバンスデザインにおける要素データの写像化についての基礎理論的研究 | 600 |
| | 18659676 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 橋爪 祐美 | 老親介護を担う勤労女性の就労継続とモラルの尺度開発および看護介入モデルの構築 | 800 |
| | 18659677 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 松田ひとみ | 高齢者の睡眠覚醒障害に対するナラティブ・ケアの生理学的な意義と看護介入の効果 | 300 |
| | 19650001 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 井田 哲雄 | 折紙計算論に基づく折り可能性の考究と折紙手法発見 | 1,000 |
| | 19650008 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 山口 喜教 | 暗号化命令コードによるバッファオーバーフロー検知システムの研究 | 1,500 |
| | 19650035 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 平井 有三 | 赤-青緑・二重拮抗型色受容野による色情報処理に関する研究 | 2,500 |
| 19650048 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 久野 節二 | 絵画鑑賞時の感性の脳活動に及ぼす嗅覚のバイモーダル効果に関する光トポグラフィ研究 | 2,100 | |
| 19650052 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 宮本 定明 | バッグベース不確実性理論の構築と情報検索モデルへの応用 | 1,200 | |
| 19650054 | 図書館情報メディア研究科 | ・教授 | 中山 伸一 | 知識の完全表現を目指した知識メタデータの構築とその実装体としての知識事典の作成 | 1,000 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|------------------|-----------|-------------|-------|-------------------------------------|--|-------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 萌 芽 研 究 | 19650059 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 森田 昌彦 | 結合問題に関する選択的不感化理論の検証 | 1,300 |
| | 19650102 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 八神 健一 | ウイルス感染に起因するエピジェネティック制御と個体発生への影響 | 1,700 |
| | 19650152 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 榊原 潤 | 眼振に起因した視力障害を補正する装置の開発に関する研究 | 2,600 |
| | 19650159 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 酒井 利信 | 刀剣の思想に関する融合的アプローチ研究 | 1,500 |
| | 19650220 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 松岡 憲知 | 北極圏地球環境科学野外教育コースの設立 | 1,800 |
| | 19650221 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 小野 道之 | メンデルの遺伝法則を分子レベルで体験する実習教材の開発 | 2,000 |
| | 19651028 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | 橋本 義輝 | 微生物によるN ₃ 化合物分解代謝 | 1,800 |
| | 19651044 | 数理物質科学研究科 | ・講師 | 神田 晶申 | グラファイト超薄膜のインターカレーションと電気伝導測定 | 3,200 |
| | 19651047 | 数理物質科学研究科 | ・准教授 | 木塚 徳志 | 原子直視法を利用した単一原子個別の単一光子分光 | 1,300 |
| | 19651082 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 中川 嘉 | 機能性RNAによる生活習慣病発症の分子メカニズムの解明 | 2,200 |
| | 19652045 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 岡崎 敏雄 | 持続可能性の内容重視日本語教育における意識分析に基づく学習のデザインの基礎的研究 | 1,100 |
| | 19653010 | ビジネス科学研究科 | ・准教授 | 潮海 久雄 | 「法と経済学」の適用と限界に関する総合的研究－知的財産法を素材として－ | 500 |
| | 19653020 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 金子 守 | 賃貸住宅市場シミュレータの開発：その具体応用と経済理論・ゲーム論の基礎の検証 | 1,500 |
| | 19653024 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 氷鮑揚四郎 | 習熟と環境価値の相互作用による新エネルギーの内生的成長モデルとその促進政策の研究 | 1,000 |
| | 19653041 | 人文社会科学研究科 | ・教授 | 仲田 誠 | 東洋的人間観・世界観とインターネット観の比較文化論的研究 | 500 |
| | 19653065 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 大六 一志 | 自閉症児における視覚的注意のアセスメントおよび支援方法の開発 | 500 |
| | 19653074 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 小玉 正博 | 慢性疾患者の自律的な健康行動の形成を目指した病気対処尺度の開発 | 1,200 |
| | 19653086 | 人文社会科学研究科 | ・講師 | 柴田 政子 | ドイツとイギリスにおける戦後歴史教育の比較研究：歴史教科書の調査を中心に | 1,300 |
| | 19653117 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 柿澤 敏文 | 視覚障害乳幼児の視行動の発達に関する萌芽的研究 | 1,400 |
| | 19653118 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 園山 繁樹 | 自閉症児者のサヴァン・スキルの探究と行動問題の改善に関する研究 | 1,500 |
| 19654048 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 門脇 和男 | 空間分解能1ミクロン以上のスクイド磁気顕微鏡の開発 | 2,800 | |
| 19654049 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 大塚 洋一 | 極微小トンネル接合高磁場SQUIDの開発と応用 | 2,000 | |
| 19655047 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 鍋島 達弥 | 環状パーシャルテンプレートによる金属クラスターの精密合成と分子集積機能 | 1,800 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-------------|-----------|-------------|-------|---|---|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 萌芽研究 | 19656005 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 小島 誠治 | 顕微ブリルアン散乱法によるタンパク質結晶の変性と多形の研究 | 2,400 |
| | 19656016 | 数理物質科学研究科 | ・教授 | 青木 貞雄 | 中性子顕微鏡の試作 | 1,900 |
| | 19656135 | システム情報工学研究科 | ・教授 | 鈴木 弘之 | 地震によって損傷を被った鋼構造物の地震後火災に対する耐火性能 | 2,800 |
| | 19656155 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 大和 智 | 北欧の戦後住宅に及ぼした日本建築の影響に関する研究 | 1,300 |
| | 19656251 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | 平井 寿子 | 水素ハイドレートの合成とそのエネルギー輸送・貯蔵媒体への利用 | 1,100 |
| | 19658001 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 奥野 員敏 | イネのアレロパシー物質とその生成量を支配する量的形質遺伝子座の解明 | 2,100 |
| | 19658011 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 鈴木 雅和 | 変形菌による都市緑地の成熟度に関する環境指標性の検討 | 1,200 |
| | 19658031 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 星野 貴行 | 培養細胞系を用いた魚類プロバイオティクスの新規検索法 | 2,500 |
| | 19658044 | 生命環境科学研究科 | ・准教授 | 白井 健郎 | チューブリン・微小管結合蛋白質相互作用を阻害する低分子化合物の解析 | 2,300 |
| | 19658066 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 土居 修一 | シロアリが白色腐朽材を好まない理由の解明とその現象の利用の可能性 | 1,600 |
| | 19658129 | 生命環境科学研究科 | ・教授 | 小林 達彦 | 新規タンパク質成熟化機構の解明 | 3,600 |
| | 19659139 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 正田 純一 | 胆道系悪性腫瘍の個別化医療に向けたレクチンアレイによる糖鎖分子マーカーの探索 | 1,900 |
| | 19659216 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 杉山 文博 | N p h s 2 遺伝子変異マウスの血圧解析 | 1,700 |
| | 19659231 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 島野 仁 | S R E B P 2 過剰発現マウスによるコレステロール代謝とインスリン分泌の関連の検討 | 3,200 |
| | 19659302 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 武田 徹 | 脳ベータアミロイドやレビー小体の位相X線CT装置を用いた観察の試み | 2,000 |
| | 19659336 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 遠藤 隆志 | 肝内結石症からの胆道発癌プロセスと糖鎖分子マーカー活用による肝内胆管癌の早期診断 | 1,900 |
| | 19659456 | 人間総合科学研究科 | ・教授 | 金子 道夫 | 間質細胞を標的とした難治性小児悪性固形腫瘍の耐性克服の研究 | 2,000 |
| | 19659457 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 楯川 幸弘 | 乳酸系生体吸収性材料を基盤に用いたコンジットグラフトによる気管再建の研究 | 1,300 |
| | 19659462 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 畑 寿太郎 | 創傷治癒過程に対しストレス応答遺伝子が果たす役割- 遺伝子欠損マウスを用いた解析 - | 1,700 |
| | 19659562 | 人間総合科学研究科 | ・准教授 | 三木 明子 | 病院職員への暴力のリスクマネジメントプログラムの開発：多職種間における縦断研究 | 1,400 |
| 19659576 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 阿部 正子 | 生殖医療におけるヘルスプロモーション推進のための妊孕力に関する影響因子の疫学的検討 | 1,900 | |
| 若手研究スタートアップ | 18810007 | システム情報工学研究科 | ・講師 | 奥島真一郎 | 「環境政策における経済的手法」再検討 | 920 |
| | 18820003 | 人文社会科学研究科 | ・講師 | 稀代麻也子 | 六朝における生命の文学 | 1,390 |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-------------------|-----------|-------------|-------|----------------------|---|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 若手研究 (スタートアップ) | 18860016 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 橋本 剛 | 伝統集落における緑化デザインの環境調節効果と景観特性 | 1,350 |
| | 18860017 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 福田 淳二 | 肝細胞スフェロイドチップの開発 | 1,370 |
| | 18890037 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 坂東 裕子 | 悪性腫瘍における血管新生および腫瘍微小環境因子の発現解析と抗血管新生療法の開発 | 1,330 |
| | 18890039 | 人間総合科学研究科 | ・ 助手 | 原 友紀 | 末梢神経の新しい治療法の開発 | 1,120 |
| | 19800003 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 浜中 雅俊 | 音楽理論GTTMに基づく作曲・編曲システム | 1,360 |
| | 19800004 | 生命環境科学研究科 | ・ 研究員 | 山下 美鈴 | 子宮の細胞外環境と精子の受精能獲得機構 | 1,370 |
| | 19800005 | 人間総合科学研究科 | ・ 研究員 | 宮下 政司 | 生活習慣病者における分散運動が食後高脂血症に及ぼす影響 | 1,290 |
| | 19830010 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 岡田 幸彦 | わが国サービス組織における原価管理の実証的研究－アンケート調査を中心に | 980 |
| | 19830011 | 人間総合科学研究科 | ・ 研究員 | 野澤 純子 | アフガニスタンの障害児初等教育の現状と国際教育協力のあり方 | 1,080 |
| | 19840008 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 吉川 耕司 | 宇宙論的なバリオン進化の理論的研究 | 1,220 |
| | 19880006 | 生命環境科学研究科 | ・ 研究員 | 菅沼 秀樹 | 乾燥地・半乾燥地生態環境の広域数値解析 | 1,370 |
| | 19890035 | 人間総合科学研究科 | ・ 助教 | 勝岡 史城 | 転写因子Nrf2および小Maf群因子のドメイン構造・機能相関の解析 | 1,320 |
| | 19890036 | 人間総合科学研究科 | ・ 研究員 | 長野 真澄 | 虚血改善能の高いヒト虚血性疾患患者由来血管内皮前駆細胞の単離と機能解析 | 1,330 |
| 若手研究 (A) | 17689023 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 中田 和人 | モデルマウスを用いたミトコンドリア病の出生前治療法の開発 | 3,640 |
| | 18680010 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 北原 格 | 被写体のプライバシーを考慮したモバイルカメラによる高自由度映像監視技術に関する研究 | 8,840 |
| | 18684032 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 丸岡 照幸 | 生物由来物質の地球化学的指標から読み取る生物大量絶滅期の地球環境変動 | 910 |
| | 18686002 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 丸本 一弘 | 電子スピン共鳴による有機電界効果トランジスターのマイクロ評価と特性制御 | 9,230 |
| | 18688003 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 高谷 直樹 | 真菌のエネルギー獲得機構のなりたちと分子進化 | 8,190 |
| | 18689902 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 村山 明子 | 新規核小体DNAメチル化酵素複合体の機能解析と新たながん治療法への応用 | 8,450 |
| | 19681010 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 小林 伸彦 | ナノコンタクトの量子輸送シミュレーション | 12,870 |
| | 19683009 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 岡崎 慎治 | 軽度発達障害児の認知情報処理とその発達の客観的評価に基づく経年的支援 | 4,810 |
| | 19686050 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 藤野 貴康 | MHD加速部付き誘導結合型高周波プラズマ風洞の原理実証実験と性能予測解析 | 12,350 |
| 19688005 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 橋本 義輝 | ニトリル代謝の全貌解明と物質生産への応用 | 10,010 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|----------|--------------|--------------|-------|---------------------------------|--|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 若手研究(A) | 19688012 | 生命環境科学研究科 | ・講師 | 西田 顕郎 | 植生キャノピーの生理・生態・光学特性に関する統合モデルと衛星観測 | 16,380 |
| | 19689019 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 中川 嘉 | 生活習慣病改善因子TFE3による生活習慣病治療への分子基盤の確立 | 14,300 |
| | 19689027 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 柳澤 和彦 | α -Galcerを用いたNK細胞による新規抗癌治療法および肝硬変治療法の開発 | 11,830 |
| 若手研究(B) | 17700005 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 古賀 弘樹 | 計算量的に効率のよい秘密分散法の実現に関する研究 | 1,000 |
| | 17700046 | システム情報工学研究科 | ・講師 | 岡本 健 | 直接計算の負荷削減アプローチによる電子署名の高速化 | 1,100 |
| | 17700131 | システム情報工学研究科 | ・講師 | 三谷 純 | 立体紙模型の計算幾何学的構造の解明と設計支援システムへの応用 | 600 |
| | 17700134 | 図書館情報メディア研究科 | ・准教授 | 真栄城哲也 | メディカルインフォームドコンセント支援システム | 500 |
| | 17700184 | システム情報工学研究科 | ・講師 | 滝沢 穂高 | IT化農業のための圃場情報の知的・集約的獲得に関する研究 | 1,000 |
| | 17700521 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 大藏 倫博 | 内臓脂肪のオーダーメイド減量プログラム及び効果的なリバウンド防止法の開発 | 700 |
| | 17700522 | 人間総合科学研究科 | ・助教 | 中田 由夫 | 減量後のリバウンドが冠危険因子に及ぼす影響とリバウンドを規定する肥満遺伝子の検討 | 447 |
| | 17710178 | 数理物質科学研究科 | ・助教 | 早川 一郎 | 抗腫瘍活性海洋マクロライド・ピセライドBの全合成と新規抗がん剤の創製 | 500 |
| | 17720078 | 人文社会科学研究科 | ・講師 | 高木 智世 | 医療・福祉専門家によるカウンセリング場面の会話分析的研究 | 900 |
| | 17720223 | 人文社会科学研究科 | ・講師 | 中野 泰 | 現代韓国における植民地的遺産の資源化と活魚市場の形成に関する研究 | 500 |
| | 17730085 | 図書館情報メディア研究科 | ・准教授 | 新保 史生 | バイオメトリクス認証技術の利用と個人情報の保護 | 500 |
| | 17730098 | 人文社会科学研究科 | ・助教 | 三輪 博樹 | インドにおける選挙政治と政党政治に関する分析 | 500 |
| | 17730114 | 人文社会科学研究科 | ・准教授 | 鈴木 一人 | 欧州における軍民両用技術輸出管理体制の展開：欧州連合の機能拡大の分析 | 900 |
| | 17730127 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 江口 匡太 | 解雇法制における契約の不完備性と社会規範形成の研究 | 1,000 |
| | 17730143 | システム情報工学研究科 | ・講師 | 山鹿 久木 | 空間統計学や地理情報システムを応用した集積の経済・不経済の測定 | 800 |
| | 17730200 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 原田 信行 | 中小企業の資金調達環境と政策のあり方 | 900 |
| | 17730214 | システム情報工学研究科 | ・准教授 | 辻 爾志 | 行動ファイナンスに関する理論と実証 | 800 |
| | 17730224 | ビジネス科学研究科 | ・准教授 | 桑嶋 健一 | 機能性化学産業における事業展開戦略と製品開発マネジメント | 700 |
| 17730362 | 図書館情報メディア研究科 | ・准教授 | 鈴木 佳苗 | 児童青少年の社会性の発達における環境要因の検討 | 1,300 | |
| 17730510 | 人間総合科学研究科 | ・講師 | 菅野 和恵 | ダウン症児・者のワーキングメモリと言語機能の関連性に関する研究 | 900 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-----------|--------------|--------------|-------------------------------|---|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 若 手 研 究 (B) | 17740047 | 数理物質科学研究科 | ・ 助教 | 大谷内奈穂 | 統計的非正規推定論における情報不等式の効用 | 1,100 |
| | 17740088 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 木下 保 | 非線形弱双曲型システムの解のライフスパンに関する研究 | 900 |
| | 17740089 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 竹山 美宏 | 量子可積分系における物理量の代数的構造 | 900 |
| | 17750048 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 二瓶 雅之 | 複合機能性スピントロニクスオーバーラップ構造における光誘起物性変換 | 1,000 |
| | 17760633 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 笠原 次郎 | 間欠膨張推力増大効果による高ISPパルスデトネーションロケットの研究 | 1,100 |
| | 17770065 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 中山 剛 | 無色鞭毛虫のファウナとケルコゾア鞭毛虫の系統的多様性 | 700 |
| | 17780179 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 松下 秀介 | 多様な効用を考慮した果樹作農家の主体均衡と経営意思決定支援に関する研究 | 600 |
| | 17790804 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 川西 洋一 | うつ病におけるオーダーメイド医療のための心理学的及び薬理遺伝学的研究 | 700 |
| | 18700018 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 南出 靖彦 | 対話的定理証明によるソフトウェアの精密な検証 | 1,000 |
| | 18700019 | 図書館情報メディア研究科 | ・ 講師 | 鈴木 伸崇 | XMLデータと正規木文法との間のK最適編集操作列を求めるアルゴリズムの開発 | 700 |
| | 18700022 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 品川 高廣 | OSによるバッファオーバーフロー攻撃防止手法の研究 | 1,400 |
| | 18700041 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 山口 佳樹 | 書き換え可能ハードウェアを用いたタイムフォールトトレラント手法の実現 | 1,500 |
| | 18700096 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 川島 英之 | センサデータ集約サイトにおける高機能・高性能・高信頼なDBMSの設計原理確立 | 1,000 |
| | 18700113 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 掛谷 英紀 | 眼に優しい立体ディスプレイの研究 | 1,700 |
| | 18700220 | システム情報工学研究科 | ・ 准教授 | 秋山 英三 | 理論的分析と実験的検証による様々なジレンマ状況における評判の効果に関する研究 | 700 |
| | 18700221 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 延原 肇 | マックスプラス代数上での画像処理と計算知能の融合および画像情報爆発環境への応用 | 1,600 |
| | 18700338 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 先崎 浩次 | 脳神経系におけるRunx3転写因子の機能解析 | 1,400 |
| | 18700493 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 金谷麻理子 | マット運動における「後転とび」の学習法の開発 | 600 |
| | 18700494 | 体育センター | ・ 准研究員 | 堀出 知里 | 自然体験プログラムの評価におけるナラティブアプローチの応用 | 500 |
| | 18700503 | 人間総合科学研究科 | ・ 准研究員 | 武田 大輔 | ジュニアスポーツにおける親と子の相互関係パターンの検討 | 26 |
| 18700504 | 人間総合科学研究科 | ・ 准研究員 | 奥村 基生 | 高速展開スポーツにおける失敗回避法 | 800 | |
| 18710017 | 生命環境科学研究科 | ・ 研究員 | 廣田 充 | 標高に伴う気圧変化を考慮した湿地からのメタン放出量の再評価 | 1,200 | |
| 18720063 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | Franck Villa | フランス現代詩におけるミニマリズムの意義の比較的総合研究 | 700 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|-----------------------------|-----------|-------------|--------|--|--|-------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 若 手 研 究 (B) | 18720084 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | 清水 知子 | 東アジアにおける<アメリカ>の記憶と現代日本のアニメーション文化 | 1,100 |
| | 18720099 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 黒田 享 | ゲルマン語動詞接頭辞とアスペクト・ヴォイスの関係についての共時的・通時的総合研究 | 500 |
| | 18720134 | 人文社会科学研究科 | ・ 助教 | 佐藤 香織 | 聴覚障害者を対象とした日本語能力テストの開発のための基礎的研究 | 500 |
| | 18720199 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | 井上 文則 | 軍人皇帝時代におけるローマ帝国とパルミラ | 500 |
| | 18720225 | 生命環境科学研究科 | ・ 助教 | 兼子 純 | 組織的小売業者の形成する流通システムの地理学的研究 | 700 |
| | 18730036 | ビジネス科学研究科 | ・ 准教授 | 川田 琢之 | 「市場化テスト」の導入が公務員制度に及ぼす影響のあり方に関する労働法学的検討 | 537 |
| | 18730062 | ビジネス科学研究科 | ・ 准教授 | 丸山絵美子 | 消費者契約における契約解消法理の研究 | 600 |
| | 18730063 | ビジネス科学研究科 | ・ 准教授 | 柳 明昌 | 株主平等原則の現代的意義とその射程 | 1,400 |
| | 18730064 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 村上 正子 | 環境国際紛争における民事司法へのアクセスの確保 | 1,800 |
| | 18730089 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | 小嶋華津子 | 外資企業における労使紛争の展開・収束過程にみる中国の政治社会構造 | 1,100 |
| | 18730090 | 人文社会科学研究科 | ・ 研究員 | 柏木 志保 (渡邊志保) | グローバル化時代における市民参画型政策決定過程：フィリピンにおける市民社会研究 | 700 |
| | 18730110 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | 潘 亮 | 転換期日本の国際機構外交のメカニズム－1960年代と70年代を中心に | 1,000 |
| | 18730125 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 穂刈 享 | 破産問題の公理分析におけるヤングの定理とその一般化について | 400 |
| | 18730141 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 大久保正勝 | マクロ金融分析における弱操作変数問題と予測可能性の検定 | 300 |
| | 18730143 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | 高見澤秀幸 | 金利プロセスの推定 | 300 |
| | 18730157 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 渡邊 直樹 | 動学的産業構造の理論・実証研究：研究開発、ライセンス、内生的提携形成 | 900 |
| | 18730240 | システム情報工学研究科 | ・ 准教授 | 三橋 平 | 組織のスラック探索に関する包括的モデルの構築と実証研究 | 1,200 |
| | 18730273 | ビジネス科学研究科 | ・ 講師 | 佐藤 忠彦 | 動学的統計モデルによるマーケティング意思決定高度化のための研究 | 1,000 |
| | 18730338 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 野上 元 | 現代日本における「戦争の記憶」の社会学的研究：歴史意識の継承と断絶をめぐって | 700 |
| | 18730382 | 人間総合科学研究科 | ・ 準研究員 | 宇井美代子 | “男女平等の判断基準”からみた男女平等に関する合意形成の促進・妨害要因の分析 | 900 |
| 18730489 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 根津 朋実 | 「羅生門の接近」を応用した現職教員研修プログラムの開発 | 600 | |
| 18730518 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 岡本 智周 | 2001年以降の米国歴史教育における多文化主義と国民主義の相克と止揚に関する研究 | 600 | |
| 18730538 | 人間総合科学研究科 | ・ 研究員 | 茅野 公穂 | 空間的推論の視点からの動的幾何ソフトによる学習に関する実証的研究 | 1,621 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-----------|--------------|--------|---------------------------------|---|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 若 手 研 究 (B) | 18730555 | 人間総合科学研究科 | ・ 准研究員 | 室谷 直子 | 学習障害児の読み困難とワーキングメモリとの関連性に関する研究 | 900 |
| | 18740023 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 永野 幸一 | 非正曲率距離空間の位相構造の研究 | 1,100 |
| | 18740084 | 数理物質科学研究科 | ・ 助教 | 石渡 聡 | 熱核のgradientのGauss型評価に伴う空間の幾何学的性質の研究 | 1,000 |
| | 18740097 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 平下 博之 | 遠赤外線・サブミリ波での原始銀河の直接検出 | 900 |
| | 18740128 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 丸山 和純 | CDF実験におけるトップクォーク質量の精密測定と対共鳴生成の探索 | 1,400 |
| | 18740130 | 数理物質科学研究科 | ・ 助教 | 谷口 裕介 | 格子上の超対称性理論の数値的解析 | 600 |
| | 18740139 | 計算科学研究センター | ・ 研究員 | 滑川 裕介 | 格子量子色力学を用いたクォーク・グルーオン・プラズマの数値的研究 | 500 |
| | 18740149 | 数理物質科学研究科 | ・ 研究員 | 三宅 秀樹 | 中性B中間子の η' η' K s崩壊の探索とCP非保存現象の研究 | 600 |
| | 18740175 | 図書館情報メディア研究科 | ・ 講師 | 水落 憲和 | ワイドバンドギャップ半導体に特徴的な状態の研究とそれを介した光緩和機構の解明 | 1,100 |
| | 18740290 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 植田 宏昭 | 20世紀および地球温暖化時のモンスーン熱水循環変動の解明 | 1,100 |
| | 18750036 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 淵辺 耕平 | 低原子価ニオブを触媒とするC-F結合とC-H結合のクロスカップリング反応の開発 | 500 |
| | 18750042 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 秋根 茂久 | 不斉情報の書き込み・読み出し・変換・増幅・消去が可能なメタロヘリセンの合成 | 900 |
| | 18750140 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 白木賢太郎 | タンパク質の凝集や失活をふせぐ溶液デザイン法の確立 | 600 |
| | 18750141 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 百武 篤也 | 可視光で駆動する光可逆性ケージド化合物の開発 | 1,000 |
| | 18760035 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 尾崎 信彦 | 非線形光学量子ドットの位置制御・高密度作製による超微細、超高速光・光デバイス開発 | 600 |
| | 18760075 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 松田 哲也 | FRPのマルチスケールクリープ変形・損傷解析および実験的検討 | 1,200 |
| | 18760229 | 図書館情報メディア研究科 | ・ 准教授 | 梅田 享英 | 電流検出電子スピン共鳴法によるシリコン微細デバイスの2値現象の観察 | 1,800 |
| | 18760357 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 川村 洋平 | 超磁歪振動子を用いた岩盤斜面の安定性評価 | 1,200 |
| | 18760449 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 藤井さやか | 地区計画等における裁量の判断を要する基準の運用過程の分析と実効性の評価 | 1,900 |
| | 18760521 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 金 へよん | チタン-ジルコニウム系生体用超弾性合金の開発 | 1,000 |
| 18770061 | 生命環境科学研究科 | ・ 研究員 | 坂口美亜子 | 真核生物における有中心粒太陽虫の系統的位置 | 900 | |
| 18770153 | 生命環境科学研究科 | ・ 助教 | 増本 博司 | 新規合成ヒストン特異的なアセチル化のDNA修復における役割 | 966 | |
| 18770163 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 中野賢太郎 | 細胞の極性化における細胞骨格とメンブレントラフィックの制御機構 | 1,800 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------------------------|-----------|-----------|-------|----------------------------------|--|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 若 手 研 究 (B) | 18770193 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 笹倉 靖徳 | ゲノミクス・プロテオミクス・遺伝学的解析によるホヤ変態機構の解明 | 1,500 |
| | 18780180 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 藤巻 晴行 | 地中点滴灌漑における根群域上部への塩類集積の数値予測とその対策に関する研究 | 600 |
| | 18780216 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 平林 美穂 | 代謝性熱産生と筋線維型変換を制御する因子の作用機構解明と肉生産への応用 | 1,700 |
| | 18780249 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 大徳 浩照 | 代謝と寿命をつなぐ転写因子FOXO1の多重修飾制御機構の解明 | 1,000 |
| | 18790190 | 人間総合科学研究科 | ・ 助教 | 鈴木 裕之 | 新規c-Myc結合タンパク質による幹細胞の増殖、分化制御機構 | 1,500 |
| | 18790191 | 人間総合科学研究科 | ・ 助教 | 内木 隆寛 | 脂肪細胞分化における細胞周期制御と機能発現の解析 | 1,300 |
| | 18790233 | 人間総合科学研究科 | ・ 研究員 | 大槻 露華 | 統合失調症におけるAPOE遺伝子群の発現機構解析 | 1,300 |
| | 18790234 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 佐藤 晃嗣 | 優位複製型ミトコンドリアDNAによる突然変異型ミトコンドリアDNAの排除 | 1,600 |
| | 18790301 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 森川 一也 | 細菌進化を加速する環境シグナル統合機構の解明 | 1,100 |
| | 18790376 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 角 大悟 | ヒ素の細胞外排泄におけるエストロゲンの親電子性代謝物の役割：Nr2の関与 | 2,000 |
| | 18790610 | 人間総合科学研究科 | ・ 助教 | 松坂 賢 | 新規脂肪酸伸長酵素の生体内における機能ならびに病態への関与 | 1,400 |
| | 18790611 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 高橋 昭光 | 糖尿病腎症における高血糖誘導性エネルギー代謝調節転写因子SREBP-1の役割 | 1,400 |
| | 18790823 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 石黒 浩毅 | 神経細胞接着因子と依存との関連に基づく依存症治療薬確立への応用 | 1,700 |
| | 18790868 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 國松 聡 | 末梢神経領域における拡散テンソルMRI及びトラクトグラフィの基礎的検討 | 600 |
| | 18790984 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 酒井 光昭 | 生理学的多変量データの取得と外科的処置が可能な胸腔内統合監視システムの構築 | 1,600 |
| | 18790985 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 榎本 佳治 | 骨髄幹細胞移植による心筋梗塞後リモデリングの制御 | 1,300 |
| | 18791112 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 相田 久美 | 移植腎慢性拒絶反応の病態解明と新たな診断基準の確立 | 2,000 |
| | 18791143 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 小島 真奈 | 周産期感染症におけるS. saprophyticusの病原性の解析 | 1,300 |
| | 18791186 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 田淵 経司 | 蝸牛音響性障害の成因の解明と治療に関する研究 | 1,100 |
| | 18791259 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 加治 優一 | 増殖性糖尿病網膜症における蛋白糖化最終産物の役割 | 1,100 |
| 18791656 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 柴山 大賀 | 効果的な糖尿病患者教育のための患者スクリーニングツールの開発 | 800 | |
| 18791712 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 柏木 聖代 | 介護保険レセプトによる訪問看護サービス利用に関する縦断的実証研究 | 1,700 | |
| 19700004 | 数理物質科学研究科 | ・ 助教 | 照井 章 | 多変数代数方程式のべき級数根解法の研究 | 1,300 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|-----------------------------|-------------|--------------|--------|----------------------------------|--|-------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 若 手 研 究 (B) | 19700005 | システム情報工学研究科 | ・ 研究員 | 金山 直樹 | 代数曲線とそのペアリング計算の暗号への応用について | 1,100 |
| | 19700083 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 天笠 俊之 | eサイエンスのためのオーバレイネットワークに基づくXMLデータ流通機構の研究 | 1,600 |
| | 19700201 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 首藤 文洋 | ヒトにやすらぎを与える心地よい音が示す心身効果の本能的脳機能メカニズムの解明 | 1,600 |
| | 19700230 | 図書館情報メディア研究科 | ・ 講師 | 永森 光晴 | メタデータの相互運用性と再利用性向上のための協調的メタデータスキーマ開発支援環境 | 1,900 |
| | 19700495 | 人間総合科学研究科 | ・ 準研究員 | 相澤 勝治 | 唾液中ストレスマーカーを用いた体重階級制アスリートのコンディション評価の確立 | 1,300 |
| | 19700673 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 山中 勤 | 植物の水利用様式と植生遷移の関係に関する比較研究 | 1,800 |
| | 19710087 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 岡田 晋 | ナノ物質系のネットワーク形状制御による新奇物性探索 | 1,300 |
| | 19710108 | 数理物質科学研究科 | ・ 助教 | 大石 基 | In vivoアポトーシスの誘発と検出を目指したコアーシェル型金ナノ粒子の設計 | 1,700 |
| | 19710109 | 数理物質科学研究科 | ・ 準研究員 | 谷中 淳 | 機能性分子間相互作用ダイナミクス研究への展開 | 2,000 |
| | 19710203 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | ティムール ダダバエフ | 中央アジア社会の持続性：ウズベキスタンの近隣コミュニティ（マハッラ）の実態調査 | 1,800 |
| | 19720091 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | 那須 昭夫 | 韻律語形成の適格性を制御する音韻特性の研究 | 1,100 |
| | 19720115 | 人文社会科学研究科 | ・ 助教 | 長野 明子 | 英語の複合動詞の種類とその特徴について | 800 |
| | 19720159 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | 山澤 学 | 出羽三山修験道の在地浸透とその特質に関する研究 | 1,000 |
| | 19720180 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | 鈴木 真 | 清朝の八旗と塩政に関する研究 | 1,000 |
| | 19720181 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | 山本 真 | 1930～40年代、中国福建省における国家権力の浸透と社会構造に関する研究 | 1,400 |
| | 19730066 | ビジネス科学研究科 | ・ 准教授 | 大淵真喜子 | 民事訴訟における営業秘密の保護 | 800 |
| | 19730088 | ビジネス科学研究科 | ・ 准教授 | 平嶋 竜太 | 情報技術のイノベーション促進を主軸とした特許発明の開示要件に関する基礎的研究 | 1,500 |
| | 19730089 | 図書館情報メディア研究科 | ・ 講師 | 村井麻衣子 | 著作権の制限規定に関する研究 | 500 |
| | 19730101 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 近藤 康史 | ブレア労働党政権期イギリスの対EU政策とEU共通社会政策の形成・転換に関する研究 | 800 |
| | 19730121 | 人文社会科学研究科 | ・ 助教 | 大友 貴史 | 米軍海外基地展開の国際比較 | 1,200 |
| 19730137 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 石川竜一郎 | 社会構造の認識形成とコミュニケーション：その経済学への応用 | 1,300 | |
| 19730164 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | 花木 伸行 | 組織構造とイノベーションの関係：モデルシミュレーションと実証分析 | 1,400 | |
| 19730165 | 人文社会科学研究科 | ・ 講師 | 中嶋 亮 | 企業間研究開発（R&D）の戦略的ネットワーク形成に関する実証研究 | 1,300 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|-----------------------------|-----------|--------------|--------|-----------------------------------|---------------------------------------|-------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 若 手 研 究 (B) | 19730383 | 人間総合科学研究科 | ・ 准研究員 | 新井 洋輔 | NPO団体におけるスキル継承過程の検討 | 500 |
| | 19730554 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 米田 宏樹 | 特別支援教育におけるインクルーシブ・カリキュラム開発のための歴史的研究 | 1,000 |
| | 19730555 | 人間総合科学研究科 | ・ 准研究員 | 坂尻 千恵 | 注意欠陥/多動性障害児における二重課題を用いた注意機能の検討 | 700 |
| | 19740003 | 数理物質科学研究科 | ・ 准研究員 | 杉山 和成 | 概均質ベクトル空間に付随する不変量の表現論的観点からの解析 | 800 |
| | 19740004 | 数理物質科学研究科 | ・ 助教 | 佐垣 大輔 | 古典制限1次元状態和や数理物理学に現れる特殊多項式のパス模型を用いた研究 | 900 |
| | 19740028 | 数理物質科学研究科 | ・ 助教 | 守屋 克洋 | 四元数的正則幾何による複素平面内のラグランジュ曲面の研究 | 800 |
| | 19740142 | 研究基盤総合センター | ・ 研究員 | 大木 俊征 | 完全整合回路を用いたキッカー電磁石システムの研究 | 1,520 |
| | 19740174 | 数理物質科学研究科 | ・ 助教 | 富本 慎一 | ディスク状半導体量子ドットにおける励起子輻射再結合寿命の研究 | 2,600 |
| | 19740175 | 数理物質科学研究科 | ・ 助教 | 阪東 一毅 | 半導体単一量子ドットにおける励起子複合体位相緩和過程の高感度測定 | 2,000 |
| | 19740194 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 安塚 周磨 | 異方的超伝導体のギャップ構造とジョセフソン磁束 | 2,100 |
| | 19740229 | 数理物質科学研究科 | ・ 助教 | 吉田 恭 | 乱流統計理論の宇宙規模流体への展開 | 1,100 |
| | 19740309 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 関口 智寛 | 複雑な振動流下における三次元ウェーブリップルの自己組織化に関する実験的研究 | 2,300 |
| | 19740325 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 興野 純 | ヒ素銻物の結合状態の変化と構造安定性に関する研究 | 1,600 |
| | 19750024 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 中本 真晃 | ケイ素-リン三重結合化合物：異種高周期元素間多重結合の合成と性質の解明 | 2,000 |
| | 19750025 | 数理物質科学研究科 | ・ 講師 | 土屋 敬広 | 常磁性内包フラレンに基づく超分子の構築と機能 | 2,100 |
| | 19750039 | 数理物質科学研究科 | ・ 助教 | 志賀 拓也 | キラル単一次元鎖磁石の磁気・光学・量子効果の研究 | 2,300 |
| | 19760031 | 先端学際領域研究センター | ・ 研究員 | 水谷 彰夫 | 光ファイバ/フォトリソニック結晶導波路の偏光無依存高効率光入出力結合 | 90 |
| | 19760162 | システム情報工学研究科 | ・ 講師 | 長谷川泰久 | 把持特性を考慮したウェアラブルパワーハンドの研究開発 | 2,100 |
| | 19770011 | 生命環境科学研究科 | ・ 講師 | 大橋 一晴 | 送粉動物の空間移動様式の変化が植物の花粉分散におよぼす影響 | 1,600 |
| | 19770061 | 生命環境科学研究科 | ・ 研究員 | 飯島 実 | 軟体動物有肺類の肺形成に関する研究：動物の陸上化の進化と多様性について | 2,700 |
| 19770142 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 福田 綾 | ヒストンのメチル化と転写調節 | 2,100 | |
| 19770145 | 人間総合科学研究科 | ・ 助教 | 大庭 良介 | RNAの関与する原核生物ゲノム折りたたみ機構の解明 | 306 | |
| 19780018 | 生命環境科学研究科 | ・ 助教 | 瀬古澤由彦 | 落葉果樹の休眠制御機構の解明ー樹体ジョイント法を利用した新規解析法 | 1,600 | |

| 種 目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研 究 課 題 名 | 交付を 受けた 研究費 |
|-----------------------------|------------------------------|-------------|-----------|-------|--|---------------------------------------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏 名 | | |
| 若 手 研 究 (B) | 19780070 | 生命環境科学研究科 | ・ 研究員 | 石田 純治 | 新規エネルギー代謝制御系・APJ受容体シグナルの生理機能解析 | 2,100 |
| | 19780247 | 生命環境科学研究科 | ・ 研究員 | 廣田 恵子 | 肝臓でのインスリン応答性転写制御におけるHNF4の基幹的役割の解析 | 2,100 |
| | 19790178 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 蕨 栄治 | ストレス応答タンパク質A170による新規摂食調節機構 | 1,700 |
| | 19790516 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 村越 伸行 | 徐脈性不整脈に対するHCN4遺伝子導入によるバイオペースメーカーの開発 | 2,000 |
| | 19790517 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 関口 幸夫 | 慢性心不全患者における心室3点同時ペーシングによる心機能改善の臨床的研究 | 1,700 |
| | 19790574 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 萩原 正大 | 巣状糸球体硬化病変形成における糸球体上皮細胞脱落とミトコンドリア機能異常の研究 | 1,300 |
| | 19790658 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 小原 直 | 低酸素応答系遺伝子発現における転写制御の解明 | 2,000 |
| | 19790710 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 白井 丈一 | 胎児腎臓幹細胞分化の分子基盤解明とそのアッセイ法の開発 | 1,700 |
| | 19791054 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 大阪 佳子 | 漢方製剤を用いた周術期における胆汁うっ滞性肝機能障害に対する新しい分子標的療法 | 1,700 |
| | 19791097 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 及川 剛宏 | 腎細胞癌に対する免疫細胞療法と血管新生阻害薬の新規併用療法の開発にむけた基礎研究 | 700 |
| | 19791190 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 飛田 忠道 | 内耳性難聴の機序の解明とステロイドホルモンの作用機序の基礎的研究 | 2,600 |
| | 19791256 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 川名 啓介 | 緑内障に対する線維柱帯切除術後の光干渉断層計による形態・偏光特性の評価 | 1,200 |
| | 19791306 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 瓜田 泰久 | PLGA-collagen hybrid meshを用いた横隔膜の再生 | 1,400 |
| | 19791486 | 人間総合科学研究科 | ・ 講師 | 山縣 憲司 | 造血幹細胞移植患者における包括的な口腔管理に関する臨床研究 | 1,700 |
| | 特別 研究 員 奨 励 費 | 17-7034 | 人文社会科学研究科 | ・ PD | 渡邊 俊和 | 『プラマーナサムッチャヤ』第3-4章後段の研究-哲学諸派形成期の思想解明- |
| 17-7035 | | 人文社会科学研究科 | ・ PD | 岩崎 賢 | 古代アステカ人の供犠に関する宗教学的的研究 | 700 |
| 17-7105 | | 生命環境科学研究科 | ・ PD | 小田 篤 | MADS-box型転写因子群による概日リズム制御機構の解明 | 1,100 |
| 17-7109 | | 生命環境科学研究科 | ・ PD | 佐藤 剛毅 | 脊椎動物の起源と化学受容系の進化:受容体遺伝子群の進化パターンと進化プロセス | 1,100 |
| 17-7294 | | 人文社会科学研究科 | ・ DC1 | 平井 毅 | ハンナ・アーレントにおけるthinkingの政治的役割 | 900 |
| 17-7301 | | 人間総合科学研究科 | ・ DC1 | 若林真衣子 | 女性アルコール依存症患者の回復プロセスについて | 900 |
| 17-7323 | | システム情報工学研究科 | ・ DC1 | 岡 瑞起 | セキュアシステム構築のための統計手法に基づく階層ネットワークモデルとその応用 | 900 |
| 17-7324 | | システム情報工学研究科 | ・ DC1 | 中島 佳宏 | スケラブルかつディペンダブルな大規模P2Pグリッドコンピューティングの研究 | 900 |
| 17-7332 | | 生命環境科学研究科 | ・ DC1 | 越後 拓也 | 有機起源鉱物の生成原理及び反応原理の解明 | 900 |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|----------|-------------|-------------|-------|---------------------------|--|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 特別研究員奨励費 | 17-7335 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC1 | 佐藤 航 | 界面張力による微少流体制御とその高機能化学集積回路への展開 | 900 |
| | 17-7336 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC1 | 黒田 武史 | 新規な作用機序に基づく海洋産抗腫瘍性マクロライドの作用機序解明 | 900 |
| | 17-7339 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC1 | 井上 茂義 | sp ² シリルアニオンを用いた新規π電子共役系分子の創成 | 900 |
| | 17-7340 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC1 | 高梨 和憲 | 多元素環状6π電子系分子の創成 | 900 |
| | 17-7342 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC1 | 小泉 智史 | 単分子磁石の合成と物性制御 | 900 |
| | 17-7345 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC1 | 宮澤 朋久 | 再生可能資源バイオマスの高性能ガス化触媒の開発 | 900 |
| | 17-7346 | 生命環境科学研究科 | ・ DC1 | 星野美保子 | 褐レン石地質温度・圧力計の開発と希土類元素の地球内部循環メカニズムの解明 | 900 |
| | 17-7359 | 人間総合科学研究科 | ・ DC1 | 中島(高木)やえ子 | 生体防御の基盤となるNrf2-Keap1システムの分子機構の解明 | 900 |
| | 17-7362 | 人間総合科学研究科 | ・ DC1 | 中埜 貴子 | ヘア型免疫受容体分子群の免疫制御機構における役割 | 900 |
| | 17-9329 | 人間総合科学研究科 | ・ PD | 青柳 靖之 | MK4産生細胞封入マイクロカプセルを用いた膀胱癌の新規治療法の開発 | 1,100 |
| | 18-3691 | 人文社会科学研究所 | ・ PD | 石森 大知 | メラネシアにおけるキリスト教の展開と宗教観に関する人類的研究 | 1,100 |
| | 18-3703 | 数理工学物質科学研究科 | ・ PD | 木村 真明 | sd-pt殻領域の安定、不安定原子核におけるクラスター相関と分子的構造の研究 | 1,100 |
| | 18-3737 | 生命環境科学研究科 | ・ PD | 牧野 崇司 | マルハナバチの株訪問頻度や株間移動の方向に影響を与える要因の解明 | 1,100 |
| | 18-3777 | 人文社会科学研究所 | ・ DC2 | 深谷 雅嗣 | 古代エジプトの祭礼と宗教思想 | 900 |
| | 18-3783 | 人文社会科学研究所 | ・ DC2 | 土方 裕子 | 読解における意味概念のオンライン統合とチャンキングのメカニズムに関する研究 | 900 |
| | 18-3784 | 人文社会科学研究所 | ・ DC2 | 飯村 友紀 | 北朝鮮農業政策の形成と展開過程－共産主義諸国そして韓国との「相互作用」を中心に－ | 500 |
| | 18-3787 | 人文社会科学研究所 | ・ DC2 | 長谷川敦章 | 古代東地中海世界に果たした北レヴァント文化の歴史的意義 | 900 |
| | 18-3802 | 数理工学物質科学研究科 | ・ PD | 渡部 靖之 | 活動銀河中心核の新たな物理的描像の構築 | 900 |
| | 18-3811 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC1 | 池 祐治 | 超広帯域分光法による凍結保護物質のガラス化ダイナミクスの研究 | 900 |
| | 18-3812 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC2 | 斉藤 圭亮 | 光合成における励起エネルギー捕獲・初期固定に理論的研究：酸素発生と非発生型の違い | 900 |
| 18-3817 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC2 | 飯塚 裕子 | 金属クラスター内包フラーレンの構造解析と分子変換 | 900 | |
| 18-3822 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC2 | 高山 真一 | シトクロムCの作用機構の解明と新規燃料電池への応用 | 900 | |
| 18-3824 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC2 | 小林 憲史 | 有機ゼオライトの炭素材料化 | 900 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|----------|-------------|-------------|-------|---|---|-----|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 特別研究員奨励費 | 18-3827 | 数理工学物質科学研究科 | ・ PD | 巻田 修一 | 眼底検査用フーリエドメイン光断層画像装置の開発 | 900 |
| | 18-3838 | システム情報工学研究科 | ・ PD | 中野 敦 | ゲームプレイヤーのためのモーションクリエイション環境の構築 | 900 |
| | 18-3839 | システム情報工学研究科 | ・ DC2 | 益子 宗 | ユーザの心理的状态を用いたストーリー体験型ゲームの実現 | 900 |
| | 18-3842 | システム情報工学研究科 | ・ PD | 森 博志 | インタラクティブストーリーテリングのためのCGアクターの行動制御手法の提案 | 900 |
| | 18-3845 | システム情報工学研究科 | ・ DC2 | 鈴木 真介 | 評判システムが協力的行動に与える影響の分析と評判システムの起源の考察 | 900 |
| | 18-3891 | 人間総合科学研究科 | ・ PD | 竹中 一平 | 日常会話におけるうわさと話題－不確実情報の伝達および伝播過程に関する研究－ | 900 |
| | 18-3892 | 人間総合科学研究科 | ・ PD | 立脇 洋介 | 異性交際の親密化・崩壊過程に関する感情モデル | 900 |
| | 18-3894 | 人間総合科学研究科 | ・ DC2 | 藤 桂 | インターネットの長期的利用に関する心理学的研究－自己と攻撃性の観点から－ | 900 |
| | 18-3908 | 人間総合科学研究科 | ・ PD | 伊藤 正哉 | 自分らしくある感覚（本来感）についての心理学的研究 | 900 |
| | 18-3920 | 人間総合科学研究科 | ・ PD | 川口 敦史 | インフルエンザウイルスのゲノム機能により規定される細胞特異性及び宿主域の解析 | 900 |
| | 18-3923 | 人間総合科学研究科 | ・ PD | 小田(中橋)ちぐさ | 自然免疫系細胞の活性抑制を制御する新規ペアレセプター MAIR分子群の解析 | 900 |
| | 18-3933 | 人文社会科学研究科 | ・ DC1 | 栗本 陽子 | 清朝チベット仏教政策史研究－清朝領内におけるチベット仏教管理制度の成立 | 900 |
| | 18-3934 | 人文社会科学研究科 | ・ DC1 | 大出 尚子 | 博物館事業よりみた「満州国」における「民族協和」の実態に関する研究 | 900 |
| | 18-3935 | 人文社会科学研究科 | ・ DC1 | 小林 亮介 | 清末、東チベットにおける新政と政治・社会構造の変容－土司制度の解体と民族問題－ | 900 |
| | 18-3945 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC1 | 二川 秀史 | 常磁性内包フラレン化学の新展開 | 900 |
| | 18-3950 | 生命環境科学研究科 | ・ DC1 | 石川 香 | ミトコンドリアDNAの病原性及び多型突然変異が生体機能に及ぼす影響の解析 | 900 |
| | 18-3967 | 生命環境科学研究科 | ・ DC1 | 上野 悟 | 分子進化的アプローチによる、より有効な抗微生物ペプチドのデザイン法の開発 | 900 |
| | 18-3979 | 人間総合科学研究科 | ・ DC1 | 宮内 久絵 | インクルーシブ教育における視覚障害児の教育的ニーズとその支援に関する研究 | 900 |
| | 18-03984 | 人間総合科学研究科 | ・ DC1 | 池田 華子 | 人間の知覚と運動機能における他人の行動の認識処理過程とその利用過程の解明 | 900 |
| | 18-3988 | 人間総合科学研究科 | ・ DC1 | 岡原 史明 | 癌抑制遺伝子産物 P T E N の制御因子 PICT-1による発癌制御の検討 | 900 |
| 18-3992 | 人間総合科学研究科 | ・ DC1 | 大辻摩希子 | 酸化ストレス応答における転写因子Nrf1とNrf2の機能的協調と差異の解析 | 900 | |
| 19-66 | 数理工学物質科学研究科 | ・ DC2 | 安田 浩之 | 高周期典型元素環状6π電子系分子の合成及び化学的物性の解明 | 900 | |
| 19-138 | 人間総合科学研究科 | ・ DC2 | 鍋倉 宰 | レトロウイルスベクターにより遺伝子改変された樹状細胞を用いたがん免疫療法の確立 | 900 | |

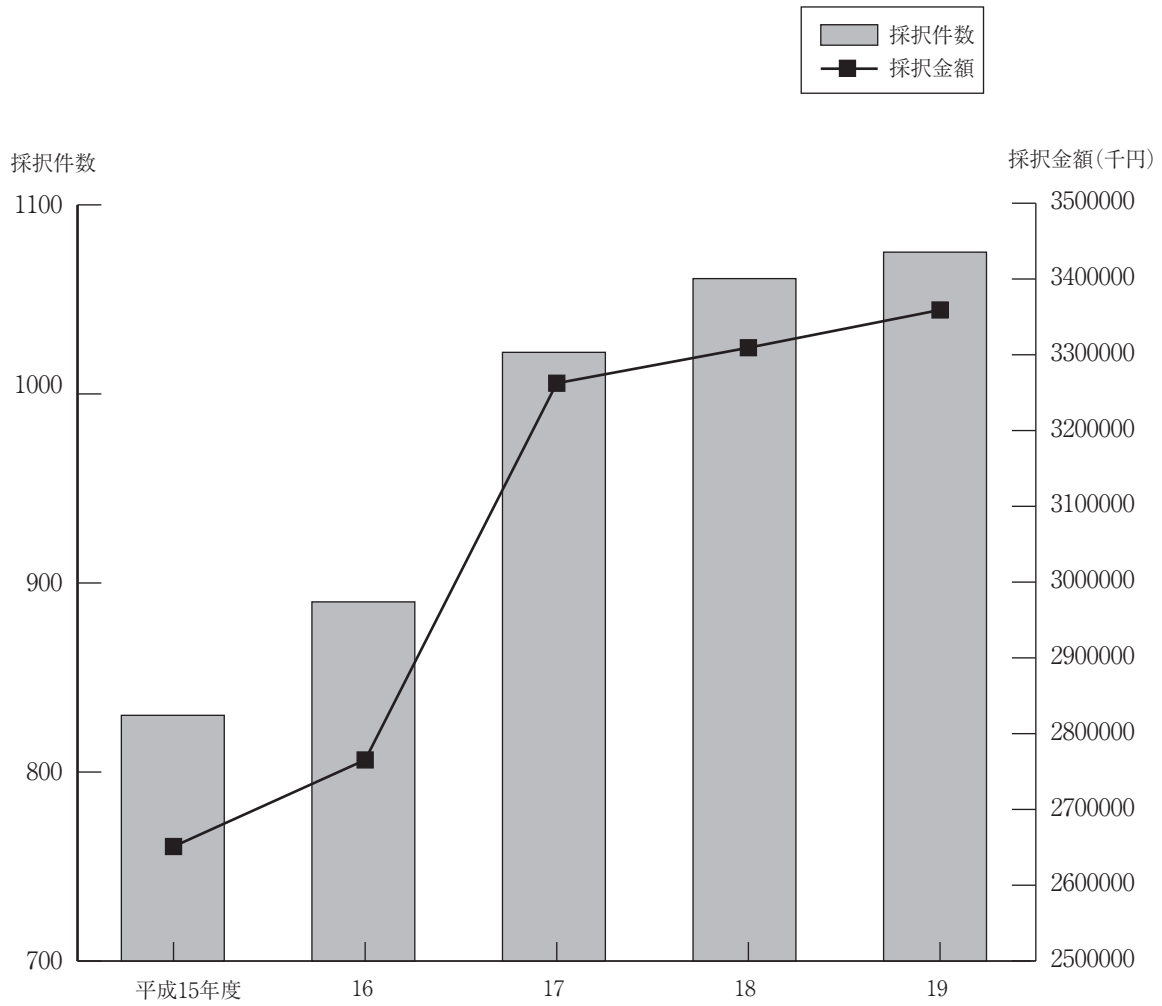
| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 | |
|----------|-----------|-----------|-------|--|--|-------|
| | | 所属部局 | 職 | | | 氏名 |
| 特別研究員奨励費 | 19-252 | 数理物質科学研究科 | ・ DC2 | 鈴木 博行 | フーリエ変換赤外分光法による光合成水分解反応の分子メカニズムの解明 | 1,000 |
| | 19-305 | 数理物質科学研究科 | ・ DC2 | 五十嵐正安 | 高周期典型元素 π 共役環状化合物の創成及び芳香族性の解明 | 900 |
| | 19-328 | 数理物質科学研究科 | ・ DC2 | 齋藤 卓 | 行列模型を用いたhigherspinを持つ場の理論の研究 | 900 |
| | 19-400 | 生命環境科学研究科 | ・ DC2 | 坂入 旭 | A P J 受容体の脂肪細胞特異的作用とエネルギー代謝ネットワークの解明 | 900 |
| | 19-436 | 生命環境科学研究科 | ・ DC2 | 駒木伸比古 | 行政・企業・消費者からみた地方中心都市の都市構造変容に関する地理学的研究 | 900 |
| | 19-457 | 生命環境科学研究科 | ・ DC2 | 安部 智子 | アシル C o A 合成酵素の新機能の応用酵素学的解析 | 1,000 |
| | 19-535 | 人間総合科学研究科 | ・ DC2 | 細越 寛樹 | 日本における対処的非観性の機能と対処的非観者の心身の健康に対する介入法の検討 | 1,000 |
| | 19-567 | 人文社会科学研究所 | ・ DC1 | 岡田 勇 | 中央アンデス地域における先住民の政治 | 500 |
| | 19-569 | 数理物質科学研究科 | ・ DC1 | 栗原 広樹 | 金属内包フラーレンに基づく超分子系の構築 | 900 |
| | 19-570 | 数理物質科学研究科 | ・ DC2 | 山田 道夫 | 金属内包フラーレンの誘導化とその配列制御 | 1,000 |
| | 19-574 | 数理物質科学研究科 | ・ DC1 | 松田 裕 | 超広帯域分光法による無機酸化物ガラスのガラス転移ダイナミクスに関する研究 | 900 |
| | 19-604 | 人間総合科学研究科 | ・ DC2 | 石田 喜美 | 社会構成主義的アプローチによるメディア・リテラシー教育の開発 | 400 |
| | 19-611 | 人間総合科学研究科 | ・ DC2 | 太幡 直也 | 懸念的被透視感によって生じる反応の検討 - 対人コミュニケーションの観点から - | 900 |
| | 19-1225 | 生命環境科学研究科 | ・ DC2 | 丸山美沙子 | 中小企業集積地における地域内・地域間補完関係に関する経済地理学的研究 | 1,000 |
| | 19-1260 | 生命環境科学研究科 | ・ DC2 | 本庄 賢 | ショウジョウバエ幼虫における報酬記憶と罰記憶を区別する情報伝達機構の解析 | 1,000 |
| | 19-1385 | 人間総合科学研究科 | ・ DC2 | 保田 誠司 | ガス摩擦加熱を受けたダストの溶融と流動：コンドリユールとコスミックスフェリユール | 900 |
| | 19-1404 | 数理物質科学研究科 | ・ DC1 | 塚田 真也 | 鉛系ペロブスカイト酸化物における相転移のフォノンダイナミクス | 900 |
| | 19-1438 | 人文社会科学研究所 | ・ DC2 | 森本 由子 | 多肢選択式語彙テストにおける文脈と選択肢の関係：共起頻度と相互情報量を用いて | 900 |
| | 19-1665 | 数理物質科学研究科 | ・ DC2 | 馬場 裕 | 閉弦の場の理論における D ブレーン | 900 |
| | 19-1667 | 生命環境科学研究科 | ・ DC2 | 山下 祐司 | 鹿沼土およびガラスビーズを用いたコロイド促進型の汚染物質輸送挙動に関する研究 | 900 |
| 19-1733 | 生命環境科学研究科 | ・ DC1 | 岩崎 崇 | 昆虫抗微生物ペプチド由来改変ペプチドの病原細菌及び癌細胞増殖抑制効果に関する研究 | 900 | |
| 19-1745 | 人間総合科学研究科 | ・ DC2 | 村田 弓 | 霊長類を用いた脳損傷後の機能回復メカニズムの解明：分子及びシステムレベルの解析 | 900 | |
| 19-1878 | 生命環境科学研究科 | ・ PD | 松崎 仁美 | 酵母人工染色体遺伝子導入マウスを用いたゲノム刷り込み確立機構の解析 | 1,100 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|----------|-----------|-------------|-------|---|--|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 特別研究員奨励費 | 19-1911 | 人文社会科学研究科 | ・ DC1 | 齊 光 | 清朝のアラシャン=ホシュート部支配と多民族性に関する研究 | 1,000 |
| | 19-1930 | 生命環境科学研究科 | ・ DC1 | 福井眞生子 | サイコクカマアシムシの発生学的研究-六脚類の高次系統・グラウンドプランの再構築- | 900 |
| | 19-2260 | 生命環境科学研究科 | ・ DC1 | 早乙女 梢 | 担子菌ヒダナシタケ目タマチョレイタケ属の系統進化と種分化における交配反応について | 900 |
| | 19-2271 | 生命環境科学研究科 | ・ PD | 早川 裕一 | 遷急区間侵食と基盤岩石物性を組み入れた岩盤河川の地形発達モデルの構築 | 1,100 |
| | 19-2276 | 生命環境科学研究科 | ・ DC2 | 川口 利奈 | 訪花昆虫における他個体の情動的利用のメカニズムとその適応的意義の解明 | 900 |
| | 19-2350 | 人間総合科学研究科 | ・ PD | 黄 虎 | 運動トレーニングのアディポネクチン受容体転写因子に対する効果 | 900 |
| | 19-2427 | 生命環境科学研究科 | ・ DC2 | 平内 健一 | 断層帯を構成する蛇紋岩の変形組織に関する研究 | 1,000 |
| | 19-2631 | 人文社会科学研究科 | ・ DC1 | 中川知佳子 | 心的辞書構造に基づく英語語彙学習プロセスのモデル化 | 1,000 |
| | 19-2649 | システム情報工学研究科 | ・ DC1 | 高田 卓 | 弱サブクール状態の超流動ヘリウムに現れる異常に高い熱伝達率を持つ膜沸騰現象の解明 | 900 |
| | 19-2694 | システム情報工学研究科 | ・ DC2 | 小山 雄資 | 用途廃止と払い下げを伴う公共住宅ストックの再編に関する研究 | 900 |
| | 19-2727 | 生命環境科学研究科 | ・ DC2 | 町田 真一 | メタンハイドレートの高温高压下の相変化と海王星・天王星氷マンツルの状態の推定 | 900 |
| | 19-2737 | 生命環境科学研究科 | ・ DC2 | 新名阿津子 | 事業所サービス業の東京一極集中に関する都市経済地理学的研究 | 900 |
| | 19-2836 | 人間総合科学研究科 | ・ DC1 | 竹内 未紀 | GATA-1発現が減弱する突然変異ゼブラフィッシュ系統の解析と原因遺伝子同定 | 900 |
| | 19-3097 | 数理物質科学研究科 | ・ DC2 | 早乙女飛成 | 強擬凸多様体における量子コホモロジー理論の構成 | 700 |
| | 19-3174 | 人間総合科学研究科 | ・ DC2 | 生島 美和 | 現代日本における地域志向型博物館の理論と構造 | 500 |
| | 19-3181 | 人文社会科学研究科 | ・ PD | 堀内 俊郎 | インドにおける大乘仏説論の研究-『大乘莊嚴経論』『思釈炎論』『入大乘論』を中心に | 1,100 |
| | 19-3291 | 人間総合科学研究科 | ・ DC2 | 中井 大介 | 生徒の教師に対する信頼感に関する研究 | 500 |
| | 19-3325 | 人文社会科学研究科 | ・ PD | 中川 真弓 | 中世寺院における願文作品の文学史的研究 | 700 |
| | 19-3464 | 人文社会科学研究科 | ・ DC1 | 石岡(松井)理恵 | 東アジア市民社会圏における環境運動の社会学的実証研究-地域社会の紛争と協働- | 900 |
| | 19-4426 | 人間総合科学研究科 | ・ DC1 | 張 愉紀子 | IgM, IgAに対するFc受容体 (Fc α / μ 受容体) のシグナル伝達機構の解析 | 900 |
| 19-4446 | 人間総合科学研究科 | ・ DC2 | 栗田 尚樹 | 粘膜IgA産生におけるFc α / μ 受容体の機能解析 | 900 | |
| 19-4763 | 人間総合科学研究科 | ・ DC2 | 若松 英 | シェーグレン症候群発症における分子機構の解明 | 900 | |
| 19-4769 | 人間総合科学研究科 | ・ PD | 松木 大造 | 視床下部神経の制御機構の解析 | 1,100 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|----------|-------------|-------------|-------|---|---|-----------|
| | | 所属部局 | 職 | 氏名 | | |
| 特別研究員奨励費 | 19-7212 | 生命環境科学研究科 | ・ PD | 上松佐知子 | コノドント化石層序に基づく古生代の生物大量絶滅事件の解読 | 299 |
| | 19-7571 | 生命環境科学研究科 | ・ DC1 | 中山 卓郎 | Paulinella chromatophoraのシアネルに関する研究 | 900 |
| | 19-9377 | 数理物質科学研究科 | ・ DC1 | 横田 巧 | リッチ流方程式の解の挙動についての研究 | 900 |
| | 19-13043 | 人間総合科学研究科 | ・ DC1 | 秋月 千鶴 | 相対論的輻射輸送から探る活動天体と宇宙ジェットの構造 | 900 |
| | 19-13186 | 数理物質科学研究科 | ・ DC2 | 星野 哲久 | 単分子磁石研究の新展開 | 900 |
| | 19-45111 | 人間総合科学研究科 | ・ RPD | 伊東 史子 | 遺伝子改変マウスを用いた血管新生におけるTGF- β シグナル系の解析 | 1,100 |
| | 19-52153 | 人間総合科学研究科 | ・ DC2 | 林 和子 | ラットの空間的作業記憶における前頭前野および海馬の役割 | 900 |
| | 19-55481 | システム情報工学研究科 | ・ DC2 | 布 樹輝 | 次世代筋収縮能評価インタフェース：超音波3D心筋ストレイン映像法の開発と展開 | 900 |
| | 17-05056 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 舛本 泰章 | フェムト秒非線形分光法による量子ドットの研究 | 400 |
| | 17-05683 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 内田 和彦 | RNAi技術を利用した、ガン細胞におけるDNAメチル化の制御 | 900 |
| | 18-06007 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 大倉 浩 | 日本中世漢字音研究の日韓文化史的観点からの対照的研究－韻書を中心として－ | 699 |
| | 18-06307 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 岡出 美則 | 発達段階を踏まえたコーチ教育プログラムの開発 | 1,200 |
| | 18-06308 | 人間総合科学研究科 | ・ 教授 | 宗像 恒次 | 差別化社会におけるエイズ孤児のメンターシステム－サハラ以南アフリカ諸国の比較研究 | 1,100 |
| | 18-06351 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 大塩 寛紀 | 高次機能性ナノ金属錯体：スピנקロスオーバーや伝導性を示す単分子量子磁石の創製 | 569 |
| | 18-06368 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 北川 博之 | オープンネットワーク環境における位置依存サービスのための高性能索引構造 | 900 |
| | 18-06386 | 数理物質科学研究科 | ・ 准教授 | 上殿 明良 | 陽電子消滅を用いた次世代メモリのための多層金属酸化物構造の研究 | 200 |
| | 18-06452 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 征矢 英昭 | アルツハイマー病予防に有益な運動誘発性ERストレスの分子経路 | 1,100 |
| | 18-06571 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 張 振亜 | 高機能性メタン発酵システムの構築 | 1,200 |
| | 18-06625 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 中嶋 光敏 | マイクロチャンネル技術による均一径エマルションを利用した精密酵素反応 | 1,200 |
| | 18-06732 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 佐藤 三久 | グリッドコンピューティング・ミドルウェアにおけるユーザ管理技法の研究 | 800 |
| 19-07003 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 村山 祐司 | 人文－自然の相互作用を考慮した空間的都市シミュレーションモデルの構築 | 1,100 | |
| 19-07019 | 人文社会科学研究科 | ・ 准教授 | 高崎 善人 | 社会資本、コミュニティ開発、貧困：アフリカにおける文化的規範の影響に関する研究 | 1,100 | |
| 19-07124 | システム情報工学研究科 | ・ 教授 | 大村謙二郎 | ポスト成長時代の持続可能な都市・住宅マネジメントに関する研究 | 700 | |

| 種目 | 課題番号 | 研究代表者 | | | 研究課題名 | 交付を受けた研究費 |
|-----------|----------|-------------|-------|-------|--|-----------|
| | | 所属部局 | ・ 職 | 氏名 | | |
| 特別研究員奨励賞 | 19-07184 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 江面 浩 | 組織培養を利用した味覚修飾物質ミラクリンの大量生産に関する研究 | 1,100 |
| | 19-07739 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 門脇 和男 | 炭素系層状物質、酸化物等の新奇物質の開拓と物性研究 | 1,100 |
| | 19-07463 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 渡辺 重行 | 生体内一酸化窒素測定カテーテルの開発と不安定プラーク診断への応用 | 1,200 |
| | 19-07306 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 村山 祐司 | 東アフリカのマサイ・マラ・エコシステムにおける観光開発インパクトの総合的解析 | 900 |
| | 19-07320 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 福島 武彦 | 都市水域での鉛、亜鉛濃度：アジア都市比較研究 | 800 |
| | 19-07334 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 長崎 幸夫 | ナノ診断・治療を目指した抗体ハイブリッド密生層表面を有する金ナノ粒子の創成 | 200 |
| | 19-07354 | 数理物質科学研究科 | ・ 教授 | 寺西 利治 | 貴金属ナノ構造体創成へ向けたポリオールプロセス：合理的合成，特性，応用 | 500 |
| | 19-07432 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 小林 達彦 | アジ化物代謝系の分子機能解析 | 400 |
| | 19-07704 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 和田 洋 | ヒガシナメクジウオ卵における受精前後の細胞内骨格と母性mRNAの動態 | 582 |
| 研究成果公開促進費 | 187003 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 漆原 秀子 | デイクチオステリウムcDNAデータベース | 3,900 |
| | 198006 | 人文社会科学研究所 | ・ 教授 | 芳賀 紀雄 | 説話データベース | 9,100 |
| | 198033 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 村山 祐司 | 明治期以降行政界変遷デジタル地図 | 2,400 |
| | 198052 | 生命環境科学研究科 | ・ 准教授 | 上野 健一 | CEOPつくばリファレンスサイトデータベース | 1,057 |
| | 198054 | 生命環境科学研究科 | ・ 教授 | 杉田 倫明 | モンゴル国及び周辺地域の自然環境データベース | 2,400 |
| | 195050 | 人文社会科学研究所 | ・ 准教授 | 大矢 俊明 | ドイツ語再帰構文の対照言語学的研究 | 1,400 |
| | 195183 | 人間総合科学研究科 | ・ 准教授 | 清水 美憲 | 算数・数学教育における思考指導の方法 | 2,100 |
| | 195186 | システム情報工学研究科 | ・ 准教授 | 藤川 昌樹 | 北京の四合院 | 1,700 |

科学研究費補助金の推移



| 年度 | 平成15年度 | 16 | 17 | 18 | 19 |
|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 件数 | 830 | 890 | 1,022 | 1,061 | 1,075 |
| 金額 | 2,651,046 | 2,765,526 | 3,262,455 | 3,309,310 | 3,359,123 |

(金額欄の単位：千円)

(4) 研究プロジェクト支援経費

ア 筑波大学内プロジェクト研究費申請・採択・配分状況〈平成19年度〉

(ア) 総括表

(単位：千円)

| 博士課程研究科 | 特別助成研究 | | | 特別助成研究 (S) | | | 助成研究 (A) | | | 合計 | | | 各研究科研究プロジェクト等支援経費 | 研究科等配分金額 |
|--------------|--------|------|----------|------------|------|---------|----------|------|----------|------|------|----------|-------------------|----------|
| | 申請件数 | 採択件数 | 採択金額 | 申請件数 | 採択件数 | 採択金額 | 申請件数 | 採択件数 | 採択金額 | 申請件数 | 採択件数 | 採択金額 | | |
| 人文社会科学 研究科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7,900 | 7,900 |
| ビジネス科学 研究科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 923 | 1 | 1 | 923 | 2,520 | 3,443 |
| 数理物質科学 研究科 | 2 | 2 | 13,145 | 1 | 1 | 3,550 | 1 | 1 | 1,575 | 4 | 4 | 18,270 | 13,770 | 32,040 |
| | (2) | (2) | (13,145) | (1) | (1) | (3,550) | (1) | (1) | (1,575) | (4) | (4) | (18,270) | | |
| システム情報工学 研究科 | 1 | 1 | 1,000 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 990 | 2 | 2 | 1,990 | 12,820 | 14,810 |
| | (1) | (1) | (1,000) | | | | (1) | (1) | (990) | (2) | (2) | (1,990) | | |
| 生命環境科学 研究科 | 3 | 3 | 12,455 | 1 | 1 | 1,100 | 3 | 3 | 4,902 | 7 | 7 | 18,457 | 14,100 | 32,557 |
| | (3) | (3) | (12,455) | (1) | (1) | (1,100) | (3) | (3) | (4,902) | (7) | (7) | (18,457) | | |
| 人間総合科学 研究科 | 1 | 1 | 5,478 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2,825 | 3 | 3 | 8,303 | 32,310 | 40,613 |
| | (1) | (1) | (5,478) | | | | (2) | (2) | (2,825) | (3) | (3) | (8,303) | | |
| 図書館情報メディア研究科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 250 | 1 | 1 | 250 | 3,580 | 3,830 |
| | | | | | | | (1) | (1) | (250) | (1) | (1) | (250) | | |
| 合計 | 7 | 7 | 32,078 | 2 | 2 | 4,650 | 9 | 9 | 11,465 | 18 | 18 | 48,193 | 87,000 | 135,193 |
| | (7) | (7) | (32,078) | (2) | (2) | (4,650) | (9) | (9) | (11,465) | (18) | (18) | (48,193) | | |

注) () 内の数字は、継続研究課題の申請件数、採択件数及び採択金額で内数。

(イ) 種目別採択状況

(単位：千円)

| 種目 | 研究代表者 | | 人員 | 研究課題名 | 配分額 | |
|---------|-----------|---------------------|-------|-------|---|-------|
| | 所属部局・職 | 氏名 | | | | |
| 特別助成研究 | 18年度新規採択分 | 数理工学物質科学研究科 ・講師 | 瀬田 益道 | 3 | 南極天文学開拓に向けてのサーベイ望遠鏡の開発 | 9,050 |
| | | 数理工学物質科学研究科 ・准教授 | 木塚 徳志 | 1 | 原子直視観察を基盤にした単一ナノ結晶の個別分光 | 4,095 |
| | | システム情報工学研究科 ・准教授 | 境 有紀 | 4 | 大地震時における構造物の動的挙動の把握を可能にする超小型模型試験体を用いた振動実験手法の開発 | 1,000 |
| | | 生命環境科学研究科 ・教授 | 井上 勲 | 7 | 普遍水域におけるプロテオーム多様性解明とプロテオームバイオリソース基盤の構築 | 5,500 |
| | | 生命環境科学研究科 ・教授 | 稲葉 一男 | 2 | ホヤポストゲノム科学の基盤創出研究と国際拠点化 | 2,455 |
| | | 生命環境科学研究科 ・教授 | 千葉 智樹 | 2 | ユビキチンシグナルによる生体機能制御の解析 | 4,500 |
| | | 人間総合科学研究科 ・教授 | 小川 園子 | 1 | 社会性の破綻としての攻撃行動表出の分子行動神経科学的基盤の解明 | 5,478 |
| 特別助成研究S | 17年度新規採択分 | 数理工学物質科学研究科 ・教授 | 関口 章 | 4 | 常磁性高周期典型元素化合物の開発 | 3,550 |
| | | 生命環境科学研究科 ・教授 | 林 陽生 | 9 | 筑波山における気象・水文環境の多要素モニタリングによる大気・水循環場の解明 | 1,100 |
| 助成研究A | 17年度新規採択分 | ビジネス科学研究科 ・准教授 | 猿渡 康文 | 6 | スポーツの数理的マネジメント | 923 |
| | | 数理工学物質科学研究科 ・教授 | 赤平 昌文 | 6 | 統計的領域推定における新しいリスク評価と検定論への応用 | 1,575 |
| | | システム情報工学研究科 ・講師 | 藤野 貴康 | 3 | 磁場を利用した地球再突入時の熱制御技術の開発 | 990 |
| | | 生命環境科学研究科 ・准教授 | 谷本 啓司 | 1 | 遺伝子のアイデンティティを規定する発生段階特異的転写制御メカニズムの解明 | 2,500 |
| | | 生命環境科学研究科 ・教授 | 濱 健夫 | 2 | 西部北太平洋熱帯・亜熱帯海域における炭素循環への溶存態有機炭素の寄与 | 752 |
| | | 生命環境科学研究科 ・講師 | 鈴木 石根 | 2 | 光合成生物の環境適応機構のポストゲノム解析 | 1,650 |
| | | 人間総合科学研究科 ・教授 | 金保 安則 | 1 | 細胞膜リン脂質代謝を介するシグナル伝達の生理機能とその異常に起因する疾患に関する研究 | 1,250 |
| | | 人間総合科学研究科 ・准教授 | 松崎 一葉 | 4 | 高等教育研究機関に特化した労働安全衛生管理システムの構築に関する研究 -労働安全衛生マネジメントシステム・つくばモデルの構築- | 1,575 |
| | | 図書館情報メディア研究科 ・教授 | 植松 貞夫 | 7 | 電子図書館における学術情報の組織化と発信 -リソースオーガナイザーの開発- | 250 |

イ 筑波大学産学連携推進プロジェクト申請・採択・配分状況（平成19年度）

(ア) 総括表

(単位：千円)

| 博士課程研究科等 | 共同研究プロジェクト | | 創業支援プロジェクト | | ベンチャー支援プロジェクト | | 合計 | |
|---------------|------------|-----------|------------|----------|------------------|--------------------|------------|------------|
| | 申請件数 | 採択件数 | 申請件数 | 採択件数 | 申請件数 | 採択件数 | 申請件数 | 採択件数 |
| 人文社会科学研究科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ビジネス科学研究科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 数理物質科学研究科 | 4 (3) | 3 (3) | 2 (1) | 2 (1) | 5,300 (2,500) | 13,000 (10,200) | 6 (4) | 5 (4) |
| システム情報工学研究科 | 3 (1) | 2 (1) | 0 | 0 | 5,700 (2,700) | 5,700 (2,700) | 3 (1) | 2 (1) |
| 生命環境科学研究科 | 4 (1) | 2 (1) | 0 | 0 | 5,700 (2,700) | 5,700 (2,700) | 4 (1) | 2 (1) |
| 人間総合科学研究科 | 5 (2) | 3 (2) | 2 (2) | 2 (2) | 3,600 (3,600) | 11,600 (8,600) | 7 (4) | 5 (4) |
| 図書館情報メディア研究科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 第三学群・工学システム学類 | | | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 大学発ベンチャー企業等 | | | | | | | 9 (5) | 9 (5) |
| 合 計 | 16 (7) | 10 (7) | 5 (3) | 4 (3) | 8,900 (6,100) | 36,000 (24,200) | 30 (15) | 23 (15) |

注) () 内の数字は、継続研究課題の申請件数、採択件数及び採択金額で内数。

(イ) 種目別採択状況

(単位：千円)

| 種類 | 研究代表者 | | プロジェクト名 | 配分額 | | |
|---------------|------------|---------------------------|-------------------|---|---------------------------------------|-------|
| | 所属部局・職 | 氏名 | | | | |
| 共同研究プロジェクト | 19年度新規採択分 | システム情報工学研究科 ・教授 | 阿部 豊 | 超臨界CO2冷媒用マイクロチャンネル積層型ヒートポンプに関する研究 | 3,000 | |
| | | 生命環境科学研究科 ・教授 | 柳澤 純 | 核内受容体および転写制御因子の研究に基づく新規動脈硬化治療薬の開発 | 3,000 | |
| | | 人間総合科学研究科 ・教授 | 大根田 修 | 臍帯血を利用した無血清細胞凍結保存液および血管内皮前駆細胞用無血清培地の開発 | 3,000 | |
| | 18年度新規採択分 | 数理物質科学研究科 ・准教授 | 白木賢太郎 | タンパク質の凝集失活を制御する溶液デザインキット開発 | 2,700 | |
| | | 数理物質科学研究科 ・講師 | 後藤 博正 | 導電性高分子ポリアニリンを前駆体とした中空型ナノカーボンの合成と、これを用いた高強度電磁波遮断繊維、高性能耐久性電極の作成 | 2,700 | |
| | | システム情報工学研究科 ・教授 | 岡本 栄司 | ペアリング暗号LSIの研究開発 | 2,700 | |
| | | 生命環境科学研究科 ・准教授 | 青柳 秀紀 | 高純度パン酵母細胞壁成分(β 1,6/1,3Dグルカン)の試薬品化と大量生産システムの構築 | 2,700 | |
| | | 人間総合科学研究科 ・教授 | 大河内信弘 | 凍結乾燥血小板を用いた肝再生促進治療の開発 | 2,700 | |
| | 17年度新規採択分 | 数理物質科学研究科 ・教授 | 宮崎 修一 | 低ヤング率・高強度・高弾性Ti生体用合金の開発 | 2,300 | |
| | | 人間総合科学研究科 ・教授 | 永田 恭介 | 新興・再興感染症の防疫・診断に迅速に対応できる新規測定系開発プロジェクト | 2,300 | |
| | 創業支援プロジェクト | 19年度新規採択分 | 数理物質科学研究科 ・教授 | 赤阪 健 | カーボンナノチューブの高効率分離法の確立とITO代替透明導電性薄膜への展開 | 2,800 |
| | | 18年度新規採択分 | 数理物質科学研究科 ・准教授 | 上殿 明良 | 陽電子を用いた材料評価ベンチャー設立 | 2,500 |
| 17年度新規採択分 | | 人間総合科学研究科 ・准教授 | 林 啓子 | 生活習慣病予防のための健康自己管理支援ビジネスモデルの開発 | 1,800 | |
| | | 人間総合科学研究科 ・准教授 | 谷川 武 | 先進的睡眠予防医学研究プロジェクト | 1,800 | |
| ベンチャー支援プロジェクト | 19年度新規採択分 | サンケアフェューエルズ株式会社 ・代表取締役 | 若林 恒平 | バイオケロシン製造技術の開発とその航空機燃料としての利用 | 0 (施設の優先使用) | |
| | | (株)アレナビオ ・代表取締役 | 藤井壮一郎 | バイオアッセイキットシリーズの開発 | 0 (施設の優先使用) | |
| | | CYBERDYNE(株) ・代表取締役 | 山海 嘉之 | 人間の身体機能を強化するロボットスーツの実用化開発プロジェクト | 0 (施設の優先使用) | |
| | | (株)ビジブルインテリジェンス ・代表取締役 | 金 尚泰 | マルチダイナミックドキュメンテーションとパフォーマンスデバイスを利用したコンテンツ制作 | 0 (施設の優先使用) | |

| 種類 | 研究代表者 | | プロジェクト名 | 配分額 |
|---------------|-----------|---|---------|--|
| | 所属部局・職 | 氏名 | | |
| ベンチャー支援プロジェクト | 18年度新規採択分 | エンガムマイクロバイセンサズ 研究開発 有限責任事業組合 ・組合員 | 鈴木 博章 | 肝機能診断用マイクロシステムの開発 0 (施設の優先使用) |
| | | (株)THF ・代表取締役社長 | 田中喜代次 | 健康長寿を実現する包括型健康づくり支援システムの構築 0 (施設の優先使用) |
| | | (株)ニューフォレスター ・代表取締役 | 星野 厚 | 教育向け映像システムの研究開発 0 (施設の優先使用) |
| | 17年度新規採択分 | ソフトイーサ(株) ・代表取締役会長 | 登 大遊 | VPNソフトウェア「SoftEther VPN2.0」の開発及び ビジネス展開 0 (施設の優先使用) |
| | | (株)アックス ・代表取締役社長 | 市原 成泰 | 生活習慣病および女性疾患に対する革新的な新薬の 開発 0 (施設の優先使用) |

ウ 筑波大学ロケット・スタート支援申請・採択・配分状況〈平成19年度〉

(ア) 総括表

(単位：千円)

| 博士課程研究科 | ロケット・スタート支援 | | |
|--------------|-------------|------|--------|
| | 申請件数 | 採択件数 | 採択金額 |
| 人文社会科学研究科 | 3 | 0 | 0 |
| ビジネス科学研究科 | 1 | 0 | 0 |
| 数理解物質科学研究科 | 3 | 1 | 9,550 |
| システム情報工学研究科 | 1 | 0 | 0 |
| 生命環境科学研究科 | 0 | 0 | 0 |
| 人間総合科学研究科 | 0 | 0 | 4,000 |
| 図書館情報メディア研究科 | 1 | 1 | 0 |
| 合 計 | 9 | 2 | 13,550 |

(イ) 採択状況

(単位：千円)

| | 所属部局・職 | 氏 名 | 研 究 課 題 名 | 配分額 |
|---|-----------------------|-------|---------------------------------------|-------|
| ロ ケ ッ ト ・ ス タ ー ト 支 援 | 数理解物質科学研究科 ・ 准教授 | 假家 強 | 大電力ジャイロトロンの開発 | 9,550 |
| | 図書館情報メディア研究科 ・ 教 授 | 佐藤 哲司 | 複雑に変化する情報ネットワーク構造の可視化とコミュニティの適応に関する研究 | 4,000 |

エ 筑波大学ステップ・アップ支援経費申請・採択・配分状況〈平成19年度〉

(ア) 総括表

(単位：千円)

| 博士課程研究科 | ステップ・アップ支援 | | |
|--------------|------------|------|--------|
| | 申請件数 | 採択件数 | 採択金額 |
| 人文社会科学研究科 | 3 | 2 | 2,380 |
| ビジネス科学研究科 | 0 | 0 | 0 |
| 数理解物質科学研究科 | 4 | 3 | 4,080 |
| システム情報工学研究科 | 4 | 0 | 0 |
| 生命環境科学研究科 | 3 | 2 | 2,180 |
| 人間総合科学研究科 | 6 | 1 | 1,360 |
| 図書館情報メディア研究科 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 20 | 8 | 10,000 |

(イ) 採択状況

(単位：千円)

| | 所属部局・職 | 氏 名 | 研 究 課 題 名 | 配分額 |
|--------------|--------------------|-------|--|-------|
| ステップ・アップ支援経費 | 人文社会科学研究科 ・准教授 | 井川 義次 | 17・18世紀中国におけるイスラムと西洋の哲学－中国哲学を基軸に－ | 1,020 |
| | 人文社会科学研究科 ・教 授 | 川西 宏幸 | 鉄器時代開始期における人間の移動に関する総合的研究－東地中海世界を中心にして－ | 1,360 |
| | 数理解物質科学研究科 ・教 授 | 大塩 寛紀 | 機能性単分子磁性の合成 | 1,360 |
| | 数理解物質科学研究科 ・教 授 | 重川 秀実 | ナノスケール揺らぎの精密計測と次世代機能素子開発への展開 | 1,360 |
| | 数理解物質科学研究科 ・准教授 | 佐々木正洋 | リチウム内包フラーレン薄膜の基礎物性計測 | 1,360 |
| | 生命環境科学研究科 ・教 授 | 渡邊 和男 | ゴールドントライアングル拡大圏での植物遺伝資源の伝統保全と持続的利用のガバナンス | 1,360 |
| | 生命環境科学研究科 ・講 師 | 滝沢 茂 | 摩擦が作る超微粒子－物質地震学の新展開－ | 820 |
| | 人間総合科学研究科 ・教 授 | 榊原 謙 | 放射光血管撮影による血管新生の臨床的評価 | 1,360 |

オ 研究プロジェクト支援経費の推移

(単位：千円)

| 年 度 | 平成15年度 | 16 | 17 | 18 | 19 |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|
| 金 額 | 335,414 | 283,950 | 315,800 | 251,086 | 290,610 |

注) 平成15年度以前は学内プロジェクト研究費。

平成16年度には、I L Cプロジェクトを含まない。

平成17年度には、I L Cプロジェクト及び新任・転入教員スタートアップ支援経費を含む。

平成18年度以降には、産学連携推進プロジェクト、ロケット・スタート支援及びステップ・アップ支援経費を含む。

平成19年度には、戦略イニシアティブ推進機構経費を含む。

(5) その他の研究費

ア 奨学寄附金（学術研究関係）

| 部 局 名 | 件 数 | 金 額（円） |
|-----------------------------|-----|-------------|
| 人 文 社 会 科 学 研 究 科 | 24 | 10,142,536 |
| ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科 | 11 | 9,017,200 |
| 数 理 物 質 科 学 研 究 科 | 66 | 82,038,363 |
| シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科 | 87 | 67,032,720 |
| 生 命 環 境 科 学 研 究 科 | 68 | 58,678,696 |
| 人 間 総 合 科 学 研 究 科 | 553 | 514,519,223 |
| 図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科 | 4 | 3,000,000 |
| 計 算 科 学 研 究 セ ン タ ー | 3 | 1,647,650 |
| 先 端 学 際 領 域 研 究 セ ン タ ー | 5 | 10,000,000 |
| 産 学 リ エ ズ ン 共 同 研 究 セ ン タ ー | 1 | 200,000 |
| 留 学 生 セ ン タ ー | 1 | 4,000,000 |
| 附 属 病 院 | 9 | 7,000,000 |
| 合 計 | 832 | 767,276,388 |

〔過去5年間の推移〕

（金額：千円）

| 年度 | 平成15年度 | 16 | 17 | 18 | 19 |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|
| 件数 | 688 | 751 | 785 | 723 | 832 |
| 金額 | 573,939 | 644,501 | 690,928 | 690,434 | 767,276 |

イ 受託研究費

(金額：千円)

| 部 局 名 | 一般受託研究費 | | 医薬品等受託研究費 | | 計 | |
|-------------------------|---------|---------------|-----------|-------------|-----|---------------|
| | 件数 | 金 額 | 件数 | 金 額 | 件数 | 金 額 |
| 人 文 社 会 科 学 研 究 科 | 2 | 17,290,000 | | | 2 | 17,290,000 |
| ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科 | 3 | 1,350,000 | | | 3 | 1,350,000 |
| 数 理 物 質 科 学 研 究 科 | 36 | 335,056,200 | | | 36 | 335,056,200 |
| シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科 | 49 | 767,766,411 | | | 49 | 767,766,411 |
| 生 命 環 境 科 学 研 究 科 | 54 | 644,832,124 | | | 54 | 644,832,124 |
| 人 間 総 合 科 学 研 究 科 | 46 | 318,996,746 | | | 46 | 318,996,746 |
| 図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科 | 2 | 3,635,000 | | | 2 | 3,635,000 |
| 附 属 学 校 教 育 局 | (2) | 5,724,600 | | | (2) | 5,724,600 |
| 計 算 科 学 研 究 セ ン タ ー | 5 | 101,501,990 | | | 5 | 101,501,990 |
| 下 田 臨 海 実 験 セ ン タ ー | 2 | 36,450,000 | | | 2 | 36,450,000 |
| 先 端 学 際 領 域 研 究 セ ン タ ー | 2 | 65,069,200 | | | 2 | 65,069,200 |
| 学 術 情 報 メ デ ィ ア セ ン タ ー | 4 | 41,962,200 | | | 4 | 41,962,200 |
| 研 究 基 盤 セ ン タ ー | 1 | 60,000,000 | | | 1 | 60,000,000 |
| 附 属 病 院 | 5 | 4,596,000 | 196 | 107,393,245 | 201 | 111,989,245 |
| 計 | 211 | 2,404,230,471 | 196 | 107,393,245 | 407 | 2,511,623,716 |

注) () は、18年度受入れたもので外数

〔過去5年間の推移〕

(金額：千円)

| 項目 | 年度 | 平成15年度 | 16 | 17 | 18 | 19 |
|----------------------|------------------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 一 般 受 託 研 究 費 | 件数 | 186 | 207 | 223 | 229 |
| 金額 | | 835,775 | 1,296,237 | 1,561,546 | 1,816,601 | 2,404,230 |
| 医 薬 品 等 受 託 研 究 費 | 件数 | 122 | 141 | 100 | 170 | 196 |
| | 金額 | 134,661 | 173,230 | 113,672 | 113,469 | 107,393 |
| 計 | | 308 | 348 | 323 | 399 | 407 |
| | | 970,436 | 1,469,467 | 1,675,218 | 1,930,070 | 2,511,623 |

ウ 民間等との共同研究費

(金額：千円)

| 部 局 名 | 件 数 | | | 民間等負担経費 | 大学負担経費 | 計 |
|--------------|-----|------|------|---------|--------|---------|
| 人文社会科学部 | 1 | (1) | | 110 | | 110 |
| ビジネス科学研究科 | 5 | (2) | | 11,195 | | 11,195 |
| 数理解析学系 | 70 | (19) | <14> | 186,929 | 600 | 187,529 |
| システム情報工学部 | 56 | (7) | <6> | 86,335 | 1,415 | 87,750 |
| 生命環境科学研究科 | 78 | (17) | <14> | 164,781 | 1,202 | 165,983 |
| 人間総合科学研究科 | 85 | (27) | <6> | 159,850 | 132 | 159,982 |
| 図書館情報メディア研究科 | 3 | | | 2,000 | | 2,000 |
| 附属学校教育局 | 2 | (1) | | 495 | 122 | 617 |
| 計算科学研究センター | 1 | | | 1,100 | | 1,100 |
| プラズマ研究センター | 15 | | | 235,282 | | 235,282 |
| 先端学際領域研究センター | 10 | (3) | <1> | 8,170 | | 8,170 |
| 学術情報メディアセンター | 6 | (3) | <1> | 568 | | 568 |
| 附属病院 | 3 | (2) | | 562 | | 562 |
| 計 | 335 | (81) | <42> | 857,377 | 3,471 | 860,848 |

注) () は、13年度、16年度～18年度から継続する課題（複数年度契約）で内数

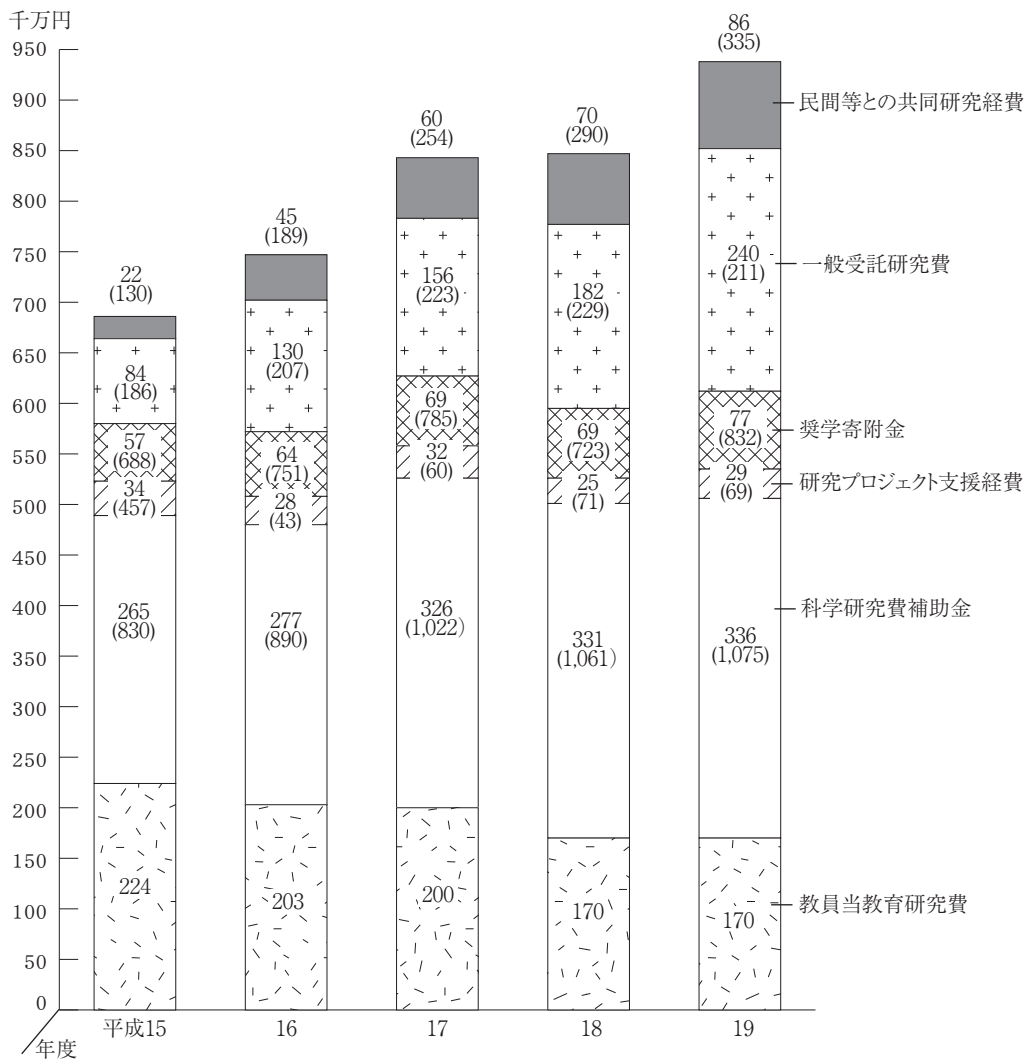
< > は、研究員の受入件数で内数

[過去5年間の推移]

(金額：千円)

| 年 度 | 平成15年度 | 16 | 17 | 18 | 19 |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 件 数 | 130 | 189 | 254 | 290 | 335 |
| 民間等負担費 | 217,730 | 449,979 | 598,483 | 706,134 | 857,377 |
| 大学負担費 | 18,840 | 15,700 | 5,410 | 4,050 | 3,471 |
| 計 | 236,570 | 465,679 | 603,893 | 710,184 | 860,848 |

(6) 各種研究費年度別取得状況



- ※()内数字は件数を示す。
- ※教員当教育研究費は平成15年度以前は教育研究基盤校費。
- ※研究プロジェクト支援経費は平成15年度以前は学内プロジェクト研究費。
- ※平成16年度研究プロジェクト支援経費にはILCプロジェクトは含まない。
- ※平成17年度研究プロジェクト支援経費にはILCプロジェクト及び新任・転入教員スタートアップ支援経費を含む。
- ※平成18年度研究プロジェクト支援経費には産学連携推進プロジェクト、ロケット・スタート支援及びステップ・アップ支援経費を含む。
- ※平成19年度研究プロジェクト支援経費には戦略イニシアティブ推進機構経費を含む。

各種研究費とその割合

(単位: 千万円)

| 区分 | 教員当教育研究費 | 研究プロジェクト支援経費 | 科学研究費補助金 | 学外からの研究費 (外部資金) | | | |
|--------|------------|--------------|------------|-----------------|-------|-----------|-----------|
| | | | | 合計 | 奨学寄附金 | 受託研究 (一般) | 民間等との共同研究 |
| 平成18年度 | 170 (20.1) | 25 (3.0) | 331 (39.1) | 321 (37.8) | 69 | 182 | 70 |
| 平成19年度 | 170 (18.1) | 29 (3.1) | 336 (35.8) | 403 (43.0) | 77 | 240 | 86 |

()内は研究費の合計に占める割合を示す。

(7) 特別プロジェクト研究組織教員等数

(平成20年3月31日現在)

| 名 称 | 学内教員数 | 客員研究員数 | 計 |
|--------------------------|-------|--------|-----|
| 比較市民社会・国家・文化特別プロジェクト研究組織 | 61 | 42 | 103 |

(8) 日本学術振興会特別研究員採用状況

| 年 度 | 平成15度 | | 16 | | 17 | | 18 | | 19 | | 20 | |
|-------|-------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| | 申請 | 採用 | 申請 | 採用 | 申請 | 採用 | 申請 | 採用 | 申請 | 採用 | 申請 | 採用 |
| S P D | 5 | 0 | 6 | 0 | / | 0 | / | 0 | / | 0 | / | 0 |
| P D | 116 | 16 | 83 | 8 | 106 | 8 | 98 | 3 | 75 | 5 | 99 | 9 |
| D C | 216 | 32 | 239 | 29 | 226 | 40 | 225 | 40 | 246 | 47 | 241 | 69 |
| R P D | | | | | | | 4 | 0 | 5 | 1 | 4 | 0 |
| 計 | 337 | 48 | 328 | 37 | 332 | 48 | 327 | 43 | 326 | 53 | 344 | 78 |

(9) 工業所有権等 (平成20年3月31日現在)

ア 発明等の届け出状況

| 年度 | 発明等の届出数 | 発明者に権利帰属 | ※法人に権利帰属 |
|----|---------|----------|----------|
| 10 | 42 | 40 | 2 |
| 11 | 42 | 39 | 3 |
| 12 | 54 | 50 | 4 |
| 13 | 58 | 53 | 5 |
| 14 | 73 | 65 | 8 |
| 15 | 114 | 110 | 4 |
| 16 | 112 | 48 | 64 |
| 17 | 122 | 26 | 96 |
| 18 | 132 | 63 | 69 |
| 19 | 179 | 77 | 102 |

※ 15年度以前は国に権利帰属

イ 現有特許権数

| | 国内特許権数 | 外国特許件数 | 合計 |
|-----|--------|--------|-----|
| 登録済 | 23 | 3 | 26 |
| 申請中 | 287 | 67 | 354 |

4 学内共同教育研究施設等関係

(1) 学内共同教育研究施設等勤務職員数

(平成20年3月1日現在)

【全国共同利用施設】

| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 教員計 | 研究員等 | 技術職員 | 事務職員 | 合計 |
|------------|----|-----|----|----|----|-----|------|------|------|----|
| 計算科学研究センター | 9 | 11 | 7 | 2 | | 29 | 3 | 2 | 3 | 37 |
| プラズマ研究センター | | 4 | 4 | | | 8 | | 4 | 1 | 13 |
| 合計 | 9 | 15 | 11 | 2 | 0 | 37 | 3 | 6 | 4 | 47 |

【学内共同教育研究施設】

| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 教員計 | 研究員等 | 技術職員 | 事務職員 | 合計 |
|--------------------|----|-----|----|----|----|-----|------|------|------|-----|
| 先端学際領域研究センター | 4 | | 14 | 8 | | 26 | 2 | 1 | 3 | 32 |
| 外国語センター | 4 | 20 | 8 | 1 | | 33 | | 2 | 7 | 42 |
| 体育センター | 10 | 9 | 8 | 4 | | 31 | | 4 | 4 | 39 |
| 農林技術センター | 3 | 3 | 4 | 3 | | 13 | | 29 | 3 | 45 |
| 陸域環境研究センター | 2 | 1 | 2 | | | 5 | | 3 | 1 | 9 |
| 生命科学動物資源センター | 2 | 2 | 1 | | | 5 | | 3 | 2 | 10 |
| 下田臨海実験センター | 1 | | 2 | 1 | | 4 | | 3 | 2 | 9 |
| 菅平高原実験センター | 1 | 1 | | | | 2 | | 5 | 1 | 8 |
| 留学生センター | 7 | 3 | 4 | | | 14 | | | 10 | 24 |
| 遺伝子実験センター | 3 | 2 | 2 | 1 | | 8 | 1 | 1 | 1 | 11 |
| 大学研究センター | 2 | 2 | 1 | | | 5 | | | 1 | 6 |
| 陽子線医学利用研究センター | 2 | 2 | 3 | | 1 | 8 | | 3 | 1 | 12 |
| アドミッションセンター | 1 | 2 | | | | 3 | | | 2 | 5 |
| 産学リエゾン共同研究センター | 1 | | 1 | | | 2 | 2 | | | 4 |
| 教育開発国際協力研究センター | 2 | 1 | | | | 3 | 3 | 2 | 1 | 9 |
| 知的コミュニティ基盤研究センター | 3 | 4 | 2 | | | 9 | | | 1 | 10 |
| 学際物質科学研究センター | 5 | | 4 | 1 | | 10 | | | 1 | 11 |
| 特別支援教育研究センター | 3 | | | 1 | | 4 | | | | 4 |
| 北アフリカ研究センター | 2 | | 1 | | | 3 | 3 | | 2 | 8 |
| 学術情報メディアセンター | 2 | 5 | 3 | | | 10 | | 11 | 5 | 26 |
| 研究基盤総合センター | | 3 | 6 | | | 9 | | 19 | | 28 |
| アイソトープ総合センター | | 1 | | 1 | | 2 | | 5 | 4 | 12 |
| 次世代医療研究開発・教育統合センター | 5 | 3 | 3 | 2 | | 13 | | | | 13 |
| 保健管理センター | 1 | 3 | 3 | 1 | | 8 | | 9 | 2 | 19 |
| 合計 | 66 | 67 | 72 | 24 | 1 | 230 | 11 | 100 | 54 | 395 |

【理療科教員養成施設】

| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 教員計 | 研究員等 | 技術職員 | 事務職員 | 合計 |
|-----------|----|-----|----|----|----|-----|------|------|------|----|
| 理療科教員養成施設 | | 2 | 2 | | | 4 | | 2 | 2 | 8 |

(2) 学内共同教育研究施設等利用概況

| 施設名 | 利用状況 | 業績等 |
|--------------|--|---|
| 計算科学研究センター | 学内教員47名, 研究員14名, プロジェクト研究等学外研究者92名, 院生92名, 見学者等979名 | 論文: 265件 研究会: 12回 |
| プラズマ研究センター | 教員11名, PD 3名, 大学院生27名, 学類生13名, 日露交流1名, 日韓交流5名, 日米交流1名, 見学者77件・1,787名, 国際会議の開催, プラズマ核融合学会の開催, 双方向型共同研究の実施(学外共同研究者58名) | 論文32編 口頭発表43件 |
| 先端学際領域研究センター | TARAプロジェクトの実施(20件) 視察: 内閣府総合科学技術会議, 文部科学省国立大学法人支援課, デンマーク大使館, 東京都中小企業振興公社, ダッカ大学, ラムカムヘン大学, 檀国大学等(延べ51名) 見学者(延べ433名) | TARAプロジェクト研究成果報告会の開催 公開セミナー: 4回 |
| 外国語センター | 共通科目外国語授業(19年度入学者対象419科目及び18年度以前入学者用63科目) テーブルブライブラリー利用者4,425名 | |
| 体育センター | 体育施設約161万人(うち, 体育合宿所9千人利用) | |
| 農林技術センター | 学生の実験・実習, 大学院生, 教職員の研究, 公開講座等, 視察・見学等, 外国人訪問 | |
| 陸域環境研究センター | 教育関係(のべ855名), 研究関係(のべ31名), 機器・データ等の利用(のべ6名), 見学者(のべ465名) | ・研究会・年次報告会1回(48名) ・セミナー・ワークショップ6回(98名) ・論文23件 ・学会発表 国内15件/国外7件 |
| 生命科学動物資源センター | 動物実験計画: 267件 利用登録者数(全学の教員, 大学院生数): 614名 利用者数: 延べ77,215名(1日平均: 212名) 動物導入数: 7種23,717匹 飼育動物数: 1日平均45,321匹 全国への遺伝子改変マウス等受託作製・供給: 59件 マウス胚凍結保存: 37件 微生物汚染動物の清浄化: 59件 微生物検査: 697件 健康証明書の発行: 62件 講習会受講者数 (全学講習会: 690名) (センター講習会: 191名) | 論文・著書: 約250件 |
| 下田臨海実験センター | 臨海実習関係(延1,886名), 研究関係(延4,438名), その他(334名) 合計 延6,658名 | センター教員: 研究論文21篇, 口頭発表32件, センター利用者: 研究論文7篇 |
| 菅平高原実験センター | 野外実習, 実験関係研究集会, セミナー及び研究関係(22件, 延5,036名, 見学者477名) | 研究論文(15編) |
| 留学生センター | ○日本語集中コース (1,875クラス/年, 登録者数49名/年) 前期登録者(13名) 4コマ/日×5日/週×15週×3クラス=900クラス 後期登録者(36名) 4コマ/日×5日/週×15週×3クラス=900クラス 日韓共同理工系学部留学生特別クラス(後期のみ) 5コマ/週×15週=75クラス ○日本語補講コース (1,380クラス/年, 登録者数863名/年) 1学期登録者(274名) 2学期登録者(313名) 3学期登録者(276名) ・一般及び漢字クラス 26クラス/週×30週=780クラス ・技能別日本語クラス 20クラス/週×30週=600クラス ○日本語・日本事情等に関する科目〔日本語科目〕 (150クラス/年, 登録者数181名/年) 5コマ/週×30週=150クラス ○韓国京畿道外国語教育研修院日本語教師研修プログラム(平成20年1月9日~2月6日) 合計96クラス(受講者数12名) | |

| | | |
|------------------|--|--|
| 大学研究センター | 公開研究会：2回（参加者56名） 短期集中公開研究会：2シリーズ10回（参加者395名） 大学マネジメントワークショップ：1回（参加者20名） 大学マネジメント事例研究：1回（参加者9名） | 論文：16編 著書：5編 学会発表：6件 講演：6件 |
| 陽子線医学利用研究センター | 陽子線治療患者数211名（昨年度190名） 治療予定日実施率232日/188日（123.4%） | 論文18編 学会発表53件 講演10件 |
| 産学リエゾン共同研究センター | 産学連携推進プロジェクトの実施（23プロジェクト） 産学連携会第4回ニーズ・シーズ情報交換会（約50名） 第4回産学連携会総会および特別講演会（約70名） 科学技術相談 企業や経済団体等の連携打合せ等 各見学者等への対応（25回） 学内技術相談会の開催（20回） | ・産学連携推進プロジェクトに対する各種支援 ・知的財産統括本部事業 ・リエゾン活動推進体制整備 ・研究開発交流会の開催 ・科学技術相談の実施 ・各種産業展等への出展支援 ・ベンチャー創出支援 ・産学官連携に関する調査研究 ・論文5、講演・発表10 |
| 教育開発国際協力研究センター | 視察：ダンディー大学（イギリス）教育学部2名，ケニヤッタ大学（ケニヤ）1名，対GCC諸国人材育成支援訪日研修事業2007研修生ほか（10名），インドネシア教育大学（インドネシア）副学長ほか12名 JICA研修受入れ：ボスニア・ヘルツェゴビナ国数学科と情報科におけるICT教育とe-learning環境開発に係る研修コース3名，WEBサイト開発技術コース3名，地域別（南米）研修障害児教育（特別支援教育）コース11名，日系研修「日本の授業研究」コース1名，課題別研修「PROMETAM広域案件C/P合同研修」コース20名，課題別研修チリ国「算数教育の指導手法」コース12名 東京分室利用件数：47件 | 平成19年度文部科学省教育協力拠点形成事業：2件 筑波大学・アジア太平洋経済協力（APEC）国際会議開催 第5回国際教育協力日本フォーラム（JEFV）開催 平成19年度教育の国際協力に関する筑波大学・SEAMEOミーティング開催 シンポジウム・セミナー等：14回 著書：2編，論文：6編，学会発表：13件 JICA短期専門家派遣：アフガニスタン4名，ボリビア1名 |
| 知的コミュニティ基盤研究センター | 公開シンポジウム参加者46名 デジタルアーカイブシンポジウム参加者27名 公開講演会参加者149名 研究談話会参加者202名 | 公開シンポジウム：1回 デジタルアーカイブシンポジウム：1回 公開講演会：3回 研究談話会：10回 |
| 学際物質科学研究センター | 視察：デンマーク科学技術省（9名） | 3大学連携アトミックテクノロジー推進事業（文部科学省），学際的連携融合による物質科学研究創出事業（文部科学省），プレ戦略イニシアティブ「学際物質科学研究拠点」（筑波大学），国際シンポジウム主催（2回），ワークショップ・研究会開催（5回），セミナー開催（10回），論文（57件），学会発表（国際会議107件，国内会議159件） |
| 特別支援教育研究センター | 現職教員研修（通年6名，半期2名） 遠隔システム講義配信型現職教員研修 講師派遣型現職教員研修 免許法公開講座：全14講座，受講者数982名 のべ単位取得者数945名 国際教育協力イニシアティブ教育協力拠点形成事業シンポジウム：参加者約40名 主催セミナー：参加者約200名 教員養成・現職教員研修に関する公開研究協議会：参加者数約30名 | 平成19年度文部科学省拠点システム構築事業：1件 国際教育協力イニシアティブ教育協力拠点形成事業シンポジウムの開催 主催セミナー：2回開催 教員養成・現職教員研修に関する公開研究協議会開催 附属学校間連携研究3件 附属学校助成研究1件 学会発表2件 |
| 北アフリカ研究センター | 視察 ・木山繁 国際協力銀行（JBIC）アフリカ地域外事審議役（他2名） ・サラ・ハンナシ 駐日チュニジア共和国大使（他1名） ・バーソ・オコロ ナイジェリア大学理学部長，ジェイムズ・オボンナ バイオテクノロジーセンター長 ・国際協力機構（JICA）海外マスコミ（チュニジア）本邦招聘 ラ・プレス誌フラウィ・ヌレディン記者（他2名） ・遠藤茂 在チュニジア日本国大使 ・サイダ・ショトゥーイ チュニジア外務担当国務長官，ノウレディーン・ハシェド 駐日チュニジア共和国大使（他1名） | ・北アフリカ研究センター定期セミナー開催9回 ・エル・カンタウィ・フォーラム：チュニジア-日本 文化・科学技術学術会議（TJASSST2007）共催 ・北アフリカ研究センター & 北アフリカ・地中海連携センター特別セミナー「北アフリカ地域と日本の知的パートナーシップ：チュニジアとの学術交流の成果と今後の課題」主催 ・北アフリカ研究センター共同研究員交流会開催2回 ・北アフリカ研究センター及び北アフリカ地中海連携センター活動報告会開催 |

| | | |
|---------------------|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ベン・ディア スファックス大学長, ハマディ・アヤディ スファックス・バイオテクノロジー・センター長 ・ハインツ・ペールマン バイロイト大学 (ドイツ) 国際交流課長 <p>見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属駒場高校2年生 (10名) ・附属駒場中学2年生 (6名) <p>研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際協力機構 (JICA) チュニジア・バイオテクノロジー研修生 (2名) ・国際協力機構 (JICA) チュニジア・水環境研修生 (2名) ・国際協力機構 (JICA) チュニジア・テクノパーク運営管理研修生 (6名) <p>[北アフリカ・地中海連携センター (海外拠点)]</p> <p>見学: 茨城大学, 新潟大学</p> <p>留学相談3件</p> <p>現地調査受入7件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チュニジアの有用生物資源調査 ・チュニジアの植生・土壌調査 ・チュニジアの農産物市場調査 ・チュニジアの水資源調査 ・チュニジアの土壌, 植生, 水資源調査 ・チュニジアの菌類調査2件 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際協力機構 (JICA) 研修プログラム (バイオテクノロジーコース) 研修生最終会報告会開催 ・国際協力機構 (JICA) 研修プログラム (水環境コース) 研修生最終報告会開催 ・チュニジア共和国ブルギバスクール, アラビア語研修留学生報告会開催 ・国際協力銀行 (JBIC) 事業によるチュニジア留学生オリエンテーション開催 ・チュニジア共和国科学研究・技術・能力開発省 (MRSTDC) との科学技術協力に係る一般的枠組み協定に基づく共同研究契約締結 ボルジュセドリヤ・バイオテクノロジーセンターと, チュニジアのハロファイトの共同研究 ・国内特許出願2件, 国際特許出願2件 ・論文36報, 学会発表27件, 著書3冊 (専任教員, 研究員の業績) ・国際協力機構 (JICA) 長期専門家派遣 (チュニジア共和国) 延べ2名 ・国際協力機構 (JICA) 短期専門家派遣 (チュニジア共和国) 1名 ・チュニジア共和国ブルギバスクール, アラビア語研修留学生派遣7名 ・第2回北アフリカ・地中海連携センターアドバイザリーボード開催 ・ワークショップ「Biotechnology for OVOP-From Laboratory to Industry」共催 ・本学大学院と現地大学との学術交流支援1件 |
| <p>学術情報メディアセンター</p> | <p>[計算機システムの利用者登録数]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計算サーバーシステム (sakura): 778件 2. 高性能クラスター: 778件 3. 教育用計算機システム: 17,937件 4. 春日マルチシステム: 1,408件 5. 社会工学類専門教育用計算機システム: 1,198件 6. 分散サテライト: 14,726件 7. e-learningシステムWEBCT: 17,937件 <p>[ネットワーク関係]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. DNSに登録しているドメイン数: 148件 2. DNSに登録されているメールサーバ数: 512件 3. レンタルサーバ設置件数: 36件 4. ウェブホスティング件数: 13件 5. 無線LANアクセスポイントへの利用者登録数: 42件 6. 統一認証システム登録者数: 35,744件 7. 事務メールシステム登録者数: 2,085件 <p>[メディア機器関係]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビデオ制作件数: 8件 2. AV利用件数: 319件 3. ビデオ配信件数: 6件 4. ライブ中継件数: 5件 (ネット中継4件) 5. ポスター看板製作件数: 156件 6. 大判白黒コピー利用件数: 23件 7. SCS利用件数: 30件 | <p>論文・国際会議論文 15編</p> <p>口頭発表 32件</p> |
| <p>研究基盤総合センター</p> | <p>(応用加速器部門)</p> <p>利用登録者数: 153名 (教職員42名, 学生70名, 学外41名)</p> <p>施設総利用時間: 3,480時間 (145日間)</p> <p>加速器利用実績</p> <p>実験課題数: 111件</p> <p>利用者総数: 延1,587名</p> <p>加速器運転</p> <p>12UDベレトロンタンデム: 1,748時間</p> <p>タンデトロン: 433時間</p> <p>施設見学者数: 744名 (内, 国外113名, 中高校生572名)</p> | <p>主催シンポジウム: 1回</p> <p>参加者数: 42名</p> <p>共催シンポジウム: 1回</p> <p>発表論文: 25編</p> <p>国際学会発表: 11編</p> <p>国内学会発表: 41編</p> <p>修士論文: 7件</p> |

| | | |
|--------------------|--|--|
| | <p>文科省委託事業 施設利用時間：624時間（5課題） 学外共同研究利用：20課題 （低温部門） 液体ヘリウム供給：1,052件，79,534リットル 液体窒素供給：4,898件，331,635.5リットル 低温容器貸出：49件 大型装置共同利用：25件 見学者：430名 （分析部門） 委託分析：4部門，計1,557件 共同利用：20機種，延1,692名，23,560時間 利用部局：4研究科，18専攻，1センター （工作部門） 機械工作関係：227件，延3,466時間 ガラス工作関係：409件，延1,441時間 材料支給件数：121件 講習会受講者：13人</p> | <p>発表論文：19編 口頭発表：49件</p> <p>論文：65編</p> <p>技術報告：1編</p> |
| アイソトープ総合センター | <p>研究利用者：延2,330名 研究発表会参加者：26名 学類授業：延538名 放射線管理教育 ・新規講習会参加者：260名 ・更新講習会参加者：207名 ・X線講習会参加者：90名 体験教室参加者：6名 施設見学者：延49名</p> | <p>論文，著書，総説合計29編 学会発表（国際会議，国内学会，研究会等）36件</p> |
| 次世代医療研究開発・教育統合センター | <p>1. 橋渡し研究プロジェクト2件，同準備中プロジェクト3件 2. 医療技術トレーニングラボラトリー（利用者月平均30名）</p> | <p>シンポジウム主催：1回 学内外メディアを通じた情報発信</p> |

(3) 留学生センター日本語研修生受入数

| 教育修了後配置大学名 | 前期 | 後期 | 計 |
|------------|----|----|----|
| 筑波大学 | 12 | 26 | 38 |
| 総合研究大学院大学 | 1 | 0 | 1 |
| 合計 | 13 | 26 | 39 |

※ 後期に日韓共同理工工学部留学生7名を含む。

(4) 理療科教員養成施設

ア 学生数 (平成20年3月1日現在)

| 総定員 | 1年 | 2年 | 計 |
|-----|--------|--------|--------|
| 40 | 21 (5) | 23 (4) | 44 (9) |

(注) () は、女子を内数で示す。

イ 卒業生数 (平成20年3月31日現在)

| 定員 | 卒業生数 | 累計 |
|----|--------|-----------|
| 20 | 23 (4) | 656 (131) |

(注) () は、女子を内数で示す。

ウ 入学者選抜 (平成20年4月1日現在)

| 入学定員 | 試験別 | 志願者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|------|------|---------|--------|--------|
| 20 | 一般入試 | 56 (13) | 16 (2) | 21 (5) |
| | 推薦入試 | 16 (3) | 5 (3) | |

(注) () は、女子を内数で示す。

エ 日本学生支援機構 (平成20年3月1日現在)

| 学生数 | 奨学生数 | 比率 (%) |
|--------|-------|--------|
| 44 (9) | 5 (3) | 11 |

(注) () は、女子を内数で示す。

オ 就職 (平成20年3月31日現在)

| 卒業生数 | 就職者数 | 就職者の内訳 | | | | 進学者 |
|--------|--------|--------|-------------|---------|------|-----|
| | | 盲学校教員 | 視力障害センター等教員 | 専修学校等教員 | 治療院等 | |
| 23 (4) | 22 (4) | 20 (4) | 1 | 1 | 0 | 1 |

(注) () は、女子を内数で示す。

カ 患者数 (平成20年3月31日現在)

| 診療日数 | 患者数 | | | | 1日平均患者数 |
|------|------|-------|------|-------|---------|
| | 初見者数 | 再来者数 | 学用者数 | 計 | |
| 176 | 308 | 8,095 | 0 | 8,403 | 47 |

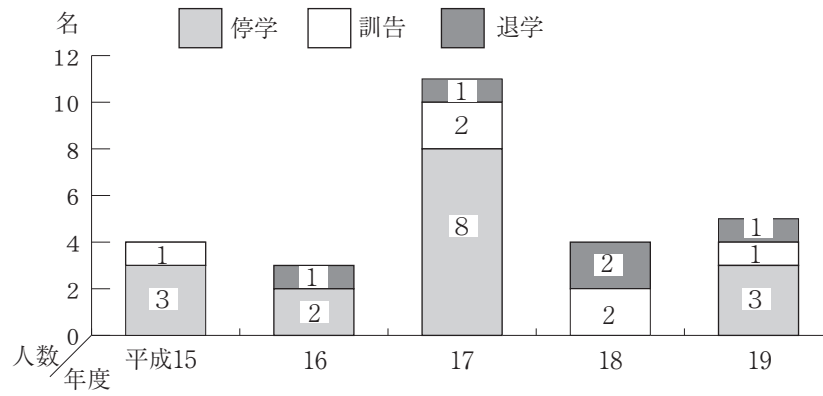
5 学生生活関係

(1) 学生の表彰

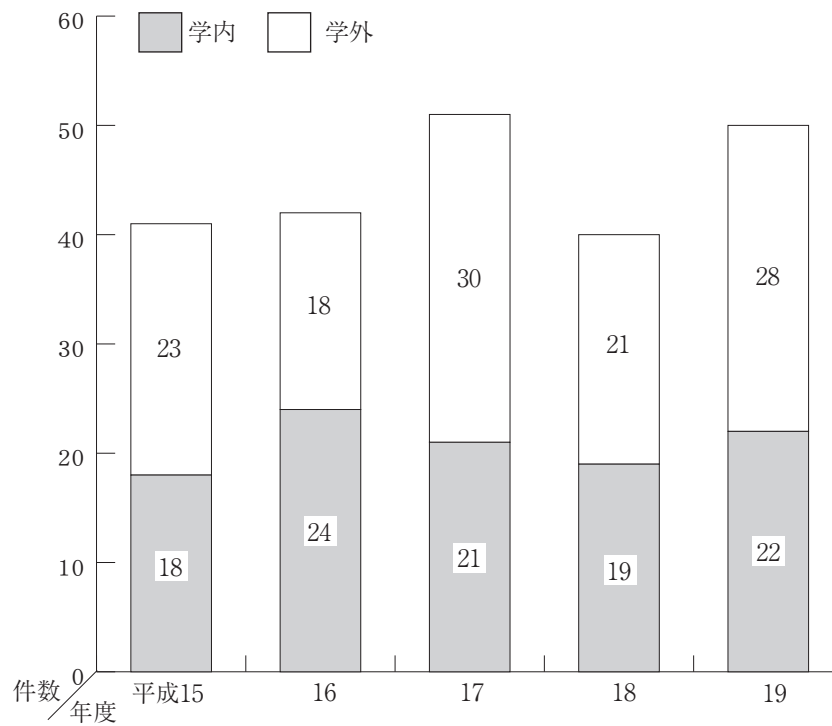
| 氏 名 | 該 当 事 項 |
|--------------------|--|
| 志澤 剛 しざわ たかし | 卒業論文の研究の一部が、日本英語学会第25回大会（2007年11月10日－11日、名古屋大学）における研究発表に採択された。これは、同学会の25回の歴史のなかで、学部生が行う初めての研究発表として注目された。 また、同論文は、内容の一部が学会の研究発表に採択されたことから明らかなように、通常の卒業論文をはるかに超える優秀なものであった。 |
| 増田 直也 ますだ なおや | 農業経営支援のあり方について、在学中のアメリカ農業研修、農業経営学会での議論、コンサルタントの方々からの情報収集などに基づいた、的確な現状整理とインパクトのある将来方向を提示した論文「民間の農業コンサルティングによる経営支援」で、第18回ヤンマー学生懸賞論文に応募し、優秀賞に選定された。 |
| 伊藤 隆朗 いとう たかお | 情報処理推進機構（IPA）の未踏ソフトウェア創造事業において、2006年度上期「未踏ユースプログラム」に採択された。さらに採択者の中から「天才プログラマー／スーパークリエイター」として認定され、表彰された。 また、大規模2部グラフの3D描画手法（Sphere Anchored Map）に関して優れた研究を行い、研究成果を国内シンポジウムWISS 2007（12月デモ発表）、情報処理学会全国大会等で発表した。 |
| 松村 春香 まつむら はるか | 医学類における臨床実習を行いながら、一方で基礎研究を基礎医学系研究室で継続的に行い、その結果を投稿し、2007年発行のBBRC（Biochemical and Biophysical Research Communication）に掲載された。本医学雑誌は、専門誌としても一流であり、学群学生としては極めて傑出した業績を残した。 |
| 秋本 啓之 あきもと ひろゆき | 2004年 ブタベスト世界ジュニア柔道選手権大会66kg級優勝 2005年 フランス国際柔道大会66kg級優勝 2006年 嘉納治五郎杯国際柔道大会66kg級優勝 2006年 グルジア国際柔道大会66kg級優勝 2006年 ドーハアジア競技大会柔道66kg級3位 2007年 フランス国際柔道大会66kg級優勝 2007年 全日本選抜柔道体重別選手権大会66kg級優勝 2007年 リオデジャネイロ世界柔道選手権大会66kg級出場 他 |
| 福見 友子 ふくみ ともこ | 2004年 ブタベスト世界ジュニア柔道選手権大会48kg級優勝 2004年 福岡国際女子柔道大会48kg級優勝 2005年 全日本学生柔道体重別選手権大会48kg級優勝 2006年 全日本学生柔道体重別選手権大会48kg級優勝 2006年 福岡国際女子柔道大会48kg級優勝 2007年 ドイツ国際柔道大会48kg級2位 2007年 全日本選抜柔道体重別選手権大会48kg級優勝 2007年 バンコクユニバーシアード競技大会柔道48kg級優勝 他 |
| 酒井 智美 さかい さとみ | 2003年 ショートトラックワールドカップ代表 2005年 第22回ユニバーシアード冬季競技大会（2005／インスブルック） ショートトラック女子3,000mリレー2位 2005年 ショートトラックワールドカップ代表 2005年 世界ショートトラック選手権代表 2006年 ショートトラックワールドカップ代表 2007年 第6回アジア冬季競技大会（2007／長春） ショートトラック女子3,000mリレー3位 |
| 吉田 望 よした のぞみ | 2003年 第5回世界ラート競技選手権大会に出場 2005年 第6回世界ラート競技選手権大会に出場 国別対抗戦メンバーとして3位 2007年 第7回世界ラート競技選手権大会に出場 |
| 粕尾 将一 かすお しょういち | 2005年 第3回アジアロープスキッピング選手権大会優勝 2006年 第6回世界ロープスキッピング選手権大会第6位 2007年 第3回全日本ロープスキッピング選手権大会優勝 2007年 つくばスポーツアワード2007 つくばスポーツ大賞受賞 他 |

| 氏 名 | 該 当 事 項 |
|--------------------|--|
| ひじかた ゆうこ 土方 裕子 | <p>修士論文の研究内容がAnnual Review of English Language Education (ARELE) という、本研究分野で最難関の全国誌に掲載され、最も評価が高い論文として「全国英語教育学会賞」を受賞した。</p> <p>また、日本学術振興会の特別研究員DC2にも採用され、国際学会での発表、そして査読付き論文を14本執筆するなど、積極的な研究活動を展開した。</p> |
| やまだ みちお 山田 道夫 | <p>学術論文9報を世界的に権威のある学術雑誌に公表し、これらの研究成果が評価された結果、Chem. Common.誌の表紙に2度、Hot Articleにも1度採択されている。また、平成19年度から日本学術振興会特別研究員として採用されている。</p> <p>学会活動においても、国内外の学会にて精力的に成果を発表し、平成20年には大学院生として初めての例となる第4回大澤賞を受賞しており、その研究活動は世界的に評価されるとともに、本学の研究レベルの向上に大きな貢献を果たした。</p> |
| すずき しんすけ 鈴木 真介 | <p>博士課程の3年間だけで査読付き国際学術誌に5篇、査読付き国内学術誌に1篇の原著論文を掲載し、6篇の論文のうちの1篇は、生物学の全分野の研究の中から優れた仕事を紹介する「英国王立協会生物学会報」に掲載され話題を呼んだ。また、2篇は、理論生物の代表的学術誌「Journal of Theoretical Biology」に掲載されるなど、多人数の間接的互惠性の分野において、世界的にリードしている。</p> |
| さとう だいすけ 佐藤 大輔 | <p>虚弱高齢者の生活機能改善に向けた水中運動療法の研究において、5編の外国学術誌及び1編の国内学術誌（体力科学）に掲載されるとともに、口頭発表が若手発表部門奨励賞（第20回運動と体温の研究会）を受賞し、4年次での早期修了が認められた。</p> <p>また、スイミングスクールにて3年間選手指導を行い、Fin Swimming日本代表選手（2006年ユース世界選手権・第10回アジアFIN選手権）、ジュニア日本最高記録保持者を育成した。</p> |
| ほし しゅくれい 星 淑玲 | <p>学術論文が3編（2編が筆頭）あり、そのインパクトファクターの合計は7.8を超え、この領域では高く評価できる。また、インフルエンザの予防接種の評価に関する厚生労働省科学研究費補助金の研究班の研究協力者として、毎年報告書の執筆等多大な貢献をした。</p> <p>更に、50歳近くで入学し、家庭と研究を両立させてきている努力と、これにも増して専攻内の留学生の悩みや相談に対して、常に誠実に対応して、学生及び教員から極めて高い信頼を受けていることも高く評価できる。</p> |
| くす ひろあき 楠 紘朗 | <p>2006年 第3回アジア体操選手権大会（2006/スーラト）</p> <ul style="list-style-type: none"> 団体総合 2位 個人総合 3位 種目別吊り輪 4位 種目別平行棒 5位 |
| みぞぐち あきひこ 溝口 昭彦 | <p>3人の大学院芸術専攻の学生による共同制作が、「第4回航空機による学生無重力コンテスト」に於いて優秀賞を受賞した。本作品は、科学と芸術が融合された総合的な実験作品として評価を得た。さらに、溝口による成果報告が19年度国際宇宙物理学シンポジウムと日本マイクログラビティー応用学会が主催する「毛利衛ポスターセッション」でも受賞した。この事は21世紀の宇宙開発に於ける芸術文化の提案として国際的に受け入れられたものであり、本学が先端的な芸術研究を行っている事を社会に示す事となった。</p> |

(2) 学生の懲戒



(3) 学生の交通事故



(4) 福利厚生施設

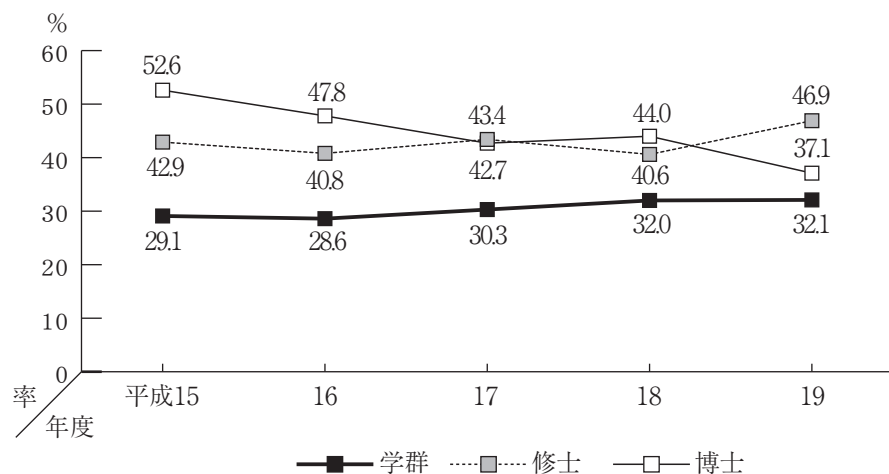
| 場 所 | 業 種 | 座席 |
|-----------------|-----------|-----|
| 第一エリア | 食 堂 | 204 |
| | 小 食 堂 | 100 |
| | 喫 茶 | 82 |
| | 書 籍 ・ 文 具 | |
| | パ ン 販 売 | |
| | 自 動 販 売 機 | |
| 第二エリア | 食 堂 | 336 |
| | 小 食 堂 | 64 |
| | 喫 茶 | 72 |
| | 書 籍 ・ 文 具 | |
| | パ ン 販 売 | |
| | 自 動 販 売 機 | |
| 第三エリア | 食 堂 | 174 |
| | そば・うどん | 285 |
| | カ レ ー | |
| | 中 華 | |
| | 和 食 | |
| | 喫 茶 | |
| | 書 籍 ・ 文 具 | |
| | パ ン 販 売 | |
| | 自 動 販 売 機 | |
| 銀行キャッシュコーナー | | |
| 医学専門学群 (医学類) | 食 堂 | 200 |
| | 特 別 食 堂 | 40 |
| | 喫 茶 | 36 |
| | 書 籍 ・ 文 具 | |
| | パ ン 販 売 | |
| | 自 動 販 売 機 | |
| | | |
| (看護・医療科学類) | パ ン 販 売 | |
| | 自 動 販 売 機 | |
| 体育・芸術専門学群 | 食 堂 (1 階) | 168 |
| | 食 堂 (2 階) | 128 |
| | 画 材 ・ 文 具 | |
| | 喫 茶 | 40 |
| | 写真・スポーツ用品 | |
| | パ ン 販 売 | |
| | 自 動 販 売 機 | |
| 春日地区 | 食 堂 | 204 |
| | 書 籍 ・ 文 具 | |
| | 自 動 販 売 機 | |

| 場 所 | 業 種 | 座席 |
|----------|--------------|-----|
| 大学会館(本館) | レ ス ト ラ ン | 150 |
| | 自 動 販 売 機 | |
| 大学会館(別館) | 食 堂 | 36 |
| | 郵 便 局 | |
| | 郵便局キャッシュコーナー | |
| | 書 籍 ・ 文 具 | |
| | 日 用 品 ・ 雑 貨 | |
| | 画 材 等 | |
| | トラベルサービス | |
| | 銀行キャッシュコーナー | |
| 本 部 | レ ス ト ラ ン | 52 |
| | パ ン 販 売 | |
| | 自 動 販 売 機 | |
| 中央図書館 | コーヒーショップ | 36 |
| 平砂学生宿舎 | 食 堂 | 180 |
| | 電 化 製 品 | |
| | 理 容 | |
| | 浴 場 | |
| | 自 動 販 売 機 | |
| 追越学生宿舎 | コピー・グッズ | |
| | 自 転 車 | |
| | 美 容 | |
| | 浴 場 | |
| 一の矢学生宿舎 | 自 動 販 売 機 | |
| | 食 堂 | 88 |
| | 日 用 品 ・ 雑 貨 | |
| | 電 化 製 品 | |
| | 理 容 | |
| | 浴 場 | |
| | シ ャ ワ ー 室 | |
| | 自 動 販 売 機 | |

(5) 奨学生数

ア 日本学生支援機構奨学生

(ア) 奨学生比率の推移



(イ) 学 群

(平成20年3月1日現在)

| 学群・学類 | | 学生数 | 奨 学 生 数 | | | | 比率 (%) |
|---------|---------------------|-----|---------|-----|-----|-----|--------|
| | | | 第一種 | 第二種 | 併 用 | 計 | |
| 人文・文化学群 | 人 文 学 類 | 124 | 13 | 18 | 2 | 33 | 26.6% |
| | 比 較 文 化 学 類 | 95 | 20 | 15 | 1 | 36 | 37.9% |
| | 日本語・日本語文化学類 | 45 | 6 | 8 | 0 | 14 | 31.1% |
| | 小 計 | 264 | 39 | 41 | 3 | 83 | 31.4% |
| 社会・国際学群 | 社 会 学 類 | 85 | 10 | 12 | 2 | 24 | 28.2% |
| | 国 際 総 合 学 類 | 88 | 12 | 12 | 6 | 30 | 34.1% |
| | 小 計 | 173 | 22 | 24 | 8 | 54 | 31.2% |
| 人間学群 | 教 育 学 類 | 39 | 6 | 3 | 2 | 11 | 28.2% |
| | 心 理 学 類 | 57 | 9 | 7 | 1 | 17 | 29.8% |
| | 障 害 科 学 類 | 38 | 5 | 8 | 1 | 14 | 36.8% |
| | 小 計 | 134 | 20 | 18 | 4 | 42 | 31.3% |
| 生命環境学群 | 生 物 学 類 | 89 | 6 | 8 | 0 | 14 | 15.7% |
| | 生 物 資 源 学 類 | 142 | 23 | 19 | 4 | 46 | 32.4% |
| | 地 球 学 類 | 58 | 12 | 7 | 2 | 21 | 36.2% |
| | 小 計 | 289 | 41 | 34 | 6 | 81 | 28.0% |
| 理工学群 | 数 学 類 | 48 | 8 | 7 | 1 | 16 | 33.3% |
| | 物 理 学 類 | 65 | 9 | 11 | 2 | 22 | 33.8% |
| | 化 学 類 | 54 | 3 | 5 | 5 | 13 | 24.1% |
| | 応 用 理 工 学 類 | 132 | 14 | 13 | 3 | 30 | 22.7% |
| | 工 学 シ ス テ ム 学 類 | 145 | 17 | 17 | 5 | 39 | 26.9% |
| | 社 会 工 学 類 | 130 | 17 | 15 | 3 | 35 | 26.9% |
| | 小 計 | 574 | 68 | 68 | 19 | 155 | 27.0% |
| 情報学群 | 情 報 科 学 類 | 81 | 11 | 10 | 6 | 27 | 33.3% |
| | 情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類 | 55 | 9 | 8 | 1 | 18 | 32.7% |
| | 知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類 | 107 | 15 | 14 | 4 | 33 | 30.8% |
| | 小 計 | 243 | 35 | 32 | 11 | 78 | 32.1% |

| 学群・学類 | | 学生数 | 奨学 生 数 | | | | 比率 (%) |
|-----------|------------|-------|--------|-------|-----|-------|-----------|
| | | | 第一種 | 第二種 | 併用 | 計 | |
| 医学群 | 医学類 | 94 | 7 | 10 | 2 | 19 | 20.2% |
| | 看護学類 | 70 | 12 | 14 | 2 | 28 | 40.0% |
| | 医療科学類 | 38 | 5 | 1 | 2 | 8 | 21.1% |
| | 小計 | 202 | 24 | 25 | 6 | 55 | 27.2% |
| 体育専門学群 | | 1,038 | 115 | 245 | 32 | 392 | 37.8% |
| 芸術専門学群 | | 498 | 70 | 80 | 15 | 165 | 33.1% |
| 第一学群 | 人文学類 | 416 | 52 | 62 | 13 | 127 | 30.5% |
| | 社会学類 | 366 | 38 | 55 | 12 | 105 | 28.7% |
| | 自然科学類 | 696 | 90 | 118 | 27 | 235 | 33.8% |
| | 小計 | 1,478 | 180 | 235 | 52 | 467 | 31.6% |
| 第二学群 | 比較文化学類 | 322 | 44 | 54 | 9 | 107 | 33.2% |
| | 日本語・日本文化学類 | 164 | 24 | 32 | 5 | 61 | 37.2% |
| | 人間学類 | 408 | 64 | 71 | 9 | 144 | 35.3% |
| | 生物学類 | 276 | 31 | 35 | 8 | 74 | 26.8% |
| | 生物資源学類 | 439 | 63 | 75 | 12 | 150 | 34.2% |
| | 小計 | 1,609 | 226 | 267 | 43 | 536 | 33.3% |
| 第三学群 | 社会工学類 | 424 | 44 | 79 | 11 | 134 | 31.6% |
| | 国際総合学類 | 324 | 39 | 52 | 5 | 96 | 29.6% |
| | 情報学類 | 350 | 44 | 48 | 7 | 99 | 28.3% |
| | 工学システム学類 | 504 | 64 | 96 | 9 | 169 | 33.5% |
| | 工学基礎学類 | 422 | 50 | 75 | 11 | 136 | 32.2% |
| | 小計 | 2,024 | 241 | 350 | 43 | 634 | 31.3% |
| 医学専門学群 | | 117 | 6 | 25 | 8 | 39 | 33.3% |
| 医学専門学群 | 医学類 | 399 | 34 | 57 | 16 | 107 | 26.8% |
| | 看護・医療科学類 | 362 | 56 | 58 | 14 | 128 | 35.4% |
| | 小計 | 761 | 90 | 115 | 30 | 235 | 30.9% |
| 図書館情報専門学群 | | 570 | 61 | 108 | 16 | 185 | 32.5% |
| 合計 | | 9,974 | 1,238 | 1,667 | 296 | 3,201 | 32.1% |

(注) 1. 学生数は、外国人留学生を除いた数である。

2. 平成19年度の貸与月額、次のとおりである。

第一種(自宅外通学) 1・2・3年 51,000円 4・5年 50,000円 6年 48,000円

第一種(自宅通学) 1・2・3年 45,000円 4・5年 44,000円 6年 42,000円

第二種 30,000円, 50,000円, 80,000円, 100,000円からの選択制

(ウ) 大 学 院

(平成20年 3 月 1 日現在)

| 課程・研究科 | 学生数 | 奨 学 生 数 | | | | 比 率 (%) | |
|------------------------------------|-------------------------|---------|-------|-----|-------|------------|------|
| | | 第一種 | 第二種 | 併 用 | 計 | | |
| 一貫制 修士課程(修士・博士前期) 相当(修士課程) | 地 域 研 究 研 究 科 | 85 | 29 | 5 | 5 | 39 | 45.9 |
| | 教 育 研 究 科 | 361 | 93 | 18 | 31 | 142 | 39.3 |
| | 環 境 科 学 研 究 科 | 99 | 33 | 9 | 4 | 46 | 46.5 |
| | 体 育 研 究 科 | 339 | 119 | 18 | 23 | 160 | 47.2 |
| | 芸 術 研 究 科 | 75 | 28 | 16 | 4 | 48 | 64.0 |
| | 人 文 社 会 科 学 研 究 科 | 109 | 41 | 10 | 9 | 60 | 55.0 |
| | ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科 | 331 | 10 | 4 | 2 | 16 | 4.8 |
| | 数 理 物 質 科 学 研 究 科 | 507 | 201 | 52 | 26 | 279 | 55.0 |
| | シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科 | 618 | 269 | 29 | 61 | 359 | 58.1 |
| | 生 命 環 境 科 学 研 究 科 | 485 | 175 | 33 | 39 | 247 | 50.9 |
| | 人 間 総 合 科 学 研 究 科 | 364 | 133 | 32 | 32 | 197 | 54.1 |
| | 図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科 | 91 | 25 | 5 | 3 | 33 | 36.3 |
| | 小 計 | 3,464 | 1,156 | 231 | 239 | 1,626 | 46.9 |
| 博 士 課 程 (一貫制 博士 相当(博士後期・医学)) | 人 文 社 会 科 学 研 究 科 | 239 | 90 | 16 | 6 | 112 | 46.9 |
| | ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科 | 123 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0.8 |
| | 数 理 物 質 科 学 研 究 科 | 187 | 81 | 3 | 3 | 87 | 46.5 |
| | シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科 | 139 | 38 | 6 | 5 | 49 | 35.3 |
| | 生 命 環 境 科 学 研 究 科 | 281 | 101 | 7 | 2 | 110 | 39.1 |
| | 人 間 総 合 科 学 研 究 科 | 626 | 223 | 18 | 10 | 251 | 40.1 |
| | 図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科 | 99 | 17 | 1 | 0 | 18 | 18.2 |
| | 小 計 | 1,694 | 551 | 51 | 26 | 628 | 37.1 |
| 合 計 | 5,158 | 1,707 | 282 | 265 | 2,254 | 43.7 | |

(注) 1. 学生数は、外国人留学生を除いた数である。

2. 専門職学位課程は、修士課程に含む。

3. 平成19年度の貸与月額、次のとおりである。

第一種 (修士課程・博士前期課程) 1・2年 88,000円

第一種 (一貫制博士課程) 1・2年 88,000円 3・4・5年 122,000円

第一種 (博士後期課程・博士医学課程) 1・2・3年 122,000円 4年 121,000円

第二種 50,000円, 80,000円, 100,000円, 130,000円からの選択制

イ 地方公共団体・民間育英団体奨学生

(平成20年3月1日現在)

| 奨学団体 | 学 群 | | | | | | 大 学 院 | | | | | | 合 計 | |
|--------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|
| | 給 与 | | 貸 与 | | 小 計 | | 給 与 | | 貸 与 | | 小 計 | | | |
| | 団体 数 | 奨学 生数 | 団体 数 | 奨学 生数 | 団体 数 | 奨学 生数 | 団体 数 | 奨学 生数 | 団体 数 | 奨学 生数 | 団体 数 | 奨学 生数 | 団体 数 | 奨学 生数 |
| 地方公共団体 | 0 | 0 | 9 | 49 | 9 | 49 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 2 | 10 | 51 |
| 民間育英団体 | 23 | 47 | 13 | 27 | 36 | 74 | 18 | 27 | 7 | 8 | 25 | 35 | 61 | 109 |
| 合 計 | 23 | 47 | 22 | 76 | 45 | 123 | 18 | 27 | 8 | 10 | 26 | 37 | 71 | 160 |

(6) アルバイト

| 職 種 | 求人件数 |
|---------------|-------|
| 家 庭 教 師 | 85 |
| 塾 講 師 | 208 |
| 語 学 教 師 | 21 |
| そ の 他 (一 般) | 882 |
| 合 計 | 1,196 |

(7) 学生団体数及び加入者数

| 系 | 課外活動団体 | | 一般学生団体 | | 計 | |
|-------|--------|---------------|--------|---------------|-----|---------------|
| | 団体数 | 加入者数 | 団体数 | 加入者数 | 団体数 | 加入者数 |
| 文 化 系 | 42 | 1,194 (517) | 33 | 892 (413) | 75 | 2,086 (930) |
| 体 育 系 | 57 | 2,126 (628) | 57 | 2,158 (767) | 114 | 4,284 (1,395) |
| 芸 術 系 | 28 | 1,285 (609) | 10 | 214 (126) | 38 | 1,499 (735) |
| 合 計 | 127 | 4,605 (1,754) | 100 | 3,264 (1,306) | 227 | 7,869 (3,060) |

(注) 1. 課外活動団体とは、学生団体の中から援助・育成に値するものとして学長が認定したものをいう。
 2. () は女子を内数で示す。

(8) 課外活動団体の成績

| | | 団体・個人名等 | 競技会等名称 | 成績 | |
|--------------|-------------|--------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|----|
| 団体 の 部 | 体 操 部 | | 第3回全日本学生ラート競技選手権大会 | 優勝 | |
| | | | 第6回全日本チャレンGボール大会 シンクロナイズドGボール | 審査員特別賞 | |
| | | 柔道部 | 全国国立大学柔道大会男子団体戦 | 優勝 | |
| | | 陸上競技部 | | 第91回日本選手権リレー競技大会 4×100mリレー | 優勝 |
| | | | | 第76回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子4×100mリレー | 優勝 |
| | | 女子ハンドボール部 | 高松宮記念杯女子第43回全日本ハンドボール学生選手権 | 優勝 | |
| | ダンス部 | 第20回全日本高校・大学ダンスフェスティバル | 文部科学大臣賞 | | |
| 個人 の 部 | 福見 友子 | 第24回ユニバーシアード競技大会 柔道女子48kg級 | 優勝 | | |
| | 秋元 希星 | 全日本学生柔道体重別選手権大会 男子60kg級 | 優勝 | | |
| | 伊部 尚子 | 全日本学生柔道体重別選手権大会 女子48kg級 | 優勝 | | |
| | 新井 優来 | 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 100kg以下級 | 優勝 | | |
| | 水落 夏海 | 第83回日本学生選手権水泳競技大会 女子50m自由形 | 優勝 | | |
| | 岡本 優 | 平成19年度日本学生選手権水泳競技大会 飛込競技 男子3m飛板飛び込み | 優勝 | | |
| | 江塚 和哉 | 第3回全日本学生ラート競技選手権大会 自由演技部門男子直転 | 優勝 | | |
| | 小山 信博 | 第7回世界ラート競技選手権大会 男子シニア跳躍 | 2位 | | |
| | 諏訪部 和也 | 第6回全日本学生エアロビック選手権大会 男子シングル部門 | 優勝 | | |
| | 福原 一郎 | 第3回全日本学生ラート競技選手権大会規定演技部門男子総合自由演技男子斜転 | 優勝 | | |
| | 森口 更紗 | 第3回全日本学生ラート競技選手権大会自由演技部門女子跳躍 女子斜転 | 優勝 | | |
| | 吉田 望 | 第3回全日本学生ラート競技選手権大会規定演技部門女子総合自由演技女子直転 | 優勝 | | |
| | 田窪 啓太 | 第61回全日本学生体操競技選手権大会 種目別 鞍馬 | 優勝 | | |
| | 渡邊 美穂 | 2007世界ジュニア女子バレーボール選手権大会 | 3位 | | |
| | 田山 俊介 | 2006年全日本ライフセービング室内選手権大会 ラインスロー | 優勝 | | |
| | 寺村 泰介 | 2006年全日本ライフセービング室内選手権大会 メドレーリレー | 優勝 | | |
| | 山口 夏海 | 2006年全日本ライフセービング室内選手権大会 SERC | 優勝 | | |
| | 宮澤 麗 | 2006年全日本ライフセービング室内選手権大会 SERC | 優勝 | | |
| | 秋本 啓太 | 第76回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子円盤投げ | 優勝 | | |
| | 川口 直哉 | 第76回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子棒高跳び | 優勝 | | |
| | 斉藤 仁志 | 第76回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子200m | 優勝 | | |
| | 土屋 光 | 第76回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子走り高跳び | 優勝 | | |
| | 林田 真那美 | 第76回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子円盤投げ | 優勝 | | |
| | 美濃部 貴衣 | 第76回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子砲丸投げ | 優勝 | | |
| | 品田 直宏 | 第62回国民体育大会 成年男子 走り幅跳び | 優勝 | | |

(9) 就 職 等

ア 国家試験等

(ア) 医師国家試験

第102回医師国家試験

| | |
|--------|----------------------|
| 試 験 日 | 平成20年2月16日(土)～18日(月) |
| 受験者数 | 108名 |
| 合格者数 | 105名 |
| 合格率(%) | 97.2% |

[過去5年の合格率の推移]

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 第98回 | 第99回 | 第100回 | 第101回 | 第102回 |
| 96.1% | 98.9% | 98.1% | 91.6% | 97.2% |

(イ) 司法試験

| 年 度 | 短答式筆記試験 合 格 者 | 最終合格者 | 合格率(%) |
|-----|------------------|-------|--------|
| 18 | 20 | 4 | 20.0 |
| 19 | 11 | 1 | 9.1 |

(ウ) 国家公務員採用I種試験

| 年度 | 志願者数 | 合格者数 | 合格率(%) | 試験区分 |
|----|------|------|--------|--|
| 18 | 317 | 15 | 4.7 | 行政「1」、法律「3」、経済「2」、人間科学I「1」、人間科学II「0」、理工I「4」、理工II「0」、理工III「1」、理工IV「0」、農学I「3」、農学II「0」、農学III「0」、農学IV「0」 |
| 19 | 244 | 28 | 11.5 | 行政「0」、法律「3」、経済「5」、人間科学I「1」、人間科学II「0」、理工I「7」、理工II「0」、理工III「1」、理工IV「1」、農学I「4」、農学II「2」、農学III「4」、農学IV「0」 |

[過去5年の合格状況の推移]

| | | | | | |
|------|--------|-----|-----|-----|-----|
| | 平成15年度 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 志願者数 | 327 | 325 | 315 | 317 | 244 |
| 合格者数 | 27 | 20 | 21 | 15 | 28 |

(エ) 地方公務員上級採用試験

| 年度 | 合格者 | 都道府県等 |
|----|-----|---|
| 18 | 91 | 北海道「4」、山形「2」、福島「2」、茨城「14」、栃木「4」、群馬「1」、埼玉「3」、千葉「4」、東京「10」、神奈川「4」、新潟「2」、富山「2」、石川「1」、山梨「1」、長野「1」、岐阜「1」、静岡「5」、三重「1」、京都「1」、大阪「1」、熊本「2」、大分「1」、宮崎「1」、沖縄「3」、指定都市「20」 |
| 19 | 121 | 北海道「1」、秋田「1」、山形「2」、福島「4」、茨城「16」、栃木「4」、群馬「3」、埼玉「6」、千葉「4」、東京「7」、神奈川「6」、新潟「6」、富山「1」、石川「1」、山梨「2」、長野「6」、静岡「5」、愛知「3」、三重「2」、滋賀「1」、大阪「1」、奈良「1」、島根「1」、岡山「1」、広島「2」、香川「1」、福岡「1」、佐賀「2」、大分「1」、沖縄「2」、指定都市「27」 |

[過去5年の合格者数の推移]

| | | | | |
|--------|----|----|----|-----|
| 平成15年度 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 70 | 89 | 79 | 91 | 121 |

(オ) 公立学校教員採用試験

| 年度 | 合格者 | 都道府県等 |
|----|-----|--|
| 18 | 209 | 北海道「1」、青森「4」、岩手「2」、宮城「3」、秋田「4」、山形「2」、福島「1」、茨城「30」、栃木「7」、群馬「8」、埼玉「12」、千葉「15」、東京「23」、神奈川「12」、新潟「5」、富山「4」、石川「1」、福井「2」、山梨「2」、長野「2」、静岡「4」、愛知「6」、岐阜「7」、三重「3」、京都「4」、大阪「4」、兵庫「7」、和歌山「1」、鳥取「2」、岡山「1」、山口「1」、徳島「1」、香川「1」、愛媛「2」、佐賀「1」、長崎「3」、熊本「2」、大分「1」、宮崎「1」、鹿児島「2」、沖縄「2」、指定都市「13」 |
| 19 | 248 | 北海道「2」、青森「2」、岩手「4」、宮城「3」、秋田「1」、山形「2」、福島「1」、茨城「45」、栃木「5」、群馬「6」、埼玉「5」、千葉「12」、東京「37」、神奈川「10」、新潟「1」、富山「3」、石川「1」、福井「3」、山梨「3」、長野「6」、静岡「6」、愛知「10」、岐阜「2」、三重「4」、滋賀「4」、京都「2」、大阪「2」、兵庫「10」、奈良「1」、和歌山「3」、岡山「2」、広島「1」、山口「1」、徳島「2」、香川「1」、愛媛「2」、福岡「2」、佐賀「2」、長崎「3」、熊本「6」、宮崎「3」、鹿児島「2」、沖縄「4」、指定都市「21」 |

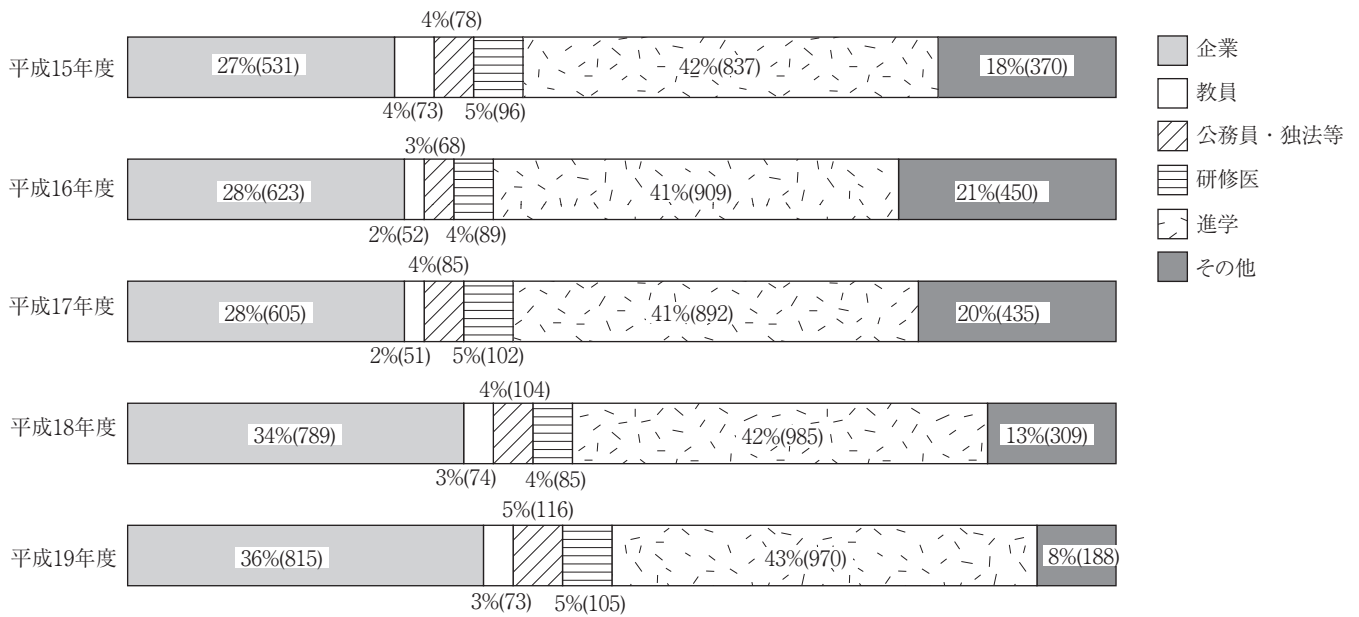
[過去5年の合格者数の推移]

| | | | | |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 平成15年度 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 171 | 170 | 212 | 209 | 248 |

イ 就 職

(ア) 学 群

① 進路 (就職) の推移



② 平成19年度卒業者の進路

(平成20年5月1日現在)

| 学群・学類 | 進路等 | 卒業者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | 研修医 | 進学者 | その他 | | |
|--------------------|-------------|-------------|-----------|-----------|---------|---------|----------|-----------|-----------|------------|-------------|---------|
| | | | | 企業 | 教員 | 独法等 | 公務員 | | | 職務復帰 | 研究生等 | 資格・採用 |
| 第一学群 | 人文学類 | 111 (58) | 66 (43) | 57 (40) | 3 | 1 (1) | 5 (2) | | 38 (11) | | 1 (1) | 6 (3) |
| | 社会学類 | 109 (51) | 74 (35) | 60 (30) | 1 | 1 (1) | 12 (4) | | 20 (9) | | | 15 (7) |
| | 自然科学類 | 206 (49) | 53 (13) | 42 (9) | 9 (4) | | 2 | | 138 (32) | 1 | 2 | 12 (4) |
| | 小計 | 426 (158) | 193 (91) | 159 (79) | 13 (4) | 2 (2) | 19 (6) | | 196 (52) | 1 | 3 (1) | 33 (14) |
| 第二学群 | 比較文化学類 | 89 (72) | 68 (54) | 59 (46) | 2 (2) | 3 (3) | 4 (3) | | 14 (12) | | | 7 (6) |
| | 日本語・日本文学類 | 45 (39) | 29 (26) | 23 (21) | 4 (3) | | 2 (2) | | 11 (10) | | | 5 (3) |
| | 人間学類 | 119 (61) | 51 (25) | 38 (17) | 5 (3) | | 8 (5) | | 39 (22) | 1 | 2 (2) | 26 (12) |
| | 生物学類 | 88 (37) | 14 (10) | 12 (8) | 1 (1) | | 1 (1) | | 70 (26) | | 1 | 3 (1) |
| | 生物資源学類 | 141 (65) | 37 (21) | 24 (13) | 5 (3) | | 8 (5) | | 97 (42) | | 1 | 6 (2) |
| | 小計 | 482 (274) | 199 (136) | 156 (105) | 17 (12) | 3 (3) | 23 (16) | | 231 (112) | 1 | 4 (2) | 47 (24) |
| 第三学群 | 社会工学類 | 135 (29) | 72 (15) | 66 (12) | 1 (1) | 1 (1) | 4 (1) | | 54 (13) | | | 9 (1) |
| | 国際総合学類 | 99 (67) | 69 (45) | 64 (41) | 1 (1) | | 4 (3) | | 22 (15) | | | 8 (7) |
| | 情報学類 | 103 (9) | 16 (1) | 15 (1) | | | 1 | | 84 (8) | | | 3 |
| | 工学システム学類 | 160 (16) | 24 (6) | 20 (6) | 1 | 1 | 2 | | 135 (10) | | | 1 |
| | 工学基礎学類 | 112 (4) | 17 (1) | 17 (1) | | | | | 92 (3) | | | 3 |
| 小計 | 609 (125) | 198 (68) | 182 (61) | 3 (2) | 2 (1) | 11 (4) | | 387 (49) | | | 24 (8) | |
| 医学専門学群 | 108 (36) | | | | | | | 105 (35) | | 3 (1) | | |
| 医学専門学群 看護・医療科学類 | 100 (91) | 73 (72) | 40 (39) | 9 (9) | 14 (14) | 10 (10) | | 27 (19) | | | | |
| 体育専門学群 | 251 (72) | 157 (43) | 126 (34) | 26 (7) | | 5 (2) | | 55 (15) | | 6 | 33 (14) | |
| 芸術専門学群 | 115 (87) | 52 (46) | 48 (42) | 3 (3) | | 1 (1) | | 42 (25) | 1 | 4 (3) | 16 (13) | |
| 図書館情報専門学群 | 176 (104) | 132 (87) | 104 (72) | 2 (2) | 9 (6) | 17 (7) | | 32 (13) | | 3 (2) | 9 (2) | |
| 合計 | 2,267 (947) | 1,004 (543) | 815 (432) | 73 (39) | 30 (26) | 86 (46) | 105 (35) | 970 (285) | 3 (1.6%) | 23 (12.2%) | 162 (86.2%) | |
| | | | | | | | | | | 188 (84) | | |

(注) () 内は女子を内数で示す。

③ 産業分類別就職状況（学群）

（平成20年5月1日現在）

| 学群・学類 | 企 業（自 営 業 を 含 む） | | | | | | | | | | | | | | 教員 | 公 務 員 | | | 合計 | 平成18年度最終 （同期） | |
|-----------|------------------|----------|----|-----------|------------|-------------|---------------|------------|------------|-------------|------------|--------------|-------------|--------------|------------|------------|------------|-------------|----------------|------------------|------------|
| | 農業 | 林業 | 漁業 | 鉱業 | 建設業 | 製造業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 運輸・通信業 | 卸売・小売業・飲食店 | 金融・保険業 | 不動産業 | サービス業 | 分類不能産業 | 小計 | | 国家公務員 | 地方公務員 | 小計 | | | |
| 第一学群 | 人文学類 | 1 (1) | | | 1 (1) | 1 (5) | 11 (1) | 1 | 6 (4) | 6 (5) | 7 (6) | 3 (2) | 20 (16) | | 57 (40) | 3 | 2 (1) | 4 (2) | 6 (3) | 66 (43) | 73 (42) |
| | 社会学類 | | | | 1 (1) | 1 (7) | 15 (7) | | 4 (1) | 4 (4) | 11 (6) | 4 (1) | 19 (9) | 1 (1) | 60 (30) | 1 | 2 (1) | 11 (4) | 13 (5) | 74 (35) | 80 (41) |
| | 自然科学類 | | | | | 1 (2) | 7 (2) | | | 4 (1) | 4 (1) | | 20 (5) | 6 (9) | 42 (9) | 9 (4) | 2 | | 2 (13) | 53 (15) | 55 (15) |
| 第二学群 | 比較文化学類 | | | | | 9 (7) | | 4 (4) | 7 (7) | 8 (6) | 2 (2) | 29 (20) | | 59 (46) | 2 (2) | 5 (5) | 2 (1) | 7 (6) | 68 (54) | 67 (49) | |
| | 日本語・日本文化学類 | | | | 1 (1) | 5 (4) | | | 4 (4) | 7 (6) | | 6 (6) | | 23 (21) | 4 (3) | | 2 (2) | 2 (2) | 29 (26) | 27 (25) | |
| | 人間学類 | | | | 1 (3) | 5 (3) | | 1 (1) | 3 (2) | 2 (1) | | 26 (10) | | 38 (17) | 5 (3) | 2 (1) | 6 (4) | 8 (5) | 51 (25) | 57 (35) | |
| | 生物学類 | | | | 1 (2) | 3 (2) | | | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) | 5 (4) | | 12 (8) | 1 (1) | | 1 (1) | 1 (1) | 14 (10) | 17 (7) | |
| | 生物資源学類 | | | | | 9 (6) | | | 3 (2) | 5 (2) | | 7 (3) | | 24 (13) | 5 (3) | 4 (3) | 4 (2) | 8 (5) | 37 (21) | 37 (21) | |
| 第三学群 | 社会工学類 | | | | 4 (1) | 8 (1) | | 2 (1) | 5 (1) | 22 (5) | 6 (4) | 19 (4) | | 66 (12) | 1 (1) | 2 (1) | 3 (1) | 5 (2) | 72 (15) | 68 (11) | |
| | 国際総合学類 | | | | 1 (10) | 15 (10) | | 3 (2) | 9 (5) | 12 (5) | 2 (1) | 21 (18) | | 64 (41) | 1 (1) | 2 (1) | 2 (2) | 4 (3) | 69 (45) | 79 (51) | |
| | 情報学類 | | | | | 5 (1) | | | | | | 10 | | 15 (1) | | | 1 (1) | 1 (1) | 16 (1) | 24 (4) | |
| | 工学システム学類 | | | | 4 (4) | 10 (1) | | 1 | 1 | | | 4 (1) | | 20 (6) | 1 | 1 | 2 | 3 (6) | 24 (6) | 28 (6) | |
| | 工学基礎学類 | | | | | 9 | | | 1 | | | 7 (1) | | 17 (1) | | | | | 17 (1) | 20 (4) | |
| 医学専門学群 | 医学専門 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 看護・医療科学類 | | | | | | | | | | | | 40 (39) | 40 (39) | 9 (9) | 17 (17) | 7 (7) | 24 (24) | 73 (72) | 80 (69) | |
| 体育専門学群 | | | | 3 (10) | 39 (10) | | 4 (1) | 10 (1) | 21 (6) | 4 (1) | 42 (15) | 3 (1) | 126 (34) | 26 (7) | 1 | 4 (2) | 5 (2) | 157 (43) | 118 (37) | | |
| 芸術専門学群 | | | | 1 (1) | 18 (18) | | | 7 (6) | 1 (1) | 1 (1) | 20 (15) | | 48 (42) | 3 (3) | | 1 (1) | 1 (1) | 52 (46) | 50 (42) | | |
| 図書館情報専門学群 | | | | 1 (1) | 18 (12) | | 9 (7) | 13 (12) | 11 (10) | 2 (1) | 47 (27) | 3 (2) | 104 (72) | 2 (2) | 10 (6) | 16 (7) | 26 (13) | 132 (87) | 87 (60) | | |
| 学 群 合 計 | 1 (1) | | | 3 (1) | 20 (8) | 186 (89) | 1 | 34 (21) | 78 (50) | 112 (56) | 25 (9) | 342 (193) | 13 (4) | 815 (432) | 73 (39) | 50 (36) | 66 (36) | 116 (72) | 1,004 (543) | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|----------|--|----------|----------|-------------|------------|-----------|------------|------------|-----------|-------------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-------------|--------------|--|
| 平成18年度最終 （同期） | 3 (1) | | 1 (1) | 1 (3) | 16 (102) | 198 (2) | 4 (28) | 43 (42) | 79 (44) | 93 (6) | 14 (194) | 333 (1) | 4 (424) | 789 (38) | 74 (27) | 46 (30) | 58 (57) | 104 (72) | 967 (519) | |
|------------------|----------|--|----------|----------|-------------|------------|-----------|------------|------------|-----------|-------------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-------------|--------------|--|

（注）（ ）内は女子を内数で示す。

(イ) 大学院

① 平成19年度修了者の進路状況

(平成20年5月1日現在)

| 研究科 | 修了者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | | 研究員 | 進学者 | その他 | | | | |
|---------------------|-------------|-----------|-----------|---------|--------|-----|---------|---------|-------|----------|----------|---------|-----------|----------|
| | | | 企業 | 教員 | 大学教員 | 独法等 | 公務員 | | | 職務復帰 | 帰国 | 研究生等・留学 | 資格・試験等準備他 | |
| 地域研究 | 66 (40) | 27 (17) | 20 (12) | 4 (4) | | | | 3 (1) | 1 (1) | 13 (7) | | 19 (11) | 1 (1) | 5 (3) |
| 教 育 | 151 (85) | 64 (37) | 18 (10) | 44 (25) | | | | 2 (2) | | 1 (1) | 49 (26) | 4 (3) | 2 (2) | 31 (16) |
| 環 境 科 学 | 98 (34) | 63 (22) | 53 (18) | | | | 2 (1) | 8 (3) | | 17 (5) | 1 | 5 (2) | | 12 (5) |
| 体 育 | 147 (43) | 80 (21) | 44 (11) | 18 (5) | 13 (4) | | 1 | 4 (1) | | 12 (4) | 24 (10) | 2 (1) | 7 (2) | 22 (5) |
| 芸 術 | 79 (46) | 46 (25) | 33 (17) | 8 (4) | 1 (1) | | 1 (1) | 3 (2) | | 11 (8) | 2 (1) | 5 (4) | 1 | 14 (8) |
| ビジネス科学 (博前) | 49 (8) | | | | | | | | | | 48 (8) | | | 1 |
| ビジネス科学 (専門職) | 57 (14) | | | | | | | | | | 54 (13) | | | 3 (1) |
| 数 理 物 質 科 学 (博前) | 233 (33) | 186 (31) | 179 (30) | 5 (1) | | | | 2 | 1 | 37 (2) | 1 | | 1 | 7 |
| システム情報工学 (博前) | 316 (48) | 267 (35) | 260 (35) | 1 | | | 1 | 5 | | 29 (3) | 3 (1) | 9 (6) | | 8 (3) |
| 生 命 環 境 科 学 (博前) | 146 (69) | 85 (49) | 74 (41) | 3 (2) | | | 4 (4) | 4 (2) | | 37 (11) | 1 | 12 (4) | 1 (1) | 10 (4) |
| 図書館情報メディア (博前) | 29 (12) | 22 (9) | 19 (7) | 1 (1) | 1 | | 1 (1) | | | 1 (1) | 5 (2) | | 1 | |
| 人間総合科学 (修士) | 55 (28) | 35 (19) | 30 (15) | | | | 4 (4) | 1 | | 18 (8) | | | | 2 (1) |
| 修士合計 | 1,426 (460) | 875 (265) | 730 (196) | 84 (42) | 15 (5) | | 14 (11) | 32 (11) | 2 (1) | 176 (50) | 188 (61) | 56 (31) | 14 (6) | 115 (46) |
| | | | | | | | | | | | 373(144) | | | |

| 研究科 | 修了者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | | | 研究員 | その他 | | | | | |
|---------------------|-----------|----------|---------|----|---------|-------|--------|--------|----------|--------|---------|-----------|---------|--|
| | | | 企業 | 教員 | 大学教員 | 独法等 | 公務員 | | 職務復帰 | 帰国 | 研究生等 | 資格・試験等準備他 | | |
| 人文社会科学 | 35 (18) | 18 (8) | 2 | 2 | 11 (6) | 1 (1) | 2 (1) | 8 (3) | | 6 (4) | | | 3 (3) | |
| ビジネス科学 (博後) | 14 (2) | | | | | | | | | 12 (1) | | | 2 (1) | |
| 数 理 物 質 科 学 (後期) | 61 (3) | 28 (2) | 22 (1) | 1 | | | 4 | 1 (1) | 22 | 4 | 3 | | 4 (1) | |
| 数 理 物 質 科 学 (3博) | 7 (1) | 1 | | | | | 1 | | 2 | 1 | 1 | | 2 (1) | |
| システム情報工学 (後期) | 8 (1) | 2 | 2 | | | | | | 4 | | | 1 | 1 (1) | |
| システム情報工学 (後期) | 39 (3) | 14 | 10 | | 1 | | 2 | 1 | 3 (1) | 17 (1) | 3 | | 2 (1) | |
| 生 命 環 境 科 学 (後期) | 35 (10) | 14 (5) | 2 (1) | 1 | 3 (1) | | 5 (1) | 3 (2) | 12 (3) | 2 | 3 (1) | 1 | 3 (1) | |
| 生 命 環 境 科 学 (3博) | 43 (13) | 16 (5) | 12 (3) | | 1 (1) | | 3 (1) | | 13 (3) | 4 (3) | 6 (2) | | 4 | |
| 生 命 環 境 科 学 (3博) | 5 (1) | 1 | | | | | | 1 | 1 | 2 | | | 1 (1) | |
| 人間総合科学 | 124 (61) | 69 (32) | 32 (13) | | 22 (10) | | 9 (6) | 6 (3) | 36 (16) | 3 (3) | 2 (1) | | 14 (9) | |
| 図書館情報メディア (博後) | 6 (2) | 4 (2) | 1 (1) | | 3 (1) | | | | | 1 | | 1 | | |
| 博 士 合 計 | 383 (115) | 167 (54) | 83 (19) | 4 | 41 (19) | | 25 (9) | 14 (7) | 102 (26) | 51 (8) | 24 (8) | 3 | 36 (19) | |
| | | | | | | | | | | | 114(35) | | | |

(注) () は女子を内数で示す。

② 産業分類別就職状況（大学院）

（平成20年5月1日現在）

| 研究科 | 企業（自営業を含む） | | | | | | | | | | | | | 教員 | 公務員等 | | | 平成18年度最終（同期） | | | | |
|---------------|--------------|----|----|----|-----------|-------------|---------------|-----------|------------|-----------|-----------|-------------|--------------|-------------|-------------|------------|------------|--------------|-------------|-------------|-------------|--|
| | 農業 | 林業 | 漁業 | 鉱業 | 建設業 | 製造業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 運輸・通信業 | 卸売・小売業、飲食店 | 金融・保険業 | 不動産業 | サービス業 | 分類不能産業 | | 小計 | 国家公務員等 | 地方公務員 | | 小計 | 合計 | | |
| 修士課程 | 地域研究 | | | | | 1 (1) | 6 (4) | | | 2 (1) | 4 (2) | 2 (1) | | 5 (3) | 20 (12) | 4 (4) | | 3 (1) | 3 (1) | 27 (17) | 18 (9) | |
| | 教育 | | | | | | 2 | | | 1 | | 1 | 1 | 13 (9) | 18 (10) | 44 (25) | | 2 (2) | 2 (2) | 64 (37) | 63 (26) | |
| | 環境科学 | 1 | | | | 9 (2) | 24 (5) | | | 2 | 3 (2) | 2 (2) | 1 | 11 (7) | 53 (18) | | 5 (2) | 5 (2) | 10 (4) | 63 (22) | 53 (20) | |
| | 医科学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 23 (16) | |
| | 体育 | | | | | | 10 (4) | | | 1 (1) | 3 (1) | 1 | | 29 (5) | 44 (11) | 31 (9) | 1 | 4 (1) | 5 (1) | 80 (21) | 52 (18) | |
| | 芸術 | | | | | 8 (4) | 7 (3) | | | | 3 (3) | | 2 (1) | 13 (6) | 33 (17) | 9 (5) | 2 (2) | 2 (1) | 4 (3) | 46 (25) | 43 (24) | |
| | ビジネス科学（前期） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 数理解物質科学（前期） | | | | | | 140 (24) | | 4 | 6 | 2 | 3 (1) | | 24 (5) | 179 (30) | 5 (1) | 1 | 1 | 2 | 186 (31) | 198 (42) | |
| | システム情報工学（前期） | | | | | 9 (2) | 141 (13) | 2 | 18 (3) | 5 | 19 (5) | 1 | 64 (12) | 259 (35) | 1 | 3 | 4 | 7 | 267 (35) | 247 (28) | | |
| | 生命環境科学（前期） | | 1 | | | | 46 (21) | | 1 (1) | 4 (4) | 2 | | | 20 (15) | 74 (41) | 3 (2) | 6 (4) | 2 (2) | 8 (6) | 85 (49) | 107 (55) | |
| 図書館情報メディア（前期） | | | | | | 4 (1) | | | | | | | 15 (6) | 19 (7) | 2 (1) | 1 (1) | | 1 (1) | 22 (9) | 11 (3) | | |
| 人間総合科学（修士） | | | | | | 18 (6) | | | | | | | 13 (10) | 31 (16) | | 4 (3) | | 4 (3) | 35 (19) | | | |
| 修士合計 | 1 | 1 | | | 27 (9) | 398 (81) | 6 | 31 (6) | 24 (12) | 30 (9) | 5 (2) | 207 (78) | 730 (197) | 99 (47) | 23 (12) | 23 (9) | 46 (21) | 875 (265) | | | | |
| 平成18年度最終（同期） | 2 | | | 1 | 8 (3) | 401 (97) | 7 | 21 (4) | 32 (12) | 26 (5) | 3 | 196 (69) | 700 (190) | 86 (38) | 13 (5) | 16 (8) | 29 (13) | 815 (241) | | | | |
| 博士課程 | 人文社会科学 | | | | | 1 | | | | | | | 2 | 13 (6) | 2 | 1 (1) | 1 (1) | 3 (2) | 18 (8) | 12 (3) | | |
| | ビジネス科学（後期） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 数理解物質科学 | | | | | | 14 (1) | | | | | | 8 | 22 (1) | 1 (1) | 5 (1) | | 5 (1) | 28 (2) | 23 (3) | | |
| | 数理解物質科学（3博士） | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | 1 (1) | | |
| | 数理解物質科学（後期） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | |
| | システム情報工学 | | | | | | 2 | | | | | | | 2 | | | | | 2 | 23 (1) | | |
| | システム情報工学（後期） | | | | | | 5 | | 1 | | | | 4 | 10 | 1 | 3 | | 3 | 14 | | | |
| | 生命環境科学 | | | | | | | | | | | | 2 (1) | 2 (1) | 4 (1) | 7 (3) | 1 | 8 (3) | 14 (5) | 41 (8) | | |
| | 生命環境科学（後期） | | | | | | 6 (1) | | | 1 (1) | | | 5 (1) | 12 (3) | 1 (1) | 4 (1) | 1 | 5 (1) | 18 (5) | 1 | | |
| | 生命環境科学（3博士） | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | |
| 人間総合科学 | | | | | | 5 (3) | | | 1 | | | 26 (10) | 32 (13) | 22 (10) | 13 (7) | 2 (2) | 15 (9) | 69 (32) | 59 (18) | | | |
| 人間総合科学（3博士） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 図書館情報メディア（後期） | | | | | | | | | | | | 1 (1) | 1 (1) | 3 (1) | | | | 4 (2) | 1 | | | |
| 博士合計 | | | | | | 33 (5) | | 1 (1) | 2 (1) | | | 47 (13) | 83 (19) | 45 (19) | 35 (13) | 4 (3) | 39 (16) | 167 (54) | | | | |
| 平成18年度最終（同期） | | | | | | 35 (5) | | 1 | 2 | 2 | 1 | 45 (12) | 86 (17) | 41 (13) | 29 (3) | 8 (1) | 37 (4) | 164 (34) | | | | |

（注）（ ）は女子を内数で示す。

6 国際交流関係

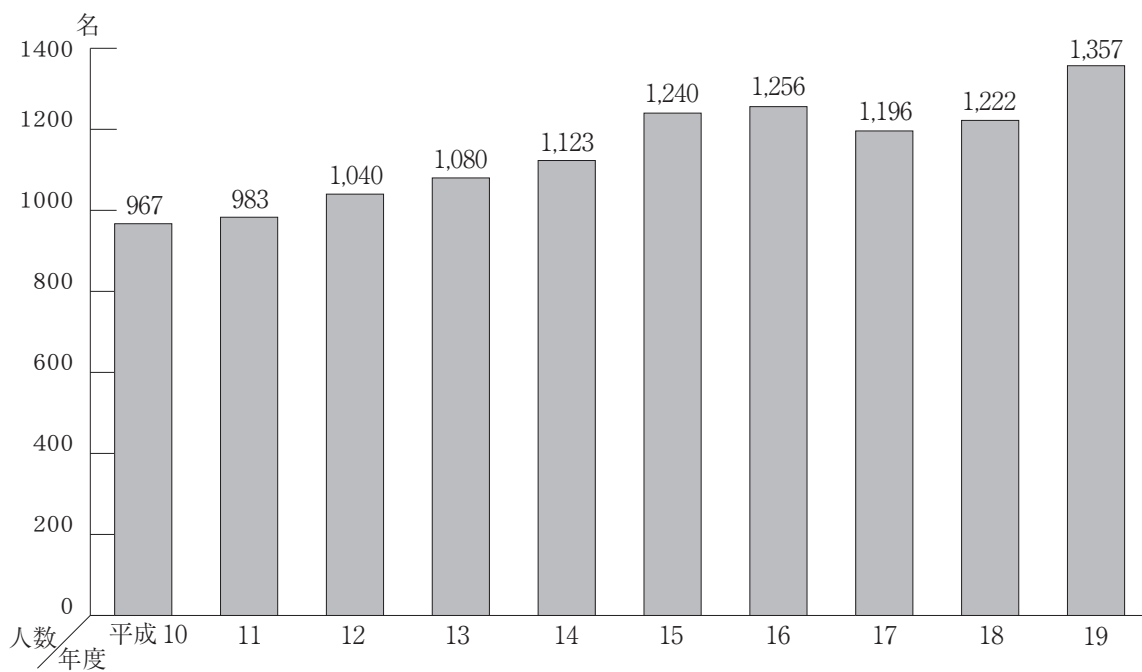
(1) 教職員等の交流

| 交 流 組 織 | | 外国人研究者等の受入数 | | | | | | | | | 教職員等の海外派遣数 | | | | | | | | | 合 計 | | | | |
|-----------|------------------|-------------|-------------------|-----------|------------------|------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------------------|----------------------------|-------------|--------|---------------------------------|--------------------------------------|------------------|-----------------------|------------------|---|---------------------------------|-------|----------------------------|-------------|--------|--|
| | | 外国人 研究員 | 外国人 の非常勤 講師 | 外国人 教員 | 科学 研究費 補助金 | 支 援 経 費 | 国際 交流・ 留学生 費 | 中国 政府 派遣 研究員 | 日 本 学 術 振 興 会 | 国 際 協 力 機 構 | そ の 他 | 小 計 | 推 進 プ ロ グ ラ ム | 大 学 教 育 の 国 際 化 | 支 援 経 費 | 国際 交流・ 留学生 費 | 科学 研究費 補助金 | 文 部 科 学 省 事 業 の 他 | 日 本 学 術 振 興 会 | | 国 際 協 力 機 構 | そ の 他 | 小 計 | |
| 第一学群 | 自然科学類 | | 3 | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | 0 | 3 | |
| 第二学群 | 比較文化学類 | | 3 | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | 0 | 3 | |
| | 日本語・日本文学類 | | 4 | | | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | 0 | 4 | |
| 第三学群 | 人間学類 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 0 | 1 | |
| | 情報学類 | | 3 | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | 0 | 3 | |
| | 工学システム学類 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 0 | 1 | |
| 社会・国際学群 | 工学基礎学類 | | 2 | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 0 | 2 | |
| | 社会学類 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 0 | 1 | |
| 情報学群 | 国際総合学類 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 0 | 1 | |
| | 情報科学類 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 0 | 1 | |
| 修士課程 | 地域研究研究科 | | 9 | | | | | | | 1 | 10 | | | | | | | | | | | 0 | 10 | |
| | 体育研究科 | | 1 | | | | | | | 2 | 3 | | | | | | | | | | | 0 | 3 | |
| 博士課程 | 人文社会科学研究科 | | 4 | 22 | 7 | 2 | 1 | 4 | | 74 | 114 | 2 | 15 | 80 | 2 | 1 | | 139 | 239 | 353 | | | | |
| | ビジネス科学研究科 | 2 | 9 | 2 | | | | | | | 13 | 2 | | 13 | | | 2 | 28 | 45 | 58 | | | | |
| | 数理物質科学研究科 | | 1 | 5 | 27 | 1 | 1 | 10 | | 25 | 70 | 4 | 1 | 97 | | 18 | | 120 | 240 | 310 | | | | |
| | システム情報工学研究科 | | 5 | 9 | 7 | | | 3 | | 94 | 118 | | 4 | 115 | 5 | 10 | 2 | 157 | 293 | 411 | | | | |
| | 生命環境科学研究科 | | 3 | 3 | | 3 | | 22 | 4 | 107 | 142 | 1 | 2 | 93 | | 6 | 8 | 149 | 259 | 401 | | | | |
| | 人間総合科学研究科 | | 9 | 9 | | | | 5 | | 288 | 311 | 12 | 3 | 118 | 19 | 5 | | 297 | 454 | 765 | | | | |
| | 図書館情報メディア研究科 | | | 1 | | | | | | | 3 | 4 | 1 | | 14 | 2 | | 23 | 40 | 44 | | | | |
| センター等 | 計算科学研究センター | | | 2 | | | | | | 1 | 3 | | | 44 | | 2 | | 36 | 82 | 85 | | | | |
| | プラスマ研究センター | | | | | | | | | 37 | 37 | | | | | | | | | 0 | 37 | | | |
| | 先端学際領域研究センター | 2 | | | | | | | | 3 | 5 | | | 13 | | 2 | | 16 | 31 | 36 | | | | |
| | 外国語センター | | 14 | 12 | | | | | | | 26 | | | | | | | 4 | 4 | 30 | | | | |
| | 農林技術センター | | | 1 | | | | | | 8 | 9 | | | | | | | | | 0 | 9 | | | |
| | 陸域環境研究センター | | | | | | | | | 5 | 5 | | | | | | | | | 0 | 5 | | | |
| | 留学生センター | | | 2 | | | | | | 13 | 15 | | 9 | 13 | | | | 13 | 35 | 50 | | | | |
| | 遺伝子実験センター | | | | | | | | | | 0 | | | 2 | | | | 5 | 7 | 7 | | | | |
| | 教育開発国際協力研究センター | 4 | | | | | | | | 47 | 57 | 108 | | 2 | 8 | | | 12 | 9 | 31 | 139 | | | |
| | 知的コミュニティ基盤研究センター | 2 | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | 2 | 2 | 4 | | | |
| | 学際物質科学研究センター | | | | | | | | | | 5 | 5 | | | | | | | | 0 | 5 | | | |
| | 北アフリカ研究センター | | | | | | | | | 6 | 11 | 17 | | | | | | 1 | | 1 | 18 | | | |
| | 学術情報メディアセンター | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | | 6 | 6 | 7 | | | |
| | 研究基盤総合センター | | | | | | | | | | 0 | | | 2 | | | | 1 | 1 | 4 | 4 | | | |
| 理療科教員養成施設 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 0 | 1 | | | |
| 附属学校教育局 | | | | | | | | | | 0 | | | | 3 | | | | 1 | 4 | 4 | | | | |
| 附属学校 | | | | | | | | | | 0 | | | | | | 2 | | 8 | 15 | 25 | 25 | | | |
| 附属病院 | | | | | | | | | | 0 | 2 | | | | | | | | | 2 | 2 | | | |
| 事務・技術職員 | | | | | | | | | | 0 | | | 11 | | | 1 | | 12 | 24 | 24 | | | | |
| 役員 | 副学長 | | | | | | | | | 0 | | | 1 | | | | | 2 | 3 | 3 | | | | |
| 合 計 | | 10 | 76 | 69 | 41 | 6 | 2 | 44 | 57 | 734 | 1,039 | 24 | 48 | 615 | 30 | 45 | 34 | 1,035 | 1,831 | 2,870 | | | | |

(2) 学生の交流

| 区 分 | | 外国人留学生の受入れ数 | | | 学生の海外派遣数 | | | | 合 計 |
|-------------------|-------------------------|-------------|---------|-------|----------|------------|------------|-----|-------|
| | | 学生 院 生 | 研 究 生 等 | 小 計 | 国 費 | 筑波大学 基金 | 私 費 の 他 | 小 計 | |
| 第一学群 | 人 文 学 類 | 2 | | 2 | | | 14 | 14 | 16 |
| | 社 会 学 類 | 5 | | 5 | | | 5 | 5 | 10 |
| | 自 然 学 類 | 8 | | 8 | | | | 0 | 8 |
| 第二学群 | 比 較 文 化 学 類 | 3 | 1 | 4 | | | 11 | 11 | 15 |
| | 日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類 | | | 0 | | | 3 | 3 | 3 |
| | 人 間 学 類 | 4 | 1 | 5 | | | 6 | 6 | 11 |
| | 生 物 学 類 | 8 | | 8 | | | 5 | 5 | 13 |
| 第三学群 | 生 物 資 源 学 類 | 8 | | 8 | | | | 0 | 8 |
| | 社 会 工 学 類 | 11 | | 11 | | | 3 | 3 | 14 |
| | 国 際 総 合 学 類 | 12 | | 12 | | | 39 | 39 | 51 |
| | 情 報 学 類 | 18 | 1 | 19 | | | | 0 | 19 |
| 医学専門学群 | 工 学 シ ス テ ム 学 類 | 14 | | 14 | | | 1 | 1 | 15 |
| | 工 学 基 礎 学 類 | 4 | | 4 | | | | 0 | 4 |
| 医 学 専 門 学 群 | | 2 | | 2 | | | | 0 | 2 |
| 図 書 館 情 報 専 門 学 群 | | 7 | | 7 | | | | 0 | 7 |
| 人文・文化学群 | 人 文 学 類 | | 8 | 8 | | | | 0 | 8 |
| | 比 較 文 化 学 類 | 3 | 10 | 13 | | | | 0 | 13 |
| | 日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類 | 1 | 39 | 40 | | | | 0 | 40 |
| 社会・国際学群 | 社 会 学 類 | 1 | 5 | 6 | | | | 0 | 6 |
| | 国 際 総 合 学 類 | 7 | 23 | 30 | | | | 0 | 30 |
| 人間学群 | 教 育 学 類 | | 4 | 4 | | | | 0 | 4 |
| | 心 理 学 類 | 2 | | 2 | | | | 0 | 2 |
| | 障 害 科 学 類 | | 2 | 2 | | | | 0 | 2 |
| 生命環境学群 | 生 物 学 類 | 2 | | 2 | | | | 0 | 2 |
| | 生 物 資 源 学 類 | 1 | 1 | 2 | | | | 0 | 2 |
| 理工学群 | 数 学 類 | 1 | | 1 | | | | 0 | 1 |
| | 化 学 類 | 1 | | 1 | | | | 0 | 1 |
| | 応 用 理 工 類 | 3 | | 3 | | | | 0 | 3 |
| | 工 学 シ ス テ ム 学 類 | 8 | | 8 | | | | 0 | 8 |
| | 社 会 工 学 類 | 4 | | 4 | | | | 0 | 4 |
| 情報学群 | 情 報 科 学 類 | 4 | | 4 | | | | 0 | 4 |
| | 情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類 | 4 | | 4 | | | | 0 | 4 |
| 医学群 | 医 療 科 学 類 | 1 | | 1 | | | | 0 | 1 |
| 体育専門学群 | | 2 | 1 | 3 | | | 6 | 6 | 9 |
| 芸術専門学群 | | 5 | 3 | 8 | | | 2 | 2 | 10 |
| 学 群 計 | | 156 | 99 | 255 | | | 95 | 95 | 350 |
| 修士課程 | 地 域 研 究 研 究 科 | 60 | 26 | 86 | | | 3 | 3 | 89 |
| | 教 育 研 究 科 | 12 | 20 | 32 | | | | 0 | 32 |
| | 環 境 科 学 研 究 科 | 11 | | 11 | | | | 0 | 11 |
| | 体 育 研 究 科 | 16 | 19 | 35 | | | 3 | 3 | 38 |
| | 芸 術 研 究 科 | 18 | 5 | 23 | | | | 0 | 23 |
| | 修士課程小計 | 117 | 70 | 187 | | | 6 | 6 | 193 |
| 博士課程 | 人 文 社 会 科 学 研 究 科 | 142 | 31 | 173 | 2 | | 32 | 34 | 207 |
| | 数 理 物 質 科 学 研 究 科 | 44 | 7 | 51 | | | | 0 | 51 |
| | シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科 | 196 | 46 | 242 | | | 1 | 1 | 243 |
| | 生 命 環 境 科 学 研 究 科 | 184 | 63 | 247 | 2 | | 3 | 5 | 252 |
| | 人 間 総 合 科 学 研 究 科 | 125 | 46 | 171 | | | 7 | 7 | 178 |
| | 図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科 | 20 | 9 | 29 | | | | 0 | 29 |
| 博士課程小計 | 711 | 202 | 913 | 4 | | 43 | 47 | 960 | |
| 専門職学位課程 | ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科 | 2 | | 2 | | | | 0 | 2 |
| | 専 門 職 学 位 課 程 小 計 | 2 | | 2 | | | | 0 | 2 |
| 大 学 院 計 | | 830 | 272 | 1,102 | 4 | | 49 | 53 | 1,155 |
| 合 計 | | 986 | 371 | 1,357 | 4 | | 144 | 148 | 1,505 |

【留学生受入数の推移】（各年度3月1日現在）



(3) 国際交流協定〔平成19年度交流実績〕

| 国名等 | 協定締結機関名 | 協定期間 | 交流対象 | 交流分野 | 受入数 | 派遣数 |
|----------|--------------------|-------------------|--------------------------------|--|--------|---------|
| 中国 | 中国科学院研究生院 | 05.07.07～10.07.06 | 研究者 学 生 | 協議により決定 | 3 (1) | 0 |
| | 浙 江 大 学 | 07.11.09～12.11.08 | 研究者 学 生 | 両大学に共通する全ての領域 | 21 | 0 |
| | 南 開 大 学 | 07.12.26～12.07.25 | 研究者 学 生 | 両大学に共通する全ての領域 | 0 | 0 |
| | 西 安 交 通 大 学 | 08.02.21～13.02.20 | 研究者 学 生 | 両大学に共通する全ての領域 | 0 | 0 |
| | 吉 林 大 学 | 08.02.07～13.02.06 | 研究者 学 生 | バイオシステム科学・工学, バイオ環境科学・工学及び関連分野 | 2 (2) | 3 (1) |
| | 湖 南 大 学 | 96.03.22～11.08.21 | 研究者 学 生 | 人文科学及び社会科学, 中国語研修 | 5 (5) | 8 (8) |
| | 上 海 交 通 大 学 | 97.02.18～12.12.17 | 研究者 学 生 | 低温工学, エネルギー工学, 熱流体力学及び関連分野 | 1 | 0 |
| | 中 国 海 洋 大 学 | 99.08.16～09.08.15 | 研究者 学 生 | 生物学, バイオシステム科学・工学, バイオ環境科学・工学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | 北京大學信息管理系 | 99.06.01～09.05.31 | 研究者 学 生 | 図書館情報学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | 北 京 師 範 大 学 | 06.12.01～11.11.30 | 研究者 学 生 | 教育学, 理学, 生命環境科学及び関連分野 | 0 | 19 (11) |
| | 上 海 図 書 館 | 99.10.01～10.01.04 | 研究者 | 図書館情報学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | 北京大學環境学院 | 99.11.27～09.11.26 | 研究者 学 生 | 生物学, バイオシステム科学・工学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | 復 旦 大 学 | 01.01.15～11.01.14 | 研究者 学 生 | バイオシステム科学・工学, バイオ環境科学・工学及び関連分野 | 0 | 1 (1) |
| | 中 国 農 業 大 学 | 01.01.15～11.01.14 | 研究者 学 生 | 生物学, バイオシステム科学・工学, バイオ環境科学・工学及び関連分野 | 2 (2) | 2 (1) |
| | 西北農林科技大学 | 01.02.10～11.02.09 | 研究者 学 生 | バイオシステム科学・工学, バイオ環境科学・工学及び関連分野 | 1 | 0 |
| | 清華大学建築学院 | 02.02.27～12.02.26 | 研究者 学 生 | 都市計画, 建築計画及び関連分野 | 6 (1) | 13 (4) |
| | 清華大学原子力及び新エネルギー研究所 | 05.05.10～10.05.09 | 研究者 学 生 | 新エネルギー及び関連分野 | 2 | 2 (1) |
| | 西南交通大学 | 02.03.10～12.03.09 | 研究者 学 生 | 情報科学, 通信工学及び関連分野 | 1 (1) | 0 |
| | 東北師範大学 | 02.06.03～07.06.02 | 研究者 | 教育学, 数学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | 中国原子能科学研究所 | 02.08.01～12.07.31 | 研究者 学 生 | 加速器科学及び関連分野 | 3 | 1 |
| | 瀋陽農業大学 | 04.02.09～09.02.08 | 研究者 学 生 | バイオシステム科学・工学, バイオ環境科学・工学及び関連分野 | 3 (3) | 0 |
| | 吉林農業大学 | 04.02.25～09.02.24 | 研究者 学 生 | 生物資源科学, 生物機能科学, 食料経済学, 国際地域開発科学及び関連分野 | 1 (1) | 10 (1) |
| | 華南師範大学 | 04.10.11～09.10.10 | 研究者 学 生 | 体育科学, スポーツ科学及び関連分野 | 0 | 6 |
| | 中国科学院地理科学・資源研究所 | 07.04.01～12.03.31 | 研究者 学 生 | 生命環境科学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | 中国地質大学(北京) | 05.11.23～10.11.22 | 研究者 学 生 | 環境科学, 環境工学, 生命環境科学, エネルギー資源及び関連分野 | 20 | 0 |
| | 鄭 州 大 学 | 05.11.28～10.11.27 | 研究者 学 生 | 環境科学, 環境工学, 衛生環境医学, 生命環境科学及び関連分野 | 1 (1) | 0 |
| | 河 南 科 技 大 学 | 05.11.29～10.11.28 | 研究者 学 生 | 環境科学, 環境工学, 農業環境, 農業工学, 食品工学, 環境医学, 生命環境科学及び関連分野 | 0 | 0 |
| 大 連 大 学 | 07.02.18～12.02.17 | 研究者 学 生 | 日本語・日本文化を中心とした人文科学, 社会科学及び関連分野 | 0 | 0 | |
| 北京航空航天大学 | 07.03.31～12.03.30 | 研究者 学 生 | コンピュータサイエンス及び関連分野 | 0 | 2 | |
| 台湾 | 国立中山大学 | 07.09.17～12.09.16 | 研究者 学 生 | 両大学に共通する全ての領域 | 0 | 2 |
| | 国立精華大学 | 07.11.29～12.11.28 | 研究者 学 生 | 全領域 | 0 | 0 |
| | 国立台湾大学 | 07.11.16～12.11.15 | 研究者 学 生 | 全領域 | 0 | 2 |
| | 国立台湾芸術大学 | 05.07.12～10.07.11 | 研究者 学 生 | 芸術学, 美術, デザイン | 10 (4) | 0 |

| 国名等 | 協定締結機関名 | 協定期間 | 交流対象 | 交流分野 | 受入数 | 派遣数 |
|---------|----------------------------------|-------------------|--|--|---------|---------|
| 台湾 | 国立政治大学 | 06.06.30～11.06.29 | 研究者 学 生 | 人文科学及び社会科学 | 11 (8) | 5 (3) |
| 韓国 | 高麗大 学 校 | 08.02.01～13.01.31 | 研究者 学 生 | 協議により決定 | 22 (4) | 6 (2) |
| | 韓国国土研究院 | 87.11.01～11.06.11 | 研究者 | 都市・地域計画及び関連分野 | 0 | 0 |
| | 延世大 学 校 理 科 大 学 | 95.10.01～10.09.30 | 研究者 学 生 | 自然科学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | 延世大 学 校 教 育 研 究 所, 教 育 学 科 | 97.09.01～07.08.31 | 研究者 学 生 | 教育学, 教科教育学, 体育・スポーツ科学及 び関連分野 | 0 | 0 |
| | 釜山大 学 校 | 97.02.15～12.02.15 | 研究者 学 生 | 材料科学及び関連分野 | 6 (1) | 1 |
| | 忠南大 学 校 農 業 生 命 科 学 大 学 | 97.03.21～12.03.20 | 研究者 学 生 | 農学, 生物学, 地球環境科学及び関連分野 | 2 | 3 |
| | 忠南大 学 校 医 科 大 学 | 06.12.06～11.12.05 | 研究者 学 生 | 医学教育, 医学研究, 医学分野における産学 連携方法 | 2 (2) | 0 |
| | 梨花女 子 大 学 校 | 98.02.01～13.01.31 | 学 生 | 人文及び社会科学 (日本語学, 日本文化研究, 地域研究及び国際関係を含む。) | 4 (4) | 5 (1) |
| | 大邱大 学 校 | 98.08.24～08.08.23 | 研究者 学 生 | 心身障害学, リハビリテーション科学及び関 連分野 | 3 (2) | 0 |
| | 東亜大 学 校 | 99.03.04～13.01.29 | 研究者 学 生 | 公共政策及び関連分野 | 0 | 0 |
| | 韓国基礎科学研究所 | 00.08.01～10.07.31 | 研究者 | プラズマ核融合科学 | 3 | 2 |
| | 仁荷大 学 校 | 02.05.20～12.05.19 | 研究者 学 生 | 日本語学, 日本文学, 韓国語学, 韓国文学, 応用 言語学, 比較文学, 文化交流論及び関連分野 | 2 (2) | 0 |
| | 慶北大 学 校 | 02.05.22～07.05.22 | 研究者 学 生 | 日本語学, 日本文学, 韓国語学, 韓国文学, 応用 言語学, 比較文学, 文化交流論及び関連分野 | 0 | 0 |
| | 韓国外国語大 学 校 | 02.10.22～12.10.21 | 研究者 学 生 | 人文科学, 社会科学, 地域研究, 日本語・日 本文化及び関連分野 | 3 (3) | 0 |
| | 漢陽大 学 校 | 04.01.26～09.01.25 | 研究者 学 生 | 都市計画及び関連分野 | 3 (3) | 1 |
| | 京畿道外国語教 育院 | 05.03.22～10.03.21 | 研究者 | 日本語教育分野 | 13 | 3 |
| | ソウル大 学 校 | 07.03.14～12.03.13 | 研究者 学 生 | 体育・健康・スポーツ科学及び関連分野 | 30 (20) | 0 |
| | 韓国地質資源研究院 | 07.06.12～12.06.11 | 研究者 学 生 | 地質・環境災害部門 | 2 | 0 |
| 啓明大 学 校 | 07.11.01～12.10.31 | 研究者 学 生 | 人文社会科学及び関連分野 (特に, 朝鮮半島 文化研究, 日韓交流史, 比較日本研究) | 0 | 0 | |
| 西江大 学 校 | 08.02.22～13.02.21 | 研究者 学 生 | 人文社会科学分野 | 0 | 0 | |
| フィリピン | フィリピン大 学 | 82.07.01～07.09.29 | 研究者 学 生 | 協議により決定 | 2 (2) | 0 |
| ベトナム | ベトナム国立図書館 | 04.02.02～09.02.01 | 研究者 | 図書館情報学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | ホーチミン市科学技術局 | 06.09.22～11.09.21 | 研究者 学 生 | 医学, 生命科学, バイオテクノロジー及び関 連分野 | 0 | 0 |
| | ベトナム国立大学ホ ーチミン校自然科学大 学 | 07.03.05～11.09.21 | 学 生 | 医学, 生命科学, バイオテクノロジー及び関 連分野 | 0 | 10 |
| | 熱帯生物学研究所 | 07.03.05～11.09.21 | 学 生 | 医学, 生命科学, バイオテクノロジー及び関 連分野 | 1 (1) | 10 |
| | ホーチミン市バイオテ クノロジーセンター | 07.03.05～11.09.21 | 学 生 | 医学, 生命科学, バイオテクノロジー及び関 連分野 | 0 | 10 |
| | ホーチミン医科薬科大 学 | 07.03.06～11.09.21 | 学 生 | 医学, 生命科学, バイオテクノロジー及び関 連分野 | 0 | 10 |
| タイ | カセサート大 学 | 89.02.16～09.02.24 | 研究者 学 生 | 協議により決定 | 28 (24) | 34 (27) |
| | キング・モンクット工科大 学 トンブリ校生物資源工学研究科 | 96.08.01～11.07.31 | 研究者 学 生 | 生物資源科学及び関連分野 | 5 (2) | 1 |
| | タマサート大 学 | 96.09.01～11.08.31 | 研究者 学 生 | 社会科学, 人文科学, 比較文化, 農学, 生命 産業科学及び関連分野 | 8 (8) | 7 (2) |
| | スラナリー工科大 学 | 97.09.01～07.08.31 | 研究者 学 生 | 食料, エネルギー, 天然資源及び関連分野 | 0 | 0 |
| | コーンケン大 学 | 01.08.03～07.08.02 | 研究者 学 生 | 医科学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | チュラロンコン大 学 | 01.08.09～11.08.08 | 研究者 学 生 | 地球進化科学及び関連分野 | 2 (2) | 0 |

| 国名等 | 協定締結機関名 | 協定期間 | 交流対象 | 交流分野 | 受入数 | 派遣数 |
|---------|------------------------------|-------------------|-----------|---|-------|---------|
| タイ | チェンマイ大学 | 03.01.01～12.12.31 | 研究者 学生 | 機械工学，電子工学及び関連分野 | 1 | 0 |
| | アジア工科大学院 | 03.09.01～08.08.31 | 研究者 学生 | 建設工学，情報工学，社会学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | キング・モンクット工科大学 トンブリ校工学部 | 07.10.01～12.09.30 | 研究者 学生 | 機械工学，材料工学，製造工学及び関連分野 | 0 | 0 |
| バングラデシュ | ラシャヒ大学 | 03.04.06～08.04.05 | 研究者 学生 | 地球科学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | バングラデシュ工科大学 土木工学部土木工学科 | 07.09.01～12.08.31 | 研究者 | 建設工学，基盤的工学分野及び関連分野 | 2 (1) | 0 |
| インドネシア | ボゴール農科大学 | 01.08.06～11.08.05 | 研究者 学生 | 農学，生物工学，環境科学及び関連分野 | 4 (4) | 0 |
| | インドネシア教育大学 | 06.06.13～11.06.12 | 研究者 学生 | 心身障害学，教育学，心理学，体育，芸術及び関連分野 | 4 | 0 |
| パキスタン | コーハット科学技術大学 | 06.06.28～11.06.27 | 研究者 学生 | 生命環境科学及び関連分野 | 2 (1) | 2 (1) |
| ホンジュラス | ホンジュラス国立教育大学 | 06.05.04～11.05.03 | 研究者 | 教育及び関連分野 | 0 | 0 |
| メキシコ | メキシコ大学院大学 | 79.04.09～12.10.03 | 研究者 学生 | 人文科学，社会科学 | 1 (1) | 1 (1) |
| ブラジル | ベルナンブーコ大学 | 81.07.12～期限なし | 研究者 | ラテンアメリカ研究 | 0 | 0 |
| チリ | チリ大学 | 04.08.05～09.08.04 | 研究者 学生 | 協議により決定 | 0 | 0 |
| ペルー | カトリカ大学 | 08.03.01～13.2.28 | 研究者 学生 | 協議により決定 | 0 | 0 |
| イスラエル | テクニオン－イスラエル工科大学 | 93.03.31～08.08.31 | 研究者 学生 | 協議により決定 | 0 | 0 |
| トルコ | ボアジチ大学 | 03.03.05～08.03.04 | 研究者 学生 | トルコ語・トルコ文化・日本語・日本文化 | 1 (1) | 4 (1) |
| カナダ | ブリテッシュ・コロンビア大 | 80.12.08～期限なし | 学生 | 協議により決定 | 0 | 0 |
| | トロント大学 | 04.02.29～09.02.28 | 研究者 学生 | 健康・スポーツ科学，体育学及び関連分野 | 1 (1) | 0 |
| | ウエスタンオンタリオ大学 | 08.01.07～13.01.06 | 研究者 学生 | 体育，健康，スポーツ科学及び関連分野 | 0 | 0 |
| アメリカ合衆国 | カリフォルニア大学 | 96.04.01～11.03.31 | 学生 | 協議により決定 | 9 (9) | 14 (14) |
| | イサカ大学 | 01.04.09～09.04.08 | 研究者 学生 | 協議により決定 | 3 (3) | 4 (1) |
| | バーデュー大学 | 01.04.26～11.04.25 | 研究者 学生 | 協議により決定 | 6 (6) | 1 (1) |
| | ニューヨーク州立大学 オスウェゴ校 | 80.04.01～08.08.31 | 研究者 学生 | 人文科学，社会科学及び関連分野 | 3 (3) | 0 |
| | ワシントン大学 (セントルイス) | 80.09.01～08.08.31 | 研究者 学生 | 人文・社会科学及び関連分野 | 0 | 2 (2) |
| | ニューヨーク州立大学 ストニーブルック校 | 85.09.01～期限なし | 研究者 | X線領域の放射線実験の応用 | 0 | 0 |
| | シカゴ大学神学校/ミッド ヴァイルロムバード神学校 | 89.09.01～09.11.29 | 研究者 学生 | 宗教学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | ハワイ大学マノア校 | 95.03.02～10.03.01 | 研究者 学生 | バイオシステム学，生物工学及び関連分野 | 0 | 1 (1) |
| | マサチューセッツ大学 アマースト校 | 96.08.30～11.08.29 | 学生 | 人文科学・社会科学（教育学，心理学，特殊教育，国際関係学及び関連領域を含む。） | 2 (2) | 2 (2) |
| | オハイオ州立大学 | 96.08.31～11.08.29 | 研究者 学生 | 社会科学，人文科学及び関連分野 | 4 (4) | 7 (4) |
| | ペンシルバニア大学 | 96.09.04～11.09.03 | 研究者 学生 | 教育学，心理学，国際関係学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | 南インドIANA大学 | 99.09.14～09.09.13 | 研究者 学生 | 人間学，看護学，リハビリテーション科学，ソーシャル・ワーク，医学及び関連分野 | 2 (2) | 1 (1) |
| | ミシガン大学 | 99.12.01～09.11.30 | 研究者 学生 | 協議により決定 | 0 | 1 (1) |
| | アラスカ大 フェアバンクス校 | 00.01.11～10.01.10 | 研究者 学生 | 地球科学及び関連分野 | 0 | 3 |
| | ピッツバーグ大学 | 04.03.16～09.03.15 | 研究者 学生 | 図書館情報学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | ワシントン大 (シアトル) | 07.03.30～12.02.29 | 研究者 学生 | 日本語，日本の文学，政治学，社会学，経済，法律その他関連分野 | 1 | 1 |

| 国名等 | 協定締結機関名 | 協定期間 | 交流対象 | 交流分野 | 受入数 | 派遣数 |
|---------|-----------------------------|-------------------|------------|--|-------|---------|
| アメリカ合衆国 | ネブラスカ大学 | 08.03.25～13.03.24 | 研究者 学 生 | 日本語, 日本の文学, 政治学, 社会学, 経済, 法律その他関連分野 | 0 | 0 |
| オーストラリア | モナシユ大学 | 95.08.31～10.08.31 | 研究者 学 生 | 協議により決定 | 1 (1) | 6 (3) |
| | オーストラリア国立大学 | 07.08.01～12.07.31 | 研究者 学 生 | 協議により決定 | 2 (2) | 2 (2) |
| | 南オーストラリア大学 | 00.03.01～10.03.17 | 研究者 学 生 | 都市計画のイノベーション, 都市開発技術及 び関連分野 | 0 | 0 |
| | 南オーストラリア・ フリンダース大学 | 00.03.01～10.03.15 | 研究者 学 生 | 都市計画のイノベーション, 都市開発技術及 び関連分野 | 0 | 0 |
| | アデレード大学 | 00.03.22～10.03.21 | 研究者 学 生 | 都市計画のイノベーション, 都市開発技術及 び関連分野 | 0 | 0 |
| | クイーンズランド大学 | 03.08.20～08.08.19 | 研究者 学 生 | 体育・健康・スポーツ科学関連分野 | 1 (1) | 6 (3) |
| | シドニー大学 | 06.03.01～11.02.28 | 研究者 学 生 | 芸術学(美術史・美術理論) | 2 (1) | 1 |
| フ ラ ン ス | ベルフォル・モンベリアル 工 業 大 学 | 99.08.19～09.09.05 | 研究者 学 生 | 電子・情報工学及び関連分野 | 1 (1) | 0 |
| | ヨセフ・フーリエ大学 (グルノーブル第I大学) | 02.03.07～12.03.06 | 研究者 学 生 | 科学, 工学, 人間科学及び関連分野 | 3 (3) | 2 (2) |
| | フランス国立農業研究所 | 07.04.01～12.03.31 | 研究者 学 生 | 生命科学, 食料科学, 環境科学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | 国立技術工芸大学 | 08.01.17～13.01.16 | 研究者 学 生 | 複合材料工学, 不均質材料工学, 材料信頼性工学, マ クロキャス, 全視野計測を併用する実験力学及び関連分野 | 2 (2) | 0 |
| ド イ ツ | チュービンゲン大学 | 89.03.01～09.02.28 | 研究者 学 生 | 協議により決定 | 0 | 0 |
| | バイロイト大学 | 94.07.20～09.08.04 | 研究者 学 生 | 協議により決定 | 2 | 19 (17) |
| | ベルリン自由大学 | 08.03.04～13.03.03 | 研究者 学 生 | 協議により決定 | 0 | 0 |
| | メディア大学 | 02.07.01～07.06.30 | 研究者 学 生 | 図書館情報学及び関連分野 | 0 | 0 |
| | エルフルト大学 | 03.11.20～08.11.19 | 研究者 学 生 | 公共政策及び関連分野 | 0 | 0 |
| | ライプツヒ大学 | 05.06.08～10.06.07 | 研究者 学 生 | 健康・スポーツ科学及び関連分野 | 0 | 1 (1) |
| | ルール大学ボッフム校 | 07.03.26～12.03.24 | 研究者 学 生 | 都市計画, 地域計画及び関連分野 | 0 | 11 (11) |
| | マーティン・ルター・ハ レ・ヴィッテンベルク大学 | 07.03.30～12.03.29 | 研究者 | 人文科学, 社会科学及び関連分野 | 1 | 0 |
| | ブランデンブルク工科大学 | 07.06.26～12.06.25 | 研究者 | 世界遺産学, 世界文化遺産学, 建築保存と建 築歴史及び関連分野 | 0 | 1 (1) |
| | ルートヴィヒ・マ クシミリアン大学 | 07.10.01～12.09.30 | 研究者 | ビジネス科学(法学, 経済学, 経営学) | 0 | 0 |
| オ ラ ン ダ | ユトレヒト大学 | 96.02.01～11.09.03 | 研究者 学 生 | 法学 | 3 (3) | 1 (1) |
| | デルフト工科大学 | 97.04.01～12.03.31 | 研究者 学 生 | 感性認知脳科学, 芸術学, デザイン学及び関 連分野 | 3 (3) | 0 |
| イ ギ リ ス | シェフィールド大学 | 99.10.01～12.08.31 | 研究者 学 生 | 情報学及び関連分野 | 0 | 5 |
| | マンチェスター大学 | 99.08.24～09.08.23 | 研究者 学 生 | 生物学及び関連分野 | 1 (1) | 6 (3) |
| イ タ リ ア | サレルノ大学 | 03.05.15～08.05.14 | 研究者 学 生 | 物理学及び関連分野 | 0 | 1 |
| | カタニア大学 | 05.04.06～10.04.05 | 研究者 学 生 | 日本語・日本文化研究及びイタリア語・イタ リア文化研究 | 2 (2) | 0 |
| デンマーク | デンマーク王立 図書館情報大 | 99.10.15～09.10.14 | 研究者 学 生 | 図書館情報学及び関連分野 | 1 (1) | 0 |
| スウェーデン | スウェーデン王立 美術大 | 07.03.12～12.03.11 | 研究者 学 生 | 芸術及び関連分野 | 2 (2) | 1 (1) |
| | ヨンショピング大学 | 07.03.26～12.03.25 | 研究者 学 生 | 人間科学, 看護医療科学分野及び関連分野 | 2 | 1 |
| オーストリア | ウィーン経済・経営大学 | 97.04.29～12.04.28 | 研究者 学 生 | 社会工学, 計量ファイナンス・マネジメント 及び関連分野 | 0 | 0 |
| チ ェ コ | カレル大学 | 02.09.09～12.09.08 | 研究者 学 生 | 協議により決定 | 2 (2) | 4 (4) |
| ポーランド | ピアリストーク大学 | 02.08.20～07.08.19 | 研究者 学 生 | 社会科学及び関連分野 | 0 | 0 |

| 国名等 | 協定締結機関名 | 協定期間 | 交流対象 | 交流分野 | 受入数 | 派遣数 |
|------------------|----------------------------------|-------------------|-----------|--------------------------------------|----------|-----------|
| ポーランド | ヤギェウオ大学 (ヤゲロニアン大学) | 02.09.02～12.09.01 | 研究者 学生 | 人文科学、社会科学及び関連分野 | 2 (2) | 0 |
| | ワルシャワ大学 | 03.01.10～08.01.09 | 研究者 学生 | 人文科学、社会科学及び関連分野 | 0 | 1 (1) |
| スロベニア | リュブリャーナ大学 文 学 部 | 97.11.04～07.11.03 | 研究者 学生 | スロベニア語・スロベニア文化研究、日本 語・日本文化研究 | 5 (3) | 4 (4) |
| | リュブリャーナ大学 学 物 理 学 部 物 理 学 教 室 | 04.02.15～09.02.14 | 研究者 学生 | 高エネルギー及び関連分野 | 0 | 0 |
| ボスニア・ ヘルツェゴビナ | バニャルカ大学 | 07.03.12～12.03.11 | 研究者 | 教育分野及び関連分野 | 0 | 0 |
| エストニア | タリン大学 | 06.01.21～11.01.20 | 研究者 学生 | 人文科学及び社会科学 | 1 (1) | 2 (2) |
| リトアニア | ヴィリニウス大学 | 06.12.19～11.12.18 | 研究者 学生 | 人文社会科学、情報学及び関連分野 | 1 (1) | 0 |
| ラトビア | ラトビア大学 | 06.01.24～11.01.23 | 研究者 学生 | 人文科学及び社会科学 | 1 (1) | 0 |
| スペイン | サラマンカ大学 | 08.02.05～13.02.04 | 研究者 学生 | 全領域 | 0 | 0 |
| ベルギー | ルーバン・カトリック大学 | 08.03.31～13.03.30 | 研究者 学生 | 全領域 | 0 | 0 |
| チュニジア | カルタゴ11月7日大学 | 01.03.19～11.03.18 | 研究者 学生 | バイオテクノロジー、環境科学、情報通信工 学及び関連分野 | 0 | 10 (5) |
| | スファックス・バイオテ クノロジー・センター | 06.10.30～11.10.29 | 研究者 | バイオテクノロジー、環境科学及び関連分野 | 4 (3) | 3 |
| | スファックス大学 | 06.10.26～11.10.25 | 研究者 学生 | バイオテクノロジー、環境科学、医学及び関 連分野 | 2 | 5 |
| | スー ス 大 学 | 06.12.06～11.12.05 | 研究者 学生 | 人文科学、社会科学及び北アフリカ関連分野 | 1 | 33 (2) |
| エジプト | アイン・シャムス大学 | 03.02.09～08.02.08 | 研究者 学生 | 人文科学、社会科学及び関連分野 | 1 (1) | 0 |
| モロッコ | モハメド5世大学アグダル | 07.02.16～12.02.15 | 研究者 学生 | バイオテクノロジー、人文科学、環境科学、 情報通信科学及び関連分野 | 0 | 0 |
| ナイジェリア | ナイジェリア大学 | 07.10.17～12.10.16 | 研究者 学生 | 人文科学、社会科学及び関連分野 | 2 | 0 |
| ロシヤ | ブドカー原子物理学 研 究 所 | 98.02.16～08.02.15 | 研究者 | 核融合研究 | 0 | 0 |
| | ロシア科学アカデミー・ クルチャトフ研究所 | 98.08.03～08.08.02 | 研究者 | プラズマ物理学(特に制御核融合) 及び関連 分野 | 1 | 0 |
| | サンクト=ペテルブルグ 大 学 | 02.02.18～12.02.17 | 研究者 学生 | 人文科学、社会科学、ロシア語研修 | 2 (2) | 9 (8) |
| | 原子核共同研究機構・ 高エネルギー研究所 | 02.08.23～07.08.22 | 研究者 | 高エネルギー原子核衝突実験及び実験技術開 発分野 | 0 | 0 |
| ウクライナ | キエフ国立大学 | 06.09.11～11.09.10 | 研究者 学生 | 人文科学及び社会科学 | 3 (3) | 0 |
| ウズベキスタン | タシケント国立東洋学 大 学 | 05.05.27～10.05.26 | 研究者 学生 | 人文科学及び社会科学 | 9 (8) | 13 (9) |
| | 世界経済外交大学 | 06.09.29～11.09.28 | 研究者 学生 | 人文社会科学 | 2 (1) | 4 |
| | サマルカンド国立外国 語 学 大 学 | 06.09.30～11.09.29 | 研究者 学生 | 人文社会科学及び人間総合科学 | 4 (4) | 9 (3) |
| カザフスタン | ユーラシア国立大学 | 06.08.16～11.08.15 | 研究者 学生 | 人文科学、社会科学、生命環境科学 | 9 (8) | 0 |
| | カザフ国立大学 | 07.10.25～12.10.24 | 研究者 学生 | 人文社会科学 | 1 (1) | 0 |
| | カザフ経済大学 | 07.10.11～12.10.10 | 研究者 学生 | 人文社会科学 | 0 | 0 |
| キルギス | キルギス国立大学 | 05.05.27～10.05.26 | 研究者 学生 | 人文科学及び社会科学 | 4 (4) | 0 |
| タジキスタン | タジキスタン共和 国 科 学 ア カ デ ミ | 07.11.02～12.11.01 | 研究者 | 人文社会科学分野など | 0 | 0 |
| 合 計 | | 計46か国、165協定 | | | 366(215) | 384 (176) |

(注) 受入数・派遣数には、表敬・協議等のための訪問者を含む。() は学生数を内数で示す。

(4) 国際会議等の開催

| 会議名 | 開催期間 | 会場 | 主催等 | テーマ | 参加者数 (外国人研究者数) |
|---|---------------------|---|---|--|-------------------|
| 国際・世界法学会春季研究大会 | 5月12日 ～ 5月13日 | 筑波大学 | 国際・世界法学会 | 「20世紀前半アメリカ国際法学説－国際法学説の意味と役割－」(共通テーマ) | 5カ国259名 (8) |
| 機能性分子国際シンポジウム | 5月18日 | 筑波大学 | 筑波大学学際物質科学研究センター(TIMS) | 三大学連携融合アトミックテクノロジー創出事業の一環として、機能性分子分野における最新の研究についての発表・討論を行う。 | 4カ国44名 (5) |
| 中央アジアにおける市民社会の現状と課題 | 6月30日 | 筑波大学 | 筑波大学中央アジア国際連携センター | 中央アジア地域の市民社会の発展過程と課題 | 5カ国36名 (6) |
| Pairing-Based Cryptography | 7月2日 ～ 7月4日 | 一ツ橋記念講堂 | 筑波大学 | 双線形写像ペアリングを用いた暗号に関する国際会議 | 16カ国117名 (36) |
| 21世紀COE国際シンポジウム「こころを解明する感性科学の推進」 | 7月9日 | 筑波大学 | 筑波大学21世紀COEプログラム「こころを解明する感性科学の推進」拠点 | 脳、こころ、感性のはたらきを解明する | 9カ国87名 (16) |
| 筑波大学・アジア太平洋経済協力(APEC)国際会議「授業研究による算数・数学教育の革新(Ⅲ)」 | 8月16日 ～ 8月21日 | Hotel Kosa (タイ王国) | Khon Kean University, 筑波大学 (共催:タイ王国教育省) | 数学的な考え方の育成 2007年に東京で開催された同名の国際会議でなされた研究計画「数学的な考え方の育成」に対する成果報告 | 21カ国600名 (578) |
| 2007アジア基礎造形連合学会筑波大会 | 8月25日 ～ 8月27日 | 筑波大学 | 2007アジア基礎造形連合学会筑波大会実行委員会, 日本基礎造形学会 (共催:筑波大学) | 人・社会・基礎造形 | 4カ国162名 (98) |
| ナノ構造超伝導体におけるボルテックス物質に関するESFとJSPSによる合同会議 | 9月8日 ～ 9月14日 | Hotel Aldemar Paradise Royal Mare (ギリシャ) | ESF(ヨーロッパ科学財団)・JSPS(日本学術振興会)の共催 (筑波大学) | 超伝導に於けるナノサイエンス | 9カ国126名 (93) |
| 第4回アジア-太平洋化学生態学会議 | 9月10日 ～ 9月14日 | つくば国際会議場 | アジア-太平洋化学生態学者協議会 | 生物相互作用に介在する化学物質によるコミュニケーションに関する分子から生態系レベルまでの研究成果発表とそれら成果の未来への応用の提言 | 20カ国290名 (75) |
| AQDJJに関するESFとJSPSによる合同会議-ジョセフソン物理とナノサイエンスのフロンティア- | 9月23日 ～ 9月27日 | King's Residence Hotel (イタリア) | ESF(ヨーロッパ科学財団)・JSPS(日本学術振興会)の共催 (筑波大学) | ジョセフソン接合に関するナノサイエンス | 15カ国74名 (68) |

| 会議名 | 開催期間 | 会場 | 主催等 | テーマ | 参加者数 (外国人研究者数) |
|--|-----------------------|----------------------------------|---|--|-------------------|
| 第11回国際原子エネルギー機構 Hモードの物理と輸送障壁に関する技術会議 | 9月26日 ～ 9月28日 | つくば国際会議場 | 日本原子力開発研究機構 (筑波大学) | 磁場閉じ込め核融合研究における改善閉じ込めモード(H-mode)に関する物理とその際に生じるプラズマ輸送障壁についての実験及び理論的研究 | 10カ国105名 (37) |
| シンポジウム『比較文化学再考』 | 9月27日 | 筑波大学 | 筑波大学比較文化学類, 現代文化・公共政策専攻 | Interkulturelle Germanistikと日本の大学における比較文化学の新たな関係の構築と将来像 | 2カ国31名 (1) |
| ウズベキスタンにおける市民社会の展望 | 9月27日 ～ 9月30日 | ホテル ラビ・ハウズ (ウズベキスタン) | ウズベキスタン社民社会研究所 (共催: 筑波大学中央アジア国際連携センター) | ウズベキスタンの市民社会の発展過程と課題 | 7カ国35名 (30) |
| 第2回アトミックテクノロジー国際シンポジウム | 10月1日 ～ 10月2日 | 淡路夢舞台国際会議場 | 大阪大学原子分子イオン制御理工学センター(CAMT), 筑波大学学際物質科学研究センター(TIMES) | アトミックテクノロジーの主要領域である原子及びナノ構造の量子機能, 機能性分子, バイオマテリアルの3分野における最新の研究について | 7カ国88名 (10) |
| エル・カンタウイ・フォーラム: チュニジア-日本文化・科学・技術学術会議 (TJASSST2007) | 10月29日 ～ 11月2日 | Oriental Palace Hotel (チュニジア) | 筑波大学北アフリカ研究センター(ARENA), チュニジア共和国高等教育科学技術省 | バイオテクノロジー分野, エネルギー・水・環境分野, IT分野, 人文社会科学分野, マネージメント・イノベーション・R&D・新能力分野における日本, チュニジアの知的パートナーシップ | 5カ国385名 (305) |
| 湿潤熱帯地域における持続可能な水利用のための統合的流域管理に関する国際ワークショップ | 10月31日 | 筑波大学 | 筑波大学陸域環境研究センター | 水資源 | 4カ国28名 (13) |
| 2007筑波アジア農業教育セミナー (2007TASAE) | 11月5日 ～ 11月13日 | 筑波大学 | 筑波大学農林技術センター, 日本ユネスコ国内委員会 | アジア・太平洋地域における参加型アプローチを通じた持続的地域水資源管理と環境保全 | 9カ国378名 (164) |
| 筑波大学・アジア太平洋経済協力(APEC)国際会議「授業研究による算数・数学教育の革新(Ⅲ)」公開シンポジウム東京セッション | 12月9日 ～ 12月10日 | JICA国際協力総合研修所 | 筑波大学 (共催: 文部科学省, 金沢大学, Khon Kean University) | 伝えあい深めあう活動を通して子どもの考えを育てる。筑波大学の前身以来の教育研究の伝統である「授業研究」を通じたAPEC域内の教師教育への貢献 | 26カ国334名 (64) |
| 第2回IEEE アジアパシフィックサービスコンピューティング国際会議 | 12月11日 ～ 12月14日 | 文部科学省研究交流センター | IEEE Compute Society (筑波大学) | Service Computing | 12カ国89名 (54) |

| 会議名 | 開催期間 | 会場 | 主催等 | テーマ | 参加者数 (外国人研究者数) |
|--|-----------------------|--|---|---|-------------------|
| 筑波大学・アジア太平洋経済協力(APEC)国際会議 専門家会合 金沢セッション | 12月12日 ～ 12月14日 | 金沢大学教育学部, 金沢大学教育学部附属小学校, 金沢大学教育学部附属中学校 | 筑波大学 (共催: 文部科学省, 金沢大学, Khon Kean University) | 伝えあい深めあう活動を通して子どもの考えを育てる。 APECプロジェクトにおける授業研究レベルでのコミュニケーション能力伸長のための具体策 | 21カ国65名 (53) |
| 中央アジアの歴史, 政治と社会 | 12月14日 ～ 12月16日 | 筑波大学 | 筑波大学中央アジア国際連携センター | 中央アジア地域における歴史の再検討, 政治の分析と社会状況の反映 | 10カ国57名 (25) |
| AIIESEP 2008 国際会議 | 1月21日 ～ 1月24日 | シャトレゼ・ガトーキングダム・サッポロ | 筑波大学, クイーンズランド大学 (オーストラリア連邦国) | スポーツ教育学における研究, 政策, 実践: 体育とスポーツコーチングの国際的展望 | 29カ国324名 (250) |
| 筑波大学-SEAMEO教育協力国際会議 | 2月13日 ～ 2月16日 | 筑波大学 | 筑波大学教育開発国際協力研究センター | 東南アジア地域の教育関係者の質の向上と新たな教育協力研究の展開 | 5カ国22名 (8) |
| 脂質・エネルギー代謝研究の新展開 | 2月18日 | つくば国際会議場 | 筑波大学プレ戦略イニシアティブ「脂質・エネルギー代謝研究イニシアティブ」 | 脂質・エネルギー代謝に関する最新の研究紹介と臨床医学へ展開 | 4カ国90名 (5) |
| 人文科学と社会科学の融合研究と国際ネットワーク | 2月18日 ～ 2月19日 | 筑波大学 | 筑波大学人文社会科学研究所インターファカルティ教育研究イニシアティブ | 東アジアから北アフリカ・ヨーロッパの各地域において, 文化と社会の両目を配慮した専門研究がどのように行われるかを知り, 急速にグローバル化しつつある国際情勢に柔軟に対応するための新たな人文社会科学研究を模索 | 8カ国17名 (13) |
| 第3回筑波大学セカンドキャリアプロジェクト成果発表会 | 3月1日 | 東京国際フォーラム | 筑波大学体育研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻トップアスリート・セカンドキャリアプロジェクト | アスリートのセカンドキャリア | 4カ国138名 (6) |
| 流域圏科学における水物質循環研究の最先端 | 3月6日 | 筑波大学 | 筑波大学プレ戦略イニシアティブ「流域圏における水・物質循環科学教育研究拠点」 | 水循環, 水利用, 気候変動からアプローチするCO2産出量算定に関する研究 | 4カ国43名 (3) |
| 第1回学際物質科学国際シンポジウム | 3月13日 ～ 3月14日 | つくば国際会議場 | 筑波大学プレ戦略イニシアティブ学際物質科学研究拠点 | 先端光科学, ハイブリッド分子, ナノサイエンス及びバイオマテリアルの各分野における最新の研究について | 7カ国186名 (11) |

| 会議名 | 開催期間 | 会場 | 主催等 | テーマ | 参加者数 (外国人研究者数) |
|--|----------------|-----------------------------|---|--|-------------------|
| 北アフリカ研究センター (ARENA)・北アフリカ・地中海連携センター (CANMRE) 特別セミナー「北アフリカ地域と日本の知的パートナーシップ」 | 3月16日 | 筑波大学 | 筑波大学北アフリカ研究センター (ARENA), 北アフリカ・地中海連携センター (CANMRE) | チュニジアとの学術交流の成果と今後の課題 | 5カ国57名 (27) |
| 筑波大学・タシケント国立東洋学大学主催国際学術会議 | 3月17日 | 筑波大学中央アジア国際連携センター (ウズベキスタン) | 筑波大学中央アジア国際連携センター, タシケント国立東洋学大学 | 文明のクロスロード5 - 言葉・文化・社会の様相 | 2カ国28名 (18) |
| 日本・中央アジア学生知的交流会議 | 3月18日 | ウズベキスタン日本人材開発センター | 筑波大学中央アジア国際連携センター, 人文社会科学研究所, タシケント国立東洋学大学, ウズベキスタン JICA 日本センター | 「文化的アイデンティティ」「共生社会の実現」「科学技術とヒューマニティ」「開発経済と社会発展」について | 2カ国76名 (70) |
| 国際プロテIST生物学シンポジウム：細胞機能・進化・環境 | 3月25日 3月26日 | 筑波大学 | 筑波大学プレ戦略イニシアティブ「地球-生命-人類の持続的共存のための新プロテISTロジー創出へ向けた教育研究拠点形成」 | プロテISTロジー (原生生物学) の特に細胞機能, 進化, 環境分野の最先端の研究発表と学際的, 国際的ネットワークの構築 | 9カ国105名 (15) |
| 第1回アクアティックスポーツ国際会議 | 3月25日 3月28日 | つくば国際会議場 | ASA組織委員会 (筑波大学) | 水中スポーツに関する研究の国際的発信 | 13カ国312名 (28) |

(5) 国別交流者数

| 国名・地域名 | 研究者等の受入 | 教職員の派遣 | 外国人留学生 | 学生の派遣 | 計 |
|----------|---------|----------|--------|-------|----------|
| インド | 11 | 25 (3) | 14 | | 50 (3) |
| インドネシア | 15 | 19 (1) | 18 | 2 | 54 (1) |
| 韓国 | 136 | 123 | 268 | 3 | 530 |
| カンボジア | | 8 (2) | 8 | 1 | 17 (2) |
| シンガポール | 14 | 32 (2) | 3 | | 49 (2) |
| スリランカ | 2 | 1 | 12 | | 15 |
| タイ | 30 | 70 (15) | 38 | | 138 (15) |
| 台湾 | 39 | 68 (2) | 66 | 4 | 177 (2) |
| 中国 | 176 | 217 (4) | 511 | 10 | 914 (4) |
| ネパール | | 1 | 6 | | 7 |
| パキスタン | 12 | 1 | 11 | | 24 |
| バングラデシュ | 6 | 9 | 22 | | 37 |
| 東ティモール | | 1 | | | 1 |
| フィリピン | 10 | 12 | 18 | 1 | 41 |
| ブルネイ | 5 | | 2 | | 7 |
| ベトナム | 7 | 17 (3) | 18 | | 42 (3) |
| 香港 | | 7 (1) | | | 7 (1) |
| マレーシア | 8 | 24 (5) | 21 | | 53 (5) |
| ミャンマー | | 4 (2) | 12 | | 16 (2) |
| モンゴル | 1 | 7 (2) | 22 | | 30 (2) |
| ラオス | | 1 (2) | 4 | | 5 (2) |
| アフガニスタン | 1 | 6 | | | 7 |
| イスラエル | 3 (1) | 3 | 5 | 1 | 12 (1) |
| イラク | | | 2 | | 2 |
| イラン | 9 | 3 | 10 | | 22 |
| オマーン | | 1 | 2 | | 3 |
| カタール | | 1 | | | 1 |
| クウェート | | 1 | 1 | | 2 |
| シリア | | 2 (1) | 2 | | 4 (1) |
| トルコ | 8 | 17 (1) | 4 | | 29 (1) |
| ヨルダン | | | 1 | | 1 |
| アゼルバイジャン | | | 2 | | 2 |
| アルメニア | | | 1 | | 1 |
| ウクライナ | 2 | 1 | 5 | 1 | 9 |
| ウズベキスタン | 9 | 13 | 17 | | 39 |
| カザフスタン | 5 | 2 (1) | 15 | 1 | 23 (1) |
| キルギス | | 2 (3) | 10 | | 12 (3) |
| タジキスタン | 1 | | 1 | | 2 |
| ベラルーシ | | (1) | 1 | | 1 (1) |
| モルドバ | | | 1 | | 1 |
| ロシア | 13 | 14 (2) | 8 | 5 | 40 (2) |
| アルジェリア | | | 3 | | 3 |
| ウガンダ | | 1 | 1 | | 2 |
| エジプト | 3 | 4 | 9 | 1 | 17 |
| エチオピア | | | 1 | | 1 |
| ガーナ | | (1) | 4 | | 4 (1) |
| ガボン | | | 1 | | 1 |
| カメルーン | 1 | | | | 1 |
| ケニア | 2 | 2 | 7 | | 11 |
| コートジボアール | | | 1 | | 1 |
| ザンビア | | | 3 | | 3 |
| ジンバブエ | 1 | | | | 1 |
| スーダン | | | 1 | | 1 |
| セネガル | | | 4 | | 4 |
| タンザニア | | | 2 | | 2 |
| チュニジア | 21 | 41 (2) | 20 | | 82 (2) |
| ナイジェリア | 3 | | 3 | | 6 |
| ナミビア | | 1 | | | 1 |
| マダガスカル | | | 2 | | 2 |
| マラウイ | | | 3 | | 3 |
| 南アフリカ | 1 | 2 | 2 | | 5 |
| モーリタニア | 1 | | 1 | | 2 |
| モロッコ | | 4 (1) | | | 4 (1) |
| リビア | 2 | 1 | | | 3 |

| 国名・地域名 | 研究者等の受入 | 教職員の派遣 | 外国人留学生 | 学生の派遣 | 計 |
|--------------|------------|-------------|--------|-------|-------------|
| アメリカ | 100 | 433 (5) | 19 | 39 | 591 (5) |
| カナダ | 21 | 52 (4) | | 6 | 79 (4) |
| アルゼンチン | 1 | 3 | 1 | | 5 |
| エクアドル | 2 | | 2 | | 4 |
| エルサルバドル | 5 | (1) | | | 5 (1) |
| キューバ | 1 | | 1 | | 2 |
| グアテマラ | 3 | | 1 | | 4 |
| コスタリカ | 1 | | 1 | | 2 |
| コロンビア | | 2 (1) | 5 | | 7 (1) |
| ジャマイカ | | | 2 | | 2 |
| チリ | 20 | 7 | 2 | | 29 |
| ドミニカ | 4 | 1 | | | 5 |
| ニカラグア | 4 | | 2 | | 6 |
| パナマ | | | 1 | | 1 |
| パラグアイ | | 1 (1) | | | 1 (1) |
| ブラジル | 8 | 13 (1) | 16 | 1 | 38 (1) |
| ベネズエラ | | | 1 | | 1 |
| ペルー | 6 | 3 (1) | 3 | | 12 (1) |
| ボリビア | 4 | 2 | | | 6 |
| ホンジュラス | 5 | 5 (3) | 1 | | 11 (3) |
| メキシコ | 5 | 6 | 7 | 2 | 20 |
| アイスランド | 1 | 1 | 1 | | 3 |
| アイルランド | 8 | 2 (3) | | | 10 (3) |
| イギリス | 36 | 63 (9) | 1 | 14 | 114 (9) |
| イタリア | 13 | 49 (13) | 2 | | 64 (13) |
| エストニア | | | 3 | 3 | 6 |
| オーストリア | 3 | (9) | | 2 | 5 (9) |
| オランダ | 13 | 20 (6) | 2 | 3 | 38 (6) |
| キプロス | | 2 | | | 2 |
| ギリシャ | | 19 (5) | 1 | | 20 (5) |
| クロアチア | 1 | 2 | 1 | | 4 |
| スイス | 7 | 21 (13) | | | 28 (13) |
| スウェーデン | 7 | 17 (4) | 2 | 1 | 27 (4) |
| スペイン | 10 | 17 (2) | | 1 | 28 (2) |
| スロバキア | | 1 (2) | 1 | | 2 (2) |
| スロベニア | 2 | 3 (1) | 6 | | 11 (1) |
| セルビア | 1 | | | | 1 |
| チエコ | 1 | 7 (1) | 1 | 5 | 14 (1) |
| デンマーク | 2 | 4 (4) | 1 | 2 | 9 (4) |
| ドイツ | 38 | 82 (16) | 1 | 8 | 129 (16) |
| ノルウェー | 3 | 3 (4) | | | 6 (4) |
| ハンガリー | 3 | 16 (5) | 5 | | 24 (5) |
| フィンランド | 22 | 14 (2) | | 1 | 37 (2) |
| フランス | 41 | 62 (15) | 8 | 6 | 117 (15) |
| ブルガリア | 1 | 5 | | | 6 |
| ベルギー | 6 | 11 (1) | | | 17 (1) |
| ポーランド | 9 | 11 (2) | 2 | 2 | 24 (2) |
| ボスニア・ヘルツェゴビナ | | 2 | | | 2 |
| ポルトガル | 2 | 8 (1) | | | 10 (1) |
| モンテネグロ | 1 | 1 | | | 2 |
| ラトビア | | | 1 | | 1 |
| リトアニア | | 1 | 3 | | 4 |
| ルクセンブルク | | 2 | | | 2 |
| ルーマニア | 8 | 2 (2) | 9 | | 19 (2) |
| オーストラリア | 44 | 71 (1) | 7 | 18 | 140 (1) |
| キリバス | | 1 | | | 1 |
| ソロモン諸島 | | 1 | | | 1 |
| ニュージーランド | 8 | 14 (2) | 1 | 4 | 27 (2) |
| パプアニューギニア | | | 1 | | 1 |
| フィジー | | | 2 | | 2 |
| 合計 | 1,039 (1) | 1,832 (197) | 1,357 | 148 | 4,376 (198) |

(注) 1. 受入の()は二重国籍を持った者を、派遣の()は2ヶ国以上に渡った者を再掲したものである。
 2. 外国人留学生については、平成20年3月1日現在の現員を示す。

7 大学公開関係

(1) 公開講座実施状況

ア 一般公開講座

| 公開講座名 | 講座数 | 対象者 | 募集 人数 | 応募 者数 | 受講 者数 | 修了 者数 | 備 考 |
|--------|-----|--------|----------|----------|----------|----------|---|
| スポーツ教室 | 9 | 種目毎に指定 | 282 | 459 | 338 | 321 | 弓道（春季，秋季），剣道（春季，秋季），ゴルフ（初級），ゴルフ（中級），ゴルフ（上級），カヌー体験学習，スクーバダイビング |
| 芸術教室 | 3 | 一 般 | 70 | 148 | 89 | 82 | 日本画，油絵（初級・中級），古代文字の書法 |
| 教養講座 | 11 | 種目毎に指定 | 302 | 342 | 328 | 248 | 「ムシ」の世界，医療と現代社会，海洋生物学入門，高原の自然観察，生涯発達を支援するリハビリテーション，ベンチャー・ビジネスの実現・促進における法的諸問題，乳業工学実習，ベトナムの医学教育と筑波大学医学系大学院，夏の短期集中疫学コース，子どものメディア教育環境の整備と実践，東洋医学でリフレッシュ |
| 計 | 23 | | 654 | 949 | 755 | 651 | |

イ 現職教育講座

| 公開講座名 | 講座数 | 対象者 | 募集 人数 | 応募 者数 | 受講 者数 | 修了 者数 |
|-----------------------------------|-----|----------------------|----------|----------|----------|----------|
| スクールリーダー研修講座 | 1 | 現職の教頭・教務主任等 | 50 | 22 | 21 | 20 |
| 発達障害児の特別支援教育（基礎編） | 1 | 教員，施設職員等 | 100 | 143 | 139 | 113 |
| 発達障害児の特別支援教育（展開編） | 1 | 教員，施設職員等 | 30 | 36 | 35 | 32 |
| 視覚障害教育における自立活動の理論と実際 | 1 | 教育委員会特別支援教育担当者等 | 30 | 39 | 38 | 38 |
| 看護研究の最前線 | 1 | 看護師・保健師等 | 50 | 50 | 50 | 35 |
| 英語教員のための英語の魅力再発見 | 1 | 中・高等学校英語教員等 | 20 | 64 | 61 | 60 |
| 科学的水泳指導講座 | 1 | 小・中学校教員等 | 20 | 34 | 34 | 32 |
| 知的障害児の体育指導 | 1 | 教員，福祉施設関係者 | 40 | 80 | 45 | 44 |
| 教員のための遺伝子組み換え実験教育研修会 | 1 | 中・高等学校教員等 | 20 | 27 | 26 | 24 |
| バイオテクノロジー基礎技術研修会 | 1 | バイオテクノロジーに従事し始めた研究者等 | 10 | 15 | 12 | 12 |
| 理科・農業科教員のための遺伝子組換え実験教育研修会アドバンスコース | 1 | 中・高等学校の理科・農業科教員等 | 20 | 39 | 38 | 38 |
| 道徳教育研修講座 | 1 | 現職教員及び道徳教育に関心のある者 | 50 | 41 | 34 | 28 |
| 数学科の授業改善 | 1 | 中・高等学校教員等 | 70 | 22 | 21 | 19 |
| 「これからの図書館像」を実現するには | 1 | 図書館関係者 | 20 | 24 | 23 | 23 |
| 弱視教育研修講座 | 1 | 弱視教育担当教員等 | 40 | 41 | 41 | 41 |
| 学校教育相談 | 1 | 学校教員及び一般市民 | 80 | 111 | 86 | 85 |
| 聴覚障害・発音指導研修講座 | 1 | 特別支援学校（聴覚障害）教員等 | 30 | 19 | 19 | 19 |
| 障害児に対する動作法実習 | 1 | 特別支援学校教員等 | 50 | 47 | 47 | 44 |
| 発達障害児の行動問題から読み解く特別支援教育 | 1 | 小・中学校教員及び特別支援学校教員等 | 120 | 159 | 152 | 152 |
| 特別支援教育におけるニーズに基づいた授業づくりプロセス | 1 | 特別支援学校教員等 | 25 | 15 | 15 | 15 |
| 軽度発達障害のある子どもの学習支援 | 1 | 小・中学校教員及び特別支援学校教員等 | 40 | 64 | 58 | 51 |
| 静的弛緩誘導法による障害の重い子の成長・発達の援助 | 1 | 特別支援学校教員等 | 50 | 58 | 50 | 48 |
| 盲・弱視児童生徒理科実験指導研修講座 | 1 | 特別支援学校（視覚障害）教員等 | 15 | 18 | 18 | 17 |
| 特別支援学校（視覚）理療科教員免許法認定講習 | 1 | 特別支援学校（視覚障害）教員 | 60 | 44 | 43 | 40 |
| 免許法認定公開講座「特別支援教育の基礎理論」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 130 | 159 | 144 | 142 |
| 免許法認定公開講座「重複障害・軽度発達障害の教育」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 130 | 292 | 152 | 149 |
| 免許法認定公開講座「聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱の教育」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 60 | 66 | 62 | 59 |
| 免許法認定公開講座「視覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱の教育」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 60 | 71 | 68 | 66 |
| 免許法認定公開講座「視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱の教育」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 130 | 125 | 118 | 114 |
| 免許法認定公開講座「視覚障害・聴覚障害・知的障害・病弱の教育」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 35 | 21 | 20 | 17 |
| 免許法認定公開講座「視覚障害の理解」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 60 | 71 | 64 | 62 |
| 免許法認定公開講座「聴覚障害の理解」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 60 | 69 | 66 | 63 |
| 免許法認定公開講座「知的障害の理解」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 130 | 93 | 81 | 77 |
| 免許法認定公開講座「肢体不自由の理解」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 35 | 17 | 16 | 13 |
| 免許法認定公開講座「視覚障害の指導法」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 60 | 57 | 53 | 51 |
| 免許法認定公開講座「聴覚障害の指導法」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 60 | 52 | 43 | 43 |
| 免許法認定公開講座「知的障害の指導法」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 130 | 88 | 75 | 72 |
| 免許法認定公開講座「肢体不自由の指導法」 | 1 | 特別支援学校教員及び小・中・高・幼教員等 | 35 | 21 | 20 | 19 |
| 計 | 38 | | 2,155 | 2,414 | 2,088 | 1,977 |

(2) 大学会館利用者数

| | 回数 | 利用者数 | | | | 主な利用内容 |
|---------------|-------|--------|--------|--------|---------|---|
| | | 学生 | 教職員 | 学外者 | 計 | |
| ホー ル | 140 | 12,832 | 1,439 | 5,782 | 20,053 | 式典等 (7回), 音楽会等 (32回) 古典芸能 (1回), 学会 (4回) シンポジウム等 (11回), 公開講演会 (4回) 授業等 (19回), その他 (62回) |
| 講 堂 | 96 | 26,371 | 1,924 | 10,966 | 39,261 | 式典等 (6回), 音楽会等 (5回) 映画会 (1回), 学会 (2回) シンポジウム等 (2回), 授業等 (25回) その他 (55回) |
| 国際会議室 | 131 | 4,244 | 2,752 | 2,625 | 9,621 | 国際会議等 |
| 特別会議室 | 147 | 3,630 | 2,808 | 2,612 | 9,050 | 学会等諸会議 |
| 第1～6会議室 | 824 | 18,335 | 6,356 | 5,179 | 29,870 | 学会等諸会議, 学生健康診断 |
| レクリエーション室 | 157 | 597 | 389 | 277 | 1,263 | 職員の華道, 茶道の講習会等 |
| 別館ホール | 10 | 2,320 | 147 | 289 | 2,756 | 学生, 教職員の作品展示会等 |
| 小 計 | 1,505 | 68,329 | 15,815 | 27,730 | 111,874 | |
| 多目的ホール | 32 | 2,809 | 661 | 2,119 | 5,589 | 学生, 教職員の作品展示会等 |
| ラウンジ | 15 | 1,148 | 719 | 1,734 | 3,601 | 学生, 教職員の作品展示会等 |
| ギャラリー | 6 | 821 | 77 | 323 | 1,221 | 学生, 教職員の作品展示会等 |
| マルチメディアルーム | 74 | 1,335 | 397 | 772 | 2,504 | 見学者対応等 |
| 同窓交流室 | 20 | 75 | 84 | 97 | 256 | 元教職員等の交流 |
| 交流スペース | 30 | 113 | 86 | 358 | 557 | 諸会議等 |
| 小 計 | 177 | 6,301 | 2,024 | 5,403 | 13,728 | |
| 筑波大学ギャラリー | 217 | 2,336 | 887 | 9,610 | 12,833 | 見学等 (H19.7.23開館, H19.7.24から一般公開) |
| 宿泊室(32室, 46名) | 289 | 0 | 523 | 4,657 | 5,180 | 講師等の宿泊 |
| 合 計 | 2,188 | 76,966 | 19,249 | 47,400 | 143,615 | |

(3) 視察・来訪者

| 年・月 | 外国人視察・来訪者 | | 国内の一般視察・来訪者 | |
|----------|-------------|--|---------------|---|
| | 人数 (件数) | 主な視察・来訪者 | 人数 (件数) | 主な視察・来訪者 |
| 平成 19.4 | 52 (4) | 浙江大学計算機学院（兼ソフトウェア学院）一行（中国） チュラロンコン大学一行（タイ王国） | 1,216 (8) | 福島県立磐城高等学校 茨城県立古河第三高等学校 福島県立いわき光洋高等学校 茨城工業高等専門学校 |
| 平成 19.5 | 17 (2) | 香港中文大学日本語学科長一行（中国） オクラホマ州立大学学生一行（米国） | 602 (10) | 山梨学院大学付属高等学校 横浜雙葉高等学校 東京都立科学技術高等学校 |
| 平成 19.6 | 49 (7) | 中国科学院副院長一行 モンテネグロ共和国前大統領一行 高麗大学事務研修員一行（韓国） ナレスワン大学長一行（タイ王国） | 563 (12) | 米沢中央高等学校 茨城県立高萩清松高等学校 栃木県立足利高等学校 P T A |
| 平成 19.7 | 9 (3) | ダッカ大学副学長一行（バングラデシュ） 台湾芸術大学長一行 | 977 (10) | 茨城県立日立一高等学校 P T A 千葉県立東葛飾高等学校 富山県立福野高等学校 |
| 平成 19.8 | 13 (3) | 中国地質大学長一行 廈門大学副学長一行（中国） | 563 (8) | いわき秀英高等学校 栃木県立栃木高等学校 P T A 富山県立水橋高等学校 |
| 平成 19.9 | 2 (1) | フェデリコ・サンタ・マリア工科大学長一行（チリ） | 179 (4) | 福岡県立鞍手高等学校 |
| 平成 19.10 | 164 (6) | ナイジェリア大学学部長一行 国立政治大学長一行（台湾） ドンブリ・ラジャハット大学（タイ王国） サラマンカ大学日西センター長一行（スペイン） | 953 (15) | 明和県央高等学校 茨城県立日立北高等学校 茨城県立牛久栄進高等学校 |
| 平成 19.11 | 35 (5) | ブラジル・カトリカ大学副学長一行 ペルー工科大学理事長 中関村科技園区管理委員会一行（中国） | 893 (16) | 群馬県立桐生高等学校 東京学館船橋高等学校情報科 水戸短大附属高等学校 |
| 平成 19.12 | 53 (4) | 浙江大学医学院一行（中国） ミャンマー連邦経済開発省対外経済開発局長一行 アフガニスタン・イスラム共和国下院議員一行 | 288 (6) | 長崎県立長崎南高等学校 群馬県立中央中等教育学校 久喜北陽高等学校 |
| 平成 20.1 | 52 (2) | 慶熙大学校一行（韓国） | 245 (3) | 宮崎県立小林高等学校 |
| 平成 20.2 | 57 (5) | モンゴル国教育文化科学省副大臣一行 カザフ経済大学財務部長一行（カザフスタン） インドネシアの大学教員一行 Twente 大学一行（オランダ） | 84 (1) | 埼玉県立松山高等学校理数科 |
| 平成 20.3 | 13 (4) | スファックス大学長、スファックス・バイオテクノロジーセンター長（チュニジア） 台湾国立屏東科技大学長一行 | 154 (4) | 茨城県立緑岡高等学校 |
| 合計 | 516 (46) | | 6,717 (97) | |

(4) 広報刊行物等

| 刊行物等名 | 内 容 | 配布対象 | 編集・発行等 |
|--|--|---------------------------------|----------------------|
| 筑波大学概要 (本編・資料編) | 大学全般の概要を統計的にまとめたもの | 国立大学法人，文部科学省，教育関係機関，来訪者等 | 総務・企画部広報課 |
| リーフレット | 大学全般の概要をまとめたもの | 来訪者等 | |
| 筑波大学学報 (月刊，web版) | 大学内の連絡事項を周知させ，相互の事務連絡の緊密化を図ることを目的として，関係法令，学内規則，人事異動等を掲載したもの | 教職員等 | |
| 速報つくば（隔週刊） | 教職員に対して教育・研究活動上必要な日常的情報及び福利厚生，学内外行事等身近な情報の提供とその周知を図ることを目的とするもの | 教職員，文部科学省等 | 編集：総務・企画部 発行：筑波大学 |
| 筑波大学新聞（年8回） | 大学内の意見，情報の交流・伝達を主たる任務とし，併せて大学文化の向上を図り，文化活動を行うもの | 教職員，学生，文部科学省，教育関係機関等 | 筑波大学新聞編集委員会 |
| Outline of the University of Tsukuba | 外国人を対象として，大学全般の概要をまとめたもの（英語版） | 国立大学法人，文部科学省，在日外国大使館，海外協定校，来訪者等 | 総務・企画部国際課 |
| Outline of the University of Tsukuba Information materials (Data file) | 外国人を対象として，大学全般の概要を統計的にまとめたもの（英語版） | | |
| 筑波大学概要 (中国語版) | 中国人を対象として，大学全般の概要をまとめたもの（中国語版） | 中国協定校，来訪者等 | |
| リーフレット（英語版） | 外国人を対象として，大学全般の概要をまとめたもの，地図 | 来訪者等 | |
| University of Tsukuba - A "Science City" University - | 外国人を対象として，大学全般の概要をまとめたもののダイジェスト版（英語版） | | |
| 筑波大学公開講座案内 | 東京地区以外の公開講座の概要 | 近隣関係機関等及び学内関係部局 他 | 学務部学務課 |
| Guidance（年1回） | クラス担任教員・サークル顧問教員等教科以外の面で学生指導に必要な資料・情報を伝達することを目的とするもの | 教職員 | 学生生活支援室 |
| TSUKUBA Students（月1回） | 大学教育活動及び学生生活に関する事項の学生への伝達周知を図るとともに，これらの事項に関する学生の意向を聴取・反映することを目的とするもの | 教職員・学生 | 編集：学生生活支援室 発行：学生部 |
| 求人のための筑波大学紹介 | 採用活動を行う企業等向けに大学の教育組織等及び就職支援体制について紹介 | 企業等 | 学務部就職課 |
| 筑波大学附属図書館概要 | 図書館の概要，現況をまとめたもの | 来訪者等 | 附属図書館 |
| Outline of the University of Tsukuba Library | 外国人を対象として，図書館の概要・現況をまとめたもの | 外国人留学生，外国人来訪者等 | |
| 筑波大学附属図書館利用案内 | 図書館サービスの概要，利用方法の周知を目的とするもの | 教職員，学生，来訪者等 | |
| 筑波大生のための図書館利用術 | 学生を対象として，図書館の基本的な利用方法をまとめたリーフレット | 学生，来訪者等 | |
| 附属学校教育局概要 | 附属学校教育局及び附属学校全般の概要を取りまとめたもの | 学内関係部局，文部科学省，来訪者等 | 附属学校教育局 |
| 附属学校教育局広報誌ポローニア | 附属学校の情報を広く理解されることを内容とした広報誌 | 学内外関係機関，文部科学省，来訪者等 | |

| 刊行物等名 | 内 容 | 配布対象 | 編集・発行等 | |
|--------------------------------|---|---|------------|------------|
| 学校要覧 | 学校の沿革，教育目標，教育環境，年間行事の概要をまとめたもの | 関係職員等 | 附属小学校 | |
| 学校要覧 | 学校の沿革，教育方針，教育課程，年間行事等の概要をまとめたもの | 学校参観者等 | 附属中学校 | |
| 所報 | 各教科・部局の研究報告・研究計画 | 学内関係部局 | | |
| 指導計画 | 各教科・各学年間等の年間指導計画 | 教育実習生，学校参観者等 | | |
| 学校要覧 | 学校の沿革，運営機構，教育計画，生徒指導，研究・教職活動等 | 来校者，研究協議会参加者，教育実習生 | 附属高等学校 | |
| 学校案内 | 学校の教育方針，年間行事，生徒活動状況等 | 来校者，学校説明会参加者 | | |
| 附属だより | 学校の内容及び生徒活動の報告・紹介等 | 在籍生徒の保護者，関係教職員等 | | |
| 学校要覧 | 学校の沿革，教育方針，教育課程，年間行事等の概要をまとめたもの | 学内関係部局，関係教職員，来訪者等 | 附属駒場中・高等学校 | |
| 学校案内 | 学校の教育方針，教育課程，年間行事，生徒活動状況等 | | | |
| 学校生活 | | | | |
| 学校要覧 | 沿革概要，教育目標，教育課程，研究活動・年間行事計画等の学校概要をまとめたもの | 学内外関係部局，関係教職員，来訪者等 | 附属坂戸高等学校 | |
| 学校案内 | 教育課程・学校の特色・学校生活・入試情報などを写真を交えてまとめたもの | 入学希望者，来訪者等 | | |
| 学校要覧 | 教育目標と方針，沿革，教育課程，年間計画などの学校の概要 | 来校者，附属学校教育局，全国各盲学校，関係各機関 | 附属視覚特別支援学校 | |
| 学校案内 | 学校全体の簡単な紹介と各部科の指導方針，教育課程，卒後の進路などの紹介 | 入学希望者，全国各盲学校，各関係機関 | | |
| 教育相談・支援パンフレット | 小学部の教育相談，通級や訪問による支援の紹介 | 通常学校，通常学校に在籍する視覚障害児の保護者，教育委員会等 | | |
| 育児学級パンフレット | 乳幼児教育相談で行われている育児学級の紹介 | 視覚障害乳幼児の保護者，幼稚園，保育園，家庭支援センター，各関係機関 | | |
| サポーターブック | 通常の学級に在籍している視覚に障害のあるこどものサポート | 通常学校，通常学校に在籍する視覚障害児の保護者，ボランティア | | |
| 学校要覧 | 学校の沿革，教育課程等学校の概要をまとめたもの | 各種関係機関・来訪者等 | | 附属聴覚特別支援学校 |
| 専攻科パンフレット | 高等部専攻科3科の教育内容を紹介したもの | 全国聾学校，各種関係機関等 | | |
| 乳幼児教育相談パンフレット | 幼稚部が行う聴覚障害乳幼児に対する教育相談の案内 | 近隣医療機関等 | | |
| 学校案内パンフレット (和文，英文，中，韓，スペイン) | 学校の沿革，教育課程等学校の概要をまとめたもの | 諸外国視察訪問者，第9回アジア太平洋地域聴覚障害問題会議・第40回全日本聾教育研究会（関東大会）参加者 | | |

| 刊行物等名 | 内 容 | 配布対象 | 編集・発行等 |
|--|--|---|---------------|
| 学校要覧 | 学校の沿革，教育方針，教育課程，年間行事等の概要をまとめたもの | 学内関係部局，関係教職員，来訪者等 | 附属大塚特別支援学校 |
| 学校要覧 | 学校の沿革，教育方針・内容，研究活動，その他各種資料 | 学内関係者，関係教職員，教育委員会，公立肢体不自由養護学校 | 附属桐が丘特別支援学校 |
| 学校案内 | 学校の内容（年間行事，教育課程）の紹介 | 学校参観者 | |
| 校報「きらきら」 | ・学校における当該年度等の教育活動・運営の基本方針，施策等 ・教育内容の紹介，教育研究活動行事・セミナー等の報告 ・障害児の療育・教育に関わる者の提言・情報提供・応援メッセージ等実践に役立つ情報等 ・その他異動者紹介等 | 学内関係部局，関係教職員，保護者 | 附属久里浜特別支援学校 |
| 地域広報紙「のびのび」 | 本校に在籍する子どもたち（幼児・児童）に対する理解促進を旨とし，子どもたちの活動状況，学内各種行事・イベント情報等の報告，開催案内等近隣地域向け情報 | 近隣の町内会（地域住民），保護者，教育関係機関，学内関係部局，関係教職員 | |
| 理療科教員養成施設概要 | 理療科教員養成施設の沿革，教育課程等の概要をまとめ，理療臨床部の治療を紹介したもの | 学内関係部局，文部科学省，都道府県庁，全国盲学校等視覚障害関係機関，全国鍼灸関係専門学校，来訪者等 | 理療科教員養成施設 |
| 筑波大学大学院博士課程人文社会科学研究科案内 | 研究科及び専攻の概要，入試・修了・学位情報，教員紹介 | 学内外からの送付希望者等 | 人文社会科学研究科 |
| 筑波大学人文・文化学群人文学類ご案内 | カリキュラム，主専攻説明，教員紹介，学生生活，卒業後の進路，入試情報等 | 全国高等学校 大学説明会の参加者 学内外からの送付希望者 | 人文学類 |
| 社会学類案内誌「社会学類への招待」 | カリキュラム，主専攻説明，教員紹介，学生生活，卒業後の進路，入試情報等 | 大学説明会の参加者 学内外からの送付希望者 | 社会学類 |
| 大学説明会パンフレット（社会学類生成） | 教員インタビュー，入試別合格体験記，受験生活Q&A，入試準備情報等 | | |
| システム情報工学研究科パンフレット | システム情報工学研究科の概要，研究分野・授業担当教員，入試情報等 | 学内関係部局，関係機関（他大学・企業・高専等） | システム情報工学研究科 |
| リスク工学専攻パンフレット | 専攻概要，研究活動情報等 | 大学，高専，企業等 | リスク工学専攻 |
| システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻パンフレット | コンピュータサイエンス専攻全般的案内等 | 受験希望者，就職関連企業等 | コンピュータサイエンス専攻 |
| システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻専攻公開用リーフレット | コンピュータサイエンス専攻研究室案内等 | 受験希望者，関係大学等 | |
| 文科省「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム採択高度IT人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラム」 | コンピュータサイエンス専攻高度IT人材育成のための実践的ソフトウェア開発プログラムの全般的案内等 | | |

| 刊行物等名 | 内 容 | 配布対象 | 編集・発行等 |
|--|---|---|----------------------|
| 筑波大学 大学院システム情報工学研究科構造エネルギー工学専攻（パンフレット） | 構造エネルギー工学専攻の案内と教員紹介 | 学内外関係部局，受験予定者，来訪者等 | 構造エネルギー工学専攻 |
| システム情報工学研究科経営・政策科学専攻パンフレット | 専攻概要，研究分野，授業担当教員，入試情報等 | 学内外関係部局，派遣元（国の機関，地方自治体，民間企業），他大学，受験予定者等 | 経営・政策科学専攻 |
| 国際総合学類案内誌（明日のEXECUTIVE） | 学類の紹介，カリキュラム，就職先等 | 高等学校および大学説明会での配布等 | 国際総合学類，国際総合学類長 |
| 工学システム学類 | 学類のシステム，特徴，教育 | 高等学校及び大学説明会での配布等 | 工学システム学類長・工学システム学類 |
| 情報科学類 | 履修の進め方と授業科目，3つの主専攻紹介，卒業研究テーマ，卒業後の進路，入学案内，情報科学類Q&A，先輩からのメッセージ，キャンパスライフ | 高等学校・高等専門学校及び大学説明会及び出前講義での配布 | 情報科学類長，学類企画広報委員会 |
| 応用理工学類 新入生と保護者のための履修ガイドブック －入学から卒業まで－ | 大学での授業や単位に関する解説・手続き方法 | 新入生・新入生保護者 | 応用理工学類長 |
| 応用理工学類パンフレット | 応用理工学類の特徴，組織とカリキュラム，主専攻・研究室紹介，学生生活について等 | 高等学校・高等専門学校・入学希望者等 | |
| WaveFront 筑波大学応用理工学類広報誌 | 応用理工学類のカリキュラム・主専攻等紹介，在学生・卒業生の声，卒業後の進路等 | | |
| 社会工学類パンフレット | 社会工学類の教育目的，3つの主専攻紹介，学生生活，就職先等 | 高等学校及び大学説明会参加者 | 社会工学類，社会工学類長 |
| 社会工学類リーフレット | | | |
| 社会工学が面白い | 社会工学類に関する紹介 | | |
| 筑波スタンダード | 社会工学類の教育目的，3つの主専攻紹介，学生生活，就職先等 | 高等学校及び大学説明会参加者，会社関係 | |
| 先端農業技術科学専攻リーフレット | 専攻概要・研究分野・担当教員等 | 国公立大学・関連研究所・受験希望者等 | 先端農業技術科学専攻 |
| 筑波大学・生命環境学群生物資源学類 | 学類案内 | 全国高等学校，受験生，大学説明会参加者 | 生物資源学類広報委員会 |
| 筑波大学・生命環境学群生物資源学類（リーフレット） | 受験生対象の案内 | 出前講義で教員が出向く高等学校 | |
| 生命環境科学研究科 環境科学専攻 持続環境学専攻 | 専攻の特色，カリキュラム，開設科目，研究指導可能項目，入試状況と修了者の進路等 | 全国主要大学・大学院，大学院説明会，受験生 | 環境系専攻広報・IT委員会 環境系専攻長 |
| 比較文化研究 第4号 | 学類教育に関連した教員・卒業生の研究論文，学類教育の方針に関する教員の意見，在学生あるいは高校生に対する参考文献の紹介等 | 学内関係教員，学類学生，大学説明会参加者，国内国外関係教育機関，その他 | 比較文化学類 |
| Earth Evolution Sciences, University of Tsukuba, Vol.2 | 地球進化科学関連の論文と2006年の活動状況等 | 国内外の大学や研究機関 | 地球進化科学専攻・学術図書印刷（株） |
| 筑波大学生命環境科学研究科地球進化科学専攻平成18年度年次報告書 | 本専攻の教員，大学院生の教育・研究に係わる活動状況 | 地球進化科学専攻教員 | 地球進化科学専攻 |

| 刊行物等名 | 内 容 | 配布対象 | 編集・発行等 |
|--|--|-----------------------|-------------------|
| トルコ・ピアジチ大学の筑波大学－日本語・日本文化学類の出張講義－世界の中の筑波大学Ⅲ | ボアジチ大学での出張講義，ボアジチ大学での教育実習報告，インターンシップ等 | 学類関係教員，新入生，大学説明会参加者等 | 日本語・日本文化学類長・江藤 秀一 |
| 卒業生は今－大学院で学ぶ仲間たち（パートⅡ）－ | 大学院に在籍している本学類卒業生の学類・大学院志望理由，学類生時代の思い出，現在の研究内容，学類生・学類志望の高校生へのメッセージ | | |
| 卒業生は今－大学院で学ぶ仲間たち－日本語教師編－ | 海外の大学で日本語教師として教壇に立っている卒業生及びかつてその経験がある卒業生に学類志望理由，学類生時代の思い出，日本語教師としての体験談，学類生・学類志望の高校生へのメッセージ | | |
| 人間学群2008パンフレット | 人間学群，教育学類，心理学類，障害科学類の案内 | 大学説明会，高校生体験講座，その他 | 人間学群長 宮本信也 |
| 平成19年度卒業研究要旨 | 卒業論文発表のための要旨集 | 学類関係教員，学類学生，関係教育組織 | 人間学類 |
| 人間学類・人間学群シラバス2008 | 授業概要，目標，内容と進行スケジュール等 | 学類関係教員，学類学生，関係教育組織 | 人間学類教育課程専門委員会 |
| 筑波大学・人間学群教育学類 | 学類案内 | 全国高等学校受験生 大学説明会参加者 | 人間学群・教育学類 |
| 筑波大学・人間学群心理学類 | 学類案内 | 全国高等学校受験生 大学説明会参加者 | 人間学群・心理学類 |
| 筑波大学・人間学群心理学類「つくばの心理学」（冊子） | 受験生を対象とした学類教員の研究紹介 | | |
| 筑波大学・人間学群障害科学類 | 学類案内 | 全国高等学校受験生 大学説明会参加者 | 人間学群・障害科学類 |
| Art & Design | 芸術専門学群・芸術研究科・人間総合科学研究科（芸術関係）の案内 | 入学希望者等 | 芸術学系（広報・情報委員会） |
| 筑波大学大学院案内 修士課程 体育研究科 | 入学希望者への情報提供 | 入学希望者等 | 体育研究科広報委員会 |
| 筑波大学 体育専門学群 | 入学希望者への情報提供 | 入学希望者等 | 体育専門学群広報委員会 |
| 図書館情報メディア研究科パンフレット | 図書館情報メディア研究科の教育研究分野・教員紹介・研究紹介・学位論文等・入学試験情報等 | 研究科入学希望者，来訪者，学内外関係部局等 | 図書館情報メディア研究科 |
| 計算科学研究センターパンフレット（和文・英文） | センター概要説明等 | 大学・研究機関，来訪者等 | 計算科学研究センター |
| プラズマ研究センターパンフレット | プラズマの説明とプラズマ研究センターの沿革，組織，活動等の概要を紹介 | 国内外の関連機関，見学者等 | プラズマ研究センター |
| TARA NEWS No.35～No.36 | 先端学際領域研究センターの広報誌として事業及び研究情報等を紹介するもの | 関係機関等 | 先端学際領域研究センター |
| 筑波大学先端学際領域研究センター平成18年度年報 | 先端学際領域研究センターの広報誌として事業，研究情報活動報告及びプロジェクト終了報告をまとめたもの | | |

| 刊行物等名 | 内 容 | 配布対象 | 編集・発行等 |
|--|--|--------------------------------|-------------------------------------|
| 筑波大学陸域環境研究センター（リーフレット） | センターの概要，主要施設等 | 見学者，来訪者 | 陸域環境研究センター |
| 平成18年下田臨海実験センター年次報告書 | センターの利用状況，教育研究環境および活動の紹介，海洋観測データ等 | 学内外関連部局，利用者等（オンラインでも公開） | 下田臨海実験センター |
| 外国人留学生のための筑波大学入学案内 Enrollment Guidebook for International Student University of Tsukuba 2008-2009 | 本学に入学を希望する外国の学生を対象に，入学方法，教育組織，教員の研究分野についてまとめたもの | 本学に入学を希望する外国の学生，在外公館，外国の主要大学など | 留学生センター |
| JUNIOR YEAR AT TSUKUBA PROGRAM 2008-2009 | 筑波大学短期留学国際プログラム（JTP）の内容を簡潔にまとめたもの | 本学に入学を希望する外国の学生，本学の協定校 | |
| 産学リエゾン共同研究センター（ILC）リーフレット | センターの概要及び事業等を紹介（簡略版） | 教職員，関係機関，企業等見学者等 | 産学リエゾン共同研究センター |
| ILCニュース8，9号 | 産学リエゾン共同研究センターの広報誌として事業及び研究情報等を紹介 | | |
| 産学リエゾン共同研究センター（ILC）英文リーフレット | センターの概要及び事業等を紹介（英語版） | 教職員，関係機関，企業・外国人見学者等 | |
| 筑波大学教育開発国際協力研究センター（リーフレット） | センターの目的，組織，活動内容などをまとめたもの | 国内外の関係機関及び来訪者等 | 教育開発国際協力研究センター |
| 知的コミュニティ基盤研究センター年報 平成18年度 | 知的コミュニティ基盤研究センターの管理・運営，研究活動等をまとめたもの | 関係機関等 | 知的コミュニティ基盤研究センター |
| 筑波大学知的コミュニティ基盤研究センターシンポジウム2008組織における情報管理と個人の役割 | 筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター公開シンポジウムの講演資料等をまとめたもの | | |
| ニューズレター「sserc通信」（年4回） | 特別支援教育研究センターの事業・予定等の紹介 | 教職員，セミナー参加者等 | 特別支援教育研究センター |
| 特別支援教育研究センターパンフレット | 特別支援教育研究センターの設置目的・組織・事業概要等を記したのもの | 教職員，全国の教育委員会・教育研究センター等関係機関 | |
| 筑波大学北アフリカ研究センター（和文，英文パンフレット） | センター設立の趣旨及び研究内容の概要 | 国内外の関係機関及び来訪者 | 北アフリカ研究センター |
| マルチタンデム静電加速器による高速多種イオンビームの先進的利用 | 文部科学省委託事業「先端研究施設共用イノベーション創出事業（高度制御加速イオンビームによるイノベーション創出事業）」参考技術資料 | 企業，産業界関連団体，文科省 | イノベーション創出事業実施委員会（研究基盤総合センター応用加速器部門） |
| CREILセンター パンフレット | CREILセンターの説明 | 学内，学外，関係者 | CREILセンター |

8 医療・保健関係

(1) 附属病院

ア 診療科・診療グループ構成

(平成20年3月1日現在)

| 診療科 | 診療グループ | 延従事者 |
|-------------|------------------|------|
| 内 科 | 循環器 (内) | 12 |
| | 消化器 (内) | 12 |
| | 呼吸器 (内) | 11 |
| | 腎泌尿器 (内) | 8 |
| | 内分泌代謝 (内) | 10 |
| | 膠原病リウマチアレルギー (内) | 5 |
| | 血液 | 7 |
| | 保健衛生外来 | 5 |
| | 細菌学的診断 (感染症) | 2 |
| | 総合 | 10 |
| | 遺伝 | 6 |
| | 睡眠呼吸障害 | 2 |
| 神経内科 | 脳神経 (内) | 7 |
| 精神科・ 神経科 | 精神神経 | 10 |
| 小児科 | 小児 (内) | 14 |
| 皮膚科 | 皮膚 | 6 |
| 放射線科 | 放射線腫瘍 | 6 |
| | 放射線診断・I V R | 12 |
| 外 科 | 循環器 (外) | 10 |
| | 消化器 (外) | 11 |
| | 呼吸器 (外) | 5 |
| | 乳腺・甲状腺・内分泌 (外) | 5 |
| | 小児 (外) | 10 |
| | 形成 | 3 |
| | 救急・集中治療 | 9 |

| 診療科 | 診療グループ | 延従事者 |
|---------|----------|------|
| 脳神経外科 | 脳神経 (外) | 9 |
| 整形外科 | 整形 | 12 |
| 泌尿器科 | 腎泌尿器 (外) | 9 |
| 眼科 | 眼 | 7 |
| 耳鼻咽喉科 | 耳鼻咽喉 | 6 |
| 産科・婦人科 | 婦人・周産期 | 14 |
| 麻酔科 | 麻酔 | 13 |
| 歯科口腔外科 | 歯・口腔 | 4 |
| (診療科共通) | 病理学的診断 | 13 |
| | 臨床病理 | 6 |
| 合計 | | 291 |

イ 業務従事者数（実数）

（平成20年3月1日現在）

| 職 種 | | 人数 |
|---------------|--------|-------|
| 教 員 | 基礎医学系 | 9 |
| | 臨床医学系 | 233 |
| | 社会医学系 | 5 |
| | 心身障害学系 | 2 |
| | 体育科学系 | 3 |
| | 小 計 | 252 |
| 医員・医員（研修医） | | 190 |
| 薬 劑 師 | | 32 |
| 看 護 職 員 | | 520 |
| 診 療 放 射 線 技 師 | | 25 |
| 臨 床 検 査 技 師 | | 43 |
| 歯 科 技 工 士 | | 2 |
| 歯 科 衛 生 士 | | 1 |
| 理 学 療 法 士 | | 5 |
| 作 業 療 法 士 | | 4 |
| 言 語 聴 覚 士 | | 2 |
| 視 能 訓 練 士 | | 1 |
| 栄 養 士 | | 7 |
| 臨 床 工 学 技 士 | | 5 |
| 医 療 技 術 職 員 | | 5 |
| 事 務 職 員 | | 80 |
| 給 食 員 | | 14 |
| 機 器 運 転 要 員 | | 3 |
| 合 計 | | 1,191 |

ウ 診療実績

| 区 分 | 件 数 | 備 考 | |
|-------------|-----------|--------------------------------|------------------|
| 患 者 数 | 外 来 | 340,675 1日平均 1,391名（診療245日） | |
| | 入 院 | 260,079 | 新 来 21,004名 |
| | | | 1日平均 711名（病床800） |
| | | | 稼働率 88.8% |
| | | | 新入院 12,544名 |
| | | | 退 院 12,559名 |
| 計 | 600,754 | | |
| 臨 床 検 査 | 3,423,383 | | |
| X 線 | 100,677 | | |
| 調 剤 処 方 | 557,472 | 処方延患者 226,374名 | |
| 手 術 | 6,584 | | |
| 麻 酔 | 7,380 | | |
| 分 娩 | 844 | （死産を除く。） | |
| 死 亡 | 330 | 病理解剖 63件（18.9%） | |

エ 受託実習生等受入数

| 区 分 | 受 託 実 習 生 | 病 院 研 修 生 |
|-------------|--------------|--------------|
| 臨 床 検 査 関 係 | 4 | 14 |
| 放 射 線 関 係 | 22 | 2 |
| 薬 劑 関 係 | 35 | 5 |
| 看 護 関 係 | 204 | 12 |
| 理 学 療 法 関 係 | 18 | 2 |
| 栄 養 士 関 係 | 9 | 1 |
| 合 計 | 292 | 36 |

オ ボランティア受入状況

| 活 動 内 容 | 人 数 |
|--------------------------|-----|
| 総 合 案 内 | 3 |
| 成 人 病 棟 | 12 |
| 小 児 病 棟 （読み聞かせ14名を含む） | 34 |
| 合 計 | 49 |

(2) 保健管理センター

ア 保健管理センター勤務職員数

| 職 種 | | 人数 |
|---------------|---------|----|
| 教 員 | 内 科 | 3 |
| | 整 形 外 科 | 1 |
| | 精 神 科 | 2 |
| | 学 生 相 談 | 3 |
| | 小 計 | 9 |
| 薬 剤 師 | 1 | |
| 看 護 職 員 | 6 | |
| 診 療 放 射 線 技 師 | 1 | |
| 歯 科 衛 生 士 | 1 | |
| 事 務 職 員 | 2 | |
| 合 計 | | 20 |

イ 利用者数

| 事 項 利用者 | 一般定期 健康診断 | その他の 健康診断 | 診療及び 健康相談 | 栄養相談 | 予防接種 | 学生相談 | 精神衛生 相 談 | 救護等 その他 | 計 |
|------------|--------------|--------------|--------------|------|-------|-------|-------------|------------|--------|
| 学 群 学 生 | 8,791 | 272 | 4,440 | 37 | 3,059 | 1,617 | 1,531 | 6,815 | 26,562 |
| 大 学 院 生 | 3,539 | 830 | 1,339 | 4 | 49 | 989 | 947 | 5,137 | 12,834 |
| 研 究 生 | 319 | 5 | 187 | 0 | 8 | 75 | 48 | 0 | 642 |
| 職 員 | 4,345 | 2,260 | 1,907 | 76 | 104 | 128 | 425 | 94 | 9,339 |
| そ の 他 | 69 | 51 | 12 | 0 | 55 | 0 | 0 | 20 | 207 |
| 合 計 | 17,063 | 3,418 | 7,885 | 117 | 3,275 | 2,809 | 2,951 | 12,066 | 49,584 |

(注) 1. 一般定期健康診断、学生相談、精神衛生相談における利用者区分の詳細については、後掲の項目参照。

2. 救護等その他の内容は、入試・各種大学行事等における救護、入学志願者等の健康診断書の書類審査、健康診断書の発行件数等について計上。

3. 利用者のその他は、理療科教員養成施設の学生、研究員、外部者等。

ウ 一般定期健康診断受診内訳

| 区 分 | | 在籍者数 | 受診者数 | 未受診数 | 受診率(%) | |
|------------|-----------|---------------------|--------|-------|--------|-------|
| 学群学生・2年生以上 | 第一学群 | 人 文 学 類 | 424 | 346 | 78 | 81.6 |
| | | 社 会 学 類 | 379 | 295 | 84 | 77.8 |
| | | 自 然 学 類 | 710 | 620 | 90 | 87.3 |
| | 第二学群 | 比 較 文 化 学 類 | 330 | 273 | 57 | 82.7 |
| | | 日 本 語・日 本 文 化 学 類 | 164 | 134 | 30 | 81.7 |
| | | 人 間 学 類 | 414 | 336 | 78 | 81.2 |
| | | 生 物 学 類 | 286 | 267 | 19 | 93.4 |
| | | 生 物 資 源 学 類 | 451 | 400 | 51 | 88.7 |
| | 第三学群 | 社 会 工 学 類 | 444 | 324 | 120 | 73.0 |
| | | 国 際 総 合 学 類 | 344 | 253 | 91 | 73.5 |
| | | 情 報 学 類 | 370 | 305 | 65 | 82.4 |
| | | 工 学 シ ス テ ム 学 類 | 525 | 405 | 120 | 77.1 |
| | 学専門医学 | 工 学 基 礎 学 類 | 432 | 314 | 118 | 72.7 |
| | | 医 学 類 | 519 | 404 | 115 | 77.8 |
| | 学専門医学 | 看 護・医 療 科 学 類 | 366 | 326 | 40 | 89.1 |
| | | 体 育 専 門 学 群 | 807 | 753 | 54 | 93.3 |
| | | 芸 術 専 門 学 群 | 386 | 298 | 88 | 77.2 |
| | | 図 書 館 情 報 専 門 学 群 | 570 | 510 | 60 | 89.5 |
| 小 計 | | 7,921 | 6,563 | 1,358 | 82.9 | |
| 学群学生・1年生 | 文化学群 | 人 文 学 類 | 125 | 122 | 3 | 97.6 |
| | | 比 較 文 化 学 類 | 96 | 96 | 0 | 100.0 |
| | | 日 本 語・日 本 文 化 学 類 | 46 | 46 | 0 | 100.0 |
| | 学群国際 | 社 会 学 類 | 82 | 79 | 3 | 96.3 |
| | | 国 際 総 合 学 類 | 91 | 91 | 0 | 100.0 |
| | | 人 間 学 類 | 39 | 39 | 0 | 100.0 |
| | 学群人間 | 心 理 学 類 | 56 | 56 | 0 | 100.0 |
| | | 障 害 科 学 類 | 38 | 37 | 1 | 97.4 |
| | | 生 物 学 類 | 89 | 86 | 3 | 96.6 |
| | 学群生命環境 | 生 物 資 源 学 類 | 143 | 142 | 1 | 99.3 |
| | | 地 球 学 類 | 58 | 58 | 0 | 100.0 |
| | | 数 学 類 | 49 | 48 | 1 | 98.0 |
| | 学群理工 | 物 理 学 類 | 65 | 65 | 0 | 100.0 |
| | | 化 学 類 | 55 | 53 | 2 | 96.4 |
| | | 応 用 理 工 学 類 | 135 | 132 | 3 | 97.8 |
| | | 工 学 シ ス テ ム 学 類 | 151 | 149 | 2 | 98.7 |
| | | 社 会 工 学 類 | 132 | 127 | 5 | 96.2 |
| | 学群情報 | 情 報 科 学 類 | 85 | 85 | 0 | 100.0 |
| | | 情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類 | 59 | 58 | 1 | 98.3 |
| | | 知 識 情 報・図 書 館 学 類 | 107 | 101 | 6 | 94.4 |
| | 学群医学 | 医 学 類 | 95 | 91 | 4 | 95.8 |
| | | 看 護 学 類 | 70 | 70 | 0 | 100.0 |
| | | 医 療 科 学 類 | 39 | 38 | 1 | 97.4 |
| | 学群体育芸術 | 体 育 専 門 学 群 | 247 | 241 | 6 | 97.6 |
| | | 芸 術 専 門 学 群 | 118 | 118 | 0 | 100.0 |
| | 小 計 | | 2,270 | 2,228 | 42 | 98.1 |
| | 学群生合計 | | 10,191 | 8,791 | 1,400 | 86.3 |
| 院大生学 | 修 士 課 程 | 1,087 | 698 | 389 | 64.2 | |
| | 博 士 課 程 | 5,043 | 2,841 | 2,202 | 56.3 | |
| 小 計 | | 6,130 | 3,539 | 2,591 | 57.7 | |
| 職員 | 常 勤 職 員 | 4,075 | 3,641 | 434 | 89.3 | |
| | 非 常 勤 職 員 | 782 | 704 | 78 | 90.0 | |
| 小 計 | | 4,857 | 4,345 | 512 | 89.5 | |
| そ の 他 | | 69 | 69 | 0 | 100.0 | |
| 合 計 | | 21,247 | 16,744 | 3,145 | 78.8 | |

(注) 在籍者数は、健康診断実施時の数。

Ⅰ 学生相談利用状況

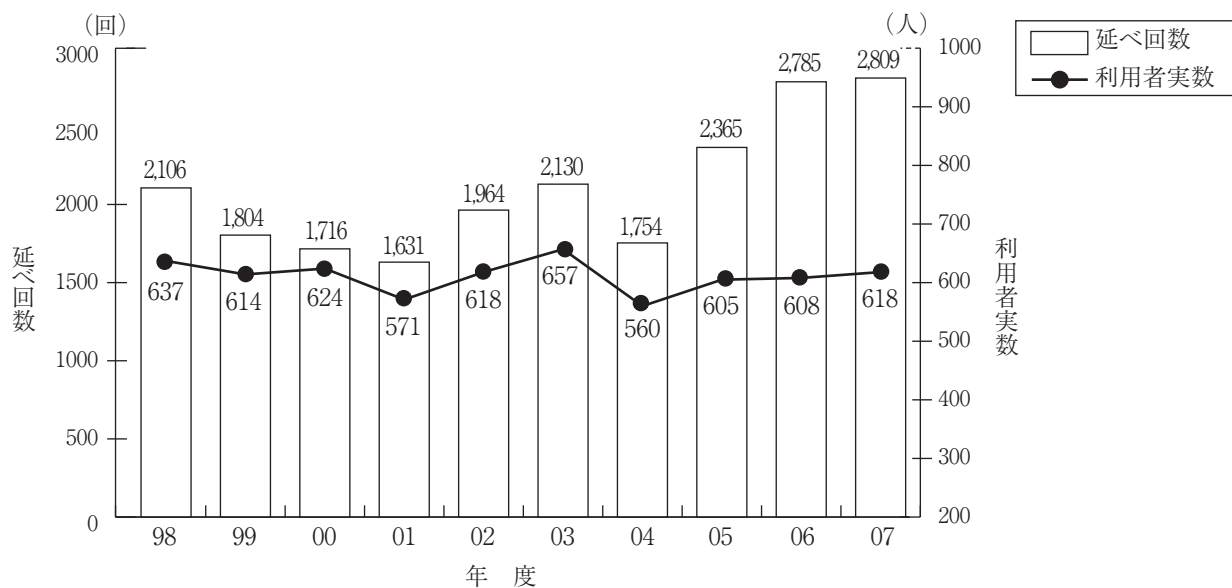
学生相談内訳

| 区 分 | | 修学 | 進路 | 友人関係 | 異性 | 結婚 | 家庭 | 情緒性格 | 人生問題 | 経済 | 住居 | その他の問題 | UPI呼出面接 (*1) | 合計 | 実数 | |
|---------|---------|------------|----------|------|----|----|----|-------|------|----|-------------------|--------|-----------------|-------|-------|-----|
| 学 群 | 第一学群 | 人文学類 | 2 | 21 | | 1 | | 88 | | | | 14 | | 126 | 20 | |
| | | 社会学類 | 2 | | | | | 25 | | | | 10 | | 37 | 10 | |
| | | 自然科学類 | 3 | 1 | 4 | 2 | | 65 | | | | 15 | | 90 | 24 | |
| | | 比較文化学類 | 2 | 2 | 3 | | | 94 | | | 3 | 47 | | 151 | 21 | |
| | 第二学群 | 日本語・日本文化学類 | 24 | | | | | 3 | | | | 10 | | 37 | 6 | |
| | | 人間学類 | 16 | | 1 | | | 156 | | | | 14 | | 187 | 27 | |
| | | 生物学類 | 8 | 1 | | 4 | | 70 | | | | 20 | | 103 | 14 | |
| | | 生物資源学類 | 7 | | 1 | | 1 | 17 | | | | 13 | | 39 | 12 | |
| | | 社会工学類 | 6 | 1 | | | | 40 | | | | 26 | | 73 | 13 | |
| | 第三学群 | 国際総合学類 | 8 | | | | | 16 | | | | 9 | | 33 | 14 | |
| | | 情報学類 | 3 | 5 | | 18 | | 43 | | | | 3 | | 72 | 12 | |
| | | 工学システム学類 | | 1 | 7 | | | 11 | | | | 1 | | 20 | 6 | |
| | | 工学基礎学類 | 6 | 1 | | | | 20 | 4 | | | 48 | | 79 | 14 | |
| | 学 生 | 医学 | 医学類 | | | | | | 19 | | | | 14 | | 33 | 8 |
| | | | 看護・医療科学類 | 1 | | 1 | | | 3 | | 2 | | 7 | | 14 | 11 |
| | | 人文・文化学群 | | | | | | 6 | | | | 4 | 13 | 23 | 18 | |
| | | 社会・国際学群 | 4 | | | | | 9 | | | | 14 | 4 | 31 | 12 | |
| | | 人間学群 | 4 | | | | | 4 | | | | 3 | 2 | 13 | 8 | |
| | | 生命環境学群 | | | | | | 4 | | | | 12 | 8 | 24 | 13 | |
| | | 理工学群 | 7 | | | | | 13 | | | | 14 | 16 | 50 | 29 | |
| | | 情報学群 | | | 1 | | | 29 | 1 | | | 1 | 11 | 43 | 17 | |
| | | 医学群 | 2 | 3 | 3 | 1 | | 4 | | | | 4 | 4 | 21 | 11 | |
| | | 体育専門学群 | | | 1 | | | 20 | | | | 6 | 3 | 30 | 15 | |
| | | 芸術専門学群 | 31 | 4 | 1 | | 1 | 44 | | | | 7 | 3 | 91 | 27 | |
| | | 図書館情報専門学群 | 48 | 5 | 1 | 6 | | 101 | | | | 36 | | 197 | 41 | |
| | | 小 計 | 184 | 45 | 24 | 32 | 0 | 2 | 904 | 5 | 2 | 3 | 352 | 64 | 1,617 | 403 |
| 大 学 院 生 | | 修士課程 | 39 | 10 | 2 | 2 | | | 56 | | | | 21 | | 130 | 23 |
| | | 博士課程 | 111 | 81 | 7 | 6 | 10 | 1 | 449 | | | | 194 | | 859 | 134 |
| | 小 計 | 150 | 91 | 9 | 8 | 10 | 1 | 505 | 0 | 0 | 0 | 215 | 0 | 989 | 157 | |
| 研 究 生 | 研 究 生 | 10 | | | | | | 64 | | | | 1 | | 75 | 6 | |
| | 研 究 生 他 | 2 | | | 20 | | | 35 | | | | 71 | | 128 | 52 | |
| 合 計 | | 346 | 136 | 33 | 60 | 10 | 3 | 1,508 | 5 | 2 | 3 | 639 | 64 | 2,809 | 618 | |
| 実 数 | | 58 | 25 | 16 | 10 | 2 | 3 | 192 | 2 | 1 | 0 ^(*2) | 245 | 64 | 618 | | |

(*1) U P I (University Personality Inventory) とは、大学生の心の健康調査をいう。

(*2) 異なる主訴に関する相談の経過中に住居の相談を受けたため、実数は0となっている。

学生相談室利用者数の推移



オ 精神衛生相談利用状況

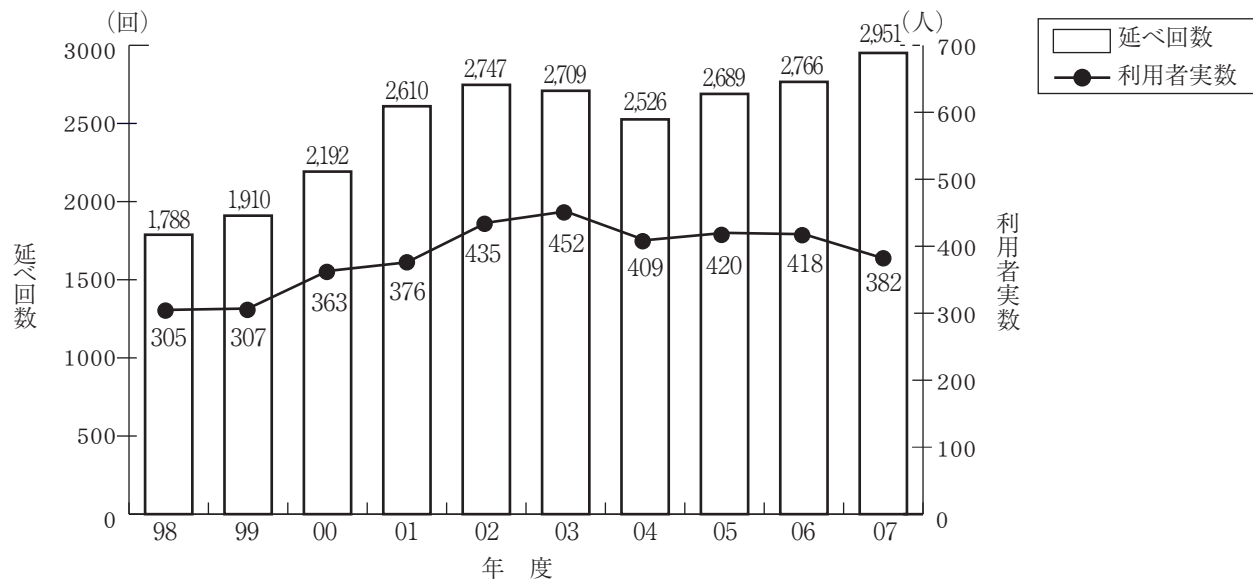
(ア) 精神衛生相談内訳

| 区 分 | | 延数 | 実数 | |
|----------|-------------|------------|----|---|
| 学群学生・1年生 | 化学群 人文・文 | 人文学類 | 1 | 1 |
| | | 比較文化学類 | 1 | 1 |
| | | 日本語・日本文化学類 | 2 | 1 |
| | 国際社会 学群 | 社会学類 | 4 | 2 |
| | | 国際総合学類 | 13 | 2 |
| | 人間学 類 | 教育学類 | 5 | 2 |
| | | 心理学類 | 0 | 0 |
| | | 障害科学学類 | 0 | 0 |
| | 境界生命環 学群 | 生物学類 | 0 | 0 |
| | | 生物資源学類 | 27 | 2 |
| 地球学類 | | 1 | 1 | |
| 理工学 群 | 数学類 | 0 | 0 | |
| | 物理学類 | 1 | 1 | |
| | 化学類 | 1 | 1 | |
| | 応用理工学類 | 27 | 1 | |
| | 工学システム学類 | 7 | 4 | |
| | 社会工学類 | 3 | 2 | |
| 情報学 群 | 情報科学類 | 15 | 1 | |
| | 情報メディア創成学類 | 1 | 1 | |
| | 知識情報・図書館学類 | 23 | 3 | |
| 医学 群 | 医学類 | 1 | 1 | |
| | 看護学類 | 0 | 0 | |
| | 医療科学類 | 0 | 0 | |
| 体育専門学群 | 0 | 0 | | |
| 芸術専門学群 | 3 | 1 | | |
| 小 計 | | 136 | 28 | |

| 区 分 | | 延数 | 実数 | |
|------------|------------|------------|-------|-----|
| 学群学生・2年生以上 | 第一学群 | 人文学類 | 52 | 10 |
| | | 社会学類 | 57 | 7 |
| | | 自然科学類 | 102 | 12 |
| | 第二学群 | 比較文化学類 | 69 | 10 |
| | | 日本語・日本文化学類 | 32 | 7 |
| | | 人間学類 | 185 | 21 |
| | | 生物学類 | 106 | 13 |
| | | 生物資源学類 | 75 | 10 |
| | 第三学群 | 社会工学類 | 87 | 10 |
| | | 国際総合学類 | 30 | 7 |
| | | 情報学類 | 82 | 11 |
| | | 工学システム学類 | 16 | 5 |
| | 門医学 学群専 | 医学類 | 126 | 20 |
| | | 看護・医療科学類 | 4 | 2 |
| | 体育専門学群 | 40 | 6 | |
| | 芸術専門学群 | 124 | 20 | |
| | 図書館情報専門学群 | 160 | 22 | |
| | 小 計 | | 1,395 | 203 |
| | 大学院生 | 修士課程 | 165 | 18 |
| 博士課程 | | 782 | 85 | |
| 小 計 | | 947 | 103 | |
| 研 究 生 | 48 | 5 | | |
| そ の 他 | 425 | 43 | | |
| 合 計 | | 2,951 | 382 | |

(注) その他は教職員、家族等である。

精神衛生相談利用者数の推移



(イ) ICD-10分類による学生の診断別件数（実数）

統合失調症，統合失調症型障害および妄想性障害

| | |
|-----|----|
| F20 | 43 |
| F21 | 14 |
| F22 | 1 |
| F23 | 2 |
| F24 | 1 |
| F25 | 2 |
| F28 | 2 |
| F29 | 1 |

気分障害

| | |
|-----|----|
| F31 | 19 |
| F32 | 36 |
| F33 | 20 |
| F34 | 30 |
| F38 | 8 |
| F39 | 3 |

神経症性障害，ストレス関連障害および身体表現性障害

| | |
|-----|----|
| F40 | 16 |
| F41 | 19 |
| F42 | 5 |
| F43 | 41 |
| F44 | 1 |
| F45 | 6 |
| F48 | 3 |

生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群

| | |
|-----|----|
| F50 | 10 |
| F51 | 19 |
| F54 | 1 |

成人の人格および行動の障害

| | |
|-----|---|
| F60 | 7 |
| F61 | 1 |
| F63 | 1 |

心理的発達障害

| | |
|-----|---|
| F88 | 3 |
| F89 | 2 |

小児期および青年期に通常発生する行動および情緒の障害

| | |
|-----|---|
| F90 | 1 |
| F94 | 1 |
| F99 | 1 |

その他

| | |
|-----------|----|
| 相 談 | 7 |
| U P I 呼 出 | 12 |

| | |
|----|-----|
| 合計 | 339 |
|----|-----|

- (注) 1. 学生の診断別件数はその他（教職員，家族など）を除いた診断別内訳実数。
2. 食行動呼出面接は中止した。
3. ICD-10分類については、「ICD-10精神および行動の障害」（医学書院）を参照。

9 附属図書館関係

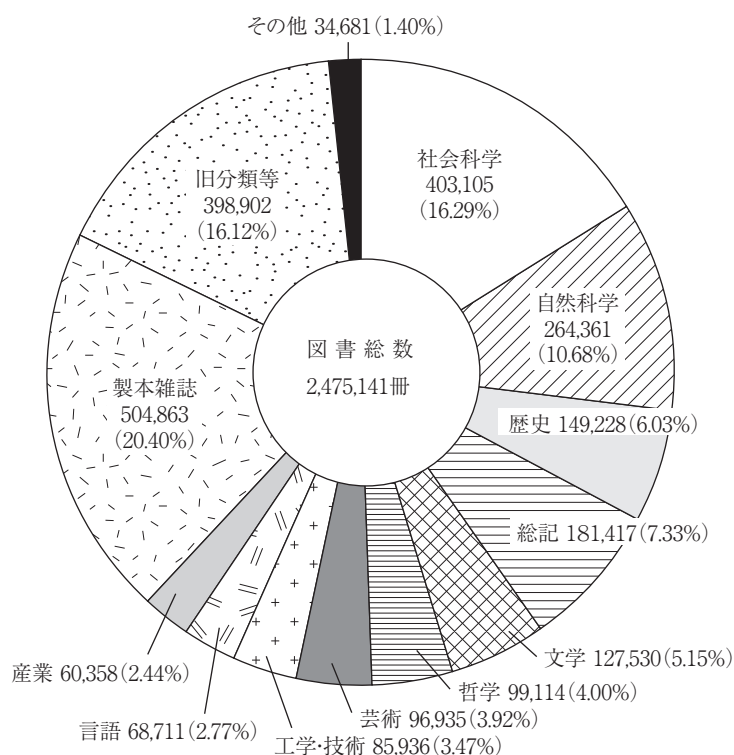
(1) 蔵書数等

ア 蔵書数

| 種別 | 平成19年度受入数 | | 平成19年度除却数 | 総蔵書数 | |
|----|-----------|----------------|----------------------|-------------------|--|
| 図書 | 和書 | 20,587 (70.5%) | 11,321冊 (前年比0.94) | 1,481,409 (59.9%) | |
| | 洋書 | 8,617 (29.5%) | | 993,732 (40.1%) | |
| | | | | 2,475,141冊 | |

| 種別 | 平成19年度継続受入タイトル数 | | 所蔵タイトル数 | |
|----|-----------------|-------------|-----------------------|---------|
| 雑誌 | 和雑誌 | 8,052 (66%) | 12,142種 (前年比0.966) | |
| | 洋雑誌 | 4,090 (34%) | 9,199 (39%) | |
| | | | | 23,328種 |

イ 分野別蔵書（図書）構成（日本十進分類法による）



ウ 電子図書館（つくばリポジトリ）コンテンツ数

| | | 平成19年度 | 累積登録数 |
|---------------------------|--------------|---------------|------------|
| 学内生産資料 | 学位論文 | 341 | 1,787 (件) |
| | 学位論文内容・審査の要旨 | 5,798 | 5,798 (件) |
| | 研究成果報告書 | 53 | 623 (件) |
| | 研究紀要等 | 1,139 | 10,554 (件) |
| | 学術雑誌掲載論文 | 586 | 586 (件) |
| 学内収集資料 | 貴重書（高精細） | 5 | 651 (件) |
| | 貴重書（モノクロ） | 985 | 7,975 (件) |
| 電子ジャーナルタイトル総数（平成19年度末現在） | | 13,616 (タイトル) | |
| 学術論文情報データベース総数（平成19年度末現在） | | 60 (タイトル) | |

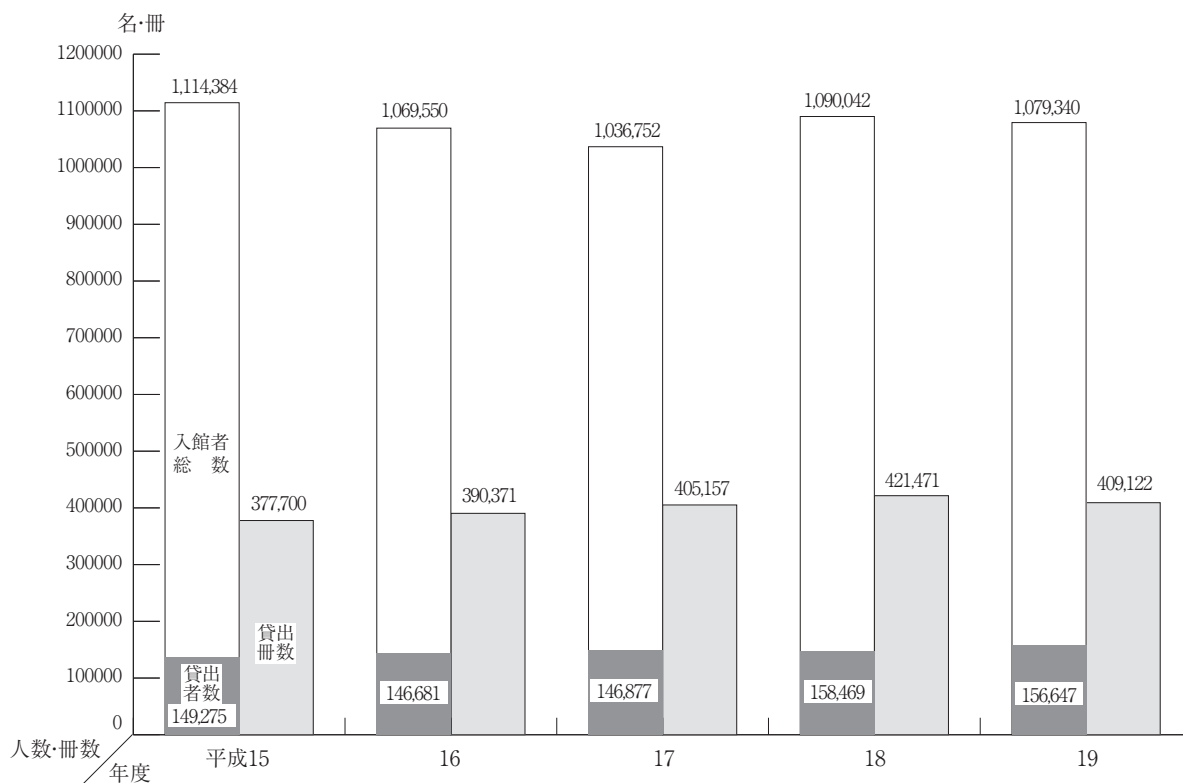
(2) 利用状況

ア 利用者数等

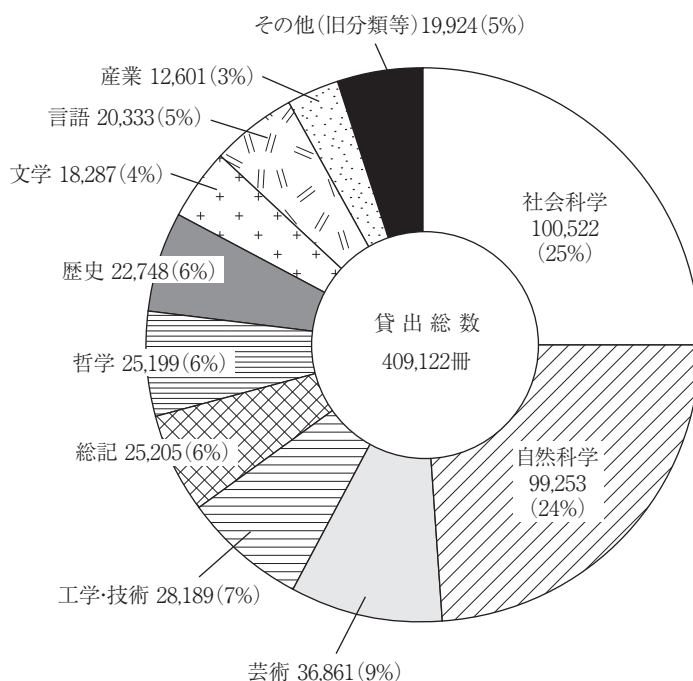
| 種別 | 利用状況 | | 館別内訳 | | | | | | |
|----------|---|---------|---------------------------|---------------|---------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| | 利用数 | 前年比 | 中央図書館 | 体育・芸術図書館 | 医学図書館 | 図情図書館 | 大塚図書館 | | |
| 入館者総数 | 1,079,340 名 開館 324 日 1日平均 3,331 名 | 0.99 | 625,619 (58%) | 186,998 (17%) | 186,954 (17%) | 55,816 (5%) | 23,953 (3%) | | |
| 図書貸出利用者数 | 学群学生 | 77,745 | 156,647 名 1日平均 483 名 | 107,323 (69%) | 18,696 (12%) | 15,918 (10%) | 9,717 (6%) | 4,993 (3%) | |
| | 大学院生 | 58,683 | | | | | | | |
| | 教職員 | 16,773 | | | | | | | |
| | その他 | 3,446 | | | | | | | |
| 図書貸出冊数 | 学群学生 | 177,066 | 409,122 冊 1日平均 1,263 冊 | 0.97 | 294,052 (72%) | 48,901 (12%) | 33,229 (8%) | 22,169 (5%) | 10,771 (3%) |
| | 大学院生 | 169,159 | | | | | | | |
| | 教職員 | 53,649 | | | | | | | |
| | その他 | 9,248 | | | | | | | |
| その他の利用件数 | 視聴覚資料 | AV資料 | 5,119 件 | 0.93 | 3,053 | 630 | 1,365 | 66 | 5 |
| | | マイク資料 | 1,193 件 | 0.74 | 1,071 | 99 | ---- | 23 | ---- |
| | セミナー室 | 6,251 件 | 0.90 | 5,015 | 220 | 940 | 76 | ---- | |
| | 研究個室 | 9,940 件 | 0.85 | 9,090 | 193 | 657 | ---- | ---- | |
| 対面朗読室 | 105 件 | 0.93 | 105 | ---- | ---- | ---- | ---- | | |

(注) 入館者総数には、学外者の閲覧(40,252)及び見学(7,604)を含む。

イ 入館者総数等の推移



ウ 分野別貸出冊数（日本十進分類法による）



(3) 各種サービス実施状況

| 種別 | サービス状況 | | | 館別内訳 | | | | | |
|-------------------------------|--------|------------|---------|-------|--------------------|------------------|------------------|----------------|-----------------|
| | サービス件数 | 前年比 | | 中央図書館 | 体育・芸術図書館 | 医学図書館 | 図情図書館 | 大塚図書館 | |
| レファレンスサービス | 利用関係 | 11,717 | 40,006件 | 0.99 | 20,494 (51%) | 5,227 (13%) | 6,009 (15%) | 1,441 (4%) | 6,835 (17%) |
| | 資料関係 | 28,216 | | | | | | | |
| | 事実関係 | 73 | | | | | | | |
| 学内文献複写サービス (マイクロフィルム複写を含む) | | 2,581,210枚 | | 0.90 | 1,724,422 (67%) | 271,914 (11%) | 321,795 (12%) | 78,368 (3%) | 184,711 (7%) |
| 学外相互利用サービス(件数) | 依頼 | 22,731 | 30,569件 | 1.12 | - | - | - | - | - |
| | 提供 | 7,838 | | | | | | | |

(注) 1. 利用関係は、オリエンテーション及び講習会を加算した件数

2. 学外相互利用サービスは、国内外諸機関図書館等との文献複写・図書貸借・入館利用等

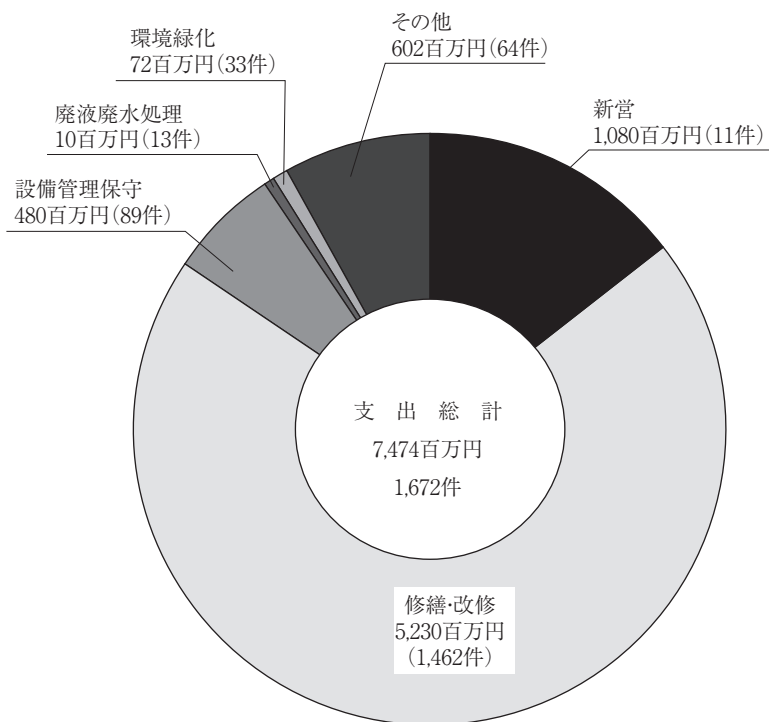
10 施設・環境関係

(1) 平成19年度施設整備状況

| 名 称 | 予算年度 | 構造階数 | 建築面積 | 延面積 | 完成(予定)日 |
|--|------|-------|-------|--------|-----------|
| 体芸中央棟改修Ⅱ期工事 | 18補正 | SR6-1 | 4,212 | 18,027 | H20.3.14 |
| 体芸中央棟改修Ⅱ期電気設備工事 | 18補正 | SR6-1 | 4,212 | 18,027 | H20.3.14 |
| 体芸中央棟改修Ⅱ期機械設備工事 | 18補正 | SR6-1 | 4,212 | 18,027 | H20.3.14 |
| 筑波大学基幹整備(特高受変電設備)改修工事 | 18補正 | | | | H20.1.31 |
| 3A棟等改修工事 | 18補正 | R5 | 3,473 | 10,909 | H20.3.26 |
| 3A棟等改修電気設備工事 | 18補正 | R5 | 3,473 | 10,909 | H20.3.26 |
| 3A棟等改修機械設備工事 | 18補正 | R5 | 3,473 | 10,909 | H20.3.26 |
| 3A棟改修エレベータ設備工事 | 18補正 | R5 | 3,473 | 10,909 | H20.3.14 |
| 附属駒場中・高等学校ロッカールーム新築工事 | 19年度 | R1 | 230 | 225 | H20.5.13 |
| 第二厩舎新営工事 | 19年度 | S1 | 117 | 117 | H20.3.27 |
| 遺伝子実験センター特定網室温室取設工事 | 19年度 | S1 | 178 | 178 | H20.3.31 |
| 附属病院立体駐車場新営工事 | 19年度 | S2 | 4,977 | 9,602 | H20.11.28 |
| 新共用棟(仮称)新営工事 | 19年度 | S4 | 713 | 2,789 | H21.1.31 |
| 倉庫棟新営工事 | 19年度 | S2 | 80 | 130 | H20.10.10 |
| 筑波大学自然系学系B棟B203室電話ブランチ解除 | 19年度 | | | | H19.5.18 |
| 筑波大学総合研究棟B807室電話移設 | 19年度 | | | | H19.5.7 |
| 筑波大学総合研究棟B824室電話新設 | 19年度 | | | | H19.5.7 |
| 筑波大学総合研究棟B825室電話新設 | 19年度 | | | | H19.5.7 |
| 筑波大学総合研究棟B823室電話移設 | 19年度 | | | | H19.5.7 |
| 筑波大学追越学生宿舎26号棟1階メールボックス室ドアガラス修 | 19年度 | | | | H19.4.25 |
| 筑波大学工学系学系F棟3F900室電話施設 | 19年度 | | | | H19.5.14 |
| 筑波大学医学系学系棟4B220室電話新設等 | 19年度 | | | | H19.5.14 |
| 筑波大学工学系学系F棟3F226室電話廃止等 | 19年度 | | | | H19.5.18 |
| 筑波大学人文社会学系棟1階B111室窓ガラス修理その他 | 19年度 | | | | H19.4.20 |
| 筑波大学附属久里浜養護学校電気設備改修工事(その2) | 18年度 | | | | H19.5.31 |
| 筑波大学追越学生宿舎12号棟南側3F便所和風大便器取替 | 19年度 | | | | H19.4.25 |
| 筑波大学大学会館A棟シャッター塗装改修 | 19年度 | | | | H19.4.27 |
| 筑波大学陸上競技場脇ループ道路標識補修他工事 | 19年度 | | | | H19.4.25 |
| 筑波大学松見口歩道橋段差解消工事 | 19年度 | | | | H19.4.24 |
| 筑波大学附属病院外来診療棟西側1階渡り廊下防火扉改修 | 19年度 | | | | H19.5.1 |
| 筑波大学西地区納品検収所看板設置工事 | 19年度 | | | | H19.5.10 |
| 筑波大学医学地区納品検収所電気設備改修工事 | 19年度 | | | | H19.5.25 |
| 筑波大学一の矢学生宿舎1号棟雨漏り補修 | 19年度 | | | | H19.5.10 |
| 筑波大学第一学群D棟2階電気設備撤去工事 | 19年度 | | | | H19.5.18 |
| 筑波大学医学中央機械室浴室脱衣所床補修 | 19年度 | | | | H19.5.10 |
| 筑波大学工学系学系E棟410室内雨水配水管補修 | 19年度 | | | | H19.5.21 |
| 筑波大学医学食堂2F男子トイレ補修 | 19年度 | | | | H19.5.25 |
| 筑波大学学術情報メディアセンターエレベーター(No6号機)他修理 | 19年度 | | | | H19.5.25 |
| 筑波大学附属病院B棟322室鍵取替 | 19年度 | | | | H19.5.29 |
| 筑波大学第一学群F・G棟外壁庇撤去及び修繕工事 | 19年度 | | | | H19.5.11 |
| 筑波大学附属病院B棟10階30側座シャワー修理 | 19年度 | | | | H19.5.29 |
| 環境整備事業 ①サイン書き換え, ②樹木強剪定, ③支障樹木伐採処理, ④害虫防除, ⑤道路路面清掃, ⑥ペDESTリアンタイル破損補修, ⑦U字側溝揚泥清掃, ⑧排水桝詰まり清掃, ⑨透水管破損地盤陥没補修 | | | | | |
| その他工事1,432件 | | | | | |

(注) 文教施設整備事業及び主な営繕工事を示す。ただし、設備保守管理・廃液廃水処理・緑化保全を含まない。

平成19年度 施設関係事業構成



【東地区】
第二厩舎 全景



【中地区】
温室7 全景



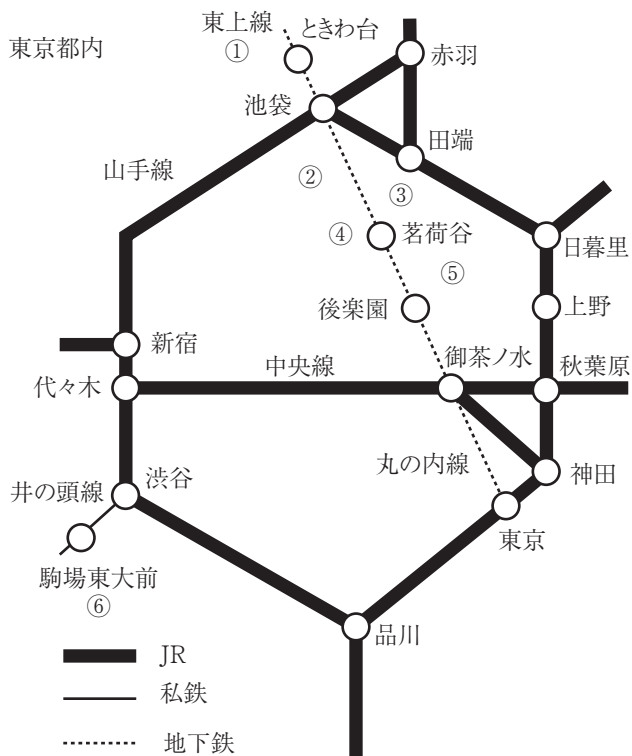
【中地区】
3 A棟（講義室）
改修後 内観



(2) 施設所在地

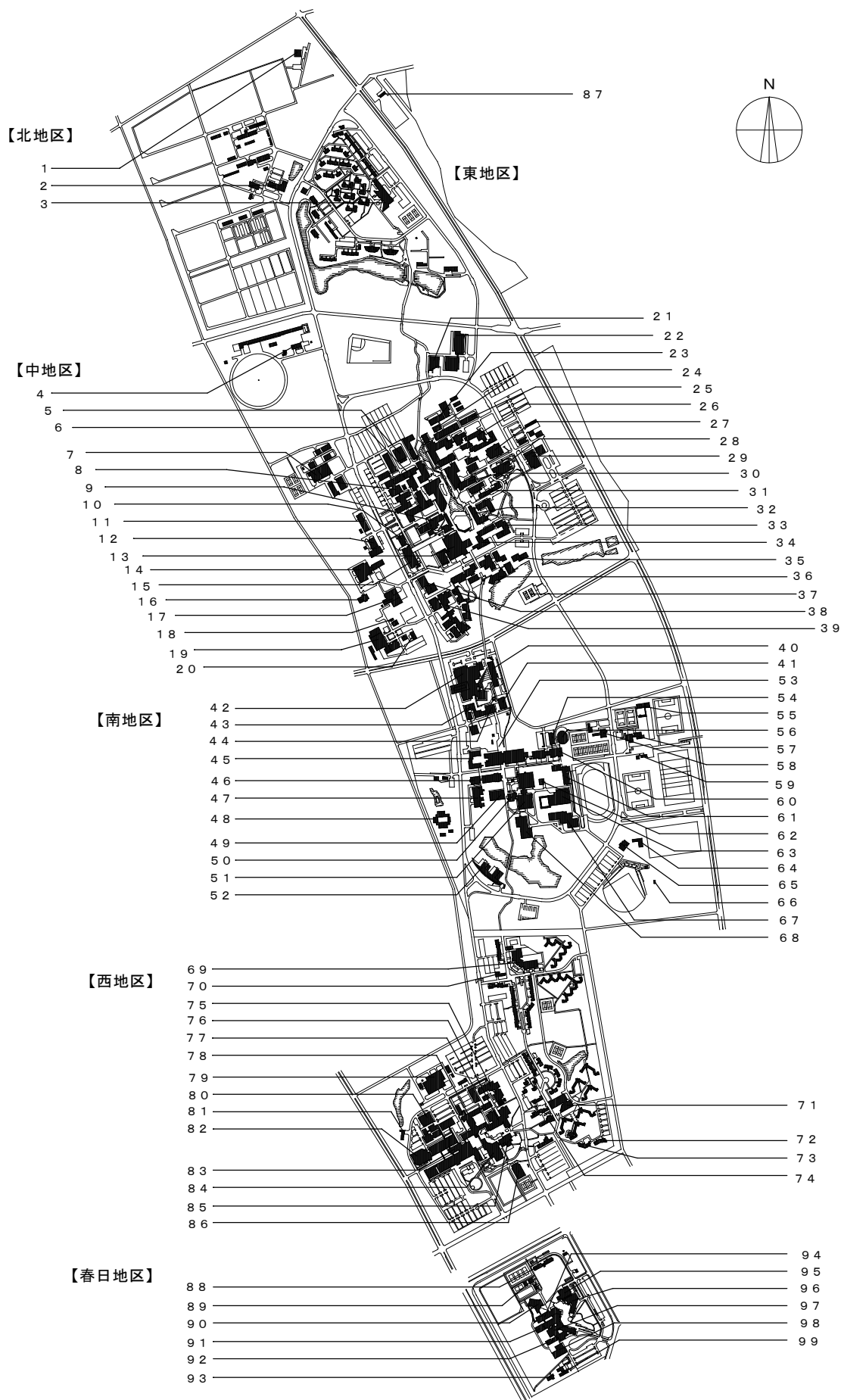


- ①石打研修所
- ②菅平高原実験センター
- ③八ヶ岳演習林
- ④附属坂戸高等学校
- ⑤戸田艇庫・合宿所
- ⑥附属聴覚特別支援学校
- ⑦山中共同研修所
- ⑧井川演習林
- ⑨下田臨海実験センター
- ⑩館山研修所
- ⑪附属久里浜特別支援学校



- 東京都内
- ①附属桐が丘特別支援学校
 - ②附属視覚特別支援学校
 - ③附属学校教育局，大学研究センター
理療科教員養成施設，附属小学校
大学院夜間修士課程，博士課程
 - ④附属中学校・高等学校
 - ⑤附属大塚特別支援学校
 - ⑥附属駒場中学校，附属駒場高等学校

(3) 大学構内施設配置図



(4) 施設整備状況

| 地 番 | 図 号 | 建 物 等 | 構 造 階 数 | 建築面積 | 延面積 | 整備年度 | 備 考 | |
|--------------|--------|----------------------------|------------------|----------------|----------------|--------------------------------|----------------------------|--|
| | | | | m ² | m ² | | | |
| 【北地区】 | | | | | | | | |
| 1 | | (旧) 管理事務所・倉庫 | 鉄骨1階, 他 | 369 | 369 | 45, 47 | 車庫含 1,466戸 (定員1,795) | |
| 2 | | 農林技術センター・農場施設 | 鉄筋2階, 他 | 8,805 | 9,202 | 48, 49, 51, 52, 56, 57, 平2, 16 | | |
| 3 | | 一の矢学生宿舎, 同共用棟 | 鉄筋4・5・8階, 他 | 11,517 | 40,467 | 51, 51・52, 61・62, 平2, 5, 8・9 | | |
| 【中地区】 | | | | | | | | |
| 4 | | 陸域環境研究センター | 鉄筋2階, 鉄骨2階, 鉄骨1階 | 2,617 | 2,807 | 51, 平18 | 車庫等含 | |
| 5 | | 第3体育館 | 鉄骨1階 | 1,224 | 1,219 | 54 | | |
| 6 | | 第3エリア | 鉄筋3・4・5階 | 10,677 | 38,987 | 51・52, 52・53, 58, 平5・6, 7・8 | | |
| 7 | | プラズマ研究センター | 鉄骨鉄筋3階・地下1階, 他 | 3,150 | 6,432 | 55・56, 62, 平8 | | |
| 8 | | 工学系学系棟 | 鉄骨鉄筋12階・地下1階, 他 | 6,245 | 32,186 | 52・53, 53, 53・54, 平2, 3, 5・6 | | |
| 9 | | 理科系修士棟 | 鉄筋5階 | 2,545 | 8,473 | 51, 53, 57 | | |
| 10 | | バンチャー・ビジネス・ラボラトリー | 鉄筋4階 | 527 | 2,017 | 平7・8 | | |
| 11 | | 研究基盤総合センター(工作部門) | 鉄筋1階, 鉄骨1階 | 898 | 889 | 52, 58 | | |
| 12 | | 研究基盤総合センター(低温部門) | 鉄筋1階 | 1,532 | 1,460 | 51 | | |
| 13 | | 中央図書館 | 鉄筋5・6階 | 4,942 | 19,092 | 52・53, 平3, 5・6 | | |
| 14 | | 研究基盤総合センター(応用加速器部門)・共同研究棟C | 鉄筋9・3階 | 2,483 | 4,908 | 48・49, 52 | | |
| 15 | | 総合研究棟B | 鉄骨鉄筋12階・地下1階 | 1,816 | 17,641 | 平15 | | |
| 16 | | 研究基盤総合センター(分析部門) | 鉄筋2階 | 495 | 819 | 52 | | |
| 17 | | 研究基盤総合センター(アイトープ部門) | 鉄筋2階 | 1,859 | 2,588 | 52, 56 | | |
| 18 | | 水銀廃棄物保管庫 | 鉄骨1階 | 121 | 119 | 60 | | |
| 19 | | 中央機械室(中) | 鉄筋2・3階 | 3,152 | 5,474 | 48・49, 50, 平3 | | |
| 20 | | 無機系廃液処理施設 | 鉄筋2階, 鉄骨1・2階, 他 | 458 | 648 | 50, 55, 57 | | |
| 21 | | 産学リエゾン共同研究センター | 鉄筋3階 | 1,002 | 3,056 | 平15 | | |
| 22 | | 先端学際領域研究センター | 鉄筋2・3階 | 3,925 | 6,215 | 平7・8, 8・9 | | |
| 23 | | 遺伝子実験センター・温室 | 鉄筋2・4階, 鉄骨1階 | 2,344 | 4,789 | 58, 60, 平13・15・17・18・19 | | |
| 24 | | 生物・農林R I 研究棟 | 鉄筋2階 | 352 | 580 | 58 | | |
| 25 | | バイオシステム研究科棟 | 鉄筋5階 | 827 | 4,018 | 平7・8 | | |
| 26 | | 生物・農林学系棟 | 鉄骨鉄筋8階, 他 | 4,659 | 23,381 | 50・51, 52, 52・53, 平8・9 | | |
| 27 | | 第1体育館 | 鉄骨1階 | 1,552 | 1,541 | 51 | | |
| 28 | | 総合研究棟A | 鉄骨鉄筋7階 | 1,662 | 9,286 | 平14 | | |
| 29 | | 本部庁舎 | 鉄骨鉄筋8階, 他 | 3,340 | 9,877 | 50, 51, 57 | | |
| 30 | | 第2エリア | 鉄骨鉄筋2・3・5階, 他 | 10,082 | 29,259 | 49・50, 50・51, 60, 62 | | |
| 31 | | 文科系修士棟 | 鉄筋4階 | 1,738 | 6,235 | 50, 53 | | |
| 32 | | 人間系学系棟 | 鉄筋5階 | 3,514 | 12,026 | 51・52, 53・54 | | |
| 33 | | 共同研究棟A・共同利用棟A | 鉄筋3・6階 | 1,376 | 5,785 | 54・平18 | | |
| 34 | | 人文社会学系棟 | 鉄骨鉄筋8階 | 2,814 | 14,416 | 50・51, 平3 | | |
| 35 | | 文科系サークル館 | 鉄筋3階 | 805 | 2,061 | 50, 53 | | |
| 36 | | 第1エリア | 鉄筋3・4・5階, 他 | 9,148 | 24,711 | 48・49, 49・50, 61 | | |
| 37 | | 実験廃水処理施設(中) | 鉄筋1階, 他 | 2,061 | 2,061 | 50 | | |
| 38 | | 計算科学研究センター | 鉄筋1・3階 | 1,535 | 3,075 | 平4・5・6・18 | | |
| 39 | | 自然系学系棟 | 鉄骨鉄筋8階, 他 | 5,098 | 21,055 | 49, 49・50, 51・52 | | |
| 【南地区】 | | | | | | | | |
| 40 | | 大学会館 | 鉄筋4階 | 5,315 | 11,890 | 49・50, 57・58, 59 | | |
| 41 | | 保健管理センター | 鉄筋2階 | 667 | 1,186 | 48, 49 | | |
| 42 | | 講堂・留学生センター・総合交流会館 | 鉄骨鉄筋4階, 鉄骨2階 | 4,360 | 5,908 | 53・54, 平18 | | |
| 43 | | 学術情報メディアセンター | 鉄筋2・3・4階・地下1階, 他 | 1,761 | 5,202 | 49・50, 54, 平5, 5・6 | | |
| 44 | | 外国語・学術情報メディアセンター | 鉄筋5階 | 1,589 | 5,253 | 50 | | |
| 45 | | 芸術学系棟・建築デザイン実習棟 | 鉄筋6階, 木造1階 | 1,335 | 5,513 | 51・52, 平17 | | |
| 46 | | 6 A 棟・6 B 棟 | 鉄筋4階 | 2,237 | 7,433 | 50, 57 | | |
| 47 | | 芸術学系棟(工房) | 鉄筋2階 | 1,638 | 2,055 | 51・52 | | |
| 48 | | 開学記念館 | 木造1階 | 991 | 928 | 50 | | |
| 49 | | 体芸図書館 | 鉄骨4階, 他 | 1,059 | 3,516 | 47・48, 平7・8 | | |
| 50 | | 体芸食堂 | 鉄筋3階 | 677 | 1,214 | 48 | | |
| 51 | | 総合体育館 | 鉄骨鉄筋4階 | 3,192 | 6,280 | 47・48 | | |

| 地 図 番 号 | 建 物 等 | 構 造 階 数 | 建築面積 | 延面積 | 整備年度 | 備 考 |
|------------|--|-------------------|----------------|----------------|--|--------|
| | | | m ² | m ² | | |
| 52 | 総合研究棟D | 鉄骨鉄筋7階 | 2,470 | 15,108 | 平15 | |
| 53 | 5 C棟・建築デザイン実習棟 | 鉄骨鉄筋6階・地下1階, 鉄骨1階 | 4,279 | 18,090 | 47・48, 平4・5, 5・6, 平17・18 | |
| 54 | 共同研究棟B | 鉄筋2階 | 515 | 1,000 | 52 | |
| 55 | 弓道場 | 鉄骨1階 | 591 | 577 | 49, 55 ~ 57 | |
| 56 | 体育総合実験棟 | 鉄筋3階 | 1,679 | 3,508 | 平15 | |
| 57 | 合宿所 | 鉄骨鉄筋2階 | 791 | 1,497 | 47 | |
| 58 | (旧) 臨時庁舎・車庫 | 鉄骨2階・1階 | 646 | 767 | 48 | |
| 59 | 体育グラウンド施設 | | | | 46・47, 48, 57 | |
| 60 | 体育科学系棟 | 鉄筋6階 | 2,050 | 10,695 | 49, 52・53 | |
| 61 | 体育センター・体育系サークル館 | 鉄筋2階 | 1,936 | 3,111 | 48, 49, 51, 平2 | |
| 62 | サイクリング実習棟 | 鉄骨1階 | 267 | 249 | 62 | |
| 63 | 屋内プール | 鉄筋2階 | 2,497 | 2,778 | 53 | |
| 64 | 課外活動練習施設 | 鉄骨1階 | 527 | 414 | 61 | |
| 65 | クラブハウス | 鉄筋2階 | 381 | 500 | 55 | |
| 66 | 野外活動実習管理棟 | 木造2階 | 48 | 69 | 平15 | |
| 67 | 武道館 | 鉄筋2階 | 2,376 | 4,611 | 52 | |
| 68 | 球技体育館 | 鉄骨1階 | 2,021 | 2,011 | 53 | |
| 【西地区】 | | | | | | |
| 69 | 平砂学生宿舎,同共用棟 | 鉄筋2・3・4階 | 8,948 | 26,802 | 48, 49 | 1,324戸 |
| 70 | 非常勤講師等宿泊施設 | 鉄筋6階 | 271 | 1,293 | 54 | 46戸 |
| 71 | 追越学生宿舎,同共用棟 | 鉄筋2・4・5階 | 7,357 | 24,062 | 49, 50, 平3, 11 | 1,025戸 |
| 72 | 外国人教師等宿泊施設 | 鉄筋3階 | 310 | 900 | 53 | 12戸 |
| 73 | 客員研究員等宿泊施設 | 鉄筋3階 | 346 | 892 | 52, 平7 | 20戸 |
| 74 | 看護師宿舎 | 鉄骨鉄筋8階, 他 | 1,841 | 9,015 | 50, 51, 52, 55, 平5, 6, 7, 8 | 213戸 |
| 75 | 4 B棟・共同利用棟B | 鉄筋2・5階, 鉄骨2階, 他 | 3,471 | 7,818 | 53, 55, 平15・16・18 | |
| 76 | 4 A棟 | 鉄筋4階 | 3,228 | 9,594 | 48, 49, 平3 | |
| 77 | 医科学修士棟 | 鉄骨鉄筋3階 | 427 | 1,234 | 54 | |
| 78 | 医学系学系棟 | 鉄骨鉄筋9階・地下1階, 他 | 3,271 | 25,627 | 50・51, 51・52 | |
| 79 | 中央機械室(西) | 鉄筋2階 | 2,753 | 2,972 | 48・49, 49 | |
| 80 | 生命科学動物資源センター | 鉄筋5階 | 2,449 | 9,159 | 52・53, 平17 | |
| 81 | 実験廃水処理施設(西) | 鉄筋1階・地下1階 | 185 | 1,220 | 50 | |
| 82 | 陽子線医学利用研究センター | 鉄筋2階, 地下1階 | 2,142 | 5,138 | 平11, 13 | |
| 83 | 附属病院 | 鉄骨鉄筋6・12階・地下1階, 他 | 10,220 | 65,516 | 48・49, 49・50, 51, 54, 55, 61・62 62, 平3・4, 5, 11, 12, 13, 14 | 800床 |
| 84 | 医学図書館・臨床講義室 | 鉄筋3階 | 2,157 | 4,499 | 51・52 | |
| 85 | 医学食堂 | 鉄筋2階 | 959 | 1,270 | 50 | |
| 86 | 第2体育館 | 鉄骨1階 | 1,221 | 1,218 | 53 | |
| 【東地区】 | | | | | | |
| 87 | 厩舎・堆肥舎 | 鉄骨1階 | 297 | 263 | 59, 平17・19 | |
| 【春日地区】 | | | | | | |
| 88 | 学生宿舎 | 鉄筋5階 | 596 | 2,906 | 55, 56 | 160戸 |
| 89 | 更衣室 | 鉄骨1階 | 100 | 100 | 平6 | |
| 90 | 講堂 | 鉄筋2階 | 1,188 | 1,046 | 60 | |
| 91 | 総合情報処理センター | 鉄筋2階 | 440 | 878 | 平8 | |
| 92 | 研究棟 | 鉄筋5階 | 229 | 1,118 | 平8 | |
| 93 | 非常勤講師宿泊施設 | 鉄筋2階 | 233 | 423 | 58 | 8戸 |
| 94 | 7 A棟 | 鉄筋2階 | 1,304 | 2,592 | 54 | |
| 95 | 体育館 | 鉄筋1階 | 1,056 | 1,050 | 55 | |
| 96 | 福利厚生棟 | 鉄筋2階 | 1,238 | 1,829 | 55 | |
| 97 | 図書館研究管理棟 | 鉄筋5階 | 3,615 | 8,744 | 56, 平13 | |
| 98 | 情報メディアユニオン | 鉄筋4階 | 1,128 | 3,372 | 平13 | |
| 99 | 留学生会館 | 鉄筋4階 | 382 | 762 | 63 | 20戸 |
| 手代木 | 外国人教師等宿泊施設, 客員研究員宿泊施設 | 鉄筋2階 | 1,870 | 2,547 | 57 (所管替) | 22戸 |
| 東京 | 附属学校教育局, 大学研究センター, 大学院夜間博士・修士課程, 理療科教員養成施設 | 鉄筋4階, 地下2階, 他 | 4,182 | 18,272 | 52 (所屬替), 58, 59, 61, 平元・2, 5, 7, 11 | |

| 地 番 号 | 建 物 等 | 構 造 階 数 | 建築面積 | 延面積 | 整備年度 | 備 考 |
|-----------------|-------------------|--------------------|----------------|----------------|--|--------|
| | | | m ² | m ² | | |
| 【附属学校】 大塚3丁目 | 附属小学校 | 鉄筋1～3階, 鉄骨1階, 木造1階 | 4,313 | 9,680 | 52(所属替), 56, 57, 62 平6, 10 | |
| 大塚1丁目 | 附属中学校, 附属高等学校 | 鉄筋1～3階, 鉄骨1階, 他 | 8,172 | 16,227 | 52(所属替), 55, 60, 平5, 8 | |
| 池尻 | 附属駒場中学校, 附属駒場高等学校 | 鉄筋1～3階, 鉄骨1階, 他 | 6,361 | 11,040 | 52(所属替), 53, 55, 63 平2, 3, 11 | |
| 坂戸 | 附属坂戸高等学校 | 鉄筋1・3階, 鉄骨1階, 他 | 10,974 | 17,625 | 52(所属替), 53, 55, 56, 58, 61 平6, 8, 10 | |
| 目白台 | 附属視覚特別支援学校 | 鉄筋2・4・5階, 鉄骨1階, 他 | 4,222 | 12,325 | 52(所属替), 平6, 7, 8 | |
| 国府台 | 附属聴覚特別支援学校 | 鉄筋1～4階, 鉄骨1階, 他 | 6,937 | 14,510 | 52(所属替), 53, 55 平3, 5, 12, 15 | |
| 春日 | 附属大塚特別支援学校 | 鉄筋1～3階, 鉄骨1・3階, 他 | 1,715 | 3,858 | 52(所属替), 59, 平10, 15 | |
| 小茂根2丁目 | 附属桐が丘特別支援学校(本校) | 鉄筋1～3階, 鉄骨1階 | 4,493 | 6,339 | 52(所属替), 58, 63, 平元 | |
| 小茂根1丁目 | 附属桐が丘特別支援学校(併設学級) | 鉄筋2階 | 1,493 | 3,444 | 52(所属替) | |
| 野比 | 附属久里浜特別支援学校 | 鉄筋1～3階 | 4,708 | 5,132 | 平16(所属替) | |
| 埼玉 | 戸田艇庫・合宿所 | 鉄筋2階, 他 | 398 | 676 | 52(所属替) | |
| 千葉 | 館山研修所 | 鉄筋2階, 他 | 583 | 949 | 50(〃), 57 | 定員53 |
| 新潟 | 石打研修所 | 鉄筋1階, 他 | 1,233 | 1,352 | 50(〃), 53, 63, 平2 | 定員80 |
| 山梨 | 山中共同研修所 | 鉄筋2階, 他 | 705 | 1,177 | 52(〃), 平3 | 定員76 |
| 長野 | 八ヶ岳演習林 | 鉄骨1階, 他 | 1,251 | 1,279 | 50(〃), 63, 平6 | |
| 〃 | 菅平高原実験センター | 鉄筋2階, 他 | 1,063 | 2,459 | 53(〃), 53, 56, 59, 平11 | |
| 静岡 | 下田臨海実験センター | 鉄筋2階, 他 | 1,871 | 3,459 | 51(〃), 53, 平11 | |
| 〃 | 井川演習林 | 鉄骨1階, 他 | 589 | 586 | 50(〃), 平3 | |

筑波大学年次報告書（平成19年度版）

平成20年10月発行

編集・発行 筑波大学学長室

〒305-8577 つくば市天王台1-1-1

029（853）2053